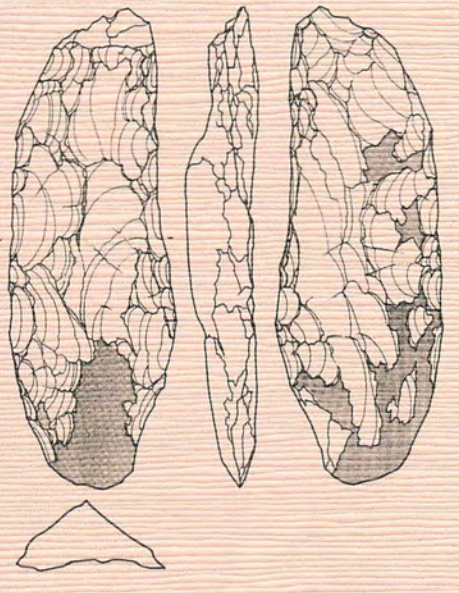
熊本県文化財調査報告　第180集

耳切遺跡

— 小国地熱発電所計画に伴う埋蔵文化財調査報告 —

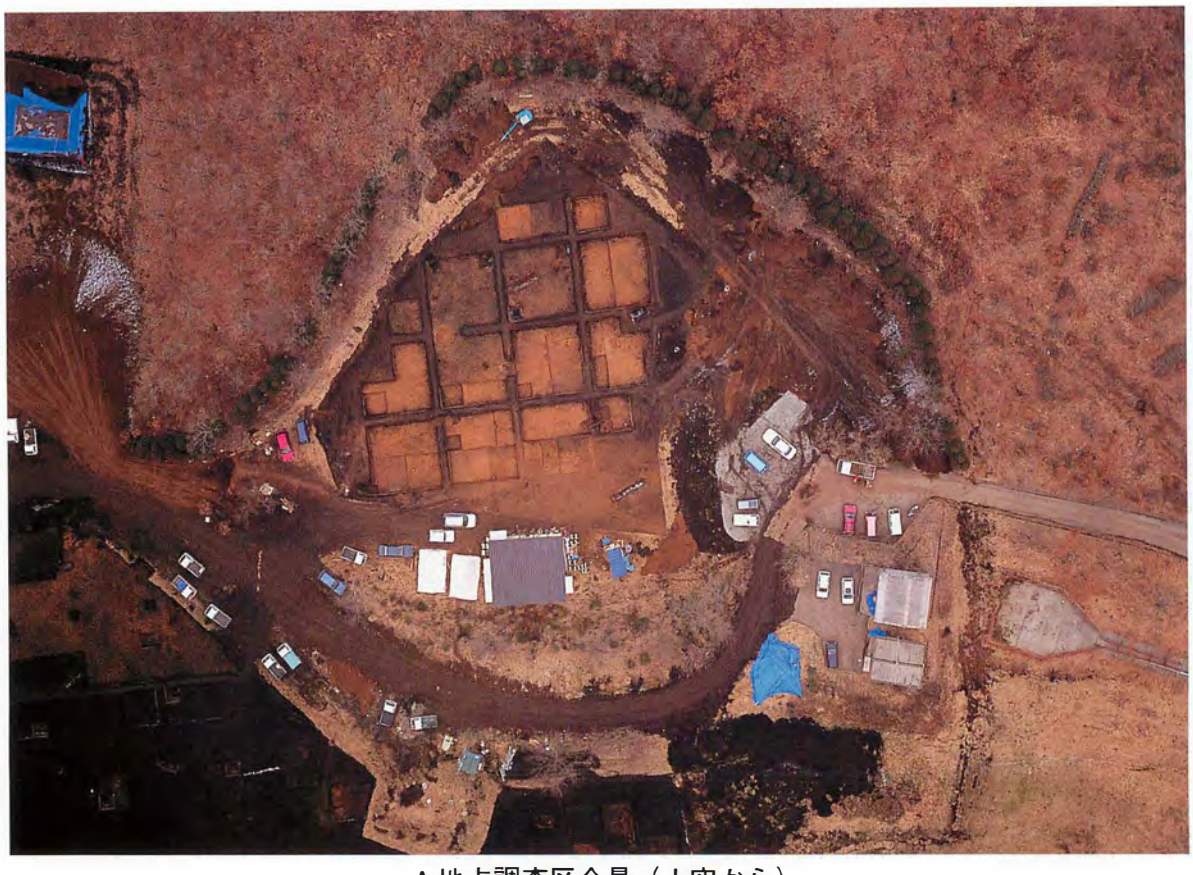


1999

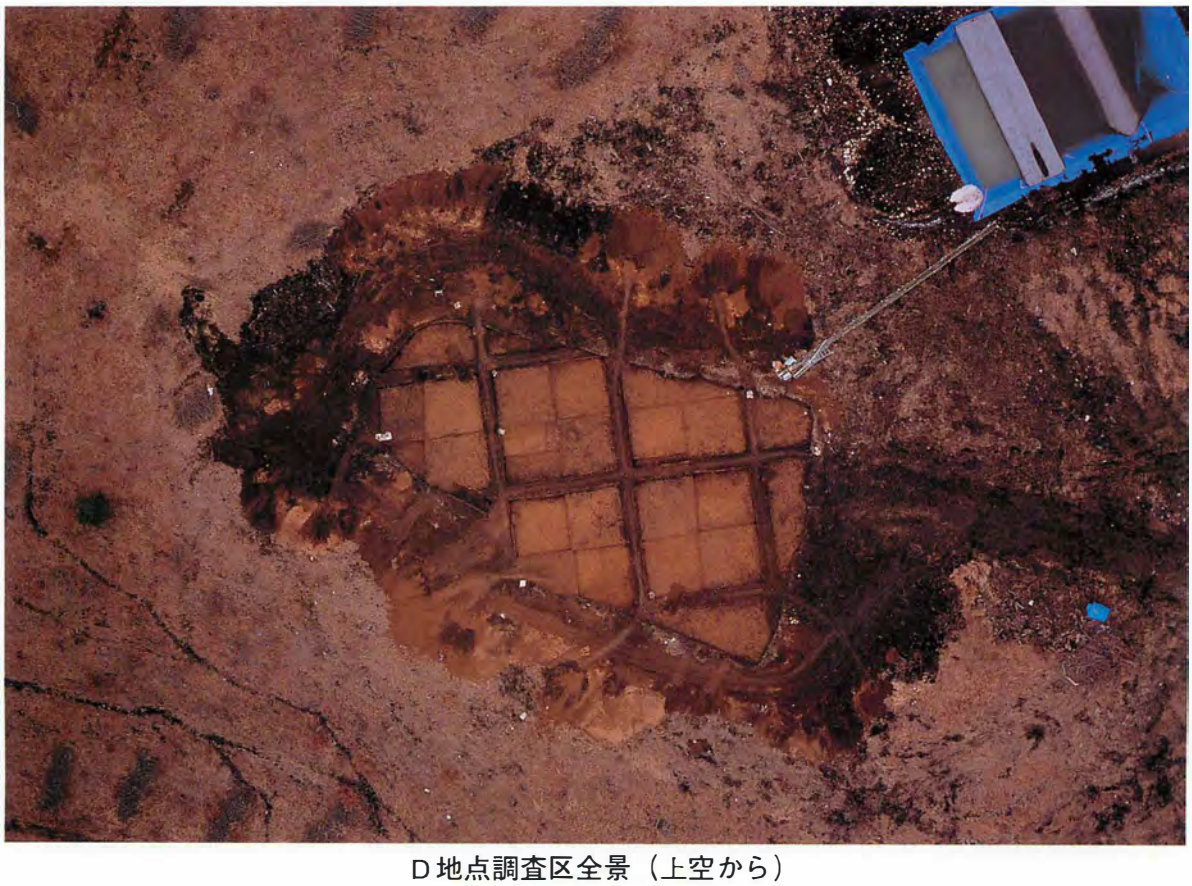
熊本県教育委員会

耳　切　遺　跡　近　景（西から）

耳　切　遺　跡　全　景（東から）



A地点調査区全景（上空から）



D地点調査区全景（上空から）

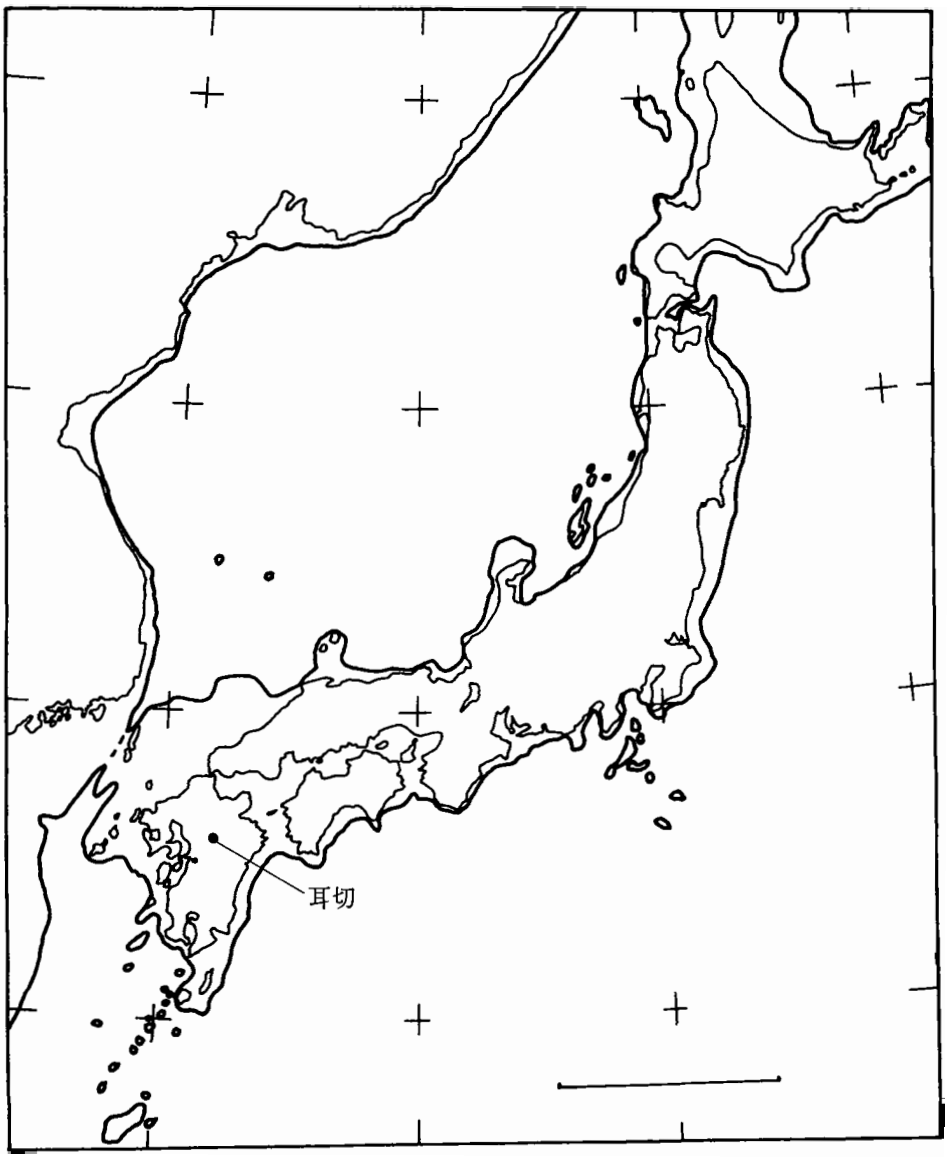
A地点　第Ⅰ石器文化（台形様石器）

C地点　第Ⅰ石器文化

熊本県文化財調査報告　第180集

耳切遺跡

――熊本県阿蘇郡小国町大字西里字耳切所在遺跡の調査――



1999

熊本県教育委員会

序　　文

熊本県教育委員会では、電源開発株式会社により建設計画が進められています小国地熱発電所建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を行ないました。

ここに報告する耳切遺跡は、阿蘇郡小国町大字西里に所在する遺跡で、平成９年度に発掘調査を実施し、平成10年度に報告書作成を行なったものであります。

耳切遺跡は大分県との境にある涌蓋山の近くに位置し、旧石器時代から縄文時代の多くの遺構や遺物が検出されました。なかでも、特徴的なナイフ形石器や台形石器が出土しており、旧石器時代の生活の様子をよく伝えています。

地元の小国地方原産の豊富な黒耀石を使った石器があり、遥か３万年前まで遡るようなものもあります。阿蘇地方のみならず、九州の歴史を知るためには欠くことのできない貴重な資料となるに違いありません。

この報告書が広く活用され、文化財保護の推進と、歴史研究の一助になれば幸いです。

なお、発掘調査や報告書作成に際しましては、専門調査委員の先生方から多大の御指導・御助言を賜わり、深く感謝申しあげます。また、文化財保護の趣旨を御理解いただき、御高配を賜わりました電源開発株式会社をはじめ、御協力いただきました小国町教育委員会や関係各位に、心から厚く御礼を申し上げます。

平成11年３月31日

熊本県教育長

佐々木正典

例　言

1　この報告書は、平成９年度に熊本県教育委員会が電源開発株式会社の委託を受けて実施した（仮称）豊肥地熱発電所建設事業に伴う埋蔵文化財「耳切遺跡」発掘調査の記録である。

2　本書に掲載した「耳切遺跡」は、熊本県阿蘇郡小国町大字西里に所在する。

3　現地調査は平成９年７月より実施し、江本　直・野田恒親・村崎孝宏・濱田彰久・矢野裕介・阿南　亨・河津　摂が担当し、調査区をＡ～Ｅに区分して行った。しかし、本報告では地形的特徴からＥ区をＣ区に含め、Ａ～Ｄ地点とした。

4　本書で使用した地図は、建設省国土地理院発行の地形図（１：25,000・１：50,000)、熊本県発行の土地分類基本調査「日田・森・宮原」(１：50,000）をもとに作成した。

5　国土座標軸による測量基準杭の設定は、開発工事株式会社に委託し行った。

6　本書で使用した航空写真は、九州航空株式会社に委託し撮影したものである。

7　テフラ分析及び年代測定，植物珪酸体分析は、古環境研究所に委託し、分析結果は「付論」に掲載した。

8　遺物の整理作業は、平成10年度に熊本県文化財収蔵庫で行った。

9　遺物の実測は、土器を村田百合子、石器を主に村崎（Ａ，Ｂ，Ｃ地点)、河津（Ｃ，Ｄ地点）が行い、一部知名石揚子，和田好史，藤木　聡，河合章行氏の援助を受けた。また、縄文時代の石器の一部を有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

10　遺構実測図の製図は、荒木聖子と村田が行った。

11　遺物実測図の製図は、村崎，河津，荒木，村田，知名石で行った。

12　遺物分布図の作成は、村崎，河津，荒木，村田，知名石，児玉晶子が行った。

13　遺物の写真撮影は今村龍太郎氏に依頼し、グラビアの撮影は木村元浩，福田信子が行った。

14　本書の執筆は、江本，村崎，河津が行った。その分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章第１～３節，第Ⅱ章第１，２節　　江本

第Ⅱ章第３節，第Ⅲ章～第Ⅴ章，第Ⅶ章　村崎

第Ⅵ章第１～４節　　河津

15　本書の編集は、熊本県教育委員会が行い、村崎が担当した。

16　出土遺物及び調査に関する記録類は、一括して熊本県教育委員会が保管している。

凡　例

1　遺跡略称　耳切遺跡をＭＫとしてＡ～Ｅの各地点名を付して表示した。

（例：耳切遺跡Ａ地点＝ＭＫＡ）

2　挿図の縮尺

遺物分布図＝１：300　　遺構実測図＝１：20　１：40

土器＝１：３　石器＝１：１　２：３

以上を基本とし、以外のものも含めて挿図中にその縮尺を明示した。

3　図版の縮尺

遺構写真等の縮尺については統一されていない。

遺物写真の縮尺については、概ね挿図の縮尺に合わせた。

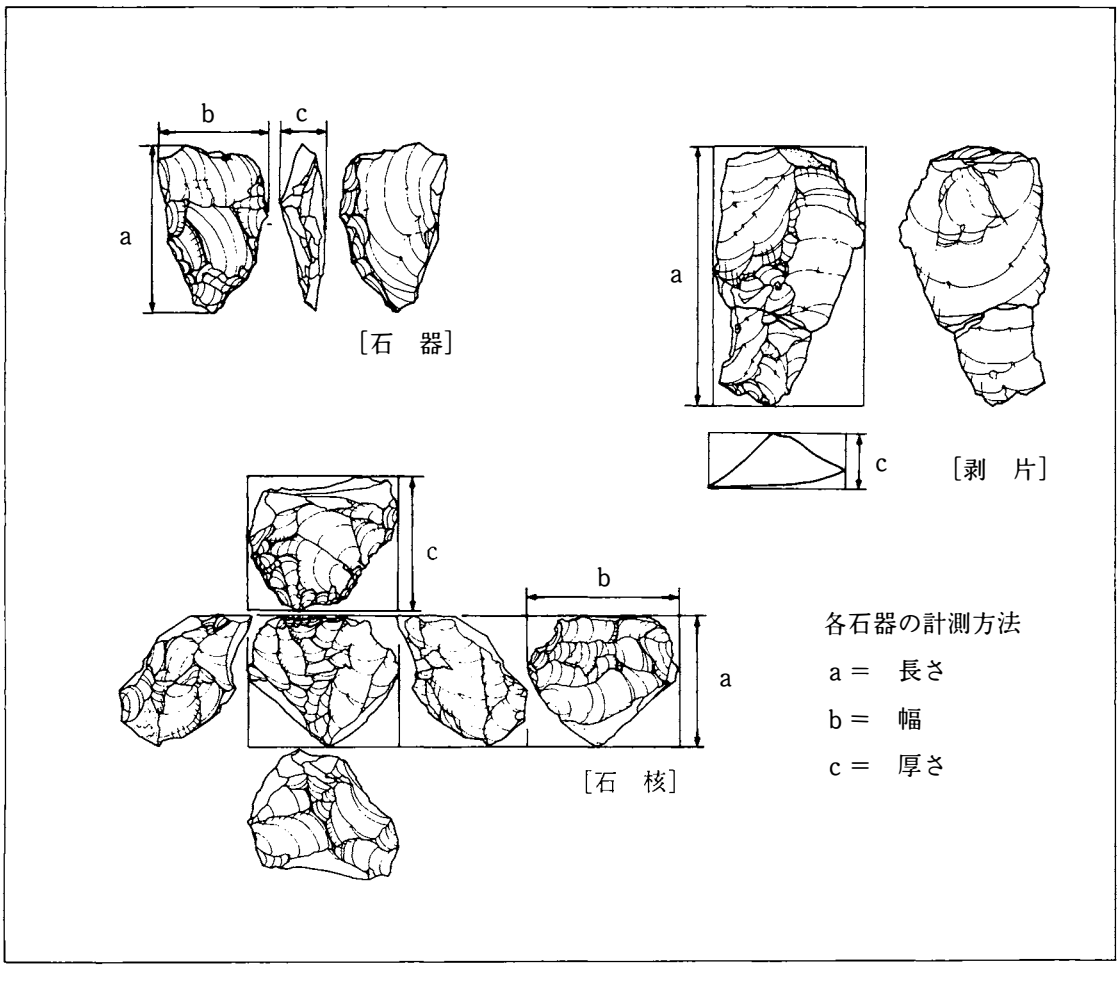
4　石器計測表及び観察表の計測値は、下記の計測法による計測値である。単位は、cm・ｇである。

5　石器実測図中の記号・表示は以下のものを示す。

石器の新しい欠損部分については、黒く（■）塗って表示した。

使用痕の認められる部分は、●でその範囲を示した。使用痕の観察は肉眼により行った。

石器実測図に付した番号は、各地点及び文化層ごとに連番で表示した。



本　文　目　次

序　文
例　言
凡　例
第Ⅰ章　調査概要
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 2
　第３節　調査の方法と経過 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境
　第１節　遺跡の立地と地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 8
　第３節　基本層位 ……11
第Ⅲ章　Ａ地点の調査と成果
　第１節　層位と文化層 ……13
　　１　層位と出土遺物 ……13
　　２　文化層 ……13
　第２節　第Ⅰ石器文化層 ……16
　　１　文化層の概要 ……16
　　２　分布と石材 ……16
　　３　出土石器 ……20
　　４　接合資料 ……30
　　５　本文化層の位置づけ ……40
　第３節　第Ⅱ石器文化層 ……41
　　１　文化層の概要 ……41
　　２　分布と石材 ……41
　　３　出土石器 ……42
　　４　接合資料 ……56
　　５　本文化層の位置づけ ……64
　第４節　第Ⅲ石器文化層 ……65
　　１　文化層の概要 ……65
　　２　分布と石材 ……65
　　３　出土石器 ……69
　　４　接合資料 ……72
　　５　本文化層の位置づけ ……75
　第５節　縄文時代 ……76
　　１　遺構とその分布 ……76
　　２　土器とその分布 ……93
　　３　石器とその分布 ……96
　　４　まとめ ……109
第Ⅳ章　Ｂ地点の調査と成果
　第１節　旧石器時代の調査 ……111
　　１　出土層位 ……111
　　２　分布と石材 ……111
　　３　出土石器 ……115
　　４　接合資料 ……121
　　５　石器群の位置づけ ……122
　第２節　縄文時代の調査 ……127
　　１　遺構とその分布 ……127
　　２　土器とその分布 ……141
　　３　石器とその分布 ……143

4　まとめ　……149
第Ⅴ章　C地点の調査と成果
第1節　層位と文化層　……150
1　層位と出土遺物　……150
2　文化層　……150
第2節　第Ⅰ石器文化層　……153
1　文化層の概要　……153
2　分布と石材　……153
3　出土石器　……155
4　本文化層の位置づけ　……158
第3節　第Ⅱ石器文化層　……159
1　文化層の概要　……159
2　分布と石材　……159
3　出土石器　……162
4　本文化層の位置づけ　……165
第4節　縄文時代の調査　……166
1　遺構とその分布　……166
2　土器とその分布　……170
3　石器とその分布　……172
4　まとめ　……172
第Ⅵ章　D地点の調査と成果
第1節　層位と文化層　……174
1　層位と出土遺物　……174
2　文化層　……174
第2節　第Ⅰ石器文化層　……176
1　文化層の概要　……176
2　分布と石材　……176
3　出土石器　……179
4　本文化層の位置づけ　……186
第3節　第Ⅱ石器文化層　……187
1　文化層の概要　……187
2　分布と石材　……187
3　出土石器　……188
4　接合資料　……190
5　まとめ　……195
第4節　縄文時代の調査　……197
1　遺構とその分布　……200
2　土器とその分布　……201
3　石器とその分布　……201
4　まとめ　……201
第Ⅶ章　総括
第1節　旧石器時代石器群の検討とその位置づけ　……204
1　石器群の様相と位置づけ　……204
2　利用石材について　……207
3　問題点と課題　……208
第2節　縄文時代について　……208
第3節　旧石器時代石器観察　……210
付編　自然科学分析調査報告書
図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　地形図
第２図　試掘調査出土遺物
第３図　地形断面図
第４図　周辺遺跡採集遺物
第５図　遺跡分布図
第６図　各地点の基本土層
第７図　石材の層位別出土頻度
第８図　黒耀石Ｂ類の層位別出土頻度
第９図　黒耀石Ｃ類の層位別出土頻度
第10図　安山岩の層位別出土頻度
第11図　硬質頁岩の層位別出土頻度
第12図　層位別出土石器
第13図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第14図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）
第15図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）
第16図　石材別分布図（安山岩）
第17図　石材別分布図（硬質頁岩）
第18図　遺物実測図
第19図　遺物実測図
第20図　遺物実測図
第21図　遺物実測図
第22図　遺物実測図
第23図　遺物実測図
第24図　遺物実測図
第25図　接合関係図
第26図　接合図
第27図　接合図
第28図　接合図
第29図　接合図
第30図　接合図
第31図　接合図
第32図　接合図
第33図　炭化物分布図
第34図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第35図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）
第36図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）
第37図　石材別分布図（安山岩）
第38図　石材別分布図（硬質頁岩）
第39図　石材別分布図（その他）
第40図　炭化物分布図
第41図　遺物実測図
第42図　遺物実測図
第43図　遺物実測図
第44図　遺物実測図
第45図　遺物実測図
第46図　遺物実測図
第47図　遺物実測図
第48図　遺物実測図
第49図　接合関係図
第50図　接合図
第51図　接合図
第52図　接合図
第53図　接合図
第54図　台形様石器の形態変遷
第55図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第56図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）
第57図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）
第58図　石材別分布図（安山岩）
第59図　石材別分布図（その他）
第60図　遺物実測図
第61図　遺物実測図
第62図　接合図
第63図　接合図
第64図　接合関係図
第65図　遺構配置図
第66図　集石遺構実測図
第67図　集石遺構実測図
第68図　集石遺構実測図
第69図　集石遺構実測図
第70図　配石土坑実測図
第71図　土坑実測図
第72図　土坑実測図
第73図　土坑実測図
第74図　土坑実測図
第75図　土坑実測図
第76図　土坑実測図
第77図　土坑実測図
第78図　土坑実測図
第79図　遺物分布図
第80図　遺物実測図
第81図　遺物分布図
第82図　石材別分布図（黒耀石類）
第83図　石材別分布図（非黒耀石類）
第84図　遺物実測図
第85図　遺物実測図
第86図　遺物実測図
第87図　遺物実測図
第88図　遺物実測図
第89図　遺物実測図
第90図　遺物実測図

第91図　遺物実測図
第92図　遺物実測図
第93図　土坑実測図
第94図　土坑実測図
第95図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第96図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）
第97図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）
第98図　石材別分布図（安山岩）
第99図　石材別分布図（その他）
第100図　層位別石材利用頻度及び出土点数
第101図　遺物実測図
第102図　遺物実測図
第103図　遺物実測図
第104図　遺物実測図
第105図　遺物実測図
第106図　接合関係図
第107図　接合図
第108図　Ｂ地点層位別出土遺物
第109図　石材の層位別出土頻度
第110図　黒耀石Ｂ類の層位別出土頻度
第111図　黒耀石Ｃ類の層位別出土頻度
第112図　安山岩の層位別出土頻度
第113図　メノウの層位別出土頻度
第114図　遺構配置図
第115図　土坑実測図
第116図　土坑実測図
第117図　土坑実測図
第118図　土坑実測図
第119図　土坑実測図
第120図　土坑実測図
第121図　土坑実測図
第122図　土坑実測図
第123図　土坑実測図
第124図　土坑実測図
第125図　土坑実測図
第126図　遺物実測図
第127図　遺物分布図
第128図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第129図　遺物実測図
第130図　遺物実測図
第131図　遺物実測図
第132図　遺物実測図
第133図　石材の層位別出土頻度
第134図　黒耀石Ｂ類層位別出土頻度
第135図　黒耀石Ｃ類層位別出土頻度
第136図　安山岩層位別出土頻度
第137図　Ｃ地点の層位別出土遺物
第138図　遺物分布図Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ
第139図　遺物実測図
第140図　遺物実測図
第141図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第142図　石材別分布図（黒耀石類）
第143図　石材別分布図（非黒耀石類）
第144図　遺物実測図
第145図　遺物実測図
第146図　遺構配置図
第147図　土坑実測図
第148図　遺物分布図
第149図　遺物実測図
第150図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第151図　遺物実測図
第152図　遺物実測図
第153図　Ｄ地点調査区域図
第154図　Ｄ地点層位別出土遺物
第155図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第156図　ブロックⅠａ，ｂ
第157図　ブロックⅠｃ，ｄ
第158図　遺物実測図
第159図　遺物実測図
第160図　遺物実測図
第161図　遺物実測図
第162図　遺物実測図
第163図　遺物分布図Ａ，Ｂ
第164図　ブロックⅡａ～ｄ
第165図　遺物実測図
第166図　遺物実測図
第167図　遺物実測図
第168図　接合関係図
第169図　接合図
第170図　接合図
第171図　遺物実測図
第172図　遺構配置図
第173図　土坑実測図
第174図　土坑実測図
第175図　遺物分布図
第176図　遺物実測図
第177図　遺物分布図
第178図　遺物実測図
第179図　曲野遺跡Ⅵ層出土の台形様石器
第180図　下城遺跡第２石器文化
第181図　耳切遺跡文化層別出土石器

表 目 次

第１表　発掘調査工程表
第２表　整理作業工程表
第３表　遺跡地名表
第４表　層位別石材組成表
第５表　石器計測表
第６表　ブロック別石器組成表
第７表　ブロック別石材組成表
第８表　個体観察表
第９表　個体観察表
第10表　ブロック別石器組成表
第11表　ブロック別石材組成表
第12表　石器計測表
第13表　個体観察表
第14表　石器計測表
第15表　ブロック別石器組成表
第16表　ブロック別石材組成表
第17表　土器観察表
第18表　石器計測表
第19表　石器計測表
第20表　層位別石材組成表
第21表　石器計測表
第22表　層位別石材組成表
第23表　ブロック別石器組成表
第24表　ブロック別石材組成表
第25表　石器計測表
第26表　ブロック別石器組成表
第27表　ブロック別石材組成表
第28表　石器計測表
第29表　土器観察表
第30表　第Ⅰ石器文化石器組成表
第31表　石器計測表
第32表　第Ⅱ石器文化石器組成表
第33表　石器計測表
第34表　石器計測表

図　版　目　次

図版１　Ａ地点の調査
図版２　Ａ地点の遺構①
図版３　Ａ地点の遺構②
図版４　Ａ地点の遺構③
図版５　Ａ地点の遺構④
図版６　Ａ地点の遺構⑤
図版７　Ａ地点の遺構⑥
図版８　Ａ，Ｂ地点の調査
図版９　Ｂ地点の遺構①
図版10　Ｂ地点の遺構②
図版11　Ｂ地点の遺構③
図版12　Ｂ地点の遺構④
図版13　Ｂ地点の遺構⑤
図版14　Ｂ地点の遺構⑥
図版15　Ｂ地点の遺構⑦
図版16　Ｂ，Ｃ地点の遺構
図版17　Ｄ地点の遺構①
図版18　Ｄ地点の遺構②
図版19　Ａ地点第Ⅰ石器文化層①
図版20　Ａ地点第Ⅰ石器文化層②
図版21　Ａ地点第Ⅰ石器文化層③
図版22　Ａ地点第Ⅰ石器文化層④
図版23　Ａ地点第Ⅰ石器文化層⑤
図版24　Ａ地点第Ⅱ石器文化層①
図版25　Ａ地点第Ⅱ石器文化層②
図版26　Ａ地点第Ⅱ石器文化層③
図版27　Ａ地点第Ⅱ石器文化層④
図版28　Ａ地点第Ⅱ石器文化層⑤
図版29　Ａ地点第Ⅲ石器文化層①
図版30　Ｂ地点旧石器①
図版31　Ａ地点縄文石器①
図版32　Ａ地点縄文石器②
図版33　Ａ地点縄文石器③
図版34　Ａ地点縄文石器④
図版35　Ａ地点縄文土器①
図版36　Ａ地点縄文土器②
図版37　Ａ地点縄文土器③
図版38　Ｂ地点旧石器②
図版39　Ｂ地点旧石器③
図版40　Ｂ地点縄文石器②
図版41　Ｃ地点第Ⅰ石器文化層①
図版42　Ｃ地点第Ⅰ石器文化層②
図版43　Ｃ地点第Ⅱ石器文化層②
図版44　Ｃ地点縄文石器
図版45　Ｄ地点第Ⅰ石器文化層①
図版46　Ｄ地点第Ⅰ石器文化層②
図版47　Ｄ地点第Ⅱ石器文化層①
図版48　Ｄ地点第Ⅱ石器文化層②
図版49　Ｄ地点第Ⅱ石器文化層③
図版50　Ｄ地点縄文石器

第Ⅰ章　調　査　概　要

第１節　調査に至る経緯

電源開発株式会社は、熊本県阿蘇郡小国町及び大分県玖珠郡九重町の県境地域に小国地熱発電所を建設することを計画し、環境影響調査報告書作成のための調査が進められていた。熊本県文化課では建設予定地における文化財の取り扱いに関しての協議を受けて、「建設予定地に指定文化財はないが、埋蔵文化財が存在する可能性がある」との回答を行なった。これを受けて、平成８年９月25日付けで、電源開発株式会社豊肥地熱事業所長から熊本県教育長あてに「埋蔵文化財の所在の有無について」の文書照会が行われた。

平成８年10月、依頼を受けて文化課職員が現地を踏査すると、縄文時代の石器が採集されたため、同年10月25日付けで建設予定地は試掘調査が必要であるとの踏査結果報告を行った。協議により、地権者の承諾を得て試堀調査を実施することの合意は進んだが、試掘調査の結果により本調査が必要になった場合、調査費用負担の問題や、地熱発電所建設計画工程によりすすめられてきた建設工程にあわせると、平成10年４月造成工事開始前に発掘調査を完了する必要があることなど、解決しなければならない大きな問題が認識された。

一方、地熱発電所建設の開発要請をすすめてきた県企画開発部開発課も協議に参加し、三者による協議がつづけられたが、国の機関に準ずる公的機関であることから県教育委員会文化課がその調査を受託するとしても、その予算を当初予算に計上していないため、平成９年度の事業として年度当初から実施することは非常に困難なことだと予想された。また、山間地で冬場の発掘調査は気候的に絶望的であり、限られた時間のなかで、調査期間を確保するのは至難の業と認識された。

そのようななか、平成９年３月３～14日試掘調査を実施すると、旧石器時代と縄文時代の２層にわたる良好な遺跡であることが判明し、文化財保護法に基づき、本調査が必要であることを通知する。また、平成９年４月14日～５月２日、再度確認調査を実施し、調査の必要な地区の再確認や、立ち木などで前回未試堀地区であった場所の調査を実施し、全域の状況の把握に努めるとともに調査面積の検討を行った。

計画では、発電所用地面積は18,700㎡であった。調査面積を検討し、上下２層をあわせた面積は約17,300㎡となり、調査期間は８か月を必要とした。度重ねての慎重な協議を行ない双方の合意が得られ、平成９年７月14日付けで契約を締結し、平成９年度補正予算を計上し実施することになった。

調査担当の職員は他の県事業関係の文化財調査に優先して、５名が確保された。やがて、調査の準備は文化財保護法に基づく諸手続きや事務処理を行なうとともに、豊肥地熱事業所から出されていた牧草地の一時転用許可申請認可を確認し、調査器材を搬入し現場作業を開始する。作業員の確保は当事業所職員の手配をはじめとして、熊本県立小国高等学校や、小国町広報課職員などの協力を得て小国町内から多数の参加を得て調査が開始されることとなった。

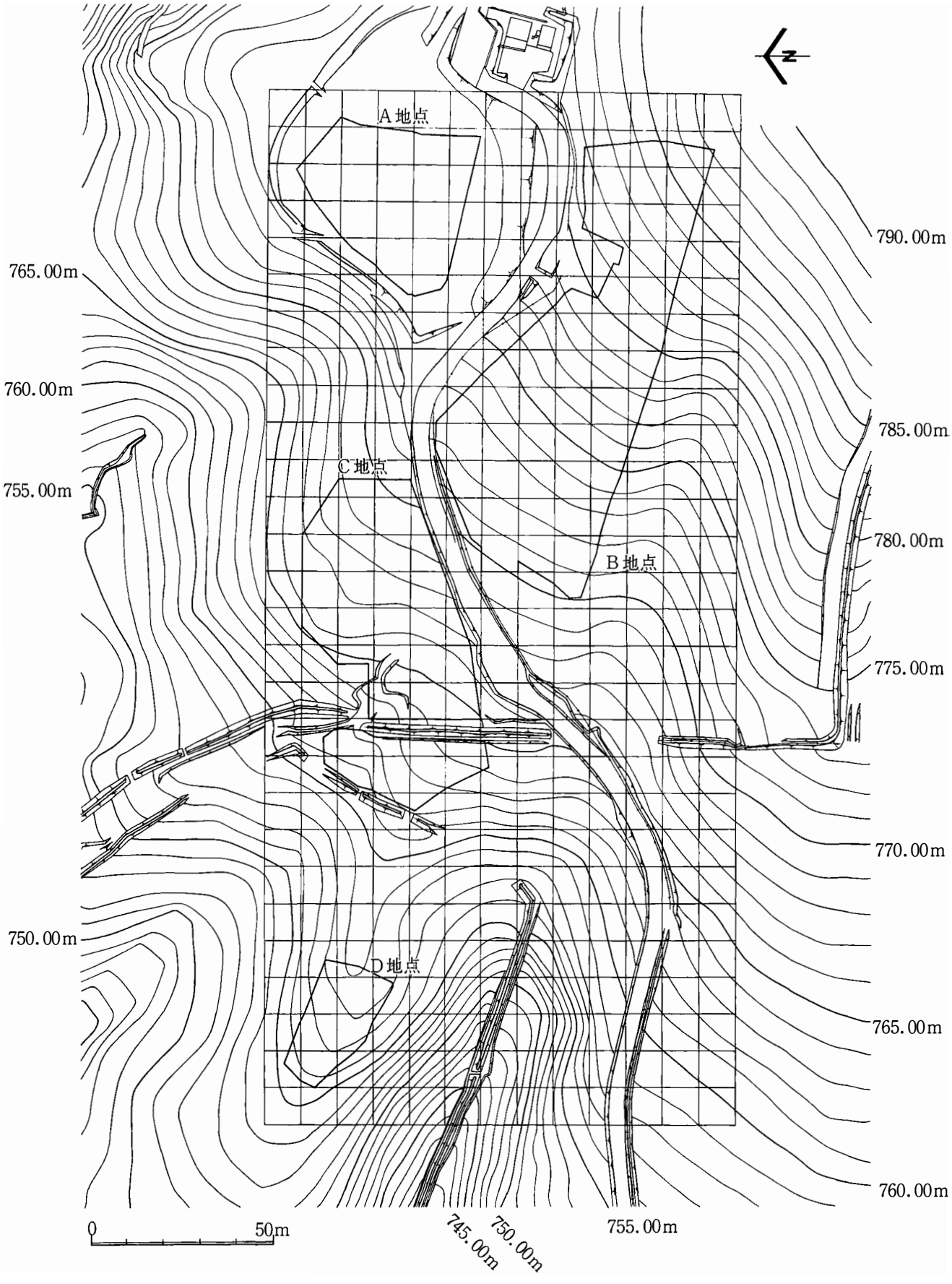
第2節　調査の組織

調査主体	熊本県教育委員会	
調査責任者	文化課課長	豊田貞二（平成９・10年）
	教育審議員	丸山秀人（平成９年）
	課長補佐	石原昭宏（平成９年）
	課長補佐	川上康治（平成10年）
	課長補佐	伊津野博（平成10年）
調査総括	課長補佐	島津義昭（平成９・10年）
調査担当	主　幹	江本　直（平成９・10年）
	参　事	野田恒親（平成９年）
	文化財保護主事	濱田彰久（平成９年）
	文化財保護主事	村崎孝宏（平成９・10年）
	学芸員	矢野裕介（平成９年）
	学芸員	三木ますみ（試掘調査担当）
	嘱　託	阿南　亨（平成９年）
	嘱　託	河津　攝（平成９・10年）
	嘱　託	荒木聖子（平成９年）
調査事務担当	総務係長	小斉久代（平成９・10年）
	主　事	岸本誠司（平成９・10年）
	主　事	川口久司（平成９・10年）
調査指導助言	橘　昌信（別府大学教授）	
	岡村道雄（文化庁記念物課主任調査官）	
	安斎正人（東京大学文学部助手）	
	松藤和人（同志社大学文学部助教授）	
協力者	電源開発株式会社　小国町教育委員会　小国町広報課　県立小国高等学校	
	小国町文化財保護委員会	

第3節　調査の方法と経過

調査の方法　調査区は全体面積18,700㎡であり、造成されたグランド、放牧場、それにくぬぎ山の３地区に大きく分けられた。そして、その中央を牧道が東西に横切る状況であった。したがって、基本的な調査地の地区割りは調査前の状況に基づき、グランド：Ａ地区　放牧場：Ｂ地区　くぬぎ山：Ｃ～Ｅ地区として調査をすすめた。Ｃ～Ｅ地区は地権者の発掘調査承諾や立木伐採作業を必要としたため、調査はＡ・Ｂ地区の表土剥ぎから開始し、この作業が終了したところから４級基準点測量による10m毎のメッシュ杭を設置し、北から南へ英文字番号、東西に数字番号をつけ、数回の作業を繰り返すことにより全域のメッシュ杭を充填させグリット番号をつけおえた。

表土剥ぎ作業は重機類を導入し、地形の状況にあわせながら、第Ⅱ層上面で揃え遺構確認面とした。調査はおよそ３班体制でおこなったが、縄文時代の遺構・遺物が確認されてないところは、適宜、旧石器時代の予想面まで掘り下げ、旧石器時代の調査を必要とする地区の限定作業を続けた。


A地点
B地点
C地点
D地点
790.00m
785.00m
780.00m
775.00m
770.00m
765.00m
760.00m
765.00m
760.00m
755.00m
750.00m
745.00m
0
50m

第１図　地形図

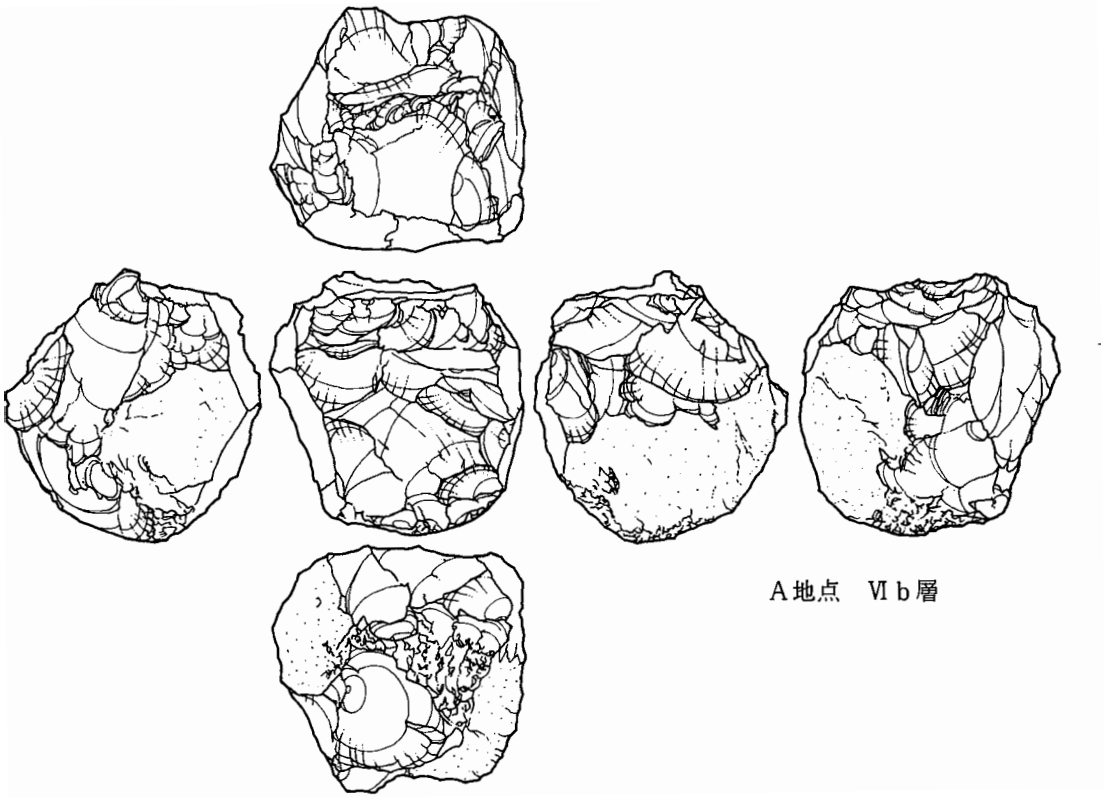
遺構の調査は平面・断面図を原則として20分の１でとり、詳細図は適宜拡大図を採用している。旧石器時代の出土遺物については１点毎に光波測距機を使ったトータルステーションによって遺物の三次元処理が行なえるようにしている。遺構や遺物の出土状況等についての写真撮影を適宜行ない、全景は実機による空中からの撮影を委託している。

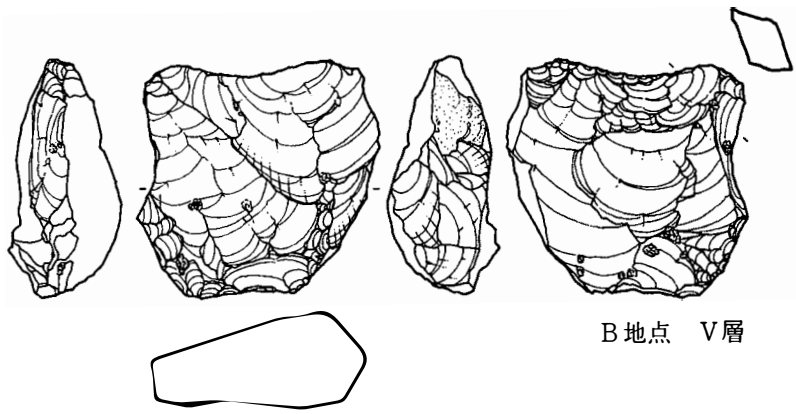
調査及び報告書作成の工程は次表に示すとおりである。

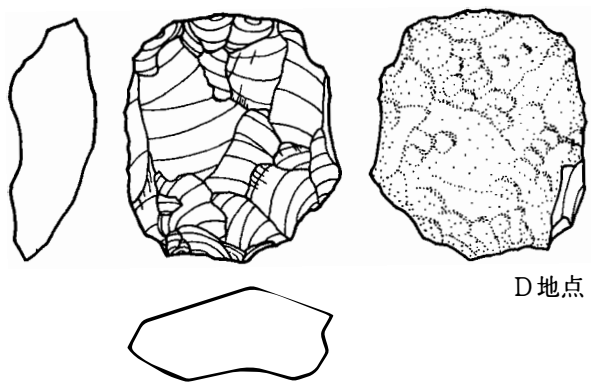
第１表　発掘調査工程表

	6月	平成９年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成10年 1月	2月	3月	備考
A地区	調査準備										
B地区			縄文		旧石器						
C地区			縄文					旧石器			
D地区						縄文	旧石器				
E地区						縄文	旧石器				C地点として報告
								縄文	旧石器		

４号集石実測風景







第２図　試掘調査出土遺物

第2表　整理作業工程表

	平成10年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成11年1月	2月	3月	備考
整理													
実測													
製図													
遺物写真													
写真現像													
原稿													
校正													
印刷													

現地説明会

現地説明会

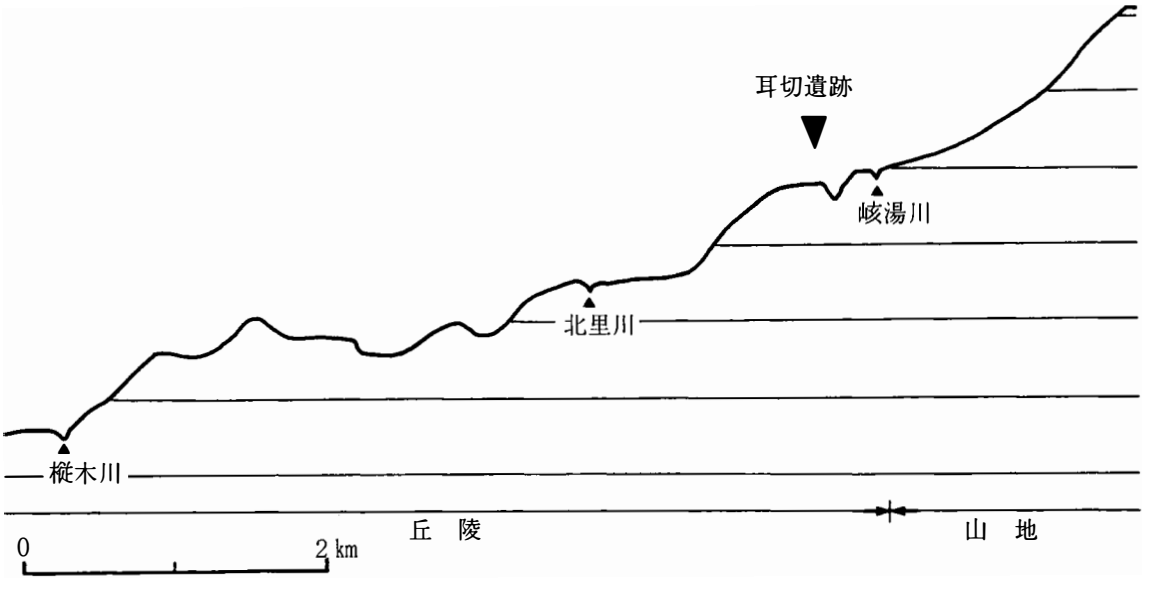
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地と地理的環境

耳切遺跡の行政区は熊本県阿蘇郡小国町大字西里で、熊本県の東北端にあたる。広くは九州中央山地の北部九重連山の北西側に位置することになり、大分県との県境をなす涌蓋山（1499ｍ）の西北裾部にあたる。遺跡は杖立川の支流をなす北里川と潮井川とに挟まれた高原状丘陵地にあり、標高約700～800ｍ上に立地している。一帯は溶岩及び火山性体積物により構成された丘陵と見ることができる。北側には岐湯温泉や岳湯温泉があり地熱が涌き出ていることもあり、火山とのつながりが強く想定される。遺跡は眺望の開けた絶好の平坦地を占有しており、豊富な水量をほこる潮井川を近くに持ち、豊かな山野とともに恵まれた自然環境にある。しかし、年間積雪日数は約51日であることや、年間平均気温が9.4℃であるとのデーターが報告されるように、冬期の生活環境は相当にきびしいものがある。１月下旬の大寒から２月にかけては氷点下10℃になることもあるという。ちなみに、付近は阿蘇くじゅう国立公園の普通地域に含まれている。

Ａ地点はもともと丘陵であったが岳の湯地区のグランドにするため造成工事が行なわれ、地区の運動会などが催されていたという。削平した土で北側や西側の低い所を埋め平坦なグランドがつくられている。したがって、Ａ地点の東側は上面がなくなり第Ⅵ層の暗色帯が露出した状況であった。上層が取り払われていたため、深い旧石器時代遺物の発見につながった原因ともいえよう。低い北側や西側は客土を取り除けばもとの地層が良く残されていた。Ｂ地区は西側へのなだらかな傾斜面に整備された放牧場で最も眺望のひらけた地点でもある。有刺鉄線で囲い草地改良を行なってあるが、全体的に深掘りは少なかったようで、20㎝程度の整備と判断される。したがって、縄文時代以前の包含層は壊されずに残されていたことになる。ＣＤＥ地点は付近で盛んに行なわれている椎茸栽培に原木として必要なくぬぎの木が多く植えられた山林であった。くぬぎの木をはじめとした立木を伐採し、相当大きな樹根を重機類で取り除いての調査であったため、この作業で撹乱した部分は除去することが必要であった。北側の谷部に下がると自然水がにじみ出ている場所がある。河川の源流をなすものであり、窪地に溜まった水は放牧牛や猪など動物の水呑み場となっている。

なお、この地区には高さ２ｍ程の数状の土塁が残されている。入り合地の境界とし、野焼の防火帯としての機能を現在も有している。



第３図　地形断面図

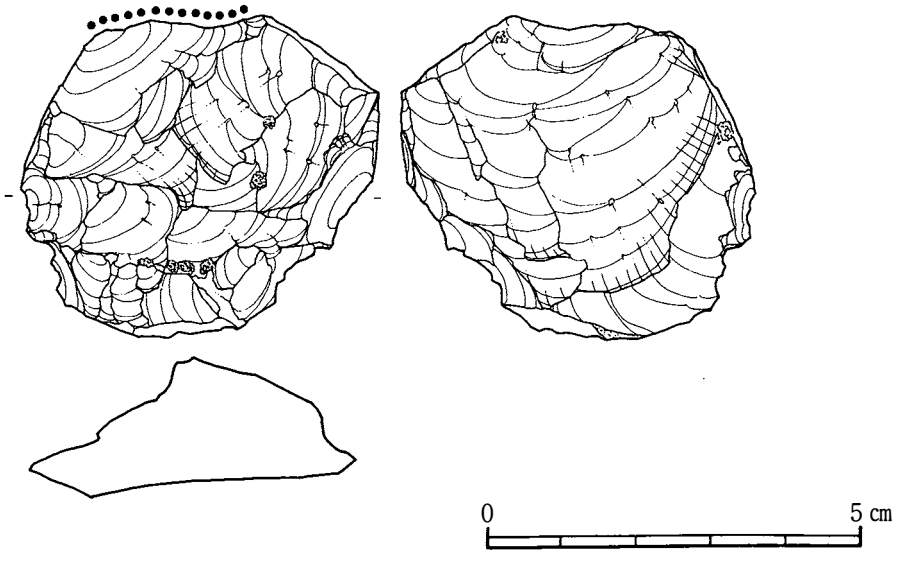
第２節　歴史的環境

小国町は優秀な建築材の小国杉の産地として、また、日本が誇る世界的な医学者北里柴三郎の出生の地であることがつとに有名である。耳切遺跡の近くには岳湯温泉や岐湯それに山川温泉があって大変人気の山郷の温泉地帯である。いにしえの人達がこの恵まれたいで湯の郷をこよなく愛したか否かは知る由もないが、今回の調査で少なくとも30,000年も前の、「小国人」の確かな生活の痕跡を確認できたことになる。

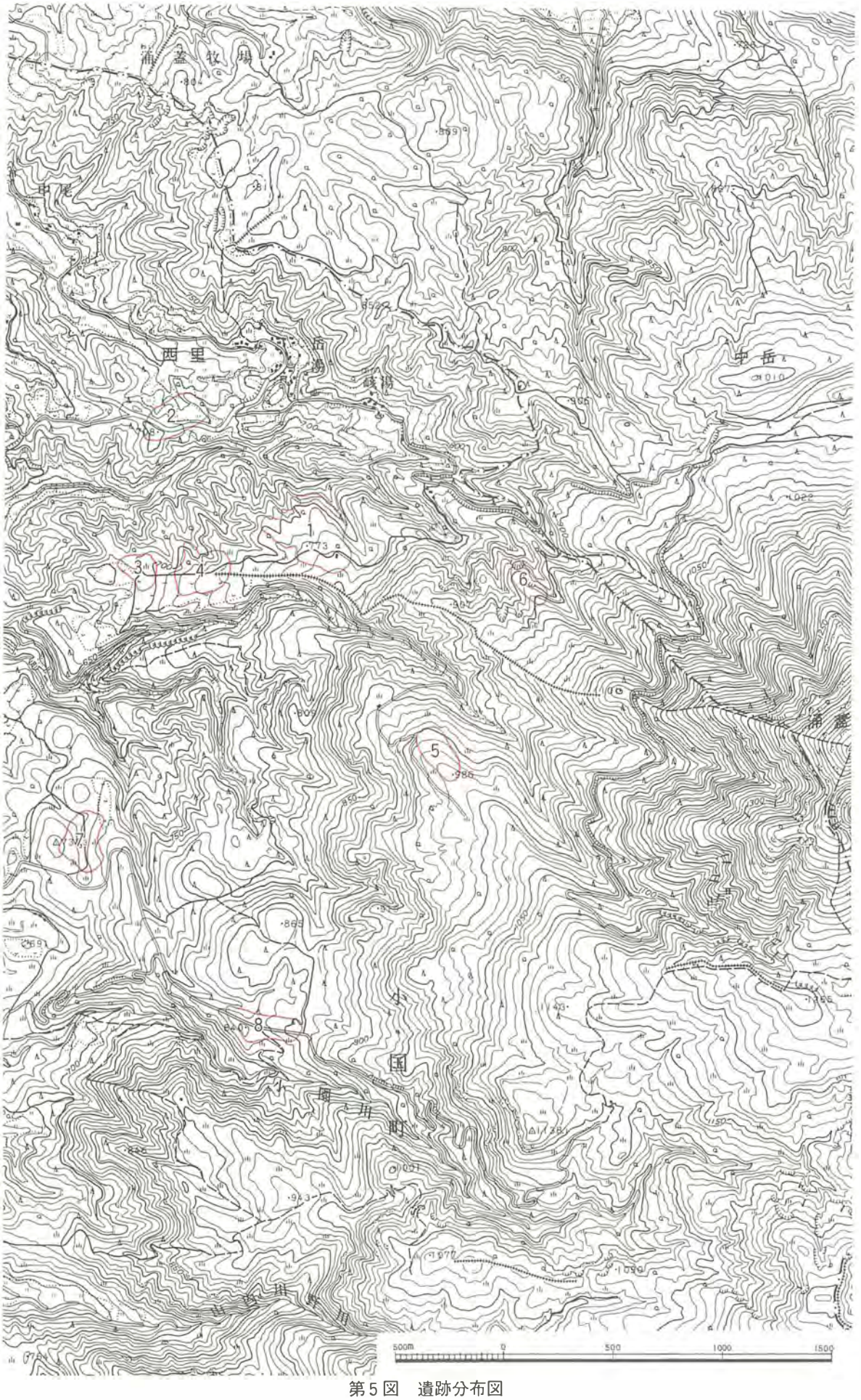
小国の地名は豊後風土記の日田郡石井郷のなかで「肥後国阿蘇小国の峰」として登場しているが、現在も熊本県と大分県の県境に位置しているように、時により国境の移動があったものであろう。県境をなす涌蓋山中腹に築かれた桜尾城をめぐっては、菊池勢が大友氏征討への途中阿蘇氏の配下の北里軍との攻防が生じている。その攻防の地名に湯河尻や岐湯とともに「耳切れ」として記載がある。冬の北風は耳を切るほどの寒さがありこの地名の由来となったのであろうか。

小国町の中心をなす宮原地区には荘厳な両神社が鎮座しており、社宝として６本の銅鉾が納められている。下城神社にも宝物として銅弋４本が納められており、弥生時代を中心に大きな集落が営まれていたことを示すとともに、筑後川最上流地区への文化の伝播は想像以上にスピーディにもたらせられていたことを物語っていよう。

昭和30年代には宮原地区の小国中学校遺跡が高千穂阿蘇調査団により調査が行なわれ弥生時代の住居跡が検出されている。乙益重隆氏により「小国の遺跡と遺物」として報告されているが、宮原小学校校庭遺跡を含めて一帯に大規模な集落が営まれていたことを証明するものであろう。その後、町内の遺跡については秀迷櫨氏の「小国郷史」に詳細にまとめられることになる。小国町の遺跡が縄文・弥生・古墳時代と各時代にわたり、宮原、下城地区のみならず上田、北里、黒淵地区等にも存在し、町内一円に遺跡が拡がっていることを示したものであろう。



第４図　周辺遺跡採集遺物（西里Ｂ遺跡）



第５図　遺跡分布図

第3表　遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別
1	耳切	阿蘇郡小国町西里　耳切	旧石器・縄文	集落
2	守護神城跡	阿蘇郡小国町西里　守護神	中世	城
3	西里A	阿蘇郡小国町西里	旧石器・縄文	包蔵地
4	西里B	阿蘇郡小国町西里	旧石器・縄文	包蔵地
5	西里C	阿蘇郡小国町西里	縄文	包蔵地
6	西里D	阿蘇郡小国町西里	縄文	包蔵地
7	西里E	阿蘇郡小国町西里	縄文	散布地
8	西里F	阿蘇郡小国町西里	縄文	散布地

昭和52・53年には国道212号改修工事に伴う熊本県文化課の下城遺跡の発掘調査が行なわれ多大の成果がもたらされている。下城跡の主郭・3郭にあたる調査区からは主に縄文早期時期と旧石器時代の遺構・遺物が出土している。本格的な発掘調査で赤土（赤褐色粘質土）のなかから旧石器時代の石器が出土したのは当時県内では最初の事例であった。赤褐色粘質土と暗褐色土のなかから2枚の石器群が検出され、下城第1・2文化層として捉えられている。ナイフ形石器、台形石器や三稜尖頭器が出土しており、県内旧石器時代研究の標準遺跡となっている。2万数千年前から小国地区に確実な石器文化が存在していたことにより、九州山地地域一帯に旧石器遺跡が存在する兆候をもたらしてはいたものであるが、今回の耳切遺跡の調査はそれを現実化したものとも見られよう。下城遺跡の石器群に用いられた石材のなかにはこの地区に原産される黒耀石が含まれていた。下釜ダム周辺を中心に原産される黒耀石は気泡が入り良質とは言い難くその使用時期と分布は少ないとみられる。しかし、黒淵地区等の山野を巡るとすさまじい量の黒耀石の原産地に出合う。これらのものを当時の人達が見逃すはずはないであろう。今回、はからずも後期旧石器初頭の段階から盛んに使用されていることが確認され、時代的にも、その使用分布も大きく拡がる可能性を示すものであろう。

今回の調査で確認された周辺遺跡がいくつかある。「麻生鶴B遺跡」は岳の湯の集落の西側約2㎞地点の小高い丘陵上にあり、調査員のジョギング中に偶然に目に止まったもので、紛れもない剥片尖頭器である。遺跡そのものは削平され消滅しているが、一つのキャンプサイトを示すものであろうか。端正な縦長剥片を素材として作り上げられた製作技術はその最盛期の所産であることを示している。下城遺跡や耳切遺跡に見られない石器の特徴を有しており、全体の究明が望まれる。「麻生鶴A遺跡」は南向きに開かれた放牧場で小河川が東流する絶好の平坦地である。黒耀石を用いた細石核が採集されている。良質の黒耀石で一見して西北九州産のものであることが確認される。この地区で細石器が出土した事例がなかっただけに、ここで出土した意義は大きい。地理的に中央部であるが、その石器の特色は九州の東西両地区のいづれの特色を示すのか大いなる興味が持たれている。「西里B遺跡」は耳切遺跡から山川温泉方向に降りる途中の道路東側の崖面で石器が確認された遺跡である。暗色帯に出土層が明確におさえられ、その下層に九重第1パミス層がみられる。また、断層や落とし穴状遺構も確認される良好な遺跡である。

参考文献

佐藤　弘　『小国郷の史蹟・文化財』　熊本日日新聞情報文化センター　1986
佐藤　弘　『続小国郷の史蹟・文化財』　熊本日日新聞情報文化センター　1996
秀　迷櫨　『小国郷史』　1960
乙益重隆　「小国の遺跡と遺物」　高千穂阿蘇調査団　1960
緒方　勉　『下城遺跡Ⅰ』　熊本県文化財調査報告第37集　熊本県教育委員会　1979
電源開発株式会社　小国発電所　環境影響調査書　1997

第３節　基本層位

当該遺跡は、地形的差異からＡ～Ｄ地点の４地点に区分して調査を実施した。また、各地点の基本層位から、姶良Ｔｎ火山灰を含む土層をⅤ層とし、Ⅸ層に九重第１パミス（Ｋｊｐ－１）を確認した。Ⅳ層以下にローム層が堆積し、ソフトローム（Ⅳａ，ｂ層）とハードローム（Ⅴ層以下）に区分できる。

以下、各層ごとに説明を行う。

第Ⅰ層　表土層（耕作土）

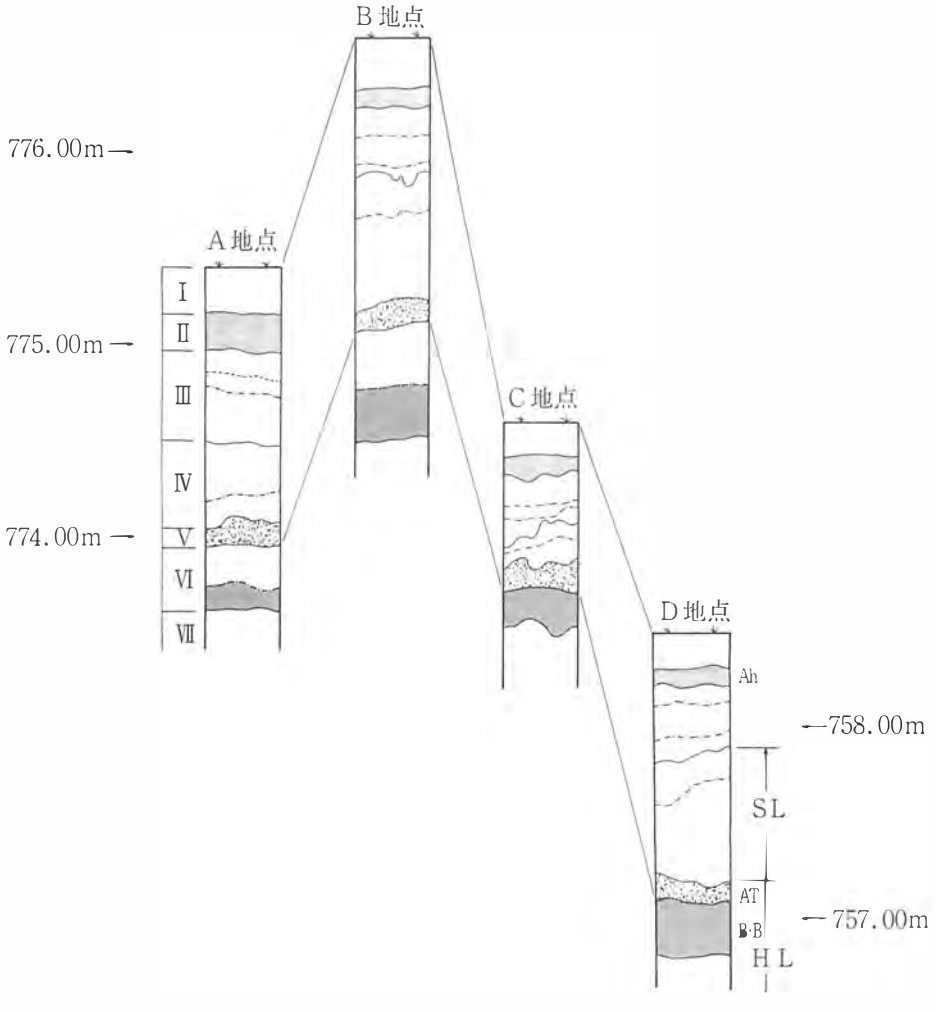
第Ⅱ層　暗黄褐色火山灰土層

この層は、アカホヤ火山灰の２次的堆積層である。土質は、フカフカとした状態ではなく、より土壌化が進んだ土層として理解できる。また、わずかではあるがⅢ層との層理面に明黄褐色の粒子の粗い火山灰も認められる。この火山灰は、アカホヤ火山灰の１次堆積と考えられる。しかし、その分布は面的に広がらず各地点とも、在り方は部分的である。

第Ⅲ層　黒色土層

層厚は、各地点とも厚く堆積が認められる。この土層は、その上部、中部、下部で土質及び土色に微妙な違いが認められることから、それぞれａ～ｃに細分した。

Ⅲａ層は、黒褐色を呈する土層で、粒子は細かく粘性は弱い。Ⅱ層との漸移層であり、縄文時代早期の遺物包含層である。



第６図　各地点の基本土層

Ⅲｂ層は、黒色を呈する土層で、土質はⅢａ層に類似する。縄文時代早期の遺物を包含する。

Ⅲｃ層は、暗褐色を呈する土層で粒子は細かく固くしまりやや粘性を帯びる。Ⅳ層との漸移層である。各地点とも、縄文時代早期の遺物が出土する。しかし、Ⅲａ～Ⅲｃ層で検出される早期の遺物にさほど時期差が認められず、その出土のピークはⅢｂ層に存在する。また、Ｄ地点でⅢｃ層下部で槍先形尖頭器が１点検出されていることから、縄文時代草創期～早期の遺物包含層である可能性も指摘できる。

第Ⅳ層　黄色粘質土層

ソフトロームである。土色は同じであるが、土質の違いからａ，ｂの亜層に細分できる。

Ⅳａ層は、粘性が強く固くしまった土層である。Ⅳｂ層は、ａ層と比較して柔らかい土層である。Ⅳａ，ｂとも旧石器時代の遺物包含層であり、Ａ，Ｃ，Ｄ地点でＡＴ層上位の石器文化層が検出されている。この土層の堆積は、Ａ，Ｂ地点で厚く、Ｃ，Ｄ地点ではやや薄い。

第Ⅴ層　淡黄色粘質土層

粒子はやや粗く、ジャリジャリした土質を呈する。ハードロームの最上層である。旧石器時代の遺物包含層である。Ａ地点では、Ⅴ～Ⅵａ層にかけて第Ⅱ石器文化層が検出されている。

第Ⅵ層　暗褐色～黒褐色粘質土層

暗色帯を含む土層で、土色の違いからａ，ｂの亜層に細分できる。

Ⅵａ層は、暗褐色でⅤ層と比較してやや暗い色調を呈する。粘性が強く固くしまった土層である。

Ⅵｂ層は、黒褐色で粘性が強く固くしまった土層である。ａ，ｂ両層とも旧石器時代の遺物包含層である。

この土層の堆積は、Ａ，Ｂ地点では厚くａ，ｂの亜層に細分が可能であるが、Ｃ，Ｄ地点では薄く色調的にも濃い部分が存在せず暗色性の発達が弱いため細分ができなかった。

しかし、Ａ地点では上層のⅤ層～Ⅵａ層に第Ⅱ石器文化層が、またⅥｂ層～Ⅶ層に第Ⅰ石器文化層が確認されている。

第Ⅶ層　淡黄褐色粘質土層

この土層の粒子は細かく、粘性が強く固くしまった土層である。Ａ地点では、上部で石器群が検出されているが、Ｂ～Ｄ地点では同層からの遺物の検出はない。

第Ⅷ層　淡赤褐色粘質土

微細な砂粒を多量に含み、ジャリジャリとした土質を呈する。粘性は強く固くしまった土層で、わずかに２㎝前後の亜角礫を含む。従来砂ロームと呼称されていた土層に相当する。遺物は検出されなかった。

第Ⅸ層　黄色軽石層

九重第１パミス（Ｋｊｐ－１）である。

以上のように、Ｋ－Ａｈ（Ⅱ層）､姶良Ｔｎ火山灰（Ⅴ層）､Ｋｊｐ－１（Ⅸ層）という鍵になる火山灰層３枚を含み、合計９枚の土層が確認され旧石器時代の遺物は、Ⅳａ層～Ⅶにかけて重層的に検出された。

Ａ～Ｄ地点における基本的な土層堆積には、大きな差違は認められないものの、Ⅳａ層以下の層厚の違い、特にⅥ層の暗色帯の発達や層厚の差違による同層の細分等の問題がみられ、地点間での文化層の対比を困難にしている。

しかし、上述した鍵層により、姶良Ｔｎ火山灰層の上下に文化層が確認され、Ａ地点ではさらに下位の文化層が２枚に細分できる。つまり、同地点では姶良Ｔｎ火山灰降灰以前でＫｊｐ－１降灰以後に位置づけられる文化層が２枚確認されたことになる。

第Ⅲ章　Ａ地点の調査と成果

第１節　層位と文化層

１　層位と出土遺物

Ａ地点の南東部は、南側に位置するＢ地点と比高差約10mの斜面で隔絶され、東側には谷が迫りさらに東側には湧蓋山（1,499m）へと連なる急斜面になる。西側のＣ地点との間にはＢ地点から延びる谷部によって区画され、隣接するＢ、Ｃ両地点とは同一平坦面を形成していない。

また、旧石器時代に属する出土遺物とその利用石材の比率でも相違点が認められ、Ａ～Ｄ地点は同一の丘陵上に立地する遺跡群を形成していると理解される。Ａ地点は、これらの遺跡群の中にあって比較的良好な平坦面に立地している。その地形は、東西の谷に挟まれ、北北西に緩やかに傾斜しながら張り出す。

当該地点の層位は、第Ⅱ章第３節に記述したように９枚の土層が確認され（第６図）、第Ⅱ層にＫ－Ａｈ火山灰層、第Ⅴ層に姶良Ｔｎ火山灰、第Ⅸ層に九重第１パミスと鍵となる火山灰が３枚確認されている。この土層堆積は、下城遺跡（緒方・古森1980）と大きく相違しないものである。Ａ地点で確認された遺物は、Ⅱ層から縄文時代晩期以降、Ⅲａ～ｃ層で縄文時代早期、Ⅳａ，ｂ層（ソフトローム）から第Ⅲ石器文化、Ⅴ層～Ⅵａ層から第Ⅱ石器文化、Ⅵｂ層～Ⅶ層から第Ⅰ石器文化が検出された。

なお、Ａ地点は岳湯地区の共有地で、近年同地区の運動場として造成されたため、Ⅰ，Ⅱ層が削平により残存しないか、あるいは薄い状態であった。そのため、Ⅱ層から検出された遺物は少ない。

概ねⅢａ層以下については、残存状態は良好である。

２　文化層

Ａ地点では、縄文時代の遺物・遺構がⅡ～Ⅲｃで検出された。具体的な時期については、Ⅱ層から前期の曽畑式土器及び晩期の突帯文土器が出土したが、その数量は僅少である。また、当該時期と考えられる遺構の検出は認められなかった。

Ⅲａ～ｃ層では、早期の押型文土器、手向山式土器、平栫式土器、塞ノ神式土器が検出された。しかし、その数量は少なく、同層から検出された石器類と比較しても僅少であり、このことと石器類の組成の偏りが当該地点の早期における利用の在り方を示唆するものであろうか。

旧石器時代に属する遺物は、Ⅳａ層以下のソフトローム及びハードロームから検出された（第12図）。層位ごとの遺物出土数量には、差違が認められるもののその平面分布は、わずかなズレはあっても、ほぼ重なる状況で認められる。

また、当該地点が東西方向に谷部に向かう緩やかな傾斜をもち、北側に向かって緩やかに傾斜する地形であるため、遺物の垂直分布による文化層の区分が有効性をもたないため、層位間の接合資料と細分された層位別の石材利用頻度（第４表）を検討することによって、文化層の把握につとめた（第７図）。

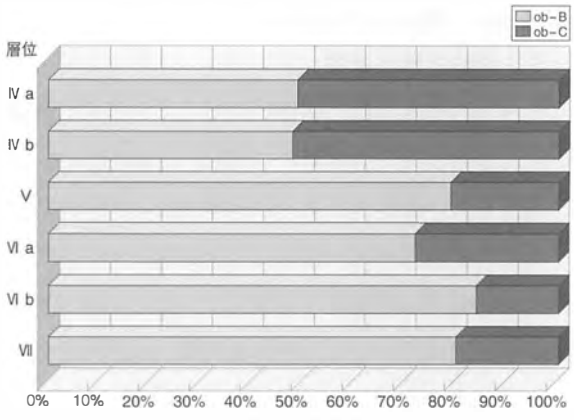
全時期を通じて利用頻度の高い黒耀石を岩質（原産地）別に細分し、層位ごとの利用頻度で比較した（第７図）。

その結果、Ⅳａ，ｂ層とⅤ層～Ⅵａ層、Ⅵｂ層～Ⅶ層の３段階で黒耀石Ｂ類とＣ類の利用割合がまとまる傾向を示す。このことから下位から上位へ順に、Ⅰ～Ⅲの石器文化に区分できる。

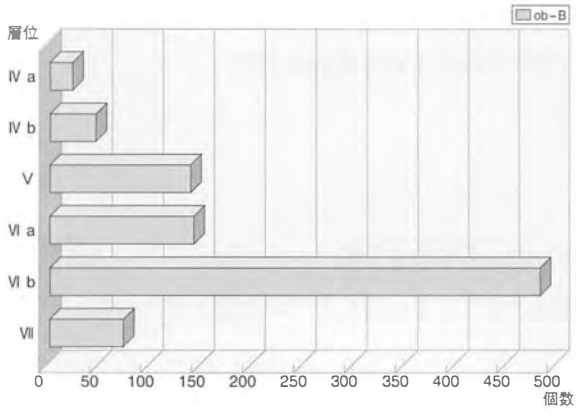
また、検出された石器群を文化層別に比較すると、第Ⅰ石器文化層では、幅広の剥片を横位に用い両側に平坦剥離を施す台形様石器が主体を占め、第Ⅱ石器文化層には同様の石器形態が認められず縦長剥片を素材とした切出形のナイフ形石器等が認められる。このことからも姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器文化として、ⅠとⅡに区分することが可能であると考えられる。

第4表　層位別石材組成表

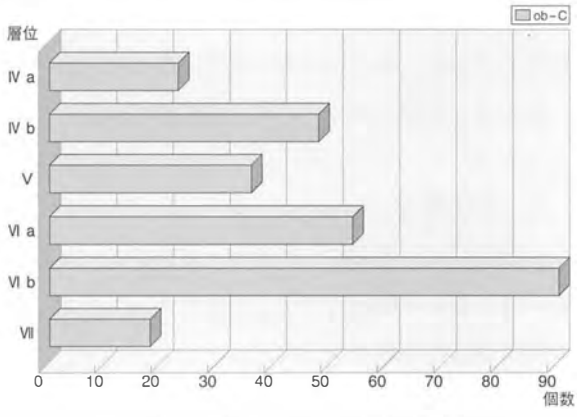
	Ⅳa	Ⅳb	Ⅴ	Ⅵa	Ⅵb	Ⅶ	計
黒耀石A	1		3	2	8	4	18
黒耀石B	22	45	138	141	482	72	900
黒耀石C	23	48	36	51	90	18	269
黒耀石D	3	1		1			5
黒耀石E	1	1	1				3
安山岩	2	19	26	42	79	24	192
硬質頁岩	4	4	15	20	107	30	180
砂岩			2	1	7	2	12
石英		1	4	4	4	2	15
メノウ		1	2	1	5	2	11
流紋岩	1	6	12	13	10		42
片岩	1			3	6	4	14
チャート		1	3	4	4		12
シルト質頁岩			1	1			2
計	58	127	243	287	802	158	1675



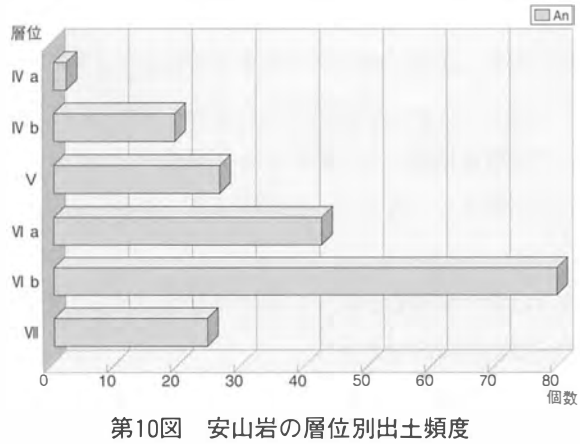
第7図　石材の層位別出土頻度



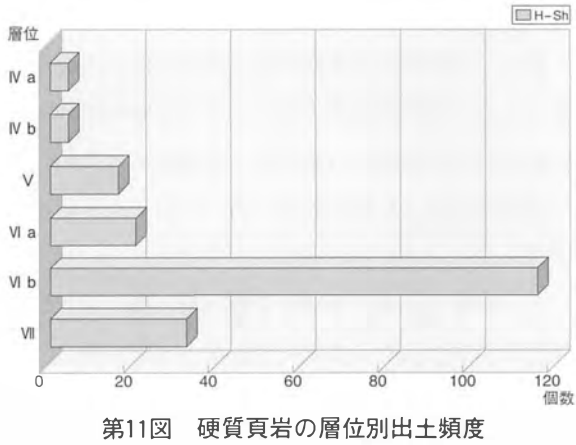
第8図　黒耀石B類の層位別出土頻度



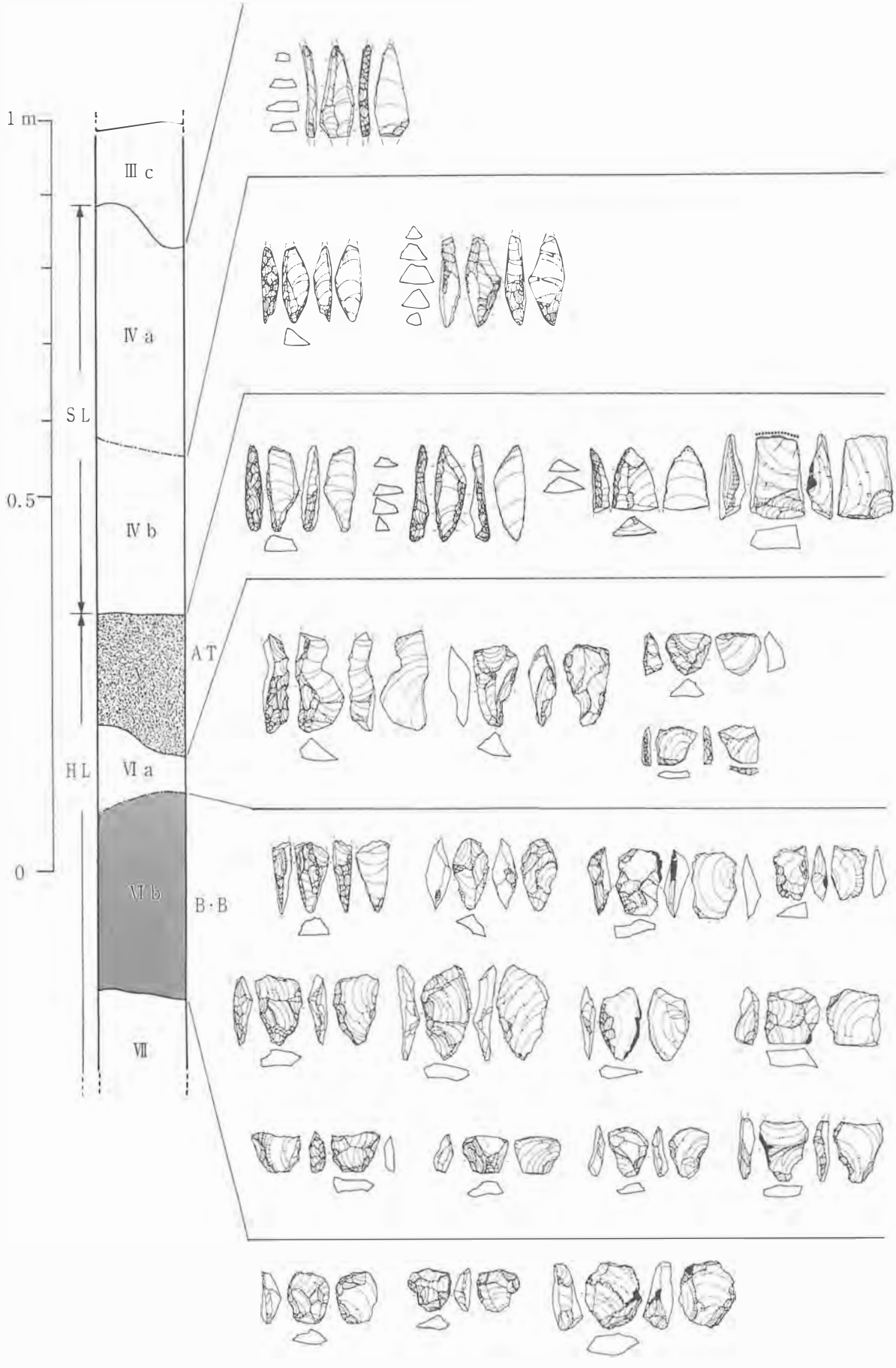
第9図　黒耀石C類の層位別出土頻度



第10図　安山岩の層位別出土頻度



第11図　硬質頁岩の層位別出土頻度



第12図　Ａ地点の旧石器時代層位別出土石器

第2節　第Ⅰ石器文化層

1　文化層の概要

第Ⅰ文化層は、暗色帯下部Ⅵｂ～Ⅶ層に出土層順をもつ石器群であり、そのピークはⅦ層上位面に求められる。このことから、生活面はⅥｂ層とⅦ層の層理面に設定することが可能であろう。

分布は、A地点のほぼ全域で確認され、石器群は、1～22のブロックに区分できる（第13図A，B）。石器群は、礫群を伴わず総数956点が検出され、A地点で検出された3枚の石器文化層中数量的にもっとも多い。その組成は、台形様石器・ナイフ形石器・二次加工のある不定形石器・削器・楔形石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・砕片である。

また、G－2，H－5グリッドから炭化物の集中部が検出されている。しかし、この炭化物は2～3㎜と微細であるため年代測定の資料としては採集できなかった。そのため暗色帯（Ⅵｂ層）下部において、β線による測定を実施した。その結果については、巻末に付論として掲載した。これらの炭化物の集中は、第Ⅱ石器文化とほぼ同様の分布を示すが、検出された数量には差違が認められる。つまり、第Ⅰ石器文化では、H－5グリッドに多く、G－2グリッドに少ない。第Ⅱ石器文化では、逆の様相を示す。

2　分布と石材

使用される石材のうち黒耀石類の割合は高く全体の70.3%を占める。この黒耀石類は、その石質の特徴からA～C類に細分できる。黒耀石B類は、著しく風化し光沢がない黒耀石であり、その表面の色調は暗赤褐色～黒褐色を呈する。新しい割れ面の観察から本来は、狭雑物をほとんど含まない漆黒色の黒耀石であることが知られる。B類は、第Ⅰ石器文化層石器群のうちもっとも利用頻度の高い石材であり、57．7％を占める。この石材の原産地は不明であるが、阿蘇北外輪山上に立地する一の宮町象ケ鼻遺跡D地点において多量に検出される特徴的な黒耀石である。また、阿蘇北外輪山から距離的に遠くなるに従って、利用頻度が低下する傾向にあることから、阿蘇北外輪山周辺に原産地を予測することが可能であろう。

しかし、黒耀石B類は表面が著しく風化しているため、その表面の観察から母岩別・個体別に分類することは難しく、今回の整理作業では接合した事例を除いて認識できなかった。黒耀石C類は、黒色を呈し透明度の高い石材であり、多量の狭雑物を含む。耳切遺跡の所在する小国町と大分県（上津江郡大山町）との県境付近に同様の黒耀石が産出することが知られ、一般に小国産黒耀石として認識されている。耳切遺跡において検出された黒耀石C類は、概ね小国産黒耀石に比定できるものであろう。その利用頻度は、11．3％であり、下位石器文化層から上位石器文化層へ徐々に利用頻度が増加する石材である。

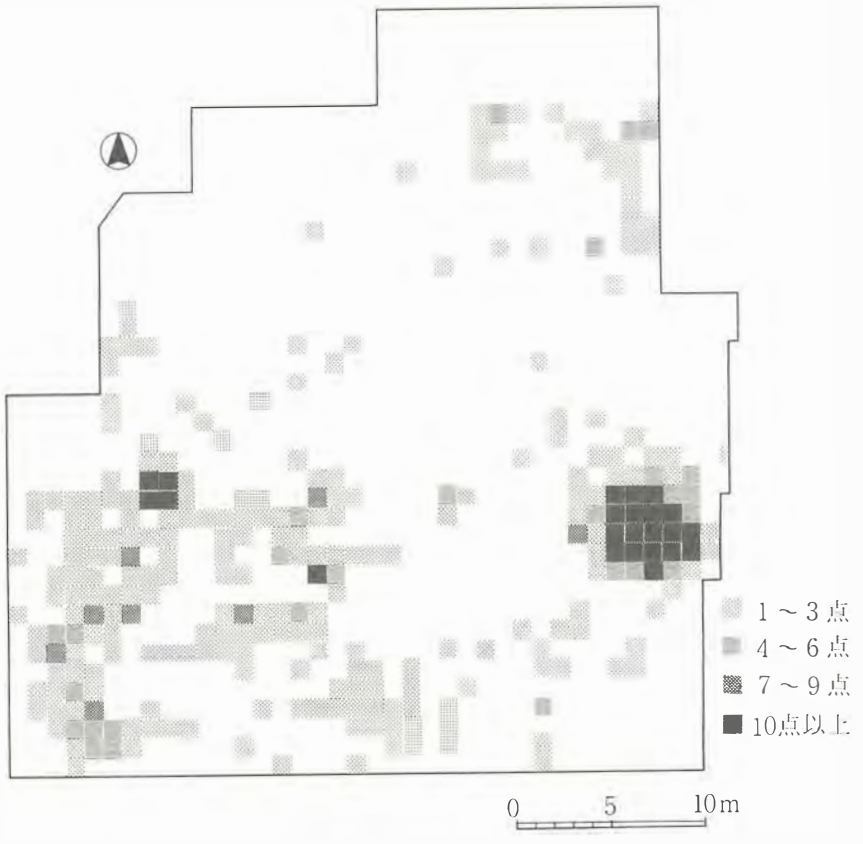
非黒耀石類は全体の29.7%を占め、その利用石材にはバリエイションがみられる。その内訳は、硬質頁岩14.1%、安山岩10.8%、流紋岩1.1%、石英0.6%、チャート0.4%、メノウ0.7%等である。

これらの石材ごとの分布は、第14図～第17図に示し、ブロック別の石材別組成は第7表に示している。22に区分した各ブロックの石材組成の在り方からは、黒耀石B類を主体的石材とするブロック（1，6～18，20，21）と、黒耀石C類を主体的石材とするブロック（2～5，19)、黒耀石B類をもちながら安山岩を主体的石材とするブロック（22）に類型化できる。個体別の接合関係では、大半がブロックごとに収束するが、個体10の1例はブロック間（1，10，12）での接合が確認された。

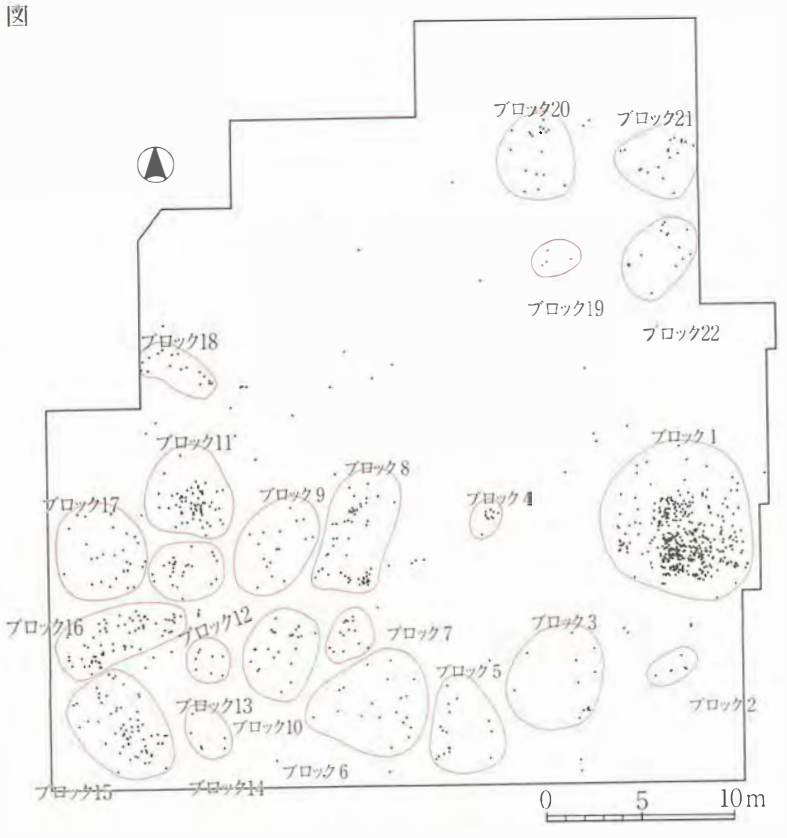
このように石材組成は、黒耀石類を主体的に利用しながら、その石材利用にはバリエイションが認められ、この傾向は下位石器文化層から上位石器文化層へ移行するに従って、黒耀石類の利用頻度の増加と、なかでも黒耀石C類の利用頻度の増加といった変化として捉えられる。

しかし、各種石材の石器利用には偏りが認められ、台形様石器の大半は黒耀石B類を利用し、削器には硬質頁岩及び安山岩が利用されており、器種ごとに利用石材の固定化が認められる。

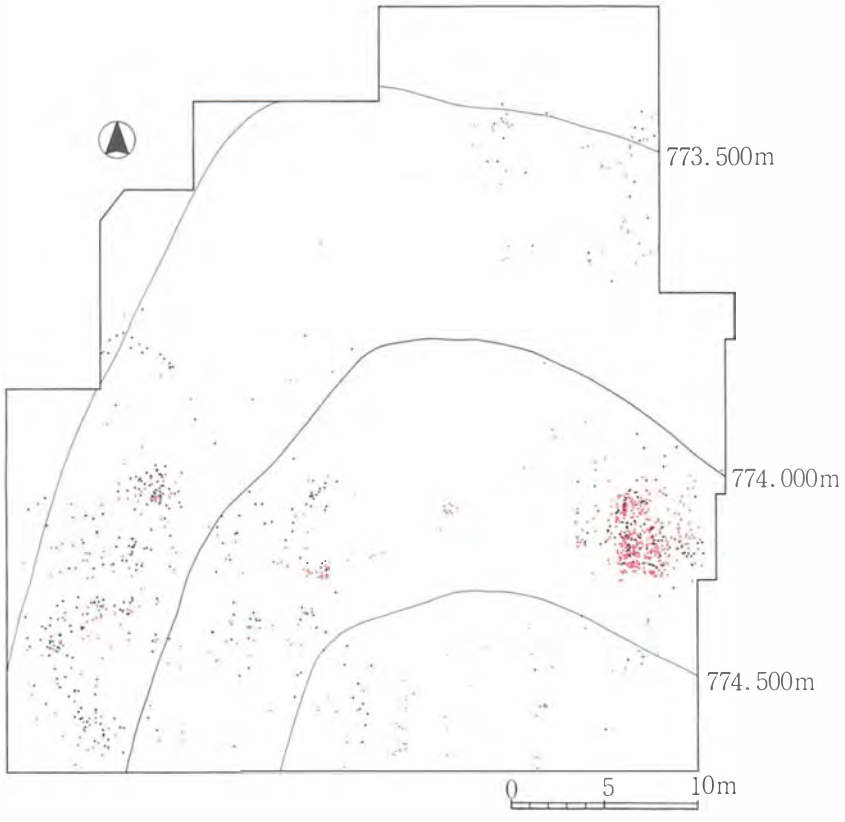
A図



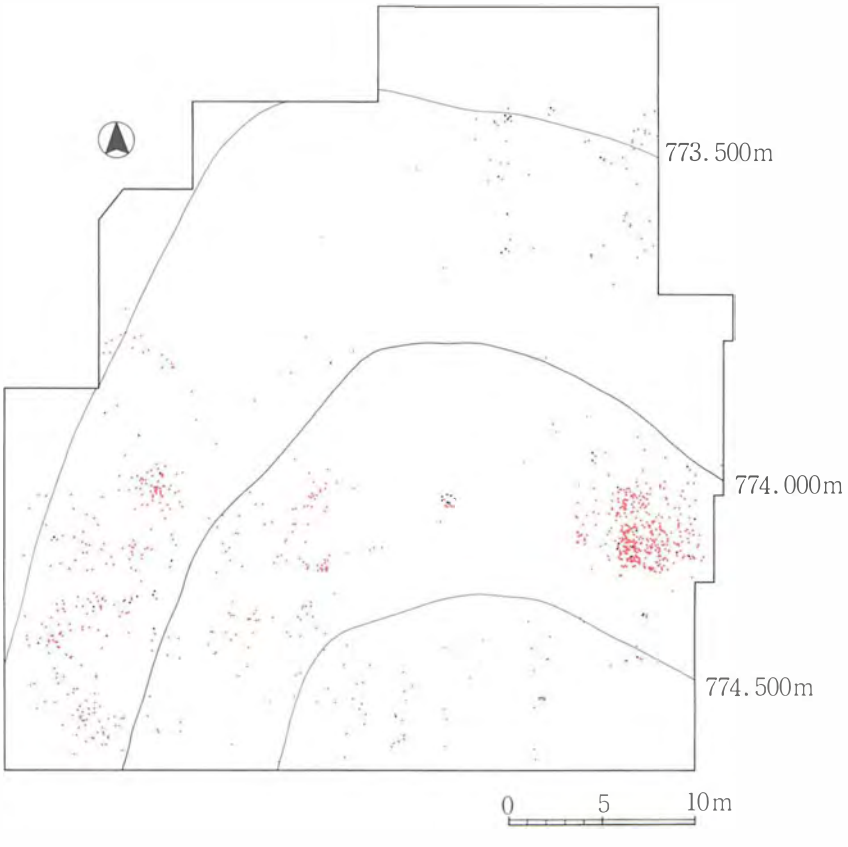
B図



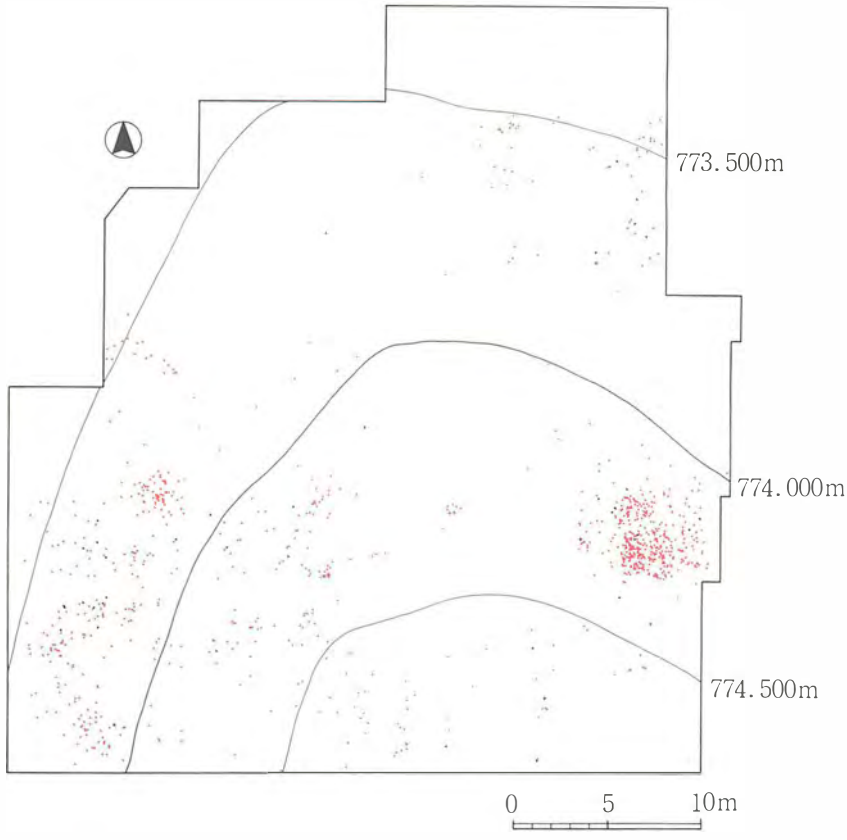
第13図　遺物分布図



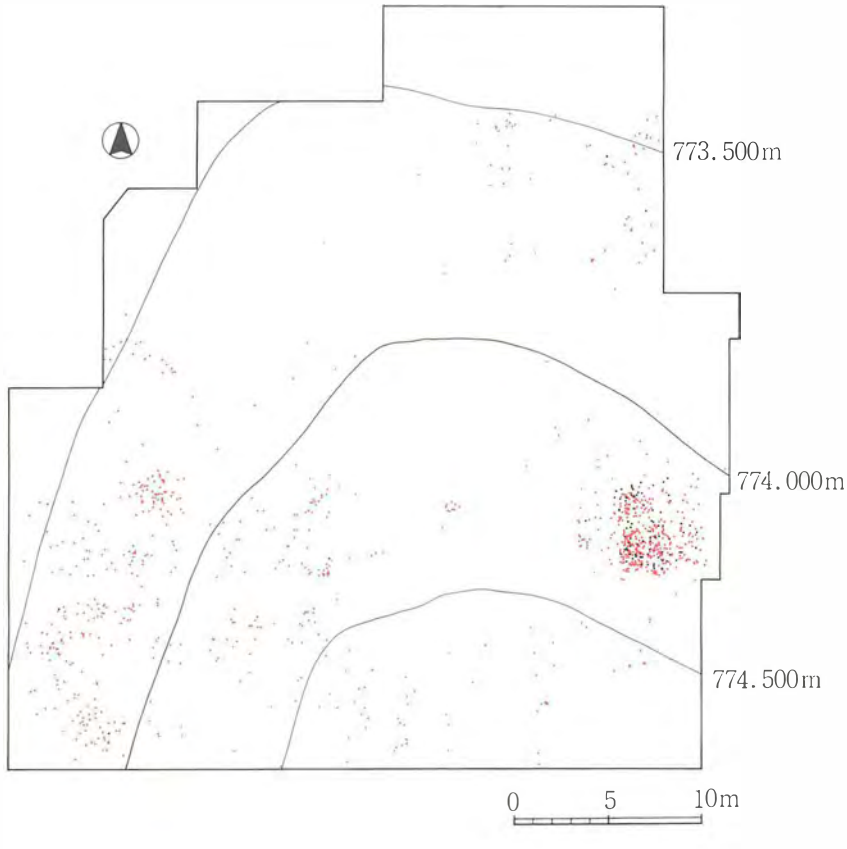
第14図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）



第15図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）



第16図　石材別分布図（安山岩）



第17図　石材別分布図（硬質頁岩）

3　出土石器

第Ⅰ石器文化層に属する石器は、総数515点検出された。その組成は、台形様石器6.8%，ナイフ形石器0.4%，削器0.8%，楔形石器0.2%，二次加工ある不定形石器2.9%，使用痕ある剥片1.9%，石核1.0%であり、大半は剥片・砕片類である。これらの石器群のブロック別組成については、第６，７表に示した。

以下各器種ごとに説明を行う。

（１）　台形様石器（第18図１～８、第19図９～18、第20図19～21，25）

ここで台形様石器として分類した石器は、横長あるいは幅広の剥片を素材とし、素材剥片を横位に用い左右両側縁に調整加工を施し、概ね台形状に作り出した石器である。この種の石器は、39点検出された。

石器の調整加工には、平坦剥離・急斜度剥離が認められ、その加工の部位は一側縁のみに施されるもの（第18図３，５，７、第19図９，14，17，18、第20図20）、両側縁に施されるもの（第18図１，２，４，６，８、第19図11～16、第20図19）、また一面加工のもの（第18図５，７，８、第19図10，17、第20図20）や両面加工のもの（第18図１，３、第19図９，12，13，15）、錯交剥離が認められるもの（第18図２）等その在り方にはバリエイションがみられる。

また、これらの石器は素材剥片の形状を大きく変更しないという共通点が看取される。そのため、第18図３，４のように全体形が概ね台形状を呈するものと、第18図１，２，５，７、第20図25のように基部側が細く、形態的にはナイフ形石器に近いものもあるが、意識的に基部を作り出す調整加工は認められない。第20図21は、ペン先型ナイフ形石器と類似した形態的特徴を示すが、素材は横長剥片を利用し腹面に平坦剥離を施している。形態的特徴からは、ナイフ形石器に分類可能な石器であるが、素材の用い方の共通性から台形様石器に分類した。

（２）　ナイフ形石器（第20図22，23）

ナイフ形石器は、縦長剥片を素材とし一側縁あるいは両側縁に急斜度のブランティングを施し、基部を意識的に作り出したものである。第Ⅰ石器文化層では、第20図22，23の２点である。出土層位は、Ⅵｂ層上位面～中位面にかけて検出された。22は、縦長剥片を素材とし、左右両側縁に急斜度のブランティングを施す。

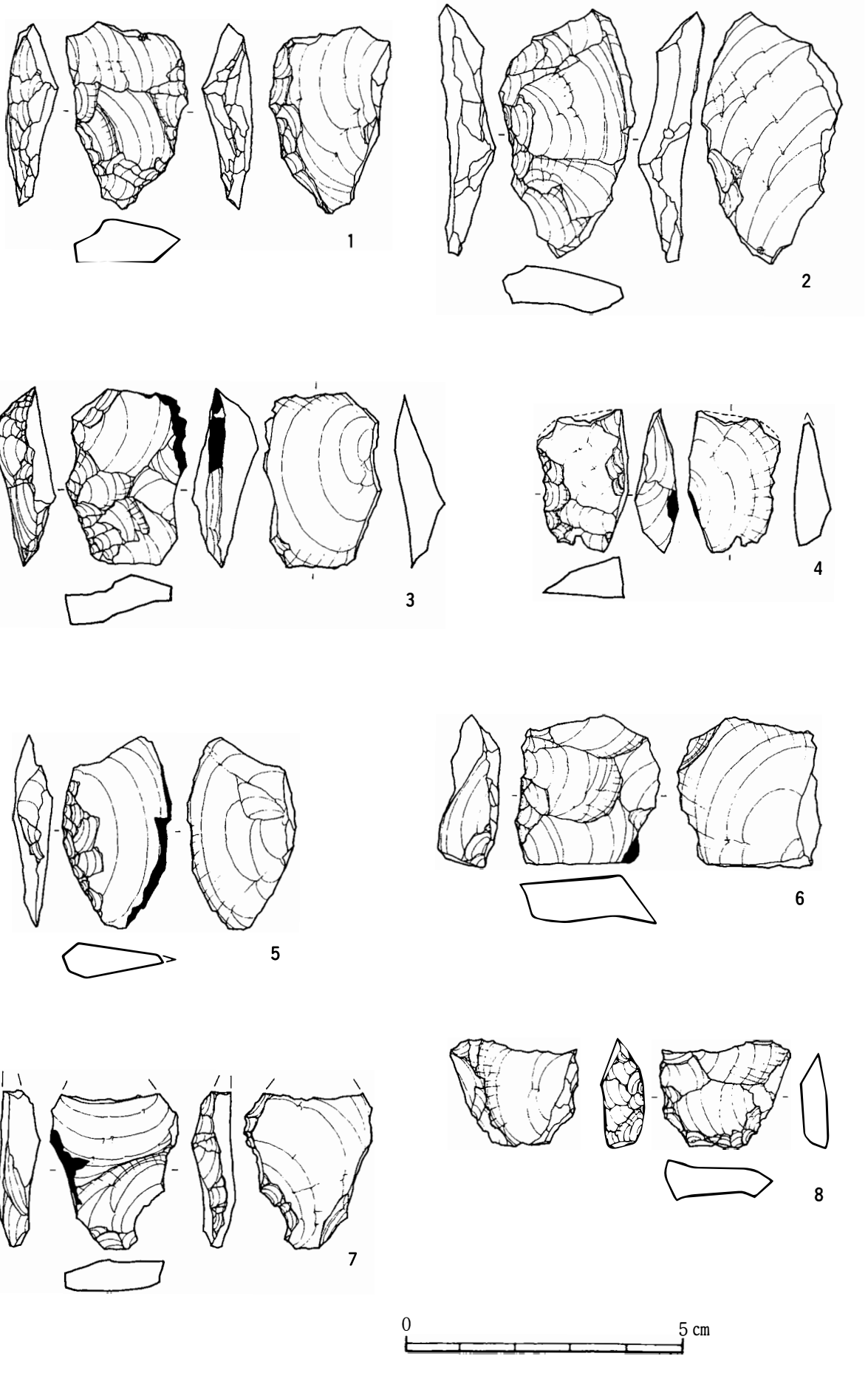
また、石器表面の稜上に厚みを減じるためであろうか平坦剥離が施されている。石器の上半部を欠失しているため全体形は不明であるが、右側縁上部に刃部が設定されるものと考えられ、切出型のナイフ形石器であろうか。出土層位はⅥｂ層中位面で、石材は安山岩である。その特徴から個体別識別が可能で、その観察結果からこの個体の大半がⅤ～Ⅵａ層に出土層順をもつため、第Ⅱ石器文化に帰属する可能性も指摘できるが、接合関係が認められないため第Ⅰ石器文化に位置づけた。23は、縦長剥片を素材とし左側縁下半部に急斜度の調整加工を施している。石器表面の剥離面構成は、裏面側の剥離方向と同一である。出土層位がⅥｂ層（暗色帯）上部であるため、22と同様に本来第Ⅱ石器文化に帰属する石器である可能性も指摘できる。

しかし、石材が利用頻度のもっとも高い黒耀石Ｂ類で、その表面の風化から肉眼観察による個体別識別は難しく、接合関係も認められないため第Ⅰ石器文化に位置づけた。

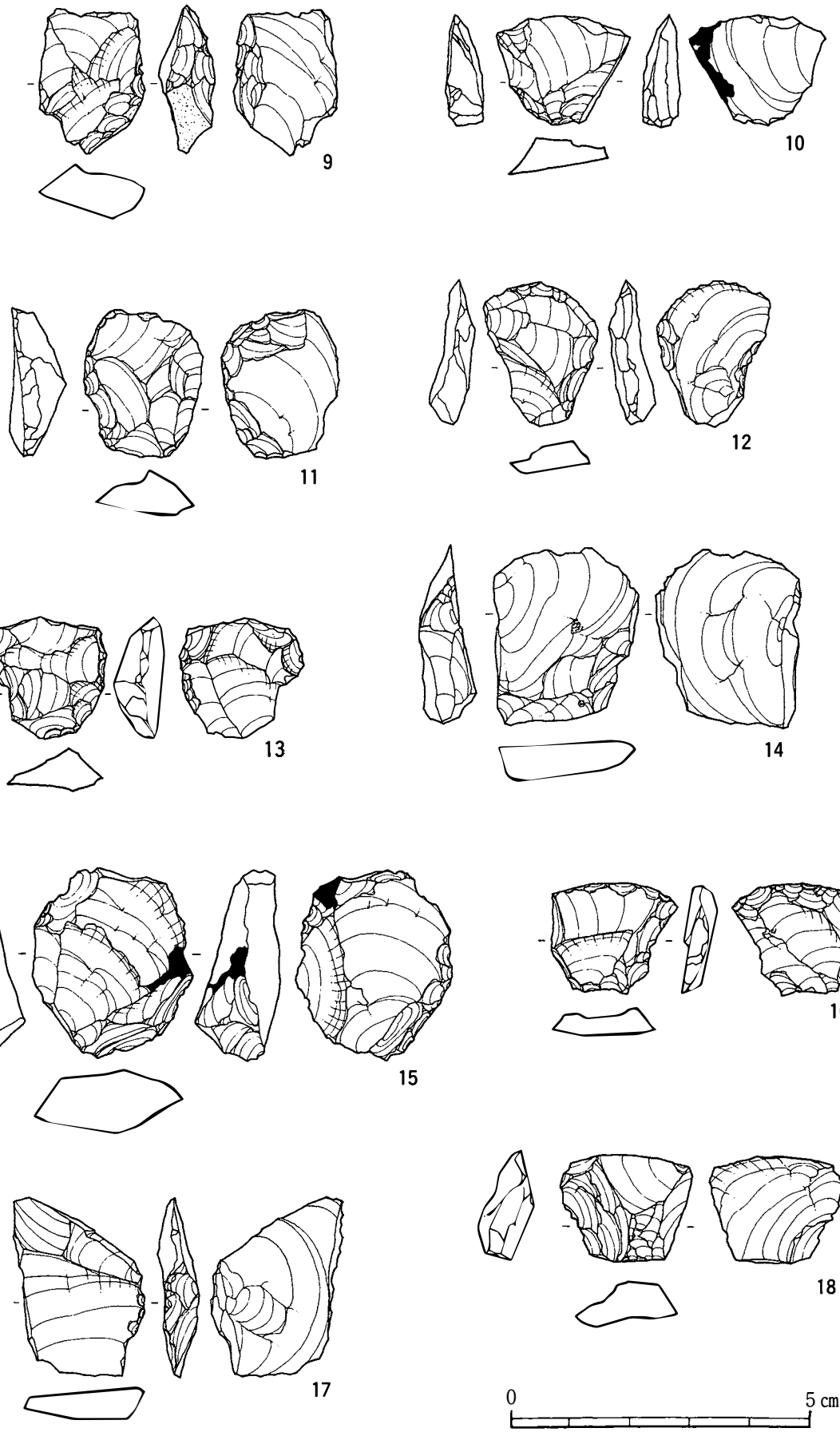
（３）　削器（第21図27，28、第22図33，35）

削器に分類できるものは、４点検出された。その石材は、第21図27，28、第22図33が硬質頁岩であり第22図35が黒耀石Ｂ類である。27，28は、厚みのある幅広剥片を素材とし、端部に急斜度の調整加工を施して刃部を作り出している。この両者は、同一母岩から剥離されている。

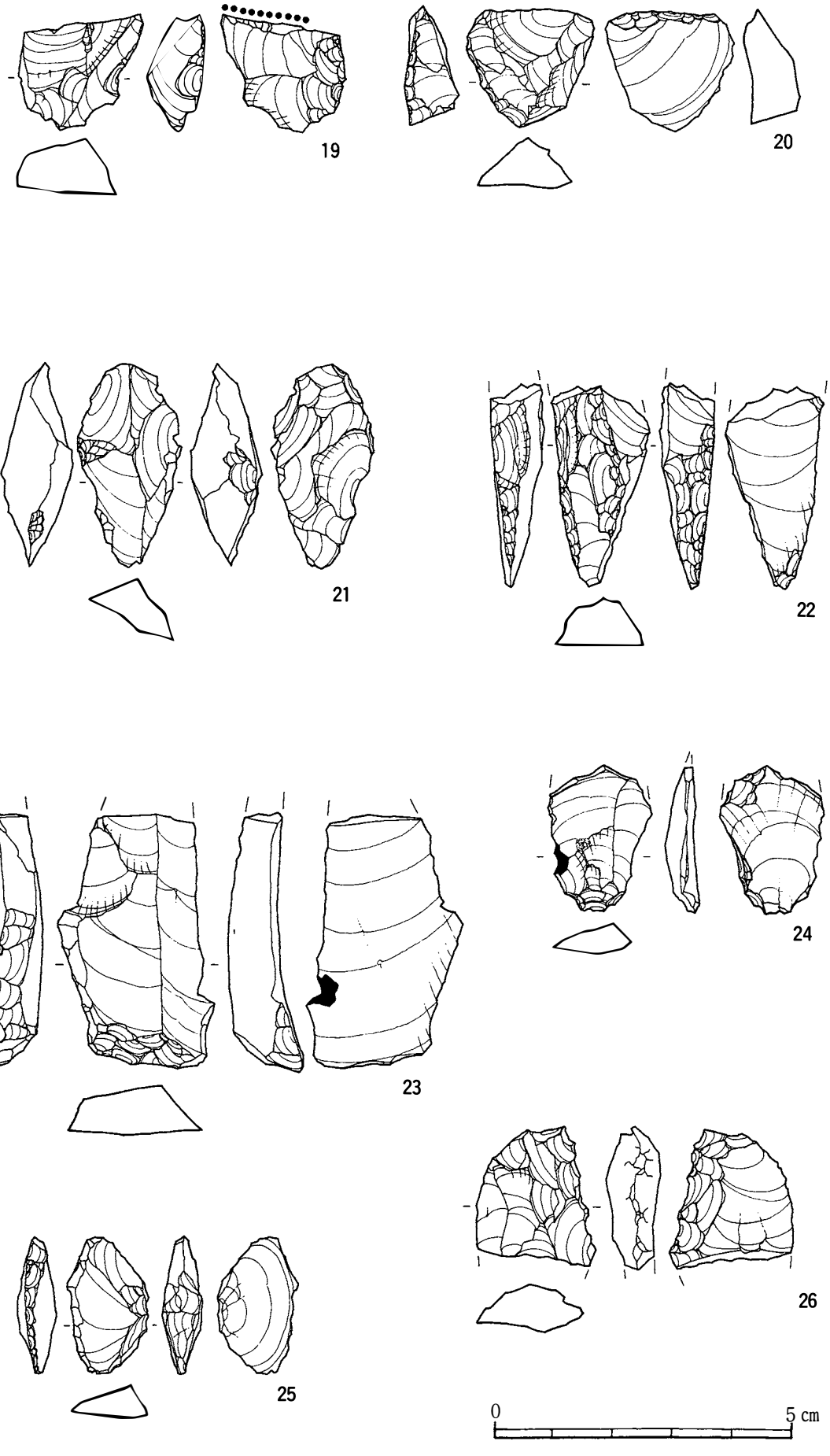
第22図33は、幅広剥片を素材とし調整加工は端部左側に認められる。また、この石器は裏面側打点部から端部にかけて折れ、左右に分割されている。折れ面が打点部から端部へ垂直に抜けていることと折れ面の観



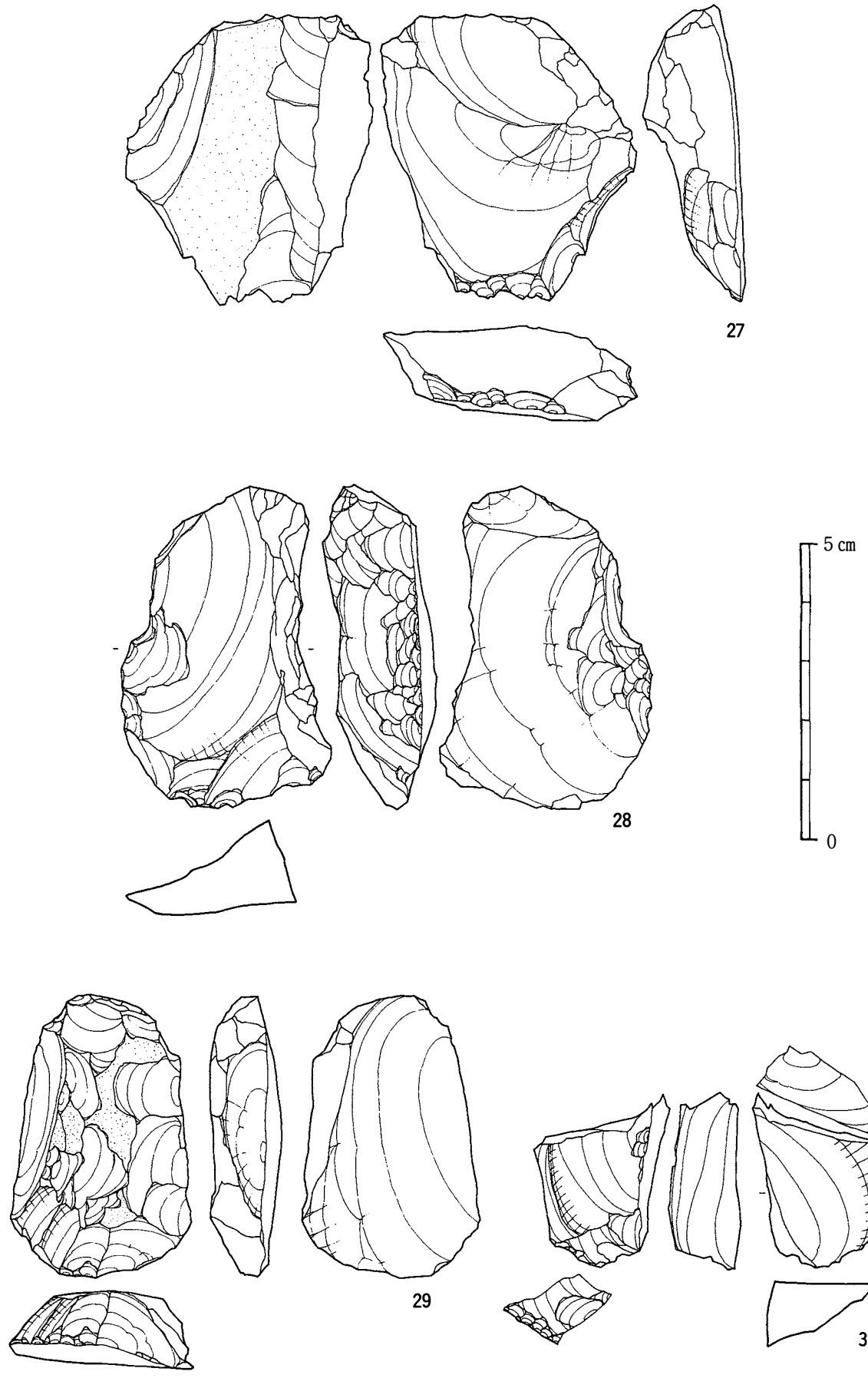
第18図　遺物実測図



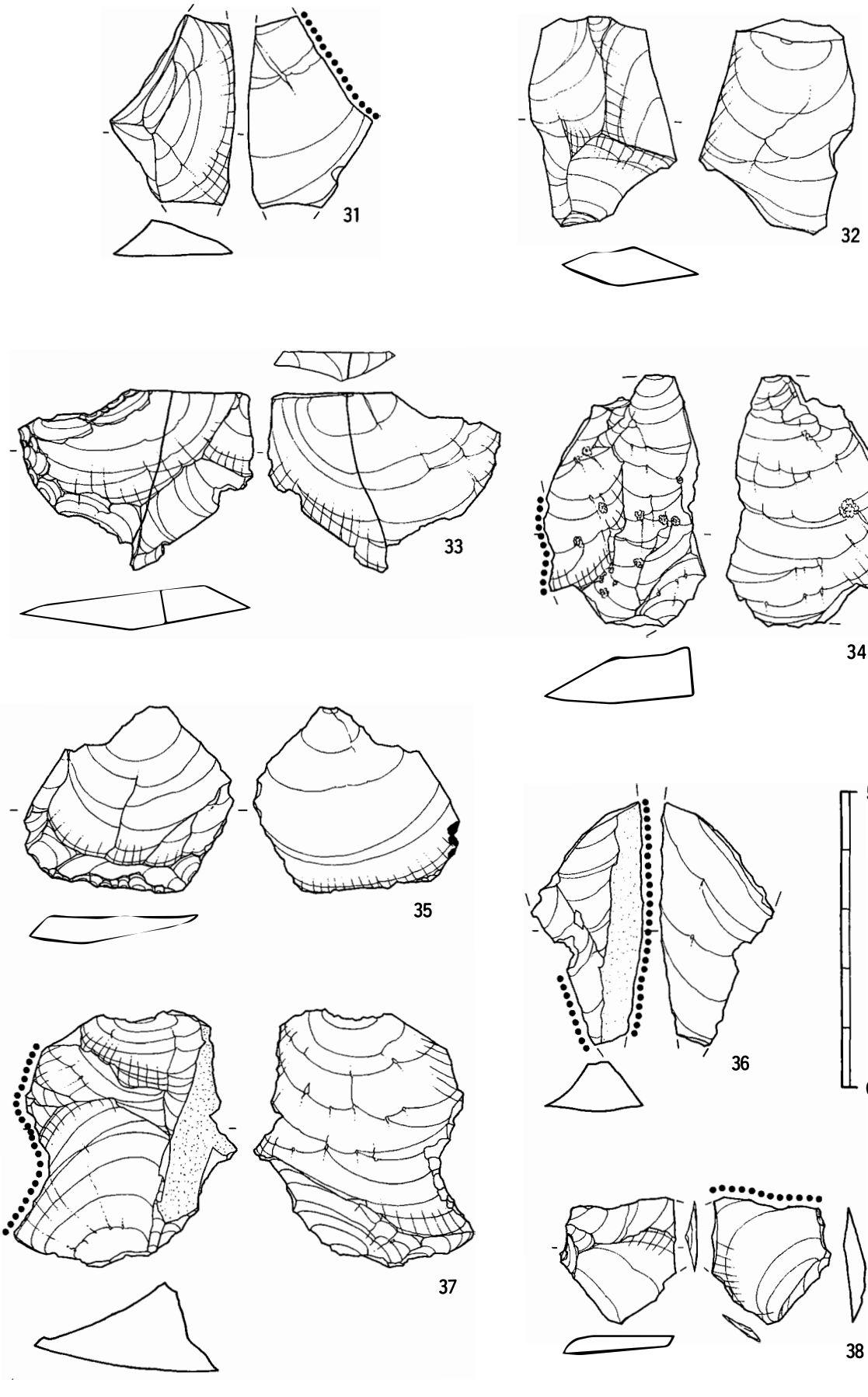
第19図　遺物実測図



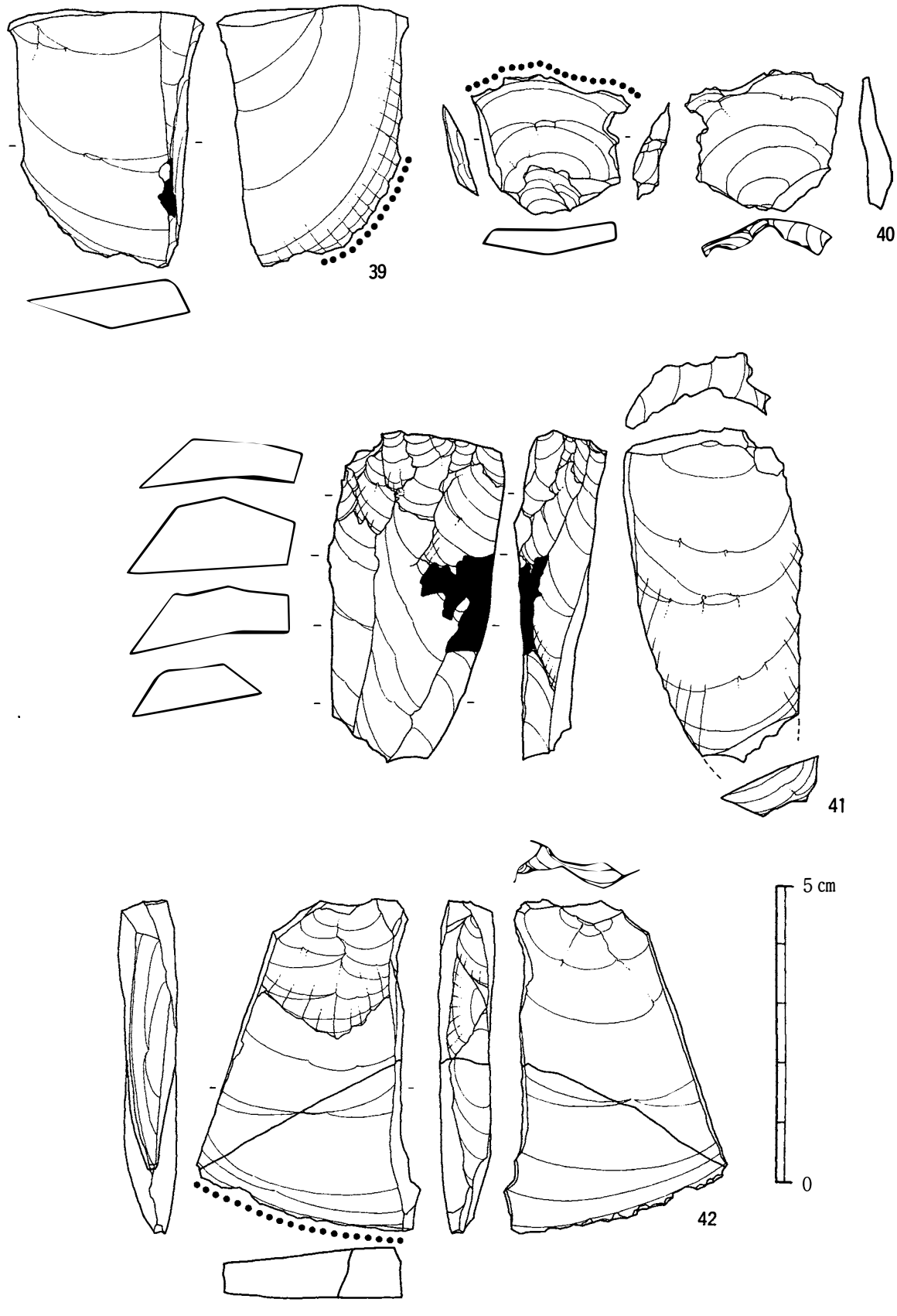
第20図　遺物実測図



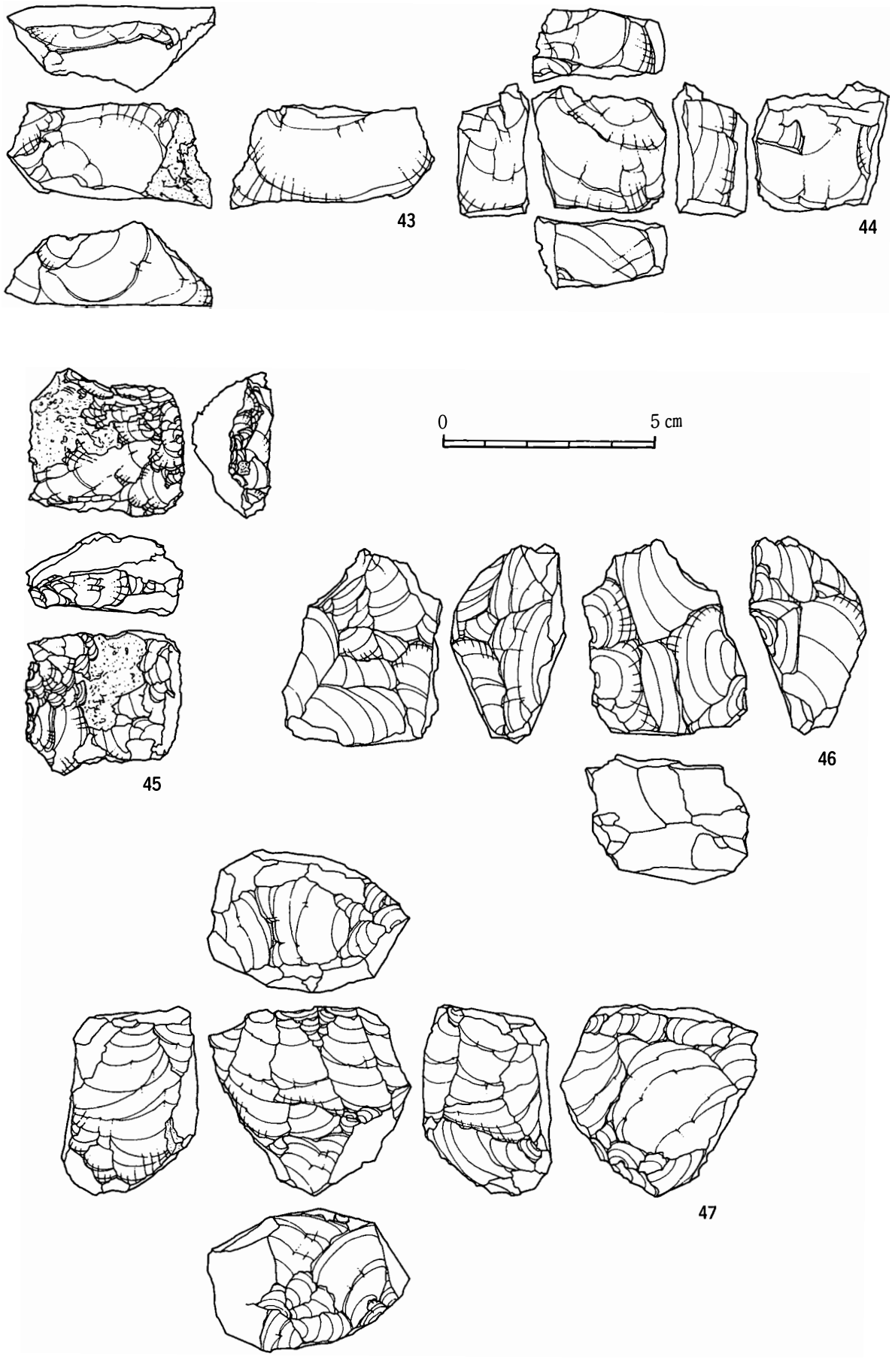
第21図　遺物実測図



第22図　遺物実測図



第23図　遺物実測図



第24図　遺物実測図

察から、剥片剥離段階での折れである。このことから、剥片剥離段階で折れた剥片の左側の端部に加工を加えて作り上げられた石器である。第22図35は、幅広剥片の端部表面側に調整加工を施している。これらの石器は、幅広剥片が選択的に利用され、刃部の設定が素材剥片の端部になされているという共通点が認められる。

（４）　楔形石器（第31図個体６a）

楔形石器は、対向する両側に小剥離痕あるいは微細剥離が連続的に認められるものである。第Ⅰ石器文化層では、第31図個体６aの１点が検出された。石材は、硬質頁岩である。個体６bと接合する。剥離面構成は、短軸方向に両側から認められる。また、長軸の上部に２枚の小剥離痕がみられ、対向する一辺にも微細な剥離痕が観察される。

（５）　二次加工ある不定形石器（第20図24，26、第21図29，30）

二次加工が認められる石器で、定型的な石器としての分類ができなかったものを一括して取り扱った。

第Ⅰ石器文化に属する二次加工ある石器は、16点検出された。４点を図示した。26，30は、一部欠失しているため石器の全体形は不明である。26は、幅広剥片を素材とし右側縁の表裏面に調整加工を施す。29は、厚みのある横長剥片を素材とし、左右両側には大まかな剥離によって面が構成されている。石器上端部には細かな剥離痕が認められ、対向する下端縁左側には階段状剥離が観察される。また、表面中央部にはわずかに礫面が残る。研磨痕は認められない。30は、厚みのある幅広剥片を素材とし、表面下端部に細かな加工が施されている。

（６）　使用痕ある剥片（第22図31，34，36～38、第23図39，40，42）

加工の認められない剥片の一部に、使用痕による刃こぼれ状の微細な剥離面が連続的に認められるものを使用痕ある剥片として分類した。総数は、14点である。うち８点を図示した。

これらの資料は、剥片の先端部に使用痕が観察されるものと、側縁部に観察されるものとに分類できる。

第22図38、第23図40は、幅広剥片を素材とし先端部に使用痕が観察される。また、38は先端部の一部に折れが観察され、40は剥片の両側に折れ面が認められる。両者とも形態的には台形状を呈している。42は、左右両側に折れ面が認められる。側縁部に使用痕が観察されるものは、第22図34，36，37の３点であり、素材は厚みのある縦長剥片を利用している。

このような石器は、剥片をそのまま利用するため素材剥片の形状がそのまま石器の形態を左右することになる。従って選択された剥片の形状と使用された部位は、その石器の使用・用途と直接結びついている可能性も指摘できる。しかし、当該遺跡では肉眼観察によって認定しており、脂肪酸等の分析を実施していないため不明である。

（７）　石核（第24図43～47）

第Ⅰ石器文化に所属する石核は、11点検出された。うち５点を図示した。43は、厚みのある剥片を素材とする石核であり、稜状から交互に大型の幅広剥片を剥離しているチョッピングトゥール状の石核である。44は、打面と作業面を頻繁に転移しながらを剥離している賽子状の石核である。剥離された剥片の形状は幅広である。45は、黒耀石Ｃ類の原礫を素材とし長軸の両端から剥離を行っている。表裏両面に礫面を大きく残し、剥離された剥片の形状は、幅広である。46は、表裏面とも石核の周縁から中央に向けて求心的に剥離を行い、幅広の剥片を剥離している。石材は硬質頁岩で、剥離された剥片２点が接合する（第29図個体３）。47は、打面と作業面を頻繁に転移しながら剥離している賽子状の石核である。剥離される剥片は不整形の縦長あるいは幅広である。

第５表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
18－1	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	3.27	2.16	0.88	4.55		2682
18－2	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	4.38	2.47	0.57	6.67		3309
18－3	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.13	2.11	0.51	4.79		3081
18－4	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.52	1.65	0.49	2.64		2964
18－5	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	3.36	1.92	0.42	3.34		3396
18－6	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.68	2.50	0.80	5.37		2904
18－7	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.82	2.29	0.52	3.03		3303
18－8	台形様石器	Ⅵb	安山岩	1.89	2.28	0.71	2.17		2121
19－9	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.37	1.62	0.57	2.55		3239
19－10	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	1.11	1.88	0.39	1.71		3576
19－11	台形様石器	Ⅶ	黒耀石B	2.40	1.95	0.88	3.43		4337
19－12	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.30	1.80	0.42	1.75		3421
19－13	台形様石器	Ⅶ	黒耀石B	2.00	2.01	0.70	2.04		4327
19－14	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	3.00	2.41	0.69	5.11		4024
19－15	台形様石器	Ⅶ	黒耀石B	3.12	2.68	0.82	10.05		2317
19－16	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.50	2.01	0.82	2.97		3356
19－17	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.82	2.19	0.39	3.45		2817
19－18	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	1.75	2.18	0.56	1.92		4213
20－19	台形様石器	Ⅵ	黒耀石A	1.90	2.10	0.90	2.60		4019
20－20	台形様石器	Ⅵa	黒耀石B	2.10	2.02	0.81	2.54		3000
20－21	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	3.29	1.78	1.00	3.95		3471
20－22	ナイフ形石器	Ⅵb	安山岩	3.30+α	1.50	0.80	3.90		3220
20－23	ナイフ形石器	Ⅵb	黒耀石B	4.26	2.57	0.89	9.86		3565
20－24	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	黒耀石B	2.40	1.76	0.42	1.77		3439
20－25	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.29	1.39	0.39	1.43		3222
20－26	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	黒耀石B	2.29	1.02	0.77	3.47		4229
21－27	スクレイパー	Ⅵb	硬質頁岩	5.54	3.82	1.53	28.61	個体2	2244
21－28	スクレイパー	Ⅶ	硬質頁岩	4.28	5.08	0.81	31.69	個体2	4075
21－29	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	硬質頁岩	4.83	3.10	1.12	21.68		4280
21－30	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	黒耀石B	2.84	2.35	1.11	5.83		2908
22－31	使用痕ある剥片	Ⅵb	硬質頁岩	2.32	3.08	0.39	2.75		2603
22－32	剥片	Ⅵb	流紋岩	3.52	2.58	0.62	5.53		3522
22－33	スクレイパー	Ⅶ	硬質頁岩	2.95	3.92	0.63	7.20	個体9	4196･4210
22－34	使用痕ある剥片	Ⅶ	黒耀石C	4.24	2.87	0.88	10.42		4087
22－35	スクレイパー	Ⅶ	黒耀石B	3.10	3.51	0.52	4.90		4203
22－36	使用痕ある剥片	Ⅶ	黒耀石B	4.08	2.07	0.69	4.01		4023
22－37	使用痕ある剥片	Ⅶ	黒耀石C	4.21	3.91	1.57	17.94		3707
22－38	使用痕ある剥片	Ⅵb	黒耀石B	2.12	2.01	0.30	1.26		2217
23－39	使用痕ある剥片	Ⅵb	黒耀石B	4.27	3.30	0.69	11.60		3240
23－40	使用痕ある剥片	Ⅵb	黒耀石B	2.35	2.70	0.40	2.91		2220
23－41	剥片	Ⅵb	黒耀石B	4.02	5.32	1.08	20.53		2236
23－42	使用痕ある剥片	Ⅵb	黒耀石B	5.60	3.32	8.50	20.10	個体8	2960･2961
24－43	石核	Ⅵb	黒耀石B	2.12	4.80	2.16	18.77		4298
24－44	石核	Ⅵb	黒耀石B	2.98	3.11	1.51	18.58		2811
24－45	石核	Ⅵb	黒耀石C	3.86	3.71	0.80	21.43		4369
24－46	石核	Ⅶ	硬質頁岩	3.67	4.72	2.40	48.72	個体3	4295
24－47	石核	Ⅵb	黒耀石B	4.29	4.58	3.68	76.46		3051

4　接合資料（第26図～第32図）

第Ⅰ石器文化に属する接合資料は、16例確認された。その石材は、硬質頁岩６例（個体１～４，６，９）、黒耀石Ｂ類４例（個体５，８，10，15)、黒耀石Ｃ類１例（個体７)、安山岩３例（個体12～14)、チャート１例（個体11)、砂岩１例（個体16）である。これらの大半が、剥片と剥片の接合であり、中には同一の剥片の折れ面での接合例も認められる。これらのうち個体１～10の10例について図示した。

以下、接合資料ごとに説明を行う。

個体１（第26，27図）

個体１は１ａ～１ｅの５点の剥片が接合し、うち１ｃは２点が折れ面で接合する資料である。それぞれの剥片の裏面に観察される打点の位置と接合関係から、剥離工程を復元するとＡ～Ｅの順序で剥離が進行したことが理解される。また、個体１ａ，ｃ～ｅの表面に比較的平坦な礫面が残る。このことから母岩の形状は、円礫もしくは亜角礫であると考えられる。１ａの表裏面の剥離面の関係は90°であることから、１ａを剥離する以前の作業は、Ａ図上面において行われていたことになる。その後打面及び作業面を90°転移し、１ａ～ｅの剥離を行っている。１ａ～ｅは、接合関係の観察から打面と作業面を交互に入れ替え、作業の進行とともに打面及び作業面が上位から下位へ稜上を移動する。このような剥離工程によって残される残核の形態は、周縁からの求心的な剥離面が表裏両面に観察されるものと考えられる。

個体２（第28図）

個体２は、２ａ～２ｃの３点が接合し、うち２ｂ，２ｃの２点は削器に利用されている。それぞれの剥片の裏面に観察される打点の位置と接合関係から、剥離工程を復元するとＡ→Ｂ→Ｃ→（□）→Ｄの順序で剥離が進行したことが理解される。母岩の形状は、２ａ，２ｂの表面に観察される礫面の状態から、個体１と同様に円礫もしくは亜角礫であると考えられる。２ａ＋２ｂの表面に上下方向の剥離面が観察される。２ａの打面は礫面であるが、２ｂの打面となった剥離面と同一の剥離面が観察される。このことから、２ａを剥離する前に２ｂの打面となる剥離面が剥離され、その後２ａが剥離される。その後、２ｃの表面の観察から打面を90°転移し剥離した後、180°転移し２ｃを剥離している。

個体３（第29図）

個体３は、石核（３ｃ）１点と３ａ，３ｂの２点の剥片が接合している。３ｂは、３ｃの中央の稜近くで接合している。３ａは、３ｂの表面下部に残された剥離面に接合する。つまり、２点の剥片の剥離と石核（３ｃ）に残された剥離面との観察から、３ａを剥離した後さらに１点剥離し、その後３ｂを剥離している。これらの剥片を剥離した後も剥片剥離は進行していることが窺える。最終的に残された石核（３ｃ）の観察から、表裏両面とも周縁を巡るように打点を転移し幅広剥片を剥離していることが理解される。

個体４（第30図）

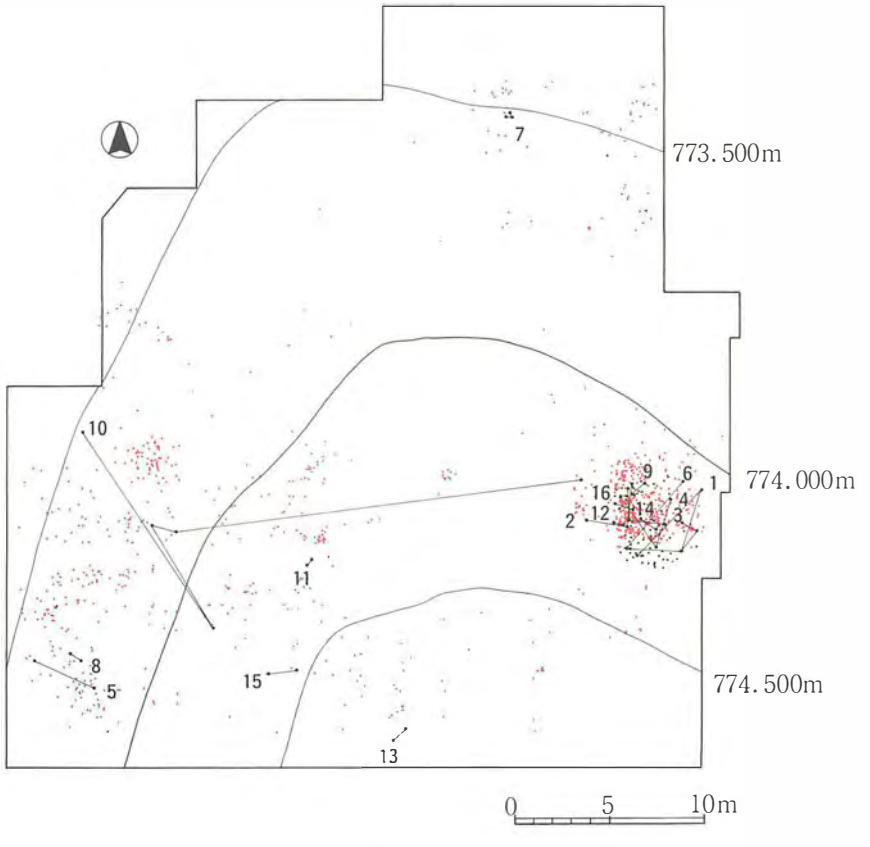
個体４は、４ａ～４ｃの３点の剥片が接合している。これらの剥片の打面は、すべて複剥離面である。３点の剥片は、その接合関係から４ａ→４ｂ→４ｃの順に剥離されている。これらの剥片剥離はほぼ同一方向であり、それぞれの打点はジグザグに移動していることが理解される。４ａ，４ｂ，４ｃの表面には、裏面の剥離方向と異なる剥離面が観察され、同一面からのみ打点を後退させて連続的に剥離していたものではなく、個体３と同様に周縁を巡るように剥離を行ったものと考えられ、３ｃのような石核を想定することが可能であろうか。

個体５～９（第31図）

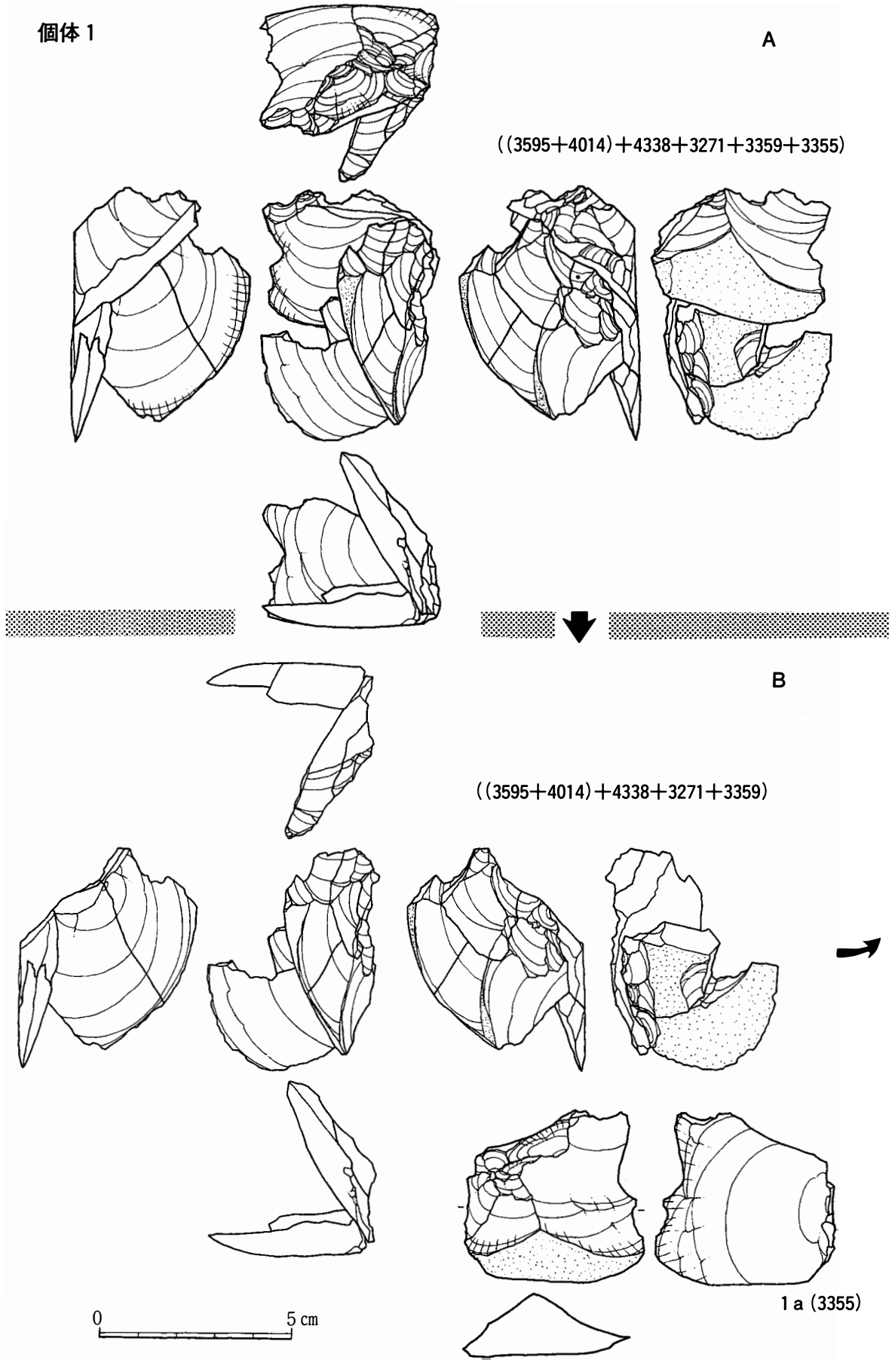
個体５は、厚みのある剥片の裏面に砕片が接合している資料である。個体６は、ａとｂの２点の接合例である。ｂが剥離された剥離面をａの表面上部の剥離面が切っている。また、ａの表裏面に長軸及び短軸方向に対向する小剥離痕が観察される。このことから、個体６は、楔形石器として利用され、短軸方向での使用の際ｂが剥落した可能性も考えられる。個体７～９の３点は剥片の折れ面による接合である。個体７は、表面に礫面を残す縦長剥片である。３点に分割されており、打点部側（ｂ）と先端部側（ｃ）及びｂの表面稜上に砕片（ａ）が接合している。稜上に接合したａの剥離方向は、剥片（ｂ＋ｃ）の剥離方向と対向する関係にあり、ｃの表面折れ面近くにａと逆方向に小剥離痕が観察されることから、（ｂ＋ｃ）の剥片を剥離する際に折れａ，ｂ，ｃに分割されたものと考えられる。個体８は、剥片の打点部側と先端部側が折れ面で接合した資料である。左右両側には、折れ面が観察される。個体９は、幅広剥片の左右が折れ面で接合した資料である。折れ面の中央に打点部が位置し、折れの方向と剥離の方向が同一である。このことから剥離段階の折れであると考えられる。また、折れた後剥片左側は、調整加工を施し削器あるいは二次加工ある不定形石器として利用されている。

個体10（第32図）

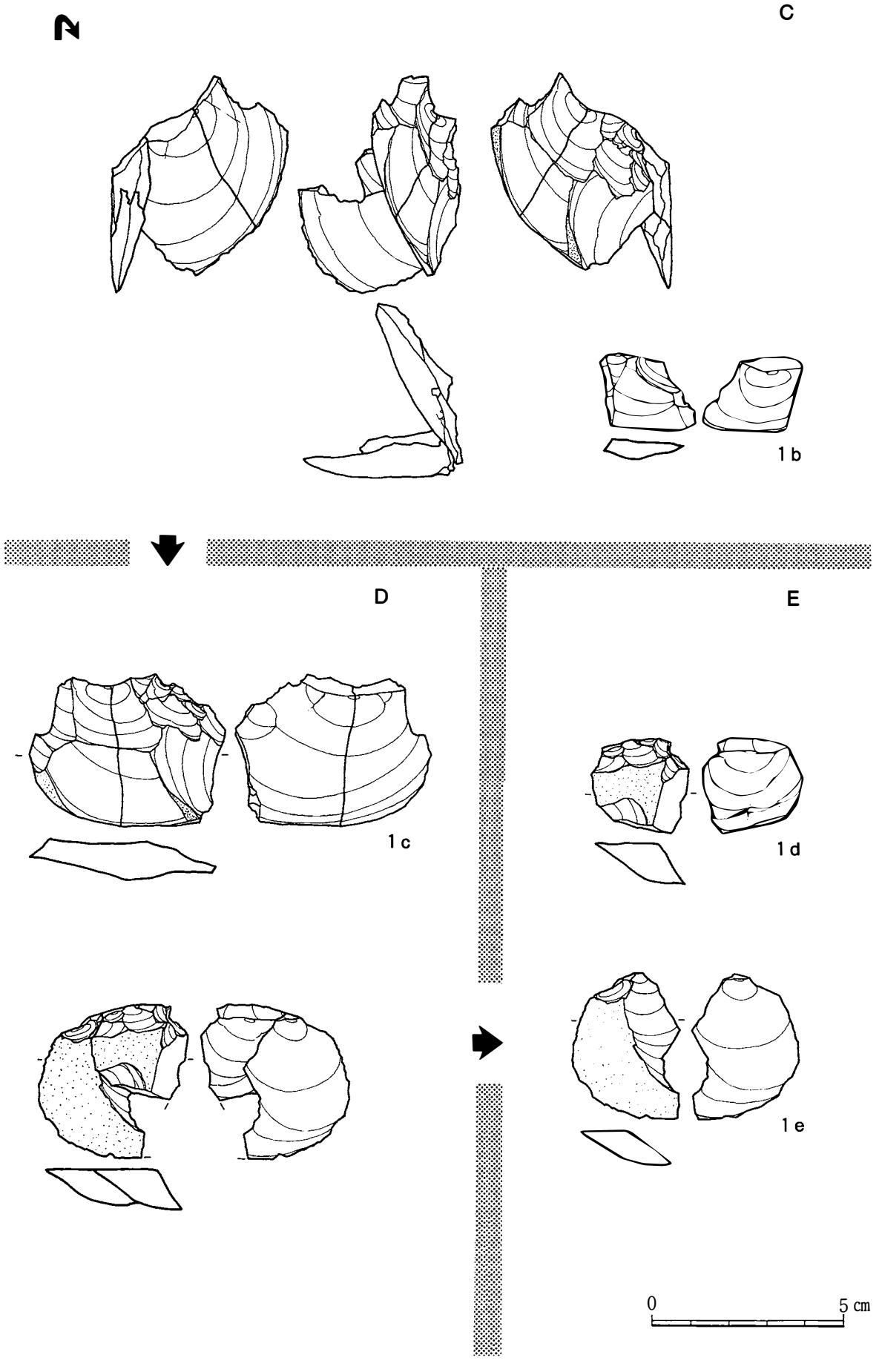
個体10は、３点の剥片が接合した資料である。（ｃ＋ｄ），ｅの表面に平坦な礫面が残されており、母岩の形状は亜角礫であると考えられる。それぞれの剥片の剥離は、（ａ＋ｂ）→（ｃ＋ｄ）→ｅの順序で剥離が進行したことが理解される。その剥離面の方向は同一である。



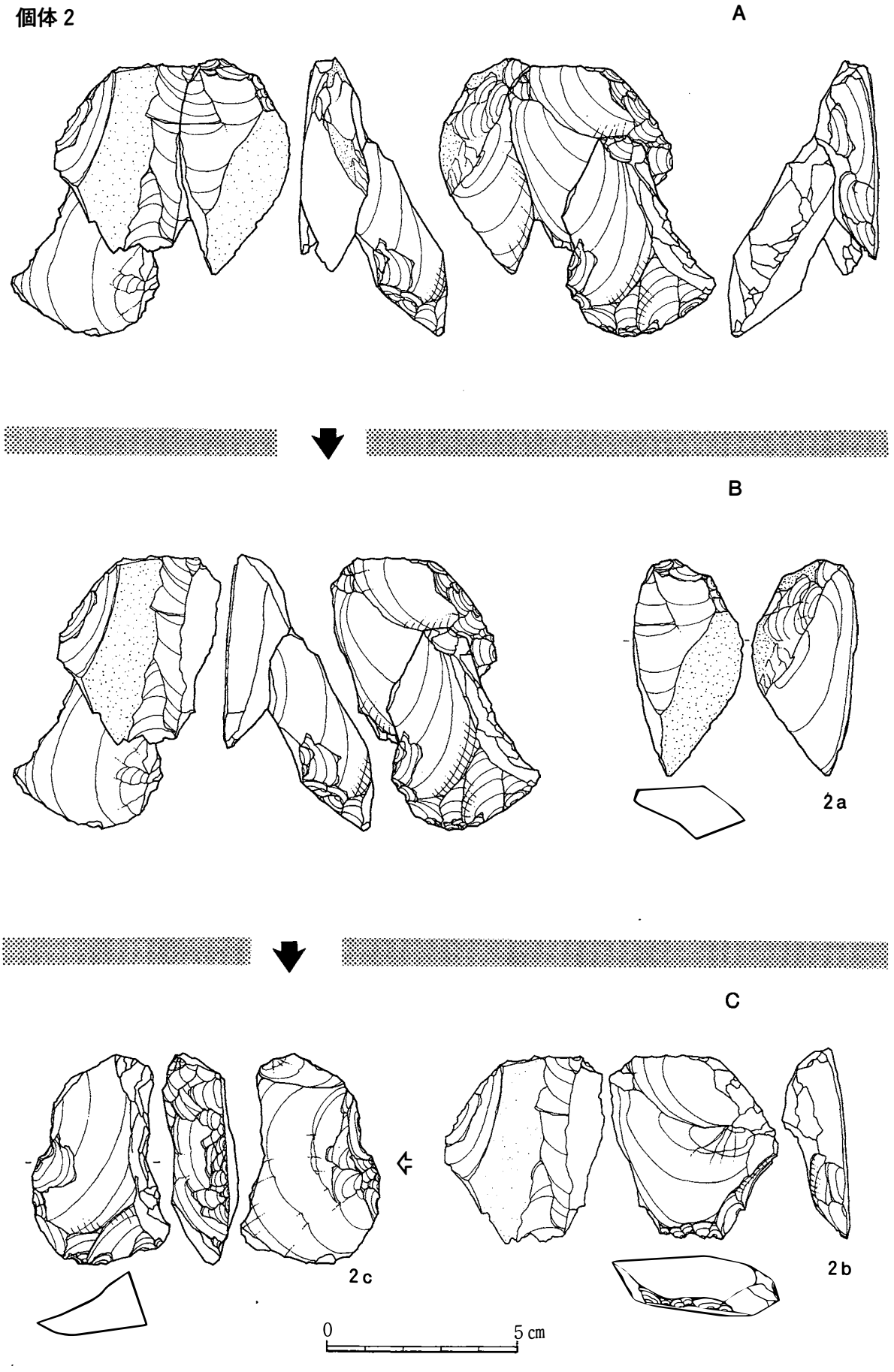
第25図　接合関係図


個体１
A
((3595＋4014)＋4338＋3271＋3359＋3355)
B
((3595＋4014)＋4338＋3271＋3359)
1a (3355)
0
5 cm

第26図　接合図

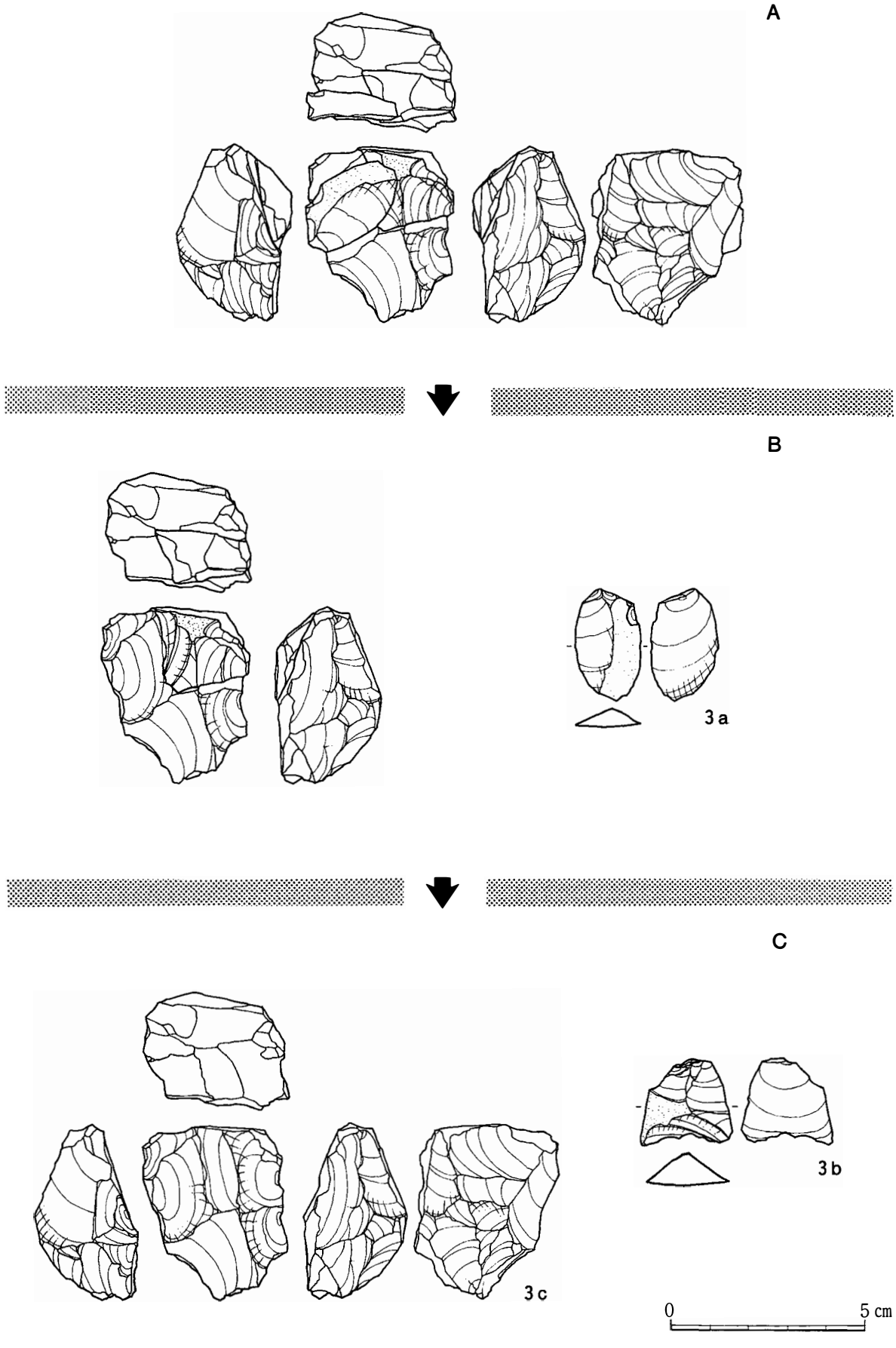


第27図　接合図

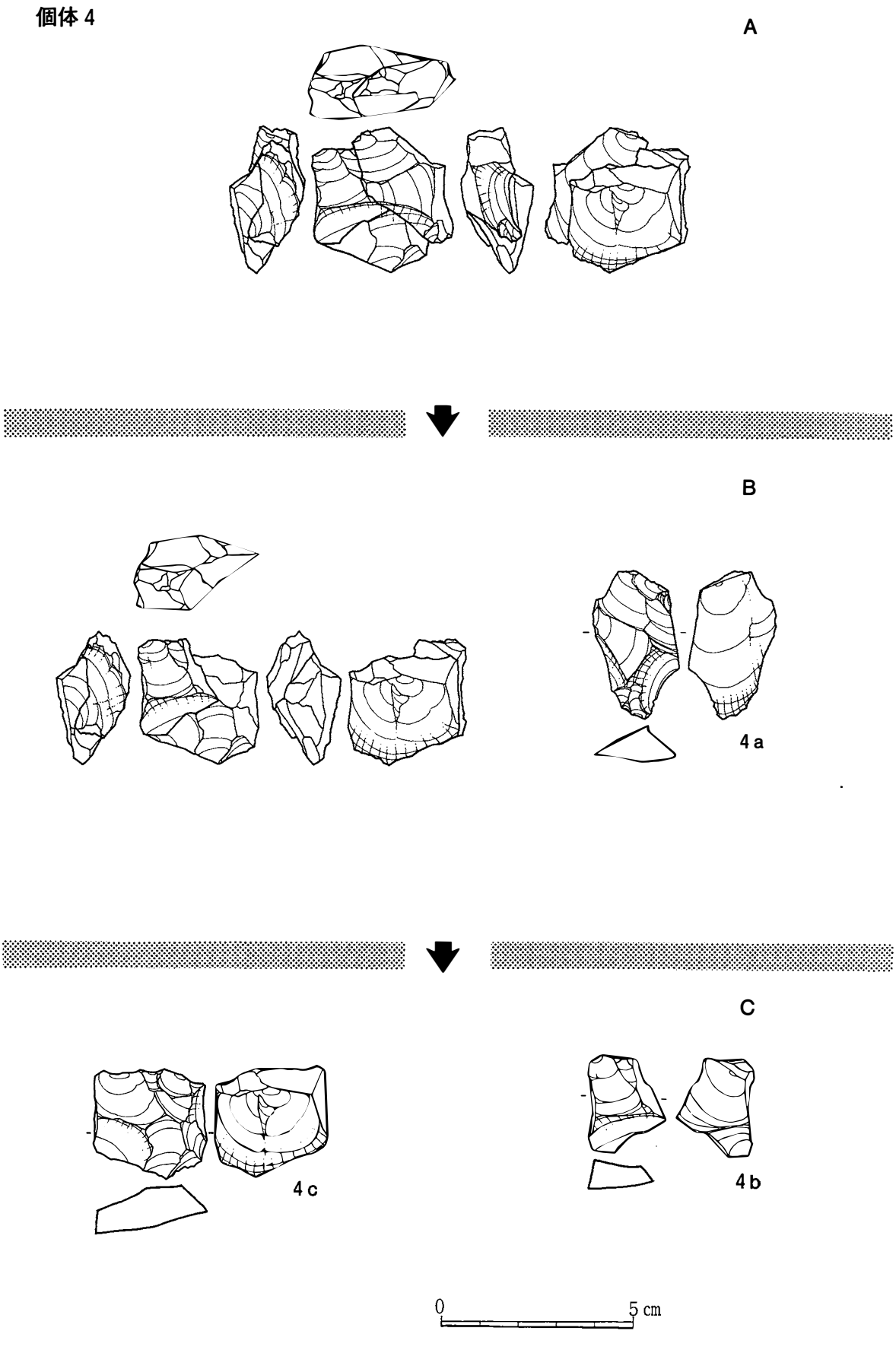


第28図　接合図

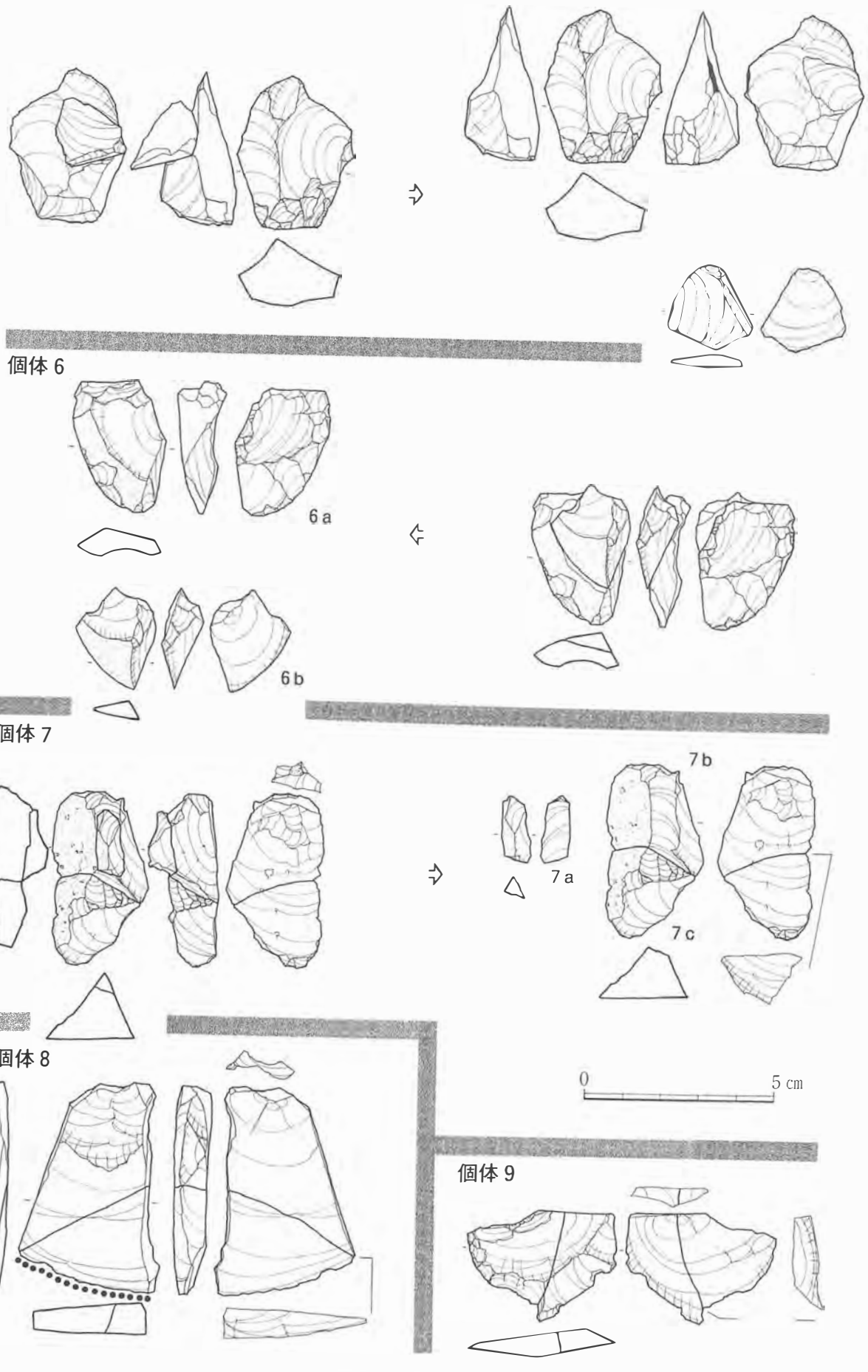
個体３



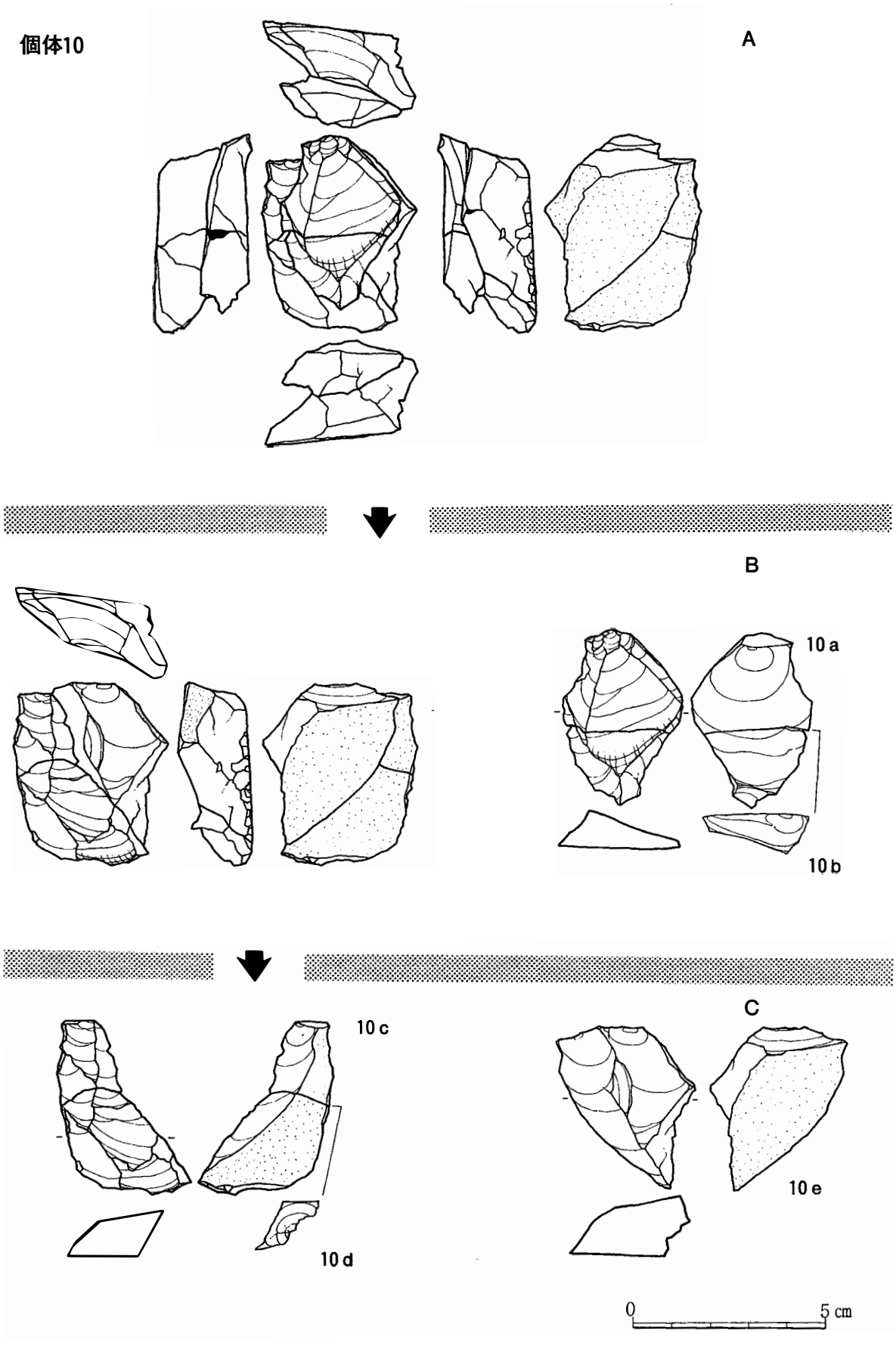
第29図　接合図



第30図　接合図



第31図　接合図



第32図　接合図

第６表　ブロック別石器組成表

ブロック	ナイフ形	台形様	削器	楔形	二次加工	使用痕	石核	剥片	砕片	計
1										
2								3	3	6
3						2	1	8	2	13
4								4	6	10
5								5	7	12
6		1				2		11	5	19
7						1		6	6	13
8		1			1		1	24	28	55
9	2					1		9	3	15
10		1						9	14	24
11		3						22	44	69
12		1						17	4	22
13								3	5	8
14								3	3	6
15		6			1	2	1	24	29	63
16		4			1		1	33	25	64
17		1						9	16	26
18		1				1		13	2	17
19		1						2	1	4
20		1			1		1	7	5	15
21								11	8	19
22		1						5	7	13
計	2	22			4	9	5	228	223	493

第７表　ブロック別石材組成表

ブロック	黒耀石Ａ	黒耀石Ｂ	黒耀石Ｃ	安山岩	メノウ	硬質頁岩	石英	砂岩	片岩	流紋岩	チャート	計
1	11	196	22	44	1	126		8	7		1	416
2			4	2								6
3		1	3	5	2		1			1		13
4			9	1								10
5	1	1	6	3						1		12
6		14	2	2							1	19
7		7	1			1				4		13
8		45		4	1	2				2	1	55
9		10	1	2	1		1					15
10		15	3	1		4			1			24
11		65	2	2								69
12		18		3			1					22
13		5	2		1							8
14		3	1	2								6
15		56	4	1		1				1		63
16		46	7	8		1	1				1	64
17		12	9	4		1						26
18		15	1	1								17
19		1	3									4
20		10	5									15
21		12	3	1		2	1					19
22		3		9		1						13
計	12	535	88	95	6	139	5	8	8	9	4	909

5　本文化層の位置づけ

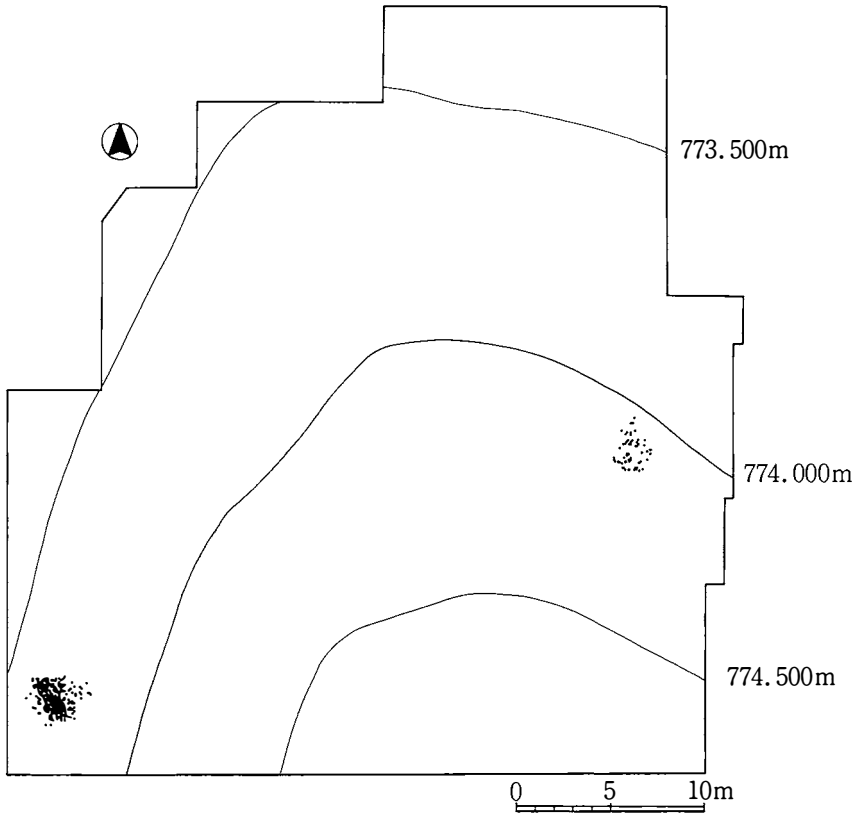
第Ⅰ石器文化層は、Ⅵｂ～Ⅶ層にかけて検出された。姶良Ｔｎ火山灰がⅤ層に包含されているため、同火山灰降灰以前の石器文化であることが理解される。同石器文化に属する石器群は、幅広剥片を横位に用い両側に平坦調整もしくは急斜度調整を施し、概ね台形状に作り出された台形様石器を主体とする。

台形様石器の形態は、素材として獲得され選択的に利用された剥片の形状を大きく修正するものではない。そのため、素材となった剥片の形状による形態的規制が強く、バリエイションが認められる石器である。

また、素材剥片を横位に用いるため、調整加工は剥片の打面部及び先端部に施され、剥片の側縁部を刃部として設定しており、使用痕と考えられる微細な刃こぼれが観察されるものも存在する。これらの石器に施される調整加工の頻度は、石器個々によって差違が認められる。さらに、素材剥片の一部を意識的に折り取ることで台形状に作り出そうとするものは、調整加工を施したいわゆる「台形様石器」として分類したものの中には認められなかった。しかし、折れ面を有し形状的には台形状を呈する使用痕が認められる剥片があり、その種の石器の大きさは台形様石器と類似する。このことは、わずかに調整加工を施して台形状に作り出した台形様石器との関連性を示唆するものと考えられる。

また、このような石器群のなかに第20図21のように、横長剥片を素材とし表面に大まかな剥離を施し、裏面側に平坦剥離を施すものも存在する。形態的にはペン先形ナイフ形石器に類似する。

この第Ⅰ石器文化の石器群は、台形様石器を主体とし、削器・楔形石器・二次加工ある不定形石器・使用痕ある剥片とわずかにナイフ形石器を組成する。このような石器組成を示し、類似する台形様石器を主体的にもつ石器群としては、熊本県曲野遺跡Ⅵ層があげられる。従って耳切遺跡Ａ地点第Ⅰ石器文化は、曲野遺跡Ⅵ層とほぼ同様の時間的位置づけが可能であると考えられる。



第33図　炭化物分布図

第８表　個体観察表

個体No.	石材	ナイフ	削器	楔形	二次加工	使用痕	剥・砕片	剥・砕片(折れ)	石核	備考
1	硬質頁岩						6			3595＋4014＋338＋3271＋3359＋3355
2	硬質頁岩		2				1			4208＋4075＋2244
3	硬質頁岩						2		1	4295＋4339＋4182
4	硬質頁岩						3			3602＋3262＋3334
5	黒耀石Ｂ						2			2707＋2914
6	硬質頁岩			1			1			4117＋3278
7	黒耀石Ｂ						3			2809＋2810＋2812
8	硬質頁岩						2			2961＋2960
9	硬質頁岩		1				1			4196＋4210
10	黒耀石Ｂ						5			(4025＋3075)＋(3196＋3145)＋3786
11	チャート						1	1		3229＋3429
12	安山岩						1		1	2247＋4077
13	安山岩							1	1	3253＋3250
14	安山岩							2		3095＋4281
15	黒耀石Ｂ							2		2666＋3237
16	砂岩						2			2254＋3096

第３節　第Ⅱ石器文化層

１　文化層の概要

第Ⅱ石器文化層は、Ⅴ～Ⅵａ層に出土層順をもつ石器群であり、そのピークは、Ⅵａ層上位面に求められる。このことから、生活面はⅤ層とⅥａ層の層理面あるいはⅥａ層中位面に設定することが可能であろう。

遺物は、Ａ地点のほぼ全域に分布するが、北に延びる尾根の東西にやや偏在する傾向が窺え、中央の平坦面で希薄な地域が存在する。このことは、大まかには第Ⅰ石器文化の在り方と類似するが、確認された個々の石器ブロックは、下位石器文化とはずれが認められる。石器群は、１～24のブロックに区分できる（第34図Ａ，Ｂ）。石器群は、礫群を伴わず総数530点が検出された。その組成は、ナイフ形石器・台形様石器・削器・二次加工ある不定形石器・使用痕ある剥片及び石核・剥片・砕片である。

また、Ｇ－２，Ｈ－５グリッドから炭化物の集中部が検出されている。しかし、第Ⅰ石器文化と同様に検出された炭化物は微細であるため、年代測定の資料としては採集できなかった。

２　分布と石材

使用される石材のうち黒耀石の割合は高く全体の70.9％を占め、黒耀石類が70％強利用されている第Ⅰ石器文化と比較して、やや増加する傾向がみられ、相対的に非黒耀石類の利用頻度が減少する。また、黒耀石類は石質の特徴からＡ～Ｅ類に分類できる。黒耀石Ｂ，Ｃ類は、第Ⅲ章第２節２で述べたように、それぞれ表面が著しく風化した黒耀石と狭雑物を多量に含む小国産黒耀石である。黒耀石Ａ類は、黒色の良質の西北九州産黒耀石である。黒耀石Ｄ類は、狭雑物を含まない良質の黒耀石でパティナが発達し表面が艶消したように光沢を失ったものである。新しい割れ面からの観察で色調は、黒色～黒灰色を呈する。黒耀石Ｅ類は、灰白色～暗灰色を呈する黒耀石で、夾雑物は含まない。黒耀石Ｄ，Ｅ類は、数量は少なく両者とも１点を検出されたのみである。このように、主体的石材として利用されている黒耀石類は、下位石器文化と比較して黒耀石Ｂ類の利用頻度が減少し（52.6％）、逆に黒耀石Ｃ類の利用頻度が増加する（17.0％）。

3　出土石器

第Ⅱ石器文化層に属する石器は、総数530点検出された。その組成は、ナイフ形石器0.9%，台形様石器2.3%，削器0.9%，楔形石器0.2%，二次加工ある不定形石器2.6%，使用痕ある剥片3.8%である。これらのブロック別組成については、第10，11表に示した。

（1）ナイフ形石器（第41図1～3，5，6）

ナイフ形石器は、剥片を素材としその鋭利な一辺を刃部として設定し、その他の部分にブランティングを施した石器である。これらの石器の素材剥片には、様々な形態の剥片が利用される。しかし、同文化層において検出されたナイフ形石器は、概ね縦長剥片を素材としている。また、形態的にはナイフ形石器との類縁性を指摘することのできる石器（第42図8）もみられるが、ブランティングが認められないため区分した。

第41図1，2は、縦長剥片を素材とし左側縁と右側縁の基部側にブランティングを施す。形態的には切出型を呈する資料である。第41図3は、やや幅のある縦長剥片を素材とする柳葉形のナイフ形石器であると推定される。基部側を欠失している。第41図5は、幅広の剥片を素材とし一側縁に急斜度のブランティング様の調整剥離を施す。刃部は素材剥片の一辺の形状に規制され、直線的にならない。第41図6は、左右両側にブランティングを施している。このように概ね縦長剥片を素材として利用し、切出型を呈する共通点が指摘できる。

（2）台形様石器（第41図4，第42図7～10，第44図21～24）

台形様石器は、横長あるいは幅広の剥片を素材とし、素材剥片を横位に用い左右両側縁に調整加工を施し、概ね台形状に作り出した石器である。第41図4，第42図8のように形態的に台形状をなさず、ナイフ形石器との形態的類縁性が認められるものも存在する。しかし、両者ともブランティングは認められない。4は、裏面側に形状修正的に平坦剥離調整を施している。この他の石器は、概ね台形状を呈する資料で、形態的な大きさから大型のもの（第44図21～24）と中型のもの（第42図7，10),小型のもの（第42図9）に細分できる。小型の資料は、基部と左右両側縁にブランティングを施している。中型の2点は、一面にわずかな平坦剥離調整を施す。大型の4点は、表面あるいは裏面に大まかな剥離を施して作り出している資料で、形態的には台形状を呈する。刃部と想定できる一辺に使用痕が観察されるもの（第44図23，24）が存在するため、台形様石器として分類した。

（3）削器（第42図13，14，第43図15～17）

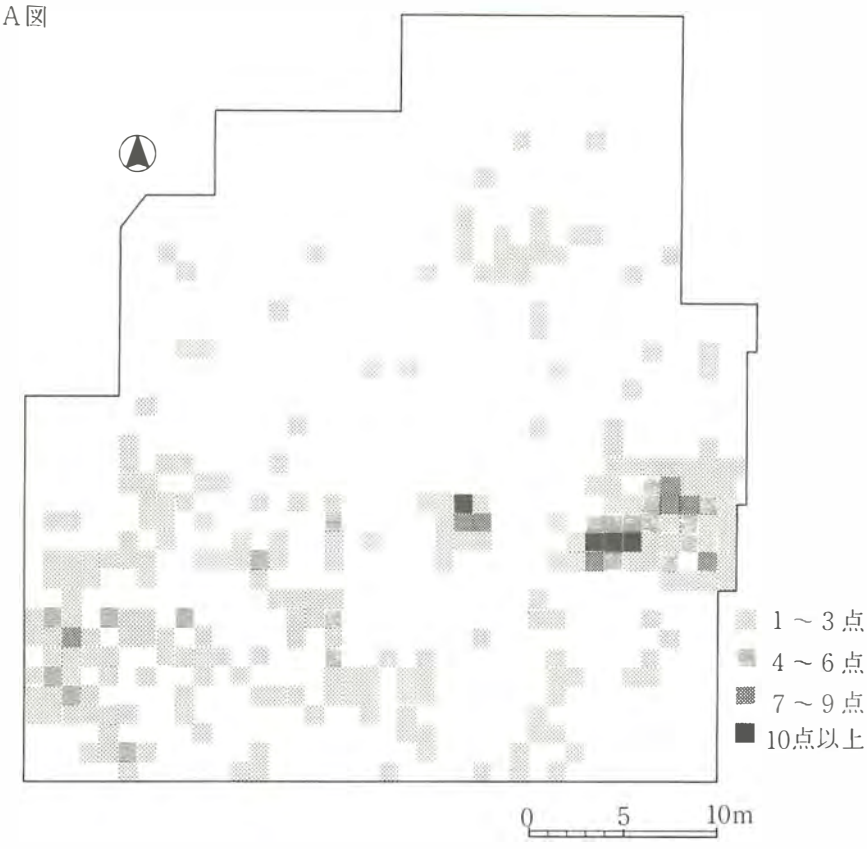
削器は、5点検出された。これらの石器は、刃部の作出が一側縁のもの（第42図13，14）と、左右両側縁のもの（第43図15～17）がみられる。第43図16は、両側縁に細かな調整剥離により刃部が作出され、それ以外は大まかな剥離によって刃部を作出している。そのため刃部は鋸歯縁状を呈する。また、第43図15は、裏面部打点側から先端部にかけ垂直に折れが存在し、左右に分割されている。折れ面の状況から剥離段階の折れであると考えられる。

（4）二次加工ある不定形石器（第42図11，12）

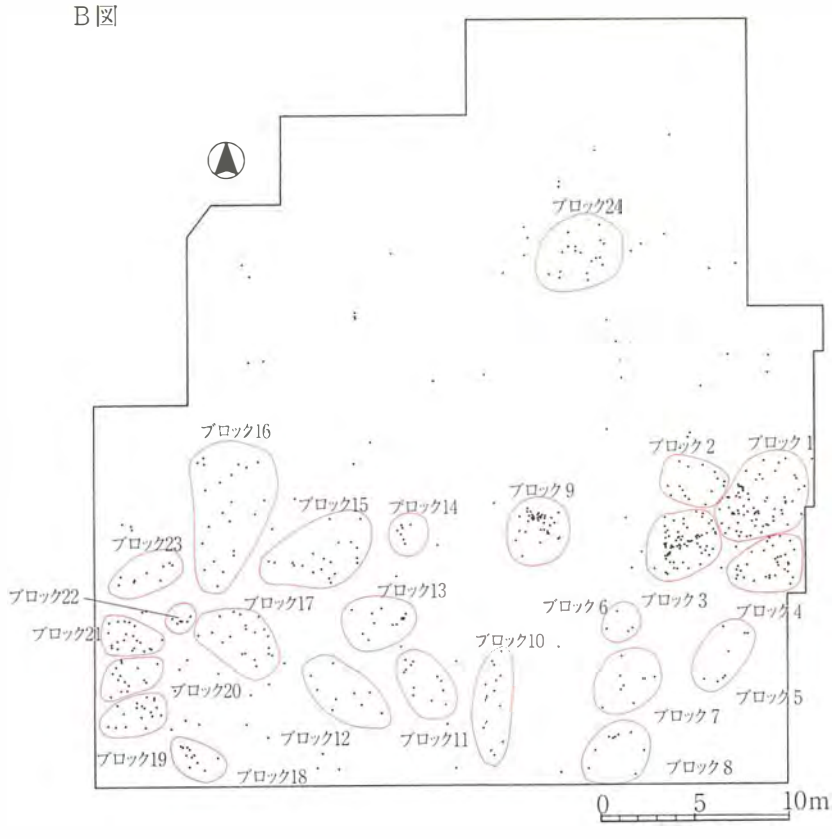
二次加工の施される不定形の石器を一括して、二次加工ある不定形石器として取り扱った。

資料は、14点検出された。うち2点を図示した。第42図11は、表面及び右側縁にわずかに礫面が観察される。二次加工は、表面及び右側縁に施される。その剥離面は粗く側縁部との稜上に敲打による潰れも認められる。第42図12は、表面右側縁から細かな調整加工が施されている。

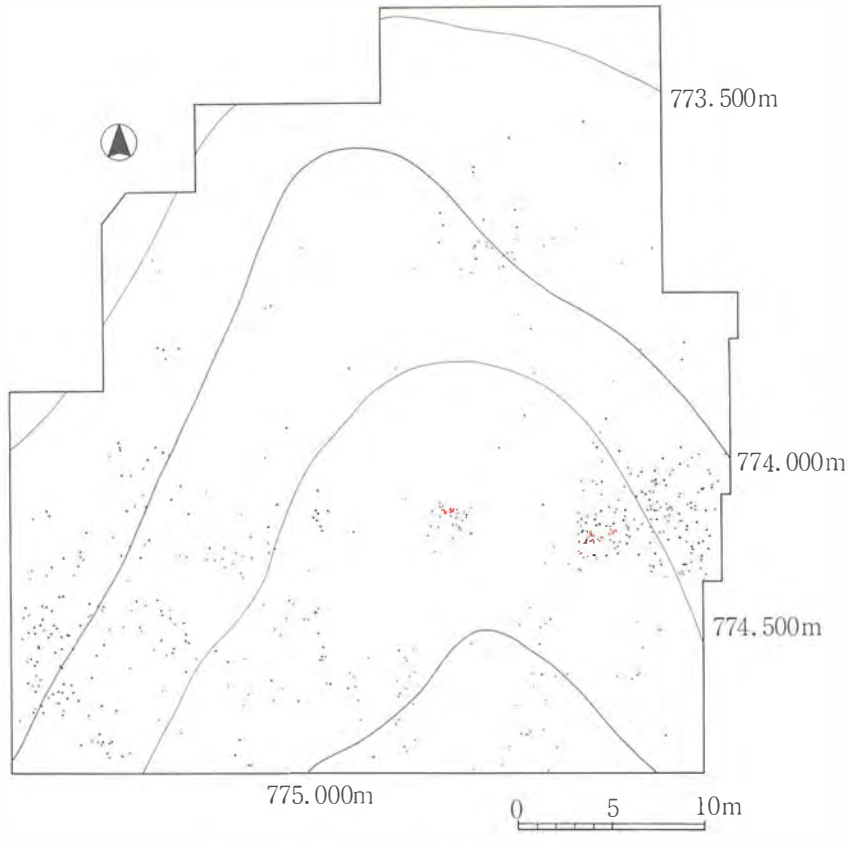
A図



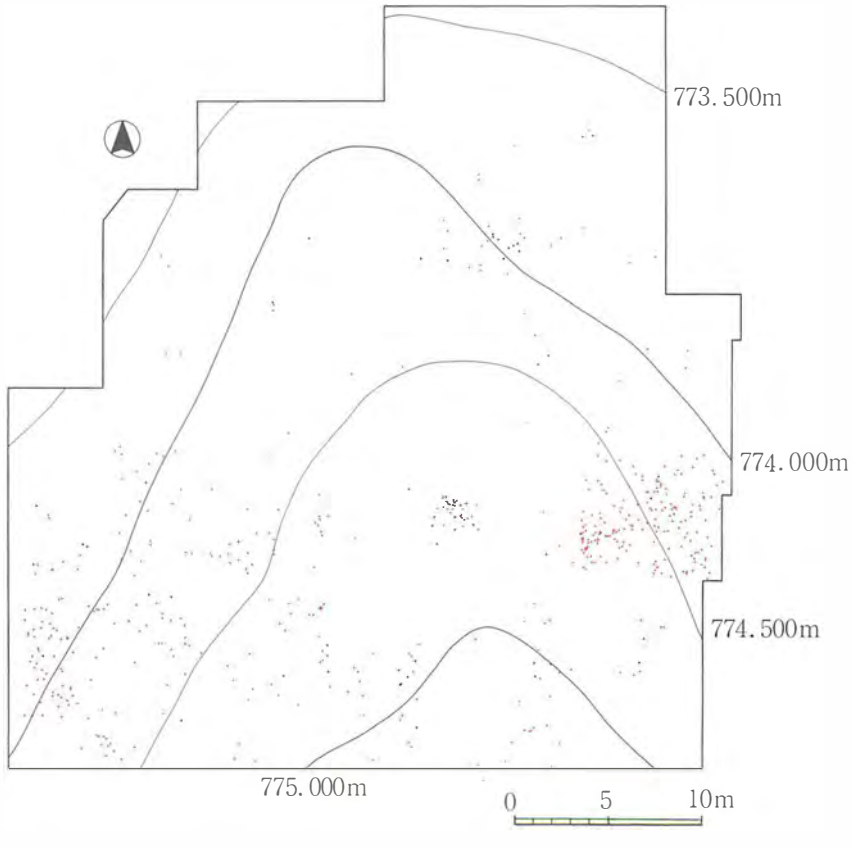
B図



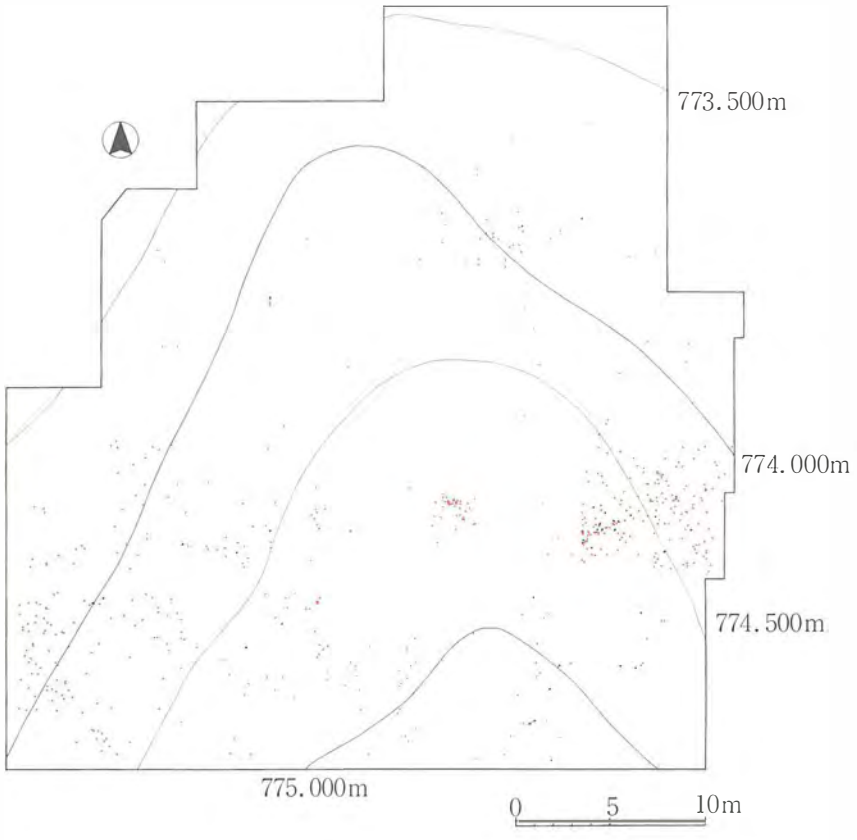
第34図　遺物分布図



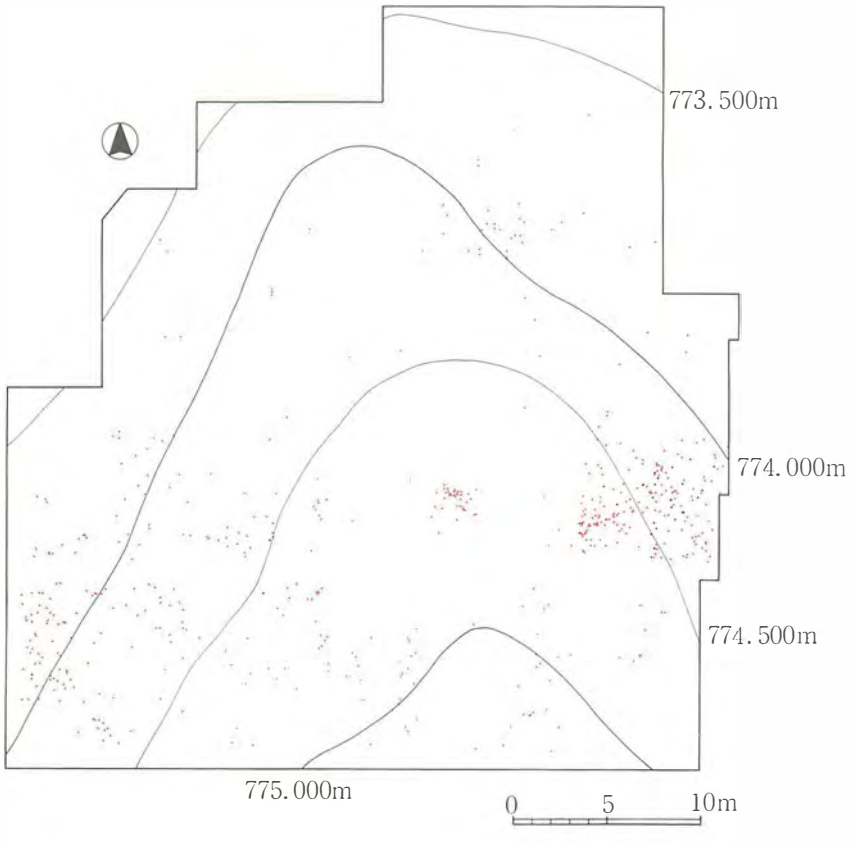
第35図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）



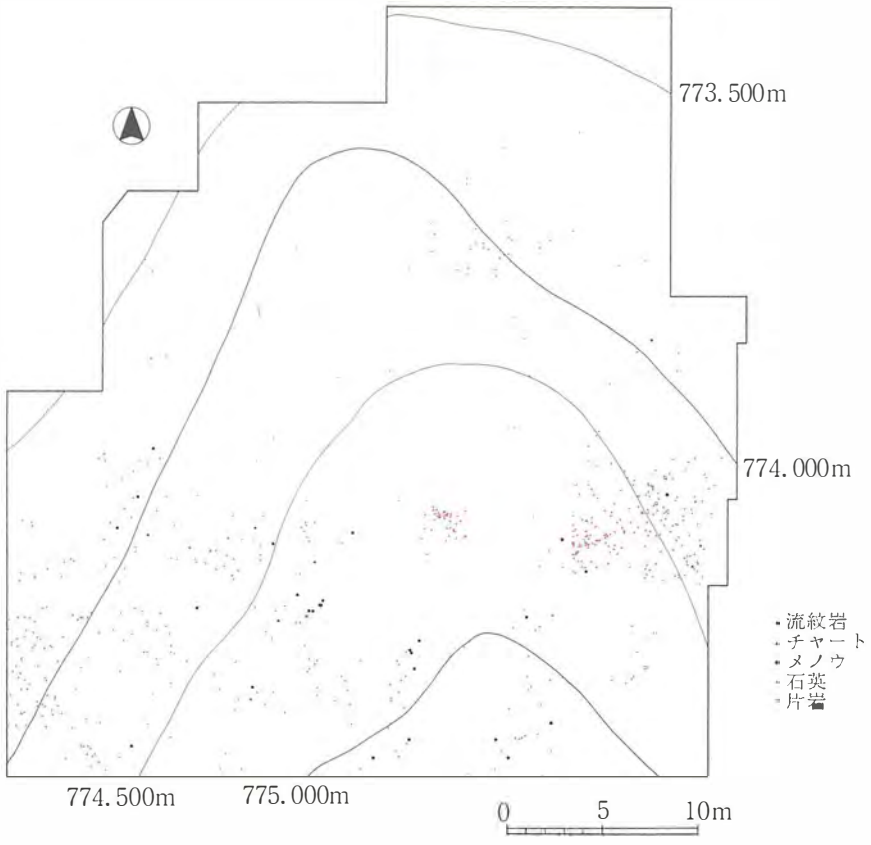
第36図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）



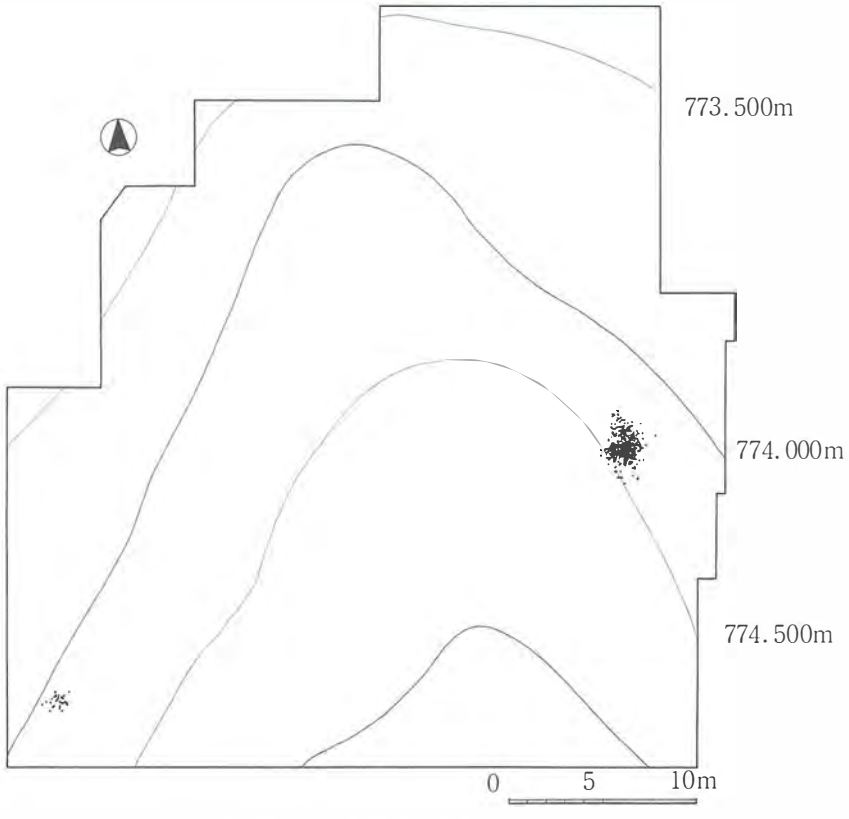
第37図　石材別分布図（安山岩）



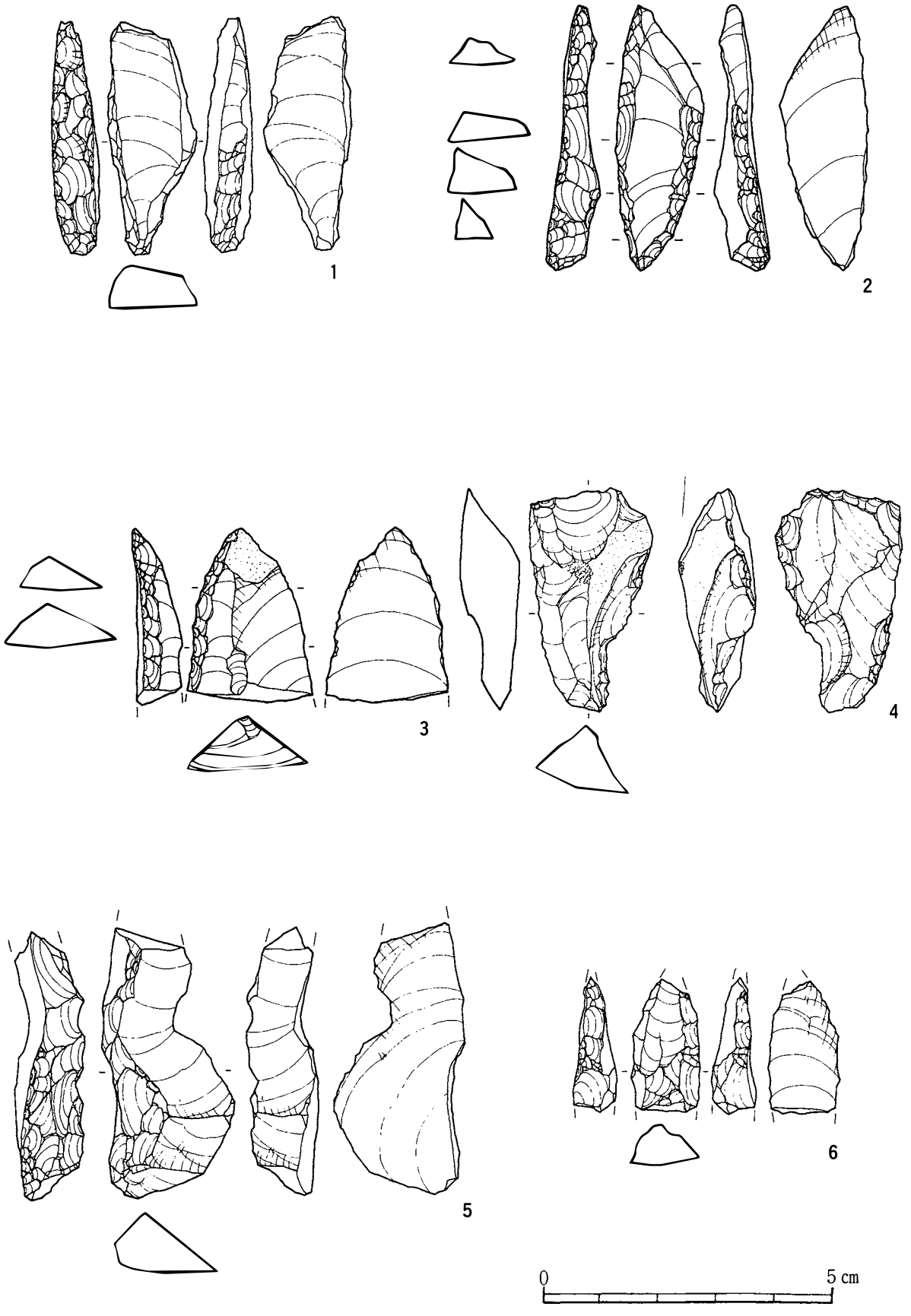
第38図　石材別分布図（硬質頁岩）



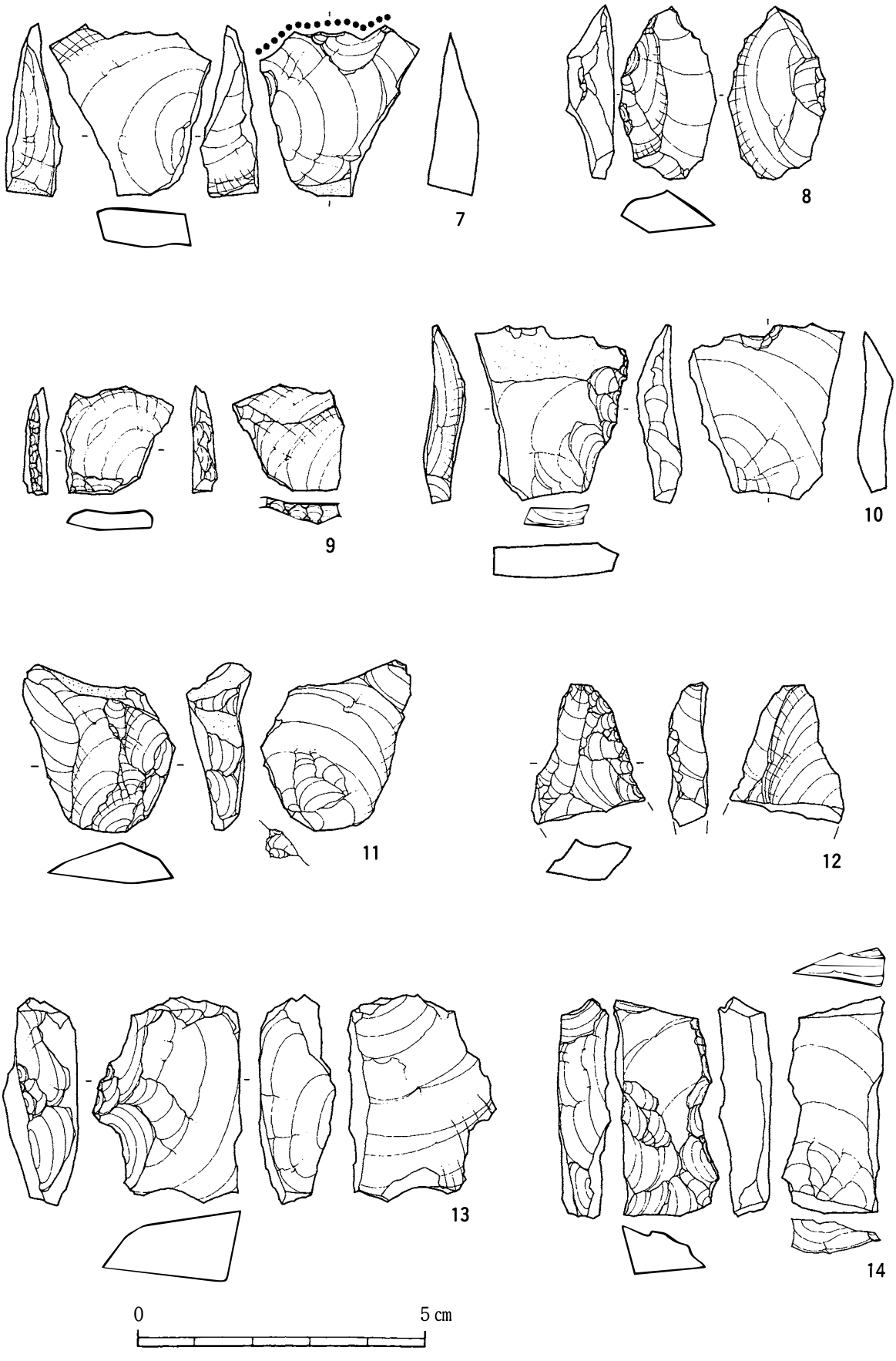
第39図　石材別分布図（その他）



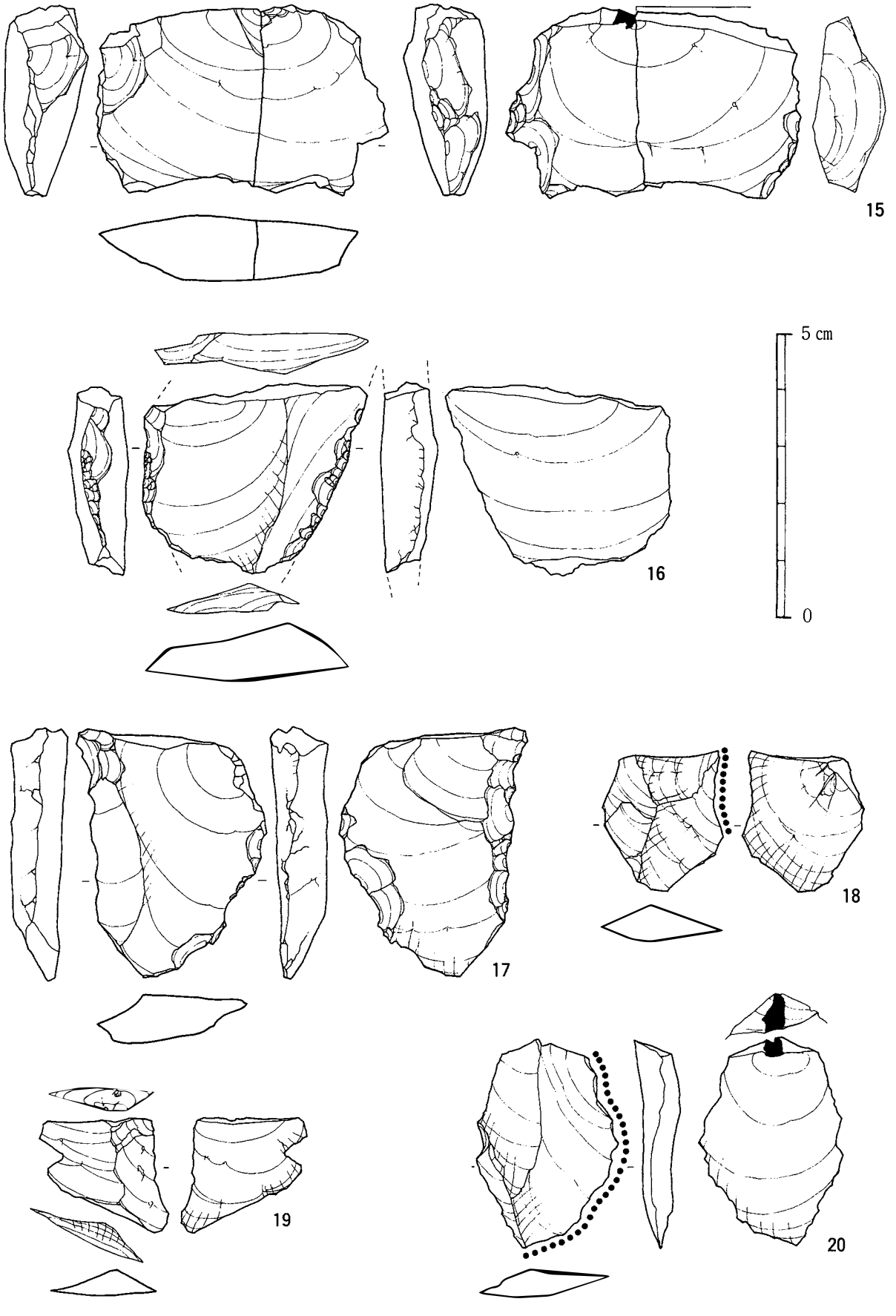
第40図　炭化物分布図



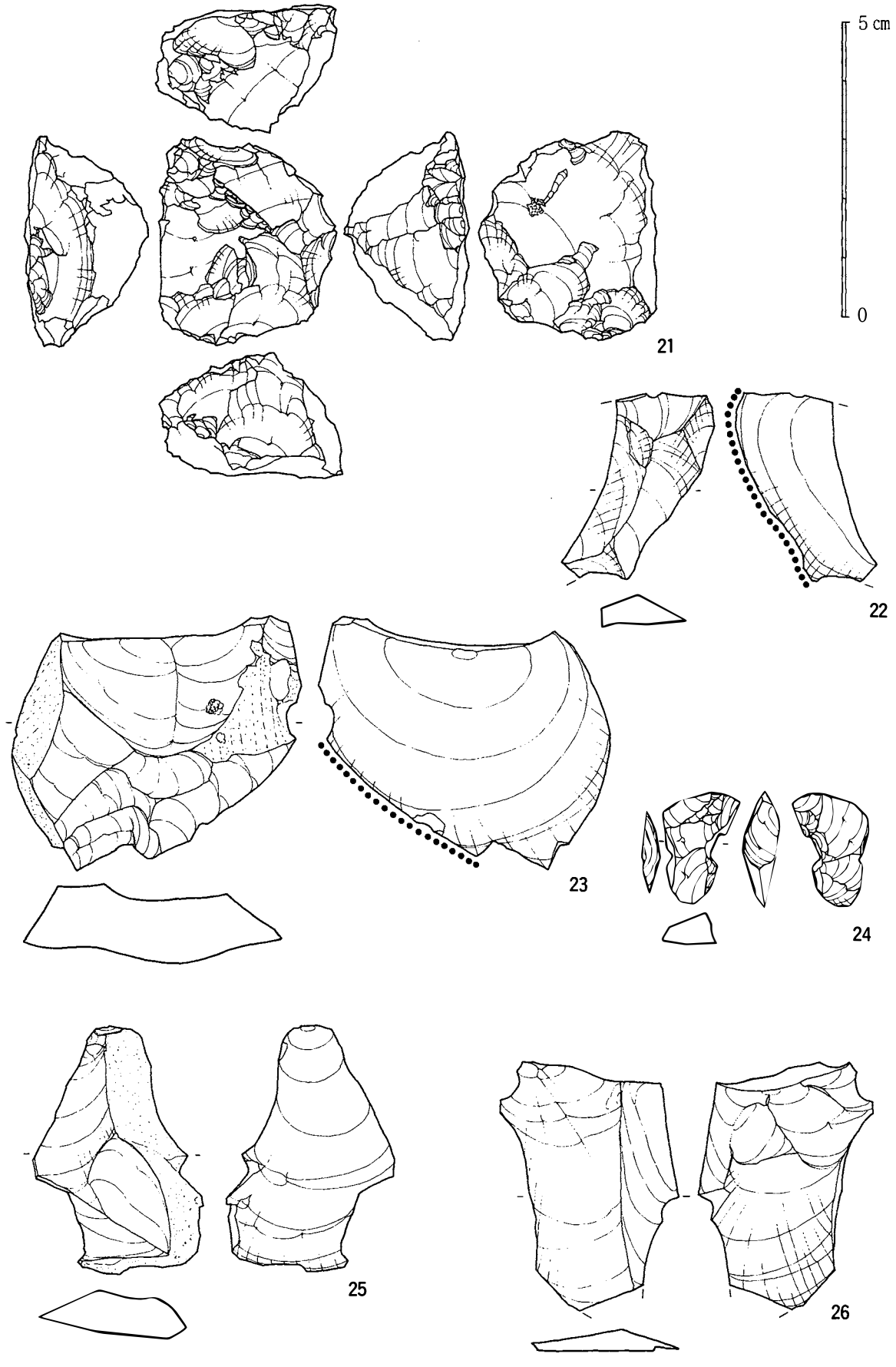
第41図　遺物実測図



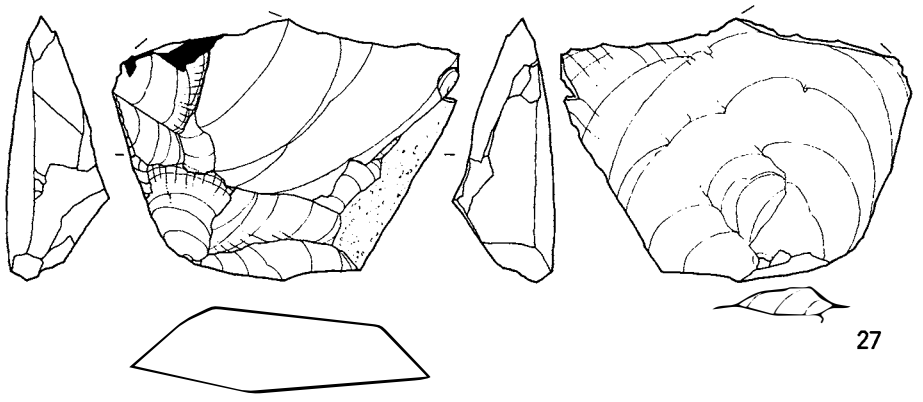
第42図　遺物実測図

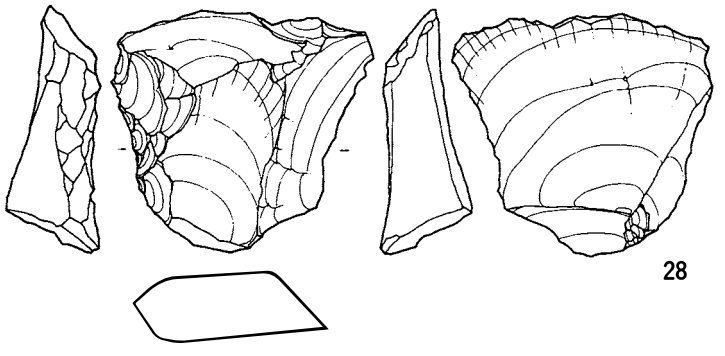


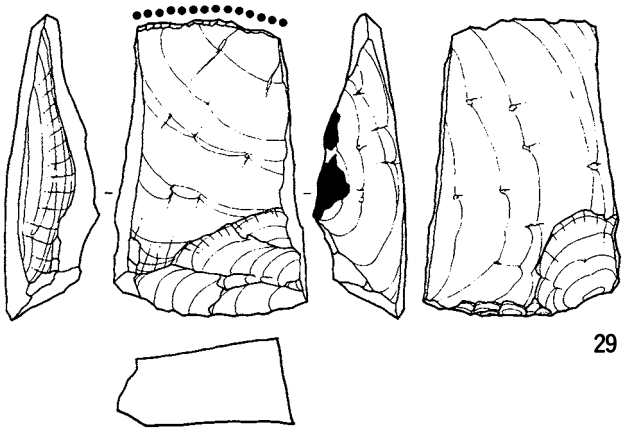
第43図　遺物実測図

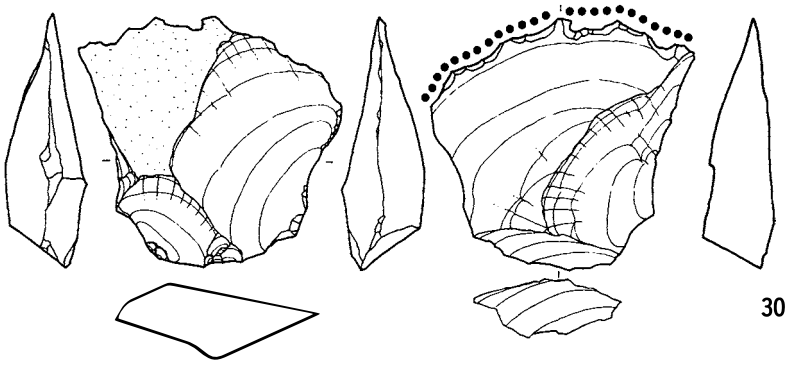


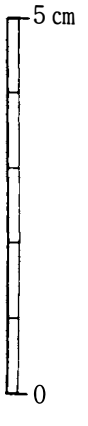
第44図　遺物実測図



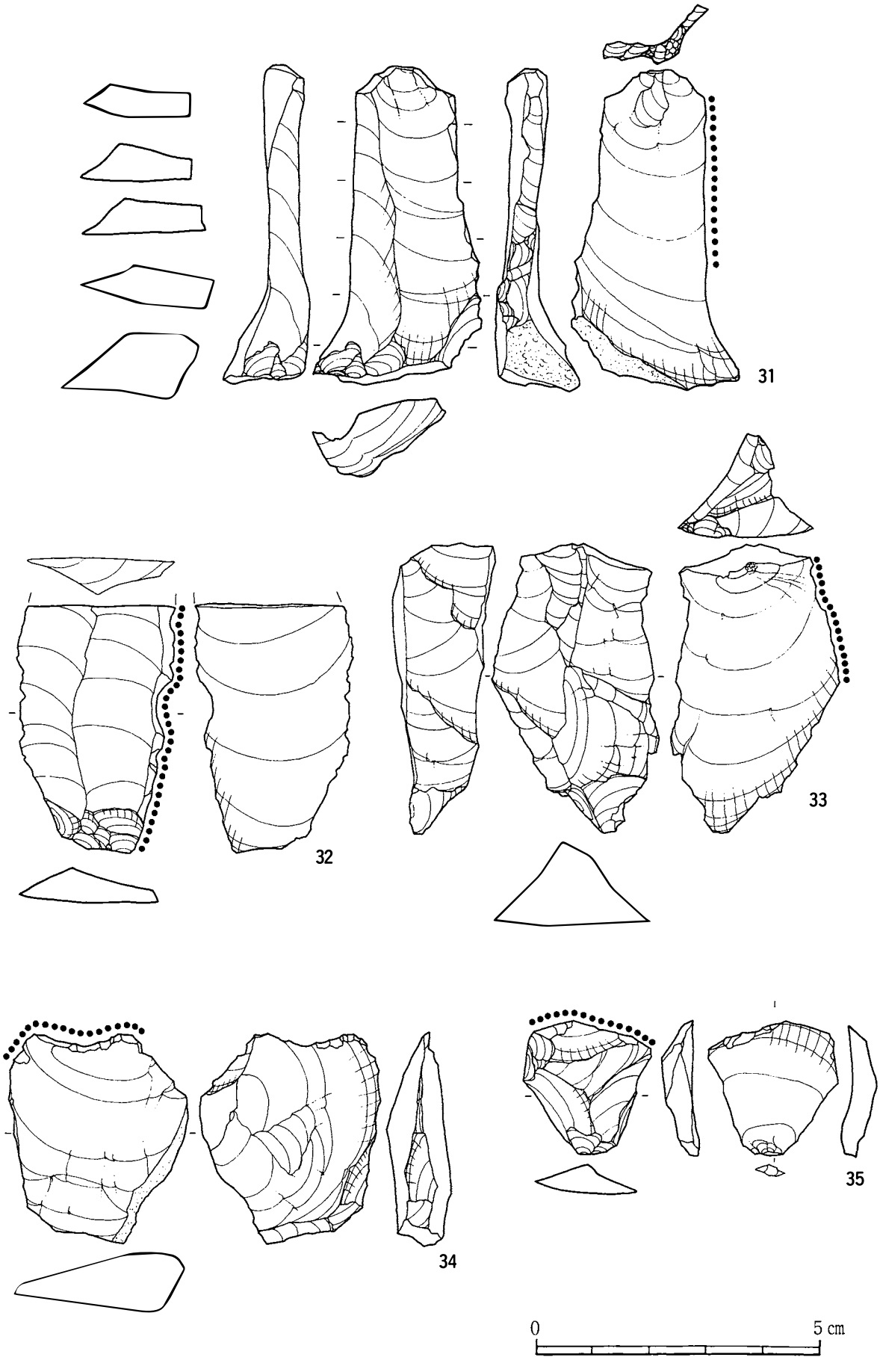








第45図　遺物実測図



第46図　遺物実測図

（５）使用痕ある剥片（第43図18，20，第44図25，26，第45図27～29）

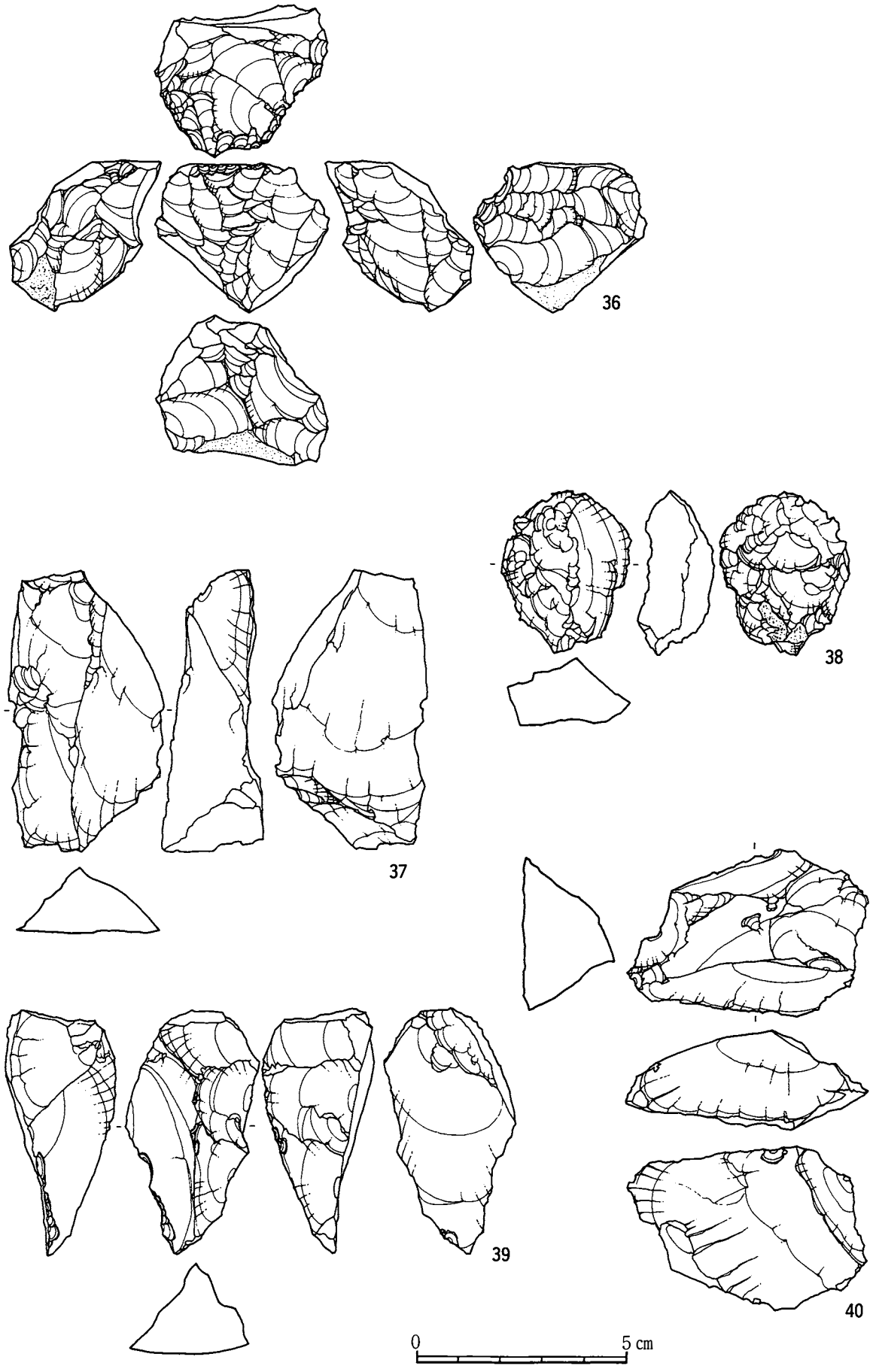
使用痕ある剥片は、加工の認められない剥片の一部に、使用痕による刃こぼれ状の微細な剥離面が連続的に認められるものであり、20点検出した。そのうち７点を図示した。これらの石器は、使用痕の部位から側縁部に認められるもの（第43図18，20，第44図25，26，第45図27）と先端部に認められるもの（第45図28，29）の２つに細分できる。また、剥片の形状では縦長剥片（第43図20，第44図25，26，第45図27）と幅広剥片（第43図18，第45図28，29）に区分でき、概ね後者の形状は台形状を呈する。

（６）石核（第45図30，第46図31～35，第47図36～40，第48図41～45）

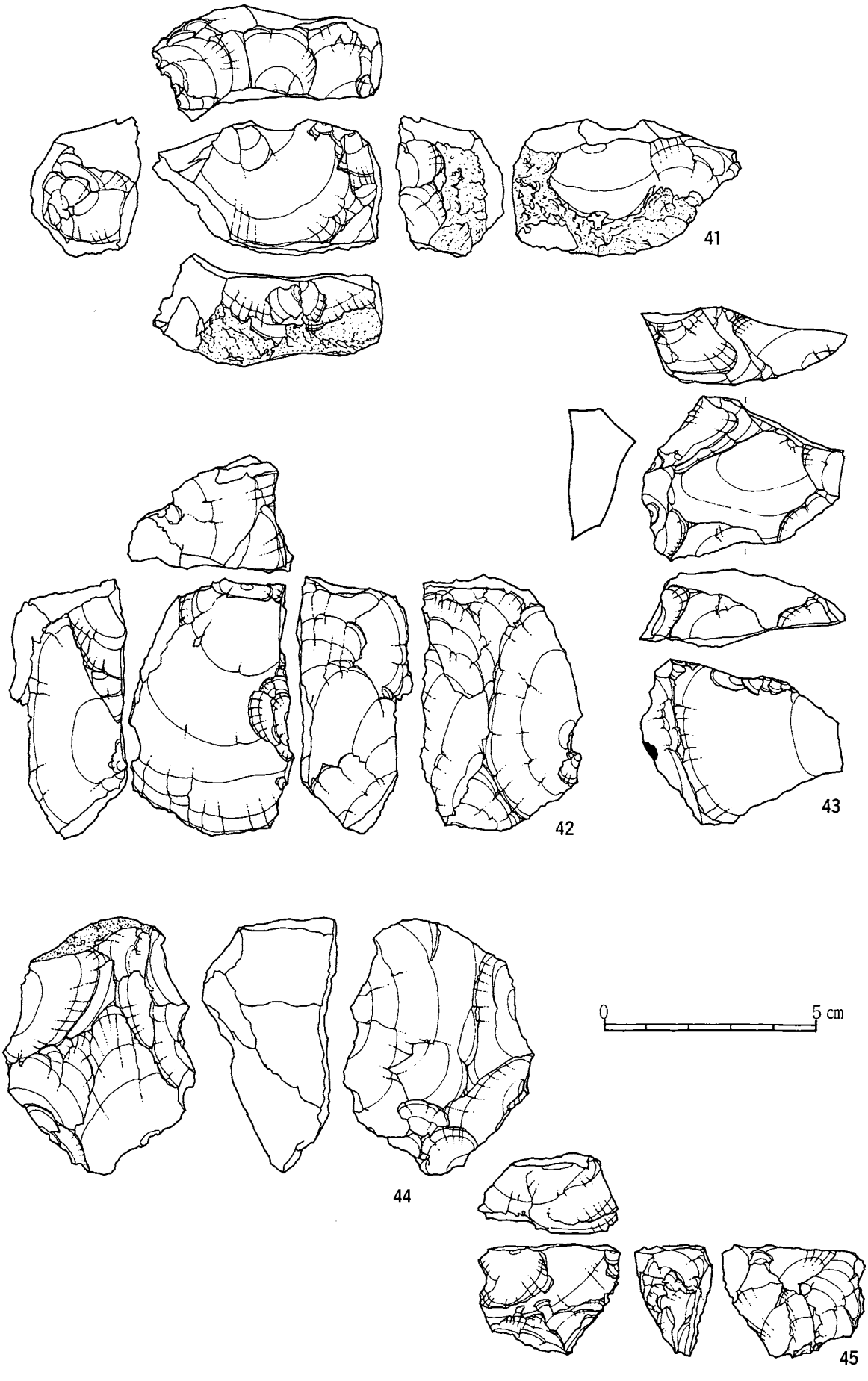
第Ⅱ石器文化に属する石核は、19点検出された。その石材は、黒耀石Ｂ類（第44図，第45図），黒耀石Ｃ類（第44図，第45図），流紋岩（第45図30）である。第45図30は、円礫あるいは亜角礫を素材とし、石核の剥離面によって形成された周縁の稜からチョッピングトゥール状に剥離が進行する。個々の剥離面は、幅に比して長さのある剥離面が観察され、剥離された剥片は概ね縦長剥片である。第46図31は、厚みのある剥片を素材とするものである。一辺から幅広の剥片を数枚剥離している。第46図34は、厚みのある剥片を素材とする石核である。剥離作業は、素材となった剥片の主要剥離面（裏面）側から行われ、その形状は幅広である。第46図35は、厚みのある剥片を素材とし、表面先端部及び裏面打点部で剥離面が観察される。剥離される剥片の形状は、幅広である。第47図36は、石核の底面に礫面を大きく残す。このことから、亜角礫状の原石を分割あるいはそのまま利用したものと予測できる。剥離面の観察から、打面と剥離面を頻繁に転移したことが理解される。第47図37は、厚みのある剥片を素材としている。その剥片の主要剥離面を打面として幅広の剥片を剥離している。第47図38，39，第48図41は、厚みのある剥片を素材とする石核である。その剥離は、主要剥離面を打面として周縁から求心的に行われている。第48図41は、打面と剥離面を頻繁に転移する石核である。

第９表　個体観察表

個体No.	石材	ナイフ	台形様	削器	楔形	二次加工	使用痕	剥・砕片	剥・砕片(折れ)	石核	備考
1	流紋岩							3			2509＋3235＋3999
2	安山岩							2			2163＋2165
3	黒耀石Ｂ		1					1			2130＋2554
4	安山岩								2		2161＋2178
5	安山岩								2		2240＋2302
6	黒耀石Ｂ								2		2186＋3056
7	安山岩				1				2		2150＋2524＋3026
8	黒耀石Ｂ			2							2859＋2915
9	黒耀石Ｃ								3		2875＋3489＋3488
10	黒耀石Ｂ							2		1(2606)	2864＋2606＋2553
11	チャート								2		2343＋4080
12	石英							2		1(2184)	2184＋2446＋3012
13	砂岩							2			2397＋4183
14	砂岩										2254＋3096
15	安山岩								2		2770＋2869
16	安山岩								2		2526＋4085



第47図　遺物実測図



第48図　遺物実測図

4　接合資料（第50図～第53図）

第Ⅱ石器文化に属する接合資料は、16例確認された。分布は、第49図に示している。接合資料の石材別の内訳は、黒耀石Ｂ類（個体３，６，８),黒耀石Ｃ類（個体９),流紋岩（個体１),安山岩（個体２，４，５）である。これらの資料は、剥片と剥片の接合と、同一の剥片の折れ面での接合とが認められる。これらのうち個体１～９の９例について図示した。

以下、接合資料ごとに説明を行う。

個体１（第50図）

個体１は、１ａ～ｃの３点の剥片が接合した資料である。３点とも表面に素材となった原石の礫面を残している。１ａ，ｂは、表裏面ともほぼ同一方向の剥離が観察される。１ｃは、表面に裏面側の剥離と同一方向の剥離面と左側方からの剥離面が観察され、同一方向の剥離作業に先行して90°側方から剥離作業が行われていたことを示している。この剥離作業の後、１ａ→１ｂ→１ｃの順序で剥離されたことが理解される。これら３点の剥片の形状は、縦長剥片である。

個体２（第51図）

個体２は、２点の剥片が接合した資料である。２ａの表面に残された剥離面は、裏面の剥離方向と同一である。しかし、２ｂの表面には裏面の剥離方向と同一のものと、90°横位からの剥離面が観察される。このことから、個体１と同様に先行する剥離作業の後90°打面を転移し、２ｂ→２ａの順序で剥離が行われている。剥離された剥片の形状は、縦長剥片である。

個体３（第51図）

個体３は、２点の剥片が接合した資料である。２点とも表面に礫面を大きく残している。３ａ→３ｂの順序で剥離が進行したことが理解される。３ｂは、右半部と先端部を欠失している。打点部から垂直方向に折れ面が観察され、右半部の折れは剥離段階に生じ、その後先端部を切断している可能性が指摘できる。また、この３ｂは表面に平坦剥離を施して台形様石器として作り上げている。

個体４（第51図）

個体４は、剥片の折れ面による接合である。表面に礫面を残し、上下両端に小剥離痕が観察される。幅広剥片を素材とした楔形石器であり、使用する段階で折れた可能性も考えられる。

個体５（第51図）

個体５は、剥片の折れ面による接合である。表面に大きく礫面を残す、縦長剥片である。剥片の上部右側を欠失している。先端部の表面に主要剥離面の剥離方向と対向する剥離面が観察される。また打点部は、欠失している。これらのことから、個体４と同様に楔形石器である可能性も指摘できる。折れは、その使用によるものである可能性も考えられる。

個体６（第51図）

個体６は、剥片の折れ面による接合である。折れは、縦長剥片の中央部に横位に認められる。この剥片の打点部は明瞭に残存せず、二次加工も使用痕も観察されない。そのためこの剥片の折れが、折断であるかは判然としない。

個体７（第49図）

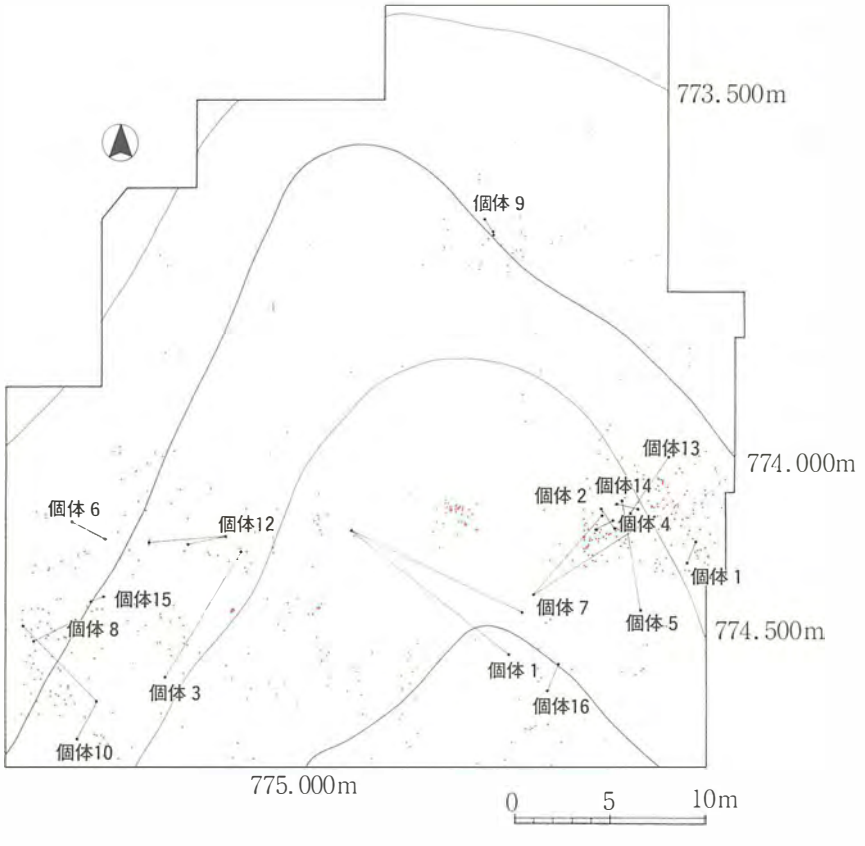
個体７は、３点の資料が折れ面によって接合している。３点の表面には、大きく礫面が残されている。接合によって復元された剥片の形状は、幅広である。（７ａ＋７ｂ＋７ｃ）の主要剥離面は、７ａ，７ｂでは同一剥離面を形成するが、７ｃは同一剥離面を形成せず逆方向からの剥離面が観察される。これらのことから、（７ａ＋７ｃ），７ｂの２点に分割された後両者とも楔形石器として利用し、結果前者はさらに２分割された可能性も考えられる。

個体８（第49図）

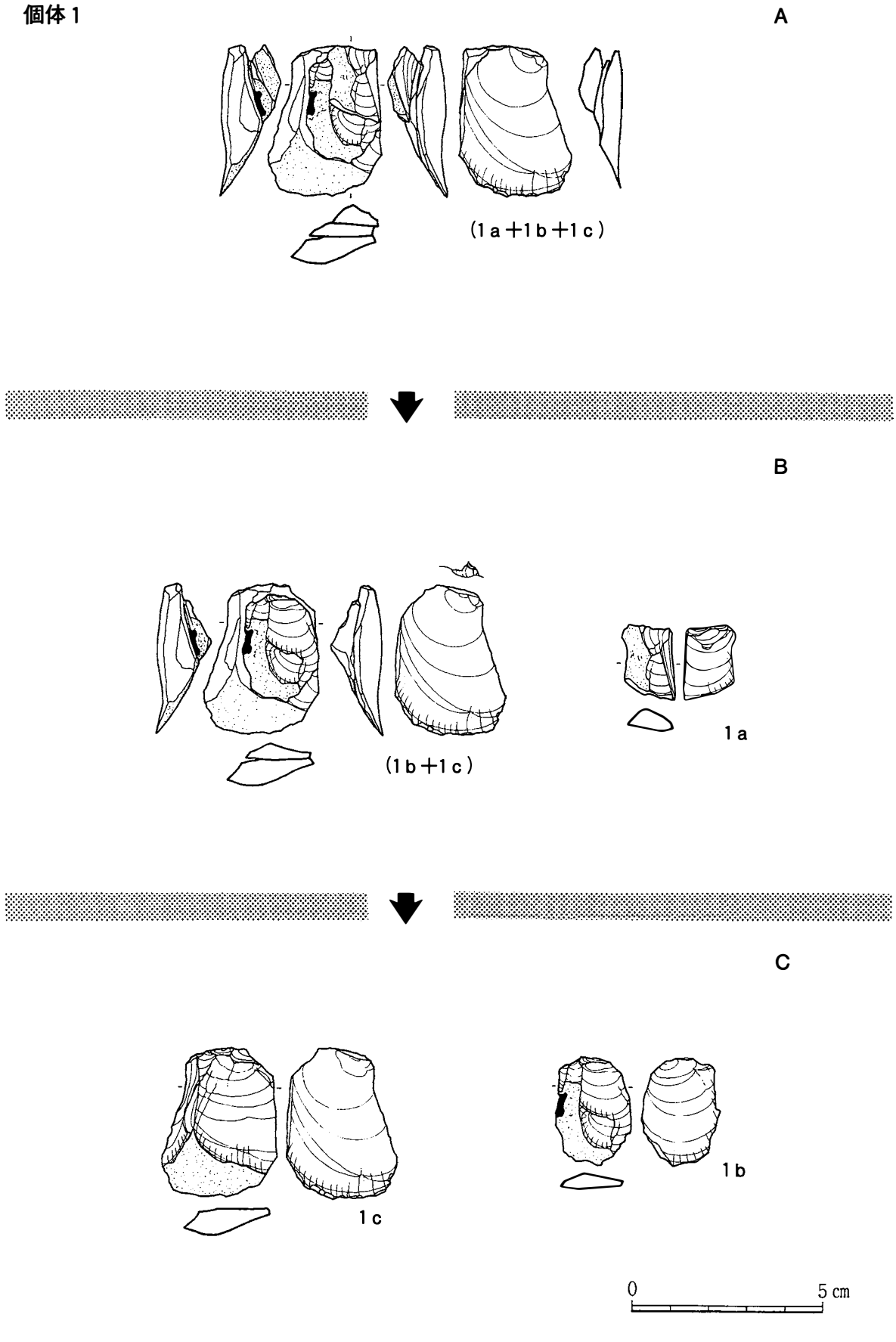
個体８は、２点の資料が折れ面によって接合した。折れ面は、裏面の打点部から垂直に先端部へ認められ、剥離段階の折れである可能性が指摘できる。その後折れた剥片の左右両者とも側縁部に大まかな調整剥離を加え、スクレイパーとして利用している。

個体９（第50図）

個体９は、３点の剥片と砕片が接合した資料である。接合図の上面に、平坦な礫面が大きく残る。母岩の形状は、亜角礫であると考えられる。この３点は、その接合関係から本来同一の剥片を構成していたことが理解できる。つまり、裏面側の大きな剥離面の打点部中央から垂直方向へ折れ面が観察される。このことから、石核から剥離した段階でのアクシデンタルな折れである。その際、表面側折れ面部近くではじけ、９ｃが剥落したものと理解される。

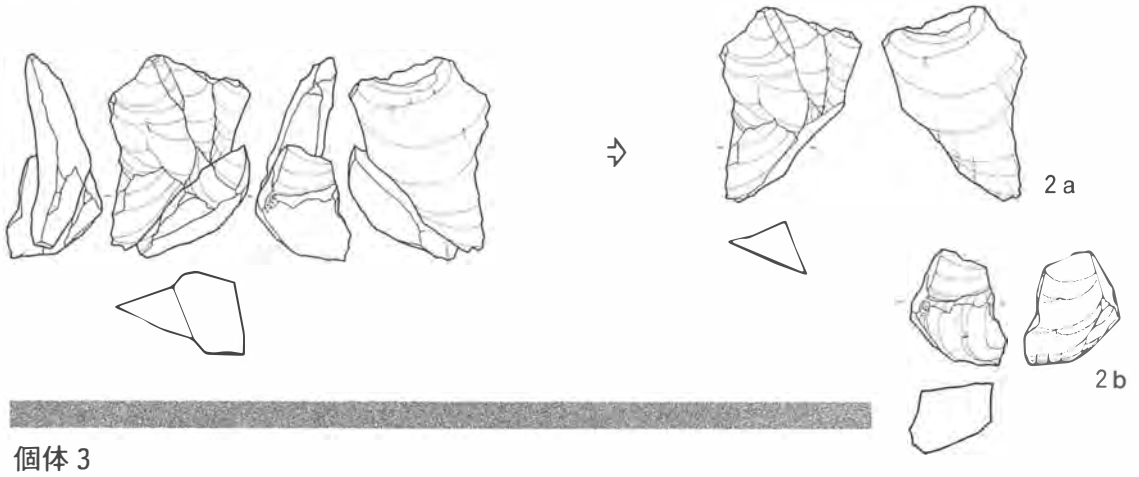


第49図　接合関係図

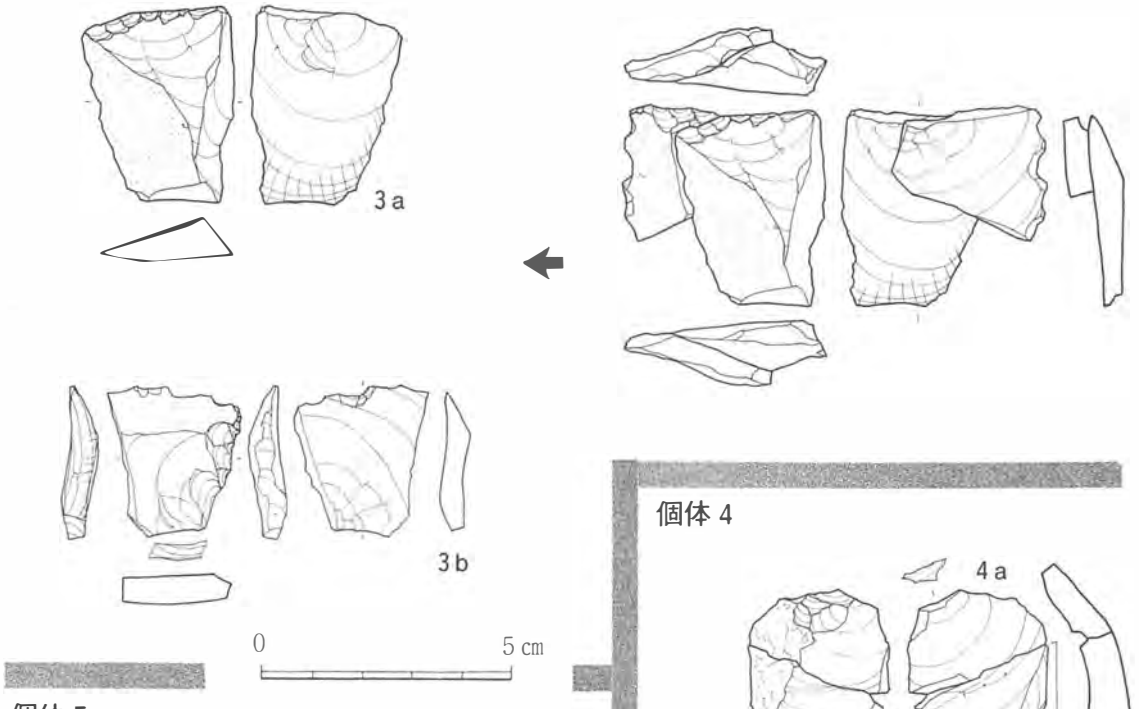


第50図　接合図

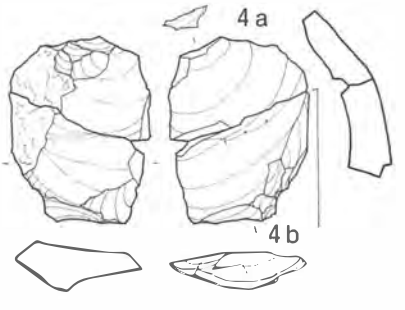
個体 2



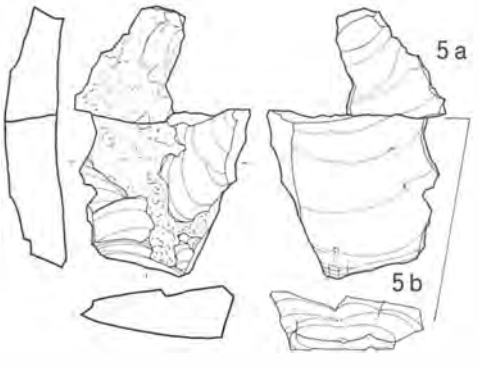
個体 3



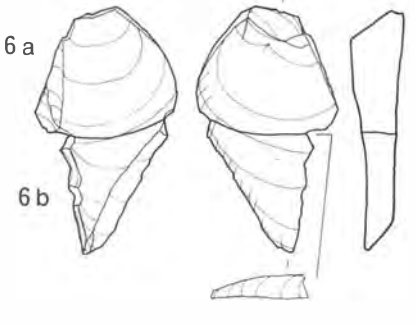
個体 4



個体 5

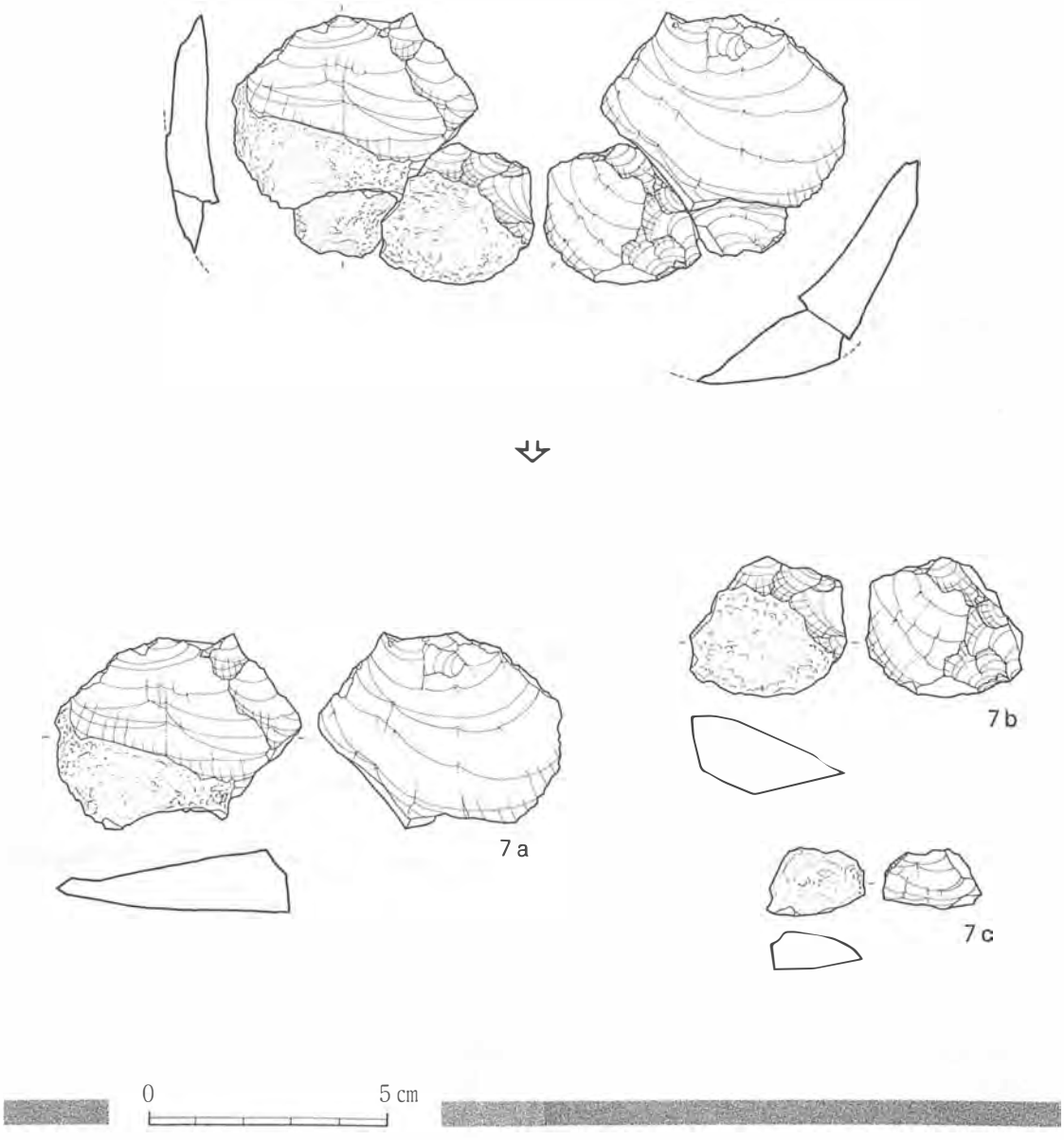


個体 6

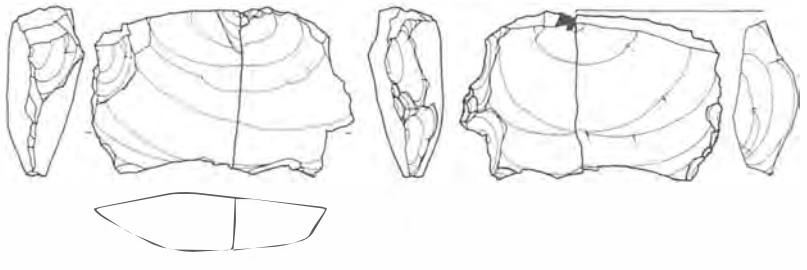


第51図　接合図

個体 7

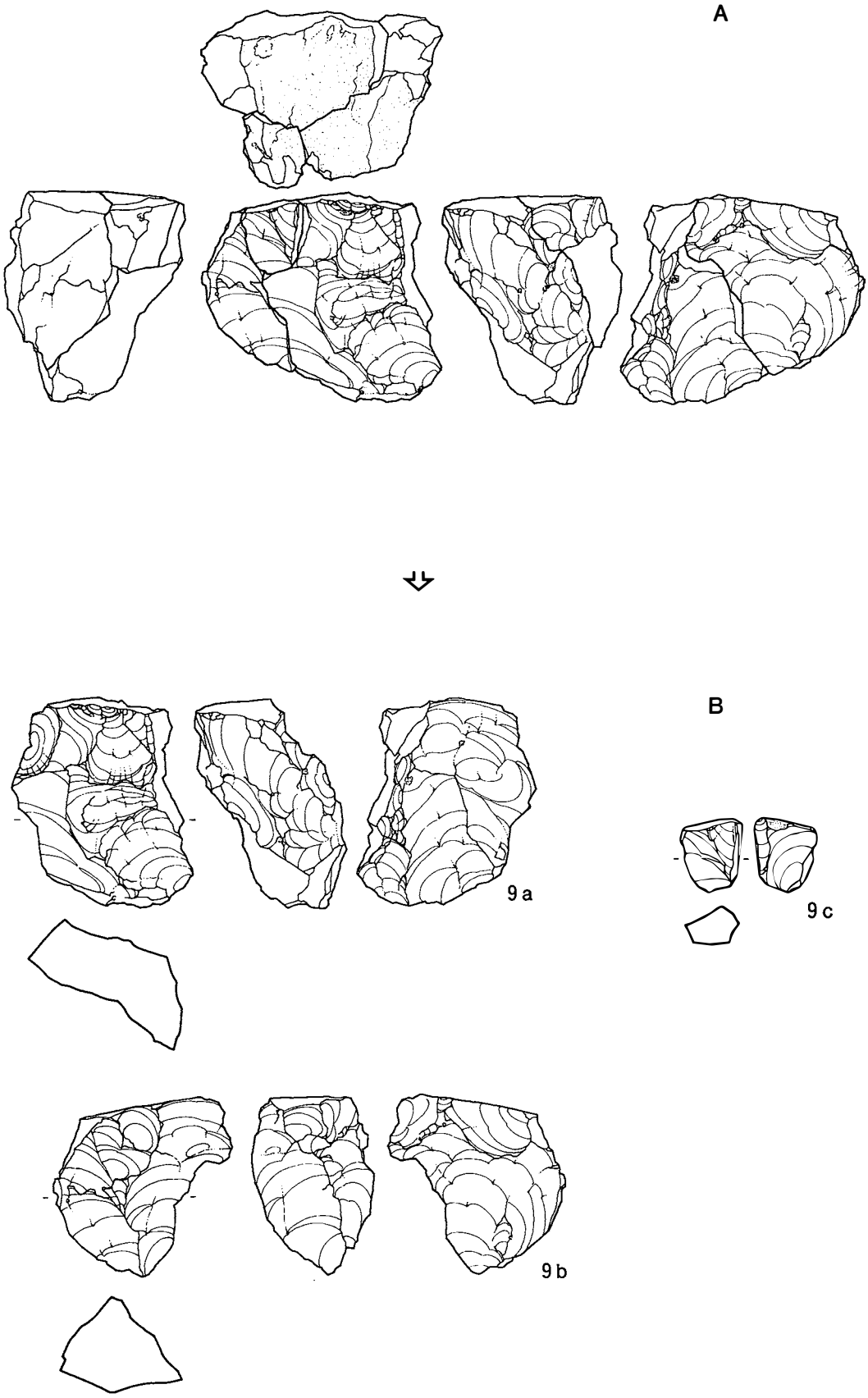


個体 8



第52図　接合図

個体９



第53図　接合図

第10表　ブロック別石器組成表

ブロック	ナイフ	台形様	削器	楔形	二次加工	使用痕	石核	剥片	砕片	計
1	1	1	1		5	2		25	32	67
2								4	9	13
3					1		1	24	34	60
4					1	1		15	13	30
5								5	2	7
6								5	1	6
7						2		4	2	8
8						3		5	1	9
9		1				1		12	21	35
10					1	2		6	3	12
11					2	1	3	4	2	12
12							1	2	4	7
13								6	7	13
14								4	3	7
15	2					3	1	8	3	17
16							1	14	6	21
17					2	2		5	7	16
18								7	4	11
19		1						12	5	18
20		1			2			8	3	14
21	1				2	2		12	5	22
22								5	1	6
23		1						5	4	10
24					1		1	13	3	18
計	4	5	1		17	19	8	210	175	439

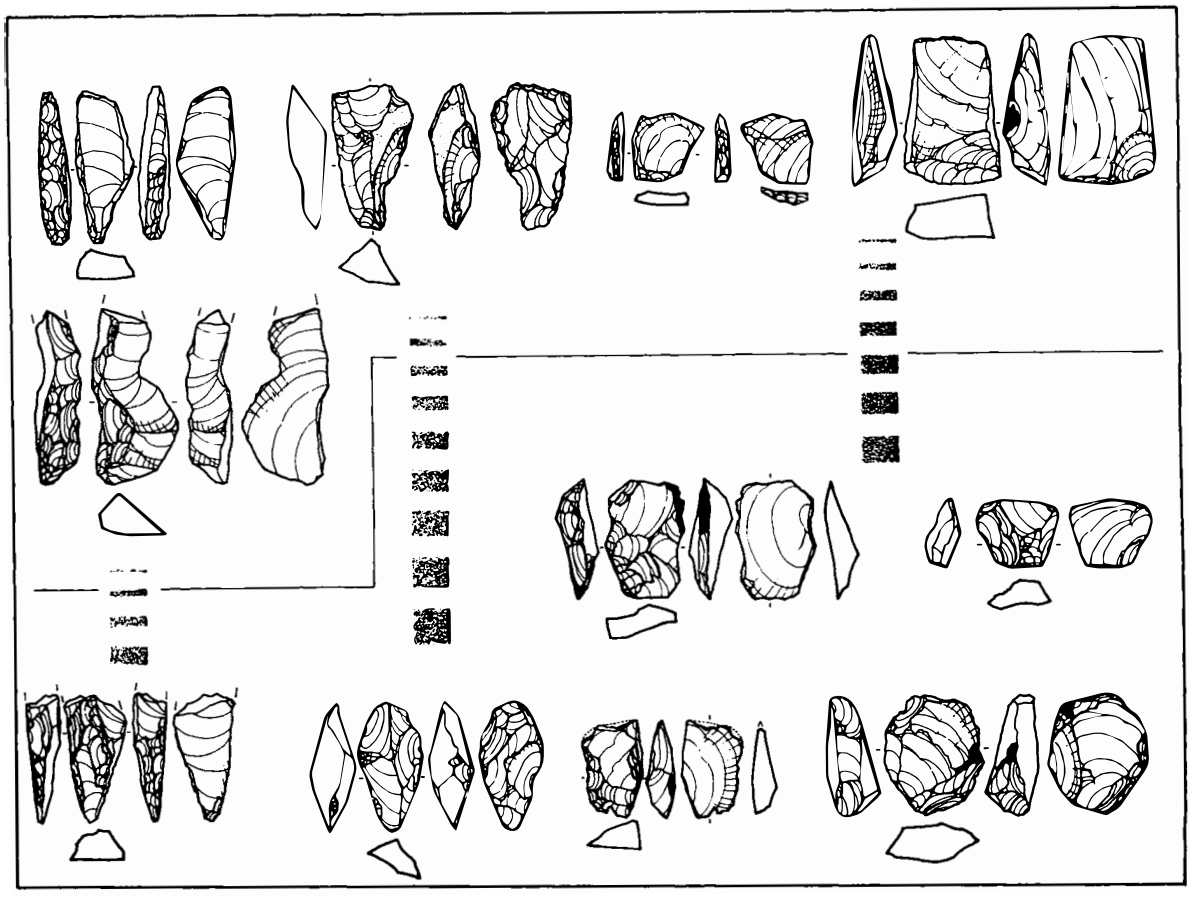
第11表　ブロック別石材組成表

ブロック	黒耀石A	黒耀石B	黒耀石C	黒耀石D	安山岩	メノウ	硬質頁岩	石英	砂岩	片岩	流紋岩	チャート	ｼﾙﾄ質頁岩	計
1	1	31	1		4	1	24		3	2				67
2		7	1		3		2							13
3	2	25	2		28		1	2						60
4		22	1		2		3					2		30
5			2		4					1				7
6		1			1			1			2		1	6
7		2	3		2			1						8
8			1		4	1	1				2			9
9		1	34											35
10		2	4	1							4		1	12
11	1	7	3								1			12
12		4	1		1						1			7
13		1			3						8	1		13
14		7												7
15		6	1		4		1	3			1	1		17
16		15	1								4	1		21
17		14	2											16
18		10									1			11
19		17						1						18
20		12	1				1							14
21	1	21												22
22		3	1		2									6
23		6	3		1									10
24		7	10		1									18
計	5	221	72	1	60	2	33	8	3	3	24	5	2	439

第12表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
41－1	ナイフ形石器	Ⅴ	安山岩	4.02	1.46	0.76	3.56		2493
41－2	ナイフ形石器	Ⅴ	流紋岩	4.42	1.48	0.69	3.69		2555
41－3	ナイフ形石器	Ⅴ	黒耀石A	2.90	2.18	0.74	3.61		2546
41－4	台形様石器	Ⅵa	黒耀石B	3.87	2.17	1.22	7.53		3105
41－5	ナイフ形石器	Ⅵb	黒耀石B	4.54	2.41	1.10	8.05		3499
41－6	ナイフ形石器	Ⅴ	安山岩	2.24	1.18	0.63	1.61		2138
42－7	台形様石器	Ⅵb	黒耀石B	2.85	2.70	0.42	4.80		2763
42－8	台形様石器	Ⅴ	流紋岩	1.61	2.80	0.42	2.27		3004
42－9	台形様石器	Ⅵa	黒耀石B	2.10	1.63	0.35	1.25		3647
42－10	台形様石器	Ⅴ	黒耀石B	2.94	2.65	0.61	2.47	個体3	2554
42－11	二次加工ある不定形石器	Ⅵa	黒耀石A	3.22	2.28	0.90	5.30		3171
42－12	二次加工ある不定形石器	Ⅵa	黒耀石A	2.41	1.87	0.62	2.12		3286
42－13	スクレイパー	Ⅵa	黒耀石B	3.45	2.67	1.31	10.42	個体8	2915
42－14	スクレイパー	Ⅴ	黒耀石B	3.70+α	1.80+α	0.90	6.10		3109
43－15	スクレイパー	Ⅴ・Ⅵa	黒耀石B	3.26	5.09	1.08	25.30		2915・2859
43－16	スクレイパー	Ⅴ	黒耀石B	3.70	3.75	0.87	10.72		3007
43－17	スクレイパー	Ⅵa	黒耀石B	4.32	3.54	0.91	12.62		3281
43－18	使用痕ある剥片	Ⅵa	黒耀石C	2.21	2.68	0.52	2.62		3529
43－19	剥片	Ⅵa	黒耀石C	2.02	2.20	0.47	1.43		2122
43－20	使用痕ある剥片	Ⅵa	黒耀石B	4.59	2.46	0.53	4.35		2181
44－21	台形様石器	Ⅵa	黒耀石C	2.32	3.39	3.61	22.16		2718
44－22	台形様石器	Ⅴ	流紋岩	1.71	3.60	0.85	3.27		3224
44－23	台形様石器	Ⅵa	安山岩	4.03	5.09	1.13	27.12		2177
44－24	台形様石器	Ⅴ	黒耀石C	1.57	1.71	0.59	0.96		2319
44－25	使用痕ある剥片	Ⅵa	流紋岩	4.20	3.00	0.68	8.09		3061
44－26	使用痕ある剥片	Ⅴ	流紋岩	4.02	3.13	0.51	6.60		4380
45－27	使用痕ある剥片	Ⅵa	黒耀石B	3.30	4.52	1.50	15.99		3880
45－28	使用痕ある剥片	Ⅴ	黒耀石B	3.00	3.41	0.85	9.59		2728
45－29	使用痕ある剥片	Ⅵa	黒耀石B	3.97	2.58	1.22	12.86		2847
45－30	石核	Ⅵa	流紋岩	3.15	3.35	0.41	7.33		3174
46－31	石核	Ⅵa	チャート	5.60	2.90	1.40	13.40		2140
46－32	石核	Ⅵa	黒耀石B	4.3+α	2.80	0.60	6.70		2955
46－33	石核	Ⅴ	黒耀石B	5.02	2.96	1.08	18.81		2996
46－34	石核	Ⅴ	黒耀石B	3.00	3.77	2.65	11.29		2148
46－35	石核	Ⅵa	チャート	2.31	2.22	0.50	2.17		2155
47－36	石核	Ⅵa	流紋岩	2.85	4.11	2.71	37.51		2598
47－37	石核	Ⅵa	黒耀石B	5.52	3.65	2.28	39.04		2321
47－38	石核	Ⅵa	黒耀石C	3.77	3.12	1.78	15.41		3170
47－39	石核	Ⅴ	黒耀石B	5.69	3.13	3.03	30.12		2645
47－40	石核	Ⅴ	黒耀石B	5.66	3.83	2.14	36.58		3049
48－41	石核	Ⅴ	チャート	2.68	5.46	3.17	48.02		2455
48－42	石核	Ⅵa	黒耀石B	5.98	3.81	2.63	51.15		3088
48－43	石核	Ⅴ	黒耀石B	3.73	3.86	1.76	23.54		3047
48－44	石核	Ⅴ	安山岩	3.14	6.09	4.58	63.29		2072
48－45	石核	Ⅴ	黒耀石B	2.66	3.35	1.71	14.01		2586

5　本文化層の位置づけ



第54図　ナイフ形石器および台形様石器の形態変遷

第Ⅱ石器文化層は、Ⅴ～Ⅵａ層にかけて検出された。その遺物のピークは、Ⅴ層下面からⅥａ層上位面に求められ、姶良Ｔｎ火山灰包含層より下位に位置している。このことから、姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器文化である可能性が高い。当該文化層に属する石器類の器種組成は、下位石器文化と大きな差違は認められず、ナイフ形石器，台形様石器，削器，楔形石器，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片で構成される。この中で、ナイフ形石器や台形様石器の調整加工と形態的特徴には変化が認められ、下位文化層で認められた「ペン先型ナイフ形石器」類似資料のような両者の中間的形態が認められなくなる。台形様石器の形態及び調整加工の在り方にバリエイションが認められるようになり、小型でブランティングを施すものと中型で表面に平坦調整を施すもの、大型で調整加工がわずかに施され刃部と想定できる一辺に使用痕が観察されるものとが認められるようになる。このように下位石器文化との比較では、切出型ナイフ形石器を安定的に組成し、台形様石器と分類できるものにブランティングが施されるものも認められる等、石器製作における調整加工の在り方の差違がみられる。さらに、ナイフ形石器に利用される素材の形状は、縦長剥片を主体とする。このように、台形様石器製作におけるブランティングの採用や、石器群における縦長剥片の利用頻度の増加といった剥片剥離技術の変化が認められ、当該石器文化の時間的位置づけを行う際重要である。第41図５のような、直線的な刃部形態をなさないナイフ形石器や縦長剥片素材の切出型ナイフ形石器といった形態組成に類似する資料は、熊本県下城遺跡２石器文化に求めることができる。また、耳切遺跡第Ⅱ石器文化で、形態的に台形状を呈し刃部と想定できる一辺に使用痕が観察され、大まかな二次加工を施す第42図７，10，第44図23，24の資料と類似する資料が、下城２石器文化にも認められる。このことから、両者は比較的近似した時間的位置づけを行うことが可能であろう。

第4節　第Ⅲ石器文化層

1　文化層の概要

第Ⅲ石器文化層は、Ⅳａ～Ⅳｂ層から検出された。この層順は、ソフトロームに相当する。当該石器文化に属する石器は、総数146点である。遺物のピークは、Ⅳｂ層中位面～上位面に認められる。このことから、生活面はⅣｂ層中位面～上位面に設定することが可能であろう。しかし、下位石器文化と比較して組成する器種や出土した遺物の総数は少なく、石器群の様相は不明な点が多い。

当該石器文化に属する石器類は、ナイフ形石器2.1%，二次加工ある不定形石器3.4%，使用痕ある剥片5.5%であり、大半は剥片・砕片類で85.6%を占めている。このように、組成する石器類は単純で定型的な石器類は極めて少ない。このことから、当該石器文化の時間的位置づけは困難である。

2　分布と石材

第Ⅲ石器文化層に属する遺物の分布は、Ａ地点の全域に散在し、下位文化層のように特に遺物の密集する箇所は確認できないが、そのまとまりから１～15のブロックに区分が可能である（第55図Ａ，Ｂ）。

これらの石器群は、礫群や炭化物の集中部等の遺構を伴わず、接合関係も下位石器文化に比較して少ない。

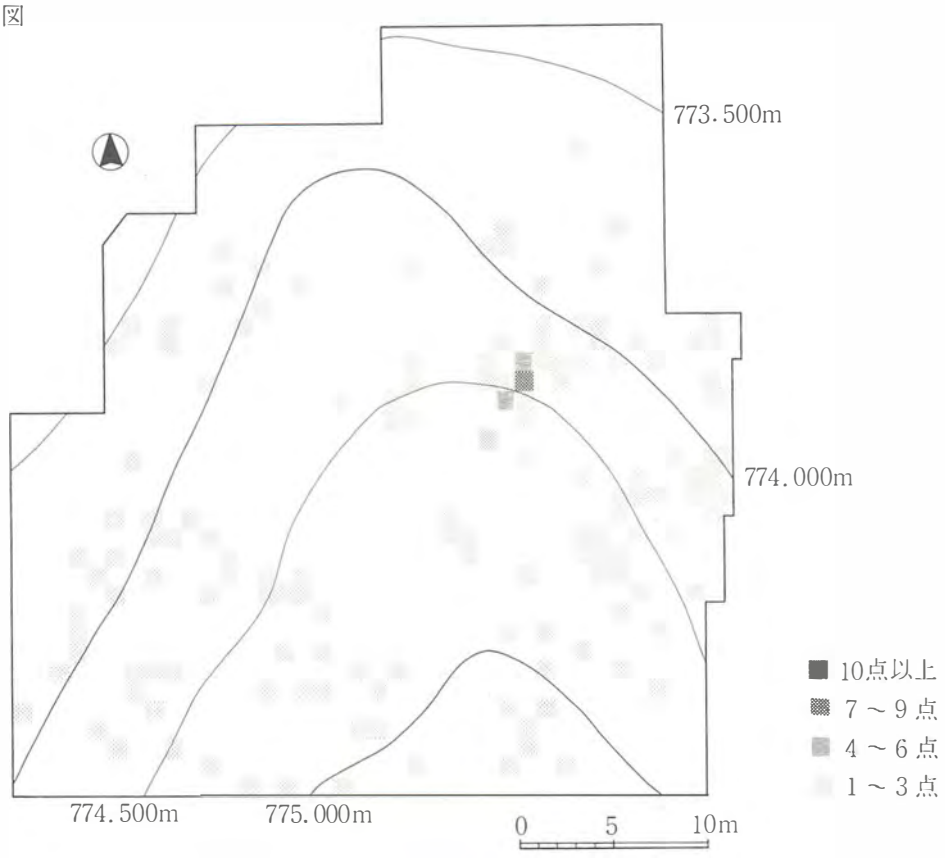
使用される石材は、黒耀石がもっとも多く全体の78.4%を占める。このように黒耀石を多用する点では、下位文化層と類似するが、その割合はさらに増加する傾向が窺える。また、その石質ごとの利用頻度ではやや差違が認められ、黒耀石Ｂ類は36.2%と利用頻度は低下しているのに対し、黒耀石Ｃ類は38.4%と増加し、両黒耀石の利用頻度が拮抗した状態を示している。また、石器類に利用される石材では、さらにバリエイションが顕著になり、西北九州産の良質の黒耀石Ａ類も認められるようになる。しかし、Ａ地点では黒耀石Ａ類は石器のみの出土で、石核及び剥片，砕片類といった石器製作を示唆するような遺物は検出されていない点は注意が必要であろう。このように石材利用の在り方は、黒耀石を多用するという共通点を保持しながら、狭雑物が多量に含まれ剥片剥離の困難な小国産黒耀石の利用頻度が増加していく傾向が窺え、また黒耀石の占める割合も下位から上位へ文化層間で徐々に増加する傾向がみられ、石材利用のバリエイションの増大と併せて特徴的である。しかし、検出された石器総数に占める剥片・砕片類の割合が極めて高く、石器類の占める割合は、8.1%と少ない。また、黒耀石Ｃ類は、検出された石器群全体の38.4%を占め、黒耀石Ｂ類とともに主体的に選択され利用されている。

しかし、石器類には同種の石材がほとんど認められず、剥片・砕片類のみが遺跡内に残されていることになる。このことは、挟雑物を多量に含むという石質に起因するものであろうか。つまり、黒耀石Ｃ類の接合資料に、剥離段階の折れが認められる資料がみられることから、比較的剥片剥離の困難な石材であり、換言すると目的剥片が得にくい石材として認識することができよう。その結果、剥片・砕片類の数量に比して石器類が少ない可能性も考えられる。

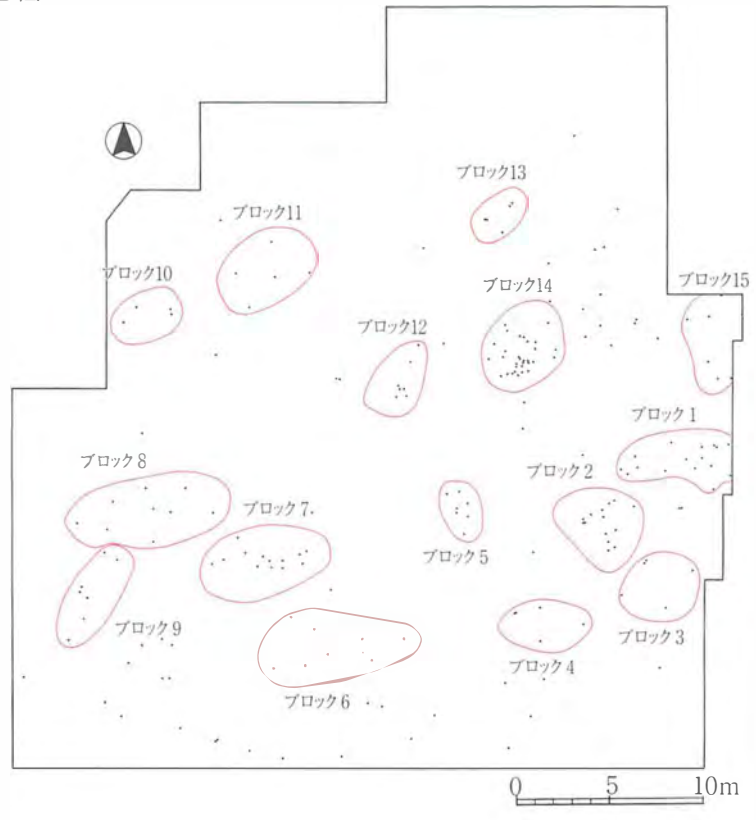
第13表　個体観察表

個体No.	石材	ナイフ	削器	楔形	二次加工	使用痕	剥・砕片	剥・砕片(折れ)	石核	備考
1	硬質頁岩						2			2303＋2367
2	黒耀石Ｄ							2		2556＋3173
3	チャート							2		2710＋2736
4	安山岩							3		2498＋3584＋3586
5	黒耀石Ｃ							2		2468＋2925

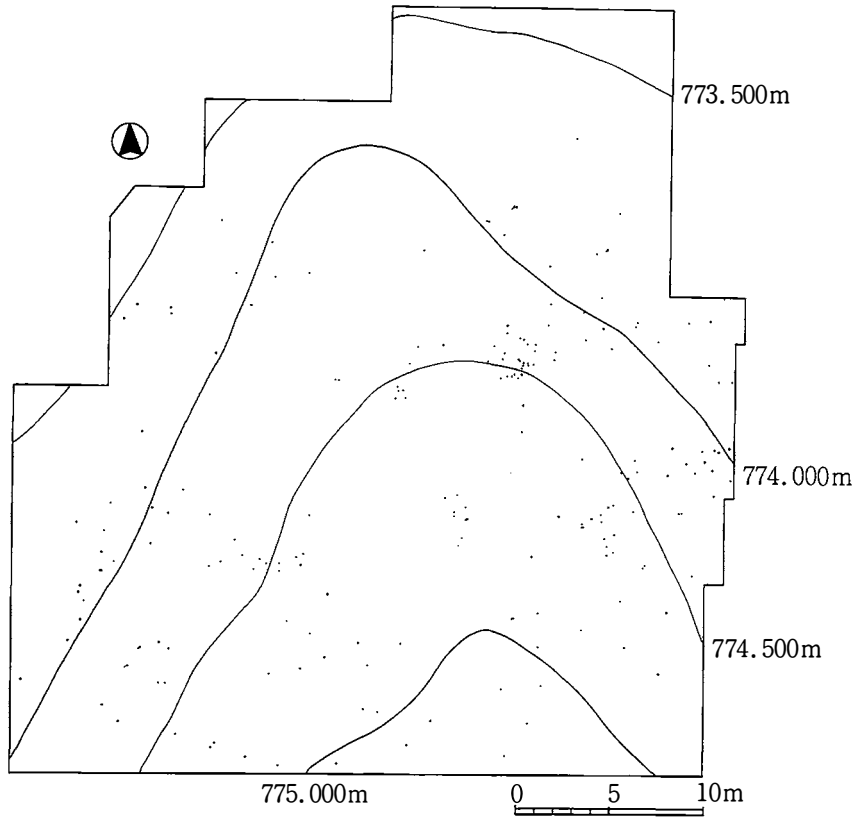
A図



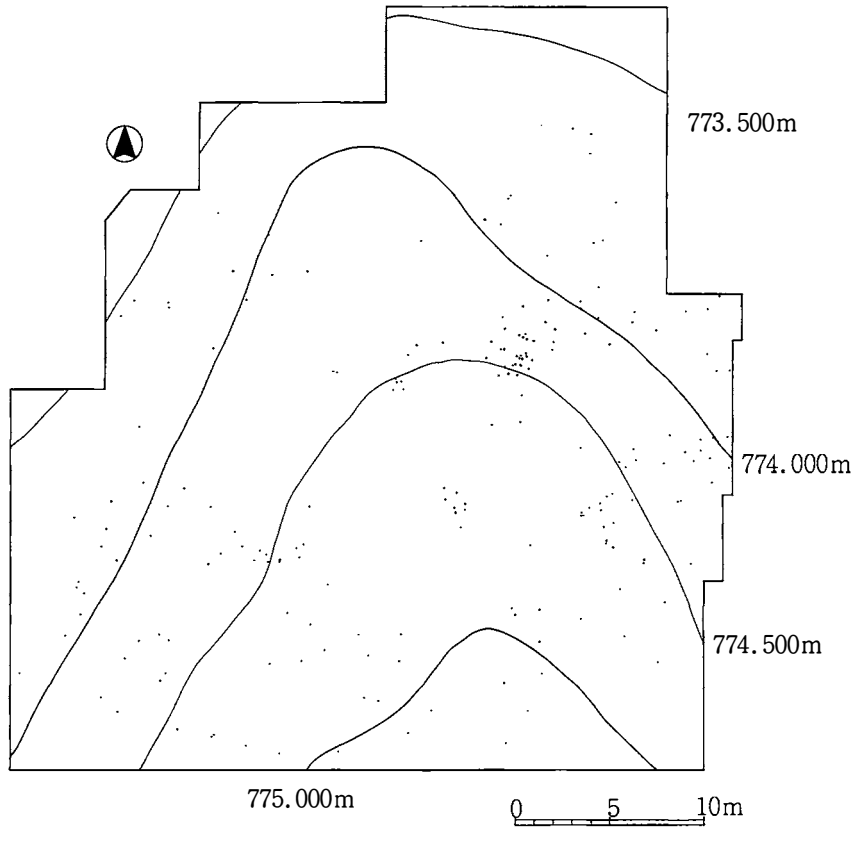
B図



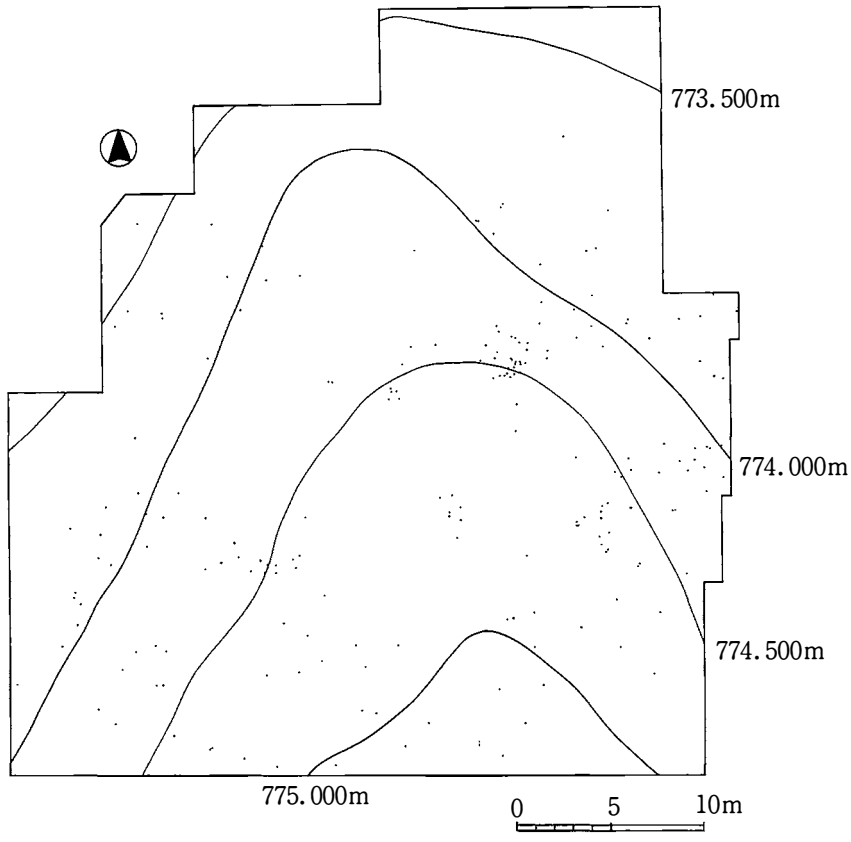
第55図　遺物分布図



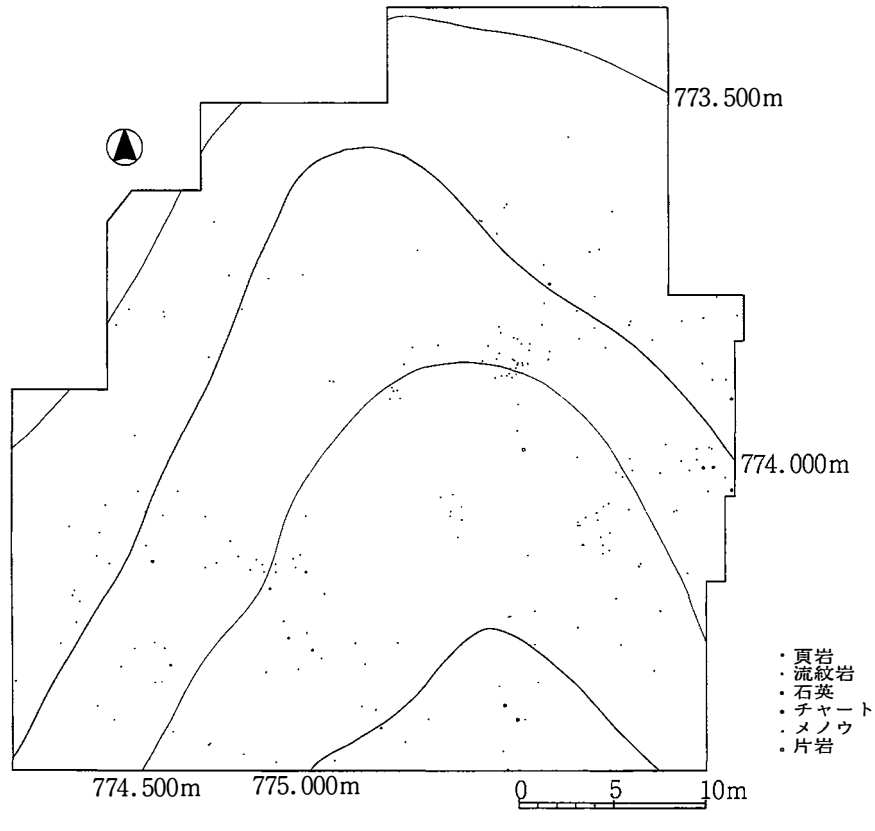
第56図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）



第57図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）



第58図　石材別分布図（安山岩）



第59図　石材別分布図（その他）

３　出土石器

第Ⅲ石器文化に属する遺物は、総数185点出土した。しかし、大半は剥片，砕片類であり、定型的な石器類等は少なく16点である。その組成は、ナイフ形石器，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片，石核，剥片，砕片で構成され、当時の石器群の全容を示しているとは考えにくい。また、石材組成では石器類に使用される石材は黒耀石Ａ～Ｄ類，安山岩，流紋岩，チャートである。しかし、当該石器文化に属する石核，剥片，砕片には、メノウ，硬質頁岩，石英，片岩系もみられ、その石材利用の在り方にはバリエイションが認められる。

以下、器種ごとに説明を行う。

ナイフ形石器（第60図１～３）

ナイフ形石器は、３点検出された。石器組成に占める割合は、18.8％である。その石材は、黒耀石Ａ類１点，黒耀石Ｂ類２点である。また、出土層位は第60図１，２がⅣｂ層で、第60図３がⅣａ層である。これらの石器の調整加工は、左右両側縁に認められ、形態的には切出型ナイフ形石器に分類できるもの（第60図２）もある。３点とも縦長剥片を素材とする点で共通する。しかし、第60図２は刃部が直線的でなく、裏面側基部に調整加工が認められ、他の２点と相違した特徴を示す。出土層位は、前述したとおりⅣｂ層であり、形態的特徴から第Ⅱ石器文化に所属する可能性も指摘できる。第60図３は、基部を欠失する資料で、そのため基部形状及び全体形は不明である。

しかし、その石材は西北九州産と考えられる狭雑物を含まない黒耀石Ａ類であり、当該文化層から他に同種の石材を利用した石器類は検出されていない。このため、同石器は搬入品の可能性が指摘できる。

二次加工ある不定形石器（第60図４）

二次加工ある不定形石器は、５点検出された。その石器組成に占める割合は、31.3％である。これらの石器のうち１点を図示した。第60図４は、幅広剥片を素材とし打点部から右側縁にかけて１面の剥離によって除去されている。この１面の剥離は、折れであるか折断であるか判然としない。左側縁に細かな調整加工を施し、使用痕は観察されない。

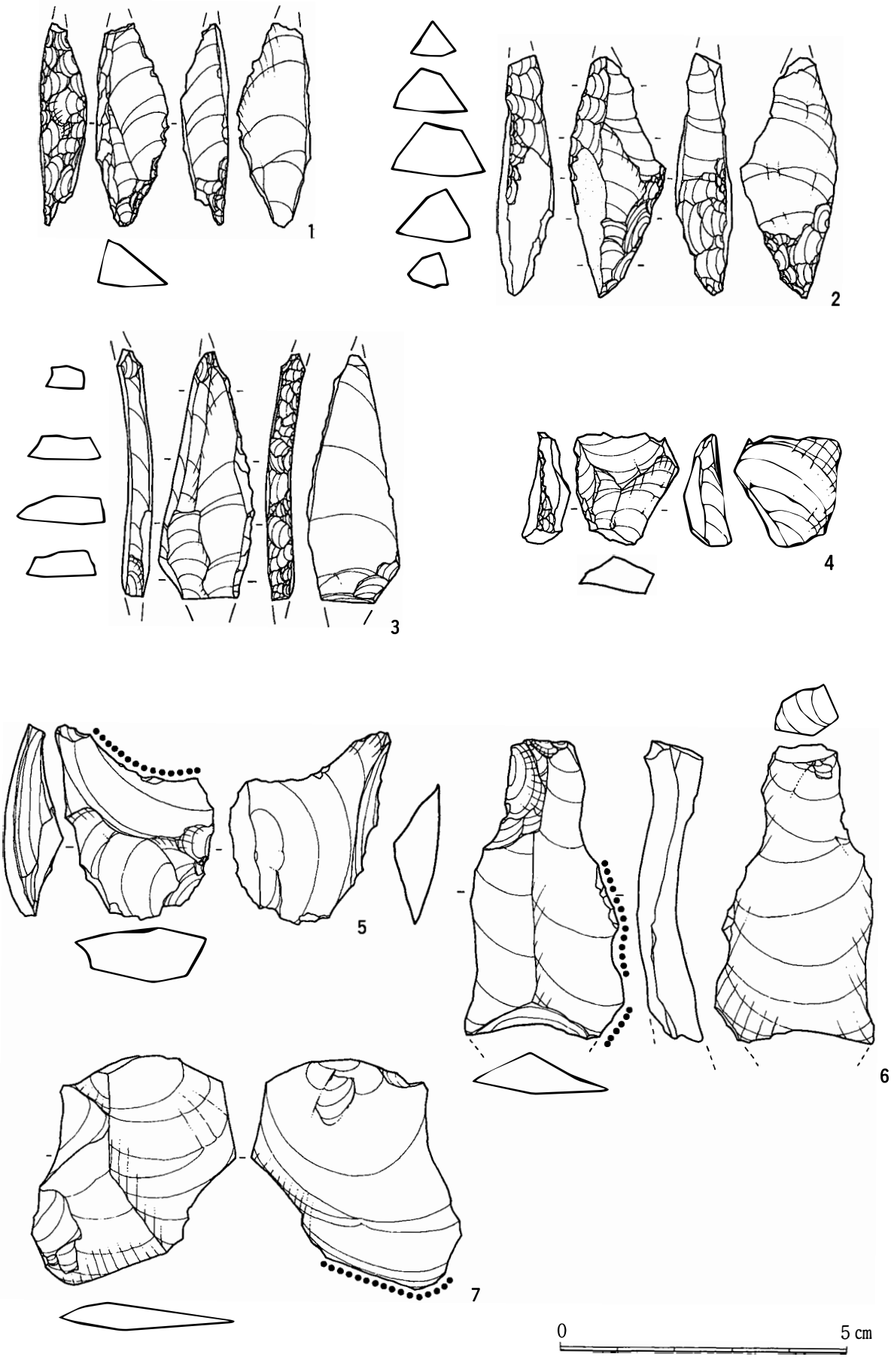
使用痕ある剥片（第60図５～７）

使用痕ある剥片は、８点検出された。その石器組成に占める割合は、50.0％である。これらの石器のうち３点を図示した。第60図５は、幅広剥片を素材とし一側縁に使用痕が観察される。打面を残し、先端部に折れ面が認められ全体形は概ね台形状を呈する。第60図６は、縦長剥片を素材とし右側縁に使用痕が観察される。先端を欠失している。単剥離面を打面とし、打面側左側縁に大まかな剥離を施している。第60図７は、やや幅広の縦長剥片を素材とし先端部に使用痕が観察される。

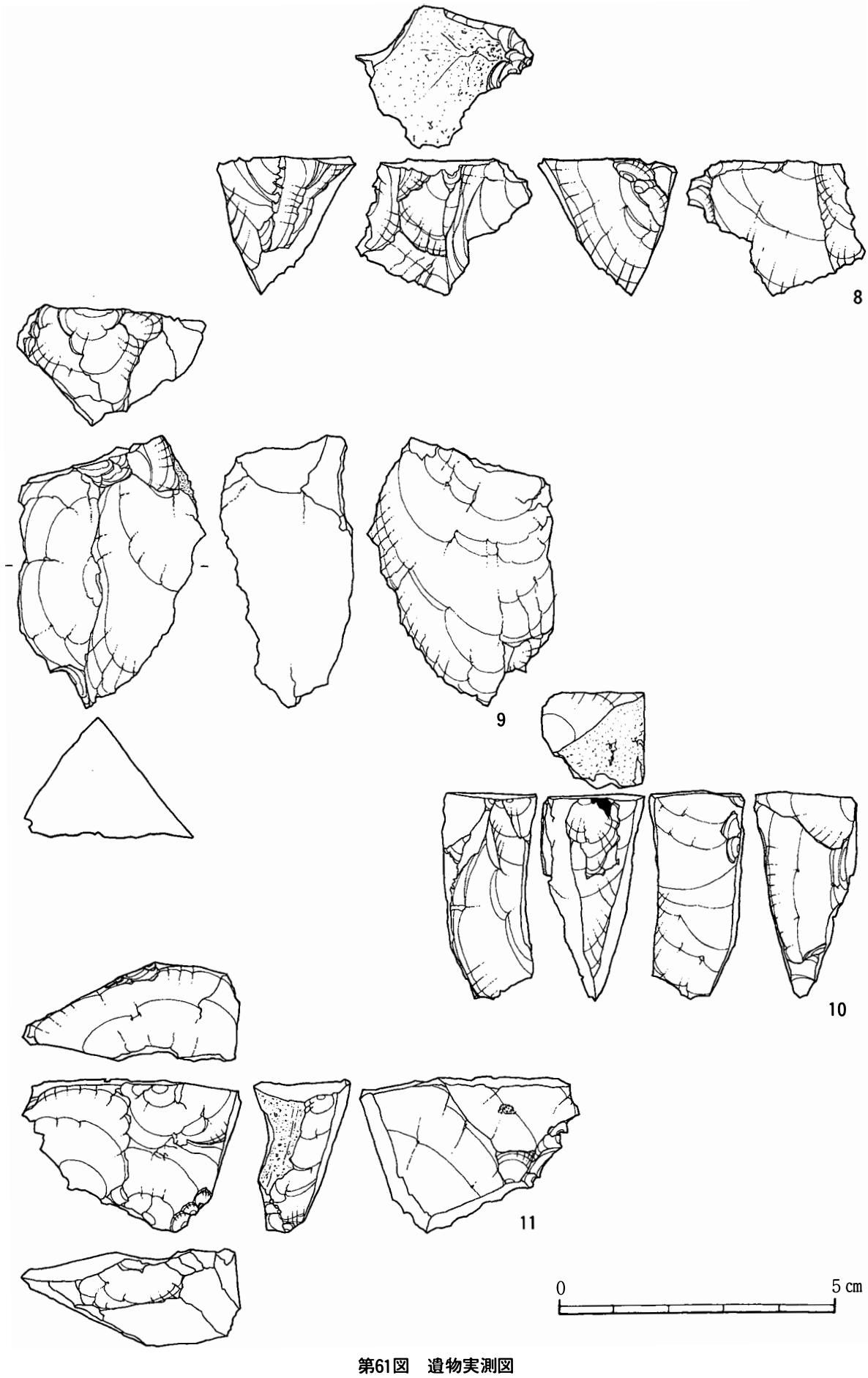
石核（第61図８～11）

石核は、５点検出された。石器全体に占める割合は、2.7％である。その石材は、黒耀石Ｂ類３点，黒耀石Ｃ類１点，安山岩１点である。第61図８，10，11は、打面と作業面を頻繁に転移する石核で、その結果形態的には多面体を呈する。これらの石核の剥離面観察から、縦長剥片と幅広剥片双方が剥離されていることが理解される。このように剥離される剥片には、規格性は認められず形態的にバリエイションが認められる。

第61図９は、厚みのある剥片を素材とし、剥離面を打面とし剥離が行われている。剥離される剥片の形状は、幅広剥片である。



第60図　遺物実測図



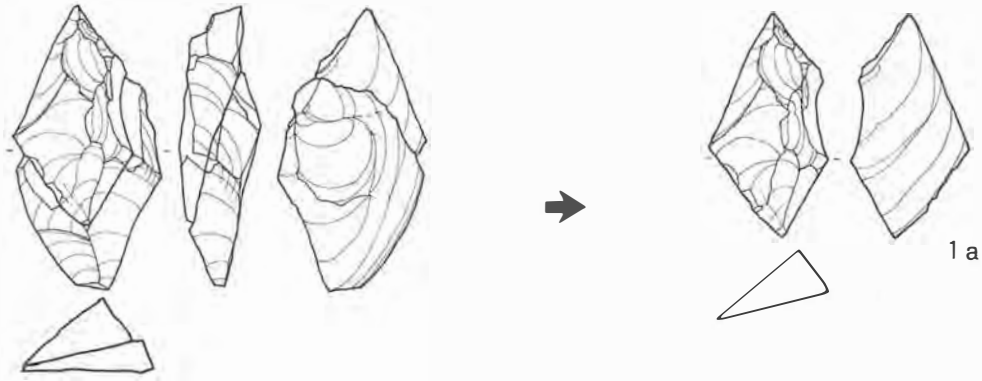
第61図　遺物実測図

4　接合資料（第62，63図）

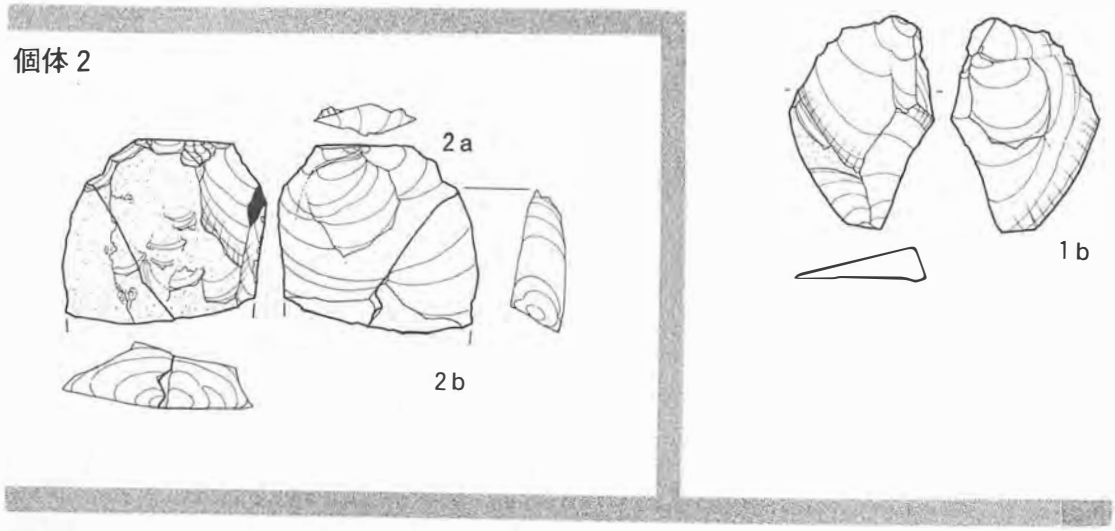
第Ⅲ石器文化に属する接合資料は、５例確認された。分布は、第64図に示している。接合資料の石材別の内訳は、黒耀石Ｃ類，黒耀石Ｄ，安山岩，硬質頁岩，チャートが各１例である。資料の大半は、同一剥片の折れ面での接合である。これらのうち個体１～４の４例について図示した。

以下、接合資料ごとに説明を行う。

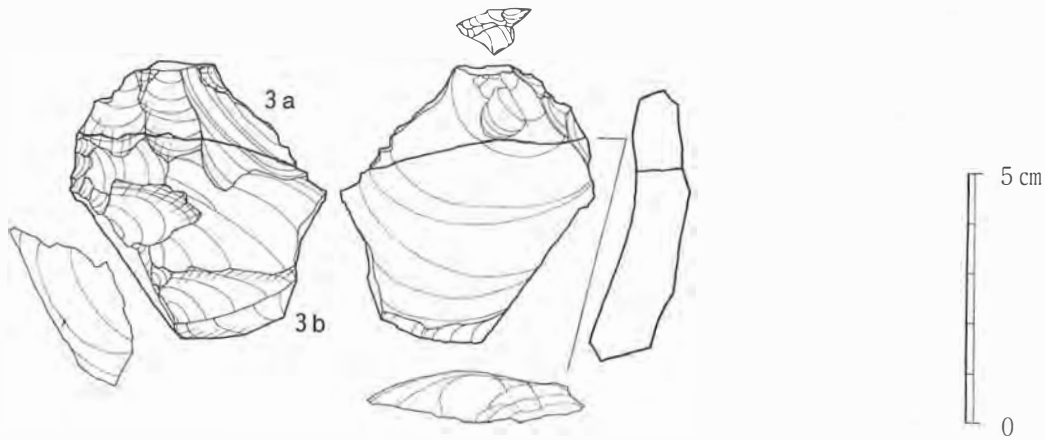
個体１



個体２



個体３



第62図　接合図

第14表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
60－1	ナイフ形石器	Ⅳb	黒耀石B	4.51	1.30	0.82	3.09		2495
60－2	ナイフ形石器	Ⅳb	黒耀石B	4.11	1.68	0.88	4.52		2499
60－3	ナイフ形石器	Ⅳa	黒耀石A	4.24	1.55	0.47	3.51		4223
60－4	二次加工ある不定形石器	Ⅳa	黒耀石C	1.90	1.87	0.56	1.72		2311
60－5	使用痕ある剥片	Ⅳa	黒耀石B	2.75	3.33	0.80	5.96		2333
60－6	使用痕ある剥片	Ⅳb	流紋岩	5.26	2.78	0.80	8.84		2470
60－7	使用痕ある剥片	Ⅳb	流紋岩	3.63	3.39	0.41	6.45		2512
61－8	石核	Ⅳb	黒耀石B	2.40	3.31	2.48	11.40		2489
61－9	石核	Ⅳb	安山岩	4.85	3.38	2.09	26.09		2785
61－10	石核	Ⅳb	黒耀石B	3.71	2.33	1.72	11.44		3569
61－11	石核	Ⅳb	黒耀石B	2.73	3.93	1.60	14.86		2959

第15表　ブロック別石器組成表

ブロック	ナイフ形	台形様	削器	楔形	二次加工	使用痕	石核	剥片	砕片	計
1		1				1		9	4	15
2					1			6	8	15
3								2	2	4
4						1		3	1	5
5								4	4	8
6								5	2	7
7	1					1		9	1	12
8						1		8		9
9					1	1		5	2	9
10							1	1	1	3
11								4		4
12								1	3	4
13							1	4		5
14								19	10	29
15							1	5	1	7
計	1	1			2	5	3	85	39	136

第16表　ブロック別石材組成表

ブロック	黒耀石B	黒耀石C	黒耀石D	黒耀石E	安山岩	メノウ	硬質頁岩	石英	流紋岩	計
1	9		1		1		4			15
2	4	2			8	1				15
3	2	2								4
4		3			2					5
5		8								8
6	3	2							2	7
7	3	2			5				2	12
8	5	3						1		9
9	7	1					1			9
10	3									3
11	1	3								4
12	1	2		1						4
13	2	3								5
14	2	27								29
15	2	1		1	2		1			7
計	44	59	1	2	18	1	6	1	4	136

個体１（第62図）

個体１は、１ａ，１ｂの２点が接合した資料で、その石材は硬質頁岩である。２点とも先行する剥離面を打面とし剥離が行われている。また、両者の表面に90°剥離方向の違う剥離面が観察される。このことから石核の形態は、多面体を呈し打面と作業面を頻繁に転移する剥離工程を有していたと推測される。２点の観察から打点をやや後退させて１ａ→１ｂの順序で剥離されたことが理解される。１ｂ表面にわずかに礫面を残す。

個体２（第62図）

個体２は、同一剥片の折れ面による接合であり、先端部を欠失している。その石材は、黒耀石Ｄ類である。表面に大きく礫面を残し、単剥離打面から剥離された縦長剥片である。接合面は、左側縁上部から先端方向中央に向け斜めに認められる。このことから、この剥片が２点以上に分割していることが理解される。

また、ａ，ｂ下半の折れ面は裏面側からの力によって折れたことを示し、両者の接合面も前述した折れ面からの力の伝わりを示している。このことから、接合しなかった折れ面の折れと両者の接合面は、同時に加わった力によって折れたと理解される。つまり、これらの折れ面は折断によるものである可能性が指摘できる。

個体３（第62図）

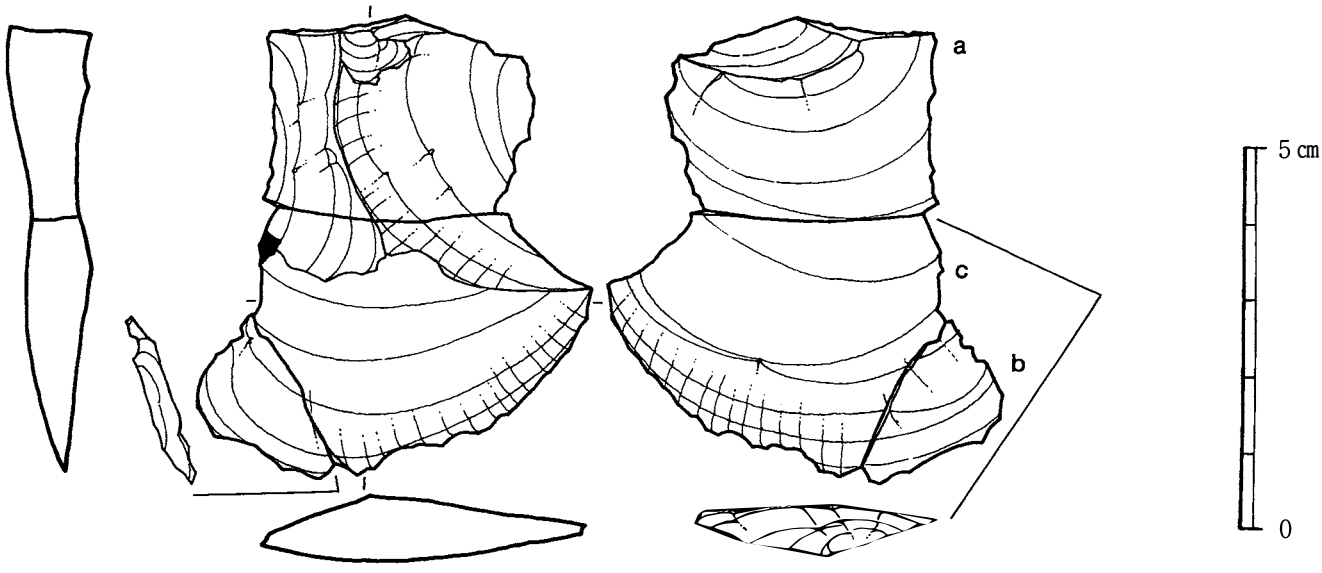
個体３は、同一剥片の折れ面による接合である。その石材は、チャートである。接合面は、打瘤部近くにほぼ横位に観察される。その折れ面は、裏面側左側縁によった位置からの力の伝わりを示している。また、折れの後に施されたと考えられる剥離面は存在せず、このことから折断であるか判然としない。

個体４（第63図）

個体４は、同一剥片が折れ面によって接合した資料である。その石材は、安山岩である。

接合面は、ａ－ｃ，ｂ－ｃに認められ、同一剥片が３点に分割されている。それぞれの接合面は、裏面側からの力の伝わりを示している。しかし、これらの後に施された剥離面は存在しない。このことから、折断であるかは判然としない。

個体４



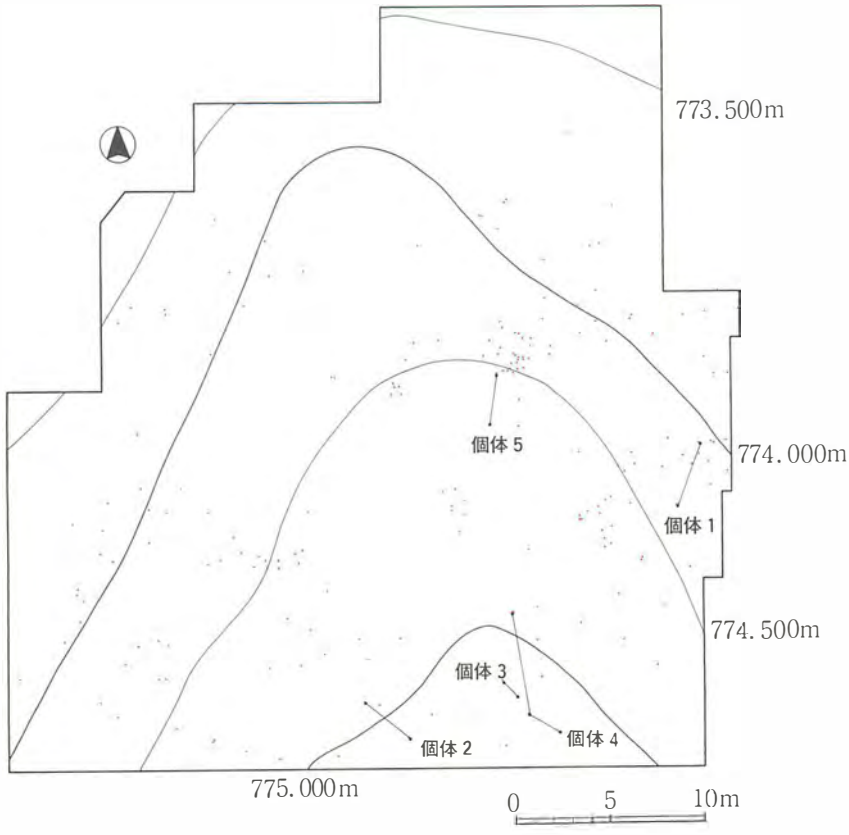
第63図　接合図

５　本文化層の位置づけ

第Ⅲ石器文化層では、礫群を伴わず185点の石器群を検出した。出土層位は、Ⅳａ，ｂ層である。この層位は、ソフトローム層に相当する。Ａ地点は、近年造成が行われ、特に調査区南側では大きく削平され、すでにソフトローム層が失われ、暗色帯（Ⅵｂ層）が露出している部分も認められた。そのため、下位石器文化層と比較してやや北に偏った分布域を示し、全域に散在する傾向にある。しかし、数量的には少ないものの、遺物のまとまりとして１～15のブロックに区分した。接合関係は、前述したとおり同一剥片の折れ面によるものであり、剥片剥離工程を復元できるものや、ブロック間の関係性を示すものは認められない。しかし、各ブロックの石材組成から①黒耀石Ｂ類が卓越するもの（ブロック１，９，10）、②黒耀石Ｃ類が卓越するもの（ブロック４，５，14）、③両者が拮抗しているもの（ブロック２，３，６～８，11～13，15）の３つに区分が可能であろうか。また、硬質頁岩はブロック１に集中し、安山岩はブロック２，７に集中する。ブロック別の石器組成は、第15表に示している。石器類の43.7％は、ブロック外からの検出である。特に搬入品である可能性が高い黒耀石Ａ類のナイフ形石器（第60図３）はブロック２，３間で検出され、ナイフ形石器を組成にもつブロックはブロック別では、石器類の偏在等の傾向は認められないが、剥片・砕片のみが集中するブロック（３，５，６，10～15）も認められる。

検出された石器類は、ナイフ形石器，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片という単純な組成で、数量的に少なく本文化層の全体像を示しているとは言い難い。そのため、時間的位置づけは難しい。

出土層位のピークは、ソフトローム層中位面～下位面に存在することから、同様の層位から検出される石器群との比較検討が必要であろう。また、同遺跡Ｃ地点において同層位から石器群が検出されており、双方の比較と時間的位置づけ及びその関係性の検討も必要であろう。



第64図　接合関係図

第5節　縄文時代

1　遺構とその分布

A地点の調査で、Ⅲａ～Ⅲｃ層から縄文時代に属する集石遺構５基，配石土坑１基，土坑15基を検出した。遺構の分布は、北西方向に延びる丘陵平坦面上にはみられず、平坦面から東西の谷部への緩傾斜地及びその変化点周辺部に認められる。

以下、各遺構ごとに説明を行う。

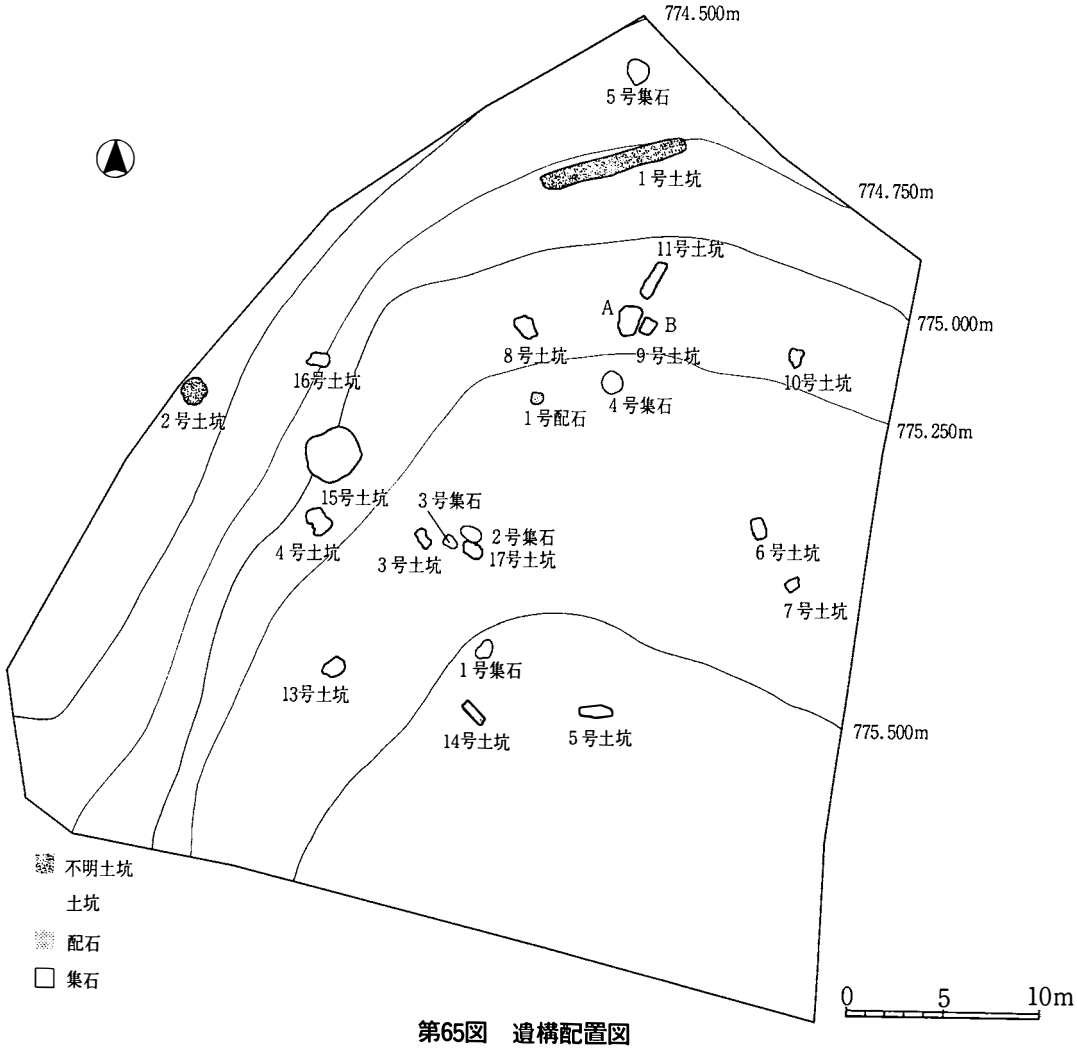
（1）集石遺構

1号集石遺構（第66図）

G，H－３，４区で検出され、確認面はⅢｂ層上面である。0.8×0.7mの範囲に24個の礫が集中し、その礫の大きさは10～15㎝で構成される。検出された礫は、すべて火熱を受けたものと思われ赤化している。特に、B－B′線上西端の扁平な礫は、著しく赤化し破砕している。これらの集石遺構の礫周辺には、微細な炭化物が確認された。

2号集石遺構（第68図）

G－４区で検出され、１号集石遺構とは約５mの位置にある。検出面は、Ⅲｂ層である。1.2×0.8mの長楕円形を呈する土坑に、総数100個を越える礫が集中する。その礫の大きさは、拳大～人頭大の破砕礫，扁



第65図　遺構配置図

平礫で構成される。全体的に、火熱を受けたと思われ赤化した状態で検出された。特に、大型で扁平な礫は、著しく赤化しレンガ色を呈している。

土坑の形態は、前述したとおり長楕円形を呈し、礫の集中は南東側に偏って認められる。　また、北西側で礫の検出レベルがやや低くなる傾向が窺える。土坑の深さは、約0.2mを測る。埋土は、土色，土質の違いから①，②層に細分できる。①層は、黒褐色を呈しⅢｂ層に類似するが、土質は固くしまらずフカフカした状態を示す。土層中に１～２㎜大の炭化物を含んでいる。同層はさらに分層できる可能性もあるが、礫が密に集中するため確認できなかった。②層は、暗褐色を呈し土質は固くしまっている。炭化物は確認されず、５㎜前後の黄褐色土をわずかに含んでいる。同層中には、ほとんど礫を含まない。

３号集石遺構（第66図）

Ｇ－４区で検出され、２号集石遺構とは約0.5mの位置にある。検出面は、Ⅲｂ層である。0.9×0.6mの不整形の土坑を有し、深さは0.2mである。その東側に偏って17個の礫が検出された。礫の石材は凝灰岩で、火熱を受けたものと思われやや赤化した状態を示す。しかし、１，２，４，５号集石遺構と比較して著しく赤化してレンガ色を呈するものは、確認されなかった。

埋土は、細分するほどの著しい相違は認められない。土色は、暗褐色で微細な炭化物を含んでいる。その土質は、粒子が細かく柔らかい。しかし、床面近くで徐々にしまりが認められるようである。遺物等は、検出されなかった。

４号集石遺構（第66，67図）

Ｆ－３区で検出され、確認面はⅢｂ層である。礫の広がりは、1.5×1.2mの範囲に認められ、特に0.8×0.8mの範囲に密集する状態で検出された。土坑の規模は、1.0×0.9mの不整形の円形を呈し、深さは約0.2mを測る。上部で検出された礫は、すべて火熱を受けたと思われ赤化している。その中で、特に赤化が著しくレンガ色を呈する礫も８個程度確認された。礫の大きさは、10～15㎝程度の破砕礫，扁平礫である。

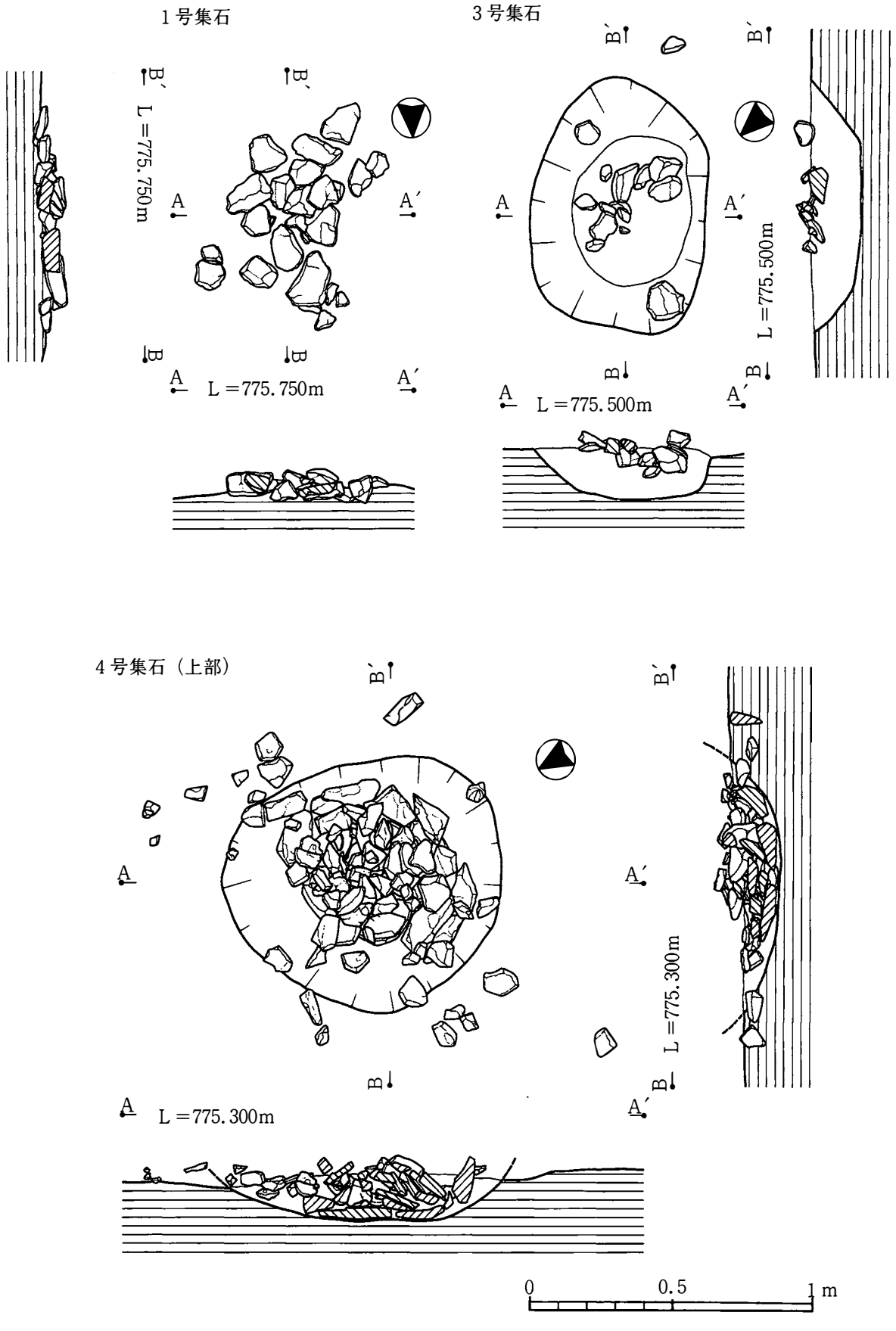
これらの礫の下部から、18個の大型の扁平礫を配した石組炉が検出された。この石組炉は、深さ0.2mに掘り込まれた土坑のほぼ中央に40×20㎝の扁平礫を配置し、その周囲に10×30㎝の扁平礫を配置し作り上げられている。そのため、土坑の壁面部と接する礫は急角度で立ち上がる。しかし、北西部では土坑壁面の立ち上がりが緩やかで、石組炉を構成する礫の立ち上がりが認められない。また、上部を構成する小礫も北西方向に火熱を受けたと思われる赤化した礫が散在する状態が認められたことから、同集石遺構の焚き口が北西部に設定されていた可能性が指摘できる。また、石組炉の構成礫のうち、北西部のものは著しく火熱を受けたものと思われ、赤化し部分的に剥落した面が観察された。

埋土は黒色～黒褐色を呈し、やや粘性をおびる。わずかに微細な焼土粒及び炭化物を含んでいる。

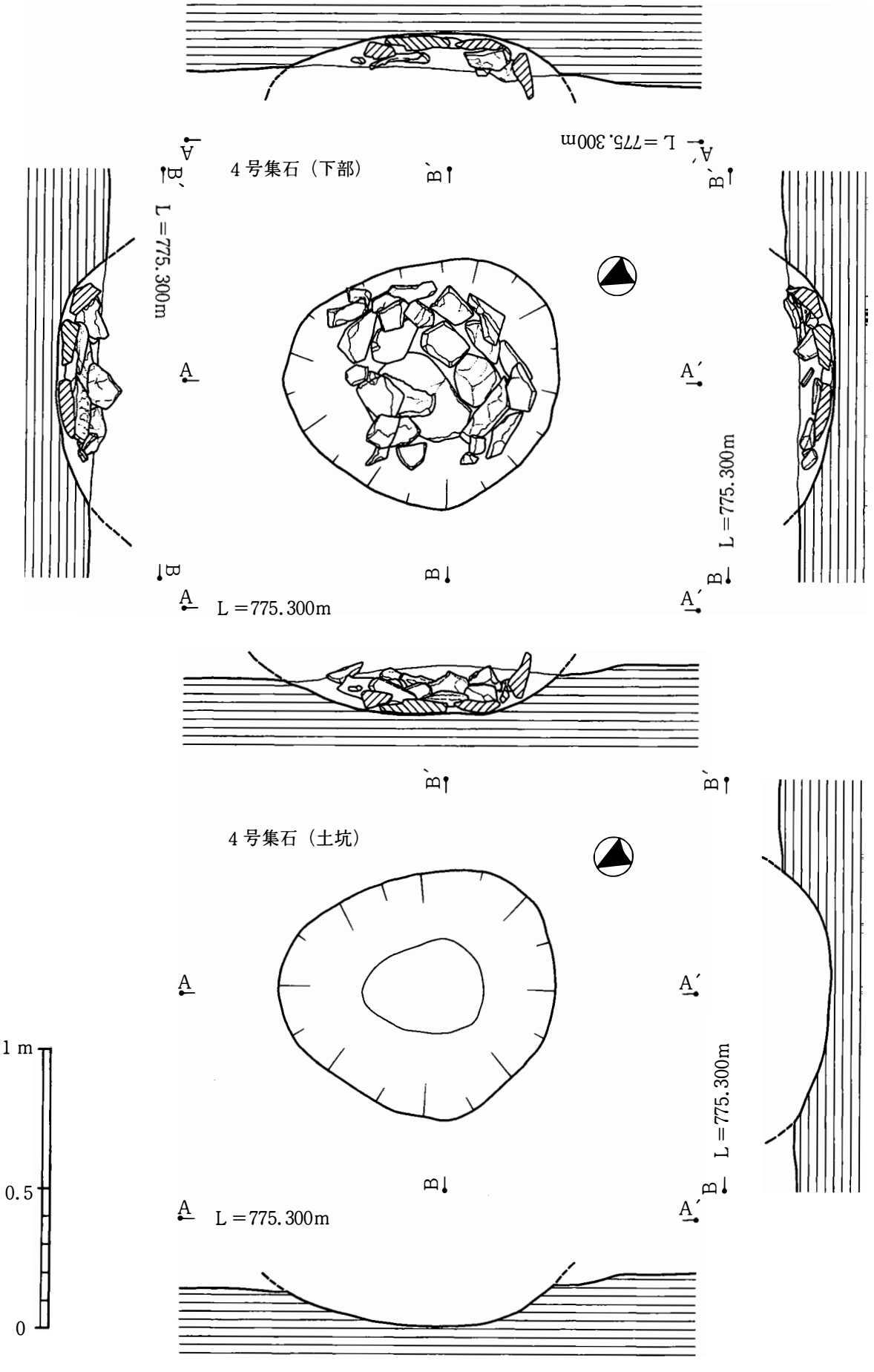
５号集石遺構（第69図）

Ｅ－３区で検出され、礫の広がりは1.0×1.1mのほぼ円形状に集中する。遺構の検出面は、Ⅲｂ層である。礫の大きさは、５～25㎝の亜角礫である。これらの礫は、火熱を受けたと思われ赤化し破砕したものも観察された。北西部にやや礫の集中が希薄になる部分が認められ、集石遺構の同方向周辺において礫の散布も認められた。

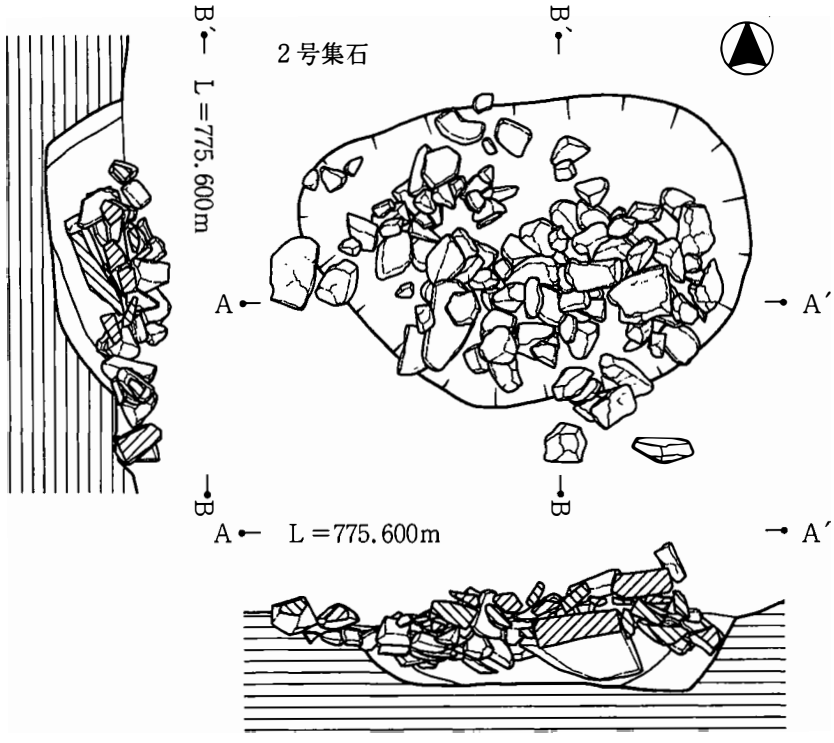
このことから、４号集石遺構と同様の焚き口方向を考慮することが可能であろう。同遺構は土坑を有しその規模は、1.1×1.3mのほぼ円形状を呈し、その深さは約0.2mである。埋土は黒褐色土でしまりがなくフカフカした状態で、微細な炭化物をわずかに含んでいる。

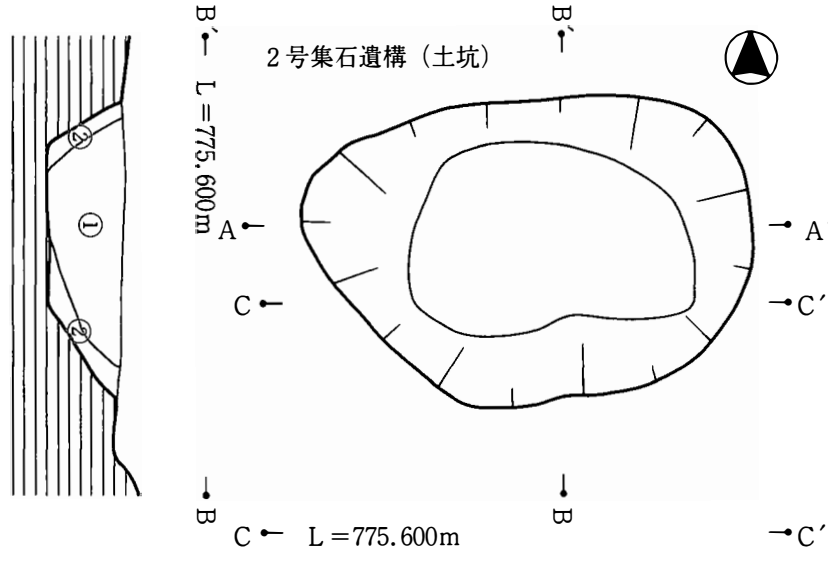


第66図　集石遺構実測図



第67図　集石遺構実測図



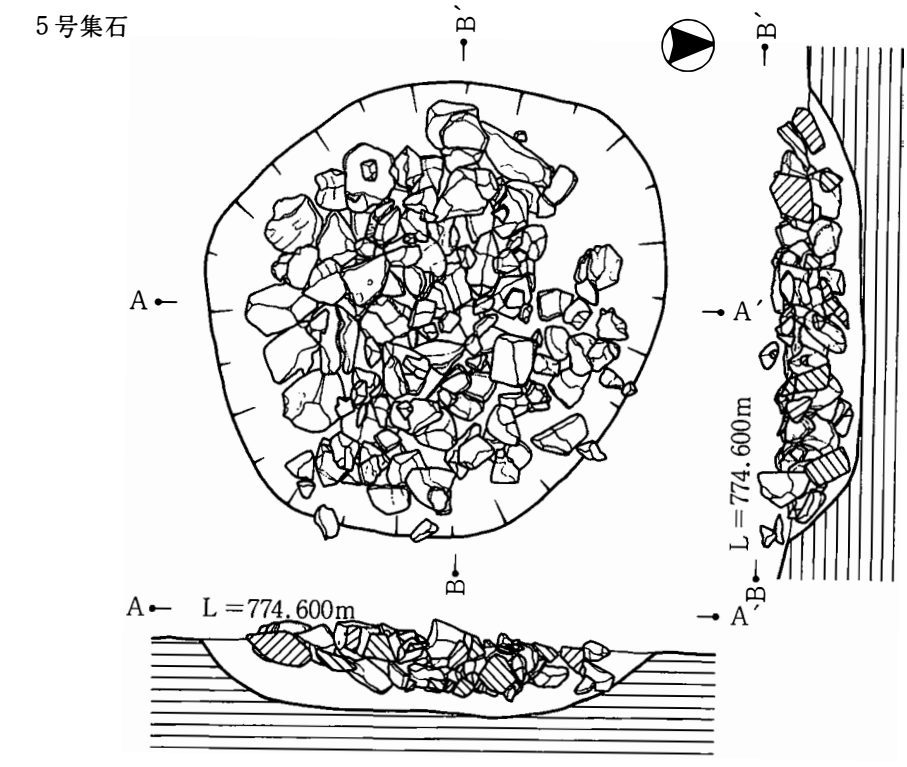


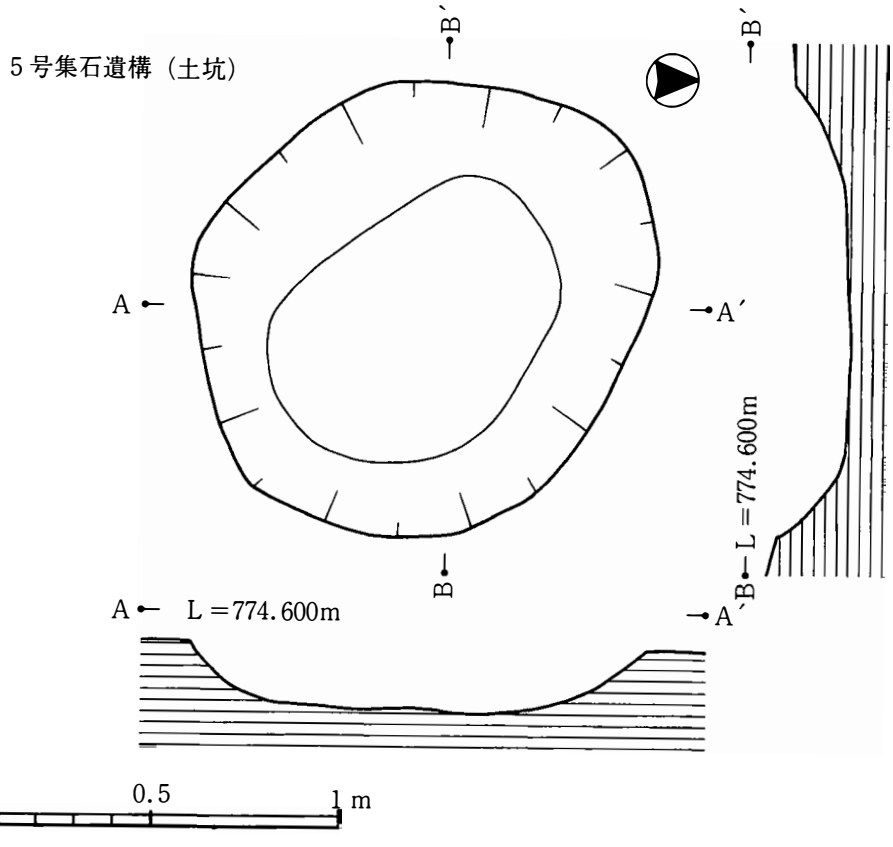
①土色は、黒褐色を呈し、Ⅲb層と類似するが、土質は固くしまらずフカフカした状態で、1～2㎜大の炭化物を含んでいる。さらに細かく分層できる可能性があるが、礫集中が密なため確認できなかった。

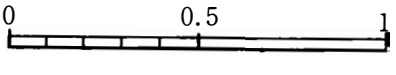
②土色は暗褐色を呈し、土質は固くしまっている。炭化物は含まず5㎜前後の黄褐色土をわずかに含む。
②層には、ほとんど礫を含まない。

0　0.5　1 m

第68図　集石遺構実測図





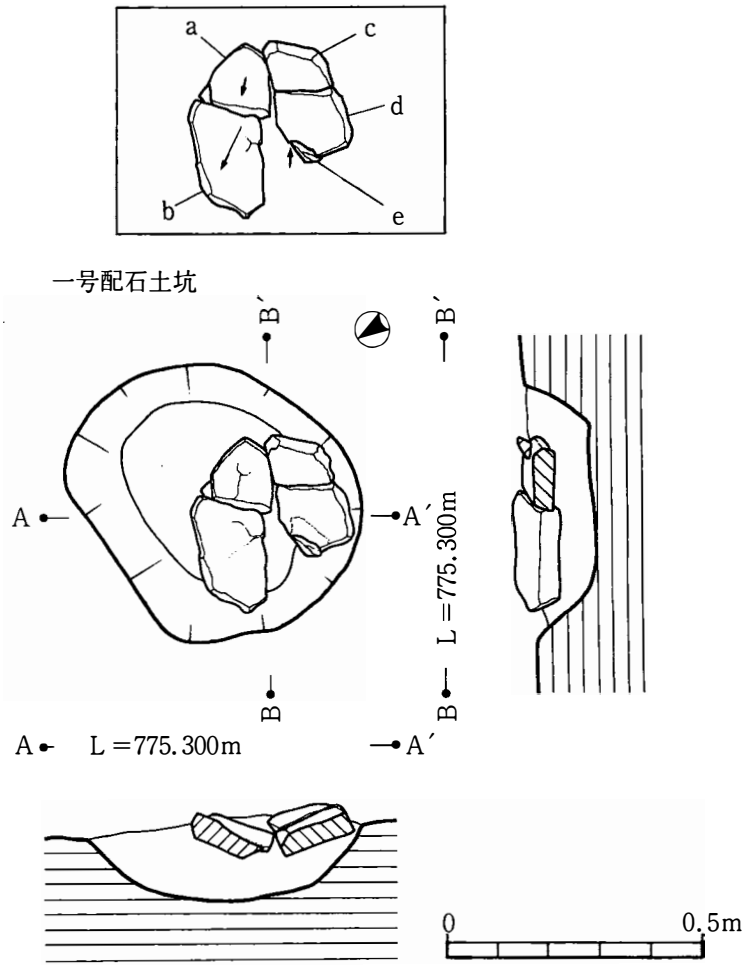


第69図　集石遺構実測図

（2）配石土坑

1号配石土坑（第70図）

F－3区で検出された。0.6×0.5mの楕円形の土坑に、5個の扁平礫を配している。遺構はⅢb層で検出され、礫の位置は土坑の西側に偏在した状況で確認された。これらの礫は、接合し同一個体であることが確認された。礫は土坑中央に向け、落ち込んだ状況を呈している。その接合関係から、平面図で大きく見える4個の礫の接合面は北東－南西，南東－北西の軸でほぼ直角に交わる2つの辺を構成する。礫は割れた後土坑中央部に向かってa，bの2点が北北西方向に滑り、b，dと接合するeは、南方向に滑りdの下に潜り込む状態で検出されている。このことから、礫は配置された状態からやや土坑中央部へ移動したことが考えられる。



第70図　1号配石土坑実測図

土坑の深さは0.15mである。埋土は、黒褐色でⅢb層に類似するが土質は柔らかく部分的にⅣa層をブロック状に含んでいる。また、礫は火熱を受けたものと思われ赤化している。しかし、埋土中から炭化物は検出されなかった。

（3）土坑

3号土坑（第71図）

G－4区で検出され、その規模は長軸1.0m×短軸0.6m，深さ0.6mを測る隅丸の長方形を呈する土坑である。検出面は、Ⅳa層上面である。土坑の床面は、平坦ではなくやや凹凸が認められ、小穴等は確認できなかった。埋土は、土色，土質の違いから2層に細分できる。①層は、黒褐色を呈し粒子は細かく固くしまっている。土色及び土質は、Ⅲb層に類似するが部分的にⅣa層がブロック状に認められる。②層は、褐色を呈し粒子は細かく粘性を帯び固くしまった土質である。Ⅳa層の1㎜大の粒子を均一に含んでいる。

4号土坑（第71図）

G－4区で検出され、その規模は長軸1.3m×短軸1.1m，深さ0.4mを測る不整形の長楕円形を呈する土坑である。床面は、凹凸が著しく平坦ではない。長軸方向のA側端とA´側端を樹根により確認できない。埋土の状況は、その土色及び土質の違いから5層に細分した。全体的にⅢb～Ⅳa層に類似した状態であるが、それぞれの層はやや濁りが認められる。①層は、黒色を呈し粒子が細かく固くしまった土質である。色調は、Ⅲb層に類似するが、わずかにⅣa層を1㎜大の粒子で含んでいる。②層は、暗褐色を呈し土質は柔らかくしまりがない。③層は、黒褐色を呈し粒子は細かくややしまった土質である。④層は、暗黄褐色を呈

し粘性が強い。⑤層は、黒褐色を呈し粒子は細かくやや粘性を帯び、固くしまった土質である。微細な炭化物を微量に含んでいる。確認面は、Ⅲｃ層上面である。しかし、埋土の状況からⅢｂ層からの掘り込みである可能性が高い。遺物等は、検出されなかった。

５号土坑（第72図）

Ｈ－３区で検出され、長軸1.7m×短軸0.7m，深さ0.7mを測る隅丸の長方形の土坑である。短軸方向は、上端より下端が内側に入り込み、長軸方向は上端より下端の方がせり出し断面形がフラスコ状を呈する。底部床面は、ほぼ平坦である。確認面は、Ⅲｃ層であるが、埋土の状況からⅢｂ層中からの掘り込みであると考えられる。また、埋土から塞ノ神式土器の破片及び黒耀石の剥片，砕片が検出された。埋土は、その土色及び土質からⅣ層に細分した。

６号土坑（第72図）

Ｇ－２区で検出され、長軸1.0m×短軸0.8m，深さ0.6mを測る隅丸の長方形を呈する土坑である。土坑北西側に、やや棚状の段をもつ。東西及び南側の壁面は垂直に近い状態で立ち上がるが、北側壁面はやや角度が緩く立ち上がる。底部床面はほぼ平坦である。埋土は、土色及び土質の違いから４層に細分できる。

遺物等は、検出されなかった。

７号土坑（第77図）

Ｇ－２区で検出され、長軸0.85m×短軸0.6m，深さ0.6mを測る長方形を呈する土坑である。壁面は、垂直に近い状態で立ち上がり、底部床面はほぼ平坦である。埋土は、土色及び土質の状態から３層に細分できる。①層は、褐色を呈し粒子が細かくパサパサしてしまりがない。微細な炭化物を多く含む。②層は、暗褐色を呈し土質は①層と類似する。微細な炭化物を含む。③層は、暗褐色を呈し粒子は細かく粘性を帯びる。炭化物は、ほとんど含まない。埋土中から遺物及び焼土等は検出されなかった。

８号土坑（第73図）

Ｆ－３区で検出され、長軸1.3m×短軸0.9m，深さ0.2mの長楕円形を呈する土坑である。この土坑の長軸方向は、ほぼ南北方向でありその上部に東西方向に約45°軸をずらした盛り土と考えられる遺構が確認された。盛り土と土坑埋土は、共通し連続している。そのため両者が同一の遺構を構成していることが理解でき、４層に細分できる。

９号土坑（第74図）

Ｆ－３区で検出された遺構であり、上部に盛り土，下部に土坑が２基検出された。盛り土は、長軸1.7m×短軸1.1mの範囲に不整形の楕円形状で確認された。盛り土部分は、Ⅲｂ層で検出され色調は黄褐色系で明確に区分できるものであった。また、下部西側の土坑とは、土層が共通し連続する状態が確認され、同一の遺構を構成していたことが指摘できる。西側の土坑の規模は、長軸1.8m×短軸1.35m，深さは最大で0.3mであり、不整形の長方形を呈する。この土坑の長軸は、盛り土の長軸と90°の位置関係にある。東側の土坑は、長軸0.6m×短軸0.5mのほぼ正方形を呈する土坑で、深さ約0.3mを測る。

10号土坑（第75図）

Ｆ－２区で検出され、長軸0.9m×短軸0.75m，深さ0.5mの不整形の土坑である。底部床面は、やや凹凸

がみられる。遺構はⅢｂ層で検出され、その埋土は土色及び土質の違いから３層に細分できる。①層は、黒色を呈しⅢｂ層に類似するが、わずかに微細な黄褐色粒を含む。②層は、暗黄褐色を呈ししまりがなく柔らかい土質である。③層は、黄褐色を呈し土質は固くしまりがある。やや粘性を帯び、１㎜大の黒色土の粒子を含んでいる。

11号土坑（第75図）

Ｆ－３区で検出され、長軸2.1m×短軸0.6m，深さ1.0mを測る長方形を呈する土坑である。Ⅲａ層下位面で検出された。２つの短辺の壁面は、上端より下端の方が外側にせり出し、そのため長軸の断面形はフラスコ状を呈する。長辺の壁面は、垂直に近い状態で立ち上がる。埋土は、土色及び土質の状態で６層に細分できる。土坑の形態は、５号土坑に類似する。

13号土坑（第76図）

Ｈ－４区で検出され、長軸1.3m×短軸0.7m，深さ0.7mを測る不整形の土坑である。長辺，短辺とも壁面は、垂直に近い状態で立ち上がる。底部床面は、平坦である。Ⅲｂ層から検出された。埋土は、土色及び土質の違いから３層に細分できる。①層は、暗褐色を呈し粒子が細かくパサパサとした土質である。②層は、暗褐色を呈し①層に比べてやや明るい。ブロック状の黄褐色粘質土を含む。③層は、暗黄褐色を呈し土質は柔らかくしまりがない。

14号土坑（第76図）

Ｈ－４で検出され、長軸1.4m×短軸0.6m，深さ0.4mを測る隅丸の長方形を呈する土坑である。検出面は、Ⅲｂ層である。長辺，短辺の壁面は垂直に近い状態で立ち上がる。底部床面はやや凹凸がみられ、長軸方向の南西から北東へ向かって傾斜している。埋土は、土色及び土質の違いにより５層に細分できる。

①層は、暗褐色を呈し粒子が細かく、ややサラサラとした土質である。②層は、褐色を呈し①層に比べて色調は明るくやや粘性を帯びる。③層は、暗褐色を呈し粘性を帯びる。④層は、黄褐色を呈し土質は柔らかくしまりがない。⑤層は、暗黄褐色を呈し粒子は細かく固くしまった土質である。

15号土坑（第77図）

Ｆ，Ｇ－４区で検出され、長軸3.0m×短軸2.5m，深さ1.2mを測る長楕円形を呈する土坑である。

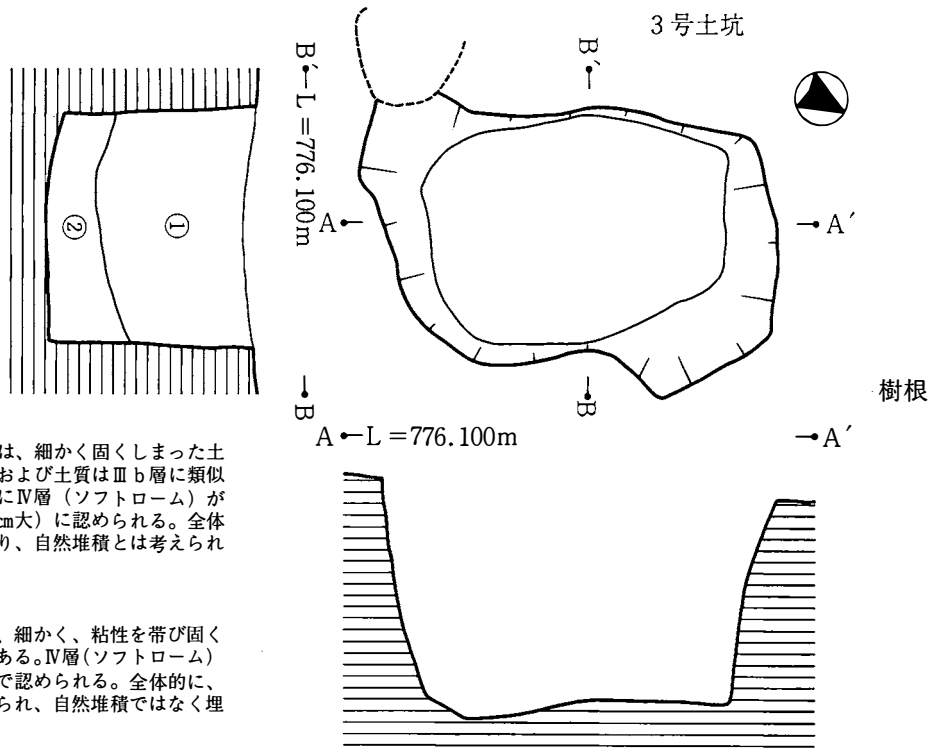
Ⅲｂ層で検出された。埋土は、土色及び土質の違いから８層に細分できる。

16号土坑（第78図）

Ｆ－４区で検出され、長軸1.0m×短軸0.6m，深さ0.7mを測る隅丸の長方形を呈する土坑である。検出面は、Ⅲｂ層である。長辺，短辺の壁面は、ほぼ垂直に近い状態で立ち上がる。埋土は、土色及び土質の違いから４層に細分される。①層は、暗褐色を呈し微細なＡｈ火山灰の粒子を含んでいる。②層は、黒褐色を呈し粒子は細かい。③層は、暗褐色を呈し粘性が強くしまりがある。④層は、黒色を呈し粒子は細かい。

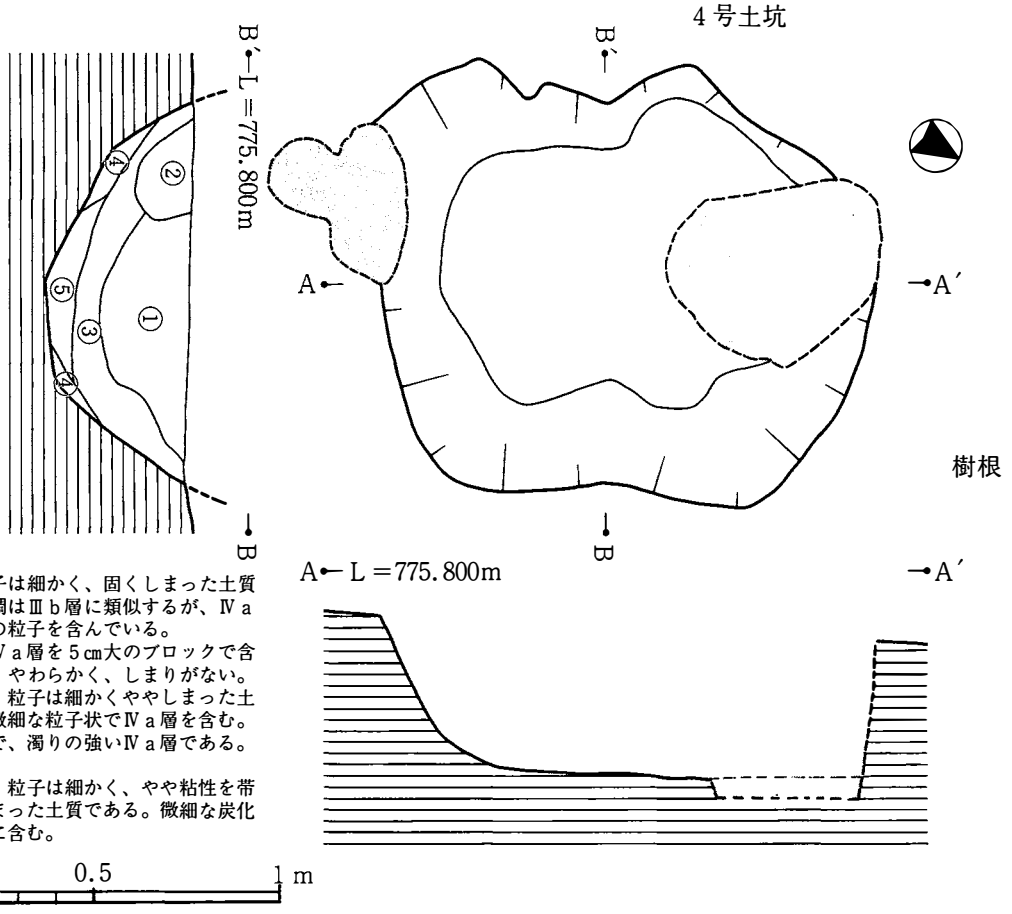
17号土坑（第78図）

Ｇ－４区で検出され、長軸0.85m×短軸0.7m，深さ0.35mを測る円形状の土坑である。検出面はⅢｃ層である。土坑の底部から黄白色を呈する粘質土が検出され、その厚さは５～15㎝である。この黄白色を呈する粘質土は、遺跡内の土層中には認められないものであり、遺構製作時に持ち込まれ貼り付けたものと考え

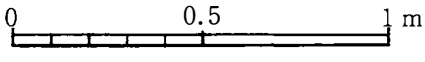


①黒褐色土。粒子は、細かく固くしまった土層である。土色および土質はⅢｂ層に類似するが、部分的にⅣ層（ソフトローム）がブロック状（１㎝大）に認められる。全体的に混ざりがあり、自然堆積とは考えられない。

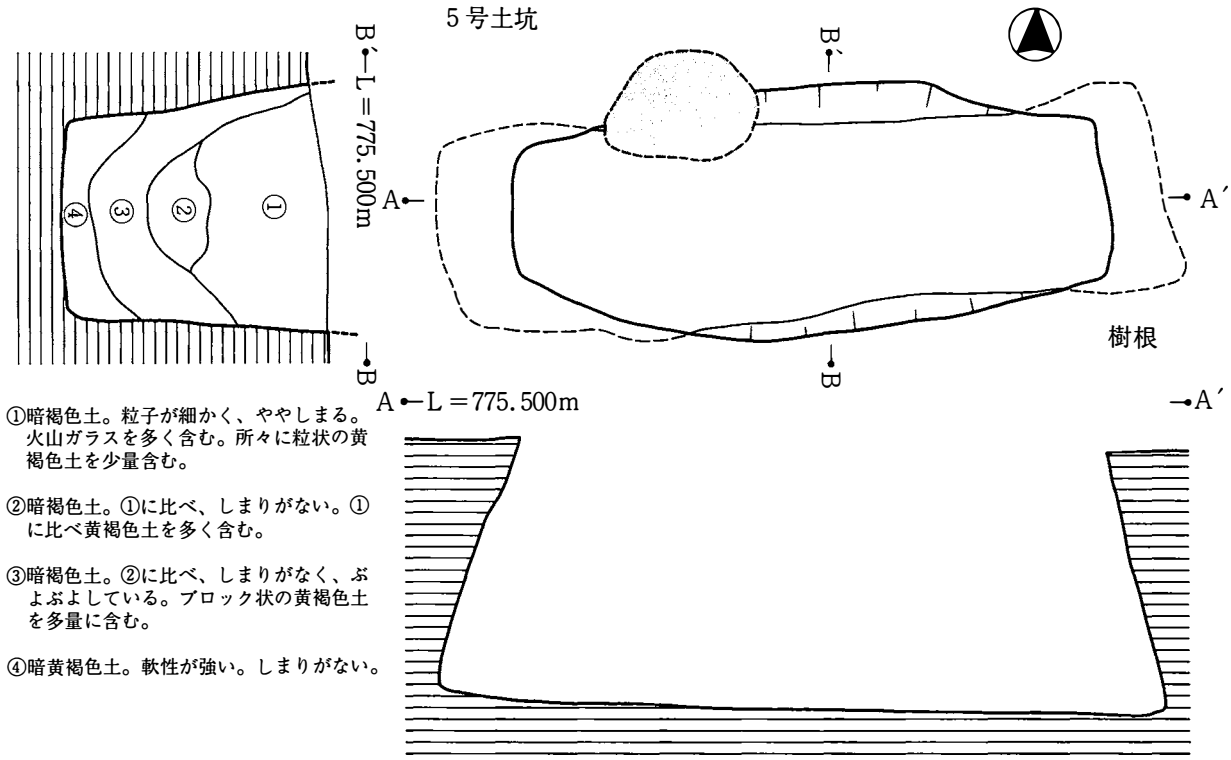
②褐色土。粒子は、細かく、粘性を帯び固くしまった土層である。Ⅳ層（ソフトローム）が１㎜大の粒子で認められる。全体的に、均一な濁りがみられ、自然堆積ではなく埋土である。



①黒色土で粒子は細かく、固くしまった土質である。色調はⅢｂ層に類似するが、Ⅳａ層を１㎜大の粒子を含んでいる。
②暗褐色土でⅣａ層を５㎝大のブロックで含む。土質は、やわらかく、しまりがない。
③黒褐色土で、粒子は細かくややしまった土質である。微細な粒子状でⅣａ層を含む。
④暗黄褐色土で、濁りの強いⅣａ層である。粘性は強い。
⑤黒褐色土で、粒子は細かく、やや粘性を帯び、固くしまった土質である。微細な炭化物をわずかに含む。



第71図　土坑実測図

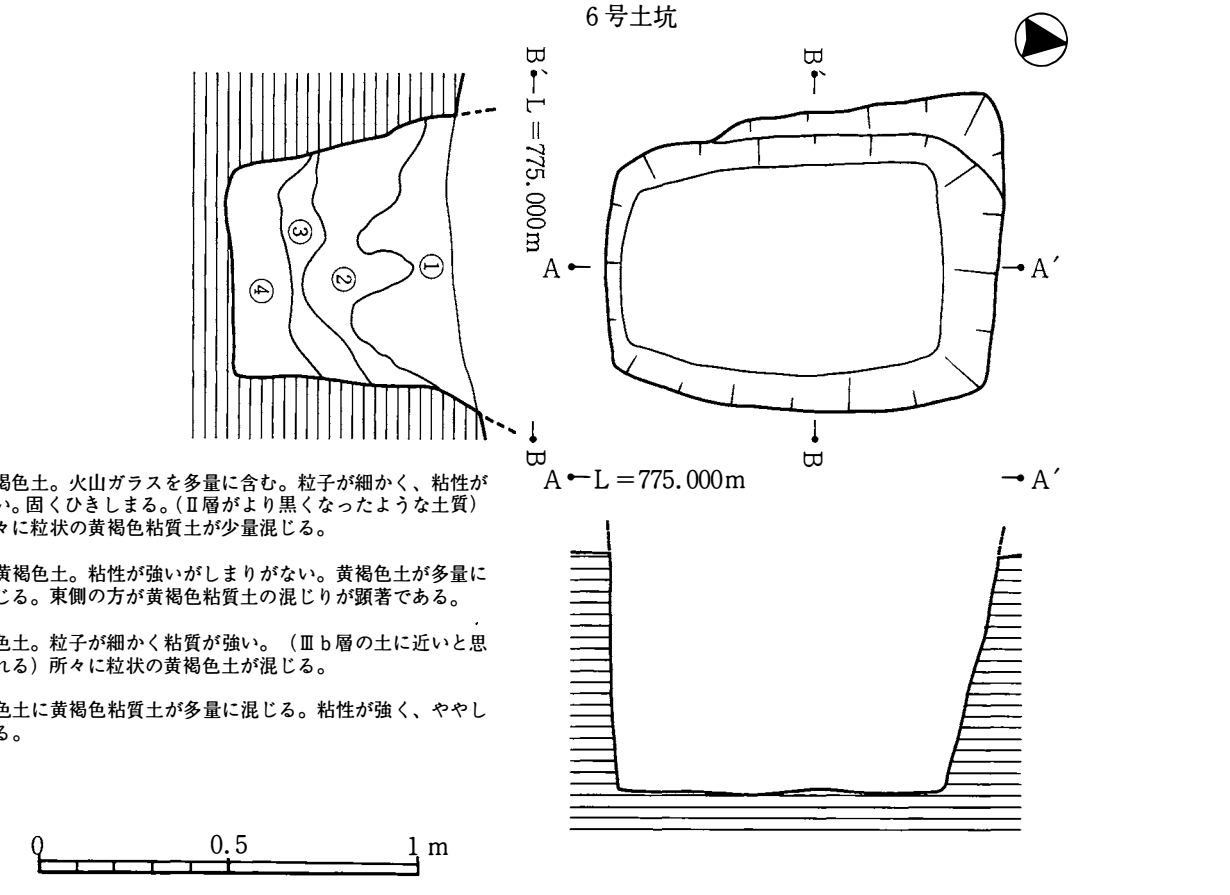


①暗褐色土。粒子が細かく、ややしまる。火山ガラスを多く含む。所々に粒状の黄褐色土を少量含む。

②暗褐色土。①に比べ、しまりがない。①に比べ黄褐色土を多く含む。

③暗褐色土。②に比べ、しまりがなく、ぶよぶよしている。ブロック状の黄褐色土を多量に含む。

④暗黄褐色土。軟性が強い。しまりがない。



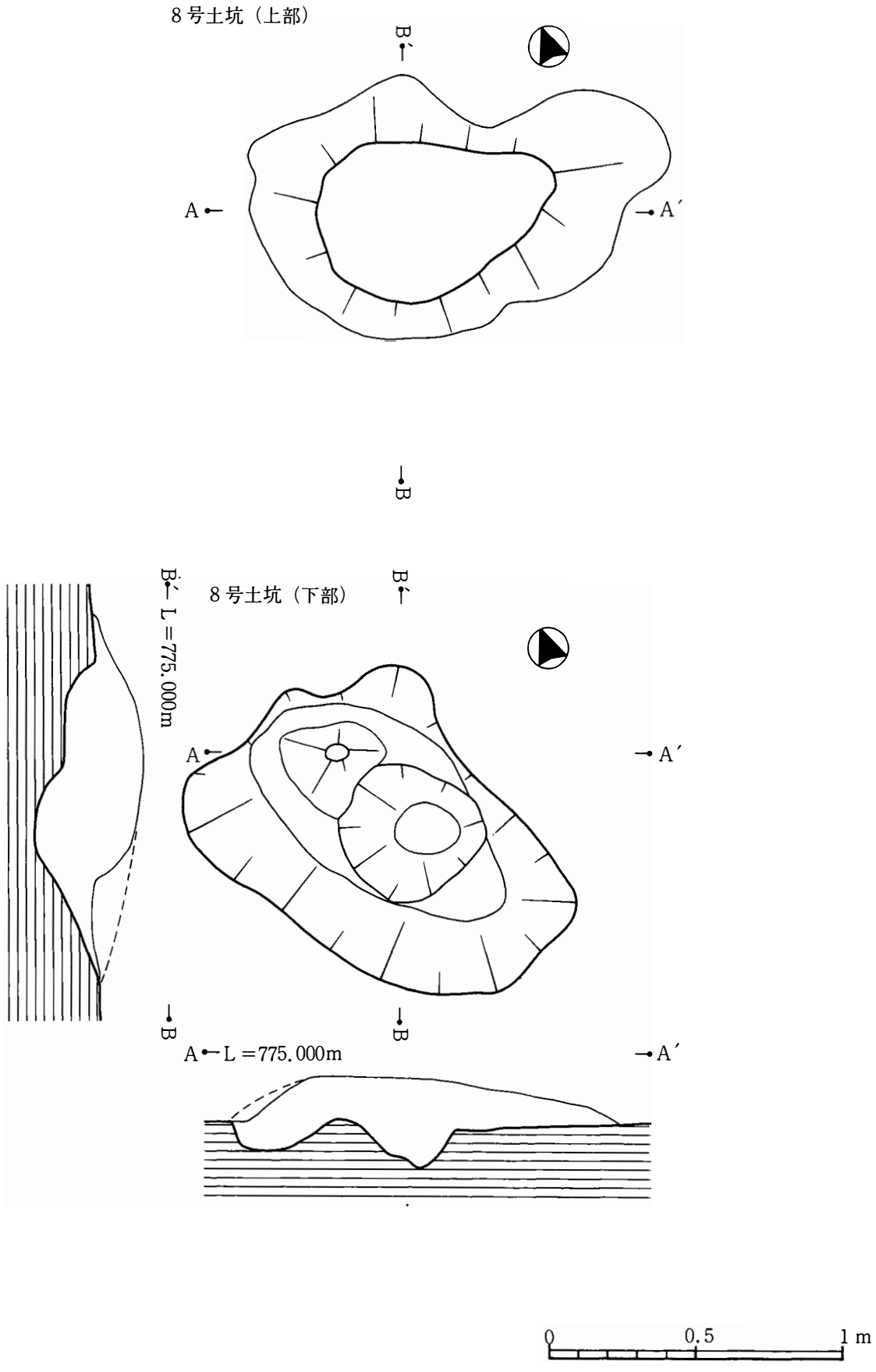
①暗褐色土。火山ガラスを多量に含む。粒子が細かく、粘性が強い。固くひきしまる。（Ⅱ層がより黒くなったような土質）所々に粒状の黄褐色粘質土が少量混じる。

②暗黄褐色土。粘性が強いがしまりがない。黄褐色土が多量に混じる。東側の方が黄褐色粘質土の混じりが顕著である。

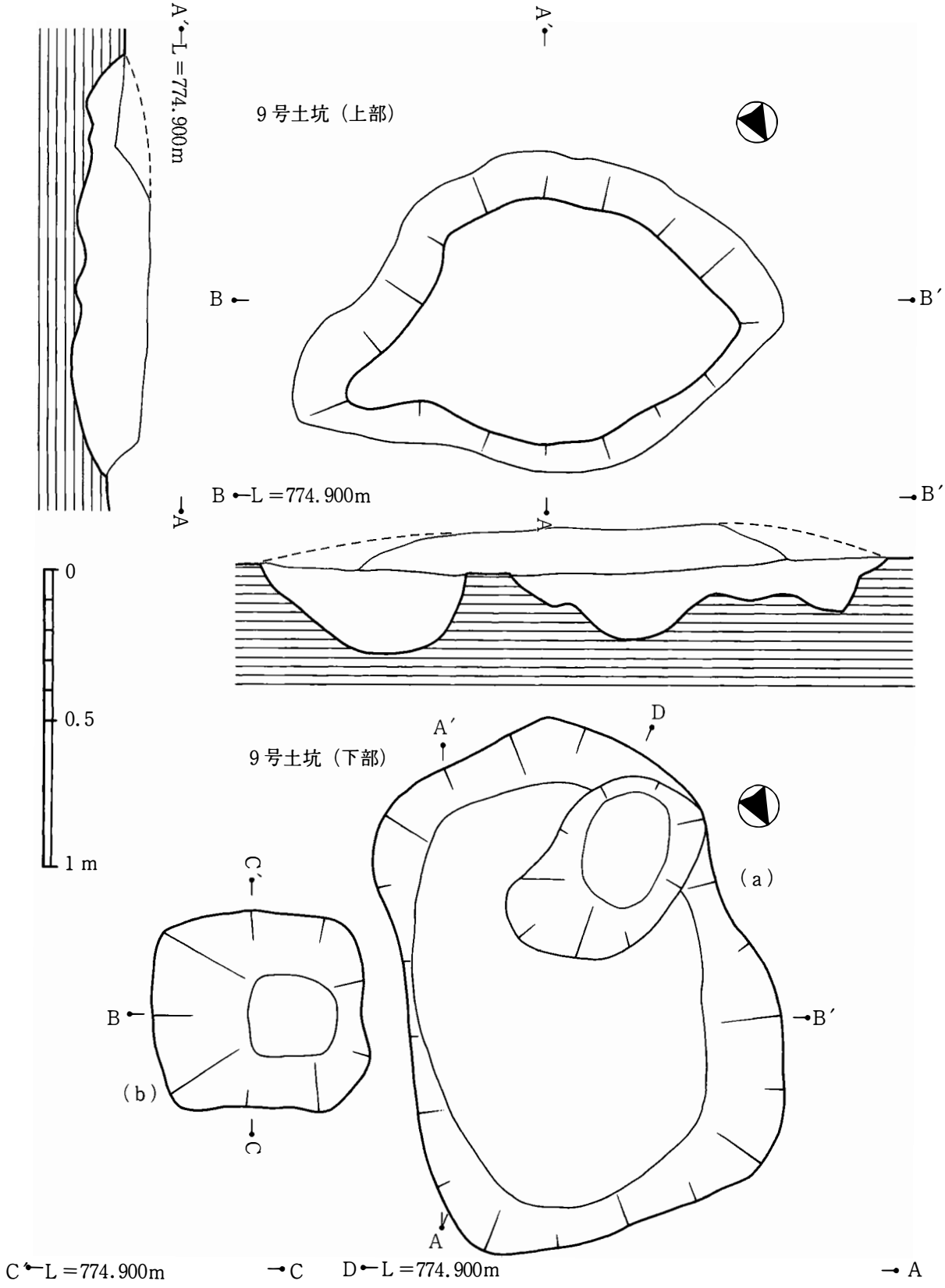
③黒色土。粒子が細かく粘質が強い。（Ⅲｂ層の土に近いと思われる）所々に粒状の黄褐色土が混じる。

④黒色土に黄褐色粘質土が多量に混じる。粘性が強く、ややしまる。

第72図　土坑実測図



第73図　土坑実測図

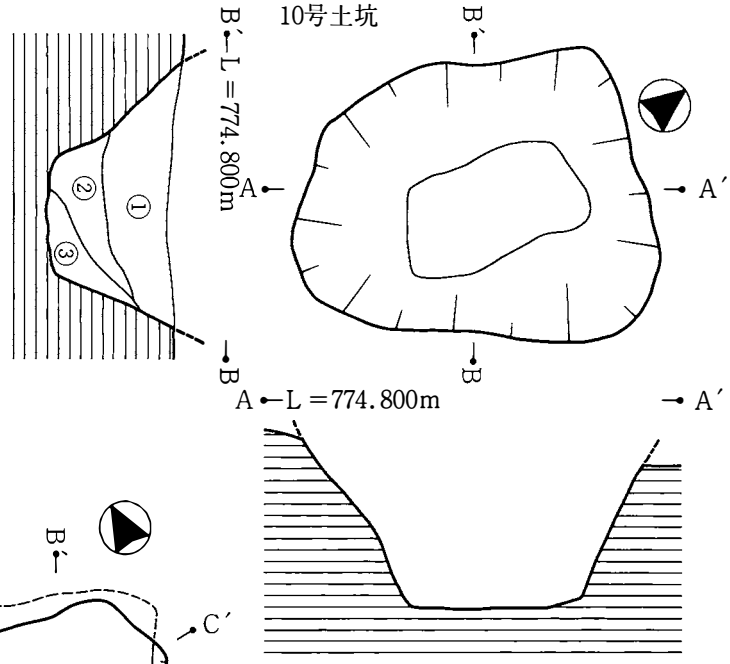


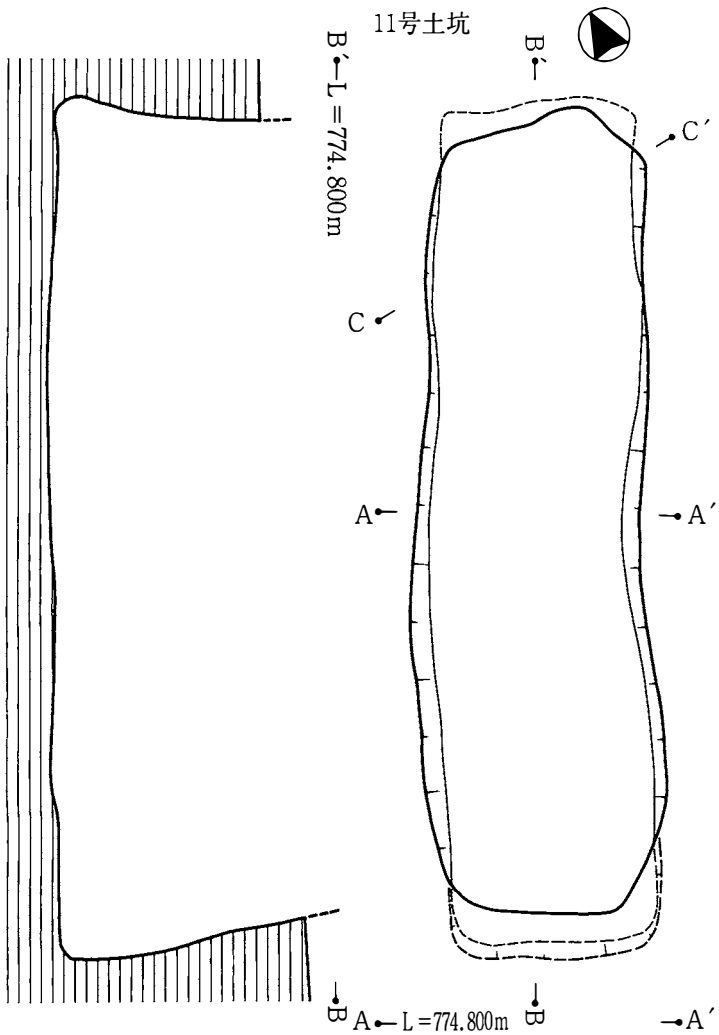
第74図　土坑実測図

①黒色土。固くしまる。（Ⅲｂ層に近いと思われる）所々に１㎜～２，３㎝程度の黄褐色土が混じる。

②暗黄褐色土。しまりがなく柔らかい粘りのある土である。

③黄褐色土。固くしまり、やや粘る。１㎜程度の黒色土が混じる。（Ⅳａ層に近いと思われる）





①褐色土。粒子が細かくサラサラとした感じで粘性がない。火山ガラスを多量に含む。２ａ層に近い土である。

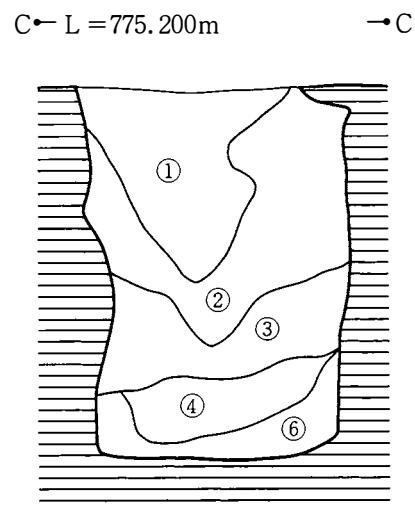
②暗褐色土。濁りの強い土である。まだらに①の土が混じる。①層に比べると少ないが火山ガラスを多く含む。

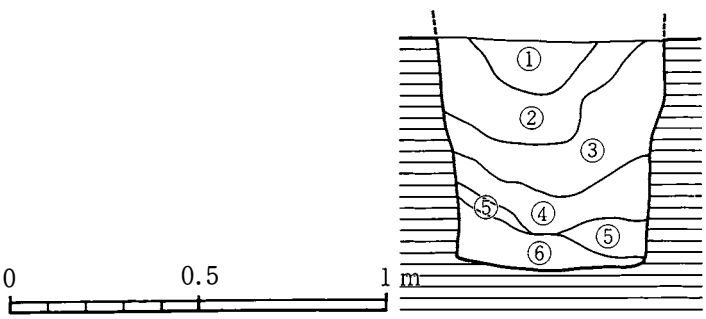
③暗褐色土。②層に比べ、やや色調は暗くなる。粘性はやや強い。まだらに黄褐色粘土を含む。所々に３ｂ層を見られる黒色土がブロック状に混じる。

④暗褐色土。③層に比べ黄褐色土の混じりが強く、２～３㎝程度の塊も入る。しまりが弱い。

⑤暗褐色土。粒子が細かく粘性が強い。粒状の黄褐色土をわずかに含む。３ｂ層に近い土と思われる。

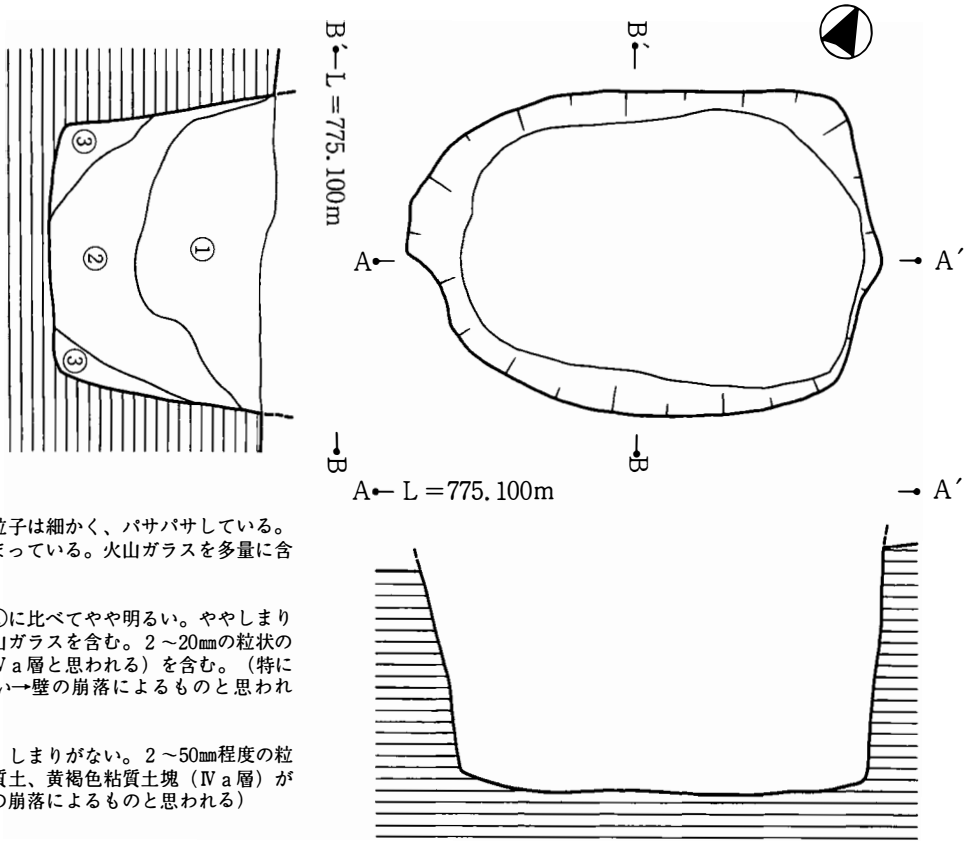
⑥暗黄褐色土。粘性が強い。わずかに黒色土が混じる。





第75図　土坑実測図

13号土坑

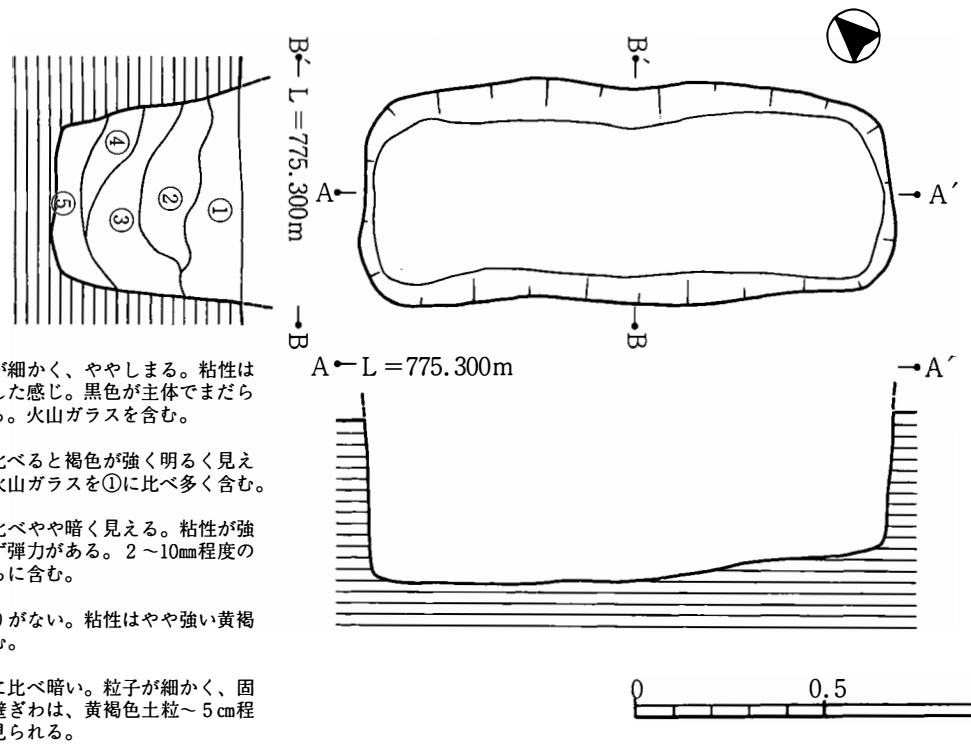


①暗褐色土。粒子は細かく、パサパサしている。固く引きしまっている。火山ガラスを多量に含む。

②暗褐色土。①に比べてやや明るい。ややしまりがない。火山ガラスを含む。2～20㎜の粒状の黄褐色土（Ⅳa層と思われる）を含む。（特に南壁側が多い→壁の崩落によるものと思われる。）

③暗黄褐色土。しまりがない。2～50㎜程度の粒状黄褐色変質土、黄褐色粘質土塊（Ⅳa層）が入る。（壁の崩落によるものと思われる）

14号土坑



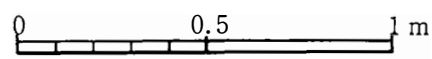
①暗褐色土。粒子が細かく、ややしまる。粘性は弱く、さらさらした感じ。黒色が主体でまだらに褐色土が混じる。火山ガラスを含む。

②暗褐色土。①に比べると褐色が強く明るく見える。やや粘る。火山ガラスを①に比べ多く含む。

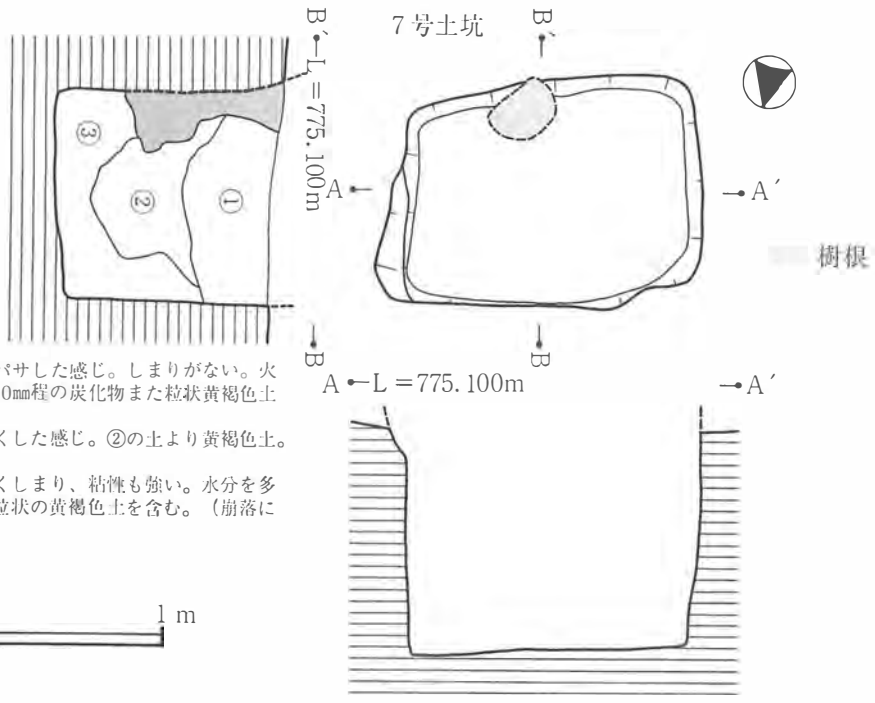
③暗褐色土。①に比べやや暗く見える。粘性が強い。固くしまらず弾力がある。2～10㎜程度の黄褐色土をまばらに含む。

④暗褐色土。しまりがない。粘性はやや強い黄褐色土粒を多く含む。

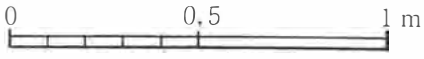
⑤暗黄褐色土。④に比べ暗い。粒子が細かく、固くひきしまる。壁ぎわは、黄褐色土粒～5㎝程度の塊の堆積が見られる。

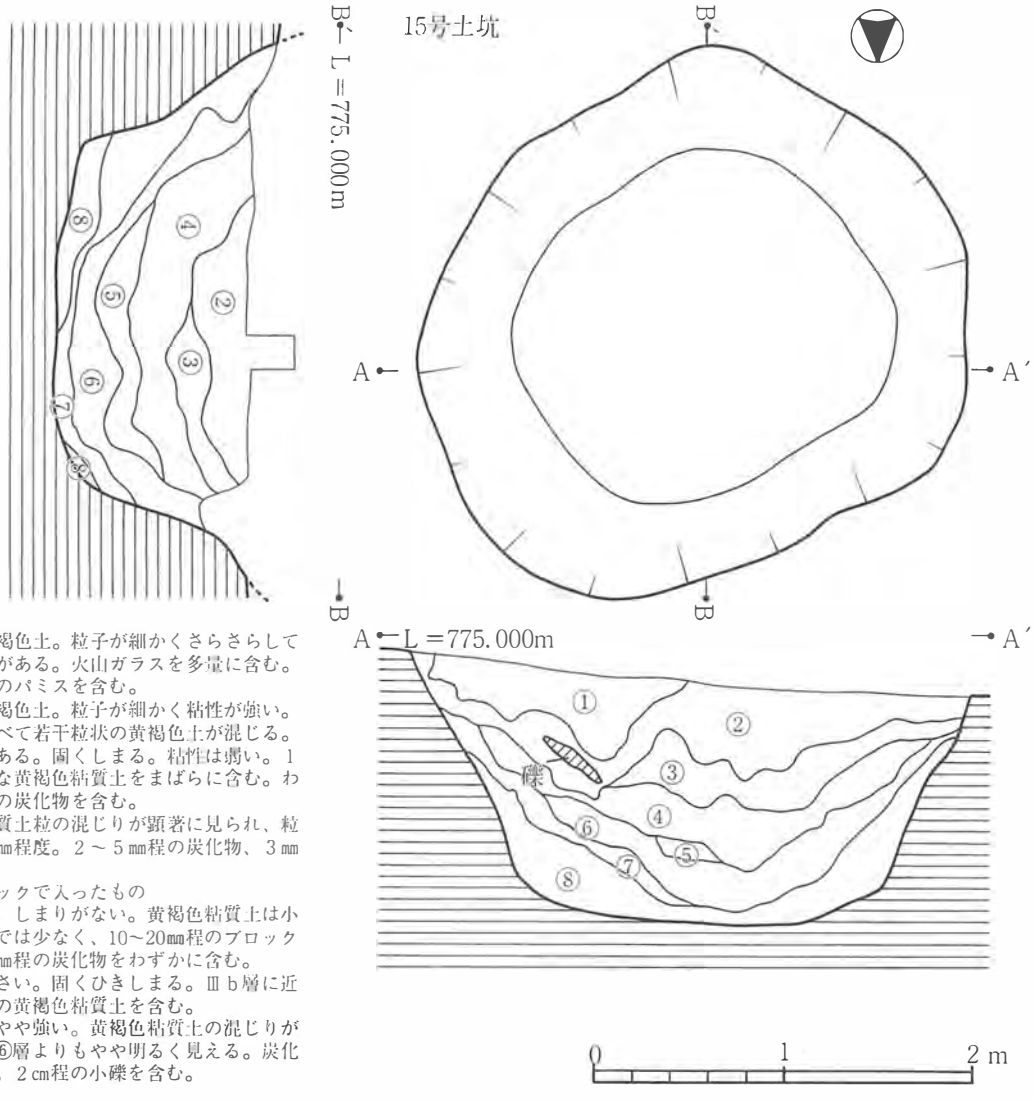


第76図　土坑実測図



①茶褐色土。粒子が細かくパサパサした感じ。しまりがない。火山ガラスを含む。所々に１～10㎜程の炭化物また粒状黄褐色土を含む。
②暗茶褐色土。②の土をやや暗くした感じ。②の土より黄褐色土。炭化物の混じりが少ない。
③暗褐色土。粒子が細かい。固くしまり、粘性も強い。水分を多く含んでいる。壁ぎわにやや粒状の黄褐色土を含む。（崩落によるものと思われる）

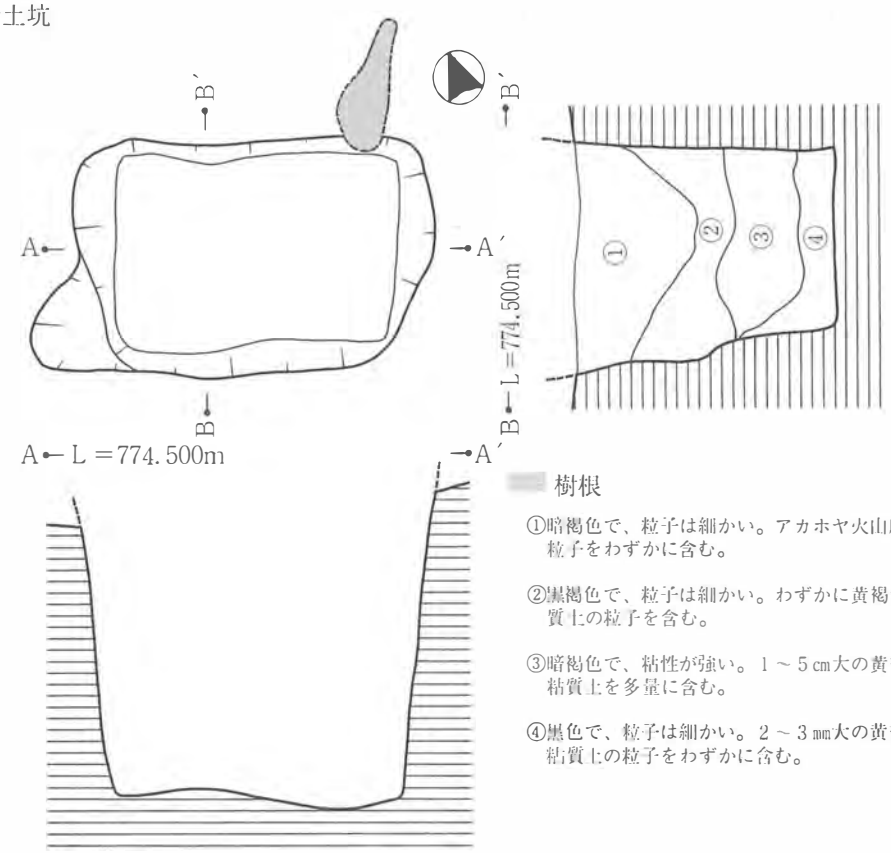




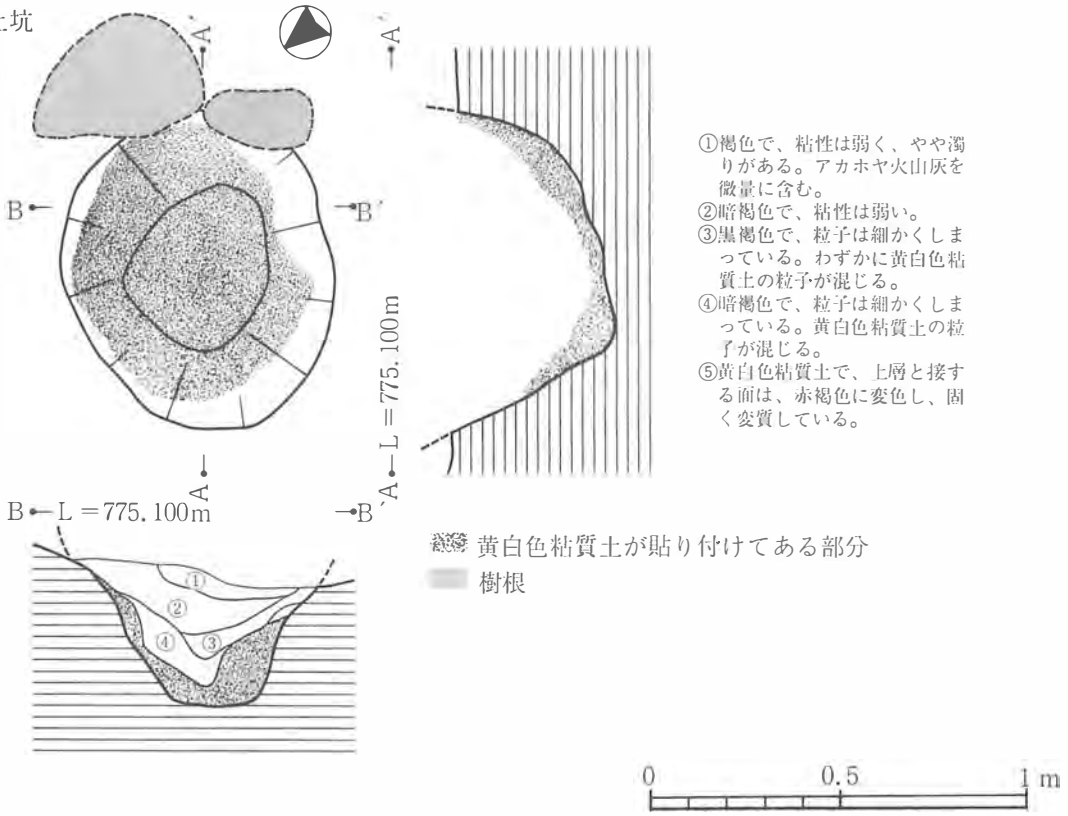
①Ⅲａ層である。明褐色土。粒子が細かくさらさらしている。ややしまりがある。火山ガラスを多量に含む。所々にオレンジ色のパミスを含む。
②Ⅲｂ層である。黒褐色土。粒子が細かく粘性が強い。土坑の外の土に比べて若干粒状の黄褐色土が混じる。
③暗褐色土。埋土である。固くしまる。粘性は弱い。１㎜程の非常に小さな黄褐色粘質土をまばらに含む。わずかに２～５㎜程の炭化物を含む。
④③に比べ黄褐色粘質土粒の混じりが顕著に見られ、粒子も大きい２，３㎜程度。２～５㎜程の炭化物、３㎜大の小礫を含む。
⑤Ⅳｂ層の土がブロックで入ったもの
⑥③④層に比べ暗く、しまりがない。黄褐色粘質土は小さな粒子の混じりでは少なく、10～20㎜程のブロックで混じる。２～10㎜程の炭化物をわずかに含む。
⑦黒褐色土。粒が小さい。固くひきしまる。Ⅲｂ層に近い。まばらに粒状の黄褐色粘質土を含む。
⑧暗褐色土。粘りがやや強い。黄褐色粘質土の混じりが顕著にみられる。⑥層よりもやや明るく見える。炭化物をわずかに含む。２㎝程の小礫を含む。

第77図　土坑実測図

16号土坑



17号土坑



第78図　土坑実測図

られる。また、粘土の表面が赤く変色した部分も認められた。埋土は、土色及び土質の違いから５層に細分できる。

２　土器とその分布

Ａ地点において縄文時代に属する土器は、66点検出された。出土層位は、Ⅱ～Ⅲｃ層である。これらの土器の所属時期は、概ねⅡ層から晩期，Ⅲａ層から前期，Ⅲｂ，ｃ層から早期の遺物が出土している。出土した土器の数量は少ないが、その中で数量的にもっとも多く、主体を占めるものは早期に属する土器群である。このことは、検出された遺構の所属時期とも合致している。また、土器の分布は遺構の分布と類似し、北西方向に延びる丘陵の平坦面上には少なく、東西の谷部に向かう緩やかな斜面部に散在する傾向が窺える。

以下、各分類ごとに説明を行う。

押型文土器（第80図１～５）

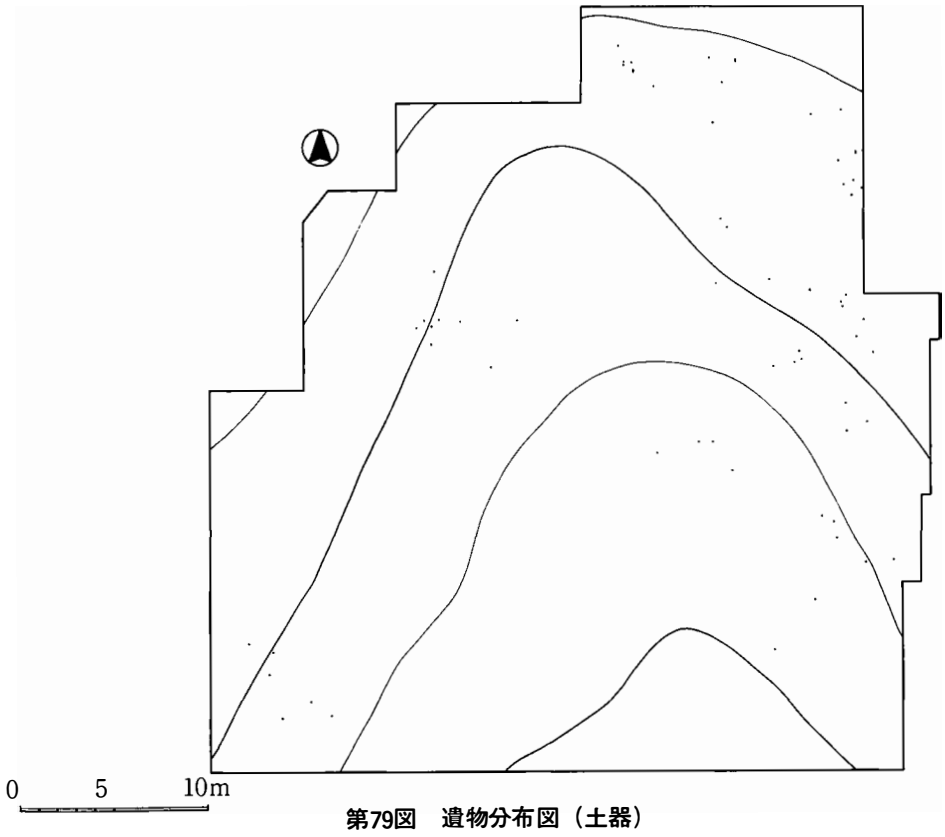
押型文を施文する土器は、第80図１～６，８，９の８点を図示した。そのうち押型文を単純に施文する土器は、第80図１～５の５点である。これらは、すべて山形文であり施文原体は間延びし、縦走施文する点で共通している。

また、５点とも胴部破片であるため、その全体形等は不明である。

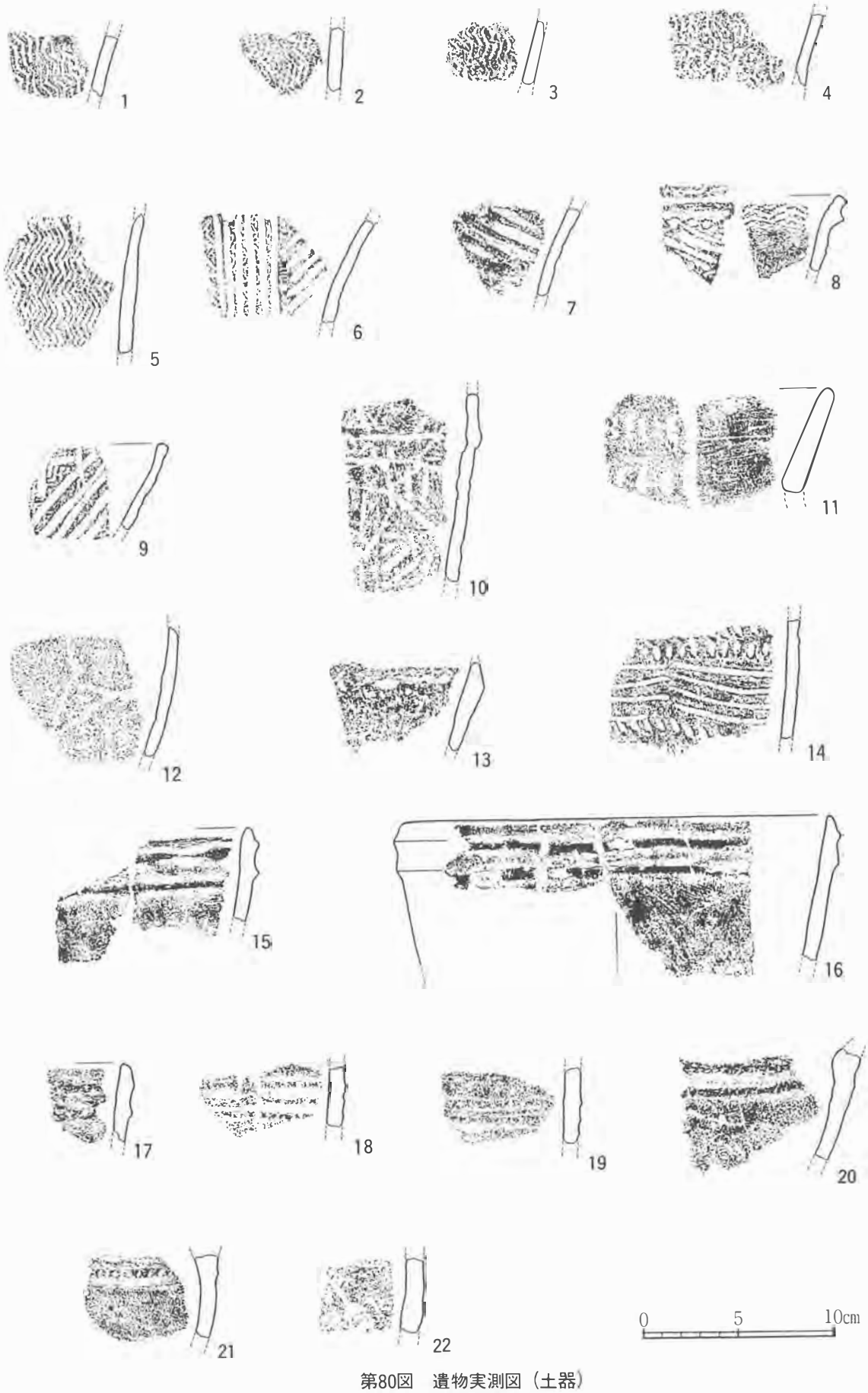
手向山式土器（第80図６～９）

手向山式土器に分類できる資料は、４点である。第80図６，７，９は、縦走する間延びした山形押型文を施文した後、縦走あるいは斜走する沈線を施している。

また、第80図８は外器面口縁部直下に１条の隆起帯を貼り付け、その下部に棒状の施文原体による刺突文



第79図　遺物分布図（土器）



第80図　遺物実測図（土器）

第17表　土器観察表

図版番号	遺物番号	グリッド	層位遺構	器種	部位	現存高(cm)	器厚(cm)	色調		胎土混入物	焼成	調整・文様		登録番号
								外面	内面			外面	内面	
80	1	F－2	Ⅲb	鉢	胴部	3.0	0.7	褐灰色･灰褐色	褐灰色	微砂粒･角閃石･長石	良好	斜走山形文	ナデ	A－3869
80	2	不明	Ⅲb	鉢	胴部	2.7	0.8	明褐色	にぶい褐色	細砂粒･角閃石･石英	良好	縦走山形文	ナデ	
80	3	E－3	Ⅲb	鉢	胴部	2.3	0.6	にぶい橙色	にぶい黄褐色	微砂粒･角閃石･長石	良好	縦走山形文	ナデ	A－1523
80	4	F－2	Ⅲb	鉢	胴部	3.5	0.6	にぶい橙色	にぶい橙色	微砂粒･石英･角閃石	普通	縦走山形文	ナデ	A－984,985
80	5	E－2	Ⅲb	鉢	胴部	6.7	0.8	にぶい褐色	灰褐色	細砂粒･角閃石･長石	良好	縦走山形文		A－1337
80	6	F－4	Ⅲb	鉢	頸部	4.9	0.7	にぶい橙色	にぶい黄橙色	微砂粒･金雲母･石英	良好	沈線文	ヨコナデ	A－1270
80	7	H－5	Ⅲb	鉢	頸部	4.3	0.7	灰黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒･長石･角閃石	普通	凹線による斜線文	ナデ	A－1615
80	8	E－2	Ⅲb	鉢	口縁部	3.9	1.1	にぶい黄橙色	褐灰色	微砂粒･角閃石	良好	突帯･凹線による斜線文	ナデ	A－1567
80	9	F－3	Ⅲa	鉢	頸部	4.4	0.6	にぶい橙色	にぶい黄橙色	微砂粒･長石･雲母	良好	沈線文	ナデ	A－501
80	10	H－5	Ⅲb	深鉢	口縁部	9.6	0.8	灰黄褐色･にぶい褐色	にぶい褐色･灰褐色	砂粒･角閃石･石英	普通	突帯･凹線による直線文･斜線文	ナデ	
80	11	F－2	土坑	深鉢	口縁部	5.2	1.2	橙色	橙色	砂粒･長石･石英･角閃石	良好	貝殻刺突文	ナデ	A－5
80	12	G－3	Ⅲb	鉢	胴部	4.9	0.7	明赤褐色～灰褐色	明褐色～褐色	砂粒･角閃石･長石	良好	ナデ	ナデ	A－1164
80	13	F－2	Ⅲb	深鉢	口縁部	4.2	1	明褐色･灰褐色	暗褐色	砂粒･角閃石	良好	ナデ	ナデ	A－1880
80	14	F－2	Ⅲa	鉢	胴部	5.9	0.7	黒褐色	黒褐色･褐色	砂粒･角閃石･石英･長石	良好	沈線文･刺突文	ナデ	A－3
80	15	E－3	Ⅱa	鉢	口縁部	4.8	1.0	黒褐色･灰褐色	にぶい褐色･明褐色	角閃石･石英･長石･砂粒	良好	突帯･ナデ	ナデ	A－2
80	16	E－3	Ⅱa	鉢	口縁部	7.5	23.8	黒褐色	黒褐色～明赤褐色	角閃石･長石･砂粒	良好	突帯･ナデ	ナデ	A－1590,1591
80	17	E－3	Ⅱa	鉢	口縁部	4.0	0.9	黒褐色	にぶい褐色	砂粒･角閃石･赤褐色砂粒	良好	突帯･ナデ	ナデ	A－1283
80	18	G－3	Ⅲb	深鉢	胴部	2.9	0.9	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒･角閃石･石英	良好	隆起線文	ナデ	A－198
80	19	F－3	Ⅲa	深鉢	胴部	3.4	1	褐色	灰褐色	砂粒･角閃石･雲母	良好	隆起線文	ナデ	A－157
80	20	F－4	Ⅲa	鉢	胴部	5.3	1.4	にぶい黄褐色	黒褐色･にぶい黄褐色	砂粒･角閃石･石英	普通	凹線による直線文	ナデ	A－514
80	21	F－4	Ⅲb	浅鉢	胴部	4.3	1.1	にぶい黄褐色	灰黄褐色	砂粒･角閃石･石英	良好	突帯･ナデ	ナデ	A－1267
80	22	F－2	Ⅲb	鉢	胴部	3.6	1.1	褐色	にぶい橙色	砂粒･角閃石･石英	普通	ナデ	ナデ	A－1445

を横位に連続して施文し、斜走する沈線文を施す。内器面には、横走する山形押型文を施文し、口唇端部にも同様の山形押型文を施文している。

塞ノ神式土器（第80図11）

塞ノ神式土器に分類できる資料は、１点である。この資料は、５号土坑の埋土中から検出された、口縁部の破片である。頸部との屈曲部をもち、２列の刺突文を連続して施文する。しかし、胴部の資料は確認されなかった。

平栫式土器（第80図10）

平栫式土器に分類できる資料は、１点である。この資料は、胴部破片で７点の資料が接合している。縦方向の沈線状の文様を施し、その上に隆帯を横位と縦位にそれぞれ１条貼り付けている。また、横位の隆帯上には山形押型文を施文している。焼成かあるいは保存状態が良くないため、器面が粗くザラザラしている。そのため、沈線文か撚糸文・縄文であるか判然としない。

曽畑式土器（第80図14，18）

曽畑式土器に分類できる資料は、２点確認された。２点とも胴部の資料であり、口縁部及び底部の資料は確認されなかった。

その他の土器（第80図12，13，15～17，19～22）

第80図15，16，17は、口縁部の資料である。両者とも口縁部直下に２条の隆帯を貼り付けている。器面の

調整は丁寧なナデが施され、内外器面に煤の付着が認められる。その他の資料では、第80図13のように屈曲をもつものや、第80図20のように凹線を１条施したもの等が確認されるが、器面が粗く観察が困難である。

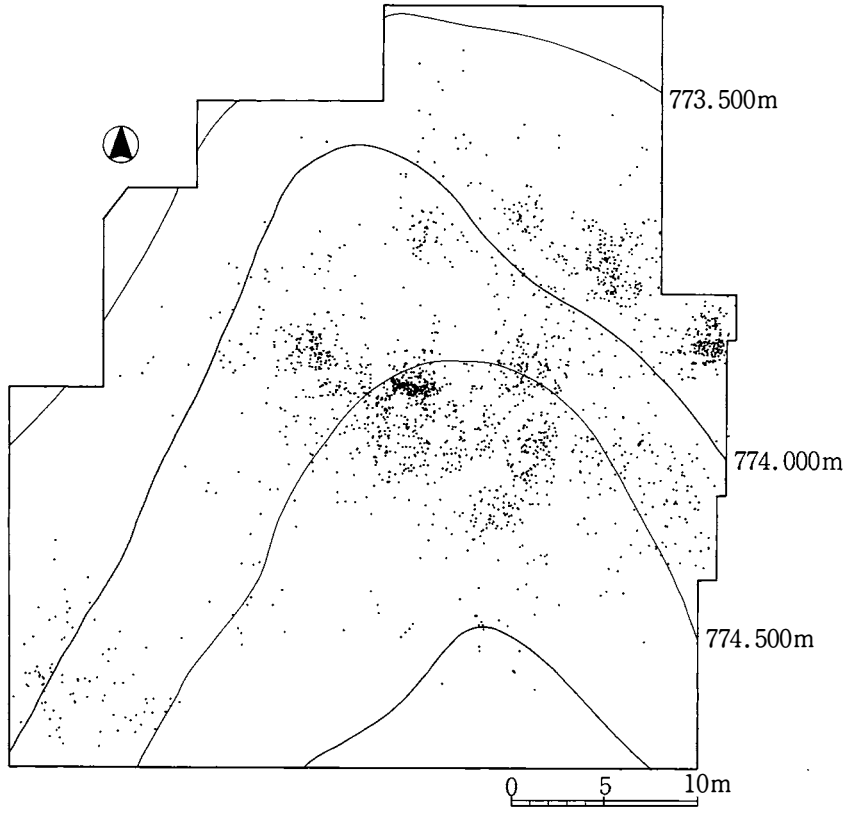
3　石器とその分布

縄文時代に属する石器は、総数2642点検出された。出土層位は、Ⅲａ～Ⅲｃ層でありそのピークはⅢｂ層である。石器組成は、石鏃，尖頭状石器，石匙，削器，石錐，使用痕ある剥片，石核，剥片，砕片である。これらの石器類では、石鏃がもっとも数量的に多い。このように、器種組成は多いが数量的には少ない傾向を指摘することができる。また、その分布の在り方は、土器の分布と異なり丘陵平坦面中央にも濃密に認められる。これらの分布は、そのまとまりからいくつかの集中部に区分できる可能性がある。しかし、土器群の様相から時期ごとの細分は難しく、今回は行わなかった。

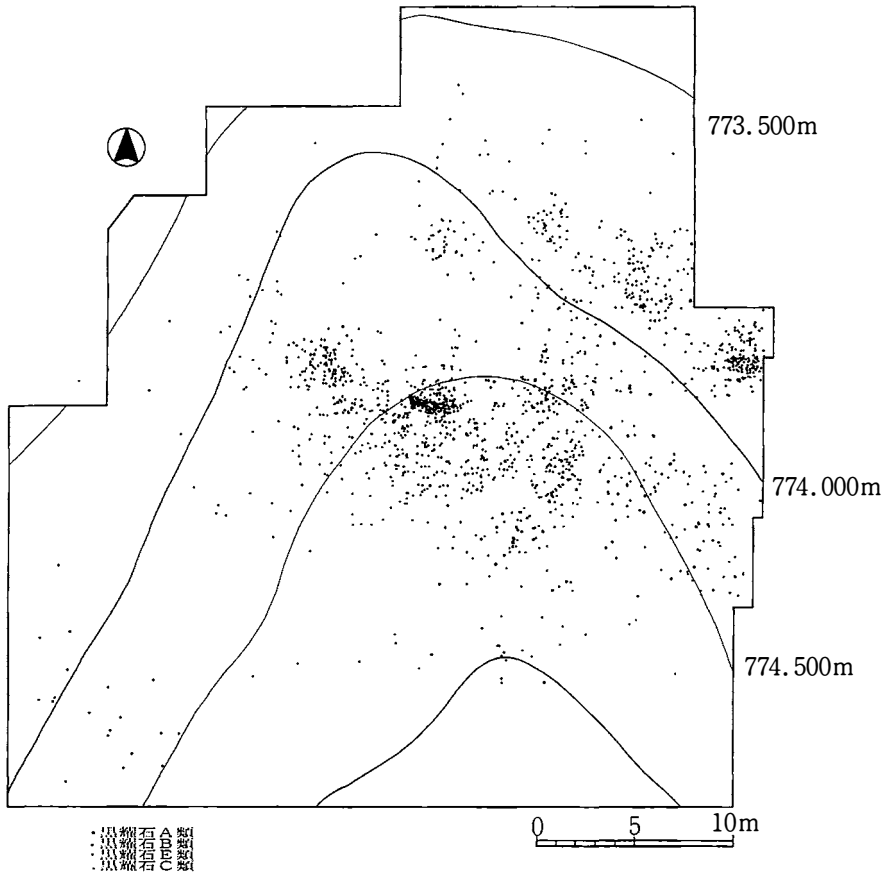
以下、分類ごとに説明を行う。

石鏃（第84図１～19，第85図20～31）

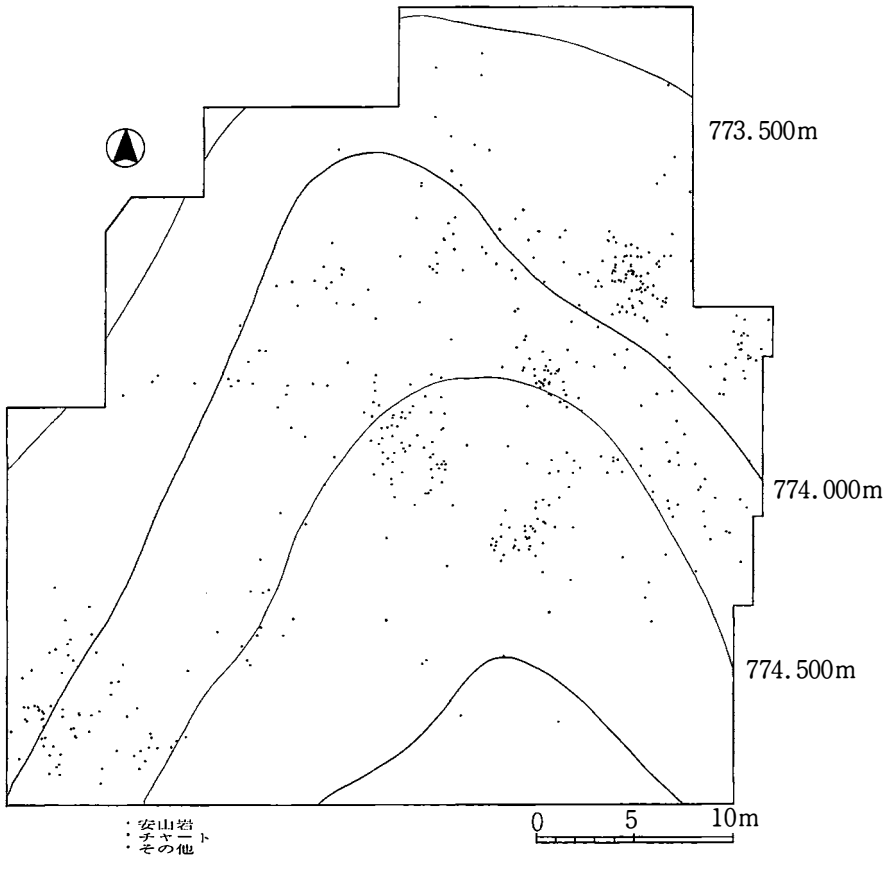
石鏃に分類できるものは、31点出土した。全体形が正三角形状を呈するもの（第84図１～３，５～７，14，15，19，第85図22，24）と二等辺三角形状を呈するもの（第84図４，８～13，16～18，第85図20，21，23，25～29，31）が認められる。脚部を作り出す抉入部の形状では、浅いもの（第84図１～３）と深いもの（第84図５，10～13，15～17，第85図20，29）とがみられ、また中間的なものも認められる。このように、出土した石鏃は、数量的には少ないが、大きさや形状にはバリエイションが認められる。第85図23，26，29，30は、大まかな調整加工を施し左右対称形をなさず、未完成品と考えられる。



第81図　遺物分布図（石器）



第82図　石材別分布図（黒耀石類）



第83図　石材別分布図（非黒耀石類）

また、先端部のみを欠失するもの7.4%，脚部のみを欠失するもの29.7%，先端部及び脚部を欠失するもの25.9%，完形37.0%である。

尖頭状石器（第85図32～34）

尖頭状石器に分類できるものは、3点出土した。第85図32は、細身に作り出す柳葉形の尖頭器である。調整加工は、細かく入念に施される。断面は、レンズ状を呈する。第85図34は、表面に大きく礫面を残し、周縁に調整加工を施す。先端部の作り出しが認められず、二次加工ある不定形石器に分類すべき石器であるかもしれないが、ここでは尖頭状石器の未完成品とした。第85図33は、表裏両面から調整加工を施し入念に作り出されている。先端部は、潰れ痕が認められその結果やや先鋭性を欠く。側縁部の側面形は、直線状をなさない。

石匙（第86図35，39，第87図43）

石匙に分類できるものは、未完成品を含めて3点出土した。第86図35は、周縁から細かな調整加工を施し、入念に作り出されている横型の石匙である。つまみ部は小さく作り出され、石器の最大厚は刃部側に認められる。また、刃部は細かな調整加工により直線状に作り出され、その側面形も直線的に仕上げられている。

第86図39は、素材剥片の先端部側を欠失し、打点部側と表面の折れ面に調整加工を施し全体形を整形しようとした意図が認められることから、未完成品として分類した。また、打点部側の調整加工はやや内湾ぎみに施され、つまみ部の作り出しを意識したものと理解される。第87図43は、縦長剥片を素材とし右側縁に裏面側からの調整加工を施し刃部を作り出している縦型の石匙である。しかし、つまみ部の作り出しは入念に行われず、大まかな剥離と細かな剥離とによりやや内湾する程度に作り出す。そのため、つまみ部と体部とは明瞭に区画されていない。未完成品である可能性も指摘できる。

削器（第86図37，38，41，第87図48）

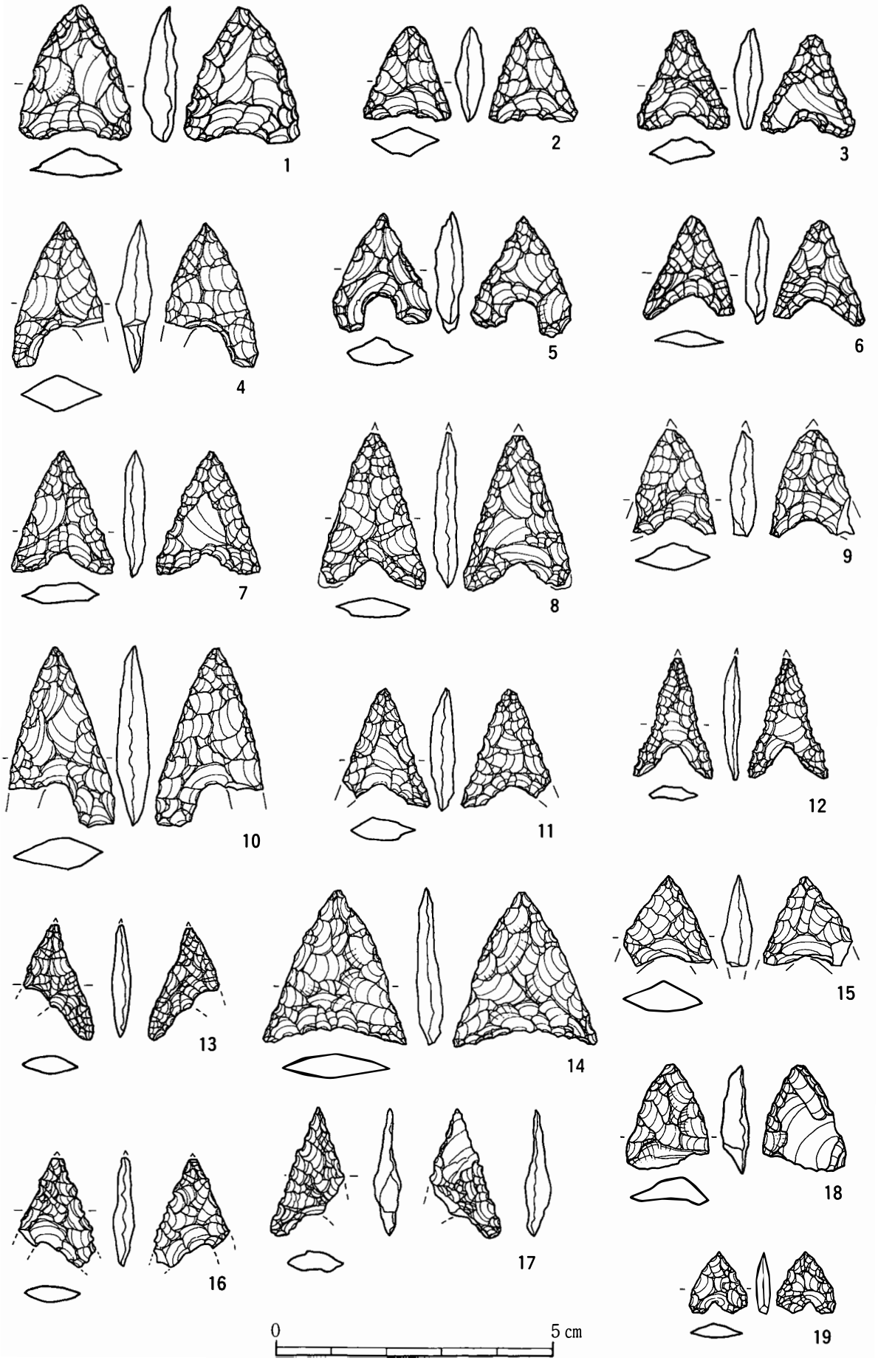
削器として分類できるものは、4点出土した。第86図37は、幅広の剥片を素材とし、その先端部の裏面側に調整加工を施し刃部を作り出している。第86図38は、素材剥片の形状は不明であるが、図中右側を欠失している。調整加工は、折れ面以外の表裏面全周に及ぶ。左側縁裏面側に認められる調整加工は、厚みを調整し裏面側を平坦に仕上げるために施されたものと理解できる。第86図41は、幅広剥片の先端部裏面側に細かな剥離が認められる。第87図48は、やや幅の広い縦長剥片の左右両側縁裏面側に細かな剥離が認められる。この2点は、他の2点と調整加工の在り方が異なり、使用痕である可能性も考えられる。

石錐（第86図40，42）

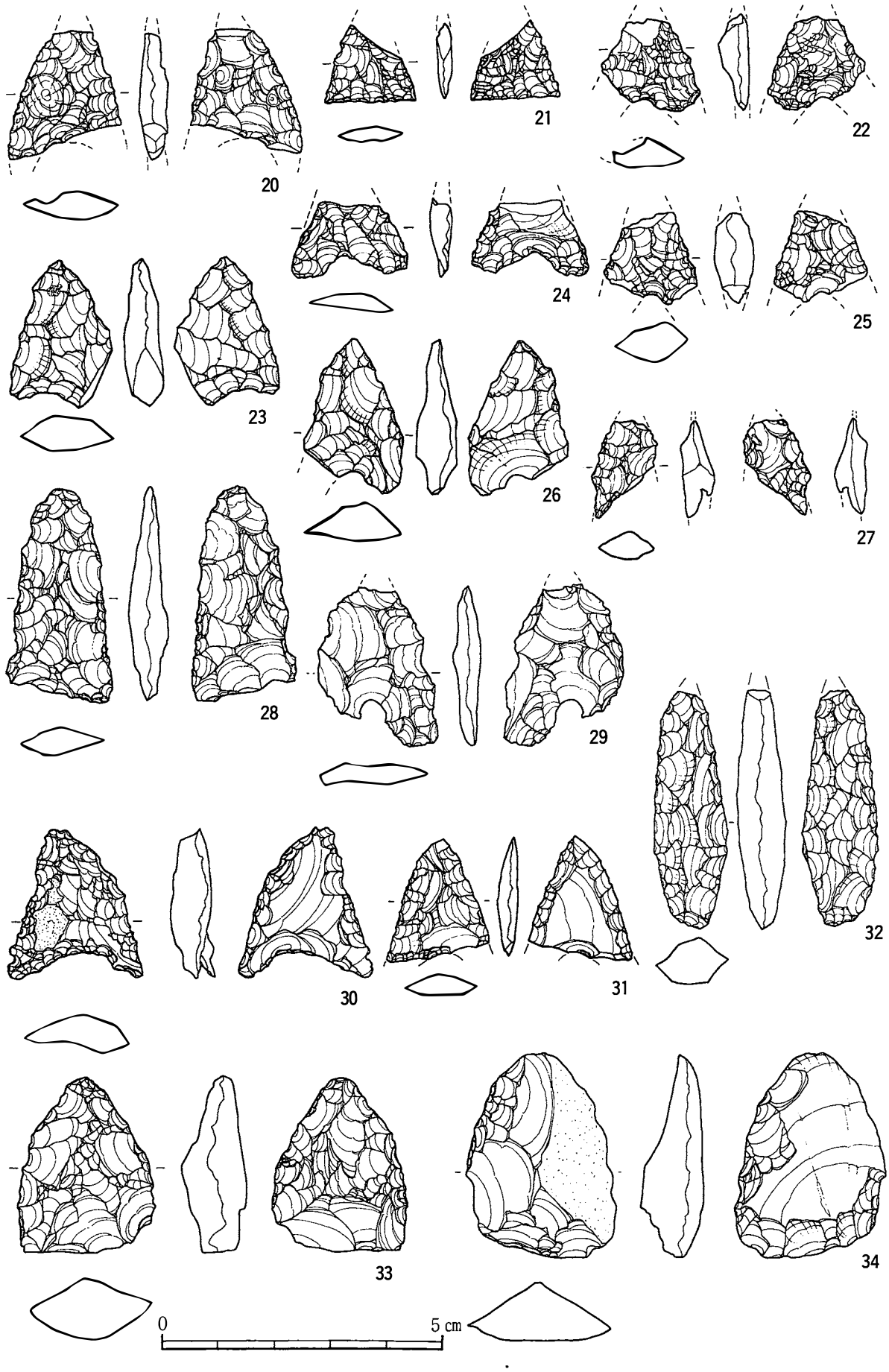
石錐として分類できるものは、2点出土した。第86図40は、錐部の先端を欠失している。調整加工は、全周に及び大まかに施している。つまみ部から錐部への移行は、不明瞭でやや内湾ぎみに作り出されている。第86図42も同様につまみ部から錐部への移行は、不明瞭である。調整加工は、大まかに施しほぼ全周に及ぶ。

楔形石器（第86図36）

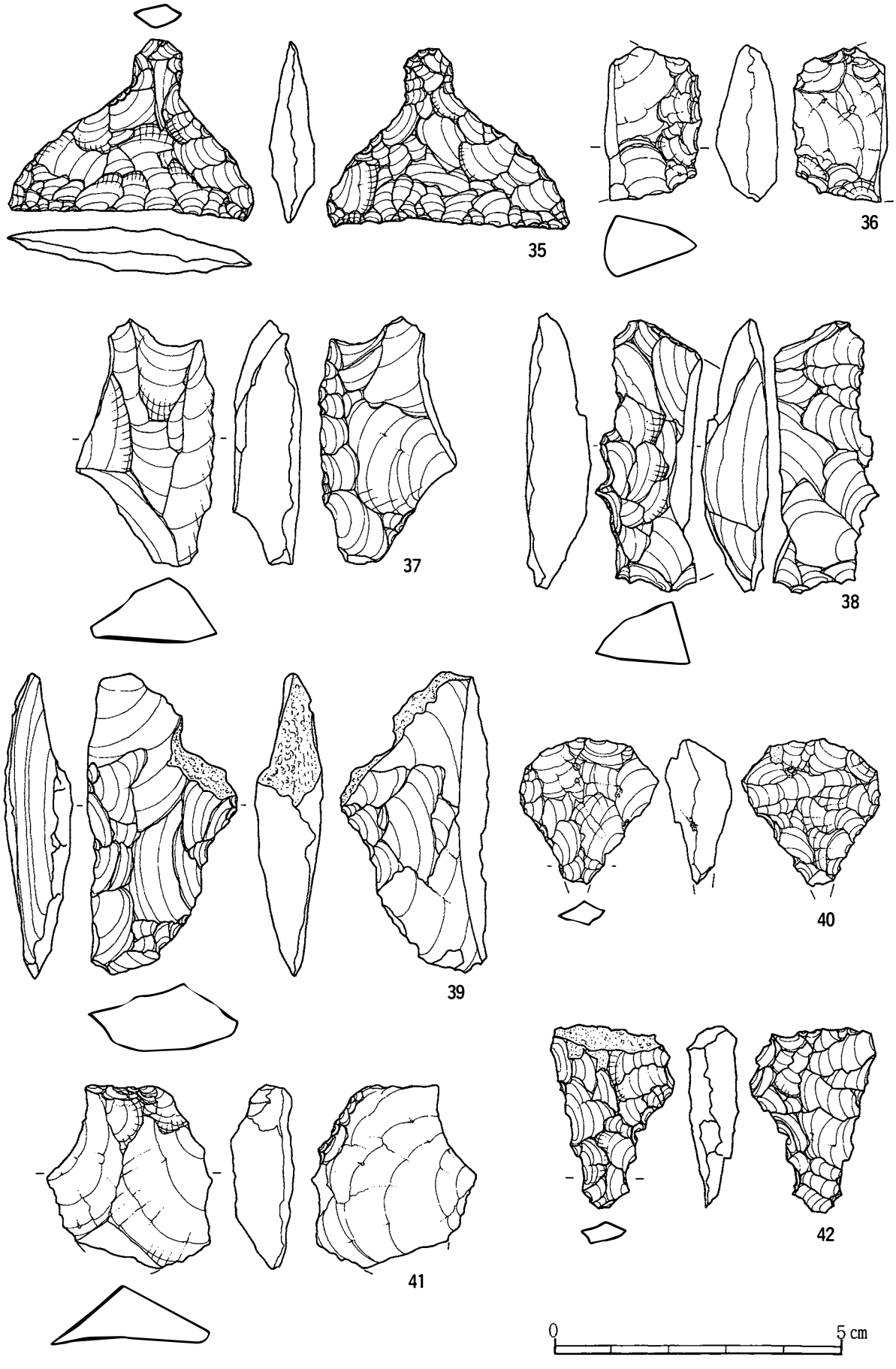
第86図36は、剥片の先端部側を欠失し、側縁に対向する剥離痕が観察される。このことから、楔形石器として分類した。



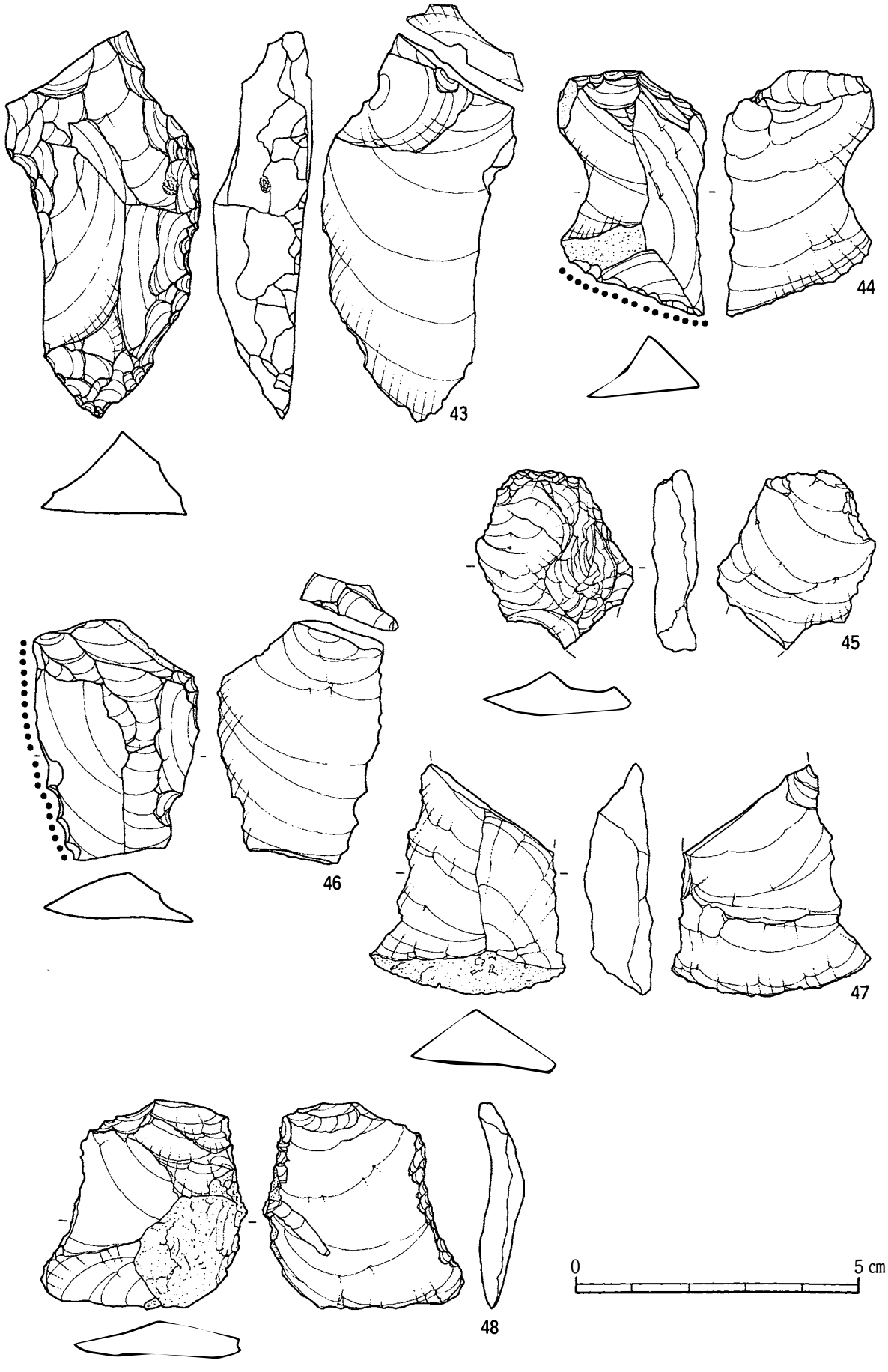
第84図　遺物実測図



第85図　遺物実測図



第86図　遺物実測図



第87図　遺物実測図

使用痕ある剥片（第87図44，46，47）

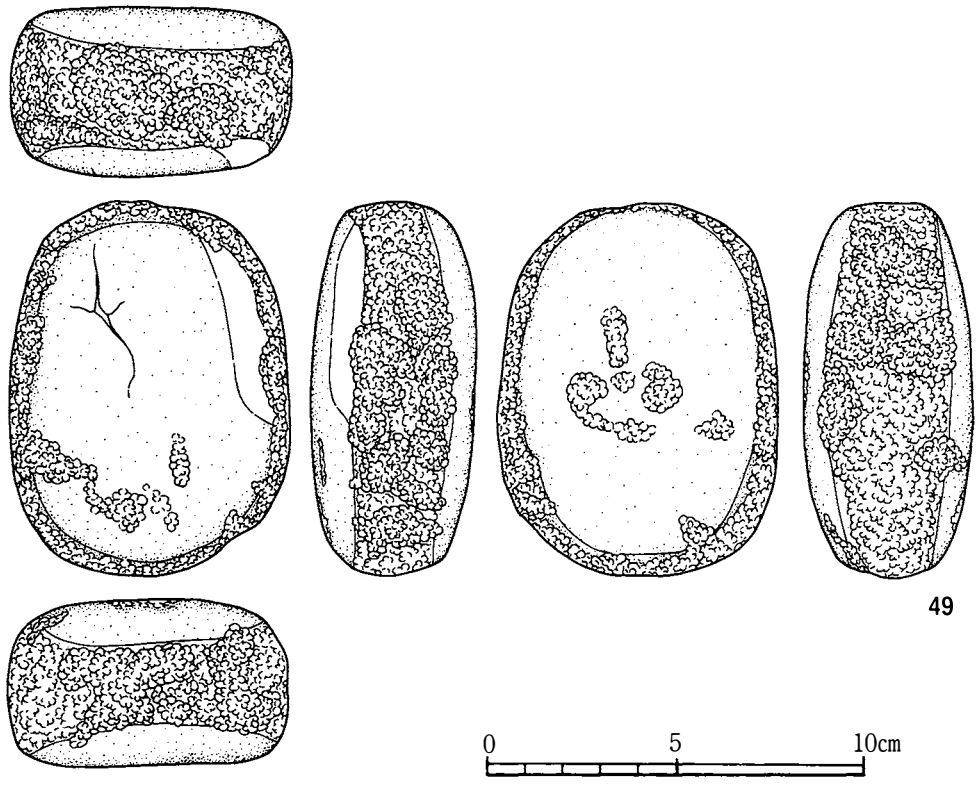
使用痕ある剥片は、比較的多く検出されたが、そのうち３点を図示した。第87図44は、縦長剥片の先端部に使用痕が観察される。第87図46，47は、縦長剥片の左側縁に使用痕が観察される。46は、先端部を欠失しており、47は打点部側を欠失している。

磨石・敲石（第88図49）

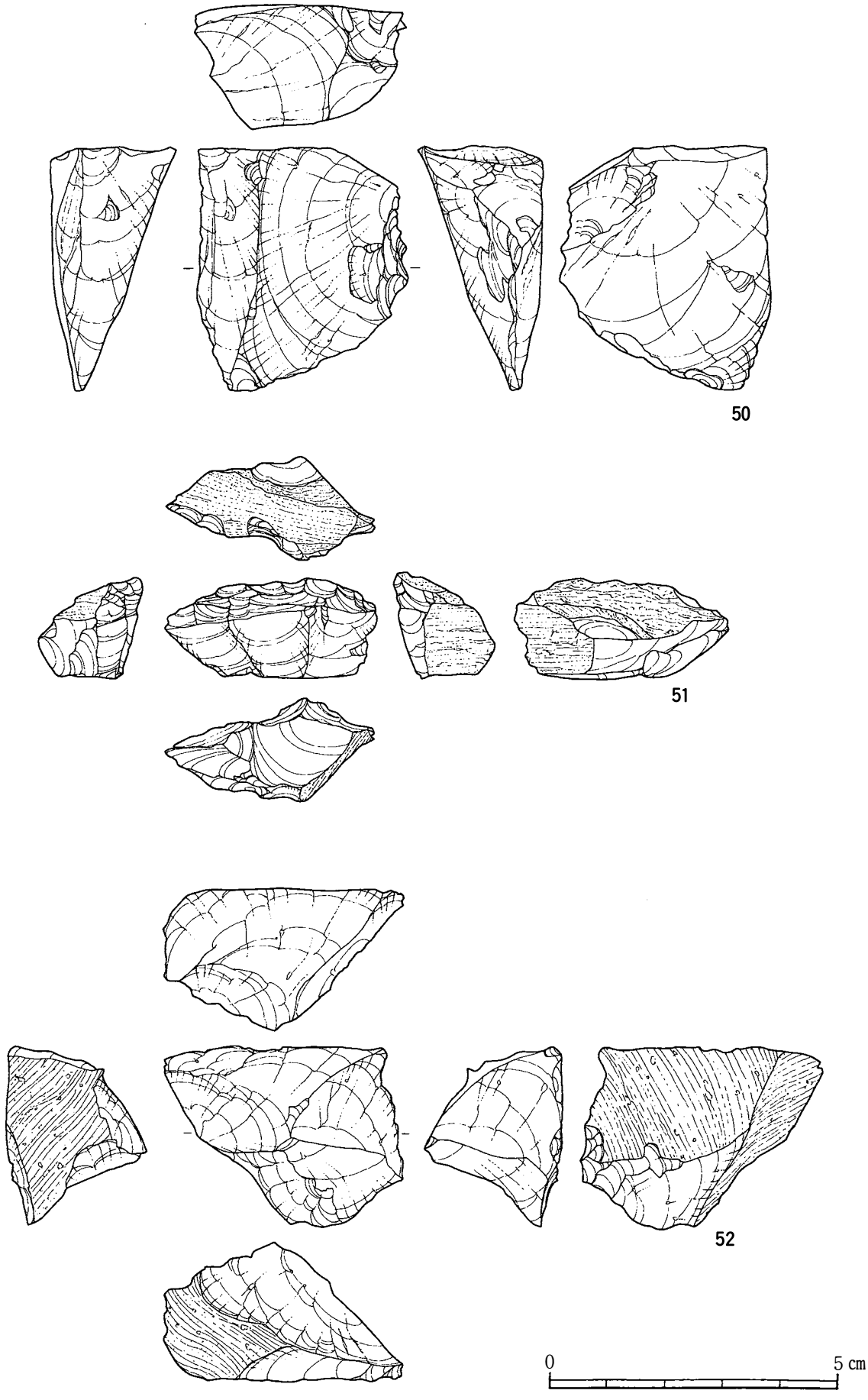
出土した磨石・敲石は少なく、１点を図示した。第88図49は、粒子の粗い砂岩製の磨石・敲石である。敲きによる潰れ痕は、縁辺の全周に認められる。石器の全体形は表裏両面とも平坦面をもち、石鹸状を呈する。

石核（第89図50～第92図60）

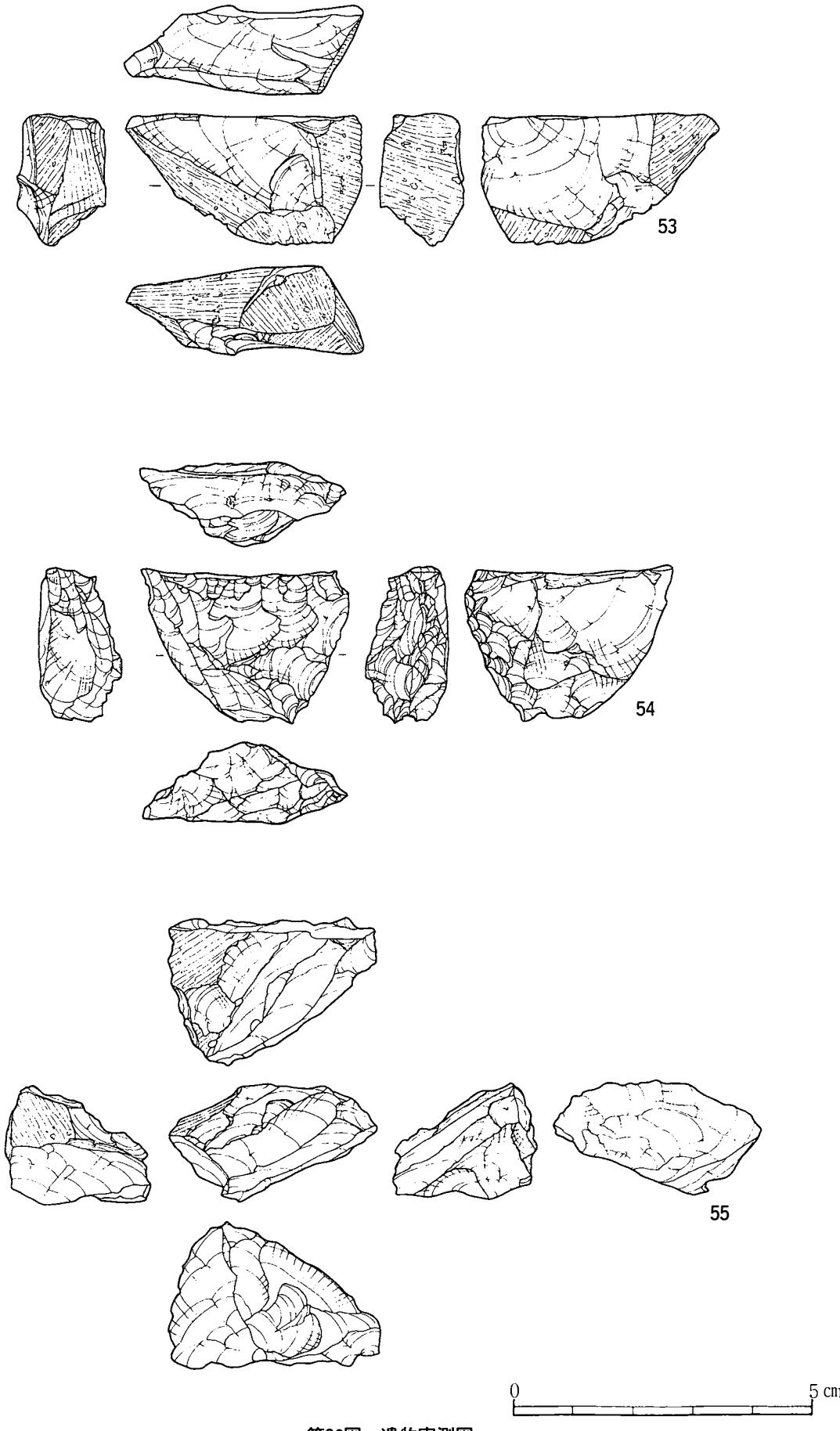
石核として分類できるもののうち、11点を図示した。これらの資料は、剥離面と作業面を頻繁に転移し、多面体を呈するもの（第89図50，52，第90図53，55，第92図59）と、剥離作業が石核の周縁をまわるように行われ、その剥離は表裏両面から交互に行われるもの（第90図54，第91図56，第92図58，60）、剥離作業が同一面を打面とし行われているもの（第89図51，第91図57）に分類できる。これらの石核から剥離された剥片の形状は、前二者では幅広の剥片であり、後者ではやや縦長の剥片が剥離されている。また、黒耀石Ｂ類を素材とする第89図51，52，第90図53等の礫面の状況から、同種の石材の母岩の形状は角礫状を呈していることが観察され、Ａ地点に持ち込まれた母岩は約５cm程度であったことが理解される。



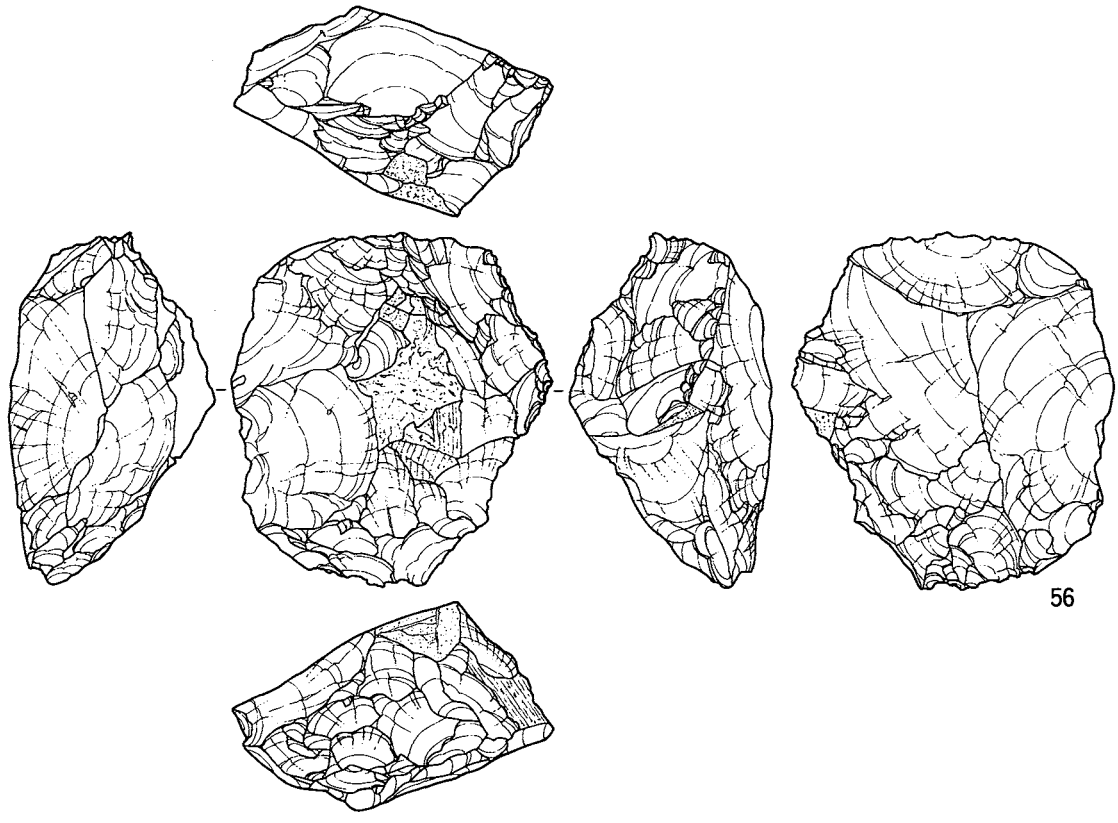
第88図　遺物実測図

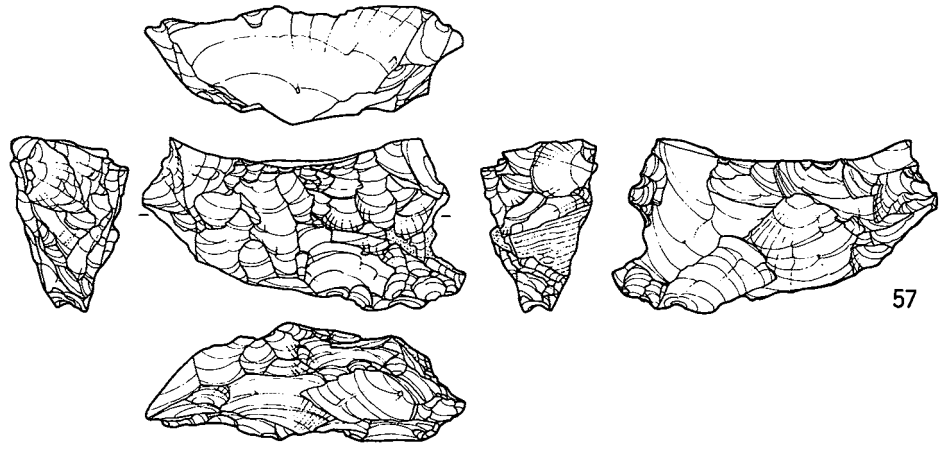


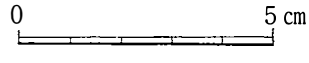
第89図　遺物実測図



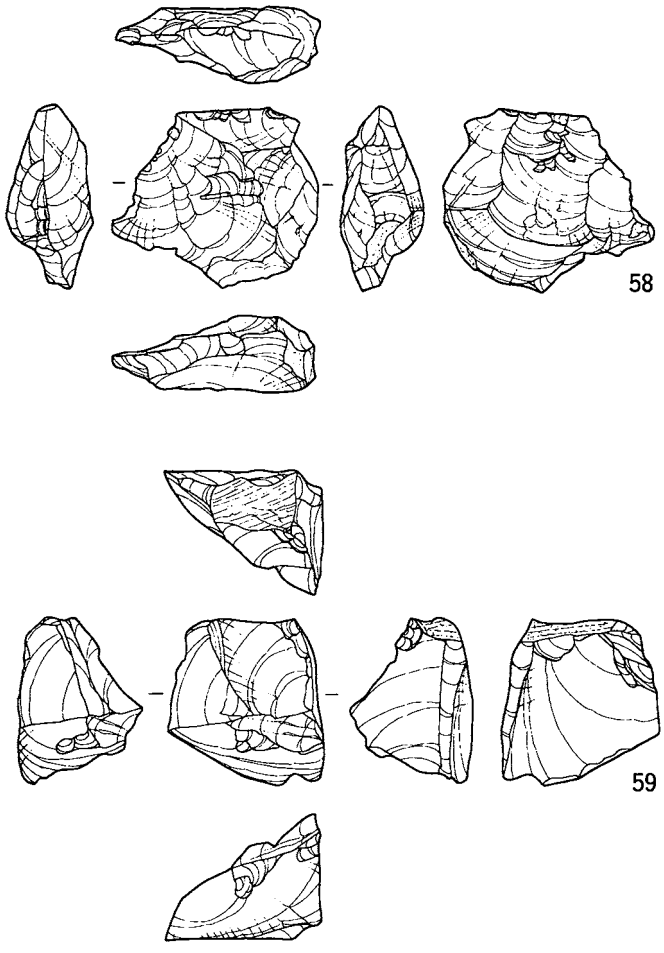
第90図　遺物実測図

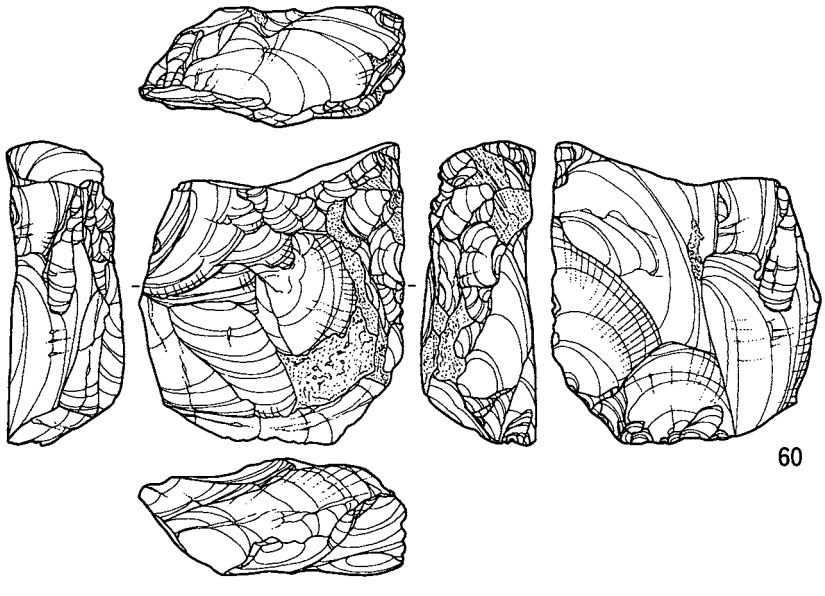






第91図　遺物実測図





第92図　遺物実測図

第18表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
84－1	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	2.30	2.00	0.60	1.70		1160
84－2	石鏃	Ⅲa	黒耀石E	1.60	1.50	0.50	0.70		310
84－3	石鏃	Ⅲb	黒耀石A	1.70	1.60	0.50	0.70		1634
84－4	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	2.50	1.6＋α	0.60	1.10		992
84－5	石鏃	Ⅲb	安山岩	2.10	1.80	0.50	1.00		567
84－6	石鏃	Ⅲc	黒耀石E	1.80	1.60	0.40	0.50		690
84－7	石鏃	Ⅲb	黒耀石A	2.10	1.80	0.40	0.90		698
84－8	石鏃	Ⅲa	黒耀石A	2.70	1.90	0.40	1.40		251
84－9	石鏃	Ⅲa	黒耀石E	1.80	1.50	0.45	0.80		144
84－10	石鏃	Ⅲa	黒耀石E	3.10	1.9＋α	0.60	2.00		146
84－11	石鏃	Ⅲa	黒耀石C	2.10	1.6＋α	0.40	0.70		388
84－12	石鏃	Ⅱa	黒耀石E	2.1＋α	1.40	0.30	0.40		141
84－13	石鏃	Ⅲa	黒耀石E	2.05	1.25	0.35	0.50		2014
84－14	石鏃	Ⅲc	安山岩	2.10	2.60	0.50	1.90		2500
84－15	石鏃	Ⅲa	安山岩	1.6＋α	1.5＋α	0.50	0.80		848
84－16	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	2.05	1.40	0.40	0.70		1078
84－17	石鏃	Ⅲa	黒耀石C	2.30	1.30	0.50	0.70		1219
84－18	石鏃	Ⅲb	黒耀石A	1.80	1.40	0.50	0.70		752
84－19	石鏃	Ⅲa	黒耀石A	1.10	1.00	0.25	0.20		131
85－20	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	2.25	1.95	0.55	0.80		1783
85－21	石鏃	Ⅲb	チャート	1.35	1.60	0.30	0.60		2760
85－22	石鏃	Ⅲb	黒耀石C	1.60	1.70	0.55	1.10		1812
85－23	石鏃	Ⅲb	安山岩	2.60	1.80	0.60	2.00		1100
85－24	石鏃	Ⅲa	黒耀石D	1.35	2.05	0.40	0.80		382
85－25	石鏃	Ⅲb	黒耀石C	1.60	1.60	0.70	1.40		1298
85－26	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	2.70	1.7＋α	0.70	2.10		1967
85－27	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	1.70	1.15	0.60	0.70		686
85－28	石鏃	Ⅲa	サヌカイト	3.75	1.85	0.70	3.40		953
85－29	石鏃	Ⅲa	サヌカイト	2.80	2.10	0.50	2.70		1113
85－30	石鏃	Ⅲb	黒耀石	2.60	2.35	0.75	3.00		1319
85－31	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	2.15	42.20	0.40	1.30		2019
85－32	尖頭状石器	Ⅲa	安山岩	4.1＋α	1.20	0.90	4.00		47
85－33	尖頭状石器	Ⅲb	サヌカイト	3.10	2.40	1.15	7.40		859
85－34	尖頭状石器	Ⅲa	流紋岩	3.60	2.65	1.10	8.60		633
86－35	石匙	Ⅲb	安山岩	3.10	4.20	0.80	5.00		1533
86－36	楔形石器	Ⅲa	安山岩	2.70	1.65	1.05	4.60		432
86－37	削器	Ⅲb	安山岩	4.30	2.40	1.10	10.10		1537
86－38	削器	Ⅲb	安山岩	4.70	1.7＋α	1.20	8.00		1748
86－39	石匙	Ⅲb	安山岩	5.20	2.60	1.15	11.80		1995
86－40	石錐	Ⅲb	黒耀石C	2.5＋α	2.40	1.20	4.10		1556
86－41	削器	Ⅲa	安山岩	3.20	2.85	1.10	6.40		158
86－42	石錐	Ⅲb	黒耀石B	3.20	2.10	0.80	4.00		1351
87－43	石匙	Ⅲb	安山岩	6.70	3.30	1.70	27.00		566
87－44	使用痕ある剥片	Ⅱa	安山岩	4.20	2.60	1.30	11.60		1612
87－45	剥片	Ⅲa	黒耀石B	3.20	2.70	0.80	4.80		150
87－46	使用痕ある剥片	Ⅲc	黒耀石B	4.2＋α	2.40	1.10	12.00		1350
87－47	使用痕ある剥片	Ⅲb	黒耀石B	4.05	3.45	1.20	10.40		937
87－48	削器	Ⅲb	安山岩	3.60	3.55	0.70	7.60		1398
88－49	磨石・敲石	Ⅲb	砂岩	9.80	7.40	4.40	479.70		1333
89－50	石核	Ⅲa	黒耀石B	4.15	3.65	2.20	27.20		1733
89－51	石核	Ⅲb	黒耀石E	1.75	3.65	1.75	8.60		1816
89－52	石核	Ⅲa	黒耀石B	3.10	4.15	2.40	22.20		153
90－53	石核	Ⅲb	黒耀石B	2.20	4.00	1.45	13.60		1772
90－54	石核	Ⅲb	黒耀石C	2.65	3.45	1.40	10.40		787
90－55	石核	Ⅲb	黒耀石B	1.95	3.60	2.40	12.60		851
91－56	石核	Ⅱb	黒耀石B	6.80	6.40	4.10	136.00		4242
91－57	石核	Ⅲb	サヌカイト	3.35	6.40	2.30	40.60		1637
92－58	石核	Ⅲc	黒耀石C	2.35	2.75	1.10	5.40		2048
92－59	石核	Ⅲb	黒耀石E	2.20	2.00	1.60	5.60		1810
92－60	石核	Ⅲb	黒耀石E	5.90	5.30	2.30	71.20		927

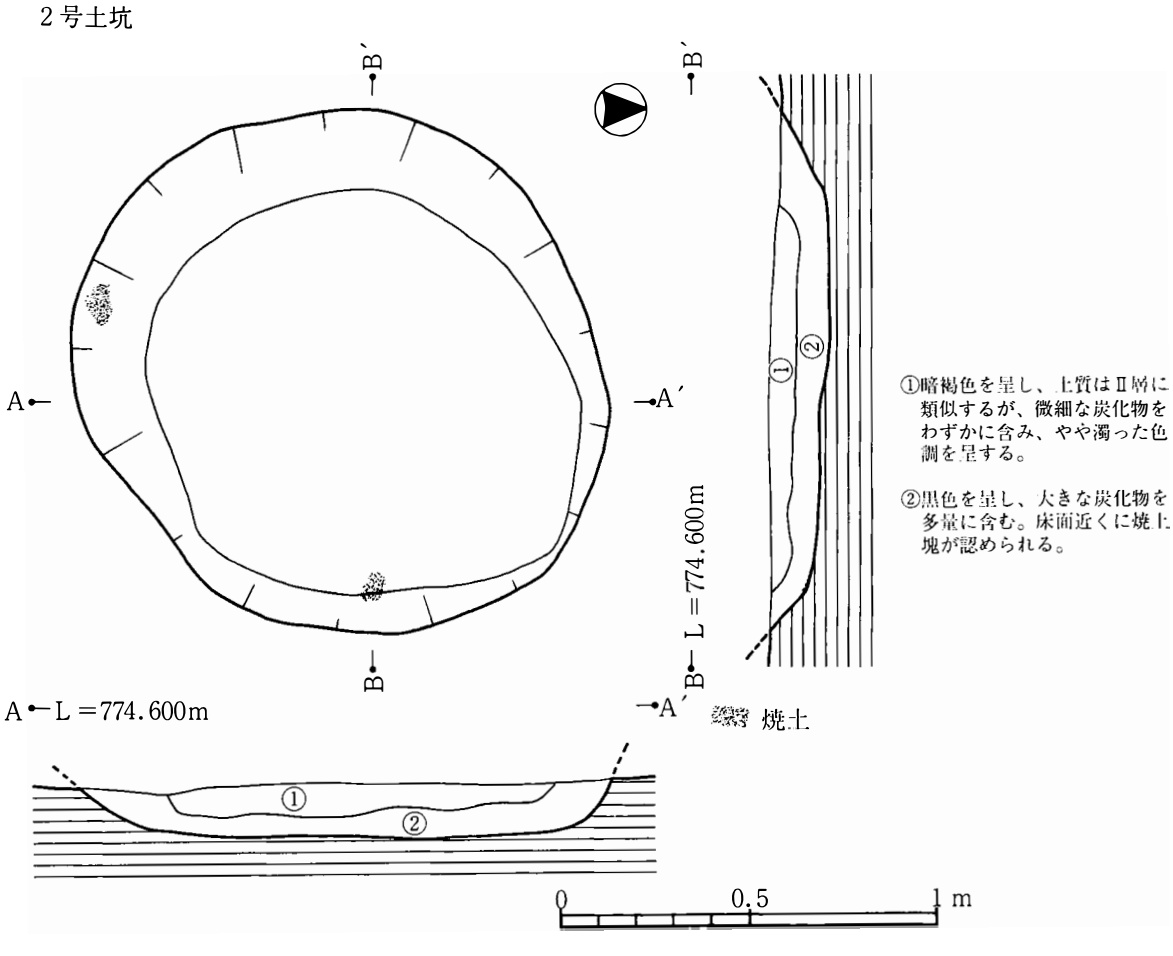
４　まとめ

Ａ地点において、縄文時代の遺構・遺物は、Ⅱ層～Ⅲｃ層で検出された。これらの遺物のピークは、Ⅲｂ層中に認められ検出された遺構の状況と合致しており、その中心は早期であると考えられる。

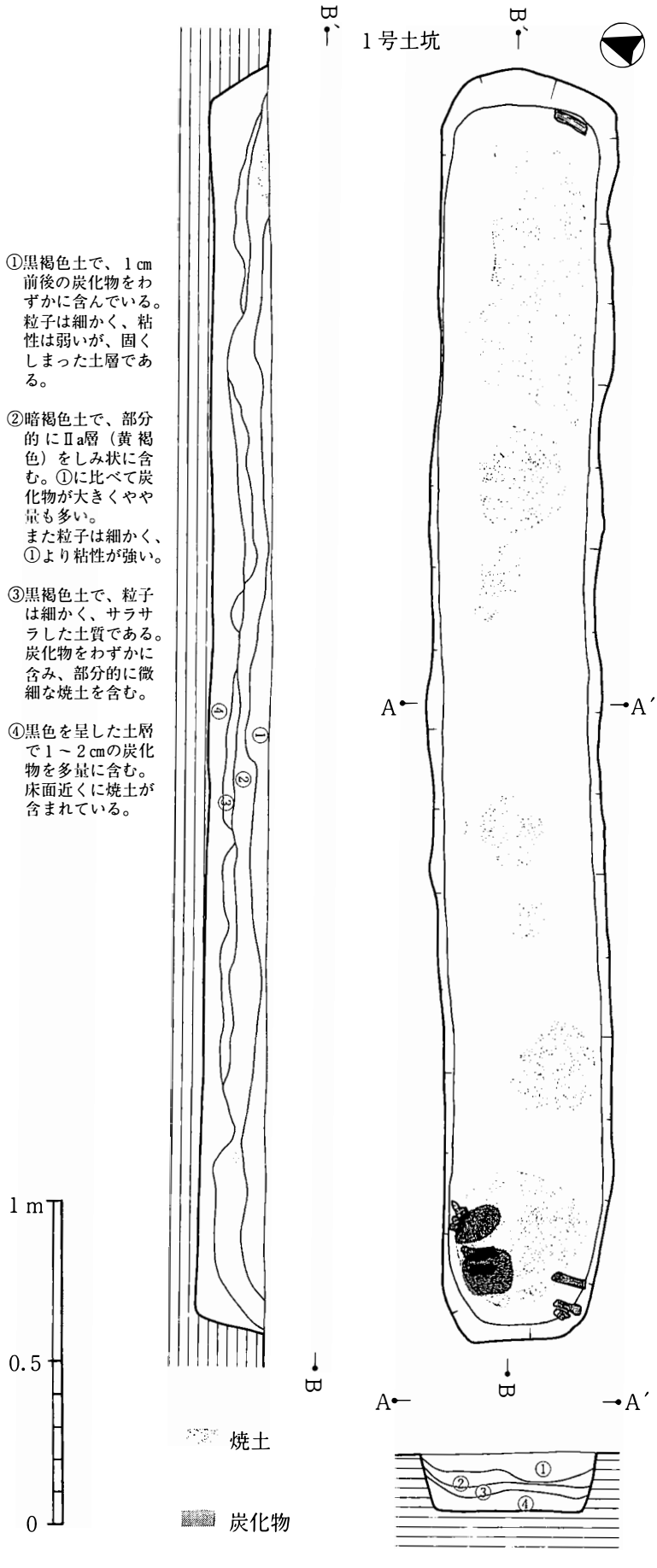
しかし、出土した土器群は数量的に少なく、早期に属するものは器面が粗く細片である。そのため、接合により器形復元できるものはなく、紋様もはっきりとしないものが大半である。集石遺構と土器の分布はほぼ重なる傾向が窺え、石器の分布とは異なる様相がみられる。出土した遺物の組成からは、石器の数量に比べて土器が極めて少ないことが留意される。また、前述したように土器は細片で接合例が少ない。

石器の器種構成では、狩猟具である石鏃が多く、石匙や削器，磨石・敲石等の加工具が少なく、石斧類は検出されていない点も特徴としてあげられる。このことは、Ａ地点で生活をした集団の当該地点の利用の在り方、あるいは生活の様相を示しているものと理解できよう。つまり、土器の遺存する量が少なく、その個体数も焼成や胎土の観察から少数であることが予測され､利用期間が比較的短期間である可能性が考えられる。

また、４号集石遺構の下部で検出された石組炉で、その構造から推定される焚き口の位置と向きは、当該地点の利用時期を示唆するものであろう。これらのことから、集石遺構を構築し当該地点を利用した時期は、狩猟の時期と重なり、比較的短期間であった可能性が指摘できる。



第93図　土坑実測図



第94図　土坑実測図

しかし、当該地点に作り出された遺構は集石遺構だけではなく、土坑も15基検出されている。これらの土坑の形態及び特徴には、バリエイションが認められる。B地点でも類似する土坑が検出されている。そのため、両地点における早期の様相として検討し、理解する必要があろう。

また、A地点において縄文時代以降の土坑が2基検出された（第93図，第94図）。

以下、土坑ごとに説明を行う。

1号土坑（第94図）

E－3区で検出された、長軸7.8m，短軸1.1m，深さ0.4mを測る長楕円形を呈する土坑である。検出面は、表土剥ぎ直後のⅢa層上面である。埋土の状況から土坑の掘り込み面は、上層に位置するものと考えられる。土坑の東西両端に直径約4～6㎝の木炭が検出された。その木炭は、概ね短軸方向に並ぶ状態を示し、床面には火熱を受け赤化した部分が広く認められる。

2号土坑（第93図）

F－5区で検出された直径約1.4m，深さ0.2mを測る円形の土坑である。検出面は、Ⅱ層下面であるが掘り込み面はさらに上部に位置するものと考えられる。また、火熱を受けたと思われ、土坑の床面及び壁面に赤化した部分が認められる。1号土坑とは形態的にも違い、木炭も検出されなかったが、埋土中に炭化物が多量に含まれ床面及び壁面が赤化している状況から、同様の機能を有していたと考えられる。遺構の時期を決定できる遺物は検出されなかった。

第Ⅳ章　Ｂ地点の調査と成果

第１節　旧石器時代の調査

１　出土層位

Ｂ地点は、南東から北西へ傾斜する斜面に立置し、さらに南東側は湧蓋山（1,499m）から連なる急斜面に至り、山塊から丘陵部への変化点に位置する。標高は、787～770mを測る。その傾斜は、南東端付近で約14.5%、北西端で約12.5%であり、徐々に傾斜が緩やかになりＤ地点へとつながる。また、Ｂ地点は、南北に存在する谷部により区画される。北側の谷部は、Ｃ地点を南東－北西に横断しＤ地点北側の谷部へと至る。南側の谷部は、北西方向へと延び、Ｄ地点南側の谷部に至る。この２つの谷部によって、他の地点と地形的に区画され、特に北側の谷部により、Ａ，Ｃ地点と区画される。Ｂ地点を周囲の地形と区画する２つの谷部のうち南側の谷部は、降水時のみに流路となる。そのため、流路によって浸食され谷部を形成している。この谷部には、丘陵の高所から流されてきた礫が混入している。しかし、南北の谷部に挟まれた範囲の土層堆積は概ね良好である。

基本土層は、Ａ地点と同様の堆積状況を示し、９枚の土層が確認され（第６図）、Ⅴ層中に姶良Ｔｎ火山灰を包含する。旧石器時代の遺物の出土は、Ⅳａ層～Ⅶ層に認められる。この在り方は、Ａ地点と同様であるが、その出土数量は333点と少ない。これらの石器は、定型的なものが少なく大半が剥片・砕片類である。接合資料は少なく、個体別識別が困難である。また、台形様石器に分類できる石器が１点、縄文時代の包含層に混在して検出される等、文化層の把握と区分は困難な状態である。そのため、旧石器時代の遺物を一括して報告を行うこととし、文化層の区分と認識については、今後の課題としたい。

２　分布と石材

使用される石材のうち黒耀石類の割合は、石器群全体の56.2%を占める。黒耀石類は、その石質の特徴からＡ～Ｃ類に細分できる。それぞれの石質については、第Ⅲ章で述べたとおりである。その利用頻度に関しては、黒耀石Ｃ類が卓越し、全石器群のうち黒耀石類の占める割合は56.2%、非黒耀石類の43.8%とほぼ拮抗した状況を呈する。また、石材別では、黒耀石Ｃ類が44.8%，安山岩が39.0%，黒耀石Ｂ類11.1%，黒耀石Ａ類0.3%，メノウ3.3%，チャート0.9%，石英0.3%，砂岩0.3%である。

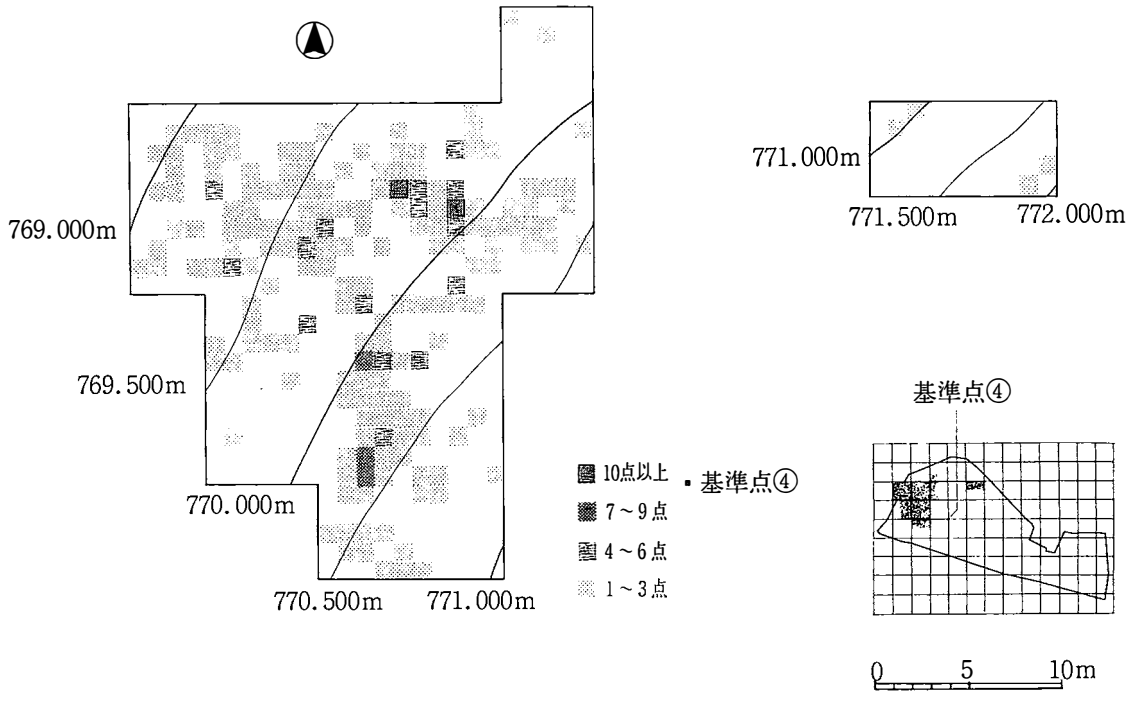
Ｂ地点で検出された旧石器時代に属する石器群に関しては、文化層の認定と把握には至らなかったが、層位別の石材利用頻度の検討から、その文化層把握の指標を提示しておきたい。石器群全体では、黒耀石類と非黒耀石類の割合が、拮抗しながら前者がやや卓越した状況として捉えられる。

しかし、層位別で分析を行うとⅣａ層～Ⅴ層では、非黒耀石類が黒耀石類より高い割合を示し、Ⅵａ層～Ⅶ層と異なる様相が認められる。さらに、石器群の層位別出土数量の推移からも同様の傾向が窺える。このことから、Ⅳａ層～Ⅳａ層上位とⅥａ層～Ⅶ層の２つの文化層に区分することが可能であると予想される。

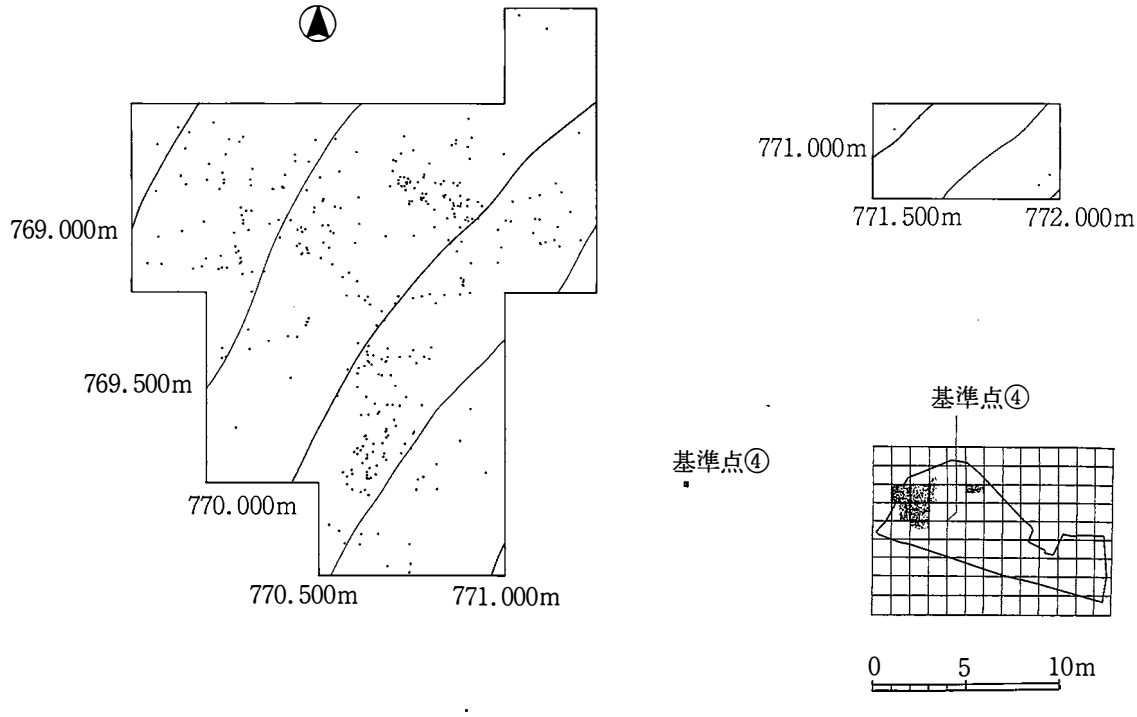
石器群の分布は、調査区西側に偏在し、南北２つの谷部に挟まれる範囲に認められ、北側の谷部を取り巻く状態で検出されている。その分布の在り方から、いくつかの集中部に区分できる可能性も指摘できるが、文化層の把握が困難な状況であるため、今回ブロックの認識をあえて行わなかった。しかし、層位別石材組成の在り方から、上下の文化層に区分できる可能性も認められる、このことから今後文化層ごとに区分し、さらにブロックごとに検討を行い、その結果をもとに耳切遺跡Ａ～Ｄ地点の各石器群の比較検討を行う必要性があろう。

また、Ｂ地点の旧石器時代石器群は、礫群を伴わずＡ地点と同様の状況を呈する。炭化物は検出されず、科学的年代測定は実施しなかった。

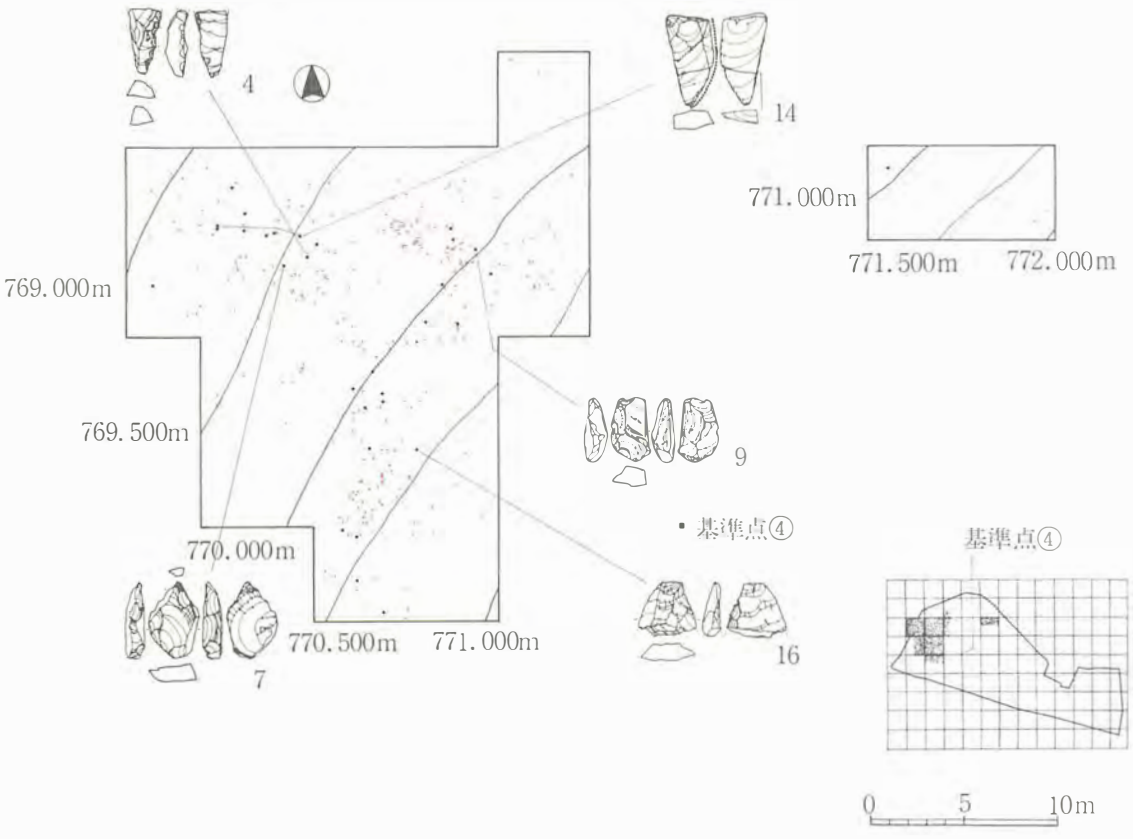
A図



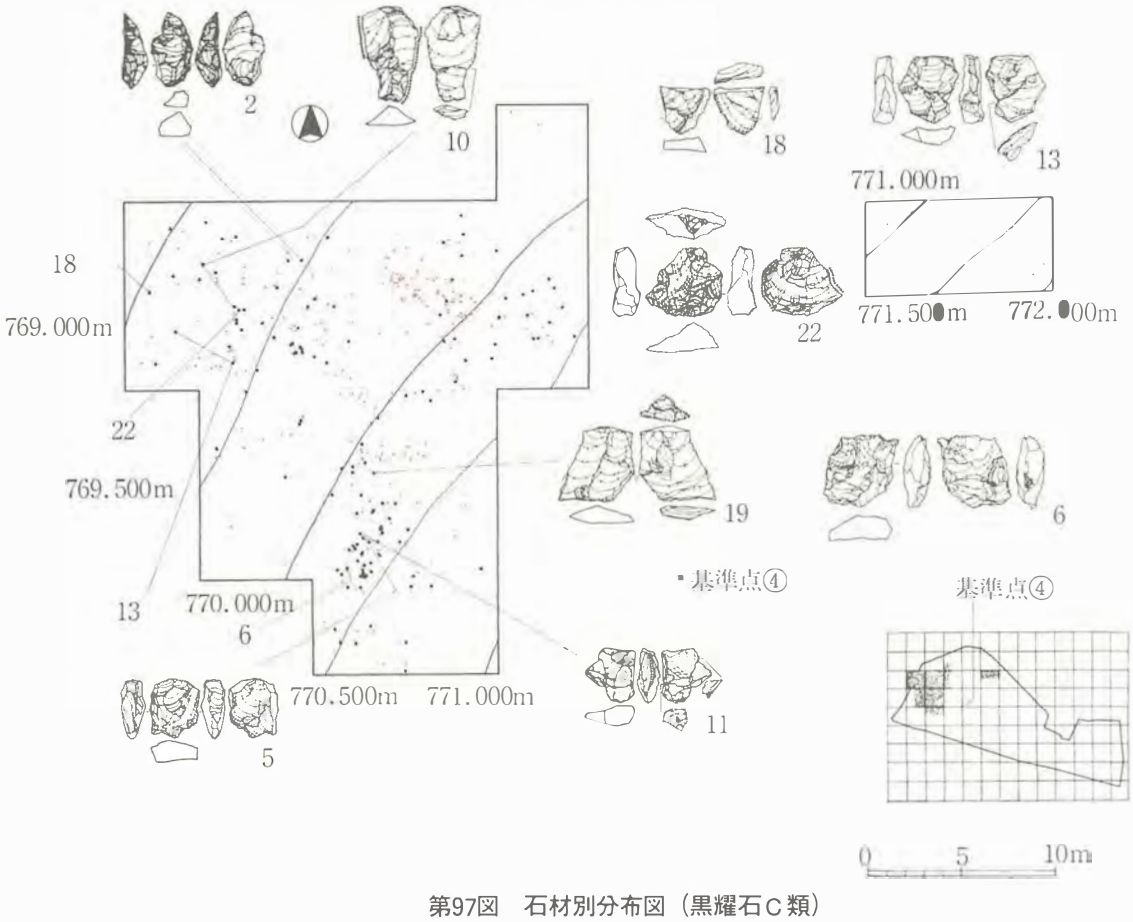
B図



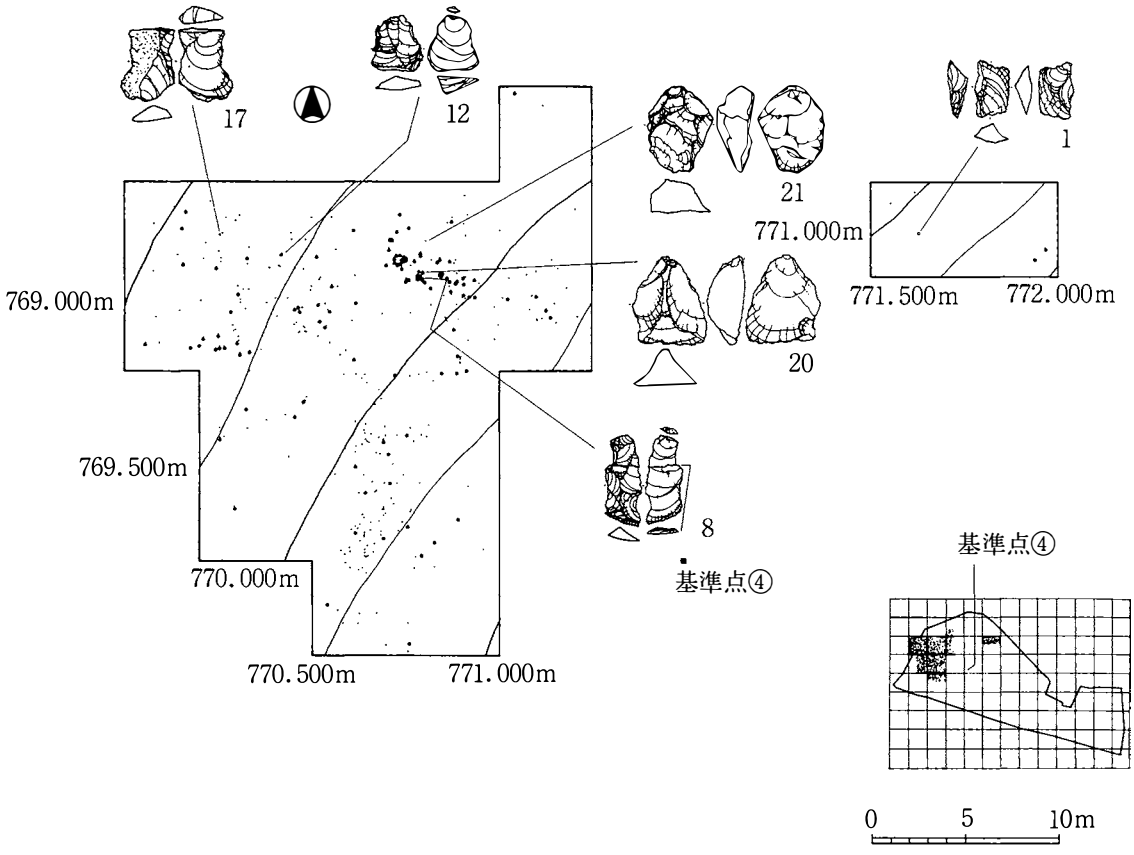
第95図　遺物分布図



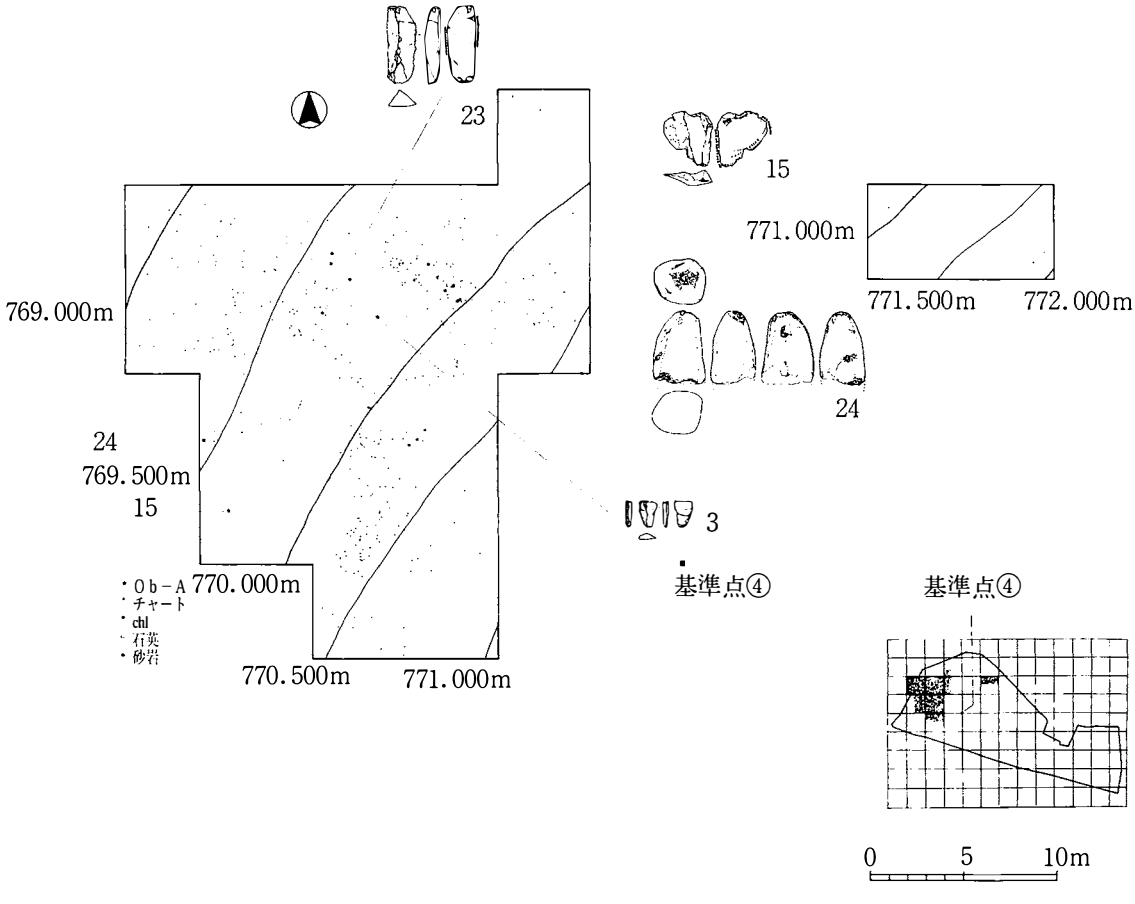
第96図　石材別分布図（黒耀石Ｂ類）



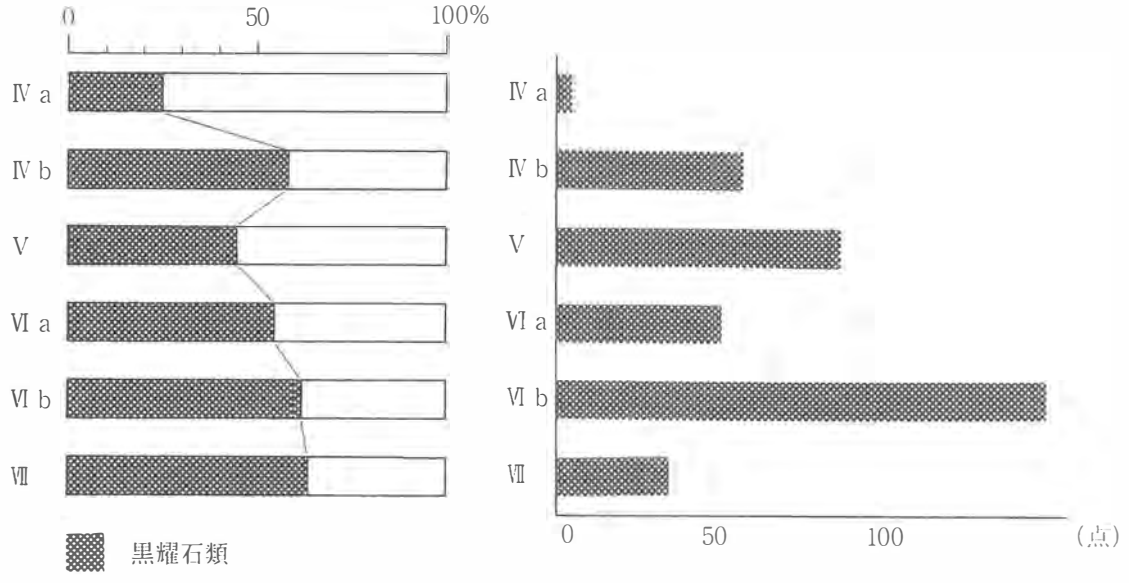
第97図　石材別分布図（黒耀石Ｃ類）



第98図　石材別分布図（安山岩）



第99図　石材別分布図（その他）



第100図　層位別石材利用頻度および出土点数

3　出土石器

Ｂ地点において検出された全石器群は、総数333点であり、その大半は剥片・砕片類である。石器組成は、ナイフ形石器，台形様石器，削器，楔形石器，磨石・敲石，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片で構成されるが、その数量は少ない。これらの石器群の出土層位は、Ⅴ層及びⅥｂ層にピークが認められる。

以下、器種ごとに説明を行う。

ナイフ形石器（第101図２，３）

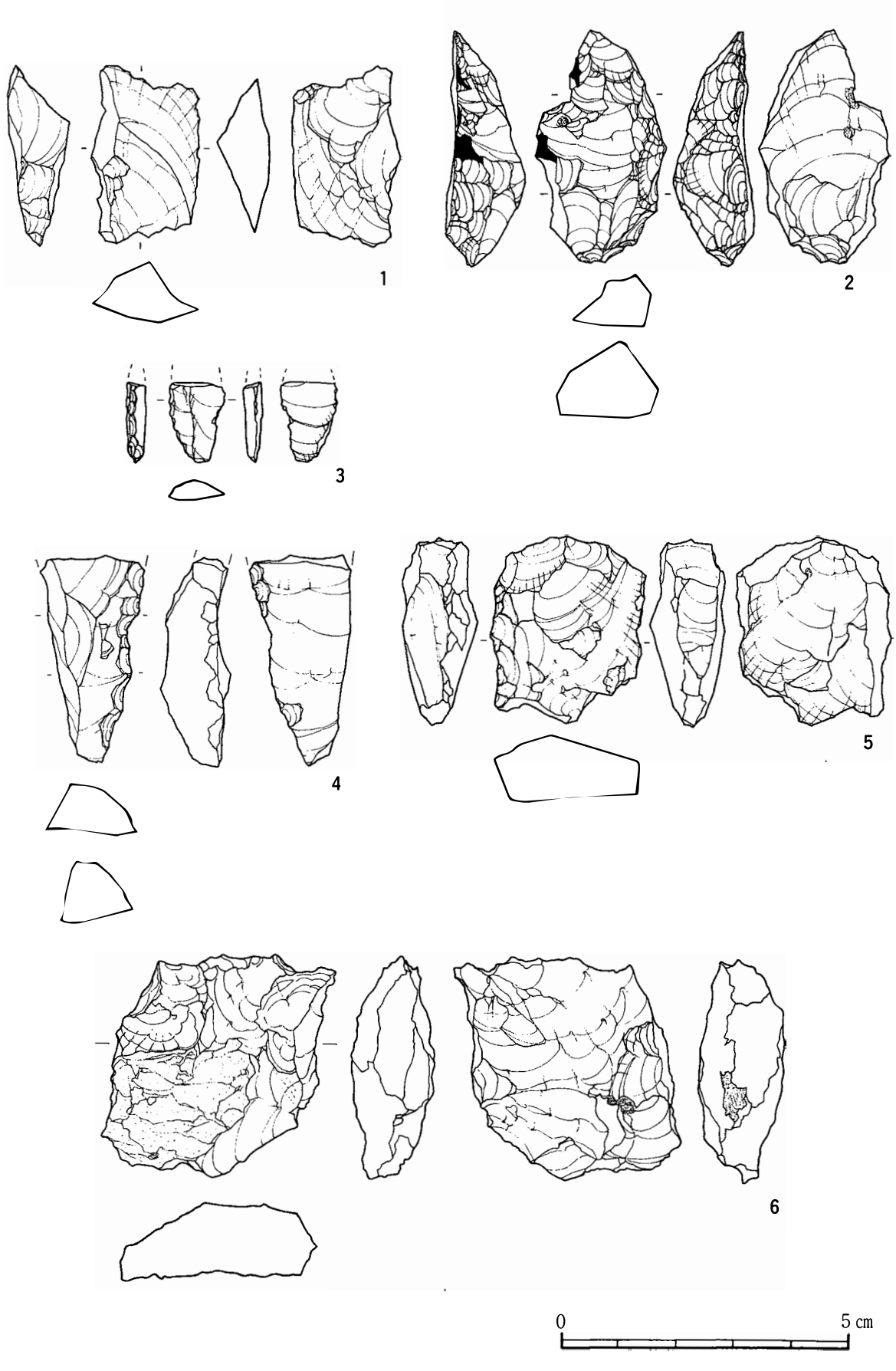
ナイフ形石器に分類できるものは、２点検出された。石材は黒耀石Ａ類（第101図３），黒耀石Ｃ類（第101図２）である。第101図２は、Ⅴ層で検出された。幅広で厚みのある縦長剥片を素材とし、調整加工は二側縁に認められる。刃部は、左側縁先端部よりに設定される。第101図３は、Ⅵａ層で検出された。縦長剥片を素材とし、先端部を欠失している。そのため石器の全体形は、不明である。調整加工は、左側縁部に認められる小型のナイフ形石器である。

台形様石器（第101図１）

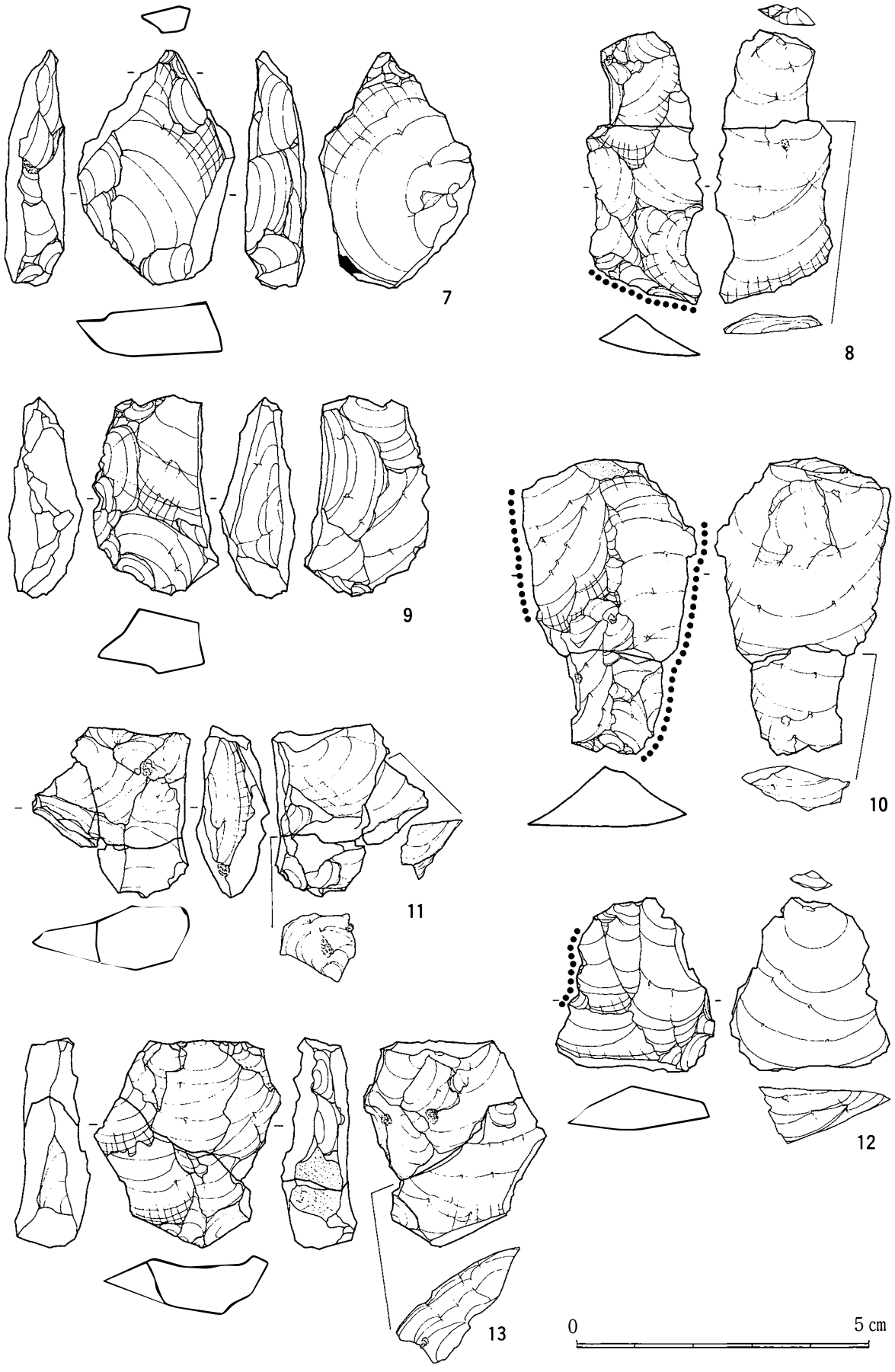
台形様石器に分類できるものは、１点検出された。しかし、Ⅲａ層で縄文時代の石器群に混在して検出され、本来の層位及び原位置は不明である。石材は、安山岩である。厚みのある幅広の剥片を素材とし、打面部を取り除くように大まかな剥離による加工が認められる。その在り方は、錯向する状態で平坦及び急斜度に施されている。

削器（第102図９）

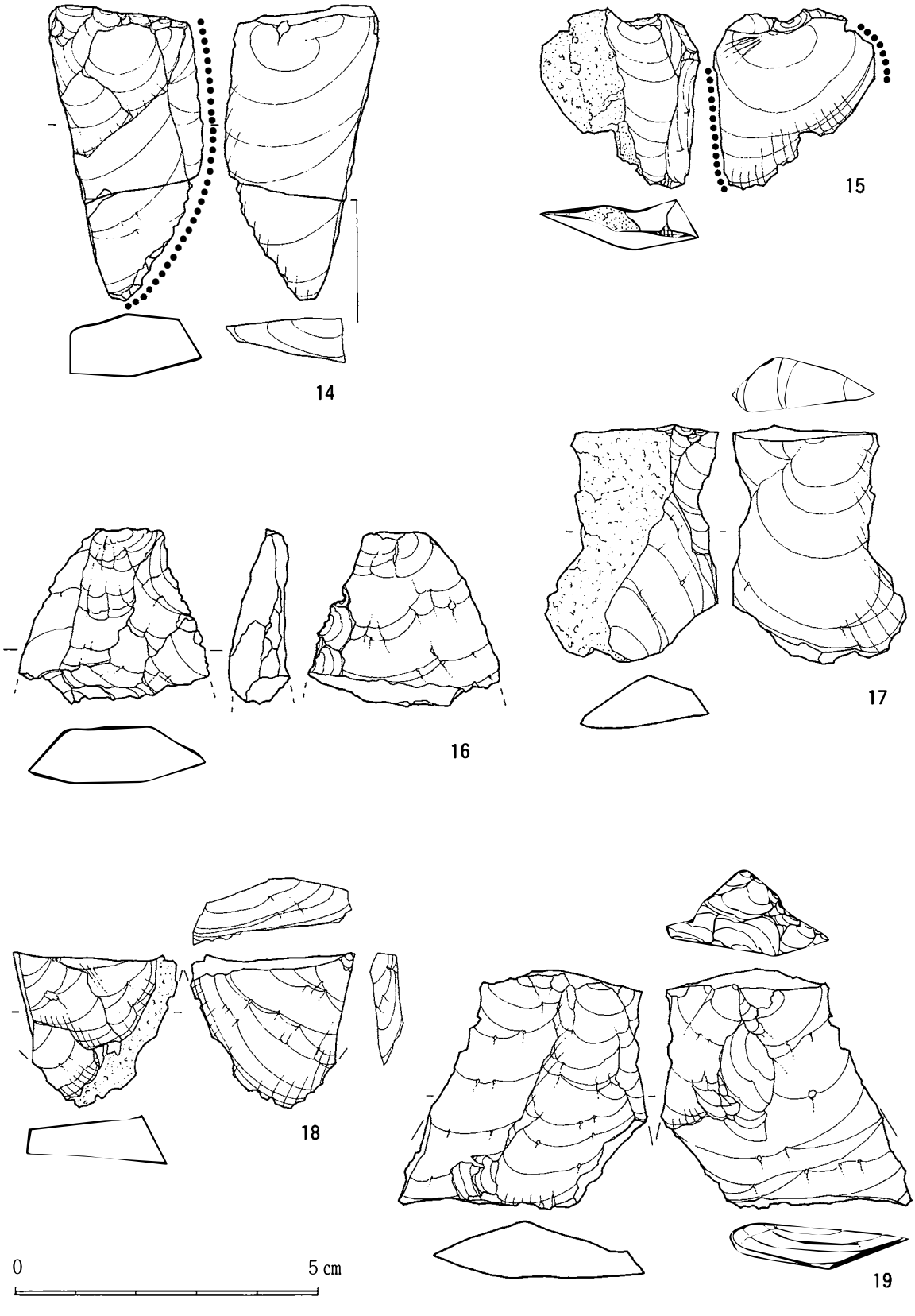
削器に分類できるものは、１点確認された。出土層位は、Ⅵａ層である。厚みのある幅広剥片を素材とし、左側縁部に裏面側から大まかな調整加工を施し刃部を作り出している。



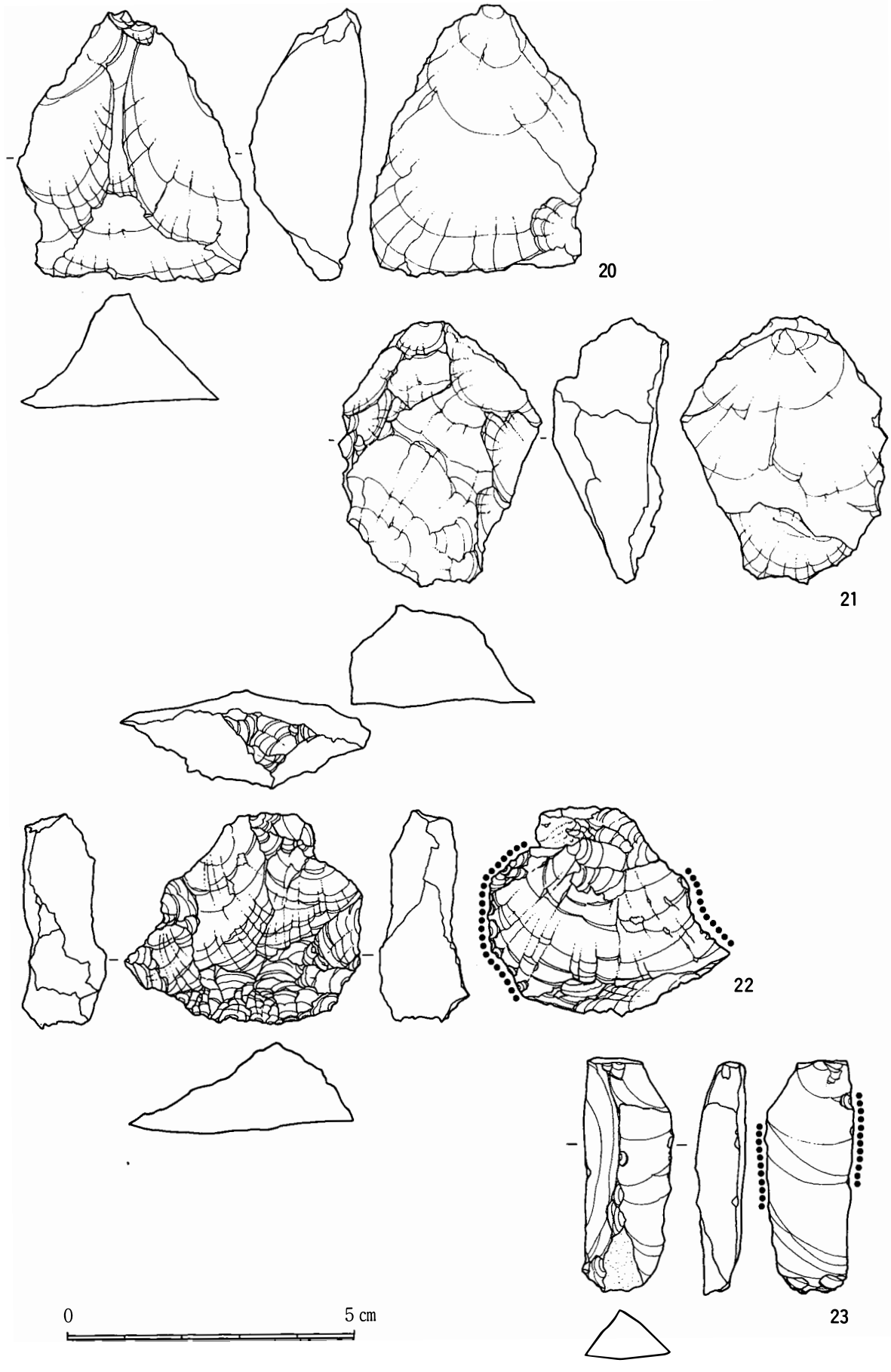
第101図　遺物実測図



第102図　遺物実測図



第103図　遺物実測図



第104図　遺物実測図

楔形石器（第101図５，６，第102図11，13，第104図21）

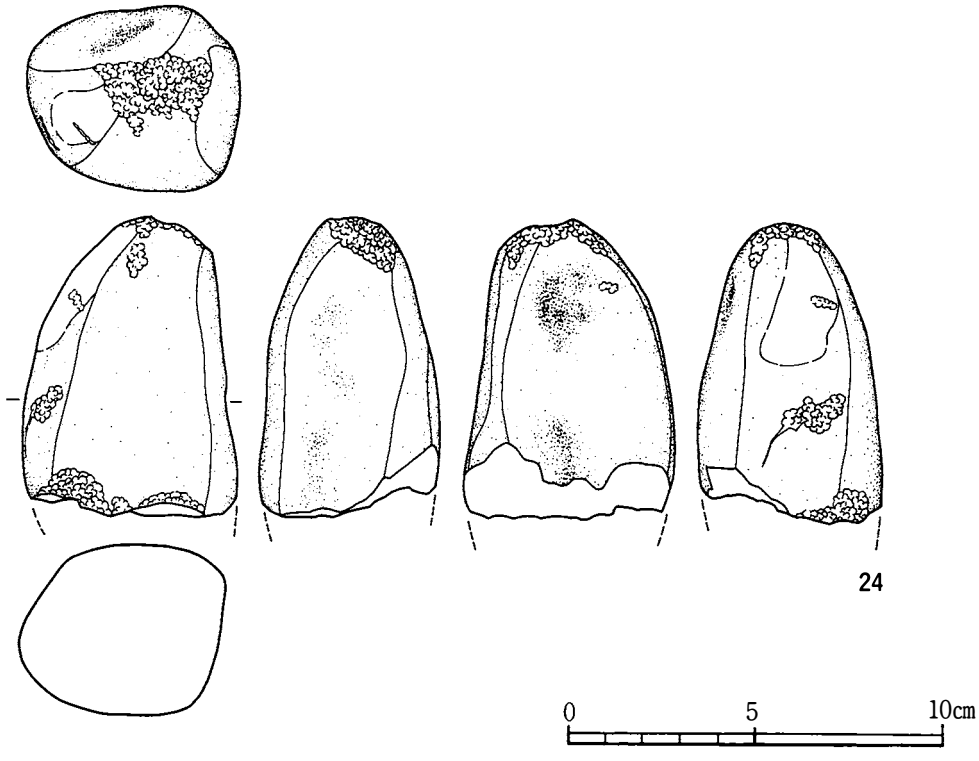
楔形石器として分類できるものは、接合資料を加えて４点検出された。第101図５は、Ⅴ層で検出された。厚みのある幅広剥片を素材とし、表面上下両端に対向する剥離面が観察される。第101図６は、Ⅳａ層で検出された。厚みのある幅広剥片を素材とし、表面及び左側縁に礫面を残す。裏面側の剥離面は上下両方向からの力の伝わりが認められ、左右両側に対向する小剥離痕が観察される。第102図11，13は、接合資料である。両者とも表面に上下両端からの力の伝わりや対向する小剥離痕が観察される。第104図21は、厚みのある縦長剥片を素材とし、表面の同一剥離面に上下両端からの力の伝わりが観察される。

磨石・敲石（第105図24）

磨石・敲石に分類できるものは、Ⅴ層から１点確認された。第105図24は砂岩製であり、下端部を欠失している。上端部及び側面に敲打痕による潰れが観察される。石器の形態は、幅に比べ長さのある長楕円形を呈する。

二次加工ある不定形石器（第101図４，第102図７，第103図16）

二次加工ある不定形石器は７点確認され、そのうち３点を図示した。第101図４は、Ⅵｂ層下面から検出された。その石材は、黒耀石Ｂ類である。縦長剥片を素材とし、打点部側を欠失している。調整加工は、右側縁部に表面側と裏面側に施されている。第102図７は、Ⅵｂ層中位面で検出された。石材は、黒耀石Ｂ類である。調整加工は、先端部の表裏面に観察される。第103図16は、Ⅵａ層で検出された。石材は、黒耀石Ｂ類である。幅広の縦長剥片を素材とし、右側縁裏面側に大まかな調整加工を施す。剥片の先端部側を欠失している。



第105図　遺物実測図

第19表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
101－1	台形様石器	Ⅲa	安山岩	1.85	3.05	1.05	4.40		18
101－2	ナイフ形石器	Ⅴ	黒耀石C	3.97	2.28	1.21	8.71		747
101－3	ナイフ形石器	Ⅵa	黒耀石A	0.50	0.55	0.42	0.07		553
101－4	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	黒耀石B	3.56	1.72	1.11	5.29		699
101－5	楔形石器	Ⅴ	安山岩	0.81	0.93	0.67	0.31		386
101－6	楔形石器	Ⅳa	黒耀石C	3.69	4.18	1.42	17.20		370
102－7	二次加工ある不定形石器	Ⅵb	黒耀石B	2.78	3.89	0.95	10.71		587
102－8	使用痕ある剥片	Ⅵa	安山岩	4.06	2.00	0.70	4.90	個体3	509＋570
102－9	スクレイパー	Ⅵa	黒耀石B	3.42	2.23	1.09	8.42		513
102－10	使用痕ある剥片	Ⅳb･Ⅴ	黒耀石C	5.05	2.93	1.00	13.60	個体1	549＋730
102－11	楔形石器	Ⅳb･Ⅴ	黒耀石C	2.75	1.95	1.05	6.60	個体4	375+384a+384b
102－12	使用痕ある剥片	Ⅵb	安山岩	3.03	2.72	1.09	6.59		742
102－13	楔形石器	Ⅳb･Ⅵb	黒耀石C	2.95	3.45	0.80	11.70	個体5	592＋708
103－14	使用痕ある剥片	Ⅳb･Ⅵb	黒耀石B	4.70	2.50	1.02	11.00	個体2	733＋739
103－15	使用痕ある剥片	Ⅳa	黒耀石A	0.75	2.71	0.61	3.80		446
103－16	二次加工ある不定形石器	Ⅵa	黒耀石B	2.80	3.16	0.90	7.30		342
103－17	剥片	Ⅵb	安山岩	3.90	2.91	1.09	9.23		729
103－18	剥片	Ⅵb	黒耀石C	2.77	2.71	0.82	5.27		718
103－19	剥片	Ⅳb	黒耀石C	4.10	3.98	1.13	17.20		469
104－20	剥片	Ⅴ	安山岩	4.84	3.89	1.93	28.54		605
104－21	楔形石器	Ⅴ	安山岩	4.59	3.60	1.74	28.01		613
104－22	使用痕ある剥片	Ⅵb	黒耀石C	3.69	4.13	1.32	16.15		580
104－23	使用痕ある剥片	Ⅴ	瑪瑙	4.05	1.55	0.86	4.69		537
105－24	磨石・敲石	Ⅴ	砂岩	7.42	7.60	4.88	260.35		443

使用痕ある剥片（第102図８，10，12，第103図14，15，第104図22，23）

使用痕の認められる剥片は８点確認され、そのうち６点を図示した。素材剥片の形状は、縦長剥片（第102図８，10，12，第103図14，第104図23），幅広剥片（第103図15，第104図22）が認められる。これらの使用痕の部位では、側縁部にみられるもの（第102図10，12，第103図14，15，第104図22，23）と先端部にみられるもの（第102図８）に分けられる。

剥片（第103図17～19，第104図20）

剥片は、119点検出された。そのうち４点を図示した。表裏面に認められる剥離痕の観察では、同一方向の剥離痕がみられるもの（第103図18，19）とそうでないもの（第103図17，第104図20）に分けられる。後者は、表面に求心的な剥離痕が観察されることから石核の周縁を巡るように打点を転移し剥離されたものと考えられる。第103図17は、表面に大きく礫面を残し、上下から施された剥離痕はやや軸がぶれた状態が観察される。

４　接合資料（第106図）

Ｂ地点において接合資料は、６例確認された。その石材は、黒耀石Ｂ類（個体２），黒耀石Ｃ類（個体１，４～６），安山岩（個体３）である。これらの接合資料は、同一剥片及び楔形石器の折れ面によるものであり、剥片剥離工程を復元できるものは確認されなかった。接合関係は、第106図に示したとおり接合した資料の分布は、高所から低所へ谷部方向に認められる点で共通している。

以下、個体ごとに説明を行う。

個体１～３（第107図）

個体１～３は、縦長剥片の中位で接合した。折れの方向は、裏面の剥離方向と直行し、折れ面は裏面から

表面への力の伝わりを示している点で共通している。個体1，2は、使用痕が折れ面の上下で連続している。これらのことから、折断であるかは判然としない。

個体4，5（第107図）

個体4，5は、上下両端に小剥離痕が観察され、中位で接合した。また、個体4は、左側縁部にも接合面が観察され、その方向は裏面の剥離痕と直行するものと並行するものである。両者の折れ面は、表面から裏面への力の伝わりを示し、ほぼ両者の接点に近い部分に起点が認められる。個体5の折れ面は、裏面から表面への力の伝わりを示し、上下左右に対向する小剥離痕が観察される。これらのことから、個体4，5は、楔形石器であると考えられ、使用段階での折れであると推定される。

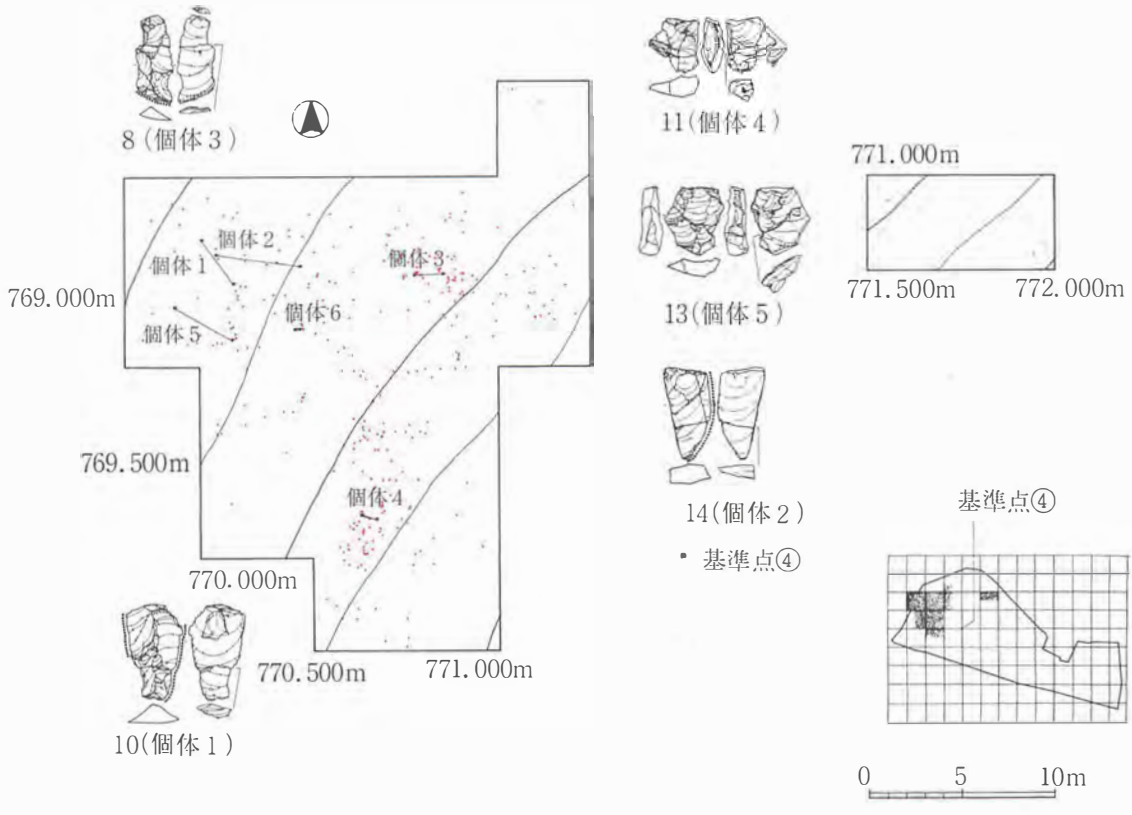
5　石器群の位置づけ

B地点の基本土層は、A地点と同様の堆積状況を示し、9枚の土層が観察された。Ⅴ層中に姶良Tn火山灰を包含する。旧石器時代に属する石器群は、総数333点検出された。これらの石器群は、Ⅳa～Ⅶ層にかけて出土し、そのピークはⅤ層とⅥb層に認められる（第100図）。

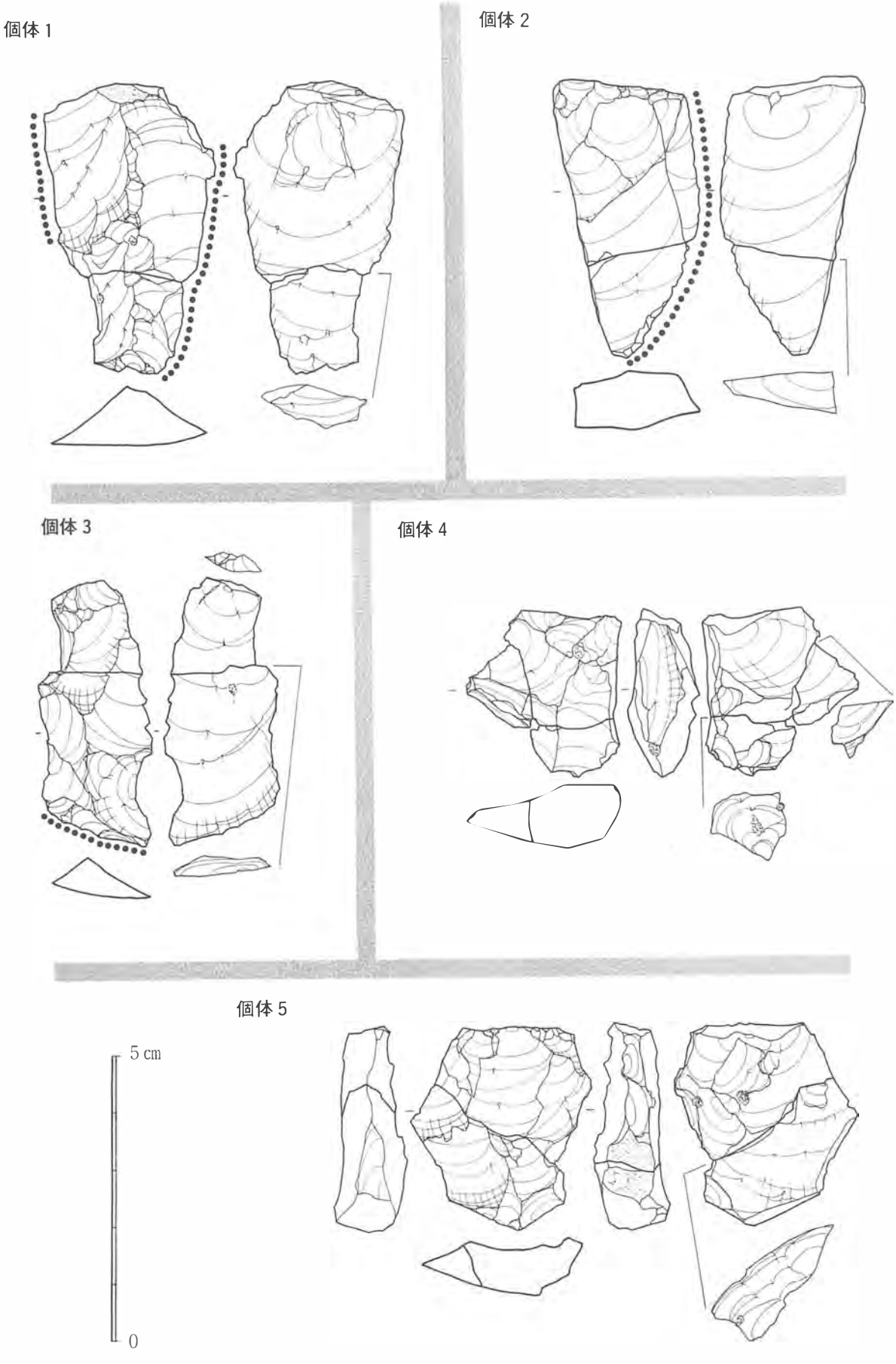
検出された石器群には定型的な石器類が少なく、剥片・砕片類が大半を占めている（第107図）。

また、接合資料が少なく、個体別認識は困難である（第106図）。地形的にも南北に認められる谷部に挟まれ、西北に向かって傾斜し、接合資料も谷部方向に3～4mの距離をもって確認されたものもある。検出された石器群すべてが、原位置をとどめているとは考えにくい。そのためブロックの認識は、困難であった。

これらの状況から、同地点で検出された石器群に関して、文化層の把握と区分及び文化層別のブロックの認識は困難であり、完全に検討し把握するまでには至らなかった。



第106図　接合関係図



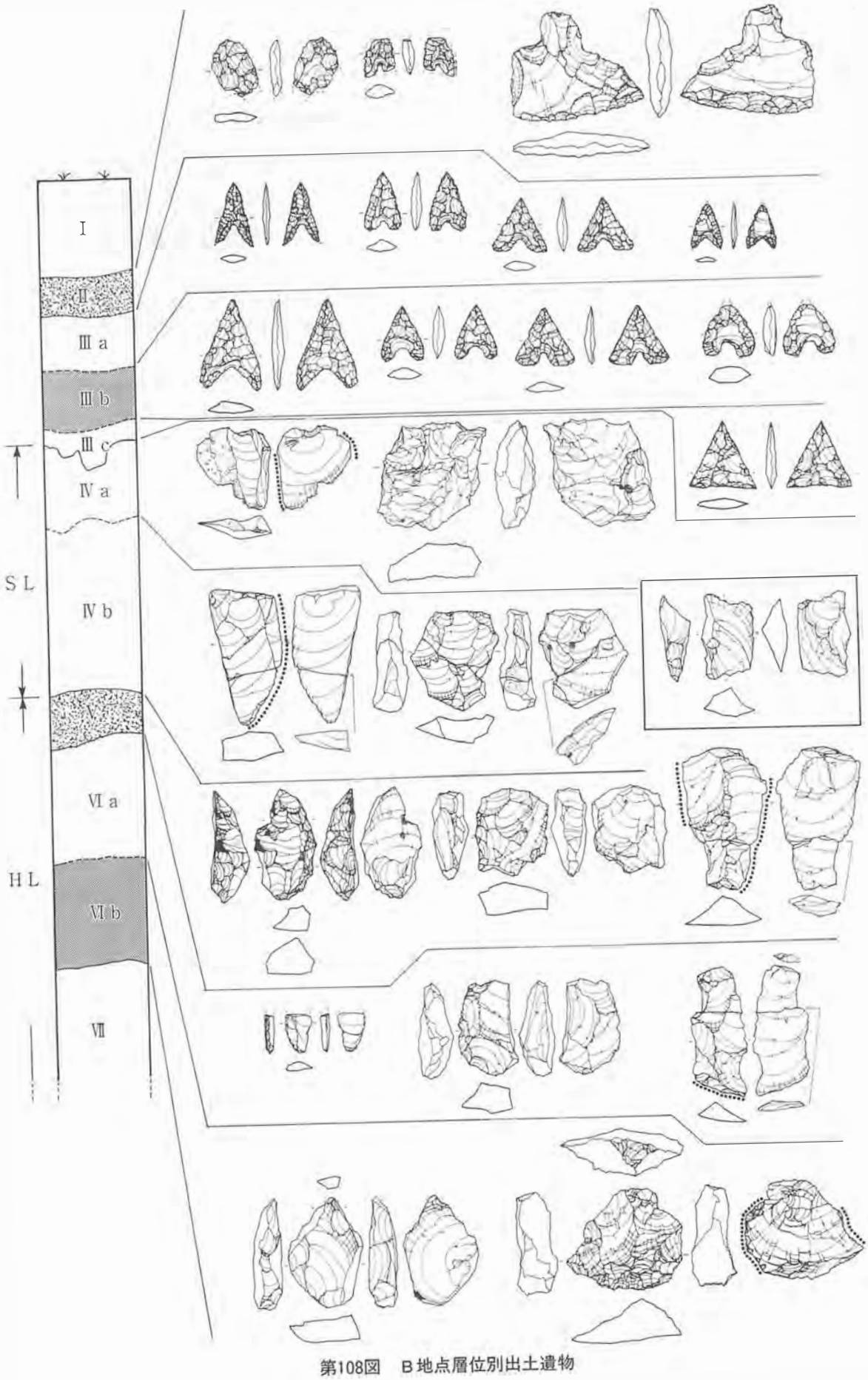
第107図　接合図

しかし、層位別の石材利用頻度の検討から、文化層把握の指標を提示しておきたい。石器群全体の石材別利用頻度では、黒耀石類が56.2%を占め、非黒耀石類の43.8%に比してやや高い比率を示し両者が比較的拮抗した状態として認識できる。このような状態は、層位別にみると出土点数が少ないⅣａ層を除くと、Ⅴ層で逆転した状態を示す以外はほぼ同様であるが、Ⅶ層から上層へ徐々に黒耀石類の比率は低下する傾向が窺われる。黒耀石類のなかでは、黒耀石Ｃ類がもっとも高い比率を示し79.7%を占める。この様相は、層位別でみた場合でも同様である。

また、遺物の層位別出土数量では、Ⅴ層とⅥｂ層で多くそれぞれの上下層でやや減少する傾向が認められる。このことからⅦ層～Ⅵａ層とⅥａ層上部～Ⅳａ層の２つの文化層に区分することが可能であると予想されるが、検出されたナイフ形石器及び台形様石器は少なく、Ⅴ・Ⅵａ層に偏る。このうち、小型の縦長剥片を素材とするナイフ形石器は、Ⅵａ層で検出され石材は黒耀石Ａ類である。そのため、同地点とＡ，Ｃ，Ｄ地点の石器群との比較検討が難しく、時間的位置づけを困難なものにしている。しかし、Ⅴ層中に姶良Ｔｎ火山灰が包含されていることと、Ⅵｂ層に暗色帯が存在していることから、下位に予想される石器文化の時間的位置づけは、Ａ地点の第Ⅰ石器文化に比較的近い可能性が指摘できる。

上位に予想される石器文化からは、２点のナイフ形石器が検出され、うち１点は小型の縦長剥片を素材としたものである。第101図３のナイフ形石器により同石器文化の時間的位置づけを予想するならば、狸谷Ⅰ石器文化や久保Ⅰ石器文化に比定できる可能性も指摘できようか。

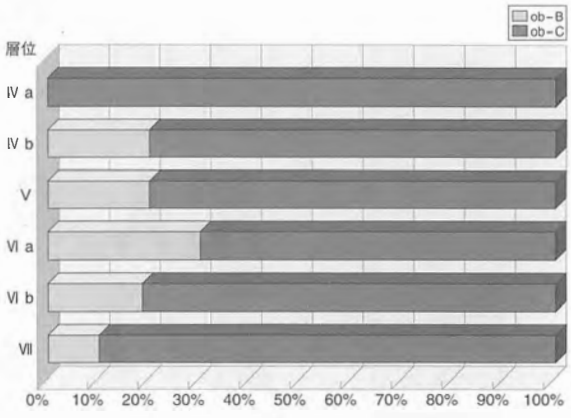
しかし、同地点における旧石器時代の石器群は、資料数や接合資料が少なく剥片剥離工程を復元できるものは検出されず、個体別識別も困難であった。そのため、同地点の旧石器時代石器群の大まかな枠組みと時間的位置づけを予測したにすぎず、さらに細かな分析検討が必要であろう。



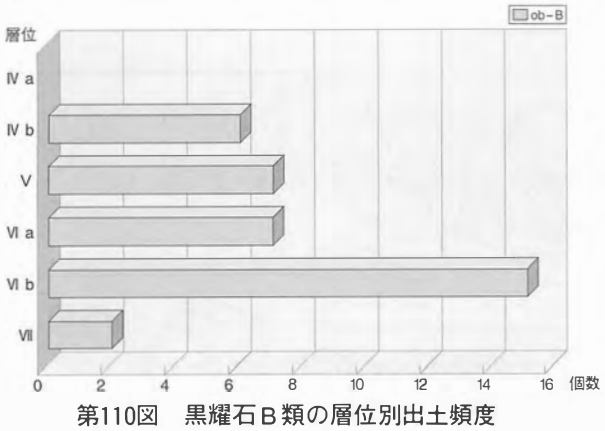
第108図　Ｂ地点層位別出土遺物

第20表　層位別石材組成表

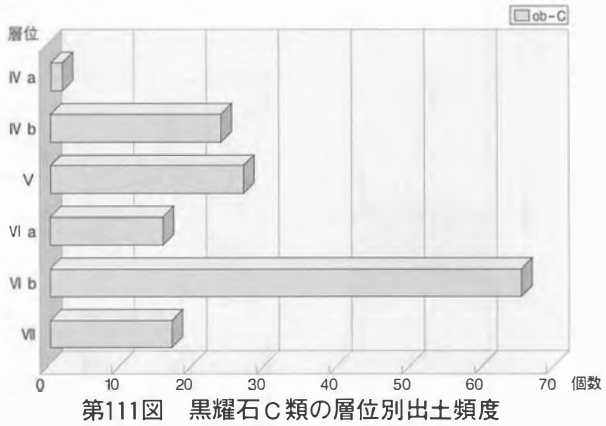
	Ⅳa	Ⅳb	Ⅴ	Ⅵa	Ⅵb	Ⅶ	計
黒耀石A				1			1
黒耀石B		6	7	7	15	2	37
黒耀石C	1	23	27	16	65	17	149
安山岩	3	20	35	18	44	10	130
メノウ			5	2	3	1	11
チャート		1			2		3
石英			1				1
砂岩			1				1
計	4	50	76	44	129	30	333



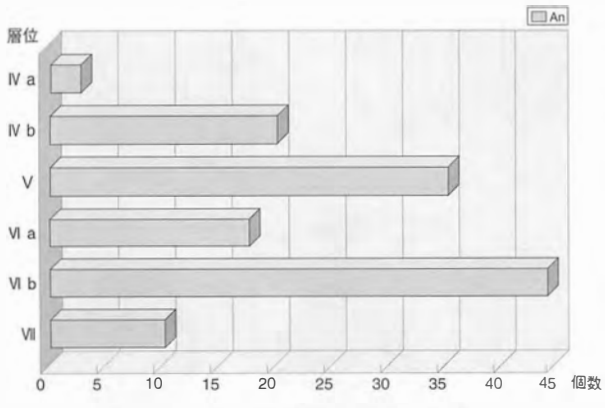
第109図　石材の層位別出土頻度



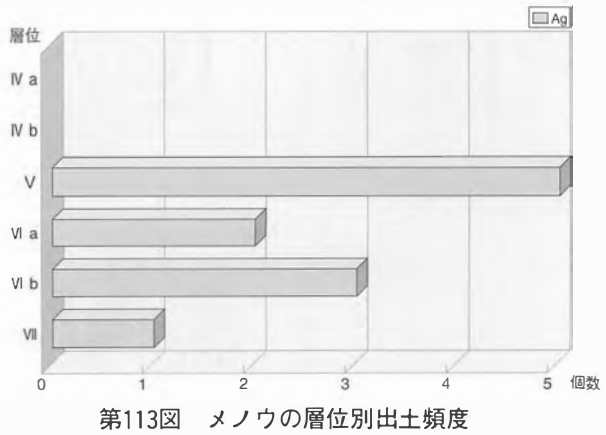
第110図　黒耀石Ｂ類の層位別出土頻度



第111図　黒耀石Ｃ類の層位別出土頻度



第112図　安山岩の層位別出土頻度



第113図　メノウの層位別出土頻度

第２節　縄文時代の調査

１　遺構とその分布

Ｂ地点においては、Ⅱ～Ⅲｃ層にかけて縄文時代早期以降の土坑22基が検出された。その分布は、遺物の分布と同様に、調査区の西側に偏る傾向を示し、南北の谷部付近に比較的集中した状態が認められる。

以下、各遺構ごとに説明を行う。

（１）土坑

１号土坑（第115図）

Ｌ－７，８区で検出された長軸約12.0m，短軸約1.3m，深さ約0.4ｍを測る土坑である。２，３号土坑と同様に、炭化物が多量に検出される。検出面はⅡ層である。土坑の深さは比較的浅く、本来の掘り込み面はさらに上位に位置するものと考えられる。このことから、縄文時代に属する遺構ではなく、Ａ地点の１，２号土坑と同様の機能をもち、比較的近い時間的位置づけが可能であろう。

２号土坑（第115図）

Ｉ，Ｊ－10区，Ｉ－11区で検出された、長軸約13.2m，短軸約0.6m，深さ約0.4ｍを測る土坑である。１，３号土坑と同様で炭化物を多量が多量に検出される。検出面はⅡ層であり、本来の掘り込み面はさらに上層に位置するものと考えられることから、１号土坑と同様の位置づけが可能であろう。

３号土坑（第116図）

Ｋ，Ｊ－11区，Ｋ－12区で検出された、長軸約3.2m，短軸約1.1m，深さ約0.2ｍを測る土坑である。１，２号土坑に比べて長軸の規格が短い。しかし、埋土中には多量の炭化物を包含し同様の機能をもった土坑であると考えられる。

４号土坑（第117図）

Ｊ－９区で検出された、1.0m×0.9mを測る不整形の円形を呈する土坑で、深さ0.3mである。埋土は、２層に区分され下層は固くしまり焼土が観察される。特に床面は、赤化し固くしまっている。上層においては、山形押型文土器が検出された。

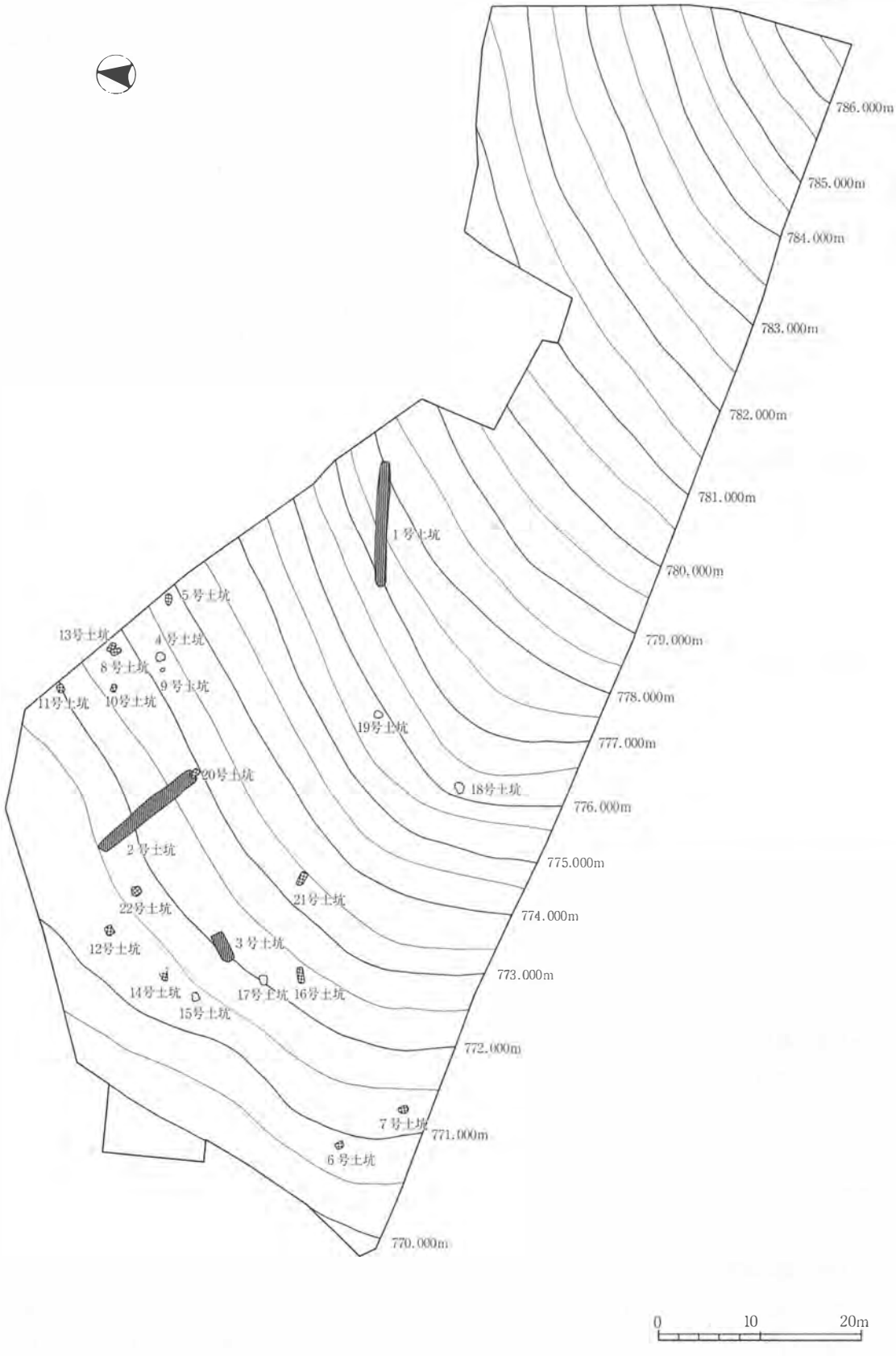
５号土坑（第117図）

Ｊ－８区で検出された、長軸約1.15m×短軸約0.65m，深さ約0.7ｍを測る長楕円形の土坑である。土坑の床面中央部に樹根による小穴が検出されるが、その他の小穴は検出されなかった。埋土は、壁面の崩落と考えられるものも含め、８つに区分され全体的に水分を含んでいる。また、上層から下層まで粗密の差はあるが黄褐色粘質土をブロック状に含んでいる。

６号土坑（第116図）

Ｌ－13区で検出された、長軸約0.9m×短軸約0.7m，深さ約0.6ｍを測る長方形を呈する土坑である。床面は、比較的平坦であり小穴は検出されなかった。検出面はⅢｂ層であり、縄文時代早期に属するものと考えられる。

７号土坑（第118図）


786.000m
785.000m
784.000m
783.000m
782.000m
781.000m
780.000m
779.000m
778.000m
777.000m
776.000m
775.000m
774.000m
773.000m
772.000m
771.000m
770.000m
1号土坑
2号土坑
3号土坑
4号土坑
5号土坑
6号土坑
7号土坑
8号土坑
9号土坑
10号土坑
11号土坑
12号土坑
13号土坑
14号土坑
15号土坑
16号土坑
17号土坑
18号土坑
19号土坑
20号土坑
21号土坑
22号土坑
0
10
20m

第114図　遺構配置図

Ｌ－13区で検出された、長軸約1.0m×短軸約0.6m，深さ0.65mを測る不整形の長楕円形を呈する土坑である。床面は、平坦であり小穴は検出されなかった。

８号土坑（第119図）

Ｉ－９区で検出された、長軸約1.15m×短軸約0.7m，深さ1.05mを測る長楕円形をていする土坑である。床面は平坦であり、土坑の規模に比して深さがある。13号土坑との切り合い関係が観察される。床面に、小穴は認められない。

９号土坑（第120図）

Ｊ－９区で検出された、長軸約0.55m×短軸約0.4m，深さ約0.45mを測る楕円形の土坑である。４～８号土坑と形態的差違が認められ規模も小さい、床面は土坑中央部に小さく作り出される。

10号土坑（第120図）

Ｉ－９区で検出された、長軸約0.9m×短軸約0.5m，深さ約0.6mを測る長方形の土坑である。床面は平坦で、小穴はみられない。

11号土坑（第118図）

Ｉ－９区で検出された、長軸約0.9m×短軸約0.75m，深さ約0.45mを測る長方形の土坑である。床面は平坦で、小穴はみられない。

12号土坑（第121図）

Ｉ－11区で検出された、長軸約0.85m×短軸約0.7m，深さ約0.5mを測る長方形の土坑である。床面はほぼ平坦で、小穴はみられない。

13号土坑（第119図）

Ｉ－９区で検出された、長軸約1.05m×短軸約0.7m，深さ約0.55mを測る長方形の土坑である。また、８号土坑に切られる状態で検出され、土坑のすべてが観察されたわけではないが、床面はほぼ平坦で、小穴はみられない。

14号土坑（第121図）

Ｊ－12区で検出された、試掘調査のトレンチにより半分は切られている。そのため長軸は推定で約1.0m×短軸約0.6m，深さ約0.9mの長方形を呈する土坑であると推定される。確認された床面は平坦で、小穴はみられない。

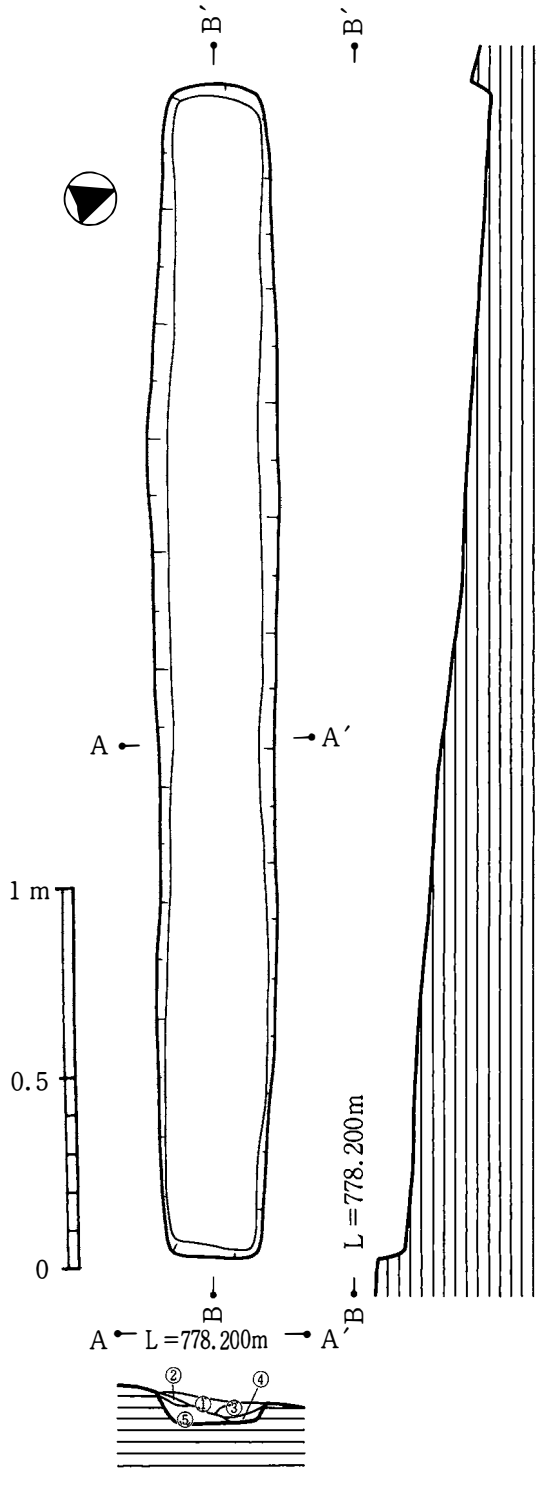
15号土坑（第122図）

Ｊ－12区で検出された、長軸約0.85m×短軸約0.65～0.75m，深さ約0.55mを測る不整形の土坑である。床面は南側に偏り、灰白色粘質土が認められる。Ａ地点の17号土坑と類似した状況が観察される。

16号土坑（第122図）

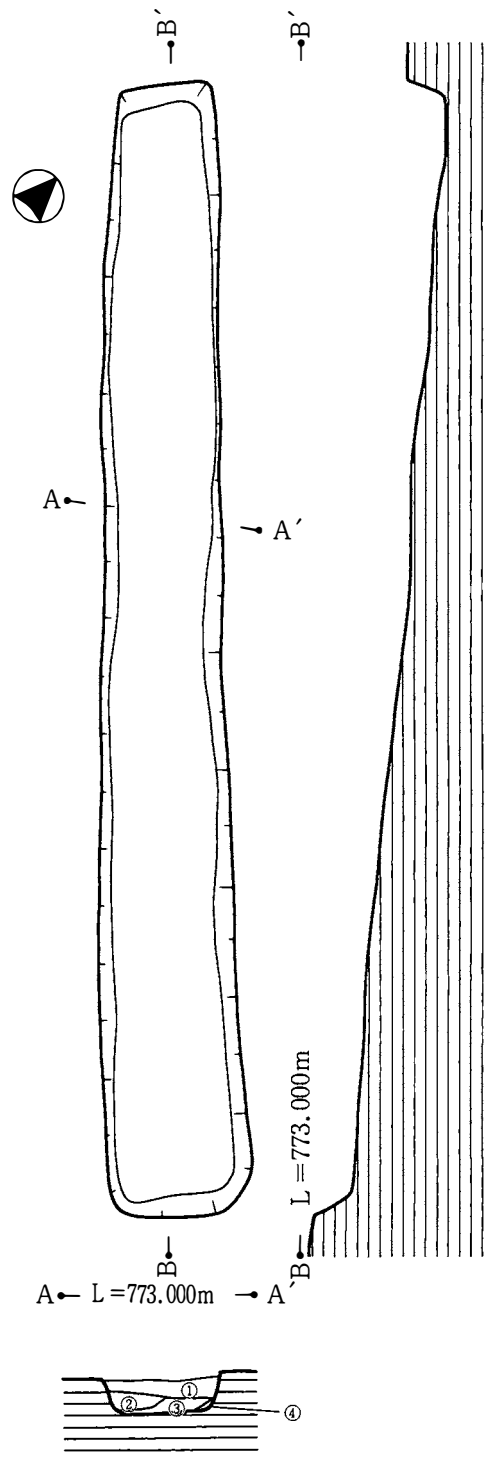
Ｋ－12区で検出された、長軸約1.6m×短軸約0.55m，深さ約0.65mを測る長方形の土坑である。検出面

1号土坑



①暗褐色土。カーボンを少量含む。しまりがある。
②暗黄褐色土。カーボンを少量含む。砂質でしまりが多少ある。
③暗褐色土。カーボンを多量に含む。サラサラしている。
④暗褐色土。カーボンを多量に含む。③層に比べしまりがある。
⑤黒色土。カーボンを多量に含む。若干焼土もまばらに含む。
しまりがある。

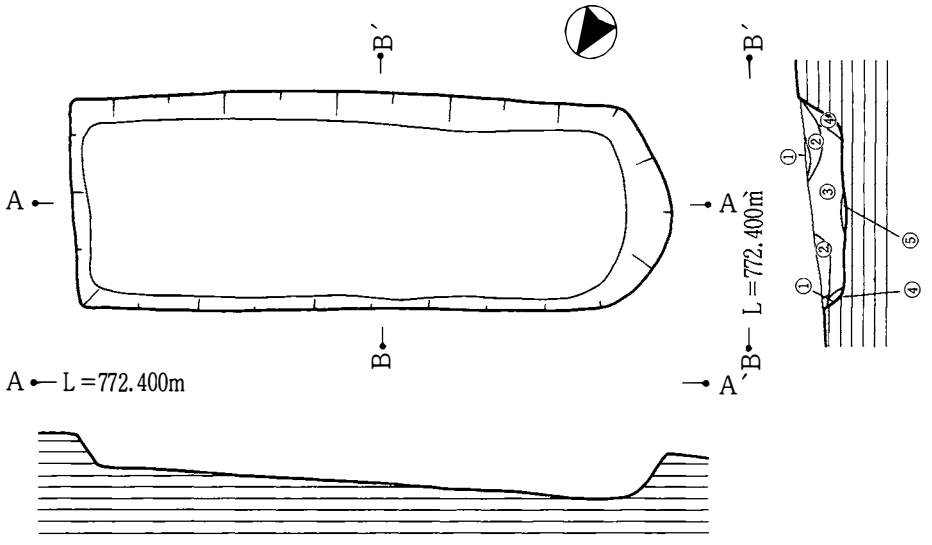
2号土坑



①暗褐色土。カーボンを少量含む。若干しまりがある。
②黒褐色土。カーボン、焼土を含む。
③黒褐色土。基本的に③と同じであるが、色合いが暗く、ブロック状の焼土を含む。
④暗褐色土。多少黄色っぽい焼土を含む。若干しまっている。

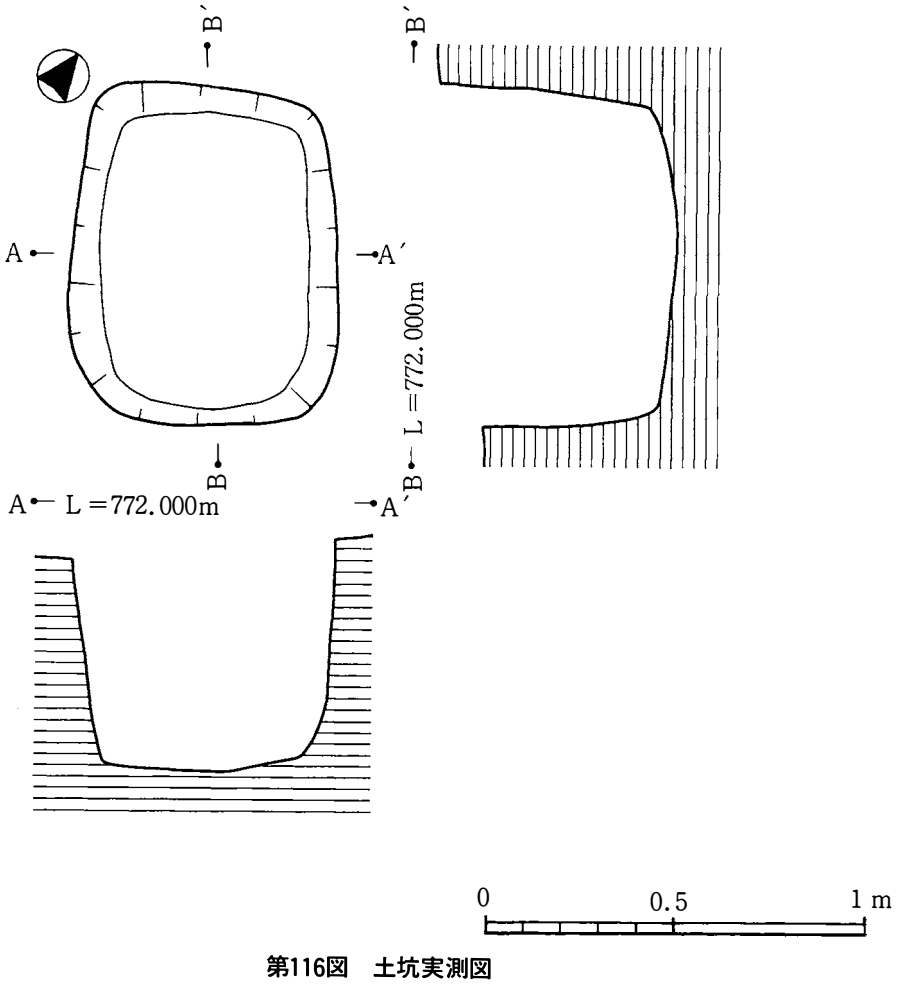
第115図　土坑実測図

３号土坑



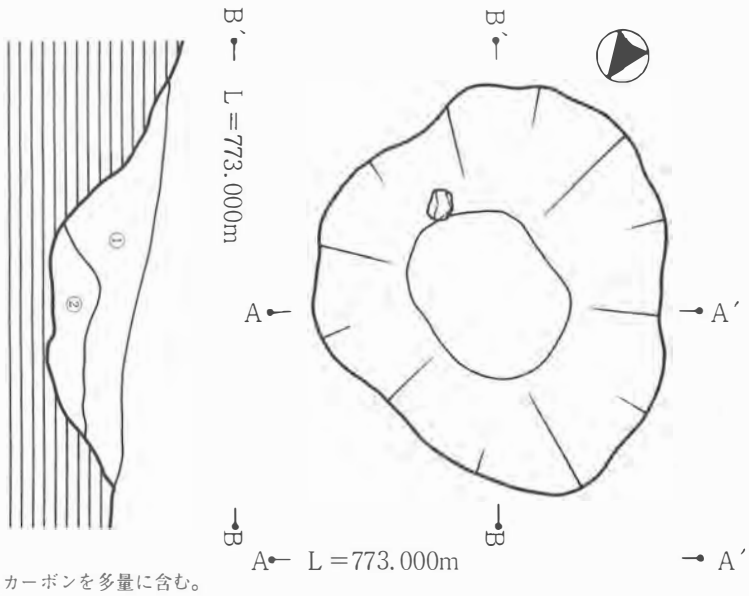
①黄褐色土。しまりがある。ローム土。
②暗褐色土。カーボンを少量含む。若干しまっている。
③黒色土。カーボンを多量に含む。ザラザラしている。
④暗褐色土。カーボンを少量含む。サラサラしている。
⑤黒褐色土。③に比べ、カーボンの量が少ない。若干しまっている。

６号土坑



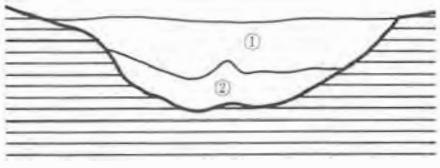
第116図　土坑実測図

4号土坑

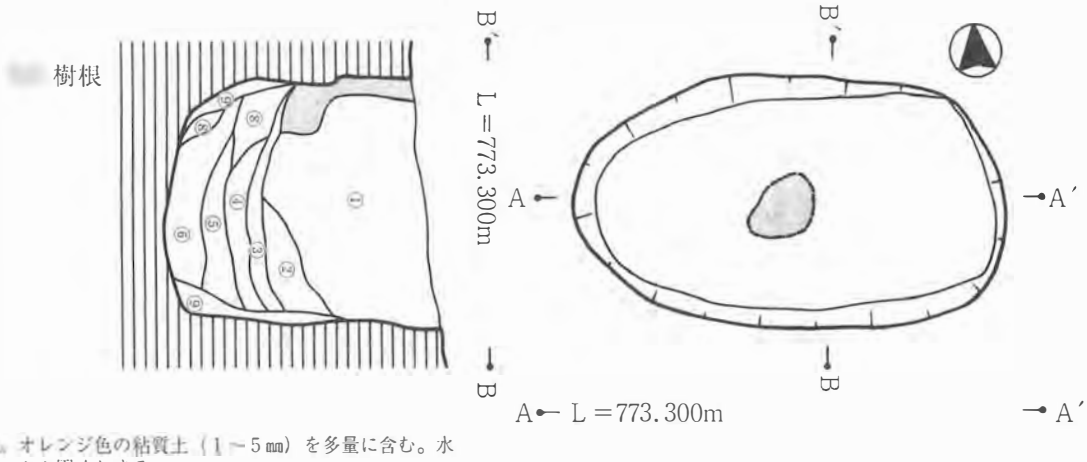


①黒色土。Ⅲ層の土と思われる。焼土とカーボンを多量に含む。

②オレンジ色の焼土。固くしまり、非常にもろい。
南側でやや乱れる。



5号土坑



①明褐色土。オレンジ色の粘質土（1～5㎜）を多量に含む。水気を含み、やや固くしまる。

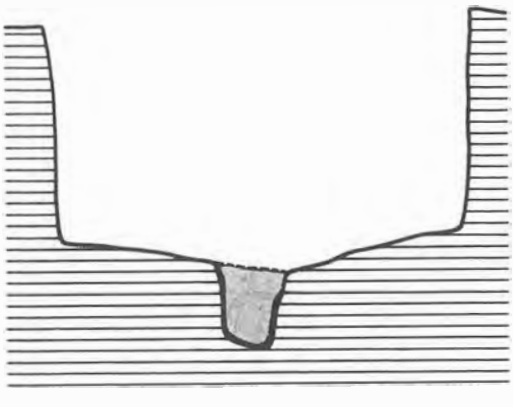
②暗褐色土。オレンジ色の粘質土を含み、水気を含む①よりも固くしまる。

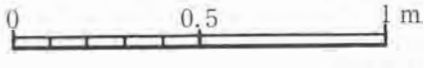
③①によく似た褐色土。やや暗い。オレンジ色の粘質土を含む。水気を含み、固くしまる。

④暗褐色土。②よりも固くしまり、粘質土はあまり含まない。

⑤③より暗い褐色土。固くしまり、水気を含む。粘質土はあまり含まない。

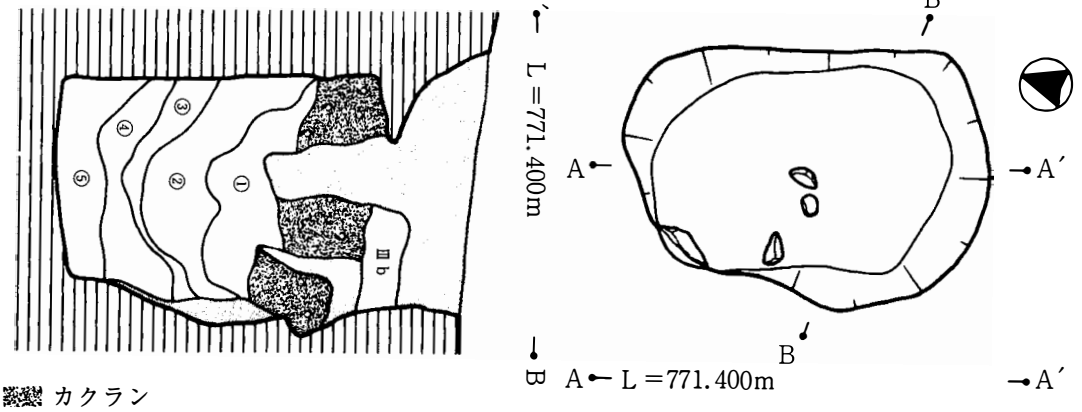
⑥④によく似る暗褐色土。しまって水気を含む。粘質土は、あまり含まない。





第117図　土坑実測図

7号土坑



カクラン
樹根

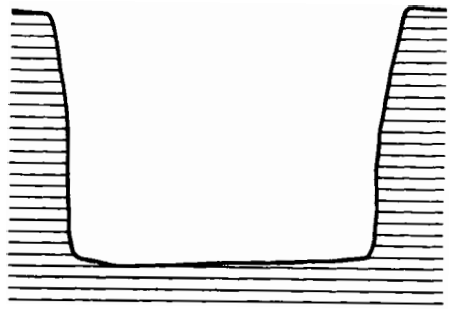
①黒色土。やや褐色の土を含む。きめが細かく、白色の粒子を多く含む。遺構の最も上の層と思われるが、その上に樹根が入り込んで、非常に複雑に乱れる。

②明褐色土。黄褐色粘質土を含む。やわらかく、きめが細かい。

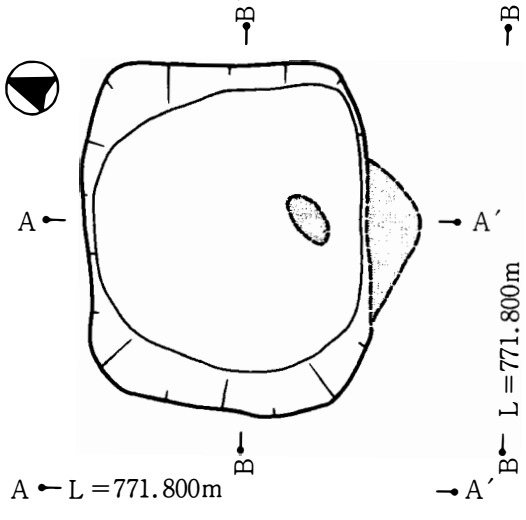
③黒色土。やや褐色がかる。①とよく似る。白色粒子を含む。

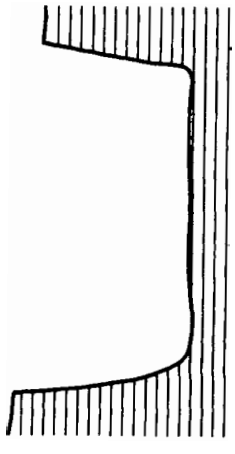
④明褐色土褐色粘質土を含む。②とよく似る。

⑤褐色土。やや暗い。水気を含み、粘りがある。

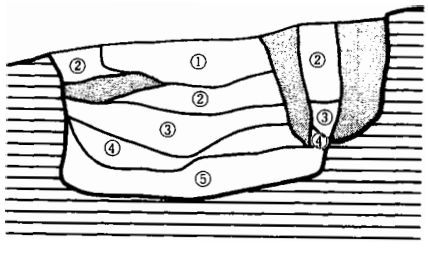


11号土坑





樹根



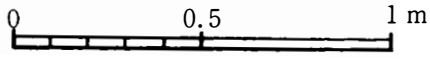
①暗褐色土。オレンジ色の粒子を多く含む。固くしまる。

②黒色土。固くしまる。オレンジ色の粒子を少量含む。

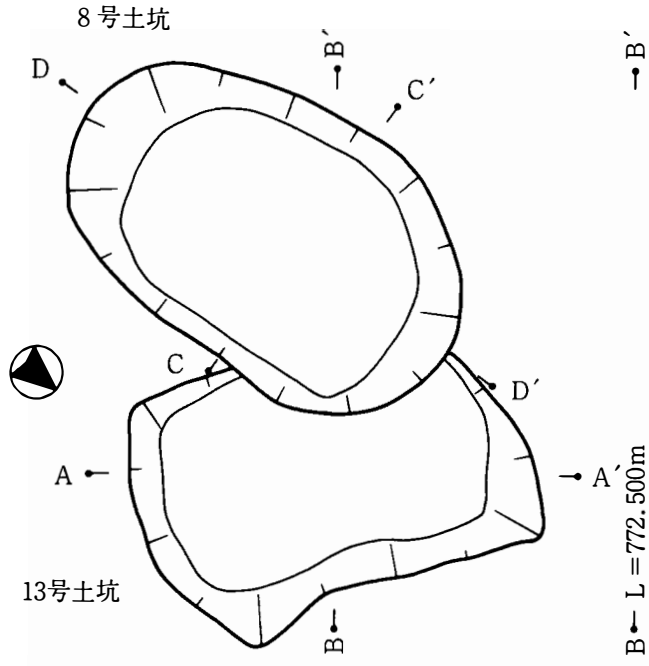
③暗褐色土。①とよく似る。オレンジ色の粒子を多く含み、固くしまる。

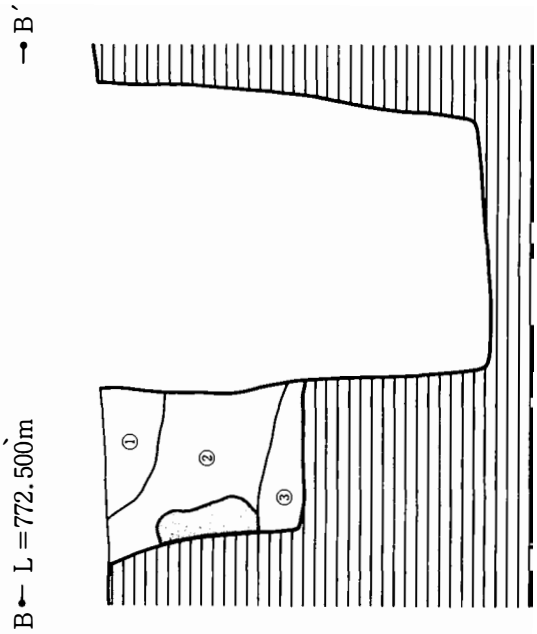
④黒色土。やや暗褐色土が入る。オレンジ色の粒子を多く含み、固くしまる。

⑤暗褐色土。ロームが混じる。固くしまる。



第118図　土坑実測図



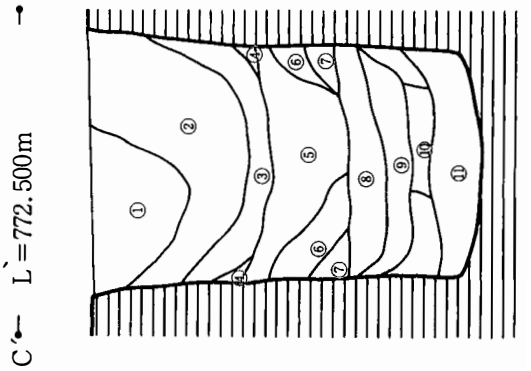


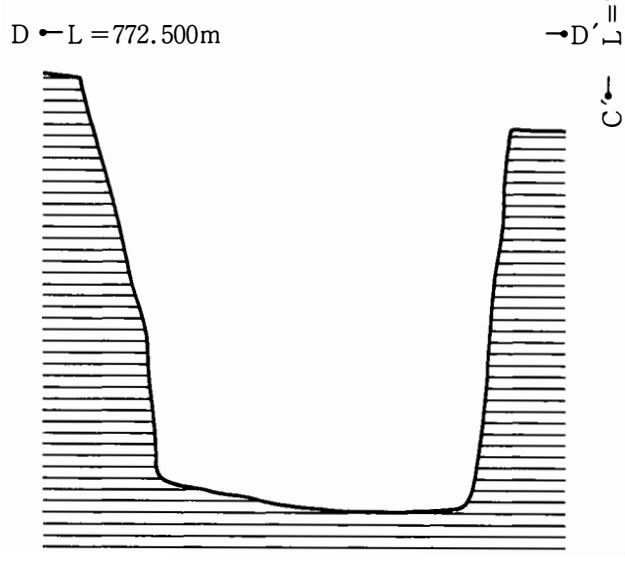
崩落土

①暗黄褐色土。オレンジ色の粒子を多く含む。

②黒色土。オレンジ色の粒子を含む。やや褐色がある。

③暗褐色土。非常に固くしまり、粘りがある。





①暗褐色土。黄褐色土が粒状あるいはブロック状に多数混じる。ガチガチにしまっている。

②暗褐色土。基本的には①層に同じ。黄褐色土があまり入らない。

③黒褐色土。少々粘質。若干黄褐色粒を含む。

④暗褐色土。崩落したと思われる黄褐色土を含む。土質は③層に類似する。

⑤暗褐色土。黄褐色粒を含む。③、④層に比べしまっている。

⑥黒褐色土。少々粘質。若干黄褐色粒を含む。

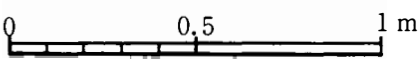
⑦暗褐色土。黄褐色土がブロック状に入る。土質は⑥層に類似する。

⑧暗褐色土。少々粘質。

⑨黒褐色土。少々粘質。

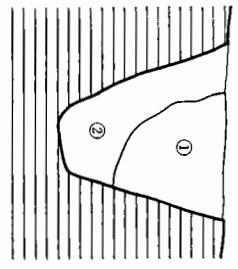
⑩黄褐色土。比較的大きな黄褐色ブロックを含む。

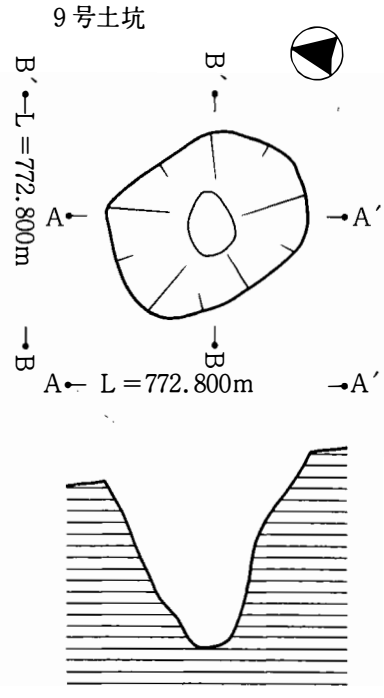
⑪暗褐色土。少々粘質。しまっている。



第119図　土坑実測図

9号土坑

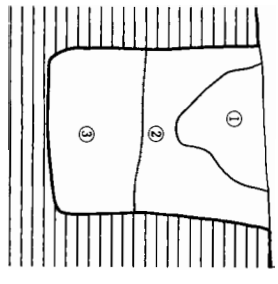


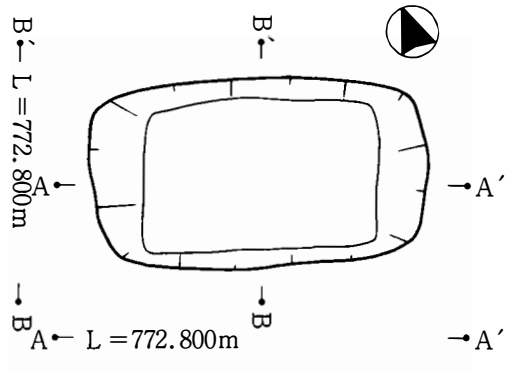


①暗褐色土。粒子が細かく、しまりが強い。火山ガラスを含むことから、Ⅱ層の流入と思われる。

②黒褐色土。若干粘質、Ⅲｂ層の流入。黄褐色土が若干小さなブロックとして混じる。

10号土坑

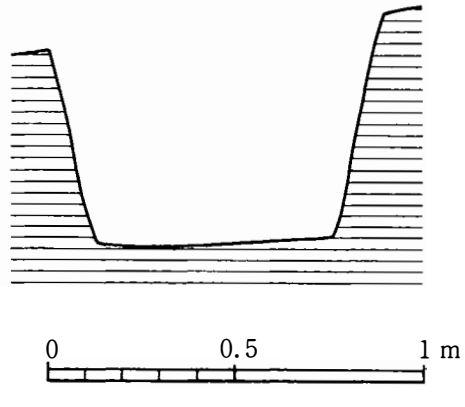




①暗黄褐色土。黒褐色土ベースに黄褐色の粒子を多く含む。しまりが強い。

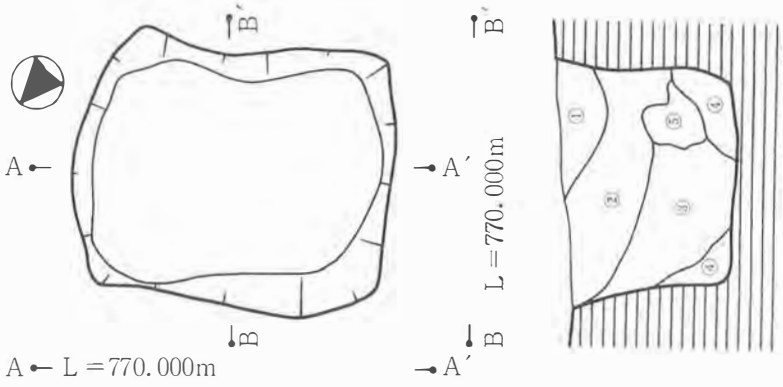
②黒褐色土。黄褐色の粒子を少量含む。しまりが強い。

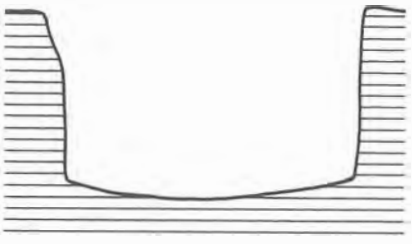
③暗黄褐色土。①に類似している。しまりが強い。



第120図　土坑実測図

12号土坑





①暗褐色土。固くしまる。

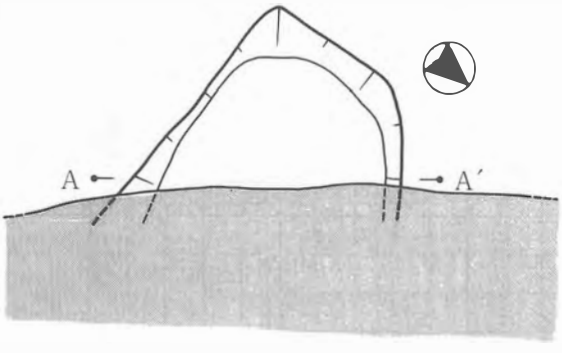
②暗褐色土。①よりやや明るく、固くしまる。

③黒色土。やや褐色がかって、固くしまる。

④埋土もしくは崩落土。①～③より固くしまり、ロームを含む。

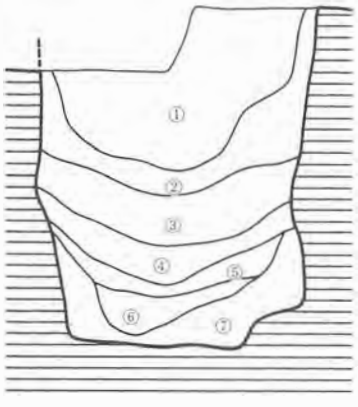
⑤ロームと黒褐色土がブロック状に混入している。

14号土坑



調査区域外

A　L＝771.300m　A´



①暗褐色土。黄褐色土が混じる。

②黒褐色土。固くしまる。

③暗褐色土。固くしまる。

④暗褐色土。③よりやや黒色がかっている。固くしまり、ロームを少し含む。

⑤暗褐色土④よりさらに黒色がかる。ロームを少し含む。

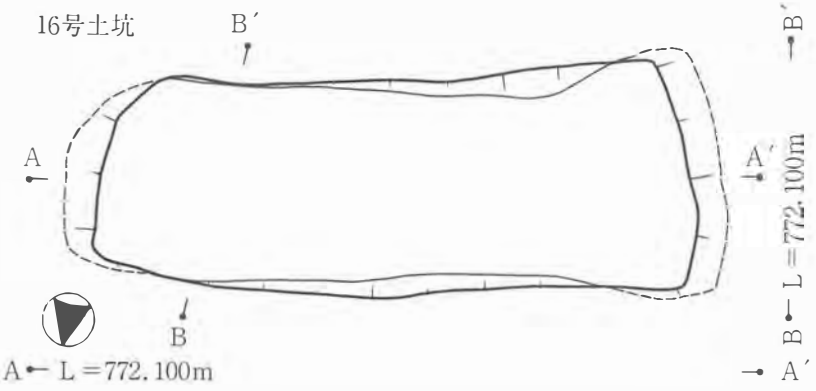
⑥暗褐色土。固くしまる。②～⑤より明るく、ロームを含む。

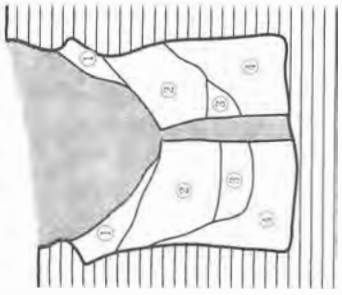
⑦暗褐色土。やわらかく、ロームを含む。

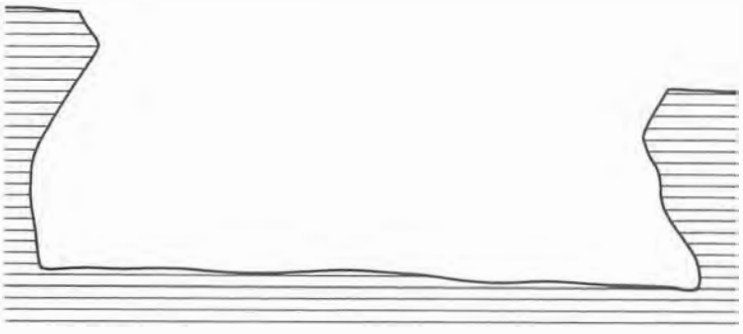
0　0.5　1 m

第121図　土坑実測図

16号土坑







樹根

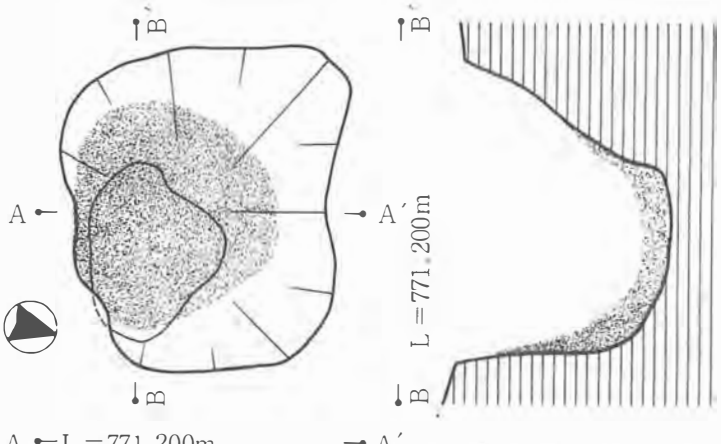
①暗褐色土。しまりはよくない。

②暗褐色土。①よりも褐色がかっており、ややしまっている。

③暗褐色土。①～④の中で最も黒く、ややしまっている。

④暗褐色土。崩落土と思われる。しまりがなく、ソフトロームを多く含んでいる。

15号土坑



粘土

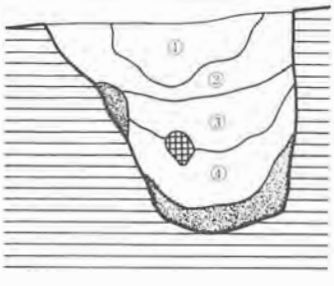
樹根

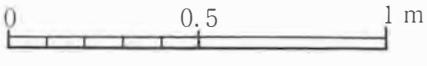
①暗褐色土。固くしまり、やや黄色がかっている。

②暗褐色土。③よりやや明るく固くしまっている。

③暗褐色土。②より黒っぽく、②よりややしまりがない。

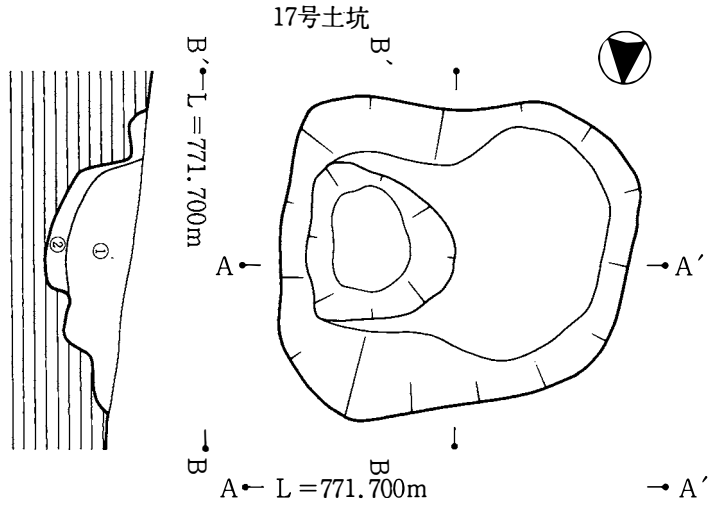
④暗褐色土。②によく似ているが、ややわらかい。





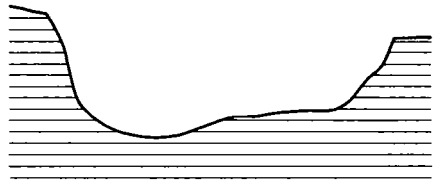
第122図　土坑実測図

17号土坑

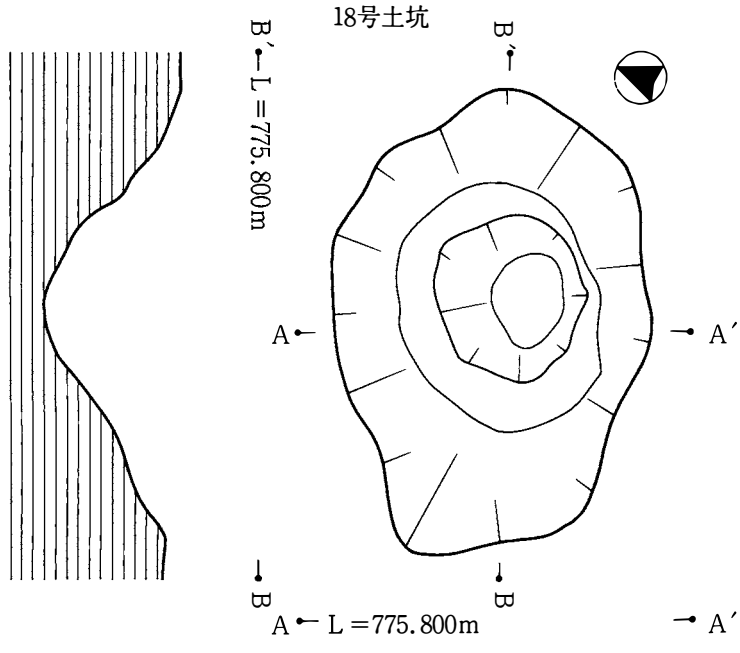


①暗褐色土。ややしまり、水気を含む。

②暗褐色土。①よりやや黒い。ややしまり水気を含む。



18号土坑

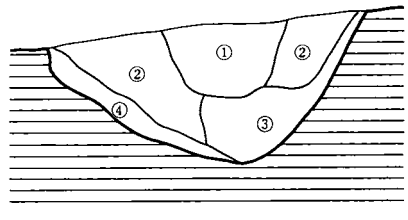


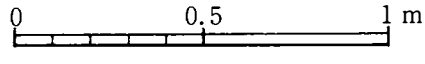
①暗褐色土。黒色がかった土で、きめが細かい。

②暗褐色土。①よりも明るく、黄色の粒子を含む。きめが細かい。

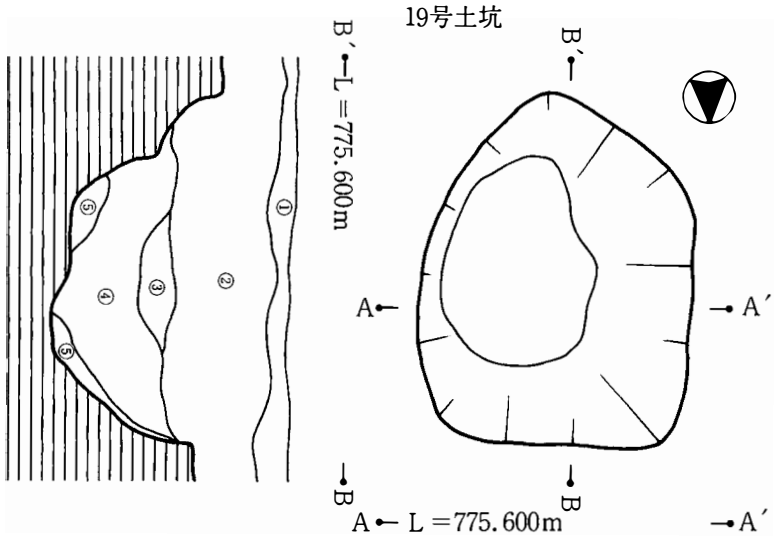
③黄褐色土。崩落土と思われる。きめが細かい。黄褐色粘質土。

④黄褐色粘質土。粘りのある黄褐色土と黒色土が混った土。





第123図　土坑実測図



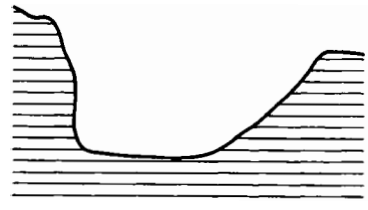
①耕作土。

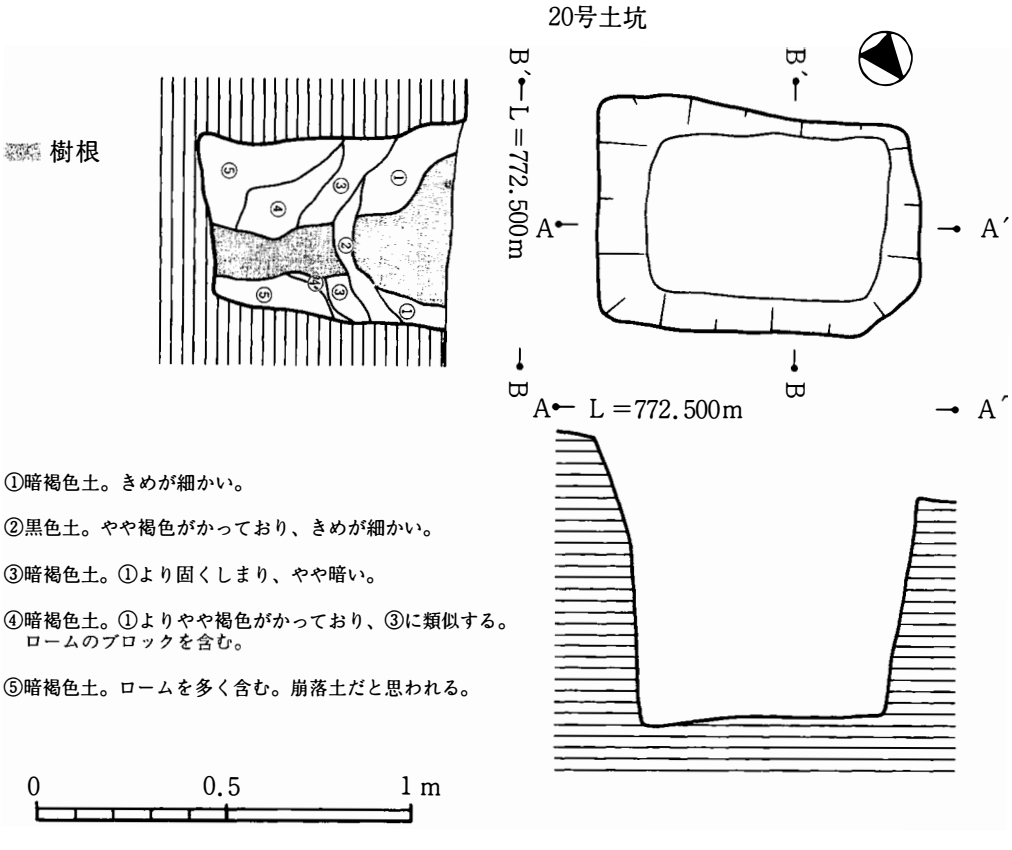
②黒褐色土。

③暗褐色土。④より黒色土を多く含み、黒っぽいオレンジ色の粒子を多く含む。きめが細かい。

④暗褐色土。③より明るい埋土と考えられる。オレンジ色の粒子を多く含む。

⑤明褐色土。崩落したロームと思われる。固くしまり、明るいオレンジ色。





①暗褐色土。きめが細かい。

②黒色土。やや褐色がかっており、きめが細かい。

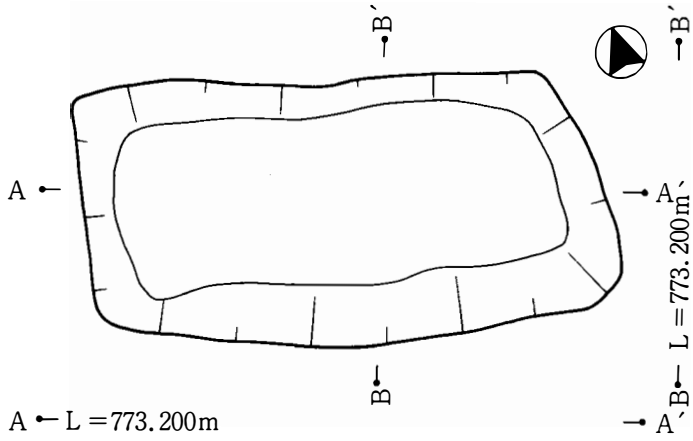
③暗褐色土。①より固くしまり、やや暗い。

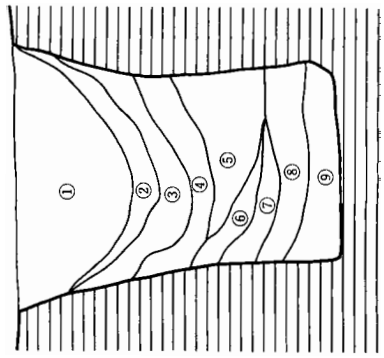
④暗褐色土。①よりやや褐色がかっており、③に類似する。ロームのブロックを含む。

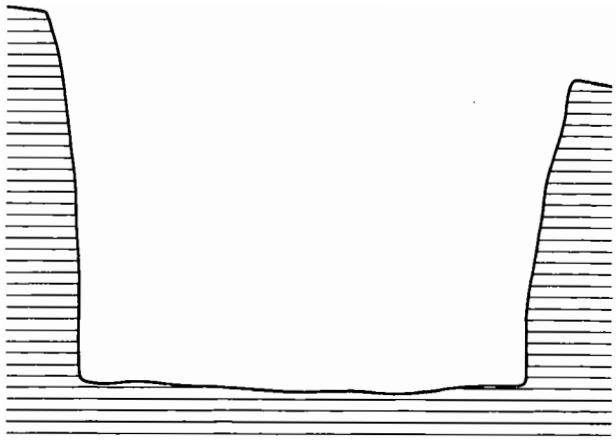
⑤暗褐色土。ロームを多く含む。崩落土だと思われる。

第124図　土坑実測図

21号土坑







①暗褐色土。黄褐色土を含む。

②黒色土。

③暗褐色土。①に似るが黄褐色土を含まない。。

④暗褐色土。③より暗い。

⑤暗褐色土。①に似る。ロームを少量含む。

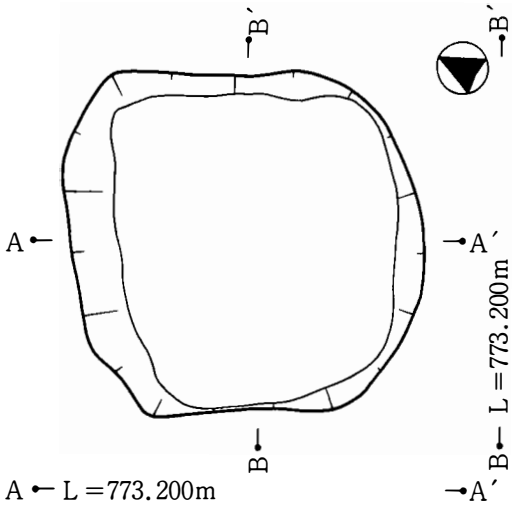
⑥黒色土。

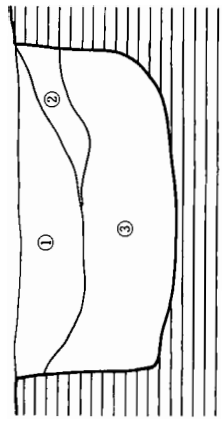
⑦暗褐色土。⑤によく似る。ロームを含む。

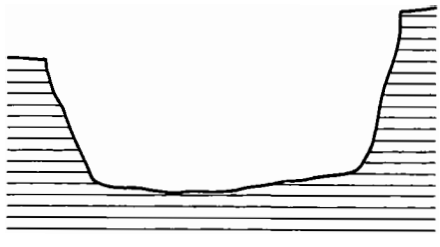
⑧暗褐色土⑦によく似るがロームをあまり含まない。

⑨黒色土。

22号土坑



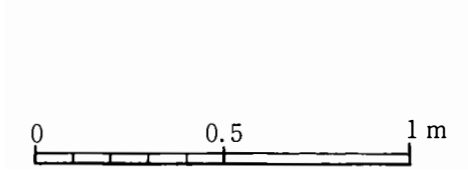




①黒褐色土。

②暗褐色土。③によく似るが黒色を少量含む。

③褐色土。やや濁りがあり、ロームのブロックを含む。



第125図　土坑実測図

は、Ⅲｃ層中位面である。床面は平坦で、小穴はみられない。２つの短辺は、上部より下部が外側に広がり袋状を呈する。

17号土坑（第123図）

Ｋ－12区で検出された、長軸約0.95m×短軸約0.8m，深さ約0.3mを測る長方形の土坑である。床面は平坦ではなく、東側に直径0.4mの円形状の窪みが観察される。

18号土坑（第123図）

Ｍ－10区で検出された、長軸約1.2m×短軸約0.8m，深さ約0.4mを測る不整形の土坑である。土坑上部の規模に比して床面が小さく作り出されている。

19号土坑（第124図）

Ｌ－９区で検出された、長軸約0.9m×短軸約0.7m，深さ約0.4mを測る不整形の土坑である。Ⅳａ層上面で検出された。床面は南東側にやや偏った状態で検出され、平坦ではない。

20号土坑（第124図）

Ｊ－10区で検出された、長軸約0.85m×短軸約0.6m，深さ約0.75mを測る長方形の土坑である。床面は平坦で、小穴はみられない。

21号土坑（第125図）

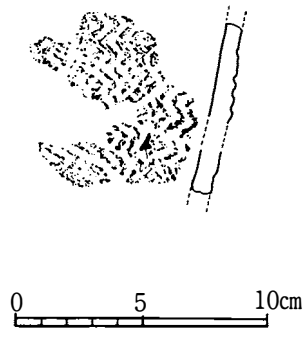
Ｋ－11区で検出された、長軸約1.45m×短軸約0.7m，深さ約0.85mを測る長方形の土坑である。床面は平坦で、小穴はみられない。

22号土坑（第125図）

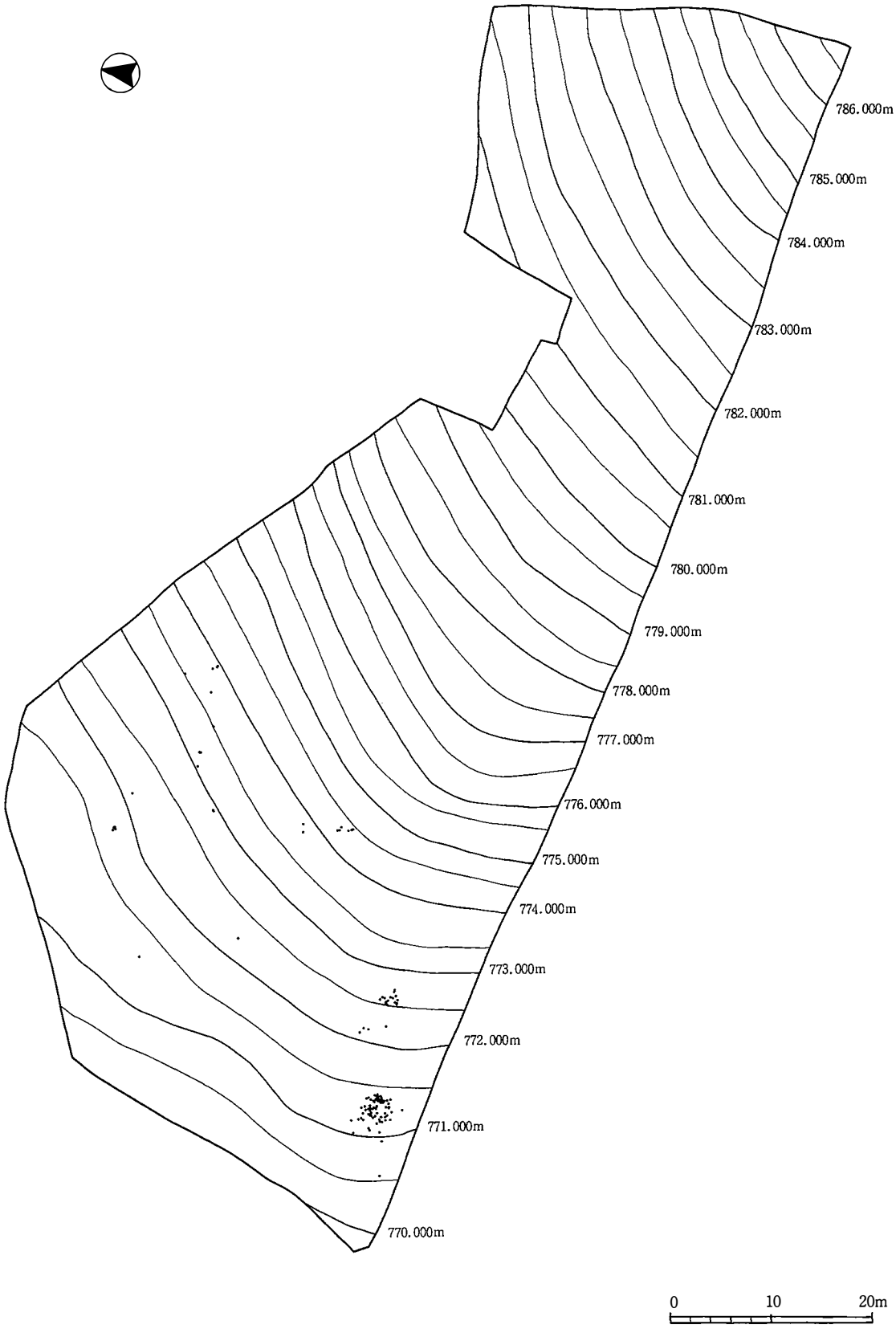
Ｊ－11区で検出された、長軸約0.95m×短軸約0.9m，深さ約0.45mを測るほぼ正方形を呈する土坑である。床面は平坦で、小穴はみられない。

２　土器とその分布

Ｂ地点において縄文時代に属する土器は、Ⅲａ～Ⅲｃ層にかけて検出された。その数量は少なく、破片も小さく接合により個体復元が可能なものは認められなかった。また、検出された資料の多くは器面が粗く、図化及び拓本に耐えうるものはほとんど見いだせなかった。そのため、ここでは分布図の提示と土器群の概要を説明するにとどめたい。これらの土器群には、山形押型文の施文が認められるものと条線状の調整が認められるものがみられ、前者はⅢｂ層から後者はⅢａ層から検出されている。その分布は、両者とも大まかには調査区の西側に偏在し、遺構の分布と同様の傾向として捉えられる。しかし、後者ではやや調査区中央の斜面部に散在するものも認められる。このように検出された土器群の型式組成は、比較的単純な様相を示し、時間的位置づけは前者が早期、後者が早期以降に比定できるものと考える。第126図に図示した資料は、４号土坑の埋土中から検出された胴部破片である。器厚は薄く、施文はやや間延びした山形押型文を縦位に施している。



第126図　遺物実測図



第127図　遺物分布図（土器）

３　石器とその分布

縄文時代に属する石器は、総数398点検出された。出土層位は、Ⅱ層下部～Ⅲｃ層である。そのピークは、Ⅲａ，ｂ層に存在する。石器群は、石鏃，石匙，削器，磨石・敲石，二次加工ある不定形石器，石核，剥片，砕片で構成される。これらの石器類では、石鏃がもっとも数量的に多い。このように、器種構成は比較的単純な様相を呈し、器種ごとの数量も少ない。分布は、調査区西側に集中し偏在する傾向が窺え、遺構や土器群の在り方とほぼ同様である。分布のまとまりから、いくつかの集中部に区分できる可能性があるが、土器群の様相から時期ごとの細分は難しく行えなかった。

以下器種ごとに説明を行う。

石鏃（第129図１～16，第130図17～22）

石鏃に分類できるものは、22点検出された。全体形が正三角形状を呈するもの（第129図４，14，15，第130図21）と二等辺三角形状を呈するもの（第129図１～３，５～13，16第130図17～20，22）が認められる。抉入部の形状では、平基（第129図１，12，13，第130図17）と凹基（第129図２～11，14～16，第130図18～22）に区分できる。後者の石鏃は、さらに抉入部の作り出し方から浅いもの（第130図19，21，22）と深いもの（第129図２～11，14～16，第130図18，20）に細分が可能である。また、形態的には第129図４，14のように早期に特徴的に認められる「鍬型鏃」や第129図６のような側縁部がやや鋸歯状を呈するものもみられる。第130図20は、先端部を再加工したものであろう。

石匙（第130図24）

石匙に分類できるものは、１点検出された。幅広の剥片を素材とし、打点部側を上位に置き先端部に刃部を作り出した横型の石匙である。つまみ部は、大まかな剥離によって身部と区画される。

削器（第130図23）

削器として分類できるものは、１点確認した。厚みのある幅広の剥片を素材とし、一側縁に調整加工を施し刃部を作り出している。

磨石・敲石（第131図25）

磨石・敲石に分類できるものは、１点確認した。第131図25は、破損のため１／２程度の残存度である。使用による潰れ痕は、縁辺と表裏面中央に認められる。石器には、比較的扁平な円礫を利用している。

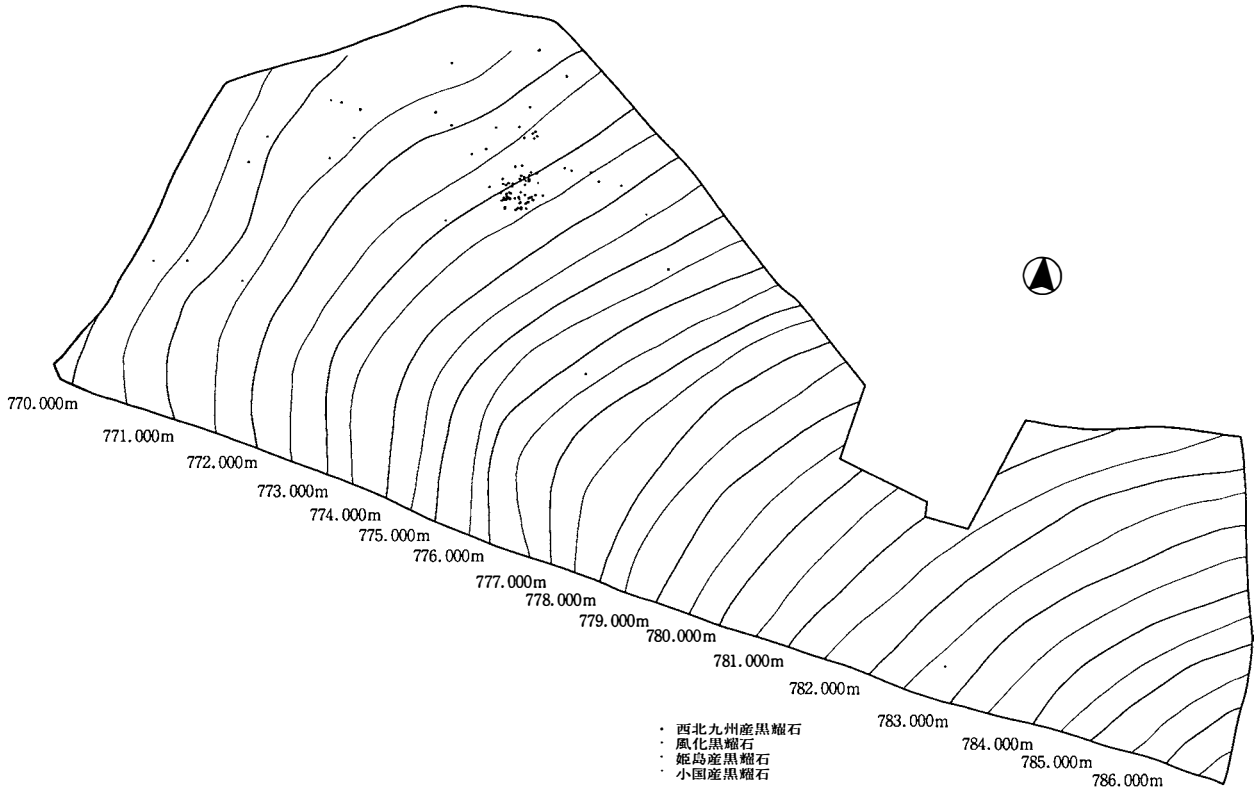
二次加工ある不定形石器（第131図26，27）

二次加工ある不定形石器は、２点図示した。第131図26は、横長剥片を素材とし打面側と右側縁に大まかな加工を施している。第131図27は、幅広剥片を素材とし左側縁上部に表裏両面から細かな加工を施している。

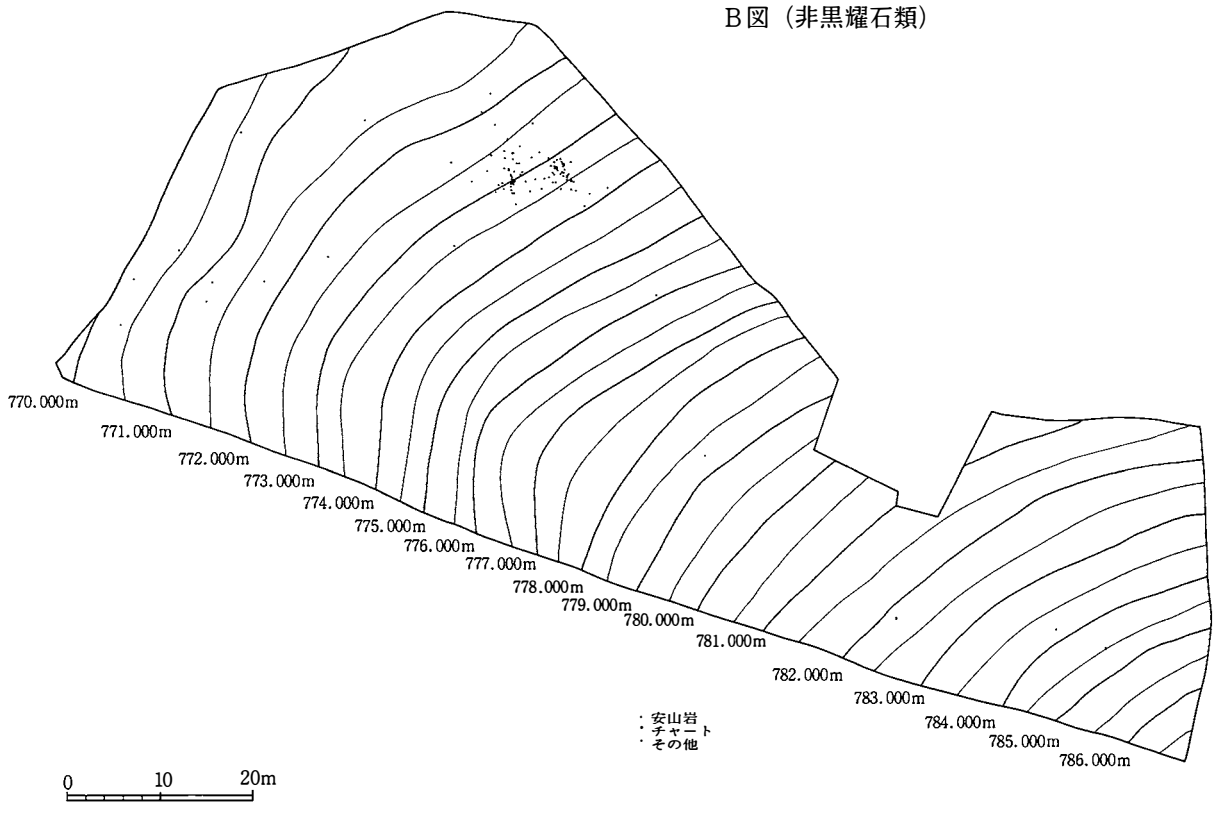
石核・原石（第132図28～30）

石核に分類できるもののうち、３点を図示した。第132図28は、剥離面を打面とし、打面と作業面を頻繁に転移する。その結果残核の形態は、多面体を呈する。第132図29，30は、黒耀石Ｂ類の原石である。その大きさと形状は、３㎝程度の亜角礫である。遺跡内に搬入された同種石材の原石の形状を類推することができる資料である。

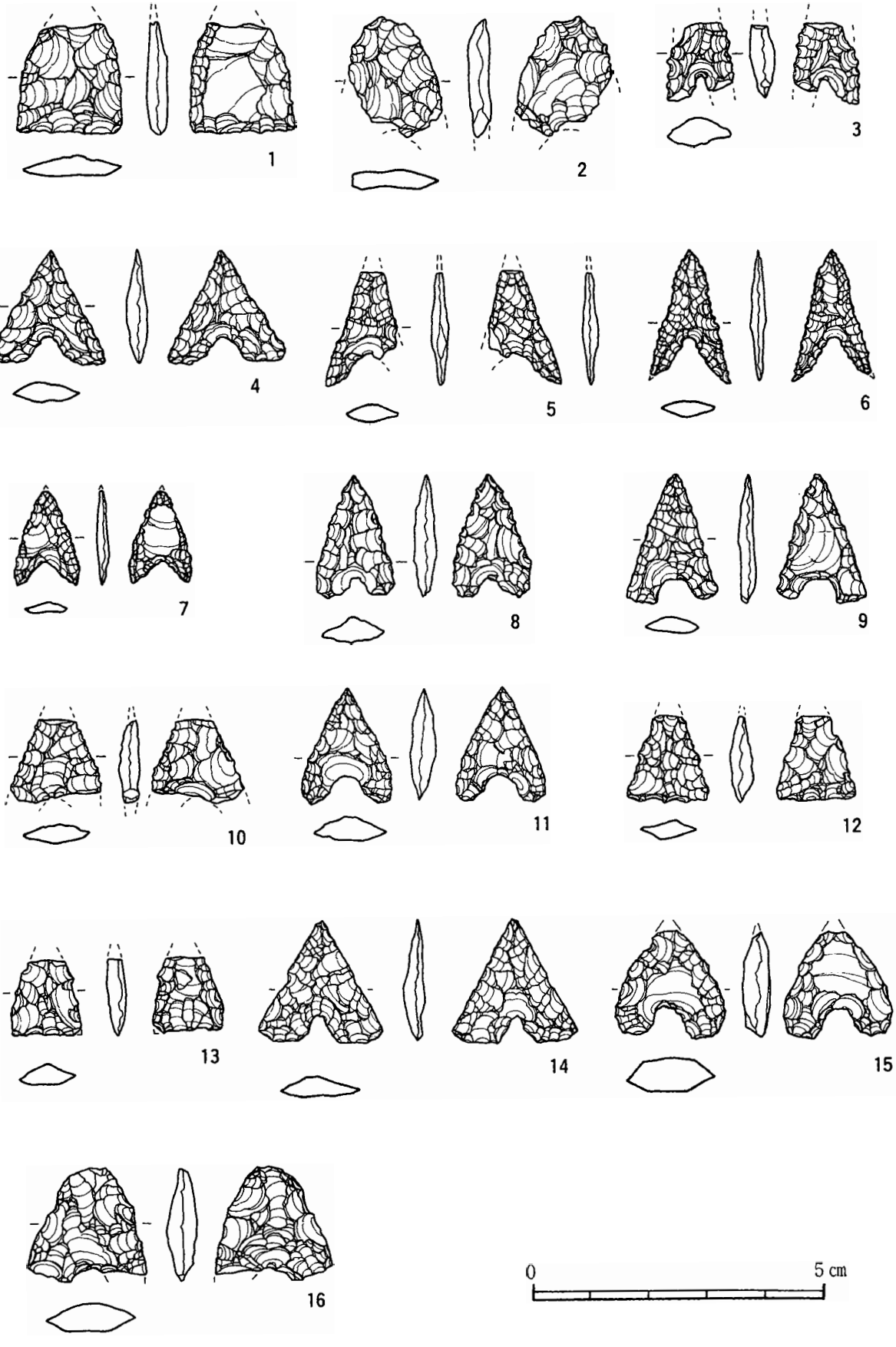
A図（黒耀石）



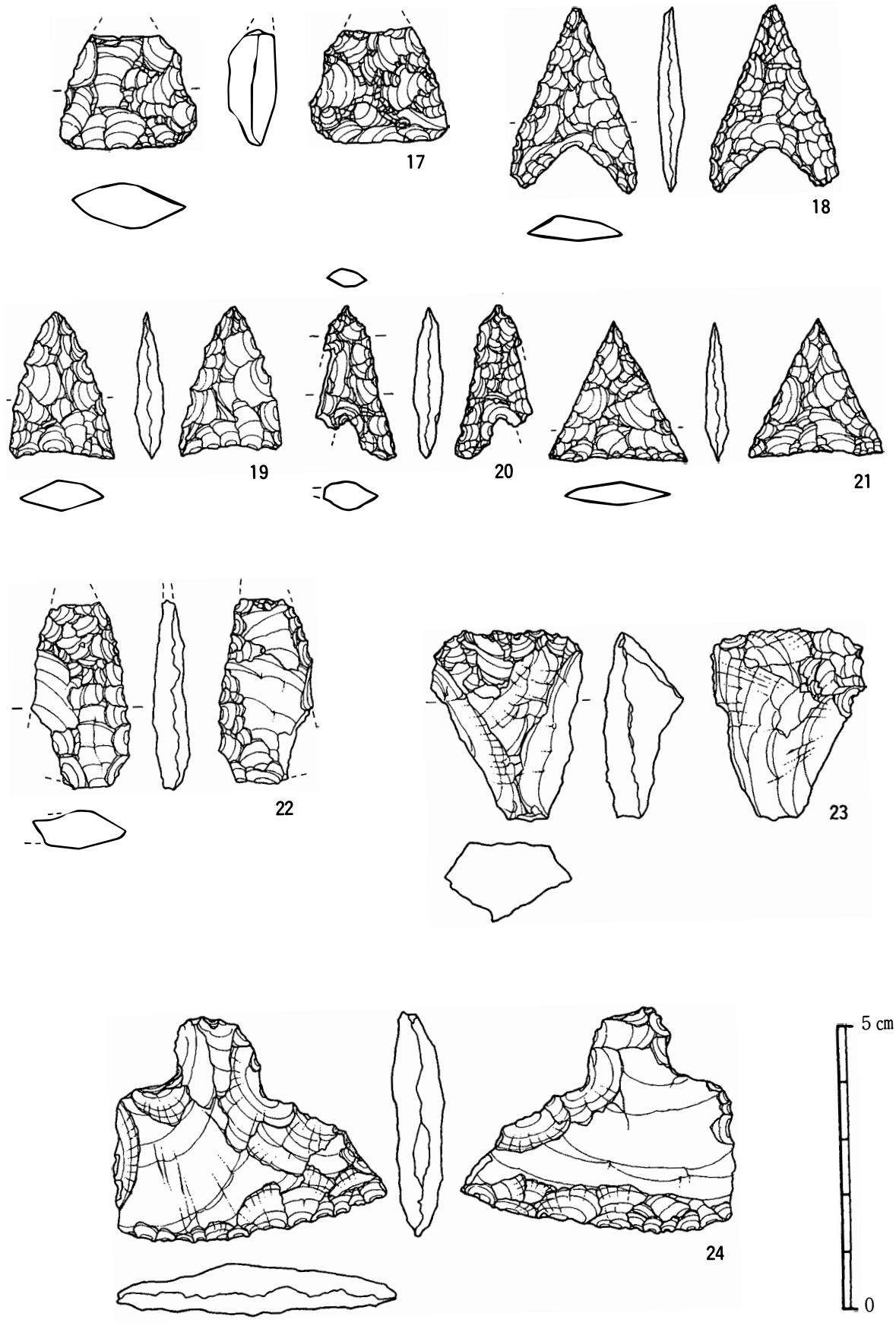
B図（非黒耀石類）



第128図　遺物分布図（石器）



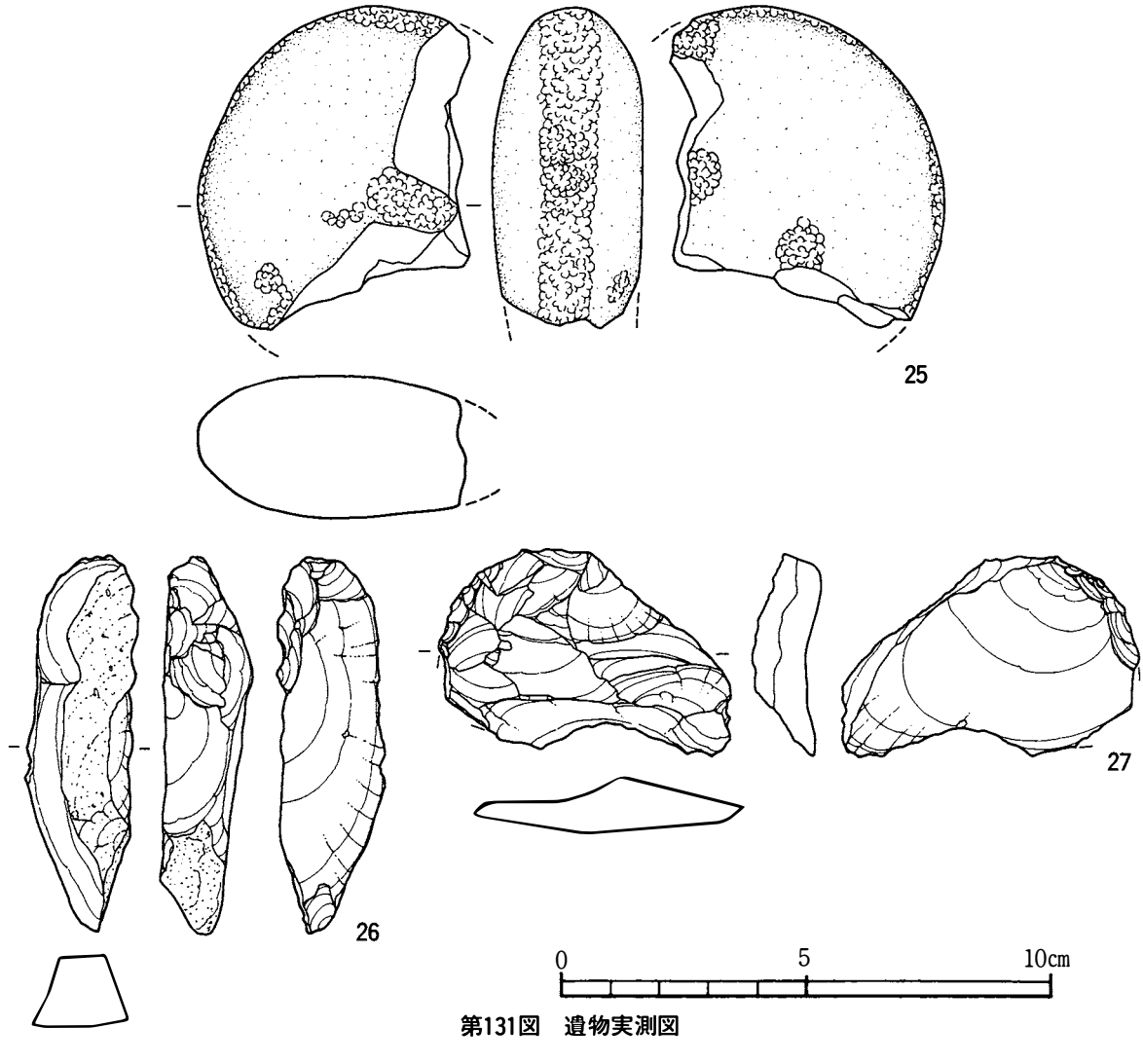
第129図　遺物実測図



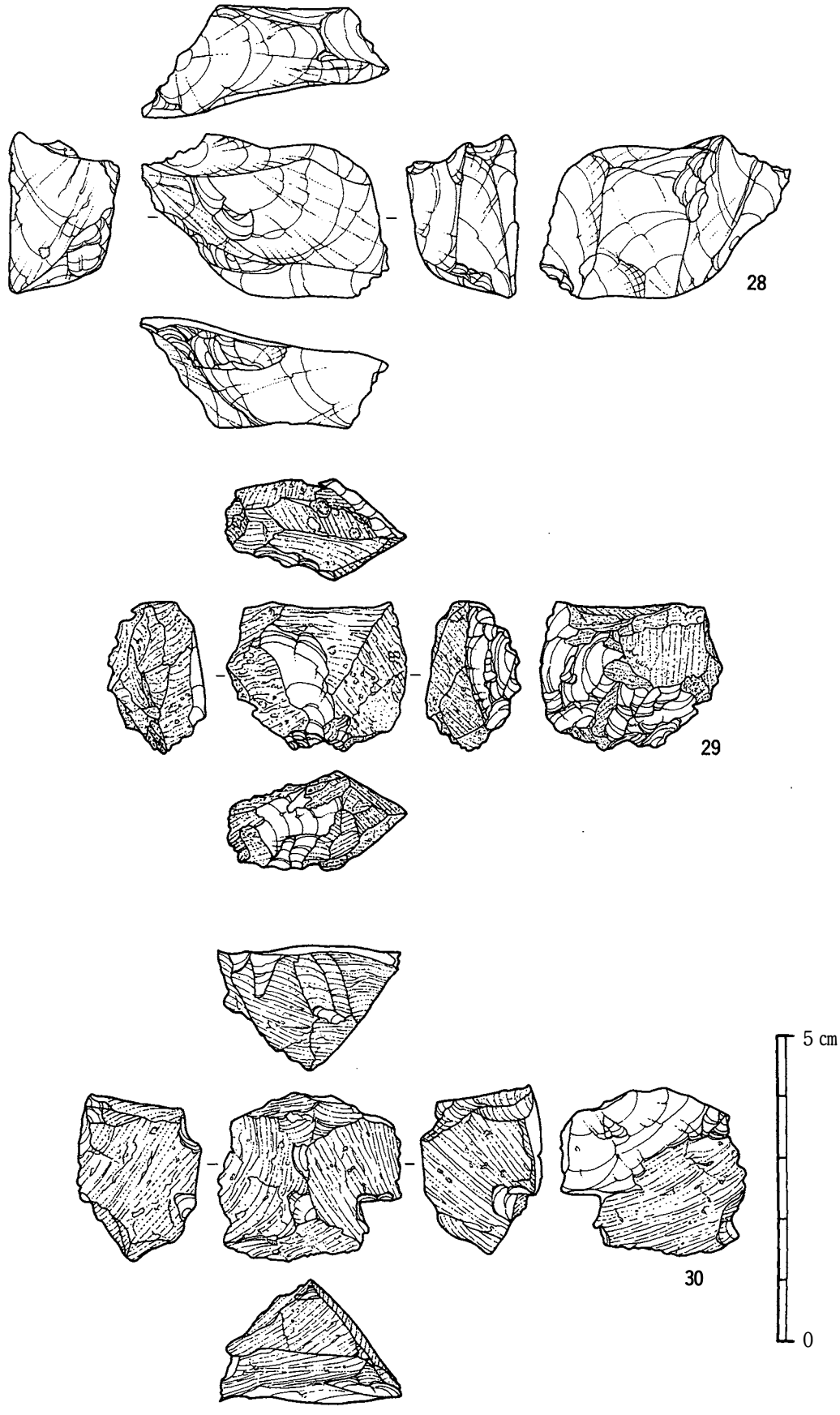
第130図　遺物実測図

第21表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
129－1	石鏃	Ⅱ	サヌカイト	1.90	1.80	0.35	1.40		17
129－2	石鏃	Ⅱ	黒耀石B	1.95	1.65	0.40	1.40		334
129－3	石鏃	Ⅱ	黒耀石E	1.35	1.13	0.45	0.40		392
129－4	石鏃	Ⅲa	サヌカイト	2.00	2.00	0.40	0.80		350
129－5	石鏃	Ⅲa	サヌカイト	1.95	1.25	0.30	0.40		324
129－6	石鏃	Ⅲa	瑪瑙	2.25	1.40	0.30	0.40		296
129－7	石鏃	Ⅲa	チャート	1.60	1.10	0.20	0.20		1
129－8	石鏃	Ⅲa	安山岩	2.10	1.35	0.38	0.50		328
129－9	石鏃	Ⅲa	黒耀石B	2.20	1.55	0.30	0.60		193
129－10	石鏃	Ⅲa	サヌカイト	1.45	1.55	0.40	0.80		356
129－11	石鏃	Ⅲb	黒耀石A	1.95	1.50	0.40	0.40		344
129－12	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	1.50	1.40	0.40	0.60		325
129－13	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	1.30	1.20	0.35	0.60		198
129－14	石鏃	Ⅲb	チャート	2.10	2.25	0.40	0.80		2
129－15	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	1.75	1.85	0.55	1.10		211
129－16	石鏃	Ⅲb	黒耀石C	2.00	2.00	0.55	1.60		91
130－17	石鏃	Ⅲb	黒耀石C	2.00	2.40	0.80	3.80		40
130－18	石鏃	Ⅲa	黒耀石E	3.25	2.20	0.40	1.50		3
130－19	石鏃	Ⅲb	安山岩	3.55	1.80	0.50	1.30		329
130－20	石鏃	Ⅲb	黒耀石A	2.65	1.25	0.50	0.70		332
130－21	石鏃	Ⅲc	チャート	2.40	2.40	0.40	1.20		373
130－22	石鏃	Ⅲb	黒耀石B	3.20	1.75	0.65	3.10		333
130－23	スクレイパー	Ⅲb	黒耀石C	3.30	2.70	1.35	7.10		357
130－24	石匙	Ⅱa	安山岩	3.90	4.75	0.95	13.30		3
130－25	磨石・敲石	Ⅲb	砂岩	6.50	5.50	3.10	110.00		一括
131－26	二次加工ある不定形石器	Ⅲb	安山岩	5.10	1.45	1.20	8.60		329
131－27	二次加工ある不定形石器	Ⅲa	黒耀石B	2.65	4.00	0.90	7.20		138
131－28	石核	Ⅲa	黒耀石B	2.65	4.05	1.80	15.20		50
131－29	石核	Ⅲb	黒耀石B	2.40	2.95	1.60	11.40		88
131－30	石核	Ⅲb	黒耀石B	2.75	3.00	2.00	14.40		260



第131図　遺物実測図



第132図　遺物実測図

４　まとめ

Ｂ地点において縄文時代に属する土坑19基，土器，石器等が検出された。その分布は、調査区西側の２つの谷部に挟まれた範囲に集中する傾向が認められる。検出された土坑は形態的に、平面形及び断面形が長方形を呈するものと、平面形が不整形の円形～楕円形を呈し壁面は緩やかに床面へ至るものとに区分できる。これらの遺構の検出面は、Ⅲａ層～Ⅳａ層上面であり、本来の掘り込み面は埋土の状況からⅢａ層～Ⅲｂ層に推定される。その結果、１～３号土坑を除いて概ね縄文時代早期に位置づけが可能であろう。前者は、土坑の大小の規格には差違がみられるものの、床面は平坦に作り出されている点で共通している。しかし、埋土中から遺物の検出はみられず、レンズ状に堆積しやや濁りが観察される。このことから、人為的に埋められたものとは考えにくく、遺構が形成された後緩やかに堆積したものと捉えられる。土坑床面に小穴等は認められないが、形態的特徴や埋土の堆積状況から陥し穴としての機能を有する遺構である可能性も考えられる。後者の土坑は、形態的には共通点が認められるが埋土の状態では差違が認められる。15号土坑（第122図）は、床面直上に灰白色粘質土を貼り付け、Ａ地点で検出された17号土坑と類似した特徴を示す。

しかし、機能・用途については不明である。今後類例の増加を待って検討したい。

また、検出された土器群は数量的に極めて少なく、その状態も小破片であり接合例も少ない。そのため、器形復元できる資料は得られなかった。施文された文様では山形押型文が多く、その他に少数ではあるが条線状の調整がみられるものがある。しかし、Ｂ地点内に形成された遺構の数量と比較して、土器の検出量は極めて少ないことが注意される。また、前述したように検出される土器は小破片であり器面は粗く、接合例が少ない。このことは、Ａ～Ｄ地点すべてに共通した状況である。さらに、石器群の組成についても石鏃が数量的に多く、石匙，削器，石皿・台石，磨石・敲石等が少ない傾向が窺える。このような様相は、Ａ～Ｄ地点に共通する傾向である。特にＡ，Ｂ地点は、遺跡内に形成された土坑の形状や検出される土器，石器の様相等類似点が指摘できる。このことは、両地点の中間に浅い谷部が存在しているものの、比較的連続した地形上に立地していることとも関連し重要であろう。つまり、集石遺構はＡ地点に集中しＢ地点では検出されていない。平面的にも断面的にも長方形を呈する土坑が、陥し穴としての機能を有していたとすれば、Ａ，Ｂ地点は「場の利用」という観点からそれぞれ相互に関連する可能性が指摘でき、共時性を有しないことになろう。

また、両地点の石材利用の在り方にも相違点が指摘できる。Ａ地点での石材組成は、黒耀石が主体を占めそのなかで乳白色を呈する黒耀石の占める割合がもっとも高い。Ｂ地点では、黒耀石Ｂ類と安山岩が拮抗した状態を示す。このことからも、両地点で生活を営んだ集団が異なる可能性が指摘できよう。

第Ⅴ章　C地点の調査と成果

第1節　層位と文化層

1　層位と出土遺物

C地点は南側及び東側の谷部により、A，B地点と地形的に区画される。現地調査の段階では、便宜上C，E区として調査を実施したが、地形的に区分する必要性が認められないため、本報告ではC地点として一括した。同地点においては、前述したA，B地点と土層堆積の観察で若干相違点が認められた。第Ⅱ章第3節に記述したように、9枚の土層が確認された点では同様であるが、暗色性の発達が弱いためⅥ層は細分できなかった。このことは、D地点と同様の状況であり、同層から検出された旧石器時代遺物の地点間での比較を困難にしている。

しかし、鍵層となる広域火山灰は、鬼界カルデラから噴出したアカホヤ火山灰層が第Ⅱ層に、姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰が第Ⅴ層に包含され、第Ⅸ層に九重第1パミスが確認されている。C地点では、第Ⅱ層から縄文時代前期の曽畑式土器と縄文時代以降の遺物が、Ⅳa層～Ⅶ層にかけて旧石器時代の石器群が検出された。検出された石器類の数量は少なく、定型的な石器類も少ない。石器群のうち定型的な石器類としては、Ⅳa層でナイフ形石器が1点、Ⅵ層において台形様石器3点と局部磨製石斧が1点検出されている。旧石器時代の石器群のピークは、Ⅳa層～Ⅳb層とⅥ層に認められる。石材別利用頻度では、両者とも黒耀石C類を主体的に利用し、前者では安山岩が多用されている。

2　文化層

C地点では、A，B地点と土層の堆積状況に相違点が認められた。つまり、層厚の薄さと暗色帯の状況の違いである。出土遺物は、Ⅱ層～Ⅶ層で検出された。Ⅱ層からは、土師質の土器片が検出され、古代に属するものと考えられる。また、Ⅱ層下面～Ⅲa層から縄文時代前期に属する曽畑式土器が検出され、Ⅲc層では土器は検出されなかったが石核と削器が検出されている。D地点においてⅢc層から槍先形尖頭器が1点検出されていることとともに興味深い資料である。しかし、Ⅱ層～Ⅲc層で検出された遺物は少なく、比較的それぞれの時期ごとにまとまる傾向が窺える。

C地点においては、Ⅳa層～Ⅶ層にかけて旧石器時代に属する石器群が検出された。その総数は、116点である。これらの石器群の層位別出土数量から、Ⅳa層～Ⅳb層とⅥ層にピークが認められる。

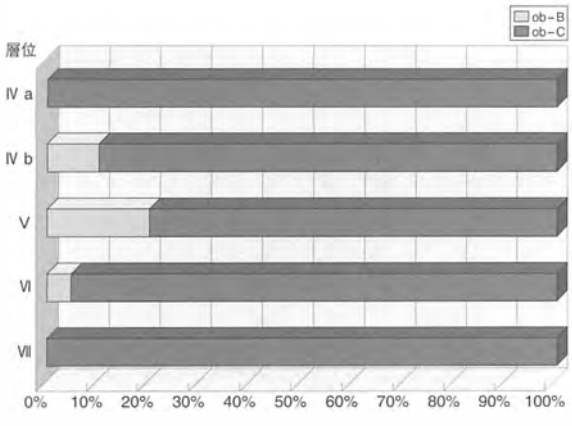
また、層位別の石材利用の在り方では、両者とも黒耀石C類を主体的に利用するという共通点を示しながら、前者においてはより利用石材にバリエイションが認められる。つまり、Ⅳb層以上と以下では利用される石材の種類が大きく異なる（第22表）。これらのことから、下位から上位へⅠ，Ⅱの2つの石器文化層に区分することが可能であろう。上下2つの石器文化層とも、検出された資料数は少なく、定型的な石器類は少ない。

第Ⅰ石器文化層は、第Ⅴ層～第Ⅶ層にかけて検出された。その石器群は、台形様石器，局部磨製石斧，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片，石核，剥片・砕片で構成され、利用される石材は黒耀石C類(82.2%)，黒耀石B類（6.7%），流紋岩（6.7%），チャート（2.2%），蛇紋岩（2.2%）である。これらの石器類のうち、局部磨製石斧は耳切遺跡において唯一の出土である。

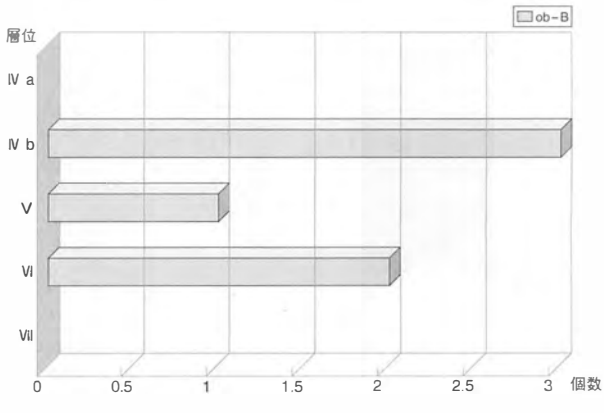
第Ⅱ石器文化層は、第Ⅳa層～第Ⅳb層にかけて検出された。その石器群は、ナイフ形石器，削器，二次加工ある不定形石器，石核，剥片・砕片で構成され、利用される石材は黒耀石A類(2.8%)，黒耀石B類(4.2%)，黒耀石C類（64.8%），黒耀石D類（2.8%），安山岩（21.2%），メノウ（1.4%），チャート（1.4%），流紋岩（1.4%）である。

第22表　層位別石材組成表

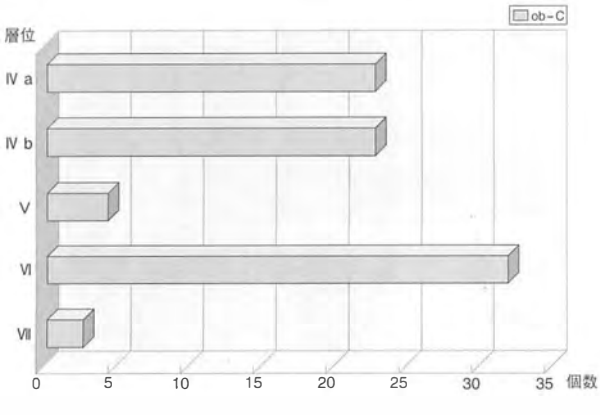
	Ⅳａ	Ⅳｂ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	計
黒耀石Ａ	1	1				2
黒耀石Ｂ		3	1	2		6
黒耀石Ｃ	23	23	4	32	2	84
黒耀石Ｄ		2				2
安山岩	5	10				15
メノウ		1				1
チャート		1		1		2
流紋岩	1			3		4
計	30	41	5	38	2	116



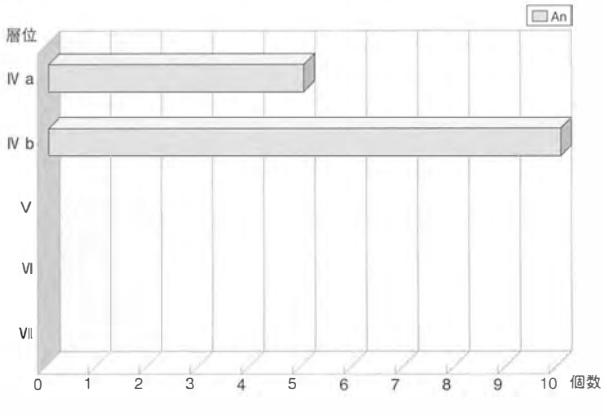
第133図　石材の層位別出土頻度



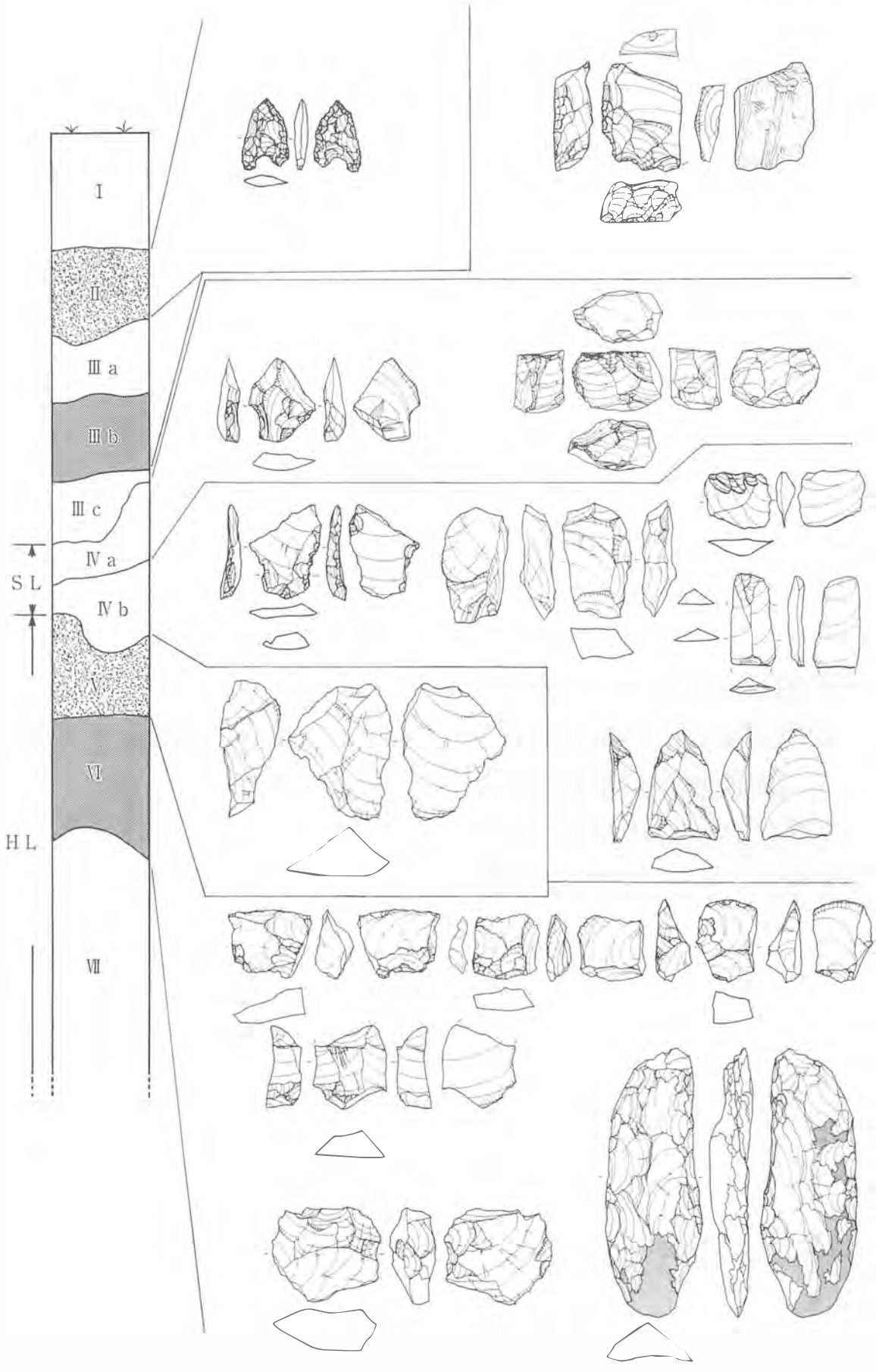
第134図　黒耀石Ｂ類の層位別出土頻度



第135図　黒耀石Ｃ類の層位別頻度



第136図　安山岩の層位別出土頻度



第137図　C地点の層位別出土遺物

第２節　第Ｉ石器文化層

１　文化層の概要

第Ｉ石器文化層は、Ｖ層～Ⅶ層に出土層順をもつ石器群であり、そのピークはⅥ層中に求められる。同地点では、Ｖ層に姶良Ｔｎ火山灰を包含し、Ⅸ層で九重第１パミスが確認されている。同石器文化層は、このようにソフトローム層以下に鍵層となる火山灰層が２枚確認され、両火山灰の中間に出土層順をもつ。

検出された石器群は、台形様石器，局部磨製石斧，二次加工ある不定形石器，使用痕ある剥片，石核，剥片・砕片で構成され、比較的単純な組成を示す。この石器群は、総数45点と数量的に少なく、その大半は剥片・砕片類である。出土層順は、前述したようにＶ層～Ⅶ層であるが、Ｖ層及びⅦ層での検出量は極めて少なく、その大半はⅥ層中に認められる。しかし、同地点は層位的にもＤ地点と同様に暗色帯の暗色性の発達が弱いため、Ⅵ層（暗色帯）の細分は行えなかった。このように器種組成が単純で、定型的な石器類や石核が少なく、土層堆積状況に相違点が認められるなど、Ａ，Ｂ地点との比較が困難な状態である。また、同文化層に属する石器群では、剥片剥離工程を類推できる接合資料は認められなかった。

２　分布と石材

Ｃ地点の南東側には、Ｂ地点北側から連続する谷部が認められる。この谷部は、南東から北西へ広がりながら延び、同地点を地形的に区画している。Ｖ層～Ⅶ層にかけて出土層順をもつ第Ｉ石器文化石器群は、調査区西側に偏在し、そのまとまりから１～３ブロックに区分が可能である。ブロック別に検出された石器類で観察すると、台形様石器はブロック１，３で認められ、局部磨製石斧はブロック２で検出された。これらのブロックにおける利用石材は、黒耀石Ｃ類が主体を占める点で同石器文化全石器群の様相と同様であるが、特にブロック３では同種の石材のみで構成される。また、これらの石器群の出土地点は、Ｄ地点が存在する尾根の起点部に位置し、両地点間の距離は直線で約80ｍであり、比高差は約７ｍである。同石器群に利用される石材はバリエイションが少なく、黒耀石類が圧倒的に多く全体の91.1％を占める。黒耀石類のなかでは、黒耀石Ｃ類が主体的に利用され92.7％を占めている。このように黒耀石類のなかで黒耀石Ｃ類が主体を占める点では、Ｂ地点下層石器群と類似した傾向が窺える。同石器文化に属する台形様石器は３点検出された。そのうち１点は、黒耀石Ｂ類製である。　しかし、同石器文化石器群には、同種石材の石核は検出されていない。

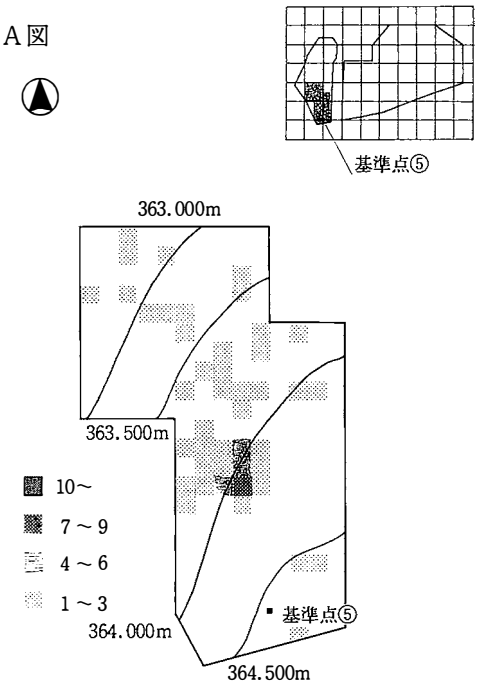
第23表　ブロック別石器組成表

ブロック	台形様	削器	局磨	二次加工	使用痕	石核	剥片	砕片	計
1	2				1		4	2	9
2			1	1		1	3	7	13
3	1			1			5	13	20

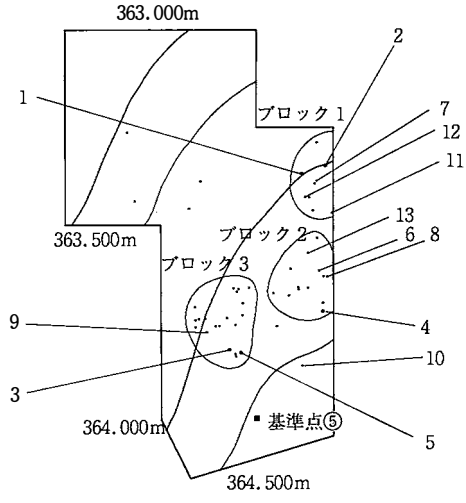
第24表　ブロック別石材組成表

ブロック	黒耀石Ａ	黒耀石Ｂ	黒耀石Ｃ	黒耀石Ｄ	安山岩	流紋岩	メノウ	チャート	蛇紋岩	計
1		1	7					1		9
2			9			3			1	13
3			20							20

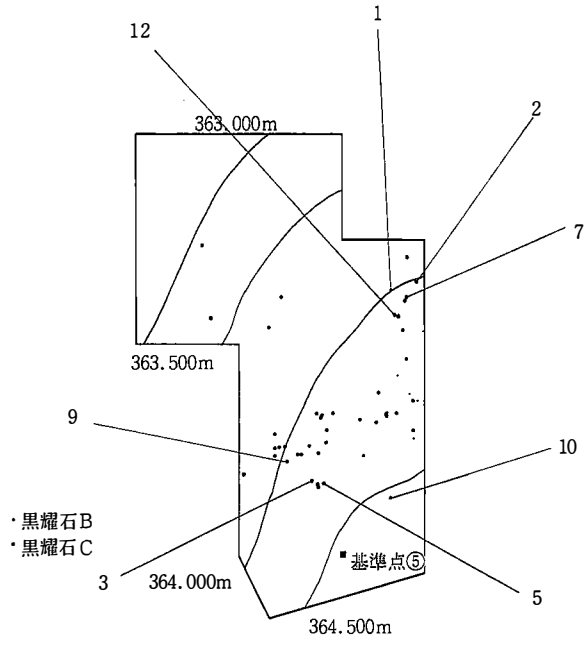
A図



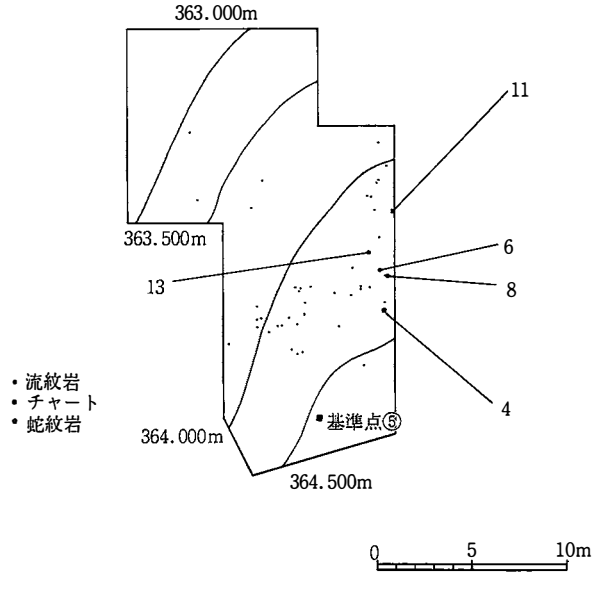
B図



C図（黒耀石類）



D図（非黒耀石類）



第138図　遺物分布図

３　出土石器

第Ⅰ石器文化層に属する石器は、総数45点検出された。そのうち、石器類が全石器群の20.0％を占める。器種ごとには、台形様石器6.7％，局部磨製石斧2.2％，二次加工のある不定形石器8.9％，使用痕ある剥片2.2％である。このように器種組成は、比較的単純で掻・削器類は認められない。これらの石器群は、前述したように調査区西側に偏在し、比較的まとまった分布域を示す。

以下、器種ごとに説明を行う。

台形様石器（第139図１～３）

台形様石器として分類できるものは、３点確認された。その石材は、黒耀石Ｂ類（第139図１）と黒耀石Ｃ類（第139図２，３）である。これらの石器は、幅広剥片を素材とする点で共通している。しかし、黒耀石Ｃ類製の２点は、比較的厚みのある剥片を利用する。第139図１は、素材となる剥片を横位に用い、表面左側縁と基部側の二辺に平坦剥離による調整加工を施している。この石器は、打面を右側縁に設定し、素材剥片の形状を大きく修正せず作り出されている。第139図２は、素材となる剥片の打点部側を基部側に設定し、表面左側縁と裏面基部に調整加工を施す。右側縁には折れ面が観察され、基部に施された加工痕との切り合い関係から先行する折れであることが理解される。刃部として設定できる一辺に、微細な刃こぼれが観察される。第139図３は、素材となる剥片を横位に用い、表面の左右両側縁と裏面基部に平坦剥離を施す。この石器は、素材剥片の形状を大きく修正せず作り出されている。刃部として設定できる一辺に微細な刃こぼれが観察される。

局部磨製石斧（第139図４）

局部磨製石斧は、１点確認された。出土層位はⅥ層で、その石材は蛇紋岩である。石器は、幅が狭く細長い形状を呈する。左右両側縁の形状は異なり、左右対称形をなさない。刃部は、丸みをもち表裏両面から研磨が施される。その形状は、片刃である。表面の稜は、中央部やや左に寄った部分に認められる。裏面側では、右側縁からの大きな剥離面が認められ、そのため稜は左側縁近くの偏った位置に認められる。基部と右側縁刃部近くに欠失面が観察される。

二次加工ある不定形石器（第140図５，６）

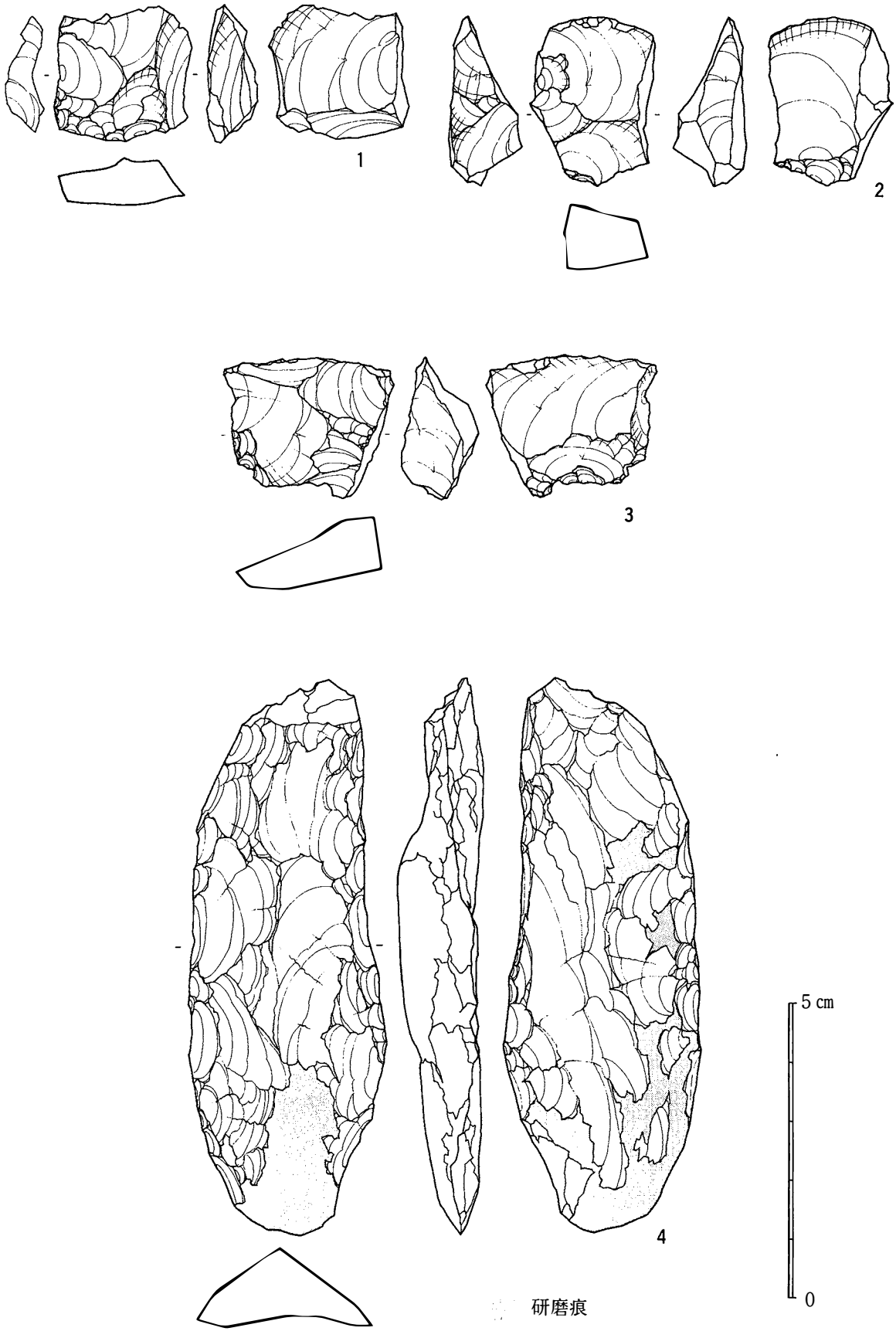
二次加工ある不定形石器は４点確認され、そのうち２点を図示した。第140図５は、右側縁の表裏両面に加工が施され、対向する一辺に使用痕と考えられる小剥離痕が観察される。加工が認められる一辺を基部側に設定すると、使用痕が観察される一辺は上位に位置づけられ、台形様石器として分類が可能であるかもしれない。第140図６は、素材となった剥片の打点部側と先端部側の一部を欠失している。そのため、石器全体の形状は不明である。調整加工は、左側縁部先端部近くに施される。

使用痕ある剥片（第140図12）

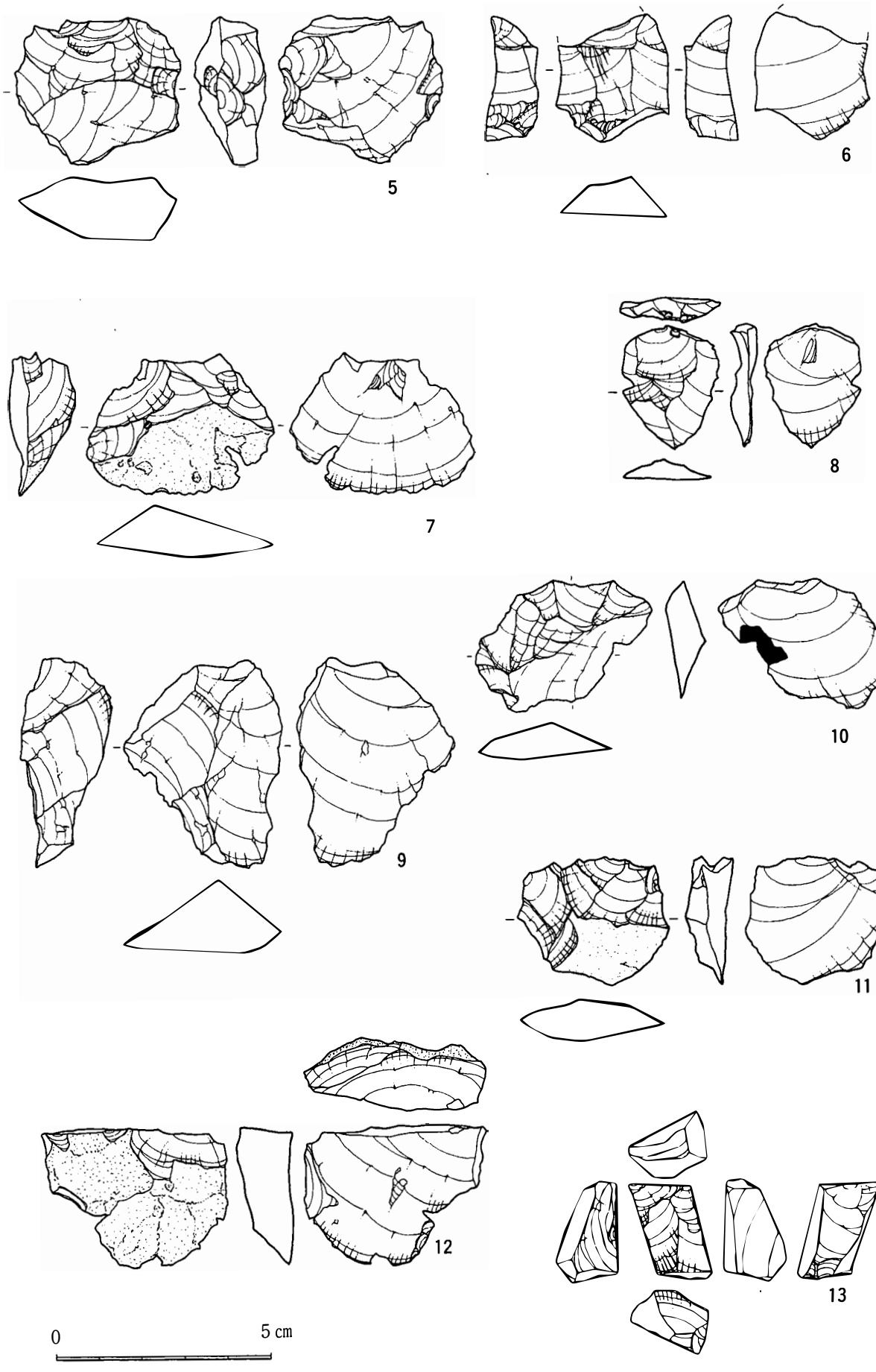
使用痕ある剥片は、１点確認された。石材は、黒耀石Ｃ類である。表面に大きく礫面を残す幅広の剥片であり、左側縁先端部近くに使用痕が認められる。

剥片（第140図７～11，13）

剥片は、６点図示した。これらの形状は、縦長剥片（第140図８，９）と幅広剥片（第140図10，11）とがみられる。表面には、求心状の剥離面が観察される。



第139図　遺物実測図



第140図　遺物実測図

4　本石器文化層の位置づけ

C地点の第Ⅴ層～第Ⅶ層にかけて検出された、第1石器文化層に属する石器群は総数45点である。全石器群に占める石器類の割合は、20.0%である。検出された石器類は、台形様石器6.7%，局部磨製石斧2.2%，二次加工ある不定形石器8.9%，使用痕ある剥片2.2%である。このように石器類の数量は少なく、器種組成も台形様石器を主体としながらも単純な様相として捉えられる。また、検出された台形様石器は、素材となる剥片の平面的形状やその用い方等、A地点第Ⅰ石器文化層～同第Ⅱ石器文化層で検出された同種の石器群と類似する。

しかし、利用される石材では黒耀石C類を多用するという相違点が認められる。この様相は、本文化層の全石器群においても同様である。つまり、A地点の姶良Tn火山灰降灰以前の2つの石器文化は、全石器群に占める黒耀石類の割合が増加する傾向を示し、黒耀石B類が主体を占める。その中で黒耀石C類の比率が徐々に増加していくのに対し、本文化層では黒耀石類が91.1%を占める。そのうち黒耀石C類が圧倒的に多用され、黒耀石B類はわずかに認められるだけである。後期旧石器時代前半期の石器群に関しては、中期旧石器時代との過渡的段階から徐々に黒耀石類の利用比率が増加していくことが指摘されている。このことから、黒耀石類を多用する本文化層は、A地点第Ⅰ石器文化層と同第Ⅱ石器文化層との中間的な位置づけが可能であろう。

また、耳切遺跡A～D地点において検出された、姶良Tn火山灰降灰以前に位置づけられる旧石器時代石器群で局部磨製石斧が検出された石器群は、C地点第Ⅰ石器文化層のみである。この種の石器は、製作から廃棄されるまでに、リダクション（reduction）が繰り返され製作時の形態的特徴が変形する特徴を有している。そのため、廃棄された石器の形態的特徴から細かな時間的位置づけを行うことは、危険であり困難であろう。そこで、今回検出された局部磨製石斧については、その特徴を記すにとどめたい。形態的には短冊型を呈し、刃部は片刃である。全体形は、左右非対称形であり、刃部もリダクションによって左上がりとなる。つまり、丸みをもつ刃部の中心部は、右側縁近くに偏る。表裏面の稜は、逆に左側縁近くに偏る。また、右側縁は対向する左側縁と異なり曲線的に整わず、右側縁裏面側に大きな剥離面が観察される。さらに、左右両側縁にみられる調整加工についても、左側縁では大まかに右側縁では細かく施される。このことからも、リダクションが行われたことが認められ、長さに比して幅が減じたものと類推できよう。

第25表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
139－1	台形様石器	Ⅵ	黒耀石B	2.24	2.30	0.82	3.71		C－136
139－2	台形様石器	Ⅵ	黒耀石C	2.78	2.23	1.12	5.61		C－137
139－3	台形様石器	Ⅵ	黒耀石C	2.81	2.54	1.03	6.08		C－116
139－4	局部磨製石斧	Ⅵ	黒耀石C	9.45	3.40	1.40	49.03		C－85
140－5	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石C	3.23	3.88	1.58	18.41		C－117
140－6	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	流紋岩	3.00	2.66	1.07	8.76		C－90
140－7	剥片	Ⅵ	黒耀石C	3.13	4.31	0.69	13.92		C－138
140－8	剥片	Ⅵ	流紋岩	2.80	2.42	0.51	2.44		C－89
140－9	剥片	Ⅴ	黒耀石C	4.77	3.60	1.83	21.08		C－103
140－10	剥片	Ⅵ	黒耀石B	2.95	4.00	1.08	9.77		C－128
140－11	剥片	Ⅵ	チャート	2.92	3.42	1.01	8.87		C－131
140－12	使用痕ある剥片	Ⅵ	黒耀石C	3.24	4.35	1.60	17.32		C－133
140－13	剥片	Ⅵ	流紋岩	2.19	1.91	1.07	5.03		C－92

第３節　第Ⅱ石器文化層

１　文化層の概要

第Ⅱ石器文化層は、Ⅳａ層～Ⅳｂ層のソフトローム層に出土層順をもつ石器群である。総数は、71点である。その層位別の内訳は、Ⅳａ層42.3%，Ⅳｂ層57.7%で両層とも大きな偏りはみられず、層理面～Ⅳｂ層上位面にピークを求めることができようか。

検出された石器群は、ナイフ形石器1.4%，削器1.4%，二次加工ある不定形石器7.1%，使用痕ある剥片4.2%，石核5.6%，剥片・砕片80.3%で構成され、その大半は剥片・砕片である。このように組成される石器類には、定型的な石器類が少なく比較的単純で数量も少ない。

また、ナイフ形石器はⅣａ層から検出され、剥片剥離工程を類推できる接合資料は認められなかった。

２　分布と石材

Ｃ地点の地形的特徴は、第Ⅴ章第２節で述べたとおりＢ地点から北西方向に延びる谷部によって区画されている。このような地形のなか、Ⅳａ層～Ⅳｂ層にかけて総数71点の石器群が検出された。これらの石器群は、調査区西側に偏在する傾向が認められるが、北側でも８点が散在した状況で確認されている。

同石器文化石器群のうち88.7%が調査区西側で検出され、そのまとまりから１～３ブロックに区分が可能である。１～３ブロックとも組成される石器類に大きな違いは認められないが（第26表)、１ブロックには削器１点と使用痕ある剥片１点が認められる点でわずかに相違する。しかし、石材組成では黒耀石Ｃ類が主体的に認められる点では、各ブロックとも類似した傾向がみられるが、１ブロックは安山岩が38.2%を占めている。また、石器群全体は、黒耀石Ａ類2.8%，黒耀石Ｂ類4.2%，黒耀石Ｃ類64.8%，黒耀石Ｄ類2.8%，安山岩21.2%，流紋岩1.4%，チャート1.4%，メノウ1.4%で構成され、黒耀石Ｃ類が主体を占めながらも下位石器文化石器群に比べてその比率は低下している。下位石器文化から上位石器文化への石材利用の変化を整理すると、主体的に利用される石材は変化せずその利用頻度が低下し、さらに利用石材のバリエイションは増加傾向を示し安山岩の利用頻度が高くなる。しかし、同石器文化石器群の集中する西側と散在する北側では、石材組成に違いが認められる。黒耀石Ａ，Ｄ類は北側でのみ検出され、黒耀石Ｂ類は西側石器群に含まれる。このように石器群全体では、バリエイションが増大した様相として捉えられるが、それぞれの石材ごとにまとまる傾向が窺える。

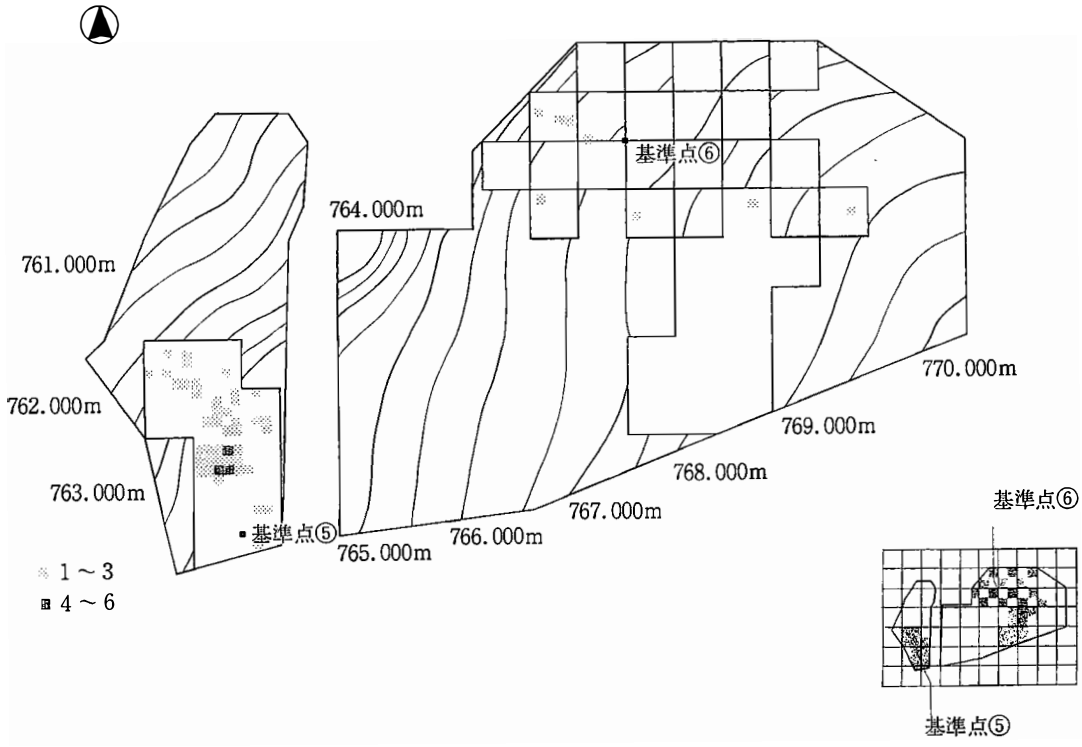
第26表　ブロック別石器組成表

ブロック	ナイフ形	削器	二次加工	使用痕	石　核	剥　片	砕　片	計
1		1	1	1	1	14	16	34
2			1		1	11	3	16
3			1		1	5	4	11

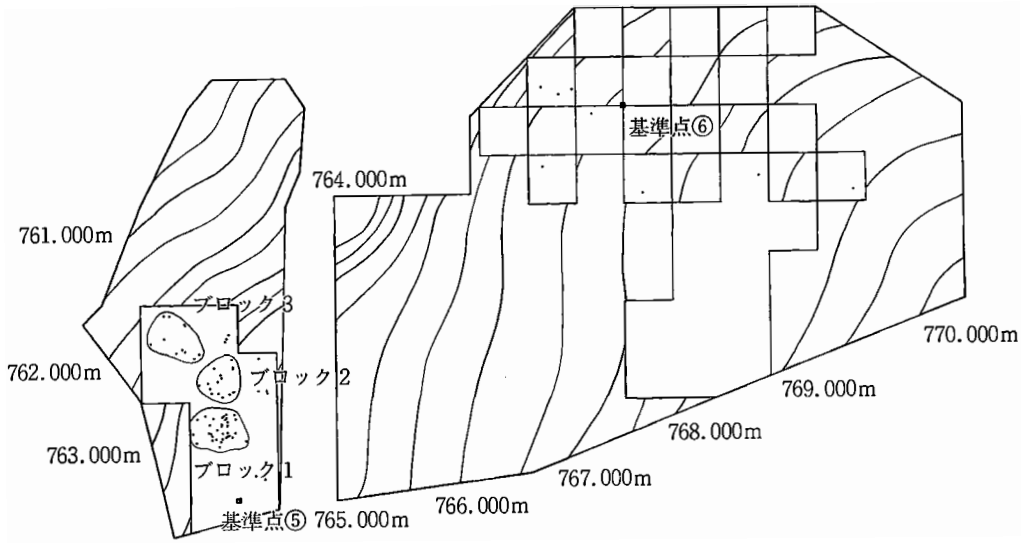
第27表　ブロック別石材組成表

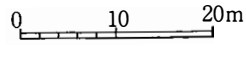
ブロック	黒耀石Ａ	黒耀石Ｂ	黒耀石Ｃ	黒耀石Ｄ	安山岩	流紋岩	瑪　瑙	チャート	計
1		1	19		13		1		34
2		1	12		1	1		1	16
3			10		1				11

A図

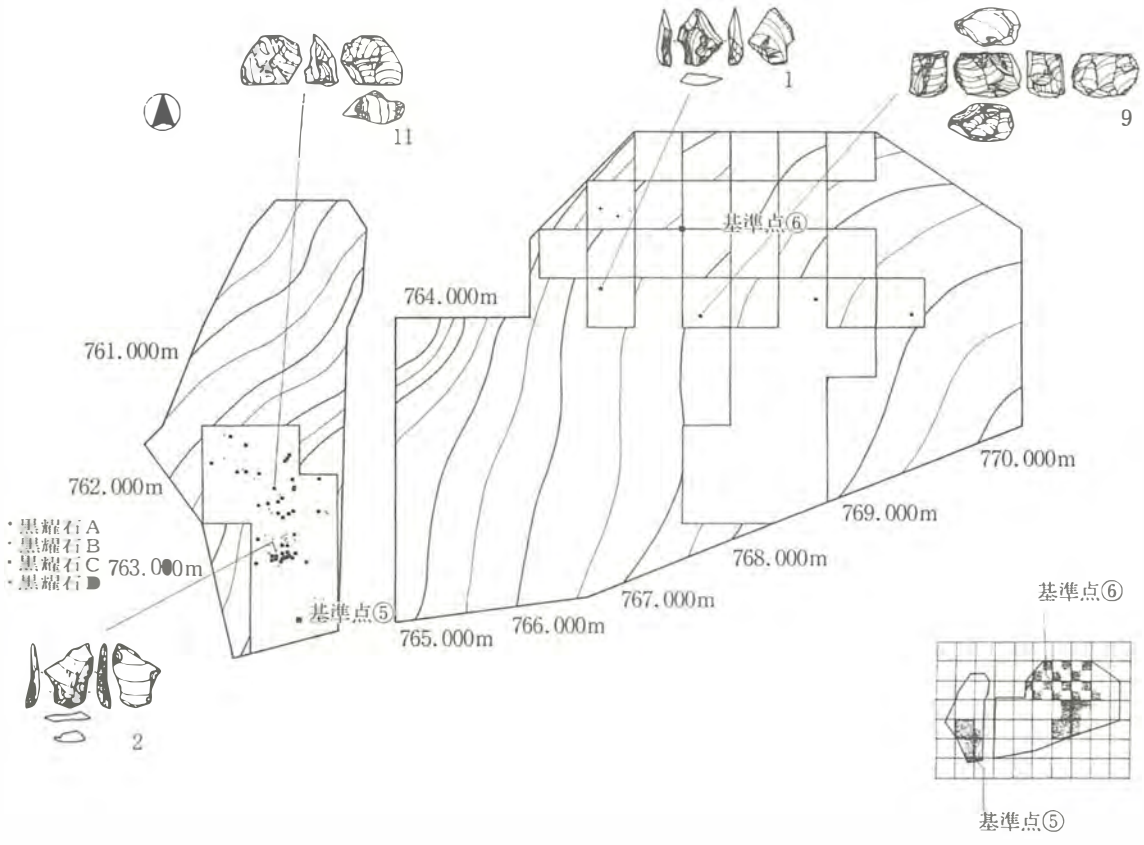


B図

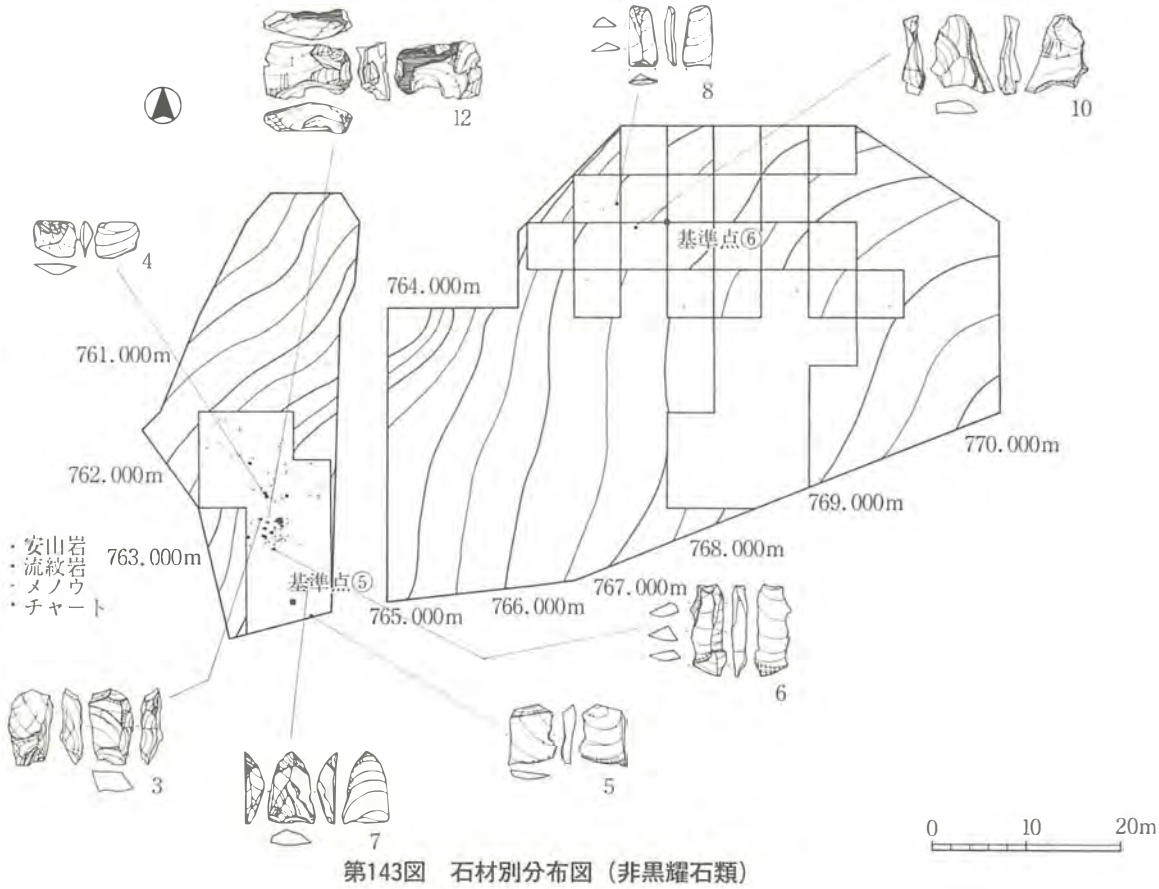




第141図　遺物分布図



第142図　石材別分布図（黒耀石類）



第143図　石材別分布図（非黒耀石類）

3　出土石器

第Ⅱ石器文化層に属する石器は、総数71点検出された。そのうち、石器類が全石器群の19.7％を占める。器種ごとには、ナイフ形石器1.4％，削器1.4％，二次加工ある不定形石器7.1％，使用痕ある剥片4.2％である。このように、第Ⅰ石器文化と同様に器種組成は比較的単純で数量的にも少ない。また、調査区西側に遺物が集中し、北東部にやや散在する傾向が窺える。

以下、器種ごとに説明を行う。

ナイフ形石器（第144図１）

ナイフ形石器として分類できるものは、第144図１に図示した１点のみである。出土地点は、第142図に示したとおり調査区北東側である。この石器は、幅広の「ノの字」剥片を素材とし、表面両側縁基部側に調整加工を施す。左側縁は、素材剥片の厚みにあわせてやや急角度に施され、側縁部の形状は内湾する。右側縁は、表面に平坦状の剥離が認められ、裏面側には打面を除去するように細長い剥離が数枚確認される。

削器（第144図３）

削器として分類できるものは、第144図３に図示した１点のみである。出土地点は、調査区西側のブロック１から検出された。厚みのある幅広剥片を素材とし、左側縁部の裏面側に大まかな剥離を加え刃部を作り出している。

二次加工ある不定形石器（第144図２，４，７）

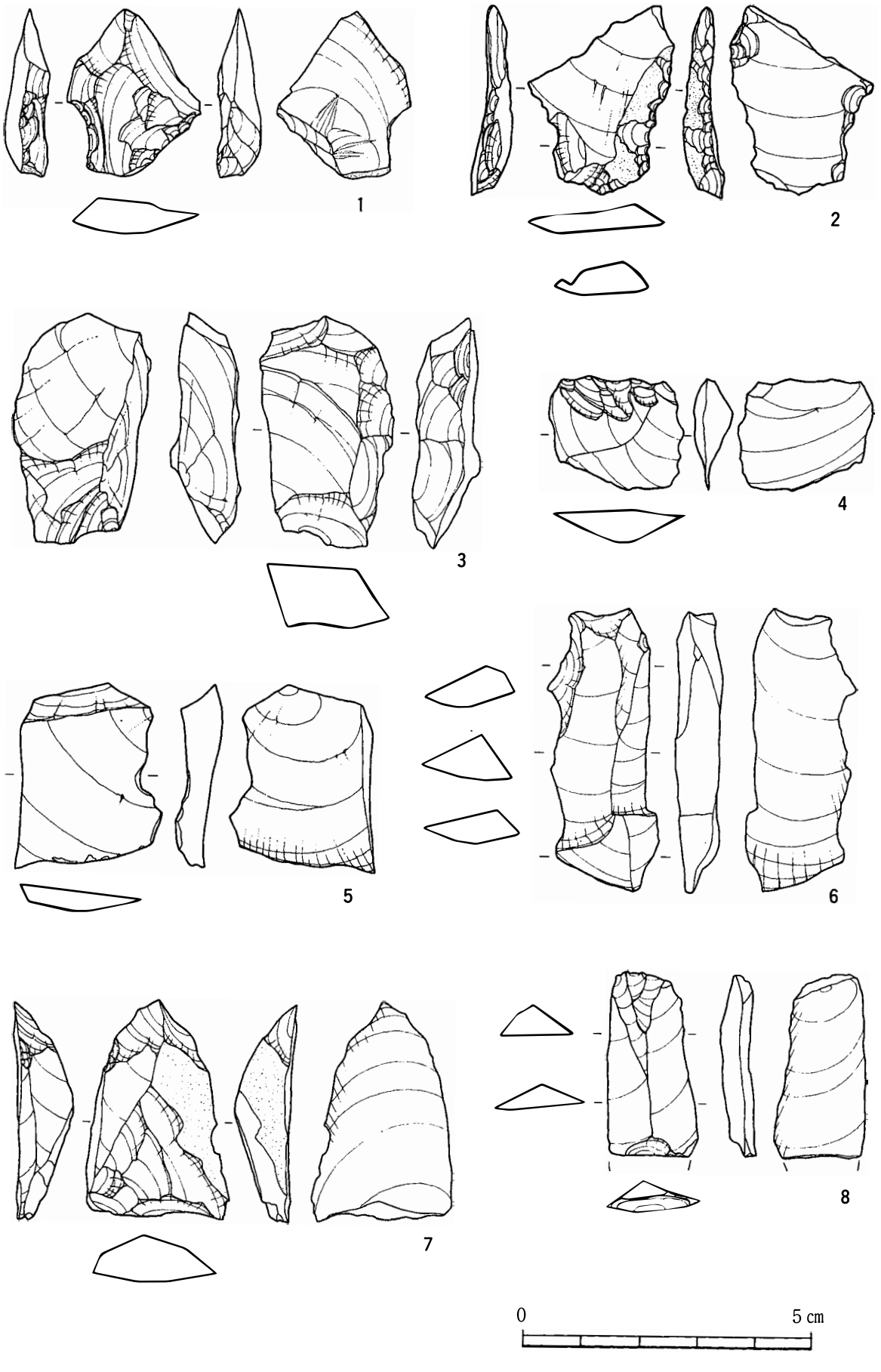
二次加工ある不定形石器として分類できるものは、５点確認された。全石器群に占める割合は、7.1％であり石器類のなかでもっとも高い数値を示す。これらの石器のうち２点を図示した。第144図２は、表面に礫面を残すやや幅の広い縦長剥片を素材とし、打点部側を欠失している。調整加工は、左右両側縁に認められ、その在り方は錯交する状態を示す。第145図４は、幅広剥片を素材とし、表面側に打点部を除去するように調整加工が認められる。

使用痕ある剥片（第144図５）

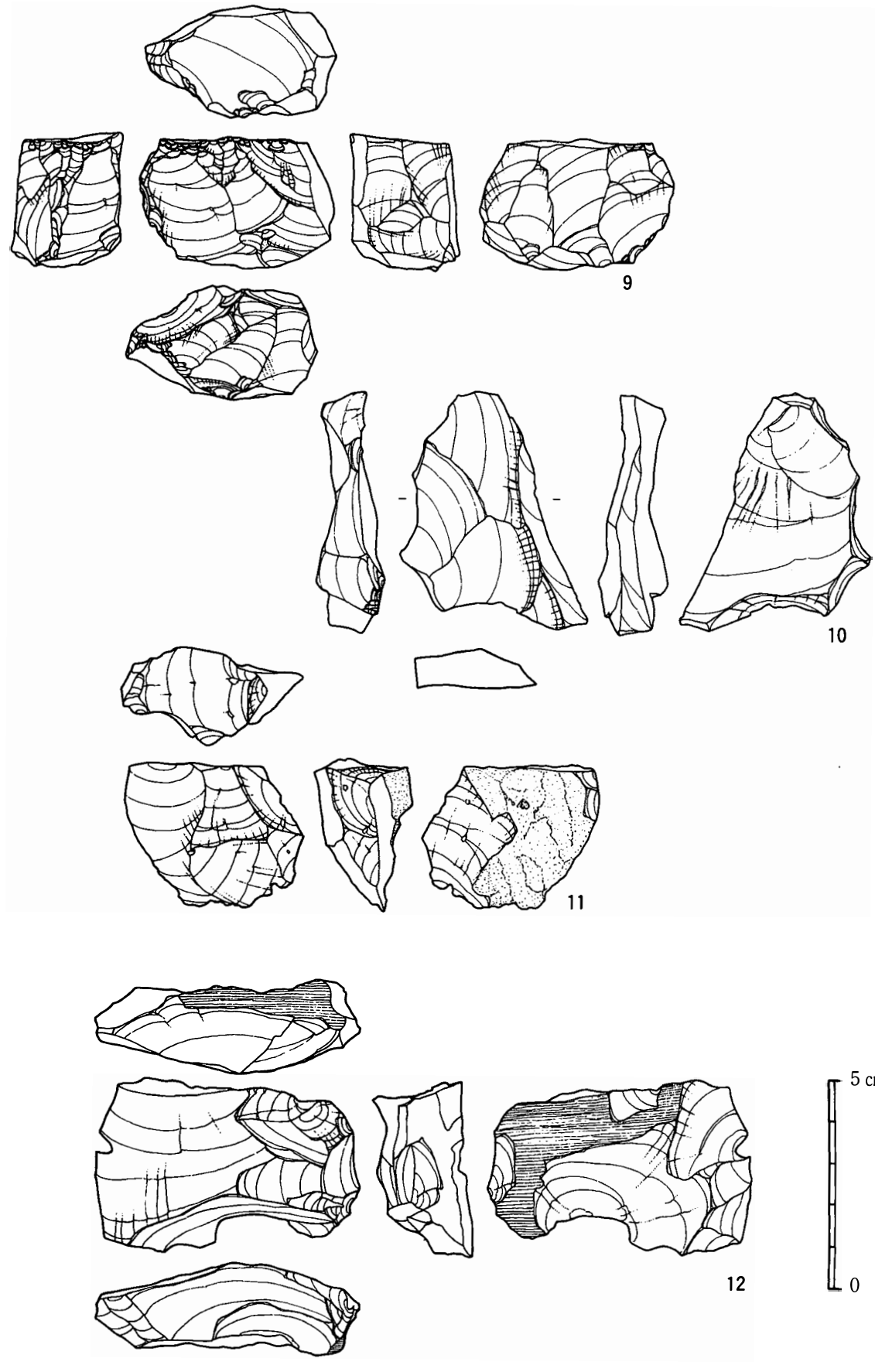
使用痕が観察された剥片は、３点確認された。そのうち１点を図示した。第144図５は、幅広剥片を素材とし、先端部に使用痕と考えられる微細な剥離痕が観察される。

石核（第145図９，11，12）

石核として分類できるものは、４点確認された。そのうち３点を図示した。第145図９の石材は、黒耀石A類である。この石材を利用した石器は、第144図１のナイフ形石器のみが確認されている。出土地点も、両者比較的近接した位置を示し、調査区中央北側で検出された。正面上端に１枚の剥離面による平坦面がみられ、この剥離面を打面とする剥離面が観察される。また、剥離に際しては、頭部調整が施されている。しかし、側面や裏面及び下面に認められる剥離面は、正面に残された剥離面の方向と異なり、打面は固定されていないことが理解される。石核の全体形状は、賽子状を呈し打面転移を頻繁に繰り返し剥離を行ったものと考えられる。第145図11，12の石核は、第145図９と異なり、厚みのある剥片を素材として利用している。両者とも一部に礫面を残し、剥離は周縁から施される。その結果求心的な剥離痕が認められる。特に、第145図12は、周縁からチョッピングトゥール状に剥離が行われている。石材はメノウであり、この石材を利用した石器は少なく、剥片類がわずかに認められるだけである。



第144図　遺物実測図



第145図　遺物実測図

第28表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
144－1	ナイフ形石器	Ⅳa	黒耀石A	2.90	2.30	0.70	3.54		E－1
144－2	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石C	3.34	2.50	0.66	3.87		C－123
144－3	スクレイパー	Ⅳb	安山岩	4.00	2.17	1.19	11.93		C－25
144－4	二次加工ある不定形石器	Ⅳb	流紋岩	1.94	2.35	0.21	2.29		C－23
144－5	使用痕ある剥片	Ⅳb	流紋岩	3.06	2.55	0.40	4.60		C－143
144－6	剥片	Ⅳb	流紋岩	4.90	1.92	0.79	6.62		C－53
144－7	二次加工ある不定形石器	Ⅳb	流紋岩	3.79	2.49	0.91	7.78		C－127
144－8	剥片	Ⅳb	流紋岩	3.25	1.60	0.50	2.60		E－15
145－9	石核	撹乱土坑内	黒耀石A	3.05	4.50	2.45	44.50		E－18
145－10	剥片	Ⅳa	流紋岩	5.55	4.50	1.65	22.79		E－2
145－11	石核	Ⅳa	黒耀石C	3.30	3.98	2.21	24.66		C－38
145－12	石核	Ⅳb	メノウ	4.08	6.27	2.03	52.30		C－24

4　本文化層の位置づけ

第Ⅱ石器文化層は、Ⅳａ層～Ⅳｂ層のソフトローム層から、総数71点の石器群が検出された。これらの石器群は礫群等の遺構を伴わず、炭化物も検出されなかった。また、検出された石器群の器種組成も単純であり、その数量も少ない。定型的な石器類は、ナイフ形石器１点と削器１点のみである。石材組成は、黒耀石Ｃ類が64.8％を占め、全石器群のなかで主体的に選択され利用されていることが理解される。このことは、比率は低下傾向を示すものの、下位石器文化と同様である。その他の石材は、黒耀石Ａ類2.8％，黒耀石Ｂ類4.2％，黒耀石Ｄ類2.8％，安山岩21.2％，メノウ1.4％，チャート1.4％，流紋岩1.4％であり、石材組成を下位石器文化と比較した場合、主体的に選択され利用される石材は変化せず、その利用頻度が低下する傾向を示す。さらに、利用される石材のバリエイションは増加し、その中で安山岩の利用頻度は急激に高くなる。このことを検出された石器群のまとまりごとにみると、調査区西側に偏る１～３のブロックでは、器種組成では大きな違いは認められないが、石材組成には相違点がみられる。ブロックで黒耀石Ｃ類が主体的に利用されている点では同様であるが、ブロック１では安山岩の利用頻度が高い点で異なっている。さらに、これらの石器群には、定型的な石器類はブロック１の削器１点のみであり、位置づけを困難にしている。本文化層で検出されたナイフ形石器は、集中部から離れた調査区中央北側で検出された。この地点周辺に散在する石器群は、集中部の石材組成と異なり、黒耀石Ａ，Ｄ類が認められ、この石材は集中部では認められない。また、Ｃ地点における同文化層からは、接合資料が認められず、地形的にも南東から北西に谷部が存在し、分布域を分断している。そのため、両者の石器分布が同時期に残されたものかどうか判然としない。

同地点から検出された、第144図１のナイフ形石器は、素材剥片の形状及びその用い方の特徴から、「今峠型ナイフ形石器」あるいは、「原ノ辻型台形石器」に類似する資料である。しかし、前述したように組成する石器類が少なく詳細な時間的位置づけは困難である。また、当該地点において接合関係が認められないことから、同一母岩の共有関係の把握も困難で、当該地点全域の共時性について検討できなかった。そのため、石器群を石材別の分布で検討を行ったが、その結果ブロック１～３と北東部に散在する石器群とは、利用石材の違いが認められた。

第４節　縄文時代の調査

１　遺構とその分布

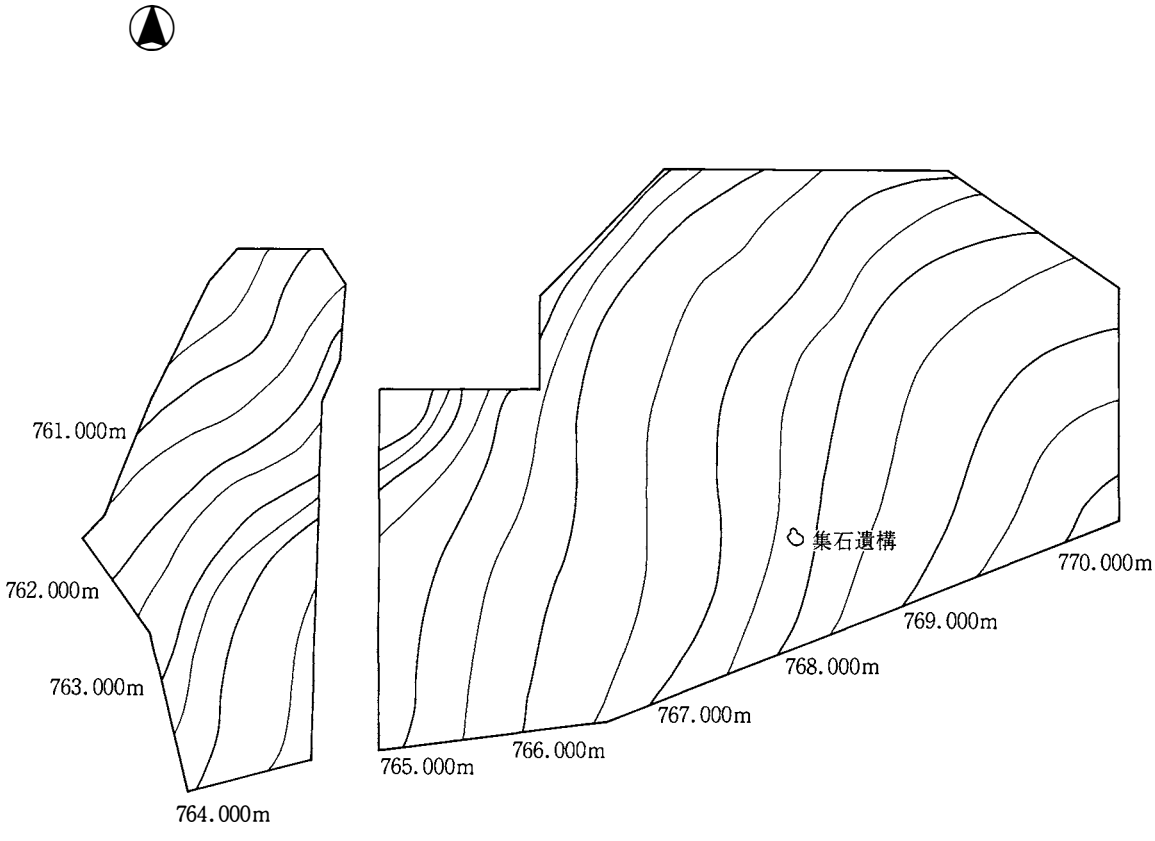
Ｃ地点において検出された遺構は、集石遺構１基のみである。そのため、その分布については、特に記すことはない。しかし、ここで検出された遺構の検出面はⅡ層下面であり、Ａ地点で検出された集石遺構や土坑と異なる。また、その内容も異なる。このことは、同地点において検出された土器群の様相と合致する。つまり、遺構検出地点周辺で曽畑式土器がまとまって検出されていることと関連するものと考えられ、耳切遺跡における各時期ごとの集落の形成や場の利用に関して、重要な情報を提供している。

以下、検出された集石遺構について説明を行う。

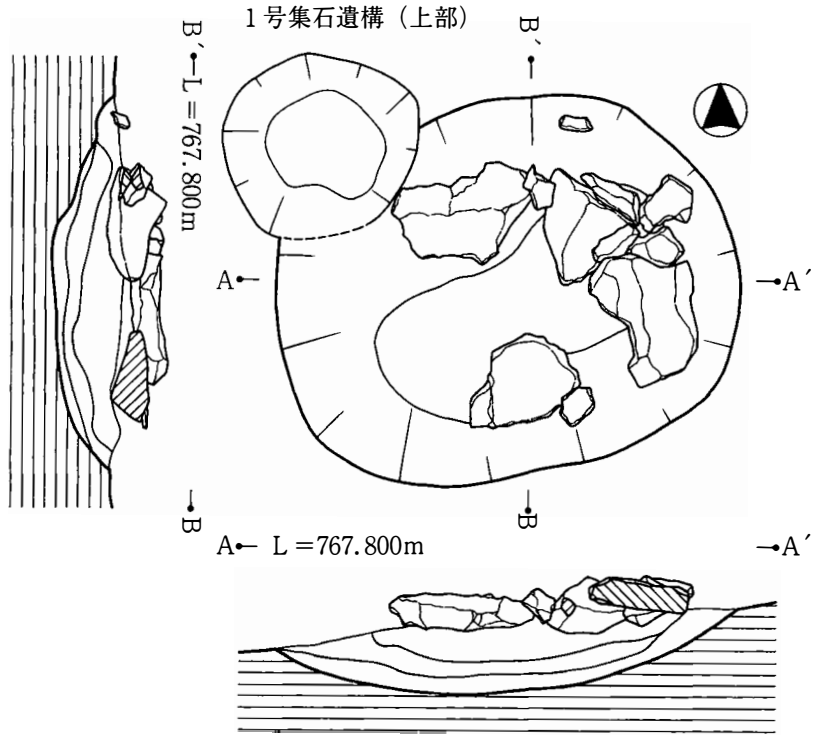
１号集石遺構（第147図）

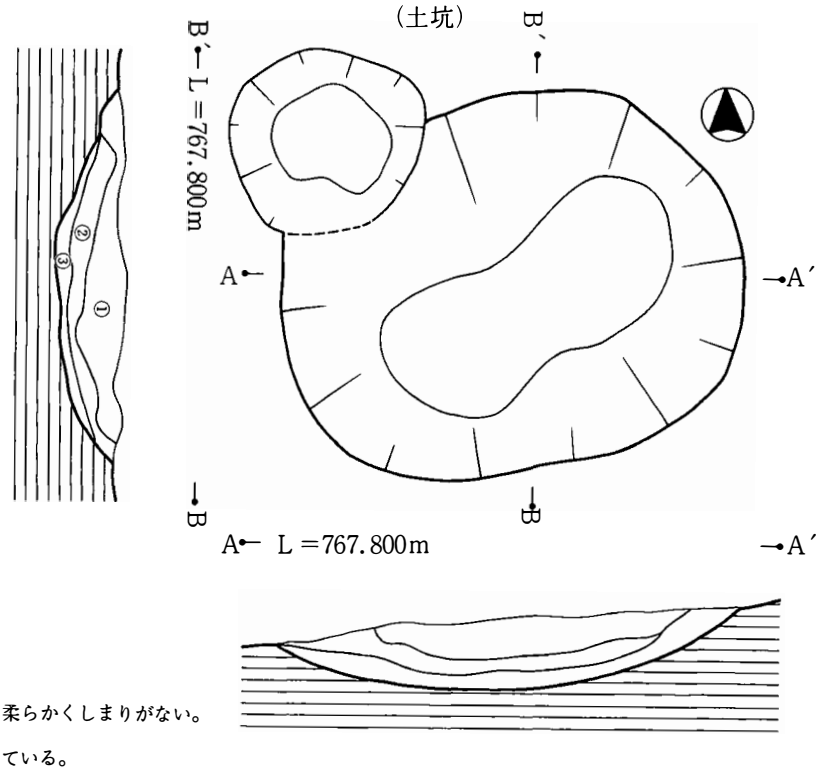
Ｃ地点では、Ⅱ層下面から集石遺構が１基検出された。Ｈ－14区で検出されたこの集石遺構は、長軸1.25ｍ×短軸1.0ｍ，深さ0.2ｍを測る楕円形の土坑を有する。この土坑の埋土は、３層に細分され遺構を構成する礫及び遺物はすべて①層に包含され、礫は平面的に配されているもののやや土坑中央に傾いた状況が観察された。礫の形状は大型で扁平であり、南東側に偏在して検出されている。礫の大半は、火熱を受けたと思われ表面が赤化している状況が観察された。また、礫を包含していた①層も焼土を多量に含む点で共通している。このように、Ａ地点で検出された同種の遺構と、検出面や構成礫の大きさ及び形状、さらに焼土層の存在等相違点が認められる。

また、土坑北西側は直径0.5ｍの土坑によって切られている。しかし、この土坑と集石遺構を構成する土坑との関連については、不明である。



第146図　Ｃ地点遺構配置図





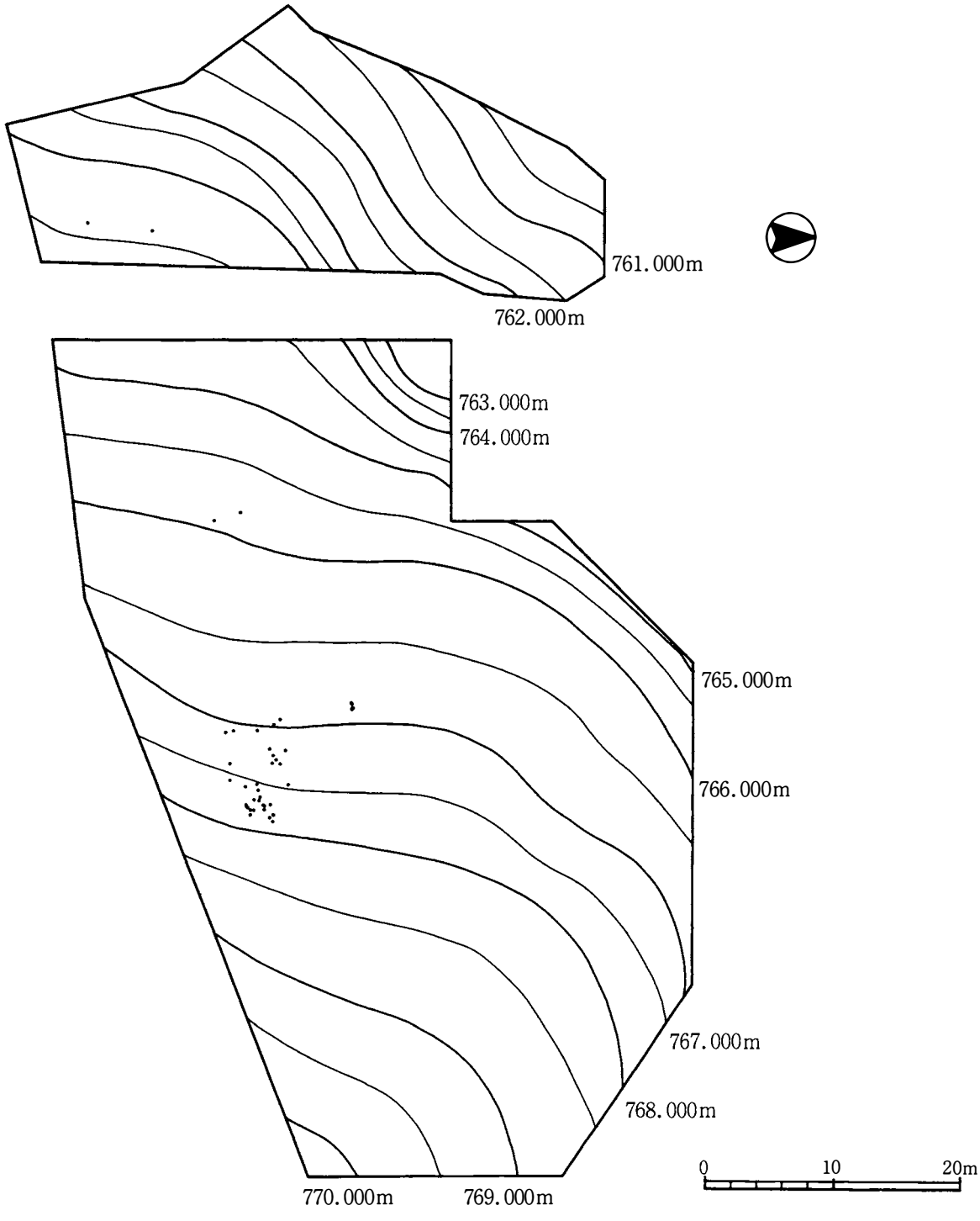
①赤色土。焼けて赤色の土。

②黒色土。Ⅲｂ層の土色と同じで、柔らかくしまりがない。

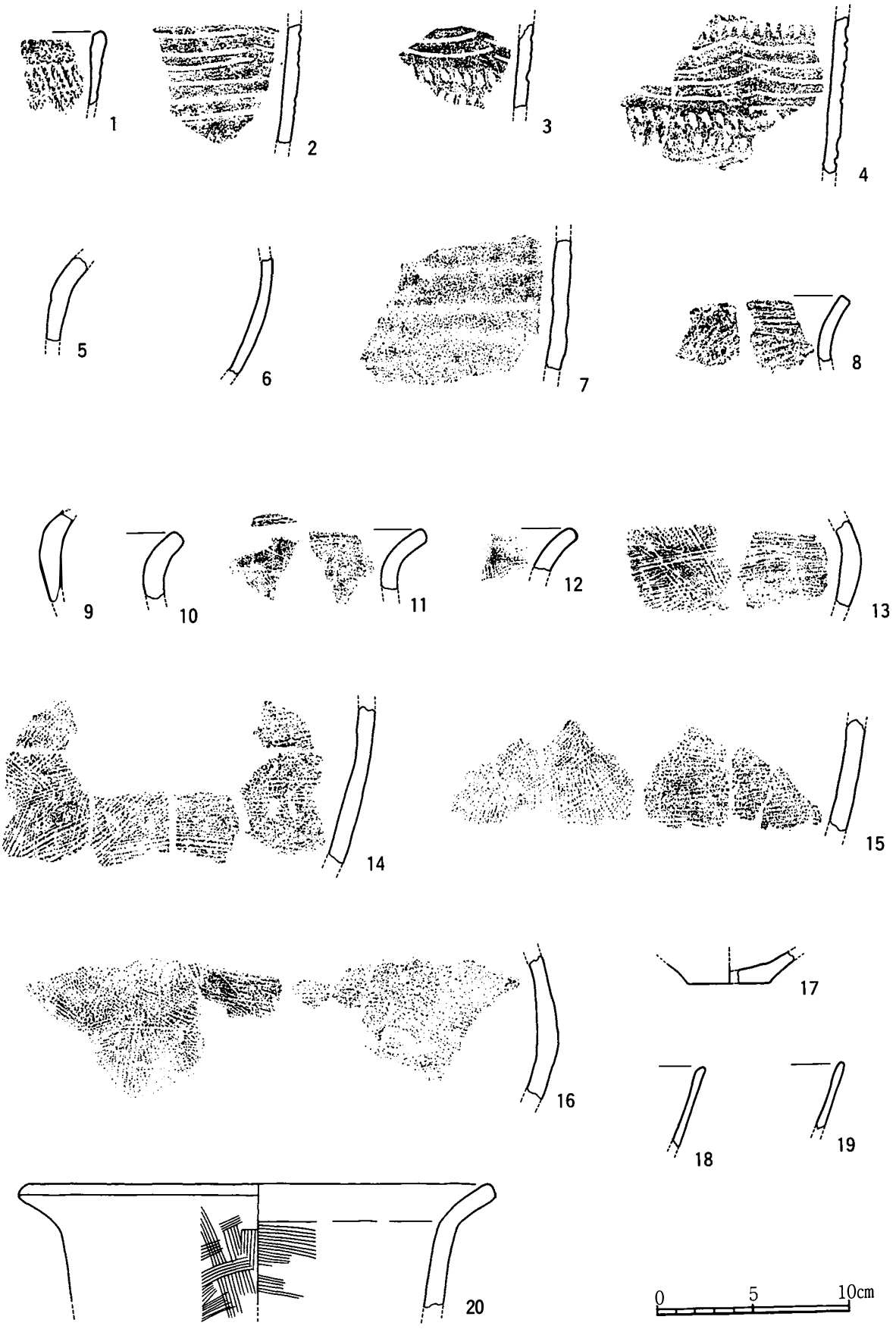
③褐色土。褐色で堅く、固くしまっている。

0　0.5　1 m

第147図　土坑実測図



第148図　遺物分布図（土器）



第149図　遺物実測図

第29表　土器観察表

図版番号	遺物番号	グリッド	層位遺構	器種	部位	現存高(cm)	器厚(cm)	色調		胎土混入物	焼成	調整・文様		備考	登録番号
								外面	内面			外面	内面		
142	1	Ⅰ－18	Ⅱ	鉢	口縁部	3.6	0.7	にぶい黄橙色	にぶい橙色	長石・石英	普通	撚糸文			C－9
142	2	F－15	Ⅱa	深鉢	胴部	6.1	0.8	灰黄色	黒褐色	砂粒・角閃石・石英	良好	沈線文	ナデ		C－1
142	3	F－15	Ⅱa	深鉢	胴部	4.2	0.7	褐灰色	にぶい黄橙色	砂粒・角閃石・石英	良好	沈線文・刺突文	ナデ		C－8
142	4	G－15	Ⅱa	深鉢	胴部	7.8	0.7	黒褐色	にぶい黄橙色	砂粒・長石・石英	良好	沈線文・刺突文	ナデ		C－170
142	5	H－14	Ⅱa	鉢	頚部	3.4	1.0	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒・角閃石・石英	良好	ナデ	ナデ		C－179
142	6	F－15	Ⅱa	鉢	胴部	5.5	0.6	灰黄褐色	にぶい黄橙色	微砂粒・雲母・長石・石英	良好	ナデ	ナデ		C－3
142	7	H－14	1号集石	鉢	胴部	6.7	0.9	にぶい褐色	にぶい褐色	砂粒・角閃石・長石	普通	ナデ	ナデ		集石1
142	8	H－14	Ⅱa	鉢	口縁部	3.2	0.7	褐色	にぶい赤褐色	砂粒・角閃石・石英	良好	ナデ・ナデ後ハケ目	ナデ		C－155
142	9	H－14	Ⅱa	鉢	頚部	3.3	1.1	にぶい褐色	にぶい褐色	砂粒・角閃石・石英・繊維	良好	ナデ	指調整後ナデ		C－194
142	10	H－14	Ⅱa	鉢	口縁部	4.2	1.1	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒・角閃石・長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		集石2
142	11	H－14	Ⅱa	鉢	口縁部	3.1	0.9	にぶい橙色	にぶい褐色	微砂粒・角閃石・石英	良好	ナデ・ナデ後ハケ目	ナデ		C－155
142	12	H－14	Ⅱa	鉢	口縁部	2.2	0.9	灰黄褐色	にぶい褐色	微砂粒・角閃石・石英	良好	ナデ・ナデ後ハケ目	ナデ		C－195
142	13	H－14	Ⅱa	鉢	胴部	4.3	1.0	にぶい褐色	にぶい褐色	砂粒・角閃石・石英	良好	ハケ目	ハケ目		C－185
142	14	H－14	Ⅱa	鉢	胴部	7.2	0.9	にぶい橙色	にぶい褐色	砂粒・角閃石	良好	ハケ目	ハケ目		C-186,190,191
142	15	H－14	Ⅱa	鉢	胴部	5.0	1.0	にぶい橙色	にぶい褐色	砂粒・角閃石	良好	ハケ目	ハケ目		C-188, 202
142	16	H－14	Ⅱa	鉢	胴部	7.3	1.1	にぶい褐色	にぶい褐色	砂粒・角閃石	良好	ハケ目	ハケ目		C-189, 253
142	17	H－14	Ⅱa	鉢	底部	1.1		にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	微砂粒・長石・角閃石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	底径4.4cm	C－227
142	18	H－14	Ⅱa	碗	口縁部	4.2	0.4	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒・角閃石・赤褐色砂粒	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		C－237
142	19	H－14	Ⅰ	碗	口縁部	3.2	0.5	にぶい黄橙色	黒色	微砂粒・角閃石・石英	良好	ヨコナデ	ミガキ		C－245
142	20	H－14	Ⅱa	鉢	口縁部	6.3		にぶい褐色・黒褐色	にぶい褐色・褐色	砂粒・角閃石	良好	ナデ・ハケ目	ハケ目	口径25.2cm	C-176,181,193,261

2　土器とその分布

C地点で検出された土器は、Ⅱ層からⅢａ層に出土層位をもつ。これらの土器は、数量的にはさほど多くない。Ⅱ層は、鬼界カルデラを噴出起源にもつアカホヤ火山灰層に比定でき、一次堆積層は部分的にわずか認められるだけで大半はより土壌化した土質を示し、層厚は薄い。そのため、同地点で検出された土器には、時期的に差違が認められるものが混在している。大きくは、縄文時代前期の曽畑式土器の一群と土師質土器の一群の２つに区分できる。両者の土器群の分布は、大まかには調査区南東側に分布域をもつ点で共通した状況を呈する。前者の土器群は、後者に比して数量的には少なく、分布は比較的まとまりが認められる。後者の分布域は広く、前者と比べて北側高所に位置する傾向が窺える。

また、両者とも接合できる資料はほとんど認められず、器形復元ができる資料は存在しない。そのため、両時期のC地点に対する利用の在り方については言及することはできない。さらに、前者の土器の特徴は、A地点で検出されたものと類似している。しかし、両地点間での接合関係は認められなかった。

以下、分類ごとに説明を行う。

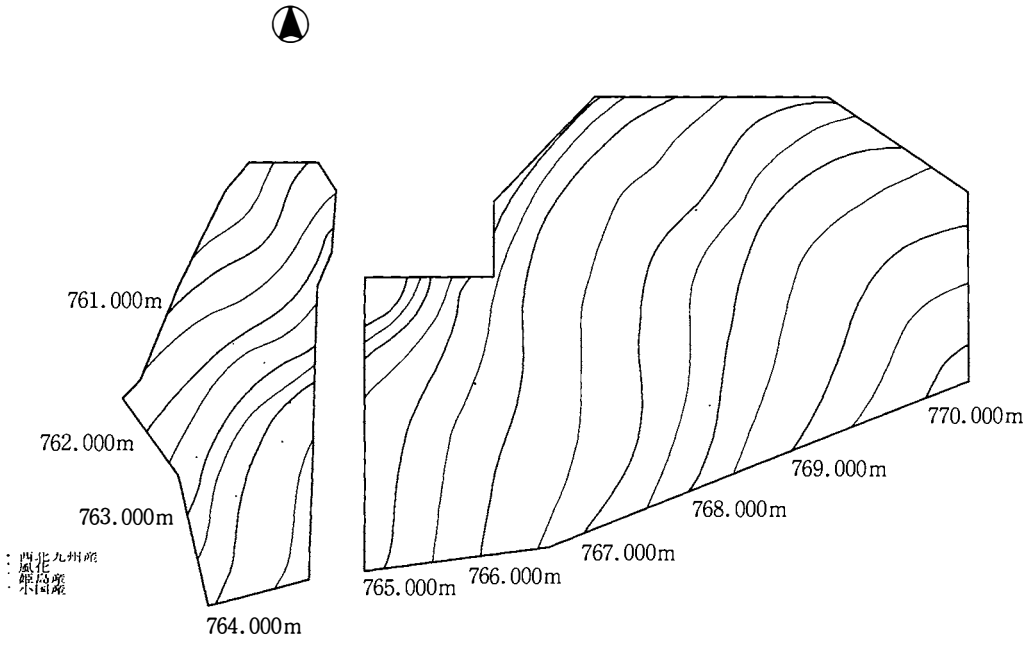
曽畑式土器（第149図２～４）

曽畑式土器に分類されるものは、数量的にはさほど多くない。また、これらの資料は胴部破片が大半であり、口縁部の形態は不明である。第149図４で確認されるように、上下に刺突連続文を施し紋様の単位を作り出している。その区画されたなかに沈線を横位に施文する。沈線は、その始点及び終点でやや上がりぎみに施され、間延びした羽状を呈する。

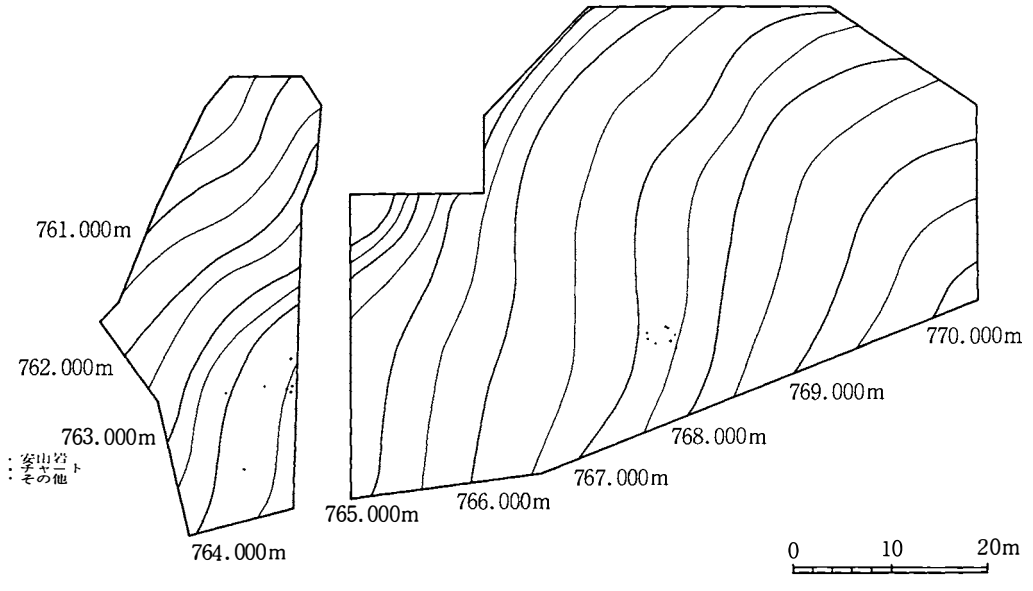
その他の土器（第149図５～20）

前述した土器型式以外で不明のものや、明らかに時期が異なる土器群を一括した。第149図８～17，20は、土師質土器で外器面の調整は刷毛目が認められる。また、第149図18，19は口縁部資料で器厚は薄い。土師質の碗である。これらの、一群は古代に所属する可能性が指摘でき、D地点においても同様のものが検出されている。

Ａ図（黒耀石類）



Ｂ図（非黒耀石類）



第150図　遺物分布図

3　石器とその分布

C地点では、Ⅱ層下面～Ⅲc層にかけて石器類が検出された。しかし、その多くはⅢa層以下に認められ、大半は剥片・砕片類である。定型的な石器類は、少なく石鏃，削器が各1点確認されたのみである。石器群の分布域は、土器と大きな違いは認められず、調査区南東側にやや偏る傾向が認められる。

第151図1は、Ⅱ層から検出された石鏃である。両側縁先端部よりに屈曲部が認められ、全体形は左右対称形をなさない。側縁部からの調整加工は屈曲部より基部側で大まかな剥離が認められ、先端部側の細かな調整加工と異なる。このことから、先端部は、再生のための調整加工が施されている可能性も考えられる。

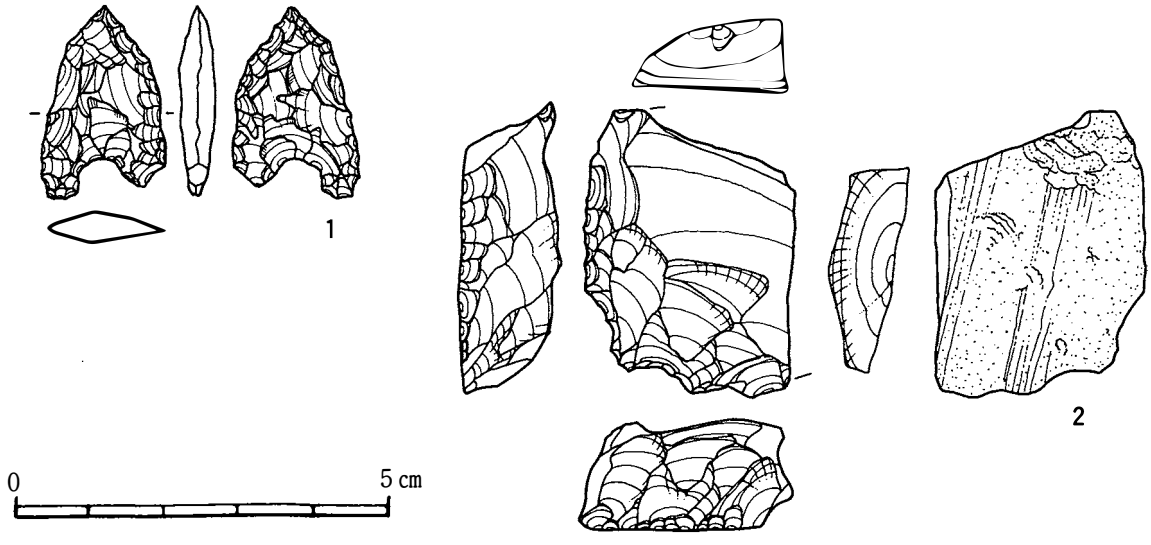
第151図2は、Ⅲc層から検出された削器である。礫面を大きく残す厚みのある幅広剥片である。左側縁部から下端部にかけて急角度の剥離によって、刃部を作り出している。

第152図3は、Ⅲc層から検出された石核である。全体形は、賽子状を呈する。剥離面の観察から、剥離面を打面とし、打面と作業面を頻繁に転移させながら剥離を行う。しかし、表面に大きく礫面が残されさほど剥離が進行せずに廃棄されたものと考えられる。

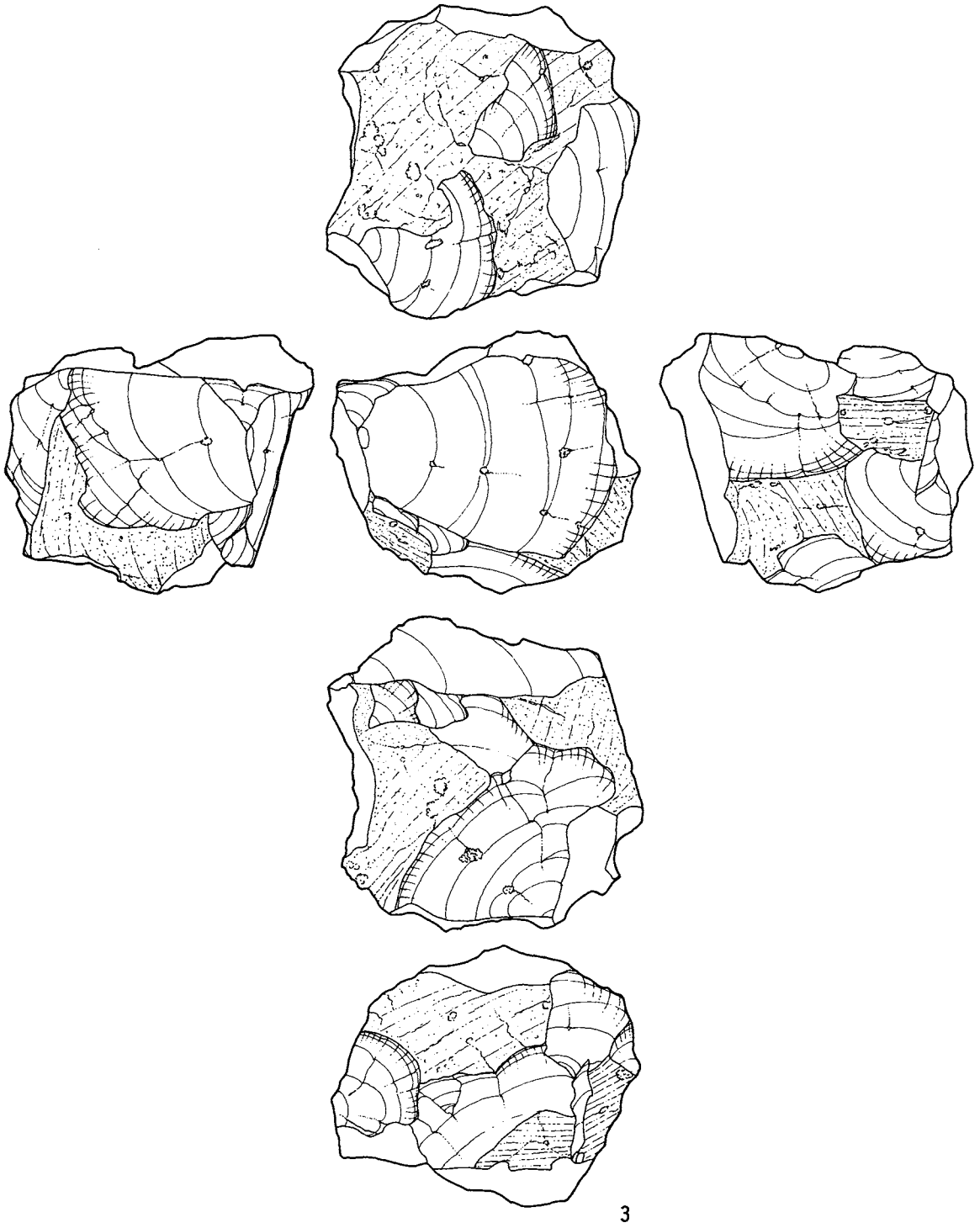
4　まとめ

C地点においてⅡ層～Ⅲc層にかけて、縄文時代及び古代に属する遺物が検出された。その内容は、数量的にも少なく不明な点が多い。検出された土器群の様相からは、縄文時代前期と古代に大きく2つの時期に区分が可能である。しかし、石器群はⅢc層から検出されたものもあり、土器の様相と若干のずれが認められる。つまり、同地点ではⅢb層から遺物の検出がほとんど認められないことから、Ⅱ層～Ⅲa層で検出された石器群と所属時期を区分する必要性が認められる。このことは、D地点Ⅲc層で検出された、槍先形尖頭器を含む石器群との関連性を考慮せざるを得ない。また、Ⅱ層～Ⅲa層にかけて検出された曽畑式土器は、刺突文を横位に連続的に施文し、紋様帯を区画している。その区画されたなかに施文される沈線文は、幾何学的な範型が崩れやや間延びした紋様構成を示している。このことは、型式学的に新相であり、滑石が混入されていない点と併せて時間的位置づけを行うにあたって重要であろう。

同地点で、検出された遺構はⅡ層下面で確認した集石遺構1基のみであり、類似する遺構はD地点に認められる。



第151図　遺物実測図



第152図　遺物実測図

第Ⅵ章　D地点の調査と成果

第1節　層位と文化層

1　層位と出土遺物

D地点は南北を小さな谷に挟まれ、西北西に張り出した舌状台地の中程に位置する。D地点は東側に幅の狭い平坦面を介してC地点と同一平坦面を形成しており、西側には開けた平坦面が広がる。

当地点の層位はⅡ層にK－Ah火山灰、Ⅴ層に姶良Tn火山灰と鍵となる火山灰層が確認されている。他地点に比べ土層の堆積が悪く、A、B地点でa，b層に分層されているⅥ層は明確に分層することができなかったため、Ⅵ層として一括して取り扱った。D地点では、Ⅱ～Ⅲc層にかけて縄文時代の文化層、Ⅳa～b層（ソフトローム）から第Ⅱ石器文化、Ⅴ～Ⅵ層から第Ⅰ石器文化の遺物が確認された。

なお、D地点は橡林となっており、縄文時代の包含層の一部は樹根による撹乱を受けていた。

2　文化層

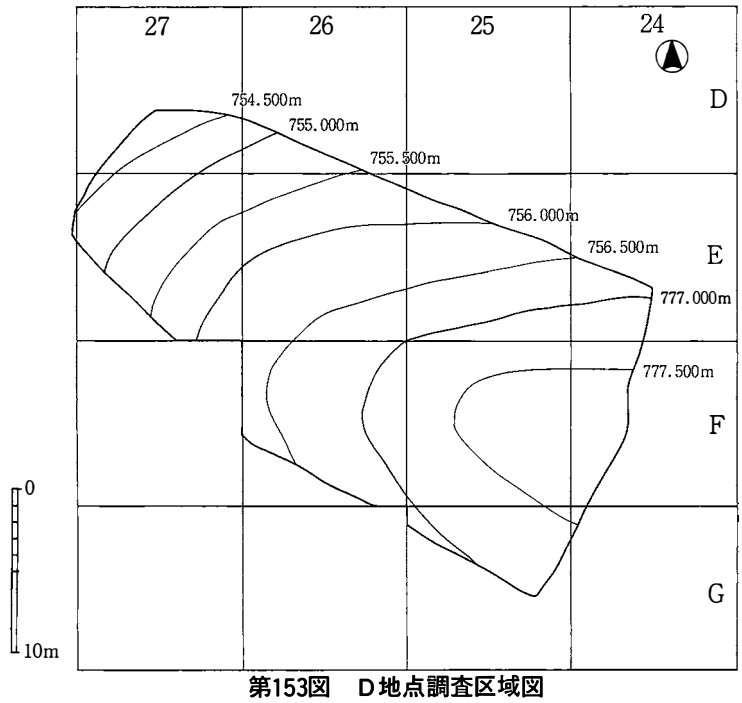
D地点では縄文時代の遺物がⅡ～Ⅲc層で検出された。遺物の大半を石器が占め，土器の出土は稀であった。遺物の時期は、Ⅱ層から晩期の突帯文土器が出土したがその数は僅少である。当該時期の遺構には、集石遺構、焼土が認められる。Ⅲa～b層からは型式分類可能な土器の出土は認められないが、石器類が出土しており、他地点との比較により早期、前期にも生活が営まれていたと思われる。またⅢc層からは槍先形尖頭器1点が出土した。

旧石器時代の遺物は、Ⅳa層以下のソフトローム及びハードロームから検出された。

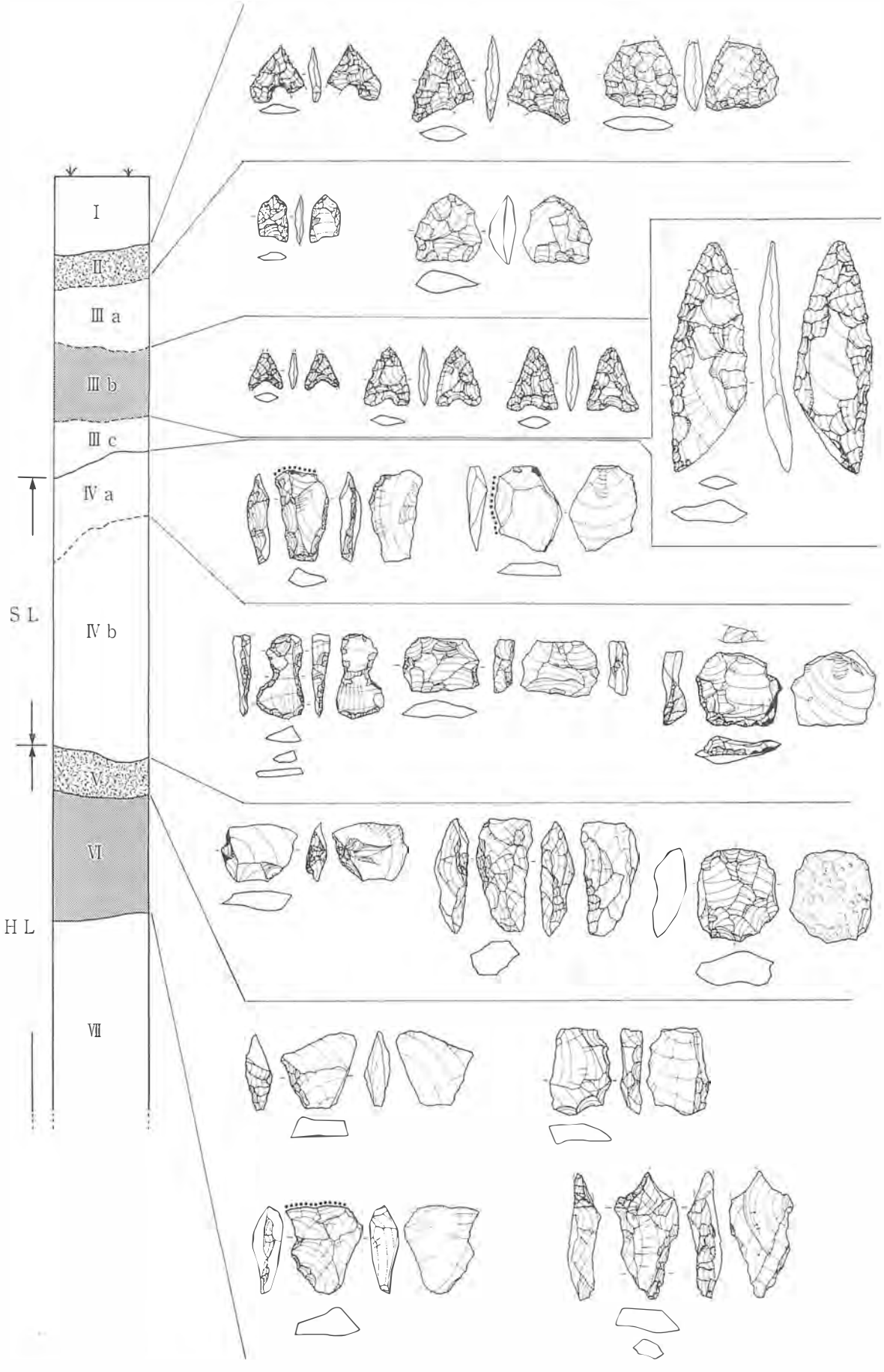
文化層は層位間の接合資料と層位別の遺物分布状況、石材利用頻度を検討することによって把握に努めた。

全時期を通じて利用頻度の高い黒耀石を岩質（原産地）別に細分し，層位ごとの利用頻度で比較した。

その結果Ⅳa～b層間で接合関係が認められ、Ⅴ～Ⅵ層間での接合関係は認められないが、石材利用頻度を見ると、Ⅳa、Ⅳb層では黒耀石C類の割合が高いのに対し、Ⅴ、Ⅵ層では黒耀石B類とC類割合が拮抗している。また層ごとの遺物平面分布では、Ⅳa～Ⅳbでは丘陵上の平坦面を中心に分布し、Ⅴ～Ⅵ層では丘陵の北側斜面を中心に分布する様相を見せた。



第153図　D地点調査区域図



第154図　Ｄ地点層位別出土遺物

以上のことから、石器文化をⅣａ～Ⅳｂ層とⅤ～Ⅵ層の２段階に設定し、下位のⅤ～Ⅵ層を第Ⅰ石器文化層、Ⅳａ～Ⅳｂを第Ⅱ石器文化層とした。

当地点は西北西に張り出す舌状台地上に位置しており、平坦面が狭く遺物が斜面に分布しているため、第Ⅰ、第Ⅱ石器文化層の遺物垂直分布図（第157図、第164図）は集中部ごとに傾斜に沿う形で作成している。

第２節　第Ⅰ石器文化層

１　文化層の概要

第Ⅰ石器文化層は、Ⅴ層～Ⅵ層中位に出土層順をもつ石器群であり、そのピークはⅥ層上位に求められる。このことから、生活面はⅥ層上位に設定することが可能であろう。しかし、組成する器種や遺物の総数が少なく，石器群の様相は不明な点が多い。また接合関係は認められなかった。

石器群は、礫群を伴わず総計77点が検出された。その組成は台形様石器・削器・二次加工ある不定形石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・砕片である。

２　分布と石材

第Ⅰ石器文化層に属する遺物の分布は、丘陵の北側斜面に散在する様相を見せる。

使用された石材は黒耀石が全体の93.5％を占める。黒耀石類は，その石質の特徴から，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｅの４類に細分できる。Ｂ類は表面が著しく風化した黒耀石であり、Ｃ類は狭雑物を多量に含む小国産黒耀石である。この黒耀石Ｂ，Ｃ類はそれぞれ全石材の40.3％、46.8％にあたり、この２種類の黒耀石で第Ⅰ石器文化層の大半を占めている。Ａ類は西北九州産の良質の黒耀石、Ｄ類は黒色～黒灰色を呈する良質の黒耀石で、表面が光沢を失ったものであり、Ａ類、Ｄ類ともに数量は少なく、それぞれ３点（3.9％）、２点（2.6％）検出されたのみである。

石材利用については、黒耀石Ｂ類が台形様石器、掻器、削器のほとんどに利用されているのに対し、おおよそ同数検出された黒耀石Ｃ類は全く利用されておらず、石材利用の偏りが認められる。

石器群はその偏在によってⅠａ～ｄのブロックに区分できる。（第155図）以下、そのブロックごとに説明を加えていきたい。

Ⅰａブロック（第156図）

丘稜の尾根上、直径５ｍの範囲に15点の石器が分布している。石器組成は二次加工ある不定形剥片１点、石核１点、剥片、砕片14点であり、石材構成は黒耀石（Ｃ類）11点、（Ａ類）３点、安山岩が１点である。

Ⅰｂブロック（第156図）

丘陵の尾根の北斜面、Ⅰａブロックの北西側にある。長軸５ｍ、短軸３ｍの範囲内に二次加工ある不定形剥片２点、使用痕ある剥片２点、石核２点、剥片、砕片４点の総計10点が散在している。石材は、黒耀石（Ｂ類）８点、（Ａ類）１点、安山岩が１点である。

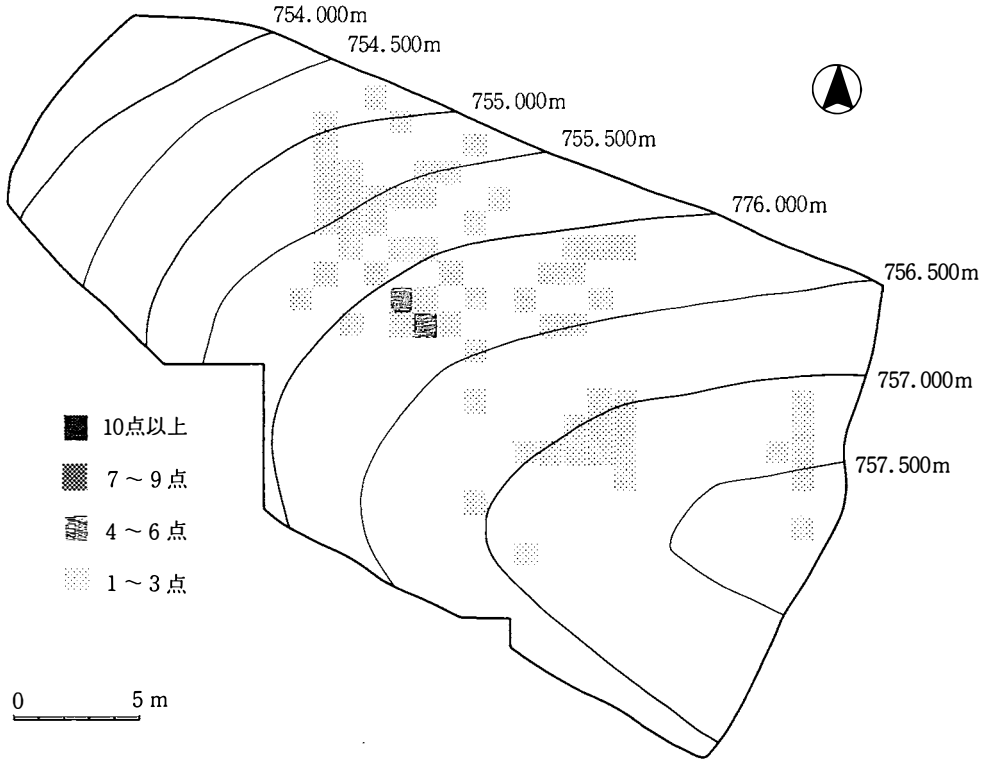
Ⅰｃブロック（第157図上）

Ⅰｂブロックの西側、長軸５ｍ、短軸3.5ｍの範囲内に15点の石器が分布している。石器組成は削器１点、石核１点、剥片、砕片13点であり、黒耀石（Ｃ類）８点、（Ｂ類）５点、安山岩２点の石材組成である。

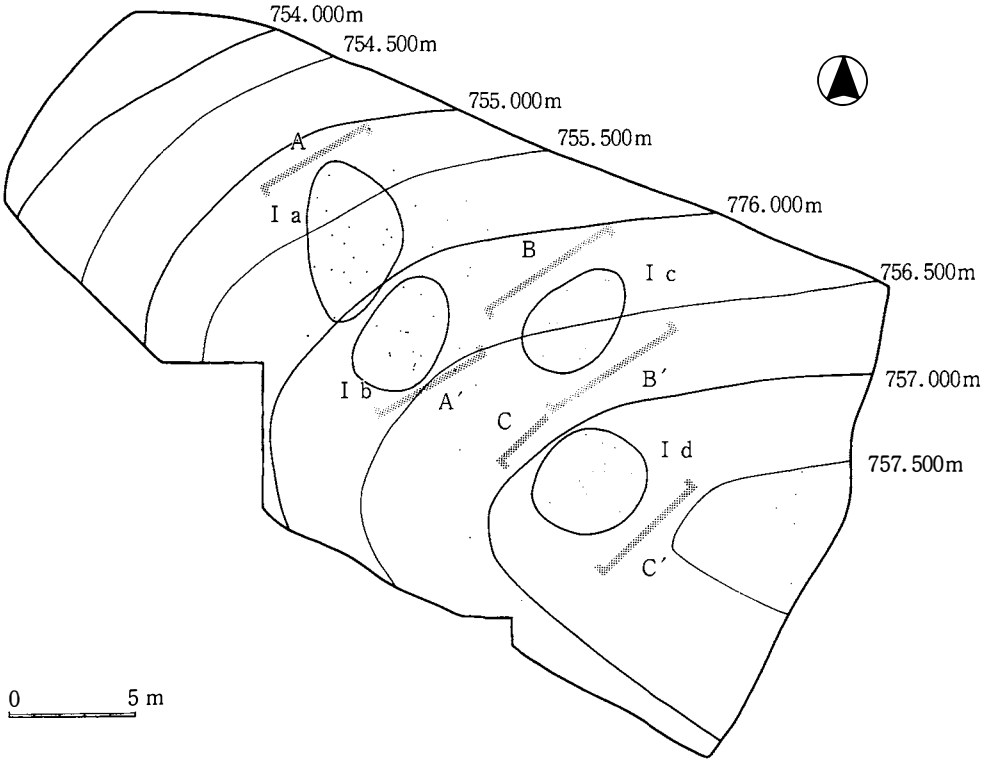
Ⅰｄブロック（第157図下）

Ⅰｃブロックの北側、長軸５ｍ、短軸４ｍの範囲内に石器が分布している。石器組成は台形様石器２点、削器１点、二次加工ある不定形剥片３点、剥片、砕片10点の計16点である。石材組成は黒耀石（Ｂ類）11点、（Ｃ類）４点である。

A図



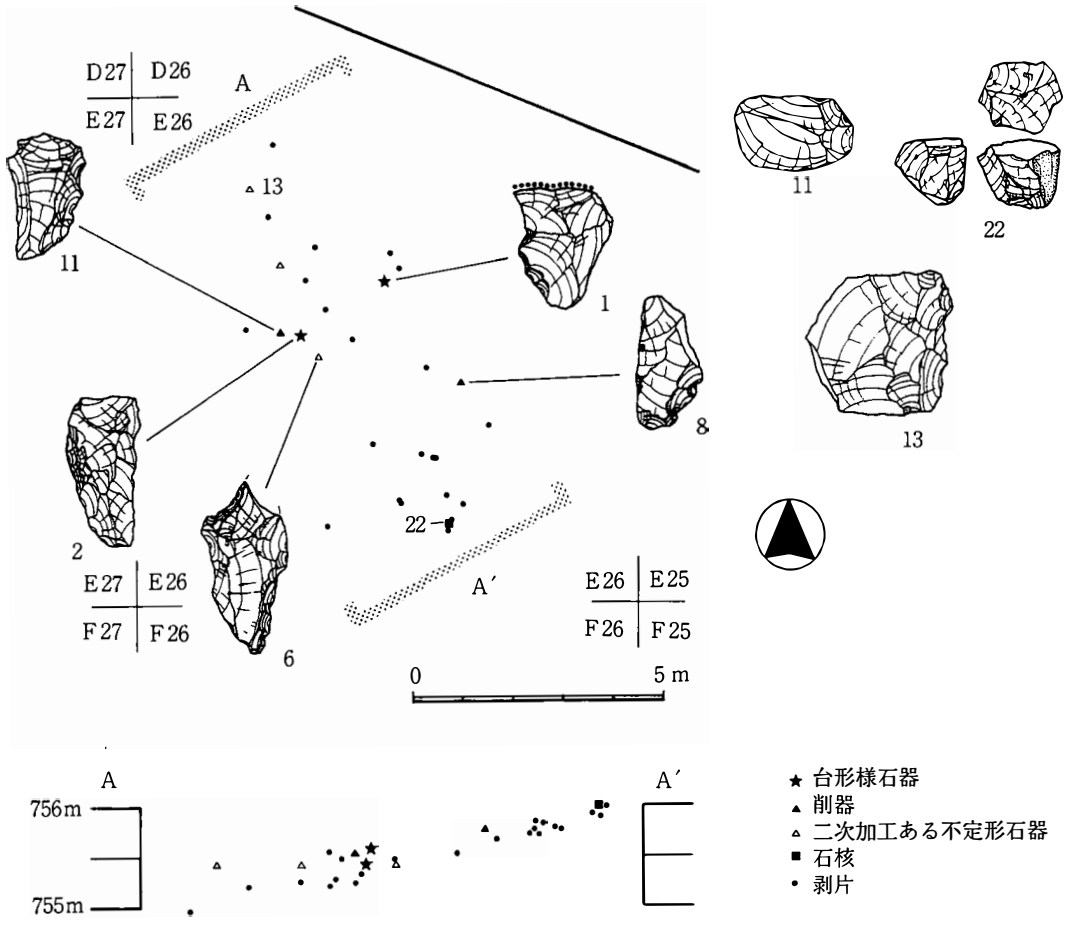
B図



第155図　遺物分布図

第30表　第Ⅰ石器文化石器組成表

器種	計（%）	黒耀石A	黒耀石B	黒耀石C	黒耀石D	安山岩	石　英
台形様石器	4(23.5)	1(25.0)	3(75.0)				
削器	5(29.4)		5(100.0)				
二次加工ある不定形石器	5(29.4)		3(60.0)	2(40.0)			
使用痕ある剥片	3(17.7)		3(100.0)				
石器総計	17(22.1)	1(5.9)	14(82.3)	2(11.8)			
石核	8(10.4)		3(37.5)	4(50.0)			1(12.5)
剥片・砕片	52(67.5)	2(3.8)	14(27.0)	31(59.6)	2(3.8)	3(5.8)	
総計	77	3(3.8)	31(39.2)	37(49.4)	2(2.5)	3(3.8)	1(1.3)



第156図　ブロックⅠa、b

３　出土石器

第１石器文化層に属する石器は、総数77点検出された。その内訳は、台形様石４点、削器５点、二次加工ある不定形石器５点、使用痕ある剥片３点、剥片、砕片52点である。

以下各器種ごとに説明を行う。

（１）台形様石器（第158図１～４）

台形様石器は、幅広あるいは横長の剥片を素材とし、素材剥片を横位に用い左右両側縁に調整加工をほどこし、概ね台形状に作り出した石器である。Ｄ地点では、台形様石器４点が出土した。石材は１～３は黒耀石Ｂ類、４が黒耀石Ａ類である。１は、幅広の剥片を素材としている。右側縁に打面を残置し、左側縁に部分的な平坦剥離を施している。刃部には細かな使用痕が認められる。２は、厚みのある横長剥片を素材とし、打面を左側縁に残置する。錯向剥離により厚みが減らされている。３は、幅広の剥片を素材としている。左側縁は腹面側からの急斜度剥離を施し、右側縁は折断加工により打面が除去されている。４は幅広の剥片を素材としている。腹面からの急斜度剥離により打面を除去しており、刃部には使用痕が確認される。

（３）削器（第159図７～10，12）

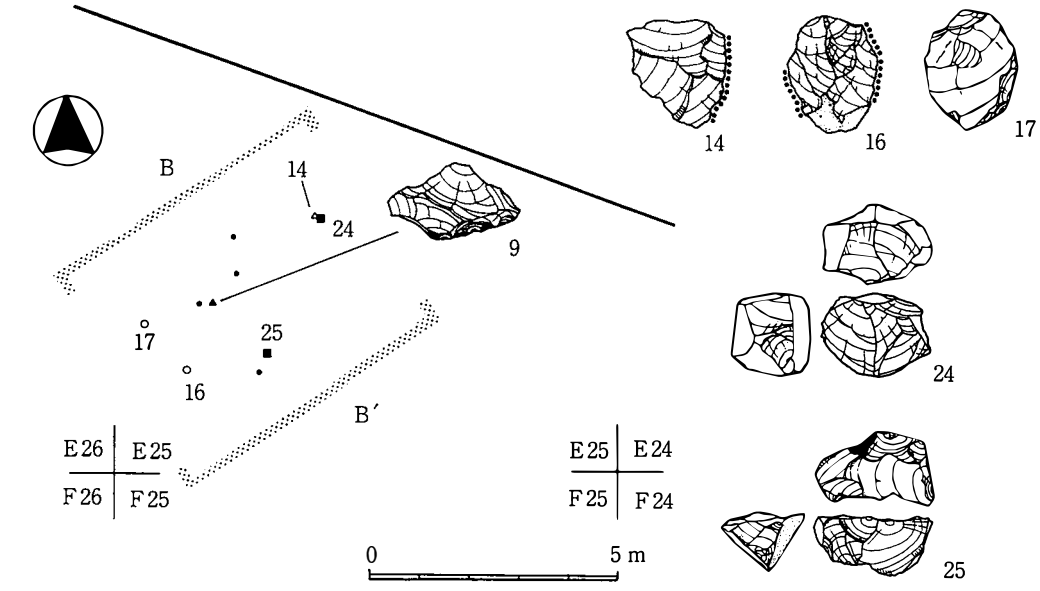
削器は５点が検出された。石材は５点とも黒耀石Ｂ類である。７は、厚手の幅広剥片を素材としている。腹面からの加工により刃部を作り出している。また、左側縁を打点部付近で切断し、その切断面に背面側より数回の剥離を施している。８は、厚みのある幅広剥片を素材としている。左側縁を大きく欠損しており全体像は明らかではないが、残存する部分をみると下縁部に腹面からの加工により刃部を作り出している。なお、下縁部には使用痕と思われる小剥離痕が認められる。９は、横長剥片を素材としている。下縁部に腹面からの加工により刃部を作り出している。10は分厚な幅広剥片を素材とし、左半分を腹面からの力により大きく欠損している。右側縁に急斜度剥離により刃部を作り出している。12は打面側を欠損しており、両側縁ともに腹面からの急斜度剥離により刃部を作り出している。

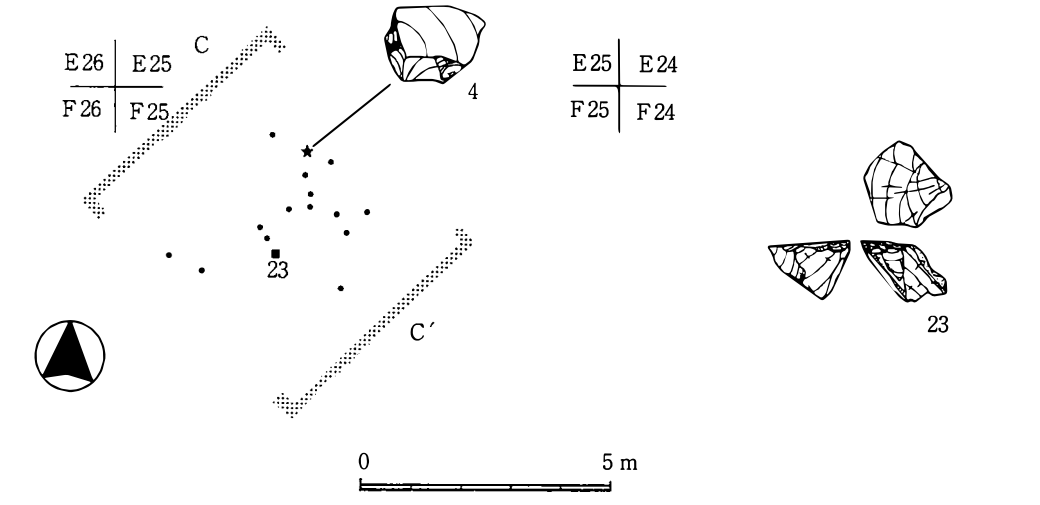
（４）二次加工ある不定形石器（第158図５，６，第159図11，13，第160図14）

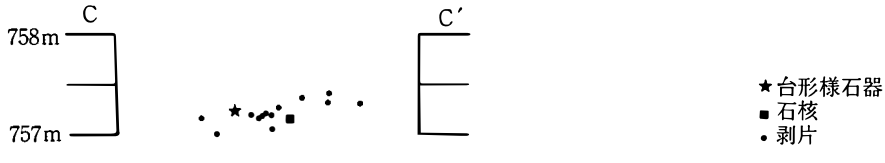
二次加工が認められる石器で、定型的な石器としての分類ができなかったものを一括してとり扱った。その石材は５、６が黒耀石Ｃ類、11、13、14が黒耀石Ｂ類である。５は欠損により石器の全体像を類推できないが、下縁部にわずかに二次加工がみられ、右側縁には使用痕が認められる。５は不定形剥片を素材とし、腹面の平坦剥離により素材剥片の厚みを減らした後、剥片の二縁辺に腹面からの急斜度剥離を施している。折れた部分に刃部を想定しナイフ形石器と分類することもできるが、ここでは二次加工ある剥片とした。11は分厚な幅広剥片を素材としている。腹面側打面部から左側縁にかけて緩斜度剥離を施した後、背面左側縁に数回の緩斜度剥離を施している。12は大型の幅広剥片を素材とし、背面右側縁に緩斜度剥離を施している。13は下端部に礫面を残す幅広剥片を素材とする。腹面左側縁に連続する緩斜度剥離が施されている。

（５）使用痕ある剥片（第160図16，17，18）

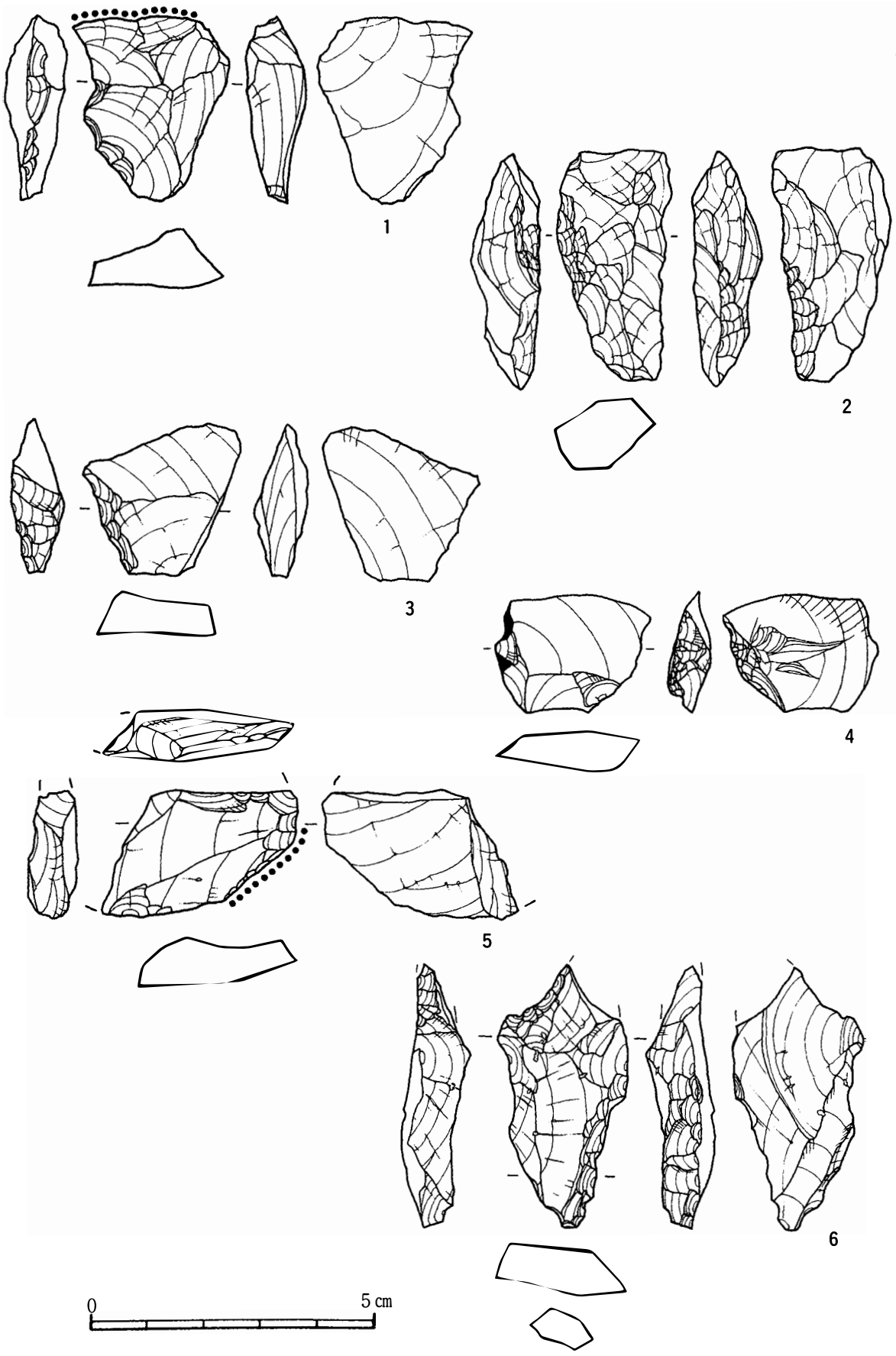
加工の認められない剥片の一部に、使用痕による刃こぼれ状の微細な剥離面が連続的に認められるものを使用痕ある剥片として分類した。その点数は３点であり、石材は３点とも黒耀石Ｂ類である。16は下端部に礫面を残す幅広剥片を素材とし、両側縁に使用痕が認められる。17は不定形剥片の右側縁に使用痕が認められる。18は、大型で厚みのある幅広剥片を素材としている。剥片下端部の一部に使用痕が確認できる。



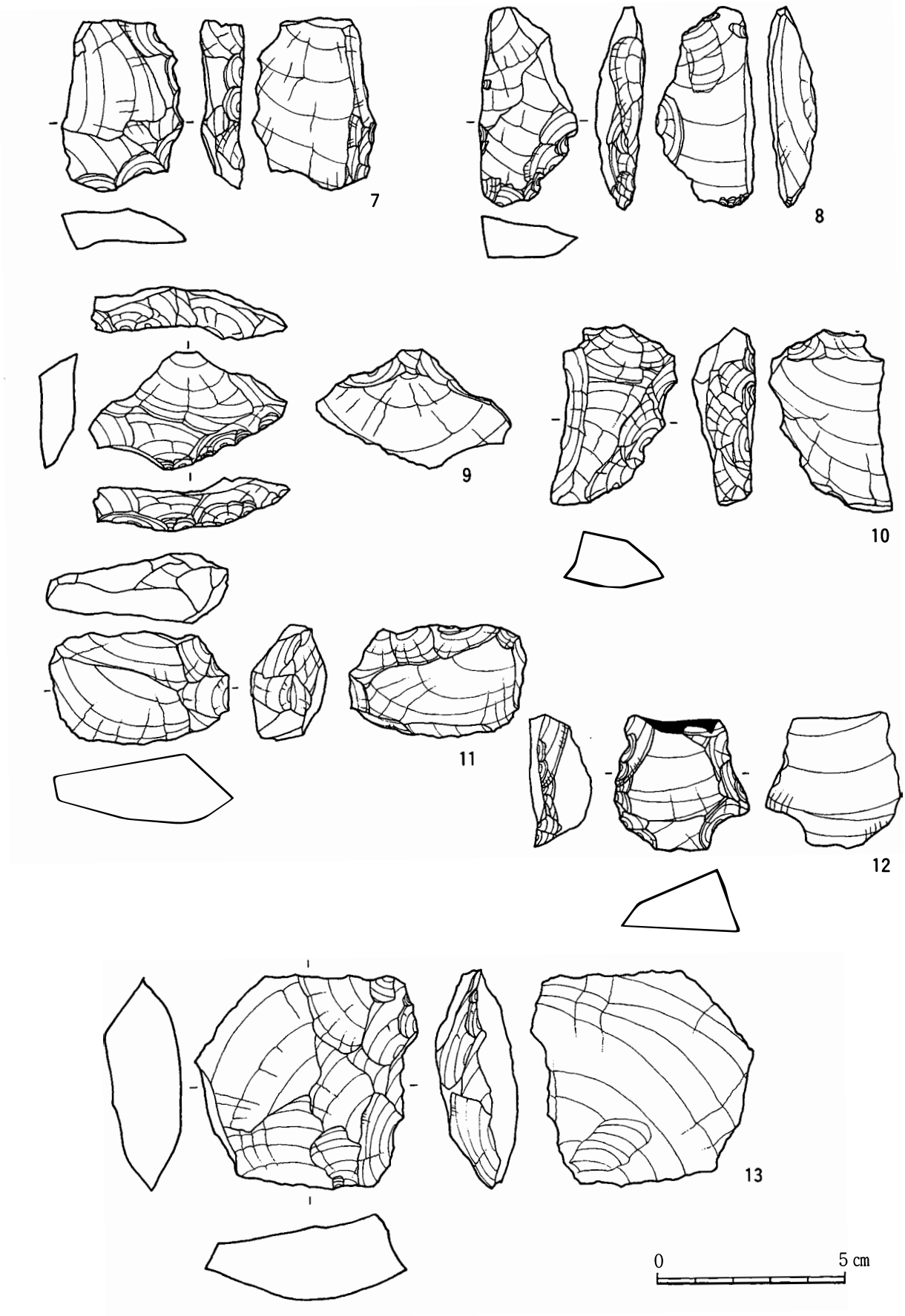




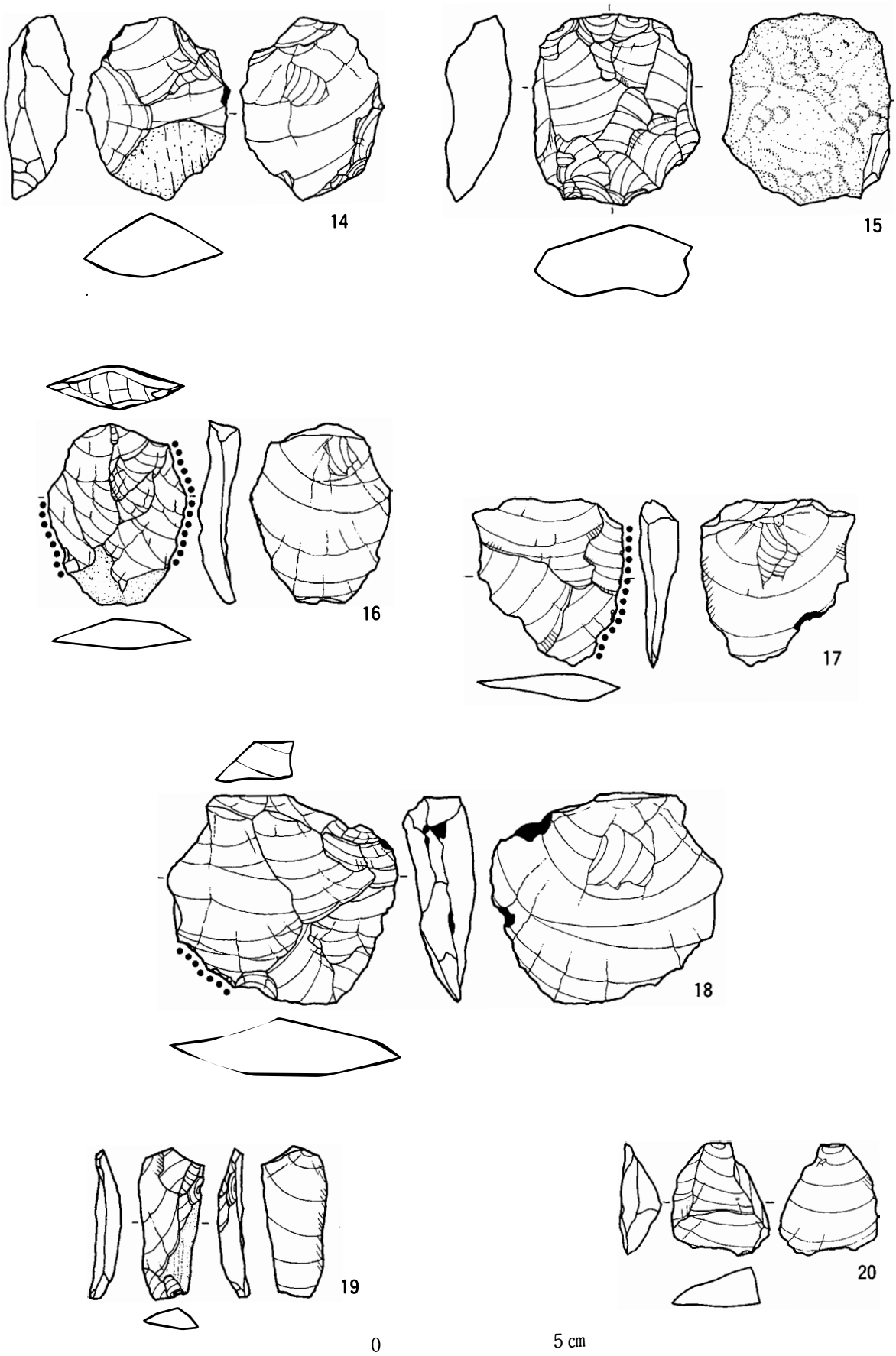
第157図　ブロックⅠc、d



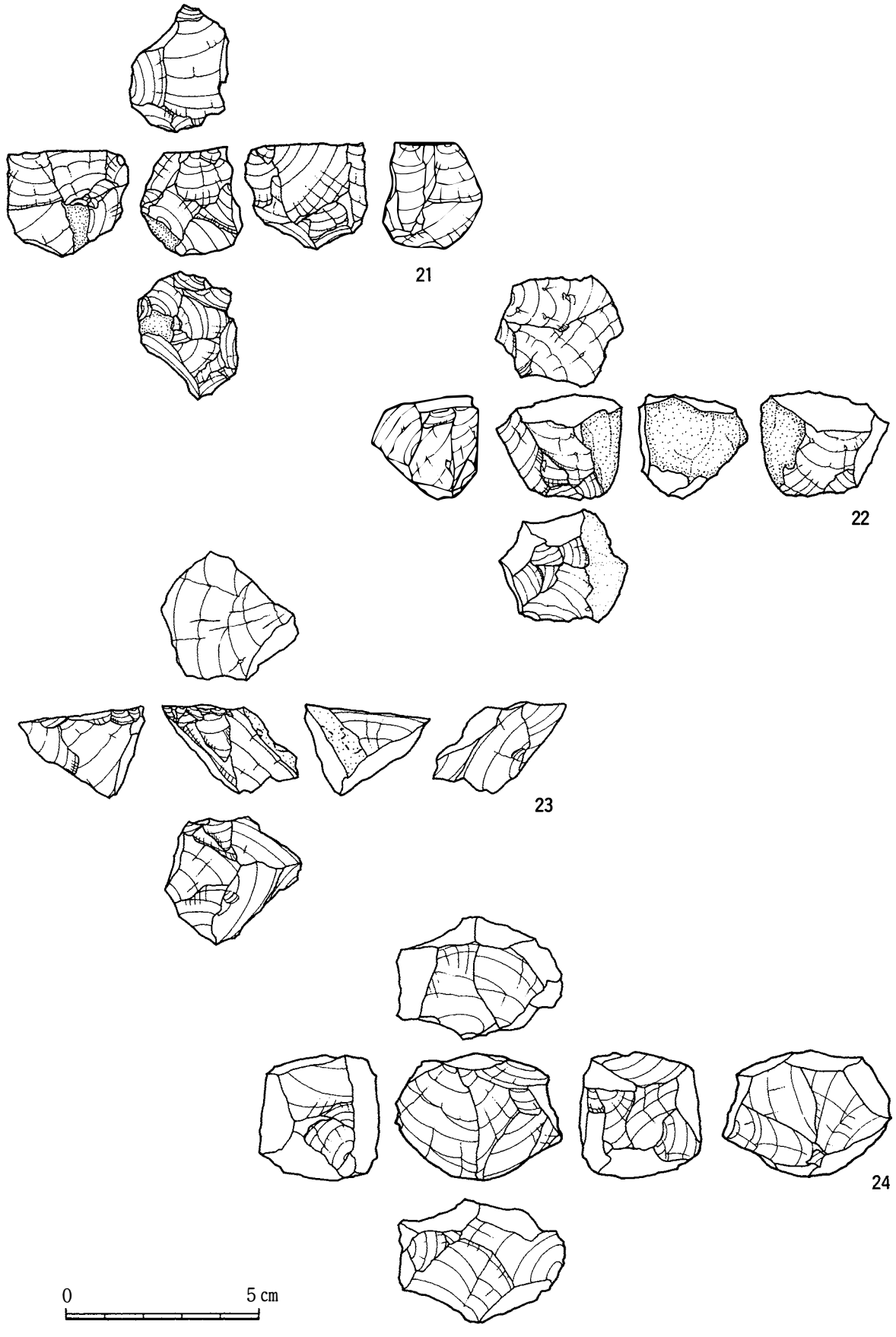
第158図　遺物実測図



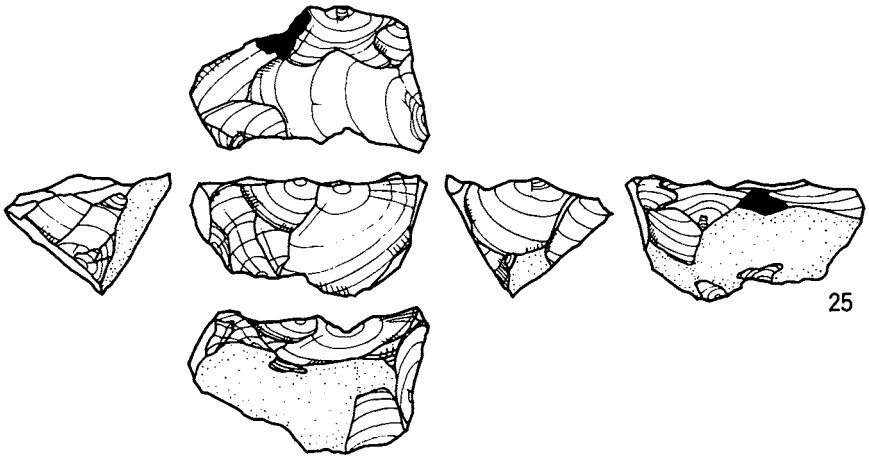
第159図　遺物実測図

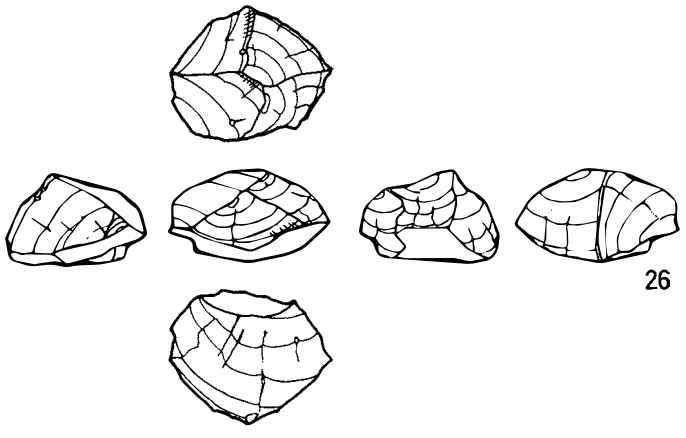


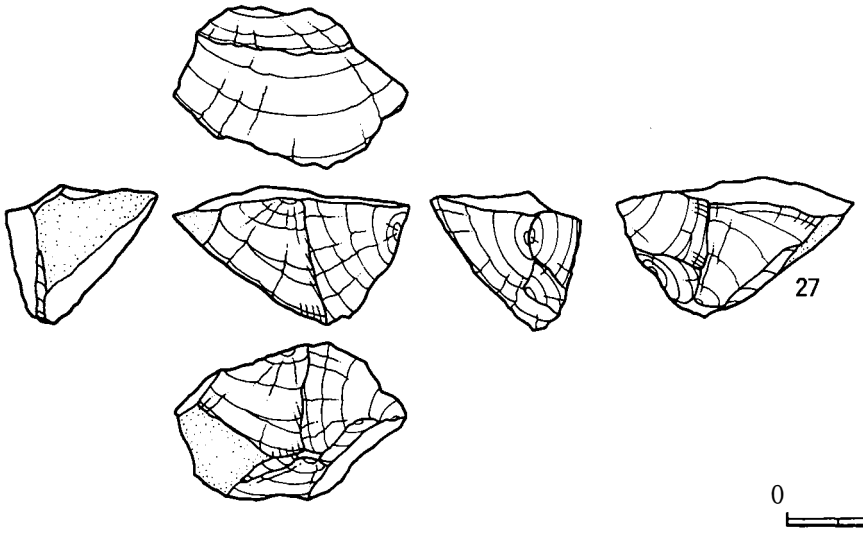
第160図　遺物実測図



第161図　遺物実測図







第162図　遺物実測図

第31表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
158－1	台形様石器	Ⅵ	黒耀石B	3.13	2.72	0.99	7.10		483
158－2	台形様石器	Ⅵ	黒耀石B	3.99	1.98	1.21	8.27		485
158－3	台形様石器	Ⅵ	黒耀石B	2.60	2.71	0.92	4.23		399
158－4	台形様石器	Ⅴ	黒耀石A	2.42	2.57	0.50	3.31		514
158－5	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石C	2.14	3.35	0.88	5.73		401
158－6	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石C	4.51	2.28	0.87	7.73		405
159－7	スクレイパー	Ⅵ	黒耀石B	4.54	3.25	1.17	18.26		400
159－8	スクレイパー	Ⅵ	黒耀石B	5.29	2.57	1.22	17.02		539
159－9	スクレイパー	Ⅵ	黒耀石B	3.13	5.30	1.39	15.89		443
159－10	スクレイパー	Ⅵ	黒耀石B	4.78	3.29	1.68	21.27		486
159－11	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石B	3.06	4.90	1.72	27.39		488
159－12	スクレイパー	Ⅴ	黒耀石B	2.32	2.41	1.12	5.37		527
159－13	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石B	3.93	3.98	1.78	20.54		487
160－14	二次加工ある不定形石器	Ⅵ	黒耀石B	4.54	3.52	1.65	24.23		448
160－15	石核	Ⅴ	黒耀石D	4.91	4.30	1.82	39.1		試掘トレンチ内
160－16	使用痕ある剥片	Ⅵ	黒耀石B	4.60	3.56	1.11	12.96		446
160－17	使用痕ある剥片	Ⅵ	黒耀石B	4.33	3.79	0.75	12.39		447
160－18	使用痕ある剥片	Ⅵ	黒耀石B	5.41	5.90	1.90	41.92		407
160－19	剥片	Ⅵ	黒耀石B	3.81	1.88	0.65	3.65		491
160－20	剥片	Ⅵ	黒耀石C	2.88	2.51	1.00	4.76		484
161－21	石核	Ⅵ	黒耀石B	2.79	2.60	3.33	23.46		406
161－22	石核	Ⅵ	黒耀石C	2.71	3.31	2.87	20.37		529
161－23	石核	Ⅵ	黒耀石C	2.31	3.43	3.35	15.89		523
161－24	石核	Ⅵ	黒耀石B	3.25	4.31	3.27	46.47		440
162－25	石核	Ⅴ	黒耀石A	2.42	4.67	2.87	20.64		342
162－26	石核	Ⅴ	黒耀石C	1.79	3.40	2.58	12.23		502
162－27	石核	Ⅵ	黒耀石B	2.65	4.72	3.11	25.94		403

（6）石核（第160図15，第161図，第162図）

石核は8点が検出された。石材は15が黒耀石D類、21，24，27が黒耀石B類、22，23，26が黒耀石C類、25が黒耀石A類である。15は、D地点東部の試掘トレンチから出土した。対向している礫面を打面とした両設打面の石核である。剥離された剥片の形状は縦長～幅広である。21は分割礫を素材とし、幅広剥片を剥離している。22は分割礫を素材とし、頻繁に打面転移を繰り返しながら剥片を剥離しているものである。剥離された剥片は幅広である。23は剥片素材のものであり、頻繁に打面を転移しながら剥離しているもので剥離された剥片は幅広である。24は打面と作業面を固定せず頻繁に打面転移を繰り返しながら不定形剥片を剥離するものであり、分割礫を素材としている。25は厚みのある剥片を素材とする。打面転移を繰り返しながら不整形の縦長または幅広の剥片を剥離している。また一面に大きく礫面を残している。26は剥片素材の石核である。頻繁に打面転移を繰り返し、幅広の剥片を剥離している。27は頻繁に打面を転移しているものであり、幅広の剥片を剥離している剥片素材の石核である。

4　本文化層の位置づけ

第Ⅰ石器文化層では、礫群などの遺構を伴わず77点の石器が検出された。この石器群はⅤ層からⅥ層中位に出土層順をもつ。またそのピークはⅥ層上部に求められ、おおよそⅤ層中に認められる姶良Ｔｎ火山灰層より下位に位置している。このことからこの石器文化は、姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の文化であると思われる。

当石器文化層の遺物は調査区東側にある平坦面から丘稜の北斜面を中心に分布している。

当石器文化層の石材組成は、黒耀石類を中心としている。

当石器文化に属する石器群の石器組成は、台形様石器、削器、二次加工ある不定形石器、使用痕ある剥片である。この石器組成の主体を占める台形様石器は、調整加工に平坦調整を施すものとともに、明確なブランティングを施すものが認められる。

当文化層は、縦長剥片を素材とするナイフ形石器は認められないが、石核（第160図15）にみられるように縦長剥片を剥離する技術は存在していたものと考えられる。また台形様石器製作においてブランティング技術が採用されていることから、おおよそ耳切遺跡Ａ地点における第Ⅱ石器文化層に近い時期、熊本県下城遺跡２石器文化に近似した時間的位置付けを行なうことが可能であろう。

第３節　第Ⅱ石器文化層

１　文化層の概要

第Ⅱ石器文化層はⅣａ～Ⅳｂ層に出土層順をもつ石器群であり、そのピークはⅣｂ層に求められる。このことから、生活面はⅣｂ層中位に設定することが可能であろう。しかし、第Ⅰ石器文化同様、組成する器種，遺物の総数が少なく、石器群の様相は不明な点が多い。

石器群は礫群を伴わず総数170点が検出された。その組成は台形様石器・抉入石器・楔形石器・削器・二次加工ある不定形石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・砕片である。

２　分布と石材

第Ⅱ石器文化層に属する遺物の分布は、西北西に延びる尾根筋を中心に分布しており、第Ⅰ石器文化層と僅かではあるがずれが認められる。

使用される石材のうち黒耀石類の割合は高く、全体の81.2％を占め、第Ⅰ石器文化と同様に主体を占める。また石質ごとの利用頻度を見てみると，黒耀石Ｂ類の利用頻度は７％と低下したのに対し､黒耀石Ｃ類は70.6％と著しく増加している。黒耀石Ａ類、黒耀石Ｅ類はそれぞれ３点（1.8％）ずつ出土した。　非黒耀石類は全体の18.8％を占め，その利用石材にはバリエイションがみられる。その内訳は石英13.5％、チャート2.9％、安山岩1.2％、流紋岩0.1％である。

石器の分布は、その偏在の傾向によってⅡａ～ｄブロックに分離できる。以下ブロックごとに説明を加えていきたい。

Ⅱａブロック（第164図上）

Ｄ地点の東端、西に延びる平坦面上にある。37点の石器が長径５ｍ、短径３ｍの範囲に分布している。石器組成は、削器１点、二次加工ある不定形石器３点、使用痕ある剥片２点、石核３点、剥片・砕片28点であり、石材構成は、黒耀石Ｃ類33点、石英６点、安山岩１点、チャート１点である。

Ⅱｂブロック（第164図上）

Ⅱａブロックの南にある、18点の石器の分布である。分布域は長径3.5m、短径2.5ｍである。石器組成は、抉入石器１点、使用痕ある剥片２点、石核３点、剥片、砕片12点で構成されている。石材は石英10点、チャート４点、黒耀石Ａ類２点、Ｃ類２点である。

Ⅱｃブロック（第164図下）

Ⅱｂブロックの西側にある。長径５ｍ、短径４ｍの範囲に掻器１点、二次加工ある不定形石器２点、使用痕ある剥片２点、剥片、砕片28点の総数33点が分布している。石材は、黒耀石Ｃ類26点、Ｂ類４点、Ａ類１点と石英が４点という組成である。

Ⅱｄブロック（第164図下）

Ⅱｃブロックの西側にあり、長径５ｍ、短径４ｍの範囲内に44点の石器が分布している。石器組成は台形様石器１点、楔形石器１点、削器１点、二次加工ある不定形石器３点、使用痕ある剥片３点、剥片、砕片35点という構成である。石材は黒耀石Ｃ類32点、Ｂ類５点、Ｄ類２点、Ａ類１点、石英２点、チャート、流紋岩がそれぞれ１点である。

3　出土石器

第Ⅱ石器文化層に属する石器は、総数170点検出された。その組成は、台形様石器１点、抉入石器１点、楔形石器１点、削器２点、二次加工ある不定形石器10点、使用痕ある剥片９点、剥片・砕片146点である。

（１）台形様石器（第165図１）

台形石器は、横長あるいは幅広の剥片を素材とし、素材剥片を横位に用い左右両側縁に調整加工を施し、概ね台形状に作り出した石器である。１は横長剥片を素材とし、鋭い縁辺を刃部とし、左側縁は腹面からの急斜度剥離により、左側縁は交互剥離により刃潰し加工を施している。刃部には使用痕が認められる。石材は黒耀石Ｂ類である。

（２）抉入石器（第165図３）

剥片の一部に、調整加工によって刃部としての抉入部が作られるもので第Ⅱ石器文化では１点のみ検出された。石材は黒耀石Ａ類である。３は縦長剥片を素材としており、剥片の中位に両側縁ともに両面加工による抉入部を作り出している。また下縁部には両面加工によるスクレイパー刃部が作り出されている。

（３）楔形石器（第165図４）

楔形石器は、対向する両側に小剥離痕あるいは微細剥離が断続的に認められるものである。第Ⅱ石器文化では第165図４の１点のみ検出された。石材は黒耀石Ｄ類である。表裏両面ともに単軸方向に両端からの平坦剥離が施されており、長軸の両端に数枚の微小剥離痕が観察される。

（４）削器（第165図２，５）

削器に分類できるものは２点検出された。その石材は２点とも黒耀石Ｃ類である。２は幅広剥片を素材とする。左側縁から下縁にかけて腹面からの調整により刃部が作出されている。５の素材剥片は大型で厚手の不定形剥片であり、背面に大きく礫面を残している。右側縁から下縁にかけて腹面からの調整により刃部が作り出されている。

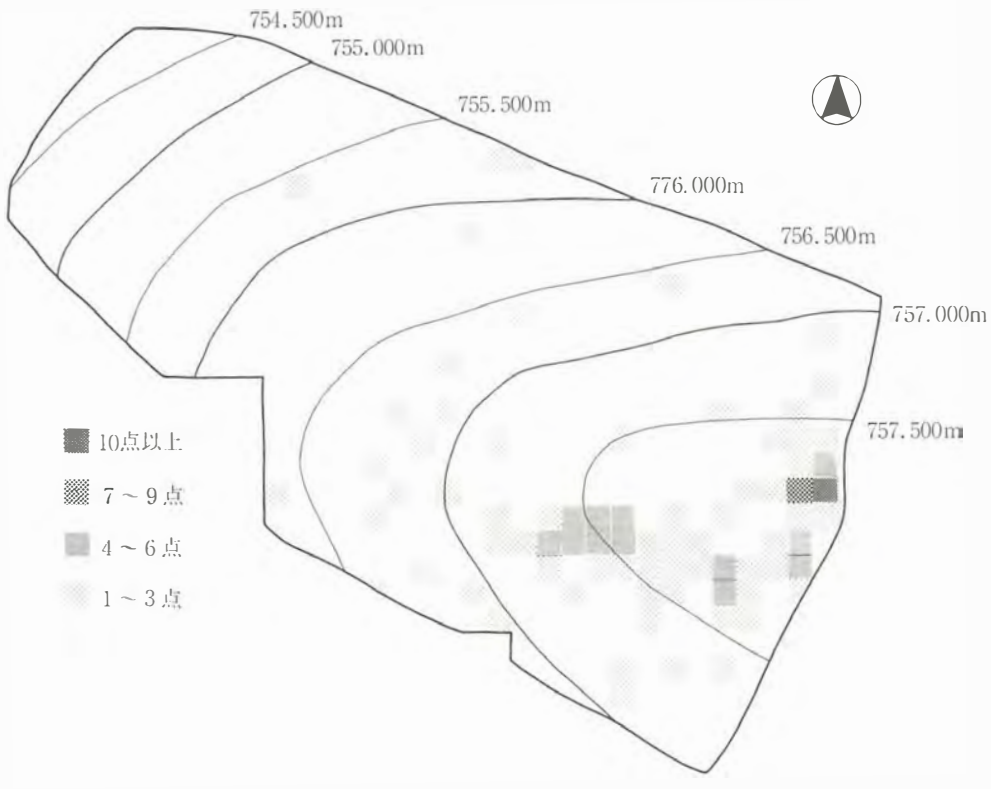
（５）二次加工ある不定形石器（第165図６，７，第166図８）

二次加工認められる石器で、定型的な石器としての分類ができなかったものを一括して取り扱った。石材は４が黒耀石Ｄ類、６，７，が黒耀石Ｃ類、８が黒耀石Ａ類である。６は大型の不定形剥片を素材としている。腹面への数回の平坦剥離によりバルブカットをおこなった後、背面側に大まかな調整を加えている。なお左側縁には使用痕が認められる。７は大型の不定形剥片を素材としている。腹面に左側縁から大きめの剥離を施した後、打面よりバルブカットを意識した平坦剥離が施されている。８は不定形の剥片を素材とし、側縁部に２度の加工を施している。

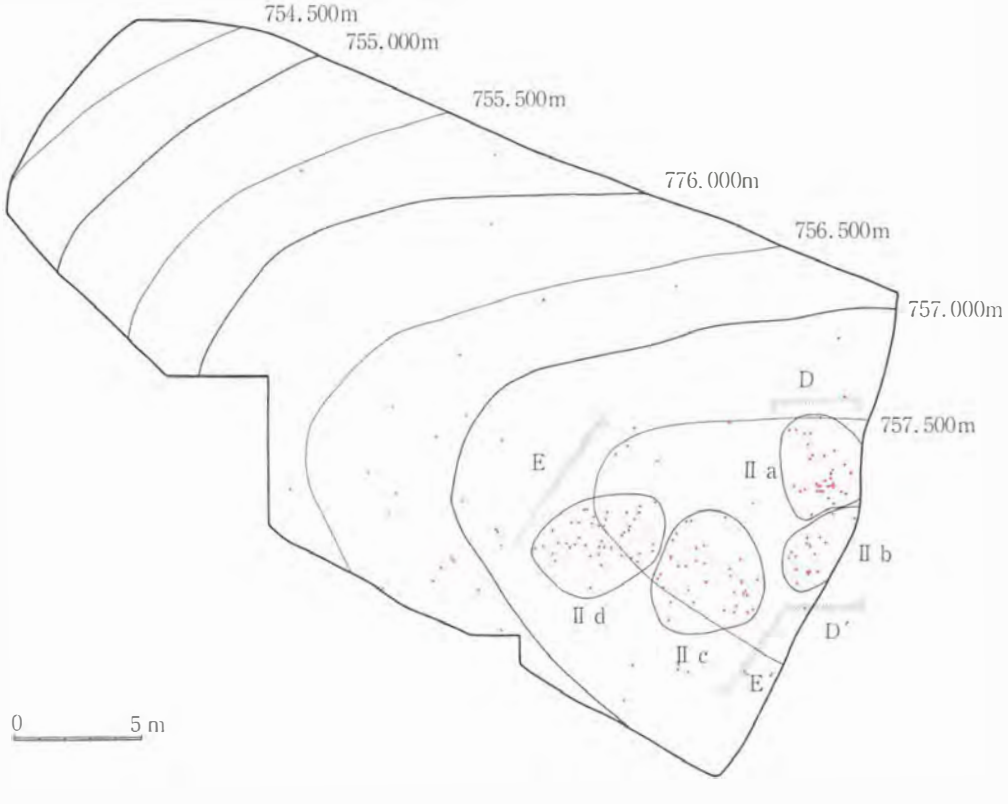
（６）使用痕ある剥片（第166図９～15）

加工の認められない剥片の一部に、使用による刃こぼれ状の微細剥離が連続的にみられるものを使用痕ある剥片として分類した。石材は、９，10，12，13が黒耀石Ｃ類、11が流紋岩、15が黒耀石Ａである。これらの資料は、使用痕が剥片の側縁部に認められるもの（９，10，12，13，14）と、側縁部と先端部に認められるもの（15）と，厚手で背面の中央に稜をもつ縦長剥片の稜上に認められるもの（11）がある。（13，15）には礫面を残す縁辺にも使用痕が認められる。

A図



B図



第163図　遺物分布図

第32表　第Ⅱ石器文化石器組成表

器　　種	計（%）	黒耀石A	黒耀石B	黒耀石C	黒耀石D	チャート	安山岩	流紋岩	石　英	不　明
台形様石器	1(4.2)			1(100.0)						
抉入石器	1(4.2)	1(100.0)								
楔形石器	1(4.2)				1(100.0)					
削器	2(8.3)			2(100.0)						
二次加工ある不定形石器	10(41.6)		1(10.0)	9(90.0)						
使用痕ある剥片	9(37.5)	1(11.0)		5(56.0)	1(11.0)			1(11.0)		1(11.0)
石器総計	24(14.1)	2(8.3)	1(4.2)	17(70.8)	2(8.3)			1(4.2)		1(4.2)
剥片・砕片	139(81.8)		11(7.9)	100(72.0)	1(0.7)	5(3.6)	2(1.4)	1(0.7)	16(11.5)	3(2.2)
石核	7(4.1)			2(28.6)					4(57.1)	1(14.3)
総計	170	2(1.2)	12(7.0)	119(70.0)	3(1.8)	5(2.9)	2(1.2)	2(1.2)	20(11.8)	5(2.9)

（7）石核

第Ⅱ石器文化層に所属する石核は6点が検出された。そのうち1点のみを図示した。18は分割礫を素材とし、打面を石核の縁辺に沿って移動し、求心状に剥離作業を行なっていくものである。片面は全周から剥片剥離作業が行なわれているが、もう一面は数回の剥離が行なわれたのみで大きく礫面を残している。剥離された剥片は横長～幅広である。

4　接合資料

第Ⅰ石器文化に属する接合資料は、個体別資料は5例を確認した。その石材は黒耀石B類1例、黒耀石C類2例、石英2例、である。このうち黒耀石C類の接合資料2例（第170図）は同一の剥片の折れ面での接合例であり、石英の接合資料2例（第169図）は石核と剥片の接合例である。これらのうち、個体1～4の4例について図示した。

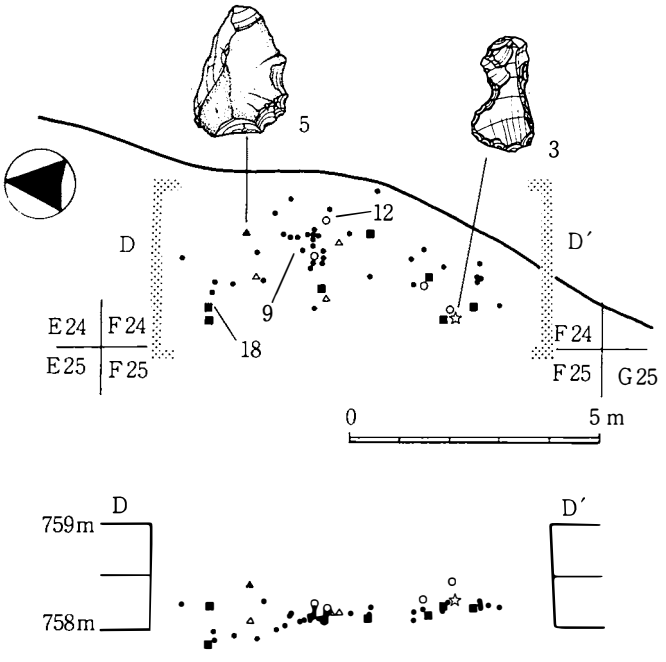
以下、接合資料ごとに説明を行う。

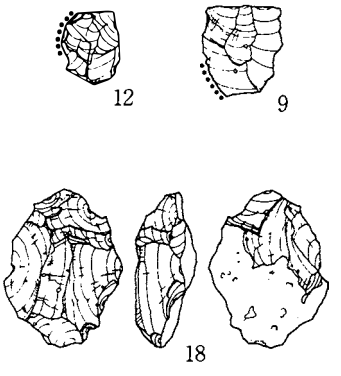
個体1　（第169図上）

個体1は石核（1b）から幅広剥片（1a）を剥離している。1bの打面は頻繁に転移しており、その結果形態的には多面体を呈す。1面に大きく礫面を残す。

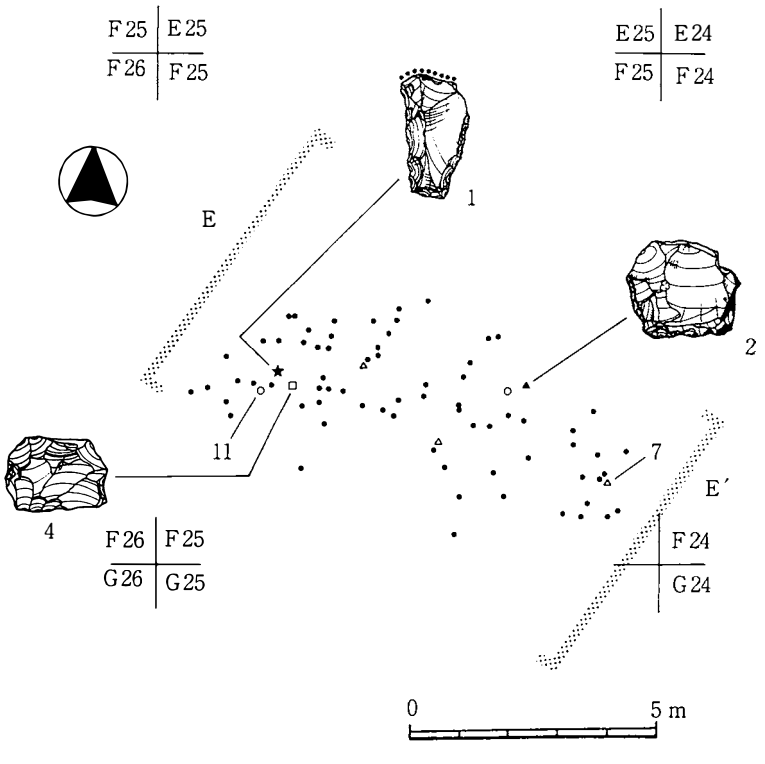
個体2　（第169図下）

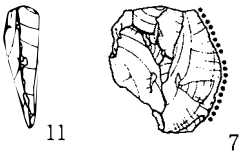
個体2は石核（2b）から不定形剥片（2a）を剥離している。2bの打面は頻繁に転移しており、その結果形態的には多面体を呈す。

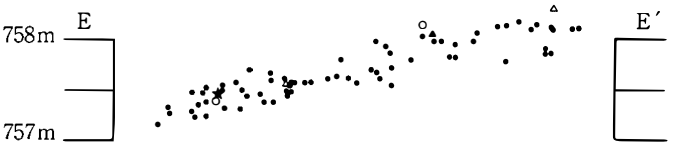




☆ 抉入石器
▲ 掻器、削器
△ 二次加工ある不定形石器
○ 使用痕ある剥片
■ 石核
• 剥片

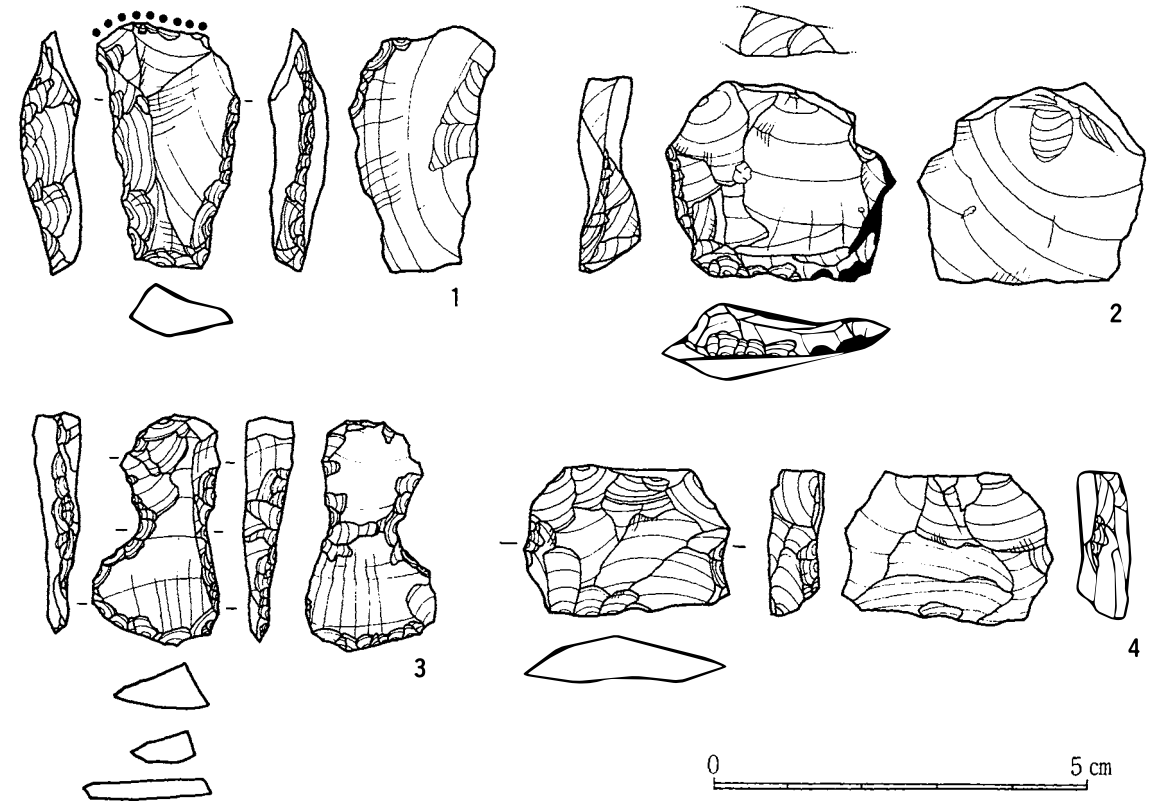


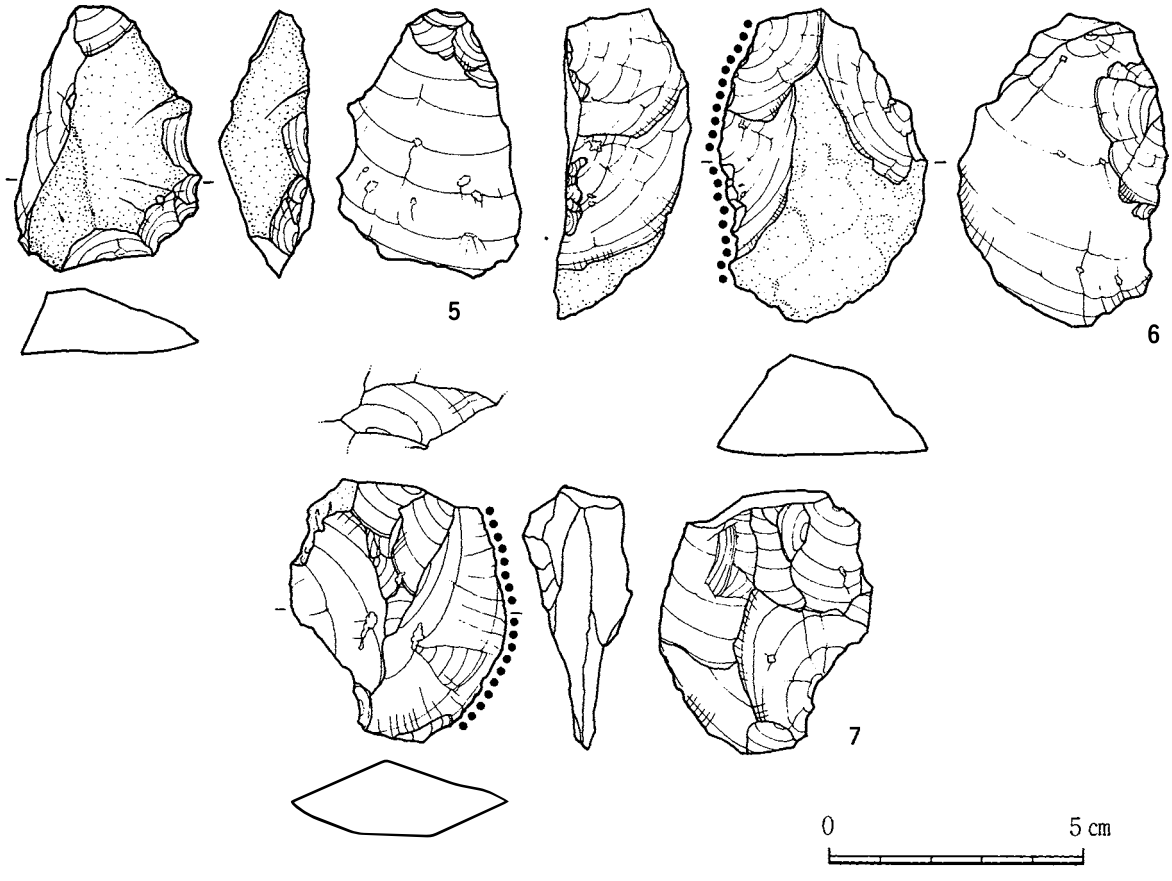




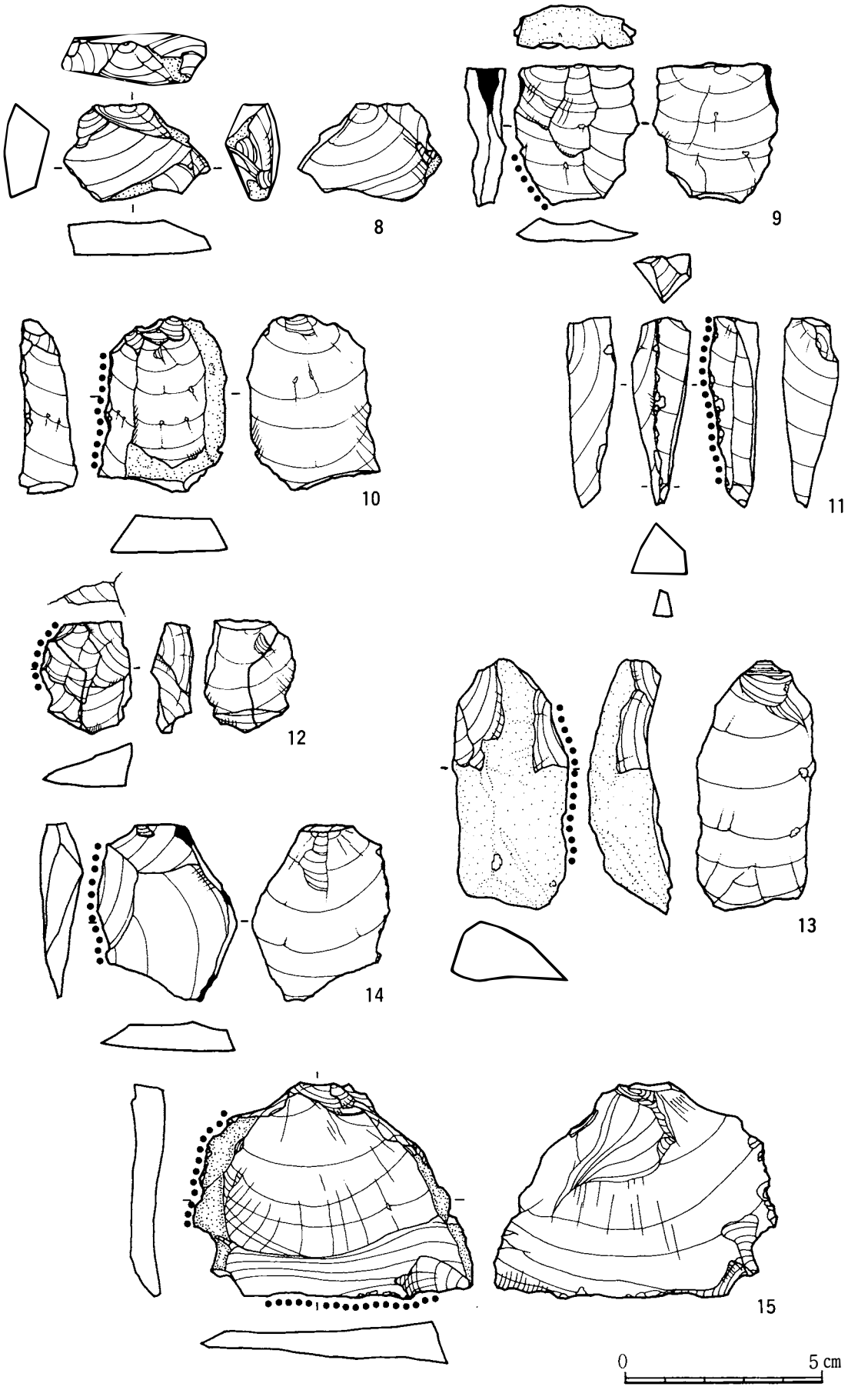
★ 台形様石器
□ 楔形
▲ 掻器、削器
△ 二次加工ある不定形石器
○ 使用痕ある剥片
• 剥片

第164図　ブロックⅡａ～ｄ





第165図　遺物実測図



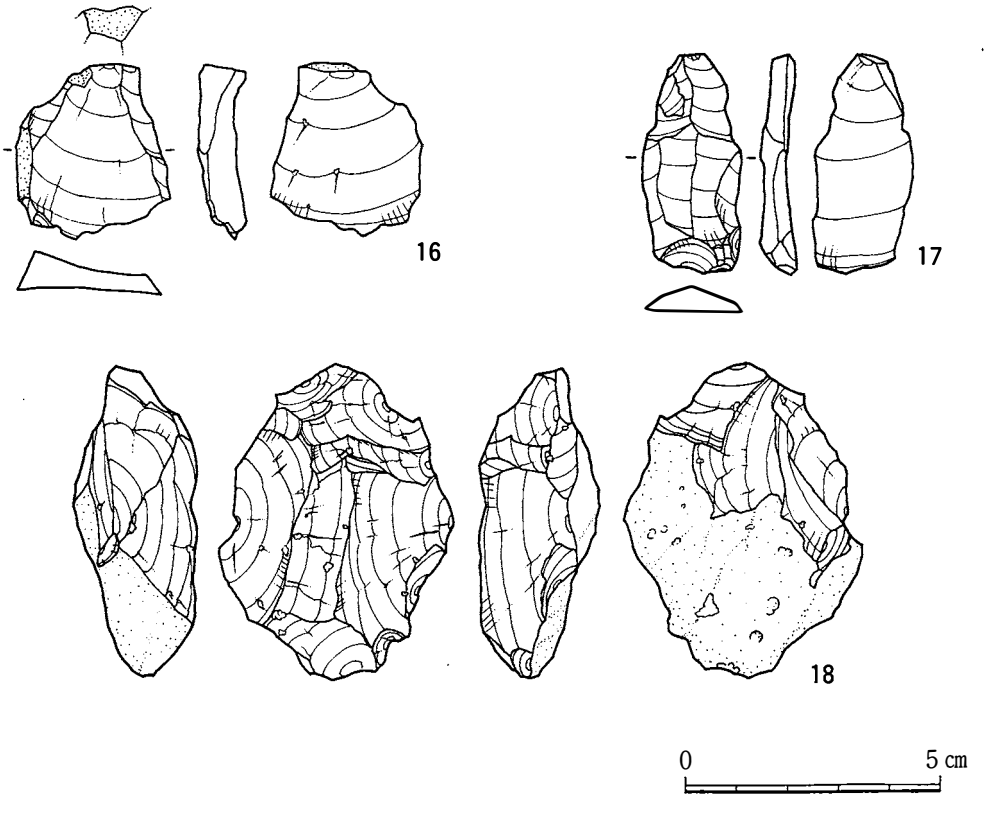
第166図　遺物実測図

第33表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
165－1	台形様石器	Ⅳb	黒耀石B	3.22	1.91	0.89	3.95		382
165－2	スクレイパー	Ⅳb	黒耀石C	2.58	3.01	0.89	4.59		312
165－3	抉入石器	Ⅳa	黒耀石A	3.00	1.13	0.68	2.11		408
165－4	楔形石器	Ⅳb	黒耀石D	2.00	2.76	0.72	3.30		381
165－5	スクレイパー	Ⅳb	黒耀石C	5.28	3.67	1.80	25.65		436
165－6	二次加工ある不定形石器	Ⅳb	黒耀石C	6.22	4.19	2.65	51.81		326
165－7	二次加工ある不定形石器	Ⅳb	黒耀石C	5.18	4.31	1.71	28.76		345
166－8	二次加工ある不定形石器	Ⅳb	黒耀石A	2.44	3.67	0.98	10.66		341
166－9	使用痕ある剥片	Ⅳb	黒耀石C	3.56	3.20	0.82	10.90		425
166－10	使用痕ある剥片	Ⅳb	黒耀石C	4.40	3.12	1.40	19.66		506
166－11	使用痕ある剥片	Ⅳb	流紋岩	4.83	1.51	1.18	7.93		315
166－12	使用痕ある剥片	Ⅳb	黒耀石C	2.87	2.32	1.09	6.32		428
166－13	使用痕ある剥片	Ⅳb	黒耀石C	6.39	3.09	2.02	31.00		413
166－14	使用痕ある剥片	Ⅳa	不明	4.43	3.57	0.90	14.43		277
166－15	使用痕ある剥片	Ⅳb	黒耀石A	5.58	7.24	0.92	46.10		415
167－16	剥片	Ⅳb	黒耀石C	3.41	3.04	1.11	6.67		438
167－17	剥片	Ⅳb	流紋岩	4.29	1.93	0.72	4.09		304
167－18	石核	Ⅳb	黒耀石C	6.15	4.69	2.43	51.15		462

個体3　（第170図）

個体3は黒耀石C類の幅広剥片が打点部付近で折れている。接合面の観察からこの折れ面は表面側からの力が伝わったこと示している。また、折れた後に施されたと考えられる剥離面は存在せず、この折れが意図的な折断によるものかどうかは不明である。



第167図　遺物実測図

個体４　（第170図）

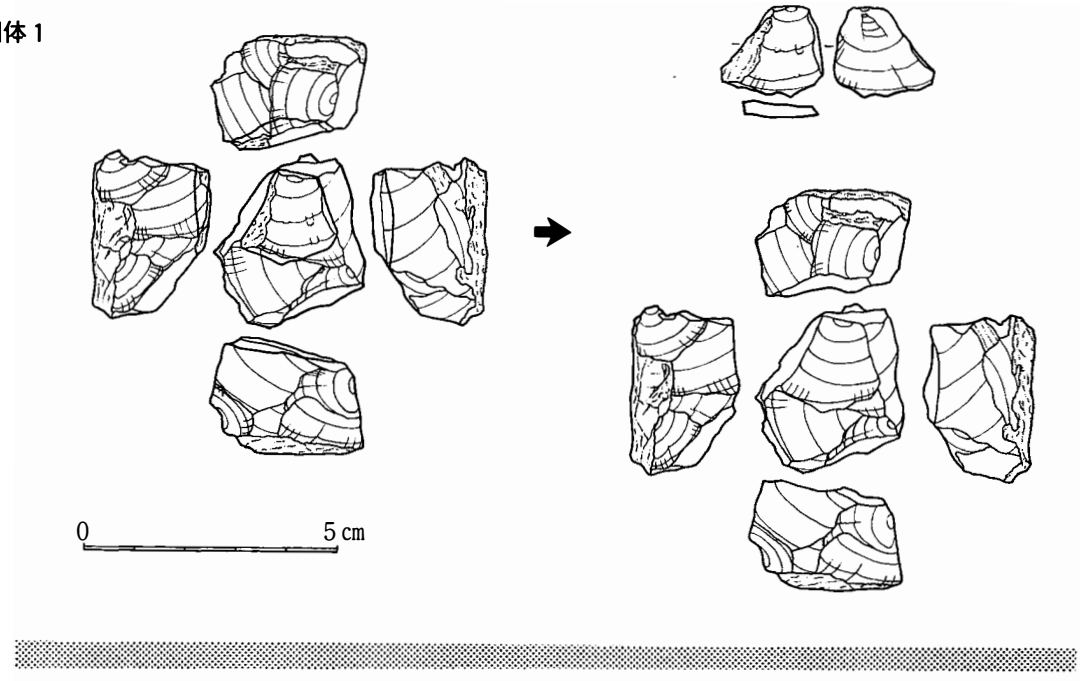
個体４は黒耀石Ｃ類の不定形剥片が折れたものである。接合面をみると、この剥片が背面側からの力により折れたものだと分かる。またｂは剥片の右半分を失っている。これはａとｂが折れた際にはじけたものと考えられる。

５　まとめ

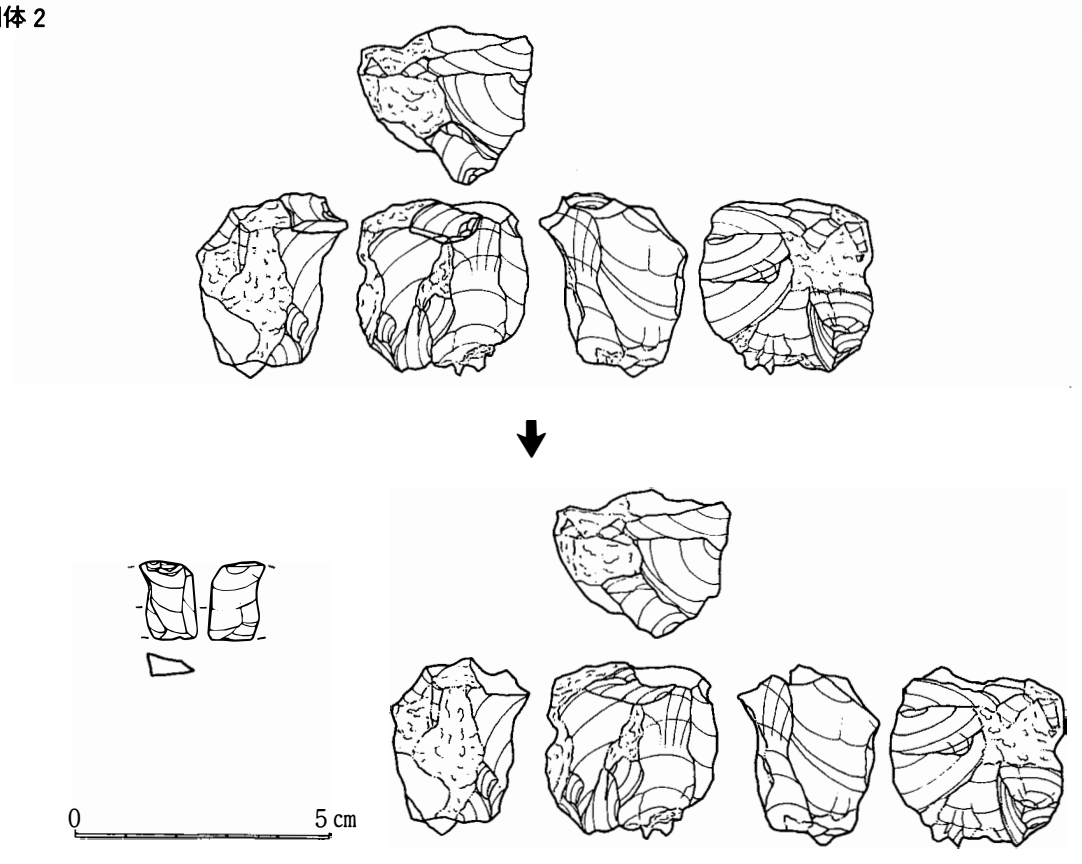
第Ⅱ石器文化層では、礫群を伴わず170点の石器群を検出した。出土層位はⅣａ、Ⅳｂ層であり、ソフトローム層に相当する。当石器文化の遺物分布は、丘陵の尾根筋に帯状に広がる状況を見せ、丘陵の北斜面を中心に分布をする第Ⅰ石器文化層の分布とは違った分布域をみせる。石器群はその偏在の在り方から１～４ブロックに区分できた。各ブロックの石材組成は、１つのブロック（Ⅰｂブロック）が石英、チャートを中心としたブロックであり、他３つのブロック（Ⅱａ，ｃ，ｄブロック）は黒耀石Ｃ類が卓越する。また遺物の接合関係はブロック間の関係性を示すものは認められない。石器組成は、台形様石器、抉入石器、楔形石器、削器、二次加工ある不定形石器、使用痕ある剥片という構成でありナイフ形石器は検出されていない。数量的にも少なく、安定した石器群とは言い難い。またこの石器文化層の主な石材である黒耀石Ｃ類、石英は、夾雑物を多量に含んでおり、石器の素材となる目的剥片の剥離は困難であったと思われる。当石器文化層で出土した小型の台形様石器、抉入石器、楔形石器の石材は黒耀石Ａ類、▶類など客体的な石材であり、これらの石器はブロック外からの搬入品である可能性が高い。当石器文化層は出土石器点数が少なく、定型的な石器の出土がほとんどない。そのため時間的位置付けをすることは難しい。

第168図　接合関係図

個体 1

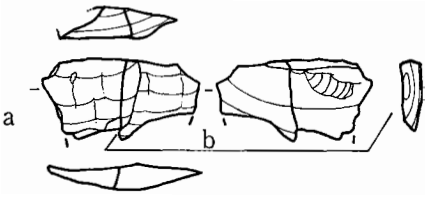


個体 2

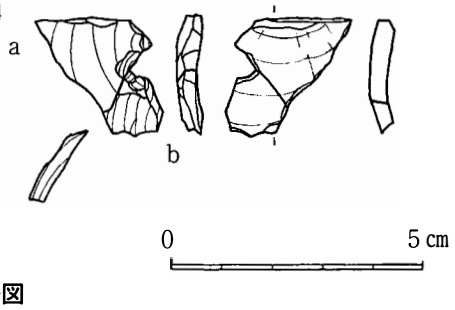


第169図　接合図

個体 3



個体 4



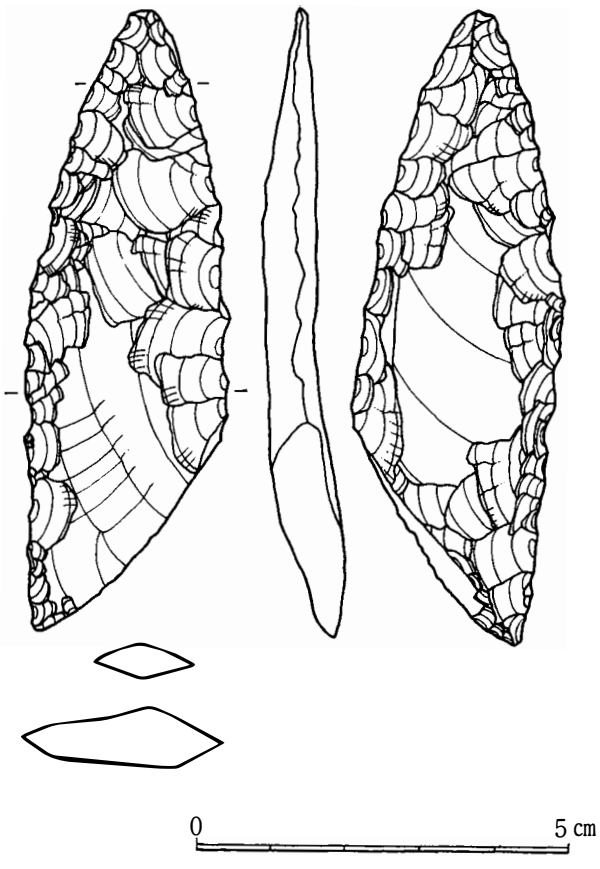
第170図　接合図

第４節　縄文時代の調査

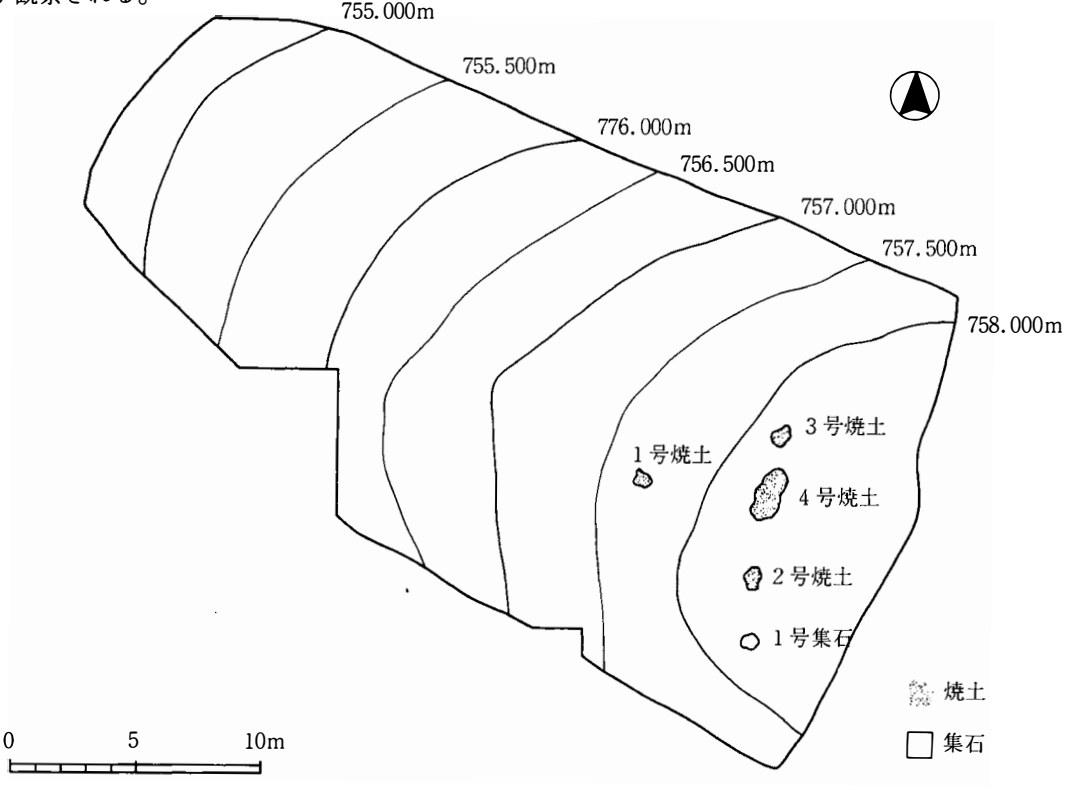
Ｄ地点の調査では、Ⅱ層～Ⅲｃ層にかけて遺構・遺物が検出された。これらの遺物のなかで、Ⅲｃ層より流紋岩製の槍先形尖頭器１点が検出された。この遺物は形態的特徴から、縄文時代草創期の遺物であると考えられる。Ⅲｃ層で検出された遺物はこの１点以外はすべて剥片，砕片類であり、この時期の石器組成ははっきりとは分からない。出土地点は調査区の東端、やや北へ傾斜する斜面の頂部付近である。

第171図は流紋岩製の槍先形尖頭器である。横長剥片を素材とし、両面ともに周縁から平坦剥離による二次加工が施されているが、両面とも中央部まで加工が届いておらず、素材剥片の剥離面が残存している。

全体形は柳葉形を意識したものと考えられる。下端部は、欠失しており表裏両面にわずかに再生のためと考えられる小剥離痕が観察される。

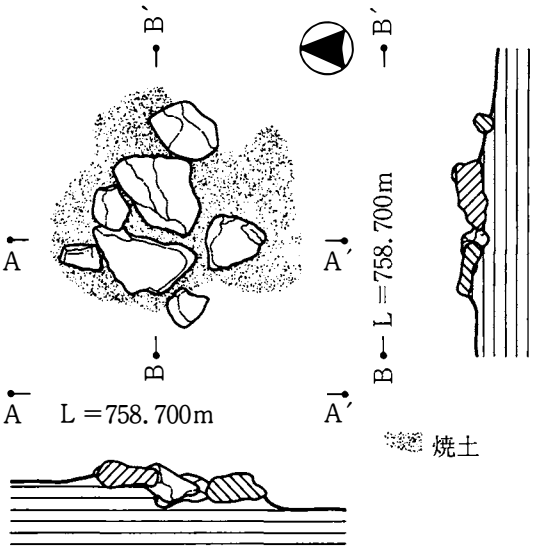


第171図　遺物実測図

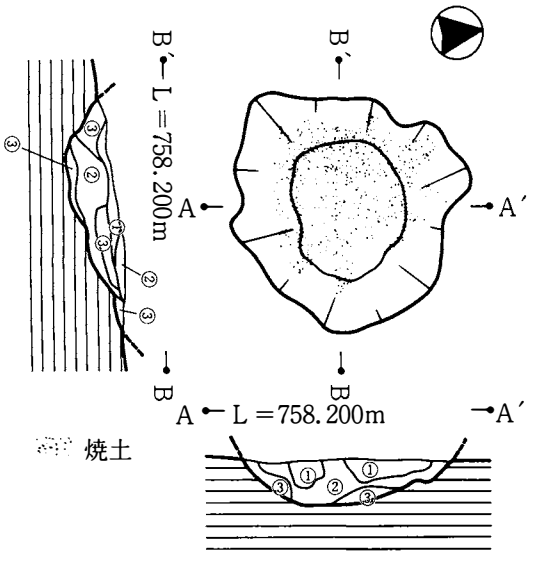


第172図　遺構配置図

1号集石



4号焼土

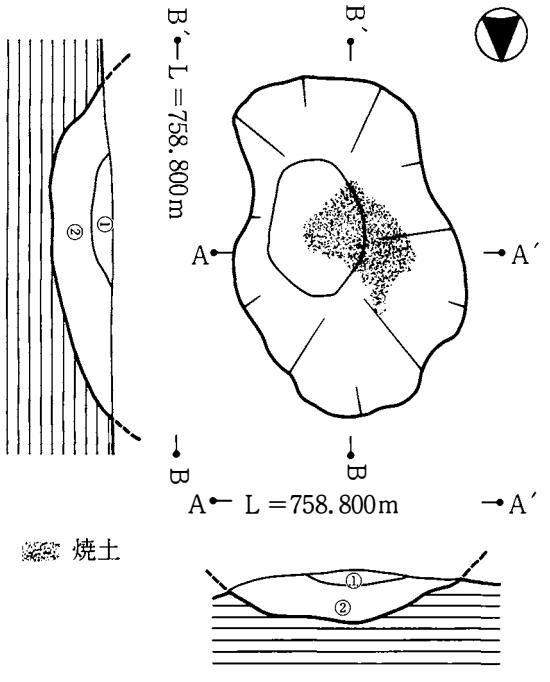


①灰褐色。

②暗褐色（細かな粒の焼土が混じる）。

③黒色土（カーボンが混じる）。

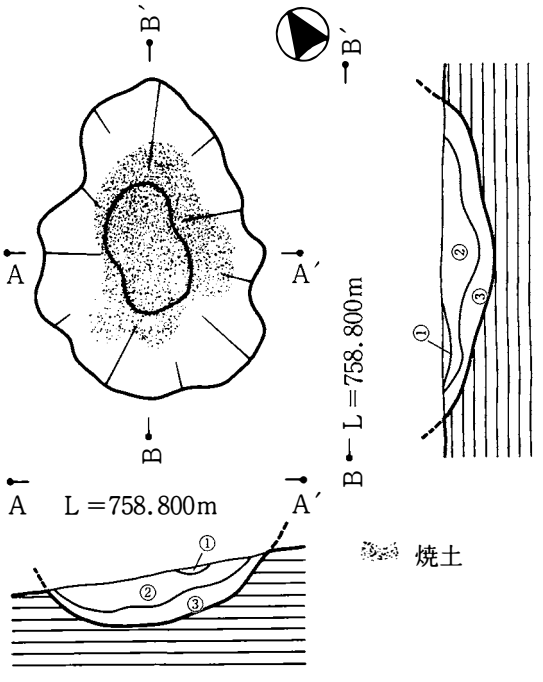
1号焼土



①オレンジ色に強く焼けている。粒状の炭化物が混じる。

②暗褐色土（Ａｈ二次堆積）に粒状、炭化物が混じる。

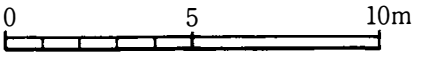
3号焼土



①オレンジ色に強く焼けている。

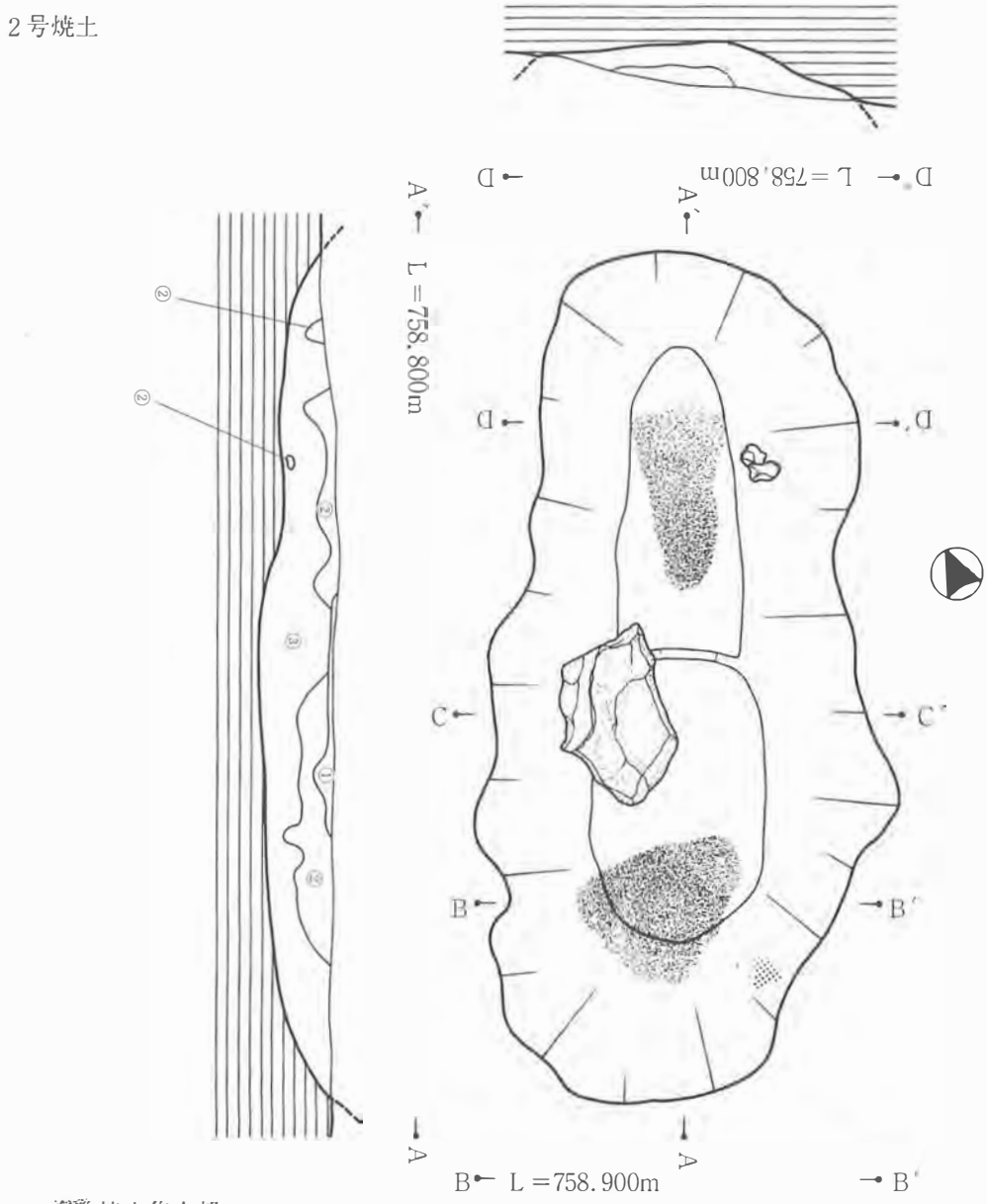
②焼土に暗褐色土がわずかに混じる。

③暗褐色土の中に粒状の焼土が混じる。



第173図　土坑実測図

2号焼土



焼土集中部
炭化物

①黒色土に粒状の焼土が混じる。ややフカフカとした感じ。Ⅰ層に近いと思われる。

②強く焼けたオレンジ色。他の土に比べ、固くひきしまる。

③暗褐色土。サラサラとしていてしまりがない。Ⅱa層より暗いが、Ⅰ層ほど黒くはない。粒状の焼土、炭化物が混じる。

第174図　土坑実測図

1　遺構とその分布

D地点の調査で縄文時代に属する遺構として、集石遺構１基と焼土集中部３箇所を確認した。遺構の分布は、丘陵の頂部の平坦面付近に集中して認められる。

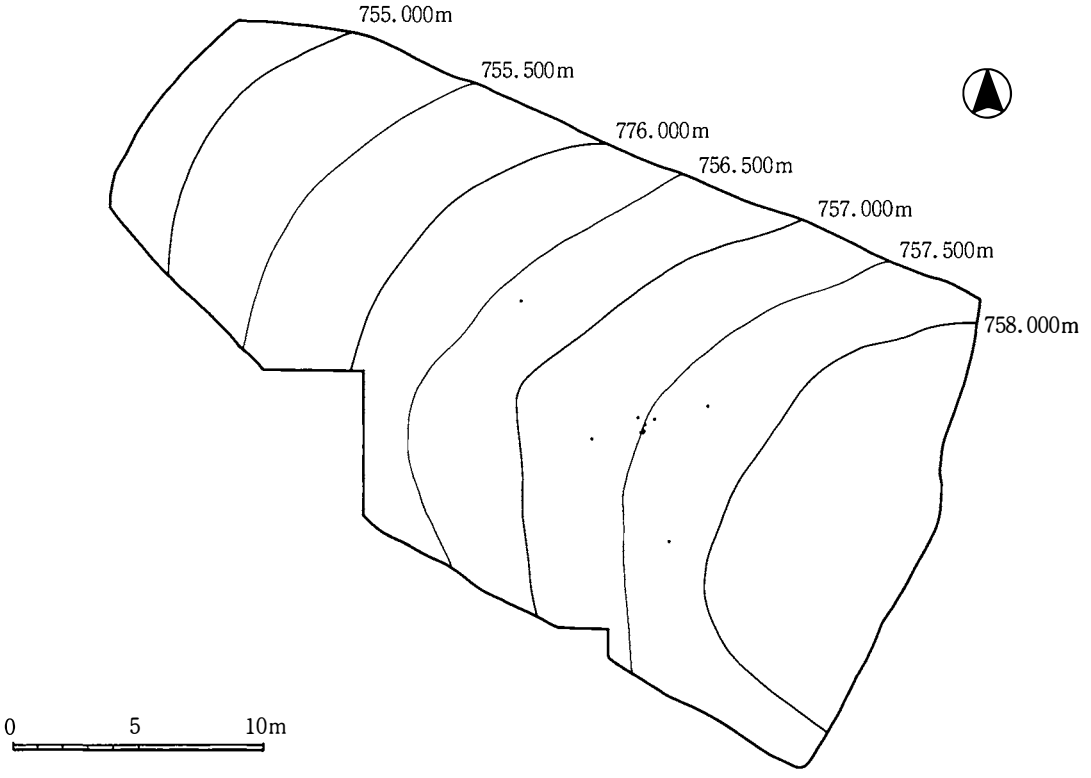
以下、各遺構ごとに説明を行なう。

（１）集石遺構

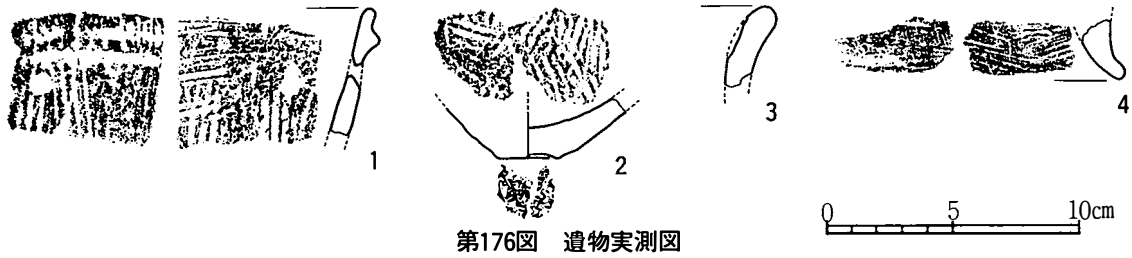
集石遺構はD区では１基のみ検出された。丘陵の南斜面で検出され、直径約0.7mの範囲内に７個の礫が配置されている。下部の掘り込みは確認されなかった。礫は南西部が特に赤変しており、南西部の火勢が強かったものと推測できる。集石付近の土は強く焼けており、周辺には炭化物が散在する。遺物等は確認されなかった。検出面はⅢａ層上面である。

（２）焼土

焼土は丘陵頂部付近に集中して４箇所確認された。１号焼土は直径約0.7mの土が被熱し、赤変している。２号焼土は長軸0.9m，短軸0.6mの土が被熱している。３号焼土は、長軸0.8m，短軸0.6mの土が被熱し、赤変している。４号焼土は長軸約2.3m、短軸約１mの範囲に強く焼けている部分が２箇所認められ、その中央に人頭大の礫がある。礫は赤変しもろくなっており、強く火熱を受けたことがわかる。周囲には炭化物が散在している。これらの焼土の検出面はⅢａ層上面である。



第175図　遺物分布図



第176図　遺物実測図

2　土器とその分布

D地点において、縄文時代の土器は丘陵の平坦面上に沿って11点が出土した。出土層位はⅡ～Ⅲａ層であり、これらの土器は晩期の突帯文土器と考えられる。

以下、遺物の説明を行なう。

第176図1は口縁部直下に1条の突帯を貼り付けており、内外面ともに条痕文で調整されている。また補修孔と思われる穴が穿たれている。2は底部の破片であり、上げ底になっている。器面は内外面ともに条痕文で調整されている。4は脚台部の破片であり刷毛状のもので器面調整が行なわれている。

3　石器とその分布

縄文時代の石器は20点が検出された。出土層位はⅡａ層からⅢｃ層であり、そのピークはⅢａ層にある。石器組成は石鏃、剥片、砕片のみである。

石鏃（第178図）

石鏃に分類できるものは12点確認された。全体形が二等辺三角形を呈するもの（1～5，8）と、正三角形を呈するもの（6，7，10）とがある。脚部を作り出す抉入部の形状では、浅いU字状のもの（1，3）、深いU字状のもの（7，10）、V字状のもの（2，4，5，6）とがある。9，11，12は、大まかな調整加工を施し、左右対称形を成さないもので、未完成品と考えられる。

4　まとめ

D地点において、縄文時代草創期に属する遺物として槍先形尖頭器が検出された。このことにより、同時期にも人々の生活が営まれていたことが伺われる。しかし、同時期の遺物は少なく、図示した槍先形尖頭器以外は、剥片，砕片のみである。また、同層から土器は検出されておらず、石器組成も不明であるため詳細な位置づけは困難である。

当該地点で検出された遺構は、集石遺構、焼土遺構がある。これらの遺構は、時期決定の目安となる土器を伴わず明確な時期決定をすることはできない。しかし、検出面はⅢａ層上面であるが、本来の掘り込み面はさらに上層に求めることが妥当であり、Ⅱ層より出土した縄文晩期の突帯文土器と同様の時間的位置づけが可能であると考えられる。

Ⅱ層から出土した晩期の突帯文土器は、少量でありほとんどが小破片である。また、全体像を推測できるような接合資料は検出されなかった。

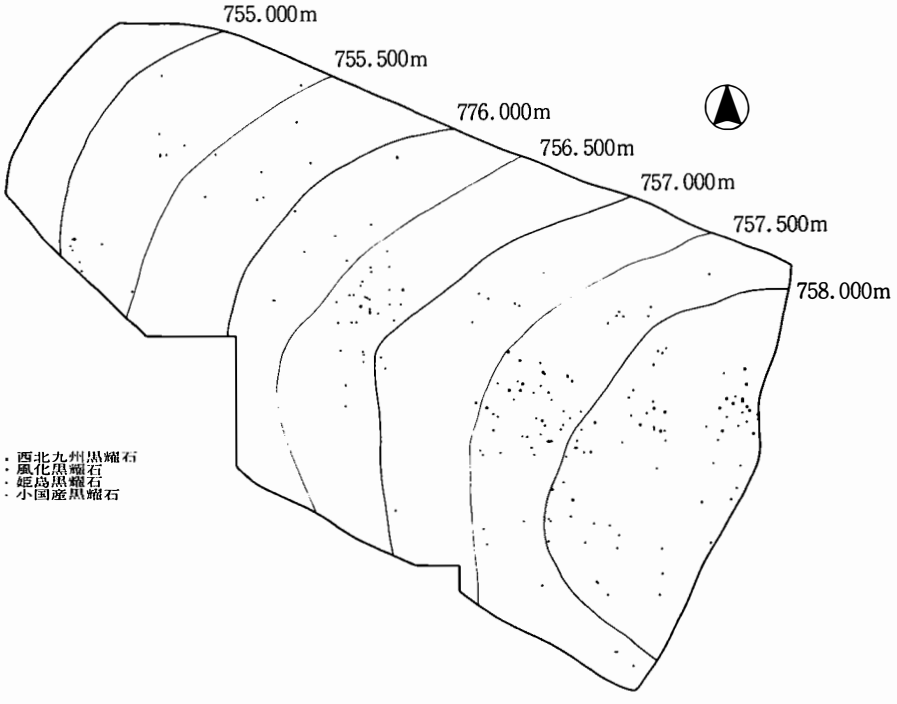
また石器類はⅡ～Ⅲｃ層にかけて一定量の出土が認められる。しかし、石器組成を見ると、剥片・砕片以外は石鏃のみの出土であり、石匙、削器などの加工具、磨石、石皿などは全く認められない。

D地点は、土器の出土量が非常に少なく、またその破片も小破片であることから利用期間は短期間であると推測でき、石器組成の特徴とも合わせ、縄文時代における当地の利用の在り方を示しているものであろう。

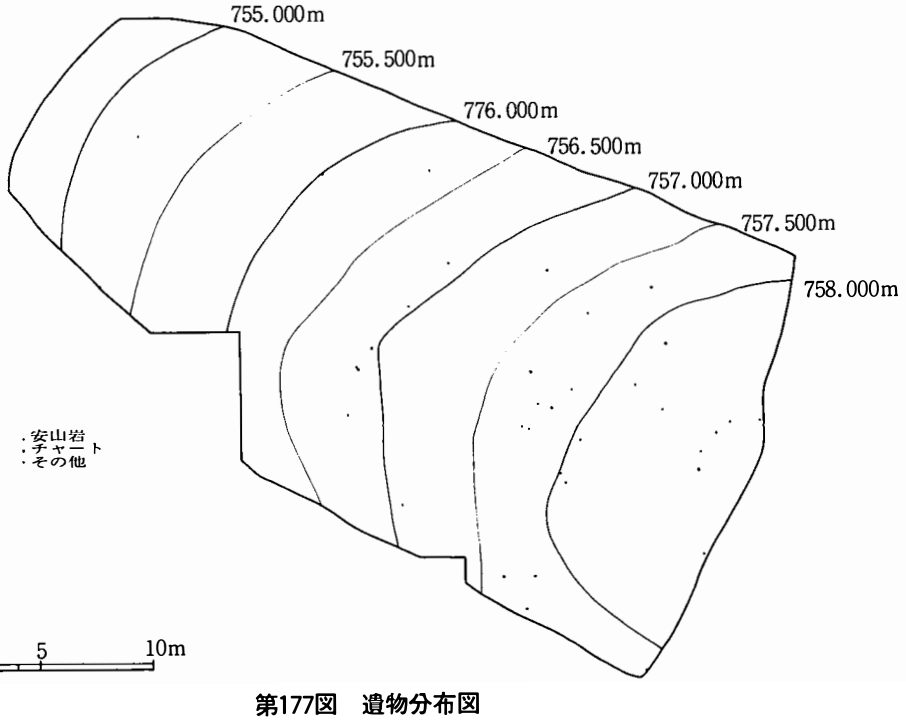
第34表　石器計測表

図版No.	器種	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体	登録No.
178－1	石鏃	Ⅲc	安山岩	2.15	1.65	0.35	1.00		153
178－2	石鏃	Ⅲb	黒耀石E	1.38	1.20	0.30	0.30		213
178－3	石鏃	Ⅲc	安山岩	2.35	1.85	0.42	1.40		287
178－4	石鏃	Ⅳb	黒耀石B	2.70	1.80	0.53	1.40		465
178－5	石鏃	Ⅱa	黒耀石B	3.00	2.22	0.50	2.40		116
178－6	石鏃		安山岩	1.80	1.75	0.32	0.80		3区焼土内
178－7	石鏃	Ⅱa	黒耀石A	1.90	1.95	0.35	0.70		111
178－8	石鏃	Ⅲa	チャート	1.70	1.10	0.30	0.50		63
178－9	石鏃	Ⅱb	黒耀石B	2.40	2.50	0.63	3.90		191
178－10	石鏃	Ⅳb	黒耀石E	1.10	1.47	0.25			352
178－11	石鏃	Ⅱb	黒耀石E	2.38	2.50	1.00	4.10		188
178－12	石鏃	Ⅳa	黒耀石E	2.20	2.00	0.70	2.60		279

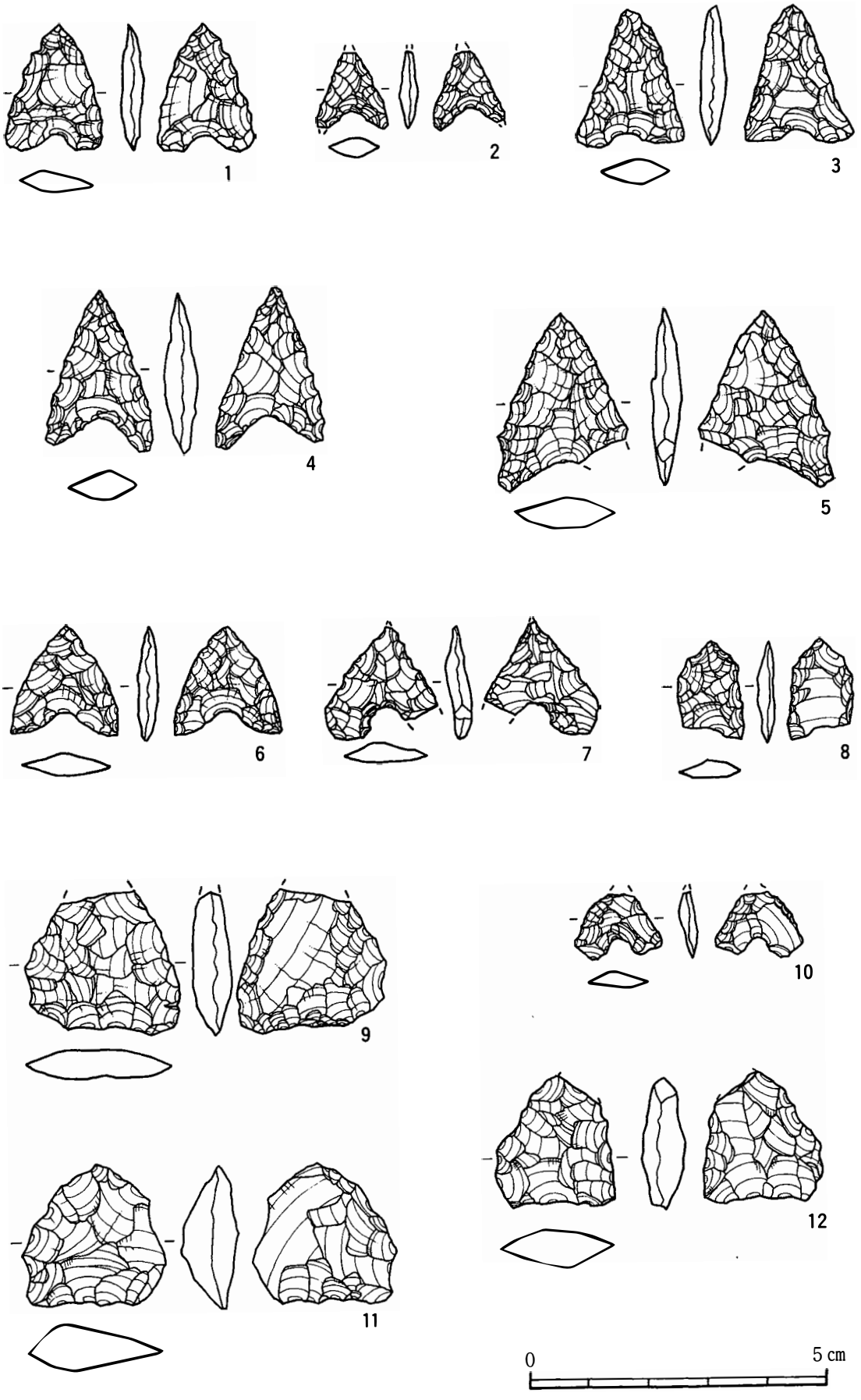
A図（黒耀石類）



B図（非黒耀石類）



第177図　遺物分布図



第178図　遺物実測図

第Ⅶ章　総　括

第１節　旧石器時代石器群の検討とその位置づけ

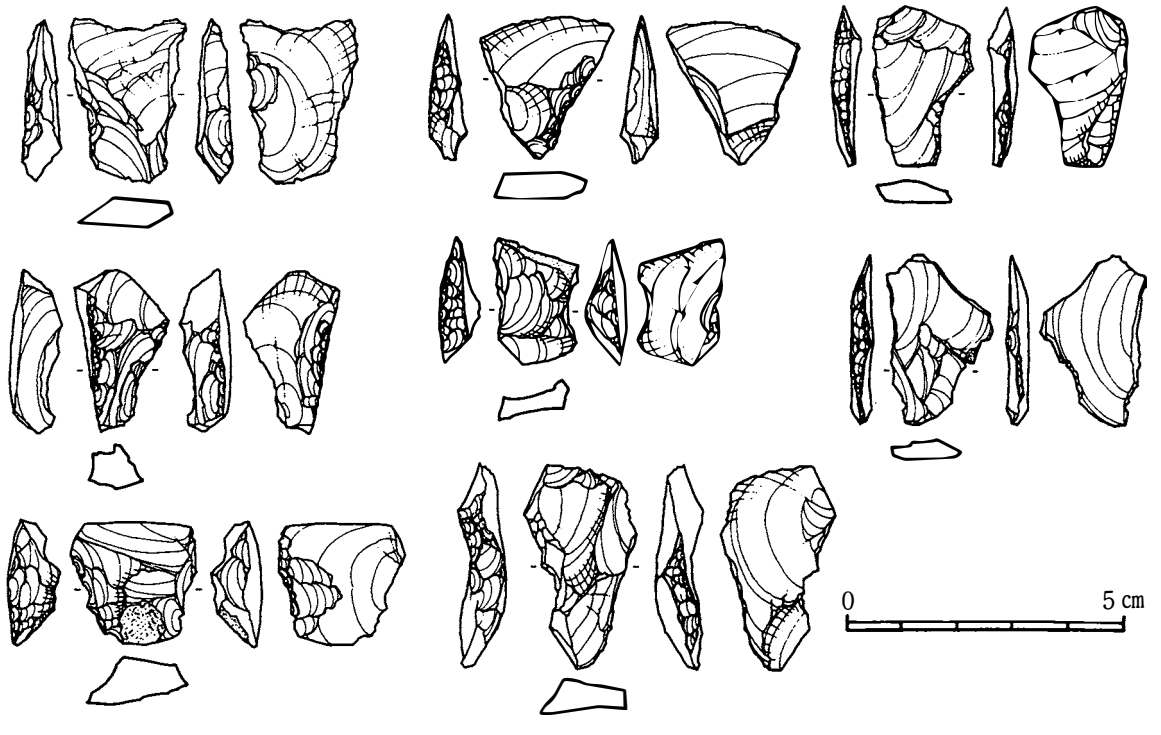
１　石器群の様相と位置づけ

耳切遺跡においては、Ａ～Ｄ地点から旧石器時代に属する石器群が検出された。これらの石器群は、大まかに姶良Ｔｎ火山灰降灰以前と以後に区分される。また、検出された石器群の様相は各地点ごとに異なり、本報告では地点ごとに整理を行い、その概要について第Ⅲ章～第Ⅵ章にまとめた。そのため、各地点間での比較検討を明記しておらず、地点ごとに文化層区分を行っている。

当該遺跡における土層堆積は、Ⅴ層に姶良Ｔｎ火山灰を包含し、Ⅵ層に暗色帯，Ⅸ層に九重第１パミスが確認されている。この土層堆積は、各地点とも基本的には同じであるが、Ⅵ層（暗色帯）の暗色性の発達に差違が認められ、Ａ，Ｂ地点ではⅤ層との間に漸移層がみられ亜層として細分した。しかし、Ｃ，Ｄ地点においては、暗色性の発達が弱いため細分できなかった。そのため、同層から検出されたそれぞれの石器群間の比較検討が困難な状態である。このようななかで各地点ごとには、旧石器時代に属する石器群は複数の文化層に区分された。特に、Ａ地点においては、姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器文化層が２面確認され、合計３面の文化層が検出された。このように、各地点ごとに検出された文化層間の時間的位置づけと関係について、整理する必要がある。しかし、前述したように出土層位からの比較が単純に行えない層位と地点が認められるため、以下に姶良Ｔｎ火山灰降灰以前と以後に区分して検討を行う。

①　姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器群

姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器群は、Ａ～Ｄ地点すべてにおいて検出されている。つまり、Ａ地点第Ⅰ及び第Ⅱ石器文化，Ｂ地点下位石器文化，Ｃ地点第Ⅰ石器文化，Ｄ地点第Ⅰ石器文化が該当する。しかし、Ｂ地点下位石器文化は、明確には区分しきれていないため参考程度にとどめたい。

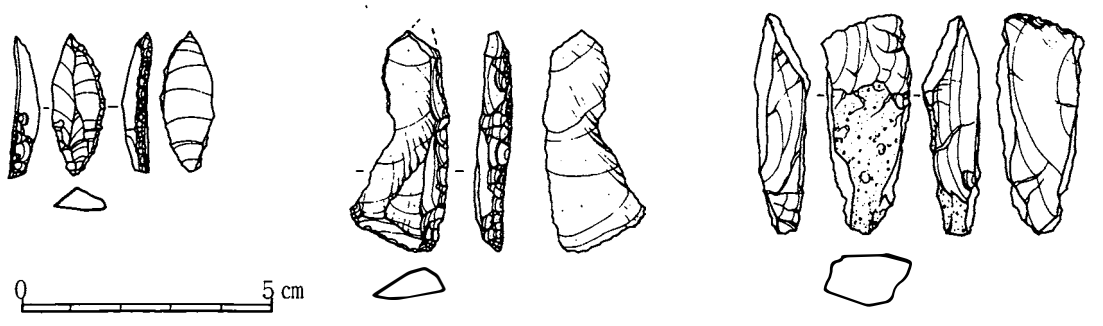


第179図　曲野遺跡Ⅵ層出土の台形様石器（※再実測、トレース）

これらの石器群は、各地点ともⅤ層～Ⅶ層にかけて出土層順をもち、Ａ地点のみ上下２面に細分された。これらの石器群は、台形様石器を主体とする点で共通している。しかし、その形態的特徴には差違が認められ、時間的な差違を示す可能性も考えられる。このことは、石材組成の在り方からも窺え、各地点とも黒耀石類が主体的に選択され利用されている点では共通した状況が認められるが、その原産地別の組成比率には大きな差違がみられる。Ａ地点では、黒耀石Ｂ類が主体を占めるのに対して、Ｂ～Ｄ地点においては黒耀石Ｃ類が主体的に利用されている。このように石材組成の在り方には、２つの様相が認められる。

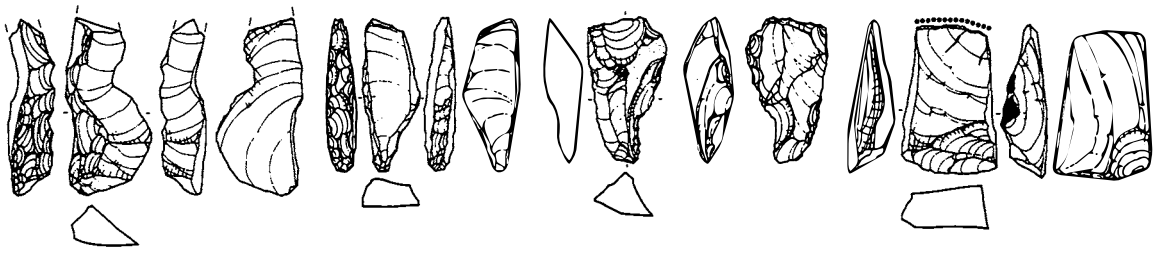
また、姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器群に認められる剥片剥離は、検出された石核や接合資料から類推して、打面を固定し剥片剥離を連続的に行うものは認められず、打面と作業面を頻繁に転移させながら剥離を行うものや、厚みのある剥片を素材とし周縁からチョッピングトゥール状に剥離を行うものが大半を占めている。その結果、残核の形状は賽子状あるいはチョッピングトゥール状を呈し、剥離された剥片の形状は不定形の幅広剥片が主体を占める。そのため、これらの剥片を素材として作り出された台形様石器の形態的特徴にも、バリエイションが認められることになる。換言するならば、台形様石器の形態的特徴は、刃部として設定された素材剥片の一辺が、基部に対して並行あるいは斜位になるなど、素材剥片の形状及び用い方に大きく左右される。当該期の台形様石器は、素材剥片の形状を大きく変更せず、刃部形状は素材剥片の形状に左右され斜刃をなすものも認められる。しかし、基部に対する刃部の形状の違いによる台形様石器とナイフ形石器との分類は行わなかった。また、台形様石器に利用される剥片は幅広のものが多く、その用い方は横位のものが多い。このことは、剥片先端部にヒンジフラクチャーが観察される例がみられ、刃部として設定する一辺が、ヒンジフラクチャーを起こしていない側縁を選択的に利用された結果、必然的に横位に用いられるものと理解される。また、この種の石器に認められる調整加工は、大まかでその調整剥離の面数も少ない。

しかし、各地点で検出された台形様石器を比較すると、調整加工は、平坦剥離を基本とし、剥片の厚みにより急斜度をなすものも認められる点で共通した状況を示すが、Ａ地点第Ⅰ石器文化では折断による形状修正が認められるものは存在しないのに対し、Ｃ，Ｄ地点では数量的には少ないが組成している点で異なる状況がみられる。このような素材剥片の扱い方の違いと、利用される石材の違いから両者の石器群は時間的位置づけが異なることが予想される。さらに、Ａ地点第Ⅰ石器文化には、楔形石器に類似した特徴を示す石器が認められ、他地点と相違する。また、Ａ地点で確認された上下２つの文化層と、他地点の石器群を比較比較すると、Ｃ，Ｄ地点では調整加工がより急斜度に施される。この様相は、Ａ地点第Ⅱ石器文化により近いものである。これらを整理すると、Ａ地点第Ⅰ石器文化→Ｃ地点第Ⅰ石器文化，Ｄ地点第Ⅰ石器文化→Ａ地

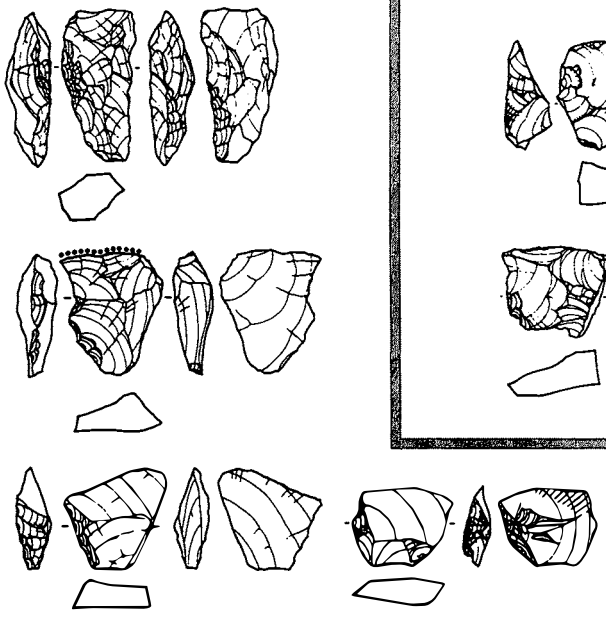


第180図　下城遺跡第２石器文化（緒方・古森1978より転載）

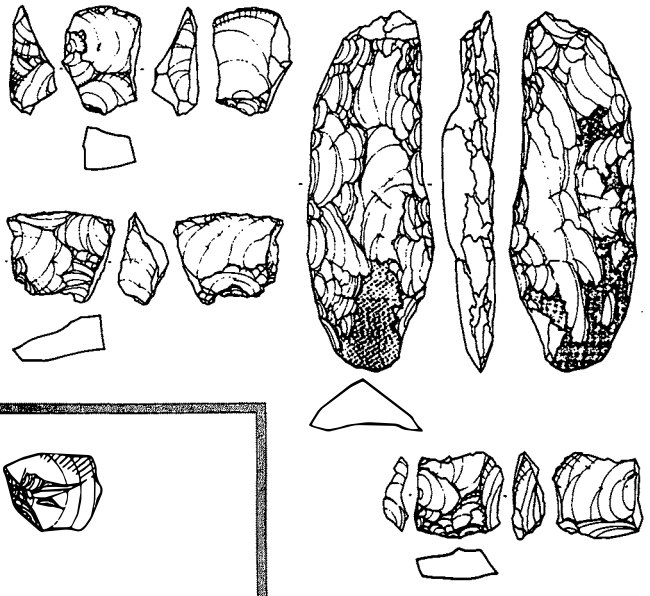
A地点　第Ⅱ石器文化



D地点　第Ⅰ石器文化



C地点　第Ⅰ石器文化



A地点　第Ⅰ石器文化

第181図　耳切遺跡文化層別出土石器

点第Ⅱ石器文化という変遷として理解されようか。また、Ａ地点第Ⅰ石器文化石器群は熊本県曲野遺跡Ⅵ層に、同地点第Ⅱ石器文化石器群は同下城第２石器文化にそれぞれ類似し、ほぼ同時期に位置づけられるものと考えられる。

②　姶良Ｔｎ火山灰降灰以後の石器群

姶良Ｔｎ火山灰降灰以後の石器群は、Ａ～Ｄ地点すべてにおいて検出されている。Ａ地点第Ⅲ石器文化，Ｂ地点上位石器文化，Ｃ地点第Ⅱ石器文化，Ｄ地点石器文化が該当する。出土層順は、ソフトローム層に相当するⅣａ層～Ⅳｂ層に認められる。

しかし、これらの石器群は数量的に少なく、剥片剥離を復元できる接合資料もほとんど認められなかったことから、それぞれの時間的位置づけと先後関係の把握は困難である。これらの石器群に属する石核や剥片の剥離面観察から、姶良Ｔｎ火山灰降灰以前と同様に、打面と作業面を頻繁に転移しながら剥離が進行するもので、残核の形状が賽子状を呈するものと、厚みのある剥片を素材とし周縁から求心状の剥離が行われるチョッピングトゥール状のものが認められ、剥片剥離技術には大きな変化は認められない。検出された石器群は少なく、各地点間での比較検討は難しい。特に、各石器群とも定型的な石器類が少ない。各地点で検出されたナイフ形石器の形態的特徴も、それぞれ異なる。そのため、前述したように地点間での時間的位置づけ及び先後関係についての検討は今後の課題としたい。

２　利用石材について

当該遺跡における旧石器時代に属する石器群は、各地点ごとにⅣａ層～Ⅶ層にかけて検出された。これらの石器群は、地点によっては分布域がほぼ重なる状態で認められ、文化層ごとの区分が難しい状況であった。

また、各地点とも地形的に起伏が認められる丘陵上に立地しているため、検出された石器群を垂直分布により文化層ごとに区分することが意味をもたない。そのため、層位ごとに石材別利用頻度を検討し、その変化を把握することで大まかな区分を行い、接合資料による修正を行っている。

当該地点で確認された石材は、黒耀石，安山岩，流紋岩，チャート，メノウ，石英，砂岩，片岩，蛇紋岩である。このうち、黒耀石類はその石質の違いからＡ～Ｄ類に細分される。Ａ類は、挟雑物を含まず良質で、その色調は漆黒色を呈する、西北九州産の黒耀石である。Ｂ類は、著しく風化し光沢がない黒耀石であり、その表面の色調は暗赤褐色～黒褐色を呈する。この黒耀石は、当該遺跡においてＣ類とともに利用頻度の高い石材である。現在のところ原産地は不明であるが、阿蘇北外輪山上に立地する一の宮町象ケ鼻遺跡Ｄ地点においても多量に検出されている。阿蘇北外輪山から距離的に遠くなるに従って、利用頻度が低下する傾向が認められることから、阿蘇北外輪山周辺に原産地を予測することが可能であろう。Ｃ類は、黒色を呈し透明度の高い黒耀石で、多量の挟雑物を含む。小国産黒耀石として認識されているものに相当する。Ｄ類は、表面が風化によって艶消し状を呈する黒耀石で、石質は黒色～黒灰色を呈する。西北九州に原産地を求めることが可能であろうか。このように、当該遺跡においては多様な石材が認められ、そのなかで黒耀石類が主体を占めている点では、各地点の全時期を通して共通している。このことを、３面の石器文化層が確認されたＡ地点で観察すると、下層から上層へ徐々に黒耀石類の利用頻度が増加する傾向が窺える。しかし、黒耀石類の石質ごとの利用頻度では、Ｂ類が低下しＣ類が増加する傾向がみられる。この傾向は、Ｄ地点においても同様であるが、Ｃ地点においては全時期を通じてＣ類が卓越し、下層から上層へ非黒耀石類のバリエイションが増加する。また、Ａ，Ｄ類のような遠隔地石材は、数量的には少ないものの上層に集中する。

このことから、当該遺跡の石材利用の在り方は、在地産の黒耀石類を主体としながら、石材利用のバリエイションの増大とともに遠隔地産石材の利用比率が増加していると理解される。

3　問題点と課題

当該遺跡において検出された旧石器時代石器群を、層位別石材別利用頻度の変化を検討することによって、各地点での文化層の区分と把握を行った。つまり、数量的な増減はあるものの上層から下層まで石器類が検出され、その分布は重複する状態を示す。層位間にまたがる接合関係も認められ、地形的特徴から垂直分布による文化層の区分と把握が単純には実施できなかった。そのため、文化層の区分と把握は、大まかにならざるを得ず、細分できる可能性を残したまま、各地点とも複数の石器文化段階に区分するにとどまった。

さらに、接合による個体別認識と母岩別認識は、石材の特徴及び石質の制約から十分な成果を上げるまでには至らなかった。特に、主体的に利用されている黒耀石Ｂ類は、表面の風化が著しく個体別識別を断念せざるを得なかった。そのため、各地点において確認されたブロック間の関係性については、考察することができなかった。また、整理作業の時間的制約から接合は、各地点内の石器群でのみ行い、地点間では実施していない。このように、本報告段階で情報化できなかった資料も多い。近年姶良Ｔｎ火山灰降灰以前の石器群の検出例が増加し、資料の蓄積が進みつつある。このようななかで、当該遺跡で検出された石器群が今後検討され、研究の進展に寄与できることを期待して、第３節に旧石器時代石器類の観察表を掲載した。

第２節　縄文時代について

縄文時代の遺構，遺物は、Ａ～Ｃ地点において検出された。その所属時期は、Ａ，Ｂ地点で早期の遺構，遺物が、Ａ，Ｃ地点で前期の遺物が検出された。しかし、両時期とも検出された土器群は少なく、接合による器形復元ができる資料は認められなかった。また、早期に属する押型文土器は、破片が小さく器面も粗く紋様がはっきり拓影できないものが大半を占めていた。石器類の組成にも偏りが認められ、石鏃が多く石匙や削器類及び磨石・敲石等は少ない。つまり、当該遺跡において検出された石器類は、狩猟用具が高い比率を占め、生活用具が少ないことが特徴としてあげられる。石器そのものの耐久性と使用場所の違いを考慮しても、遺跡内に廃棄された石器類の数量や器種の偏りは、当地の利用の期間とその在り方を示すものと考えられる。遺跡内に残された遺構は、集石遺構と土坑である。Ａ，Ｂ地点で類似した土坑が検出され、集石遺構はＡ地点にのみ偏在する。また、両地点で検出された土坑には、平面形及び断面形が長方形を呈するものがあり、床面は平坦に作り出されるという共通点をもつ。床面には小穴は認められないが、埋土の堆積状況から陥し穴としての機能を有する土坑である可能性が指摘できる。これらのことから、早期の遺物が検出されたＡ，Ｂ地点は、「場の利用」という観点からそれぞれ相互に関連する可能性が指摘でき、両地点は共時性を有しないことになろう。

また、Ａ，Ｃ地点で検出された前期に属する曽畑式土器は数量的には少なく、接合により器形復元できる資料は認められなかった。しかし、同型式の存在により同時期に当地において生活の営みが行われたことが理解され重要であろう。

参考文献

安斉　正人　1996　『現代考古学』　同成社
安蒜　政雄　1978　「先土器時代の研究」　『日本考古学を学ぶ』(１)　有斐閣
江本　　直　1984　『曲野遺跡Ⅱ』　熊本県文化財調査報告第65集　熊本県教育委員会
江本　　直　1986　『熊本県旧石器時代調査報告書』　熊本県文化財調査報告第81集　熊本県教育委員会
緒方　　勉・古森　政次　『下城遺跡Ⅱ』　熊本県文化財調査報告第50集　熊本県教育委員会
岡村　道雄　1990　『日本旧石器時代史』　雄山閣
荻　　幸二　1998ａ，ｂ「旧石器時代の九州地方の器種と石器石材に関する一考察 (1),(2)」『旧石器考古学』56，57

小畑　弘己編　1998　『象ケ鼻Ｄ遺跡』　熊本県一の宮町教育委員会
小畑　弘己　1997　「ＡＴ下位出土の台形様石器－熊本県阿蘇郡西原Ｆ遺跡第２次調査成果報告－」
『旧石器考古学』55　旧石器文化談話会
木崎　康弘　1987　『狸谷遺跡』　熊本県文化財調査報告第90集　熊本県教育委員会
木崎　康弘　1988　「九州ナイフ形石器文化の研究－その編年と展開－」『旧石器考古学』37
木崎　康弘　1989　「姶良Ｔｎ火山灰下位の九州ナイフ形石器文化」　『九州旧石器』創刊号
木崎　康弘　1994　『久保遺跡』　熊本県文化財調査報告第126集　熊本県教育委員会
久保　弘幸・藤田　淳　1990　『七日市遺跡』　兵庫県教育委員会
栗田　勝弘　1985　『百枝遺跡Ｃ地区』　大分県三重町教育委員会
佐藤　宏之　1988　「台形様石器研究序論」　『考古学雑誌』73－３
佐藤　宏之　1992　『日本旧石器文化の構造と進化』　柏書房
渋谷　忠章ほか　1986　『宇土遺跡発掘調査報告書』　大分県天瀬町教育委員会
須藤　隆司　1991　「ナイフ形石器の型式論（１）」　旧石器考古学42　旧石器文化談話会
須藤　隆司　1991　『立科Ｆ遺跡』　長野県佐久市教育委員会
諏訪間　順　1988　「相模野台地における先土器時代石器群について－層位的出土例の検討による石器群の段階的把握－」『神奈川考古』24
石器文化研究会　1991　「シンポジウムＡＴ降灰以前の石器文化－関東地方における変遷と列島内対比－」
『石器文化研究』３
橘　　昌信　1985　「九州における先土器時代石器群の編年と地域性」　『日本原史』
橘　　昌信　1998　「第Ⅲ章　長崎県のあけぼの－旧石器時代－」　『原始・古代の長崎県』
田村　　隆　1989　「二項的モードの推移と巡回－東北日本におけるナイフ形石器群成立期の様相－」
『先史考古学研究』２
堤　　隆編　1997『柏ケ谷長ヲサ遺跡』　柏ケ谷長ヲサ遺跡調査団
長崎　潤一　1990　「後期旧石器時代前半期の石斧ー形態変化論を視点として」　『先史考古学研究』３
萩原　博文　1996　「西南日本後期旧石器時代後半期における石器群の構造変容」　『考古学研究』43－３
藤野　次史　1991　「〔書評〕『七日市遺跡』」　『旧石器考古学』42　旧石器文化談話会
松藤　和人　1998　『西日本後期旧石器文化の研究』　学生社
山口　卓也　1994　「近畿地方台形様石器群の一様相－板井寺ケ谷下位文化層の台形様石器－」
『旧石器考古学』48　旧石器文化談話会

第３節　旧石器時代石器観察

耳切遺跡各地点から検出された旧石器時代に所属する石器に関して、観察表を作成し掲載した。記載内容についての凡例は、以下のとおりである。

1　石器観察表は各地点ごとにまとめ、登録番号は取り上げ番号を記載した。

2　基準点は、各地点ごとに任意に設定し、その位置は下図に示している。

3　基準点から南北軸をＸ座標、東西軸をＹ座標として設定し、それぞれ北，東を（＋）とした。

4　標高は、絶対高である。

5　観察項目は、折れ，二次加工，使用痕の有無について行い、その有無は２進法で記載した。

6　器種名は略称で記載した。その器種名は以下のとおりである。

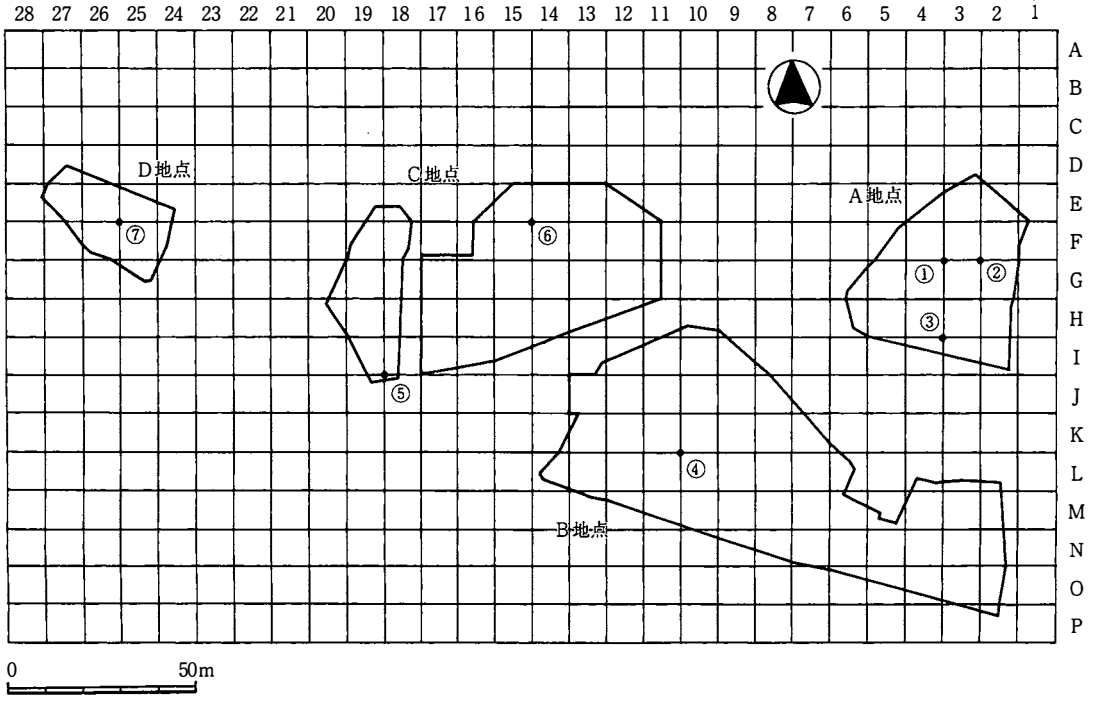
Ｋｎ（ナイフ形石器），Ｔｒｚ（台形様石器），Ｓｃ（スクレイパー），ＣＳ（抉入石器），Ｃｕ（楔形石器），Ｈｓ（敲石），Ａｘ（石斧），ＲＦ（二次加工ある不定形石器），ＵＦ（使用痕ある剥片），Ｃｏ（石核），Ｆ（剥片），Ｃ（砕片）

7　石材名称は、略称で記載した。その名称は以下のとおりである。

Ｏｂ（黒耀石）　※その石質の違いから、Ａ～Ｅ類に細分した。

Ａｎ（安山岩），Ｈ－Ｓｈ（硬質頁岩），Ｓ－Ｓｈ（シルト質頁岩），Ｒｈ（流紋岩），Ｃｈ（チャート），Ｑｕ（石英），Ａｇ（メノウ），Ｓｃｈ（片岩），Ｓｅ（蛇紋岩），Ｓａ（砂岩）

8　観察項目以外の特徴については、備考に記載した。



測量基準点配置図

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
87	①	−22.960	5.088	775.440	Ⅵb				C	H−Sh	0.60	0.65	0.08	0.02			
88	①	−23.380	15.085	775.471	Ⅵb				F	Ob−C	2.11	1.70	0.89	2.78			
94	②	3.248	−0.244	775.335	Ⅳb				C	Rh	0.99	1.08	0.21	0.20			
189	②	5.839	9.133	665.827	Ⅵb				Co	Ob−C	2.55	4.71	3.52	30.77			
375	②	17.937	7.385	735.399	Ⅳa				C	Sch	1.00	1.04	0.19	0.16			
630	②	21.330	10.976	775.061	Ⅶ				F	Ag	1.89	1.30	0.82	10.85			
1381	②	10.858	13.867	775.002	Ⅳa	1			F	Ob−C	1.43	2.08	0.84	1.91			
1382	②	11.023	13.902	774.995	Ⅳa	1			F	Ob−C	1.51	2.95	0.28	1.22			
2044	②	28.343	9.447	774.143	Ⅴ	1			F	Ob−B	3.65	3.42	0.96	11.54			
2051	②	17.937	9.384	774.147	Ⅵb		1		RF	Sch	2.92	1.52	0.79	3.67			
2052	②	6.432	−9.131	774.385	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.69	1.67	0.58	0.75			
2053	②	27.869	8.853	774.048	Ⅴ				C	Ob−C	0.98	0.31	0.76	0.84			
2054	②	5.833	−8.488	774.367	Ⅴ				C	Ob−B	1.20	0.90	0.21	0.18			
2055	②	5.092	−7.665	774.256	Ⅵb				F	Ob−B	3.32	2.40	1.41	7.52			
2056	②	6.301	−8.890	774.170	Ⅵb				C	Ob−C	0.70	0.79	0.39	0.13			
2057	②	6.766	−9.296	774.105	Ⅵb				C	Sch	0.92	1.30	0.46	0.69			
2058	②	11.705	12.244	774.705	Ⅳb				C	Ob−C	1.03	1.31	0.58	0.66			
2059	②	11.563	11.914	774.802	Ⅳb				C	An	1.42	1.55	0.39	0.56			
2060	②	12.022	11.909	774.587	Ⅳb				F	Ob−C	2.11	1.90	0.92	3.56			
2061	②	22.257	1.750	774.675	Ⅳb				C	Ob−C	1.99	1.30	0.38	0.81			
2062	②	21.452	1.229	774.686	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.48	1.97	0.69	1.75			
2063	②	6.988	−8.093	774.159	Ⅵb				F	Ob−B	1.92	2.00	1.03	3.32			
2064	②	6.212	−8.925	774.103	Ⅵb				F	Ob−B	2.47	2.40	1.62	7.28			
2065	②	11.145	10.569	774.977	Ⅴ				C	Ob−B	0.77	1.07	0.13	0.08			
2066	②	11.434	10.660	774.878	Ⅵa				C	Ob−C	0.50	0.52	0.23	0.03			
2067	②	11.029	10.561	774.894	Ⅴ				C	An	0.49	0.72	0.11	0.04			
2068	②	11.338	11.239	774.866	Ⅵa				F	Ob−B	0.71	1.01	0.53	0.48			
2069	②	11.337	11.131	774.842	Ⅵa				F	Ob−B	1.60	1.13	0.31	0.47			
2070	②	12.415	11.399	774.883	Ⅵa				C	An	0.77	0.99	0.28	0.10			
2071	②	12.450	11.719	775.061	Ⅳb				F	An	1.40	0.97	0.63	0.95			
2072	②	12.040	10.585	774.961	Ⅴ				Co	An	3.14	6.09	4.58	63.29		48	
2073	②	18.649	7.548	775.065	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.91	3.00	1.22	8.73			
2082	②	11.324	11.860	774.804	Ⅵa				C	Ob−B	0.80	0.82	0.36	0.15			
2084	②	11.566	12.468	774.836	Ⅵa				F	Ob−B	1.78	1.19	0.33	0.52			
2085	②	11.677	11.585	774.799	Ⅵa				C	An	1.23	0.92	0.21	0.22			
2086	②	11.633	11.038	774.822	Ⅵa				C	An	2.10	0.70	0.43	0.41			
2087	②	11.636	10.856	774.822	Ⅵa				C	Ob−B	1.00	0.90	0.16	0.14			
2088	②	12.037	10.783	774.829	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.91	0.92	0.46	0.76			
2089	②	11.892	10.591	774.699	Ⅵa				C	An	1.50	0.58	0.37	0.18			
2090	②	12.027	10.587	774.771	Ⅴ				C	An	1.07	1.04	0.19	0.12			
2091	②	12.026	10.766	774.640	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.42	1.65	0.27	0.84			
2092	②	12.047	10.935	774.648	Ⅵb				C	Ob−B	1.11	0.80	0.19	0.12			
2093	②	12.199	10.815	774.734	Ⅵa				C	Ob−B	1.39	1.27	0.26	0.32			
2094	②	12.273	10.931	774.679	Ⅵb				C	An	0.84	0.71	0.15	0.07			
2095	②	12.328	10.974	774.679	Ⅵb				C	An	0.90	1.28	0.19	0.19			
2096	②	12.409	11.075	774.718	Ⅵa				C	Ob−B	1.45	0.76	0.28	0.19			
2097	②	12.440	11.072	774.796	Ⅴ				C	An	1.71	1.10	0.15	0.41			
2098	②	12.491	11.276	774.719	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.42	1.40	0.25	0.43			
2099	②	12.495	11.399	774.737	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.32	0.88	0.39	0.37			
2100	②	12.543	11.650	774.783	Ⅴ				F	Ob−A	2.30	1.01	0.82	0.90			
2101	②	12.474	12.493	774.757	Ⅵa				F	An	1.87	1.20	0.49	1.21			
2103	②	12.049	12.023	774.524	Ⅵb				C	Ob−B	0.95	1.20	0.18	0.25			
2104	②	11.255	12.252	774.629	Ⅵb				C	Ob−A	1.10	0.97	0.12	0.16			
2106	②	6.766	12.885	775.652	Ⅳa				C	Ob−B	1.91	2.20	0.60	1.86			
2107	②	5.315	14.652	775.556	Ⅳa				F	Ob−B	3.30	2.60	1.20	10.94			
2108	②	10.676	−6.995	775.177	Ⅳa				C	Ob−B	0.70	1.19	0.21	0.12			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2109	②	11.917	11.792	774.533	Ⅵb				C	Ob－B	0.60	0.50	0.14	0.03			
2110	②	12.414	10.909	774.763	Ⅴ				C	An	0.88	0.90	0.61	0.38			
2111	②	11.475	12.142	774.506	Ⅵb				C	An	0.92	1.00	0.41	0.25			
2112	②	27.475	11.713	774.357	Ⅳa	1			F	Ob－B	2.93	2.22	1.11	5.34			
2113	②	29.439	12.382	774.315	Ⅳa	1			F	Ob－B	1.88	0.98	0.61	1.08			
2114	②	5.452	12.569	774.797	Ⅴ	1			F	An	1.38	2.78	0.81	2.82			
2115	②	5.336	13.325	774.595	Ⅵa				F	An	3.42	2.88	1.36	12.24			
2116	②	5.560	13.628	774.427	Ⅵa				F	Sch	2.60	3.49	1.09	11.27			
2117	②	5.671	13.712	774.556	Ⅵa				C	Ob－C	1.59	1.22	0.40	0.56			
2118	②	6.950	13.938	774.503	Ⅵa				C	Ob－C	0.93	1.29	0.49	0.50			
2119	②	12.056	10.567	774.090	Ⅵa				C	Qu	0.79	1.30	2.28	0.39			
2120	②	12.221	10.622	774.019	Ⅵb				C	An	1.31	0.58	0.75	0.18			
2121	②	12.172	10.587	773.962	Ⅵb				Trz	An	1.89	2.28	0.71	2.17		18	
2122	②	12.504	10.595	774.133	Ⅵa	1			F	Ob－C	2.02	2.20	0.47	1.43		43	
2123	②	12.470	10.586	774.077	Ⅵa				C	An	0.75	1.50	0.19	0.18			
2124	②	12.535	10.794	774.024	Ⅵb				C	An	1.27	1.01	0.32	0.33			
2126	②	12.494	11.081	774.031	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	0.54	0.12	0.03			
2127	②	27.267	11.163	773.908	Ⅳb				F	An	2.40	2.03	0.32	1.39			
2128	②	27.020	12.912	773.643	Ⅴ				F	Ob－B	2.42	2.20	0.89	4.16			
2129	②	10.945	−7.490	774.169	Ⅴ				C	Ob－B	1.83	1.30	0.27	0.42			
2130	②	11.375	−7.610	774.194	Ⅳb				F	Ob－B	3.86	2.92	0.71	8.94	2554		
2131	②	10.803	−9.444	774.309	Ⅳb				F	Ob－C	1.15	1.03	0.89	0.90			
2132	②	11.089	−8.762	774.221	Ⅳb				F	An	2.70	2.71	0.81	5.08			
2133	②	12.164	−8.012	774.190	Ⅳb				F	An	2.29	3.52	0.97	4.85			
2134	②	11.183	−6.663	774.284	Ⅳb				F	An	1.10	1.87	0.70	1.14			
2135	②	10.709	−7.400	775.122	Ⅵa				F	H－Sh	3.32	1.69	0.91	3.04			
2136	②	10.881	−7.493	774.917	Ⅵb				C	Qu	1.10	1.61	0.19	0.21			
2137	②	11.234	−7.186	775.081	Ⅴ				C	Ob－B	1.19	1.01	0.41	0.38			
2138	②	11.404	−7.854	775.046	Ⅴ	1	1		Kn	An	2.24	1.18	0.63	1.61		41	
2140	②	11.983	−7.787	774.968	Ⅵa				Co	Ch	5.60	2.90	1.40	13.40		46	
2141	②	11.632	−9.374	774.890	Ⅵa				F	Qu	1.88	1.38	0.31	0.87			
2144	②	12.264	12.551	774.677	Ⅵb				F	Ob－B	2.63	2.85	0.80	5.22			
2146	②	14.164	12.249	775.614	Ⅳa				C	An	0.78	0.65	0.27	0.08			
2148	②	27.286	14.438	774.608	Ⅴ			1	Co	Ob－B	3.00	3.77	2.65	11.29		46	
2149	②	28.830	10.556	774.718	Ⅴ				C	An	1.18	1.12	0.79	0.87			
2150	②	13.304	11.663	775.524	Ⅳa	1	1		RF	An	3.17	3.41	1.47	14.35	2524・3026		
2151	②	5.987	14.007	775.310	Ⅵb				F	Ob－C	1.62	1.15	0.68	0.85			
2152	②	5.989	13.918	775.312	Ⅵb				C	Ob－C	0.62	0.73	0.58	0.20			
2153	②	7.805	13.898	775.280	Ⅴ				F	An	1.19	1.38	0.72	1.25			
2155	②	12.814	−6.932	774.933	Ⅵa			1	Co	Ch	2.31	2.22	0.50	2.17		46	
2157	②	6.680	13.789	774.929	Ⅵb	1			F	An	1.20	2.48	0.43	1.04			
2158	②	5.847	13.184	774.821	Ⅵb	1			F	Ob－C	0.89	0.85	0.32	0.22			
2159	②	5.869	13.187	774.827	Ⅵb				C	Ob－C	0.52	0.61	0.10	0.02			
2160	②	5.600	12.383	774.880	Ⅵb				C	An	1.80	0.70	0.39	0.39			
2161	②	12.599	11.342	774.932	Ⅵa	1			F	An	1.86	3.00	0.61	4.08	2178		
2162	②	12.603	11.619	774.938	Ⅵa				F	An	2.15	1.55	0.31	1.07			
2163	②	12.599	12.270	774.900	Ⅵa				F	An	1.82	2.91	0.89	4.90	2165		
2164	②	12.910	11.319	775.019	Ⅴ				C	Ob－B	0.92	1.10	0.25	0.18			
2165	②	13.655	11.633	775.087	Ⅳb				F	An	3.82	2.61	1.07	7.06	2163		
2166	②	14.025	11.952	775.121	Ⅳb				C	Ob－B	0.82	1.40	0.21	0.17			
2167	②	14.319	12.239	774.837	Ⅵa				F	An	1.60	1.20	1.00	1.55			
2169	②	13.412	11.054	775.042	Ⅳb	1			F	Ob－B	1.24	1.54	0.61	0.98			
2170	②	13.748	11.114	774.867	Ⅴ				C	An	1.01	1.49	0.18	0.29			
2171	②	13.050	10.745	774.876	Ⅵa				C	Ob－B	1.24	1.37	0.33	0.49			
2172	②	13.196	10.640	774.948	Ⅴ				C	Qu	1.08	0.92	0.17	0.17			
2173	②	13.010	10.610	775.103	Ⅳb				C	Ag	0.81	1.11	0.21	0.18			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2174	②	13.062	10.655	775.087	Ⅳb				C	An	0.87	1.10	0.32	0.29			
2175	②	13.252	10.593	775.150	Ⅳb				C	An	0.92	0.60	0.12	0.07			
2176	②	13.974	10.571	775.031	Ⅴ				C	An	0.80	0.92	0.48	0.26			
2177	②	14.931	11.886	774.710	Ⅵa			1	Trz	An	4.03	5.09	1.13	27.12		44	
2178	②	13.041	12.197	774.859	Ⅵa	1	1		RF	An	2.24	2.87	1.21	6.13	2161		
2179	②	16.562	10.556	775.274	Ⅳa				C	Ob－C	1.25	1.10	0.76	0.96			
2180	②	27.056	13.719	774.117	Ⅵb				F	An	2.23	1.77	0.69	2.43			
2181	②	11.791	－9.424	774.468	Ⅵa			1	UF	Ob－B	4.59	2.46	0.53	4.35		43	
2182	②	11.711	－8.451	774.422	Ⅵa				F	H－Sh	3.86	3.88	1.30	22.57			
2183	②	11.641	－8.366	774.365	Ⅵb				C	An	0.76	1.47	0.31	0.46			
2184	②	12.232	－8.385	774.536	Ⅵa				Co	Qu	3.08	3.20	2.35	17.20	2446・3012		
2185	②	11.177	－8.109	774.457	Ⅵb	1			F	Ob－B	0.85	1.78	0.12	0.35			
2186	②	12.964	－16.509	774.346	Ⅳb				F	Ob－B	2.59	2.77	0.71	6.74	3056		
2187	②	13.917	11.618	774.709	Ⅵa				C	An	0.94	1.07	0.20	0.20			
2188	②	13.970	12.552	774.720	Ⅴ				F	H－Sh	2.00	2.00	0.50	1.96			
2189	②	11.286	－8.342	774.456	Ⅵa				C	An	0.78	0.85	0.41	0.40			
2190	②	25.645	12.474	773.986	Ⅵb		1		RF	Ob－B	2.57	1.80	0.68	3.03			
2191	②	12.892	－8.778	774.421	Ⅵb				F	Ob－B	1.95	1.60	0.89	3.14			
2192	②	12.662	10.606	775.000	Ⅴ	1			F	Ob－B	1.04	1.30	0.19	0.18			
2193	②	12.570	10.825	774.942	Ⅴ				F	Ob－B	1.69	1.83	0.39	1.17			
2194	②	12.575	10.881	774.928	Ⅵa				C	An	0.72	0.92	0.13	0.08			
2196	②	12.970	11.268	774.914	Ⅵa				C	An	0.31	0.67	0.11	0.01			
2197	②	12.852	11.476	774.934	Ⅵa				C	An	1.22	1.11	0.33	0.33			
2198	②	12.959	11.503	774.946	Ⅵa				C	Ob－B	1.48	0.78	0.38	0.33			
2199	②	12.834	11.805	774.957	Ⅵa				C	An	0.82	0.79	0.11	0.09			
2200	②	12.852	11.856	774.955	Ⅵa				C	Ob－B	0.58	0.81	0.22	0.07			
2201	②	12.775	12.054	774.964	Ⅵa	1			F	Ob－B	1.73	2.38	0.62	2.31			
2202	②	12.991	12.221	774.932	Ⅵa				C	Ob－B	0.70	1.17	0.41	0.35			
2203	②	13.046	12.274	774.936	Ⅵa				C	An	0.62	1.11	0.21	0.09			
2204	②	12.927	12.397	774.953	Ⅵa				F	Ob－B	2.07	1.38	0.41	1.30			
2205	②	13.019	12.453	774.943	Ⅵa				F	An	1.78	2.10	0.47	1.62			
2206	②	13.428	11.755	774.932	Ⅵa				F	An	1.60	1.67	0.59	1.24			
2207	②	13.628	11.573	774.907	Ⅵa				F	Ob－B	1.33	0.78	0.31	0.26			
2208	②	13.208	11.259	774.855	Ⅵa				C	Ob－B	0.89	0.91	0.22	0.12			
2209	②	12.995	10.582	774.937	Ⅴ				C	An	0.72	0.88	0.16	0.12			
2210	②	13.252	10.562	775.063	Ⅴ				C	Ob－B	1.15	1.60	0.39	0.61			
2211	②	13.523	10.593	774.890	Ⅵa				C	An	0.50	0.71	0.11	0.01			
2213	②	12.558	10.558	10.554	Ⅴ				F	Ob－B	2.26	1.53	0.30	0.70			
2214	②	12.432	10.552	774.699	Ⅵb				C	Ob－C	0.60	0.48	0.21	0.04			
2215	②	12.491	10.707	774.570	Ⅶ				C	Sch	0.66	1.52	0.21	0.21			
2216	②	12.574	12.178	774.646	Ⅵb				F	Ob－B	1.31	2.19	0.38	1.12			
2217	②	14.647	12.479	774.879	Ⅵb				UF	Ob－B	2.12	2.01	0.30	1.26		22	
2218	②	15.134	11.656	775.246	Ⅴ				F	Ob－B	2.59	2.49	0.33	2.21			
2219	②	15.588	11.360	775.248	Ⅴ				C	Ob－B	0.94	1.31	0.38	0.25			
2220	②	12.557	－7.813	774.610	Ⅵb			1	UF	Ob－B	2.35	2.70	0.40	2.91		23	
2221	②	10.552	－8.881	774.721	Ⅵb				F	Ob－B	1.80	1.38	0 39	0.86			
2222	②	13.325	－9.253	774.656	Ⅵb				C	An	1.31	1.72	0 20	0.72			
2223	②	13.455	－8.523	774.625	Ⅵb	1			F	Ob－C	1.74	1.57	0 55	1.31			
2224	②	27.096	11.249	774.185	Ⅵb				F	Ob－B	2.82	2.69	0 41	2.82			
2225	②	27.136	11.250	774.197	Ⅵb				C	An	0.43	0.95	0.16	0.02			
2226	②	27.178	11.288	774.195	Ⅵb				C	An	1.95	1.41	0.39	0.63			
2227	②	27.648	11.919	774.207	Ⅵb				C	An	0.72	1.02	0.12	0.07			
2228	②	28.696	13.304	774.146	Ⅵb				C	An	0.68	1.02	1.01	0.07			
2229	②	28.747	13.369	774.142	Ⅵb				C	An	1.29	1.64	0.28	0.33			
2230	②	28.028	13.935	774.124	Ⅵb				F	An	2.37	3.84	0.91	4.94			
2231	②	27.402	14.110	774.188	Ⅵb				F	An	2.59	3.00	0.50	4.07			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2233	②	14.328	11.540	774.736	Ⅵb				F	An	1.82	3.01	0.43	2.84			
2234	②	18.213	11.851	775.167	Ⅴ				F	Ob－B	4.21	2.38	0.86	7.32			
2235	②	13.634	11.674	774.737	Ⅵb				C	Ob－B	0.92	0.91	0.50	0.41			
2236	②	12.595	－7.703	774.591	Ⅵb	1			F	Ob－B	4.02	5.32	1.08	20.53		23	
2237	②	8.530	15.021	775.765	Ⅳb				C	Ob－B	1.56	1.02	0.35	0.30			
2238	②	8.183	14.201	775.178	Ⅵb				F	Ob－C	1.18	1.87	0.42	0.73			
2239	②	8.236	14.256	775.178	Ⅵb				C	Ob－C	0.71	1.19	0.22	0.26			
2240	②	8.257	13.654	775.277	Ⅴ	1			F	An	2.43	1.82	1.10	4.19	2302		
2241	②	8.153	10.722	775.217	Ⅵb				F	Ob－B	1.89	1.21	0.23	0.55			
2243	②	12.690	10.545	774.883	Ⅵb				C	Ob－B	0.66	0.89	0.28	0.12			
2244	②	13.081	10.896	774.894	Ⅵb		1		Sc	H－Sh	5.54	3.82	1.53	28.61	4075・4208	21	
2245	②	12.629	12.175	774.758	Ⅶ	1			F	Ob－B	1.72	1.91	0.46	1.12			
2246	②	12.836	12.293	774.911	Ⅵb				F	Ob－B	1.72	1.81	0.42	1.26			
2247	②	12.908	12.356	774.687	Ⅶ				Co	An	3.06	4.19	2.42	38.28			
2248	②	13.024	12.538	774.844	Ⅵb				C	An	0.72	1.11	0.21	0.13			
2249	②	13.630	12.280	774.868	Ⅵb				C	An	1.42	0.71	0.55	0.53			
2250	②	13.703	11.417	774.718	Ⅶ				RF	Sch	2.56	2.09	0.94	5.74			
2251	②	13.562	11.082	774.752	Ⅶ				C	H－Sh	0.68	0.90	0.18	0.05			
2252	②	13.538	10.546	774.769	Ⅶ				C	Ob－C	0.88	0.70	0.31	0.20			
2254	②	13.868	12.411	774.658	Ⅶ				F	An	3.02	2.91	0.78	5.17	3096		
2255	②	14.311	12.404	774.653	Ⅶ				F	H－Sh	1.73	2.28	0.30	1.64			
2256	②	15.157	10.923	775.271	Ⅴ				C	H－Sh	0.51	0.61	0.22	0.04			
2257	②	18.439	11.872	775.203	Ⅴ				C	Ob－B	1.31	1.16	0.47	0.56			
2260	②	23.753	16.100	775.249	Ⅳa				F	Ob－B	1.72	1.91	0.46	1.21			
2262	②	29.285	14.086	774.183	Ⅵb				C	H－Sh	0.61	0.51	0.20	0.03			
2263	②	28.958	13.992	774.151	Ⅵb				C	An	0.80	1.00	0.39	0.26			
2269	②	11.282	－17.209	774.507	Ⅴ	1			F	Ob－B	2.33	0.72	0.72	2.72			
2270	②	10.824	－17.848	774.308	Ⅵa				C	An	0.71	1.00	0.19	0.16			
2275	②	12.065	－8.506	774.697	Ⅵb				F	Ob－B	1.44	2.29	0.69	2.21			
2276	②	11.832	－8.183	774.743	Ⅵb				F	Ag	1.11	1.99	1.00	2.03			
2277	②	13.489	－7.611	774.796	Ⅵb				F	Ob－B	1.71	1.43	0.38	0.66			
2296	②	28.955	14.381	774.399	Ⅵb				F	Ob－B	1.04	1.70	0.41	0.74			
2299	②	10.727	－16.700	774.396	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.71	2.21	0.20	1.43			
2300	②	12.428	－17.036	774.323	Ⅵb				C	Ob－C	0.37	0.88	0.19	0.03			
2302	②	9.183	12.681	775.129	Ⅵb				F	An	3.62	3.00	1.29	15.24	2240		
2303	②	17.029	16.926	774.530	Ⅳa				F	H－Sh	2.80	3.60	0.64	7.77	2367		
2304	②	17.154	18.288	774.608	Ⅳa				F	Ob－B	1.17	1.70	0.36	0.42			
2305	②	15.523	18.382	774.645	Ⅳa				F	H－Sh	1.24	1.80	0.29	0.79			
2309	②	13.887	12.416	773.798	Ⅶ				F	An	0.69	0.91	0.45	0.27			
2311	②	23.437	13.259	774.516	Ⅳa	1	1	1	RF	Ob－C	1.90	1.87	0.56	1.72		60	
2312	②	23.710	13.346	774.519	Ⅳa				F	Ob－C	1.60	1.29	0.87	1.16			
2313	②	21.461	17.213	774.449	Ⅳa		1		C	Ob－E	0.70	1.18	0.12	0.06			
2317	②	27.511	8.228	773.833	Ⅶ		1		Trz	Ob－B	3.12	2.68	0.82	10.05		19	
2319	②	10.736	－18.689	773.461	Ⅴ				Trz	Ob－C	1.57	1.71	0.59	0.96		44	
2320	②	11.061	－18.616	773.444	Ⅴ				C	Ob－B	1.13	0.87	0.22	0.20			
2321	②	10.835	－17.840	773.404	Ⅵa				Co	Ob－B	5.52	3.65	2.28	39.04		47	
2322	②	10.872	－17.646	773.388	Ⅵb				C	An	0.69	0.91	0.45	0.27			
2324	②	12.239	－17.351	773.426	Ⅵb				F	Ob－C	1.78	1.79	0.69	2.23			
2325	②	12.396	－16.467	773.405	Ⅵb				C	H－Sh	0.61	0.48	0.09	0.01			
2331	②	17.157	15.271	774.200	Ⅳa				C	Ob－B	1.80	1.39	0.28	0.52			
2333	②	15.562	12.958	774.746	Ⅳa				UF	Ob－B	2.75	3.33	0.80	5.96		60	
2334	②	15.830	12.594	774.764	Ⅳa	1	1	1	F	Ob－B	1.80	1.77	0.49	1.16			
2335	②	16.536	13.363	774.553	Ⅳa			1	UF	Ob－D	3.42	2.61	0.61	4.25			
2339	②	12.207	－17.653	773.243	Ⅵb				F	Ob－B	1.40	1.00	0.71	0.84			
2342	②	11.941	16.741	774.451	Ⅴ				C	Ob－B	1.25	1.65	0.22	0.58			
2343	②	11.840	16.582	774.450	Ⅴ				F	Ch	1.42	2.78	0.51	1.57	4080		

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2344	②	10.862	15.948	774.453	Ⅴ				C	Ob－B	0.92	0.97	0.16	0.12			
2345	②	16.001	17.382	774.509	Ⅳb				C	Ob－B	1.23	1.77	0.86	1.27			
2346	②	16.432	16.998	774.498	Ⅳb	1			F	Ob－B	2.28	1.78	0.92	3.85			
2347	②	20.625	17.747	774.429	Ⅳb				F	An	1.81	1.86	0.53	1.79			
2349	②	23.978	19.017	774.222	Ⅳb	1			F	An	1.74	1.58	0.60	0.25			
2362	②	20.648	18.403	774.357	Ⅳa				F	H－Sh	1.95	2.91	0.73	4.10			
2364	②	10.872	－16.456	773.583	Ⅵa				C	Ob－B	0.62	0.70	0.29	0.03			
2365	②	12.991	－17.910	773.233	Ⅵb				C	Ob－B	1.24	1.38	0.23	0.37			
2366	②	14.674	17.472	774.661	Ⅳb	1			F	Ob－B	1.67	2.91	1.12	5.12			
2367	②	13.719	15.714	774.481	Ⅳb			1	F	H－Sh	4.00	2.79	0.90	8.59	2303		
2368	②	13.755	15.759	774.478	Ⅳb				F	Ob－B	1.86	2.32	0.58	2.08			
2369	②	13.823	13.257	774.623	Ⅳb				F	An	1.45	1.87	0.40	1.02			
2370	②	13.829	13.278	774.624	Ⅳb				C	Ob－B	0.57	0.82	0.08	0.04			
2371	②	13.515	－17.969	773.362	Ⅵa				C	Ob－B	1.30	1.05	0.89	0.91			
2394	②	15.737	15.018	774.262	Ⅳb				F	Ob－B	2.71	1.94	0.86	3.61			
2395	②	16.968	17.711	774.227	Ⅳb				C	Ob－B	1.65	1.22	0.57	0.92			
2396	②	17.087	17.457	774.191	Ⅳb				F	H－Sh	1.26	2.31	0.60	1.34			
2397	②	16.289	16.114	774.201	Ⅳb				F	An	1.70	2.66	0.59	2.46	4183		
2410	②	14.396	13.475	774.391	Ⅴ				F	Ob－B	1.89	1.50	0.43	1.19			
2411	②	14.471	13.973	774.375	Ⅴ	1			F	Ob－B	2.52	1.90	0.41	2.52			
2412	②	14.839	15.885	774.233	Ⅴ		1	1	RF	Sa	3.39	4.87	1.50	24.04			
2413	②	24.161	10.516	774.612	Ⅳa				F	Ob－C	1.87	1.92	0.81	1.58			
2415	②	15.887	18.418	774.389	Ⅳb				C	H－Sh	0.87	1.01	0.20	0.16			
2416	②	17.032	18.376	774.238	Ⅴ				C	H－Sh	1.47	1.13	0.42	0.64			
2417	②	16.064	15.818	774.272	Ⅴ		1		RF	Ob－B	2.13	1.60	0.99	2.04			
2418	②	16.022	13.444	774.309	Ⅴ				F	An	0.78	1.39	0.99	0.94			
2420	②	11.428	－19.140	773.152	Ⅵb				C	Ob－C	1.34	1.28	0.91	1.68			
2437	②	23.355	11.526	774.404	Ⅳa				F	Ob－B	2.30	2.58	0.70	3.52			
2438	②	22.822	10.724	774.450	Ⅳa	1			F	Ob－C	2.73	2.10	0.85	3.82			
2440	②	22.664	14.540	774.460	Ⅳa				C	Ob－B	0.95	0.77	0.39	0.26			
2442	②	22.301	12.065	774.534	Ⅳa				F	Ob－C	2.69	1.25	0.53	1.51			
2445	②	14.816	17.479	774.250	Ⅴ		1		RF	Ob－B	2.27	2.35	0.70	2.64			
2446	②	11.874	－12.494	774.379	Ⅳb				F	Qu	1.50	1.88	1.01	1.96	2184・3012		
2447	②	13.518	9.315	774.662	Ⅳb				F	Ob－B	2.56	2.66	0.54	4.36			
2448	②	13.478	3.828	775.001	Ⅳa				F	Ob－C	1.43	2.07	1.11	2.86			
2449	②	13.944	4.381	775.040	Ⅳa				F	Ob－C	1.15	1.49	0.57	0.70			
2450	②	12.366	4.229	775.020	Ⅳa				C	Ob－C	0.50	1.02	0.27	0.12			
2451	②	14.561	3.896	774.945	Ⅳa				C	Ob－C	1.08	1.51	0.32	0.54			
2452	②	19.282	7.360	774.577	Ⅳa	1		1	UF	Ob－B	3.38	2.29	0.72	4.70			
2453	②	13.501	－11.624	774.204	Ⅳa				F	Ob－B	2.40	1.03	0.82	1.15			
2454	②	16.808	－11.897	773.914	Ⅴ				F	Ob－B	2.90	3.92	0.74	11.26			
2455	②	12.404	－12.557	774.165	Ⅴ				Co	Ch	2.68	5.46	3.17	48.02	48		
2456	②	14.790	－10.790	774.360	Ⅳa			1	UF	Ob－C	3.40	2.12	1.03	5.96			
2457	②	17.668	－13.080	773.970	Ⅳb				F	Ob－B	3.26	2.59	0.81	7.70			
2459	②	13.474	4.027	774.872	Ⅳb				C	Ob－C	0.63	1.24	0.31	0.21			
2460	②	13.730	－12.497	774.080	Ⅳb				F	Ob－B	2.01	2.00	0.59	2.59			
2461	②	14.088	－14.627	773.920	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.10	1.97	1.18	1.02			
2462	②	17.309	－14.230	773.668	Ⅴ				C	Ob－B	1.37	1.20	0.41	0.47			
2467	②	11.006	－14.358	774.117	Ⅳb				C	Ob－C	1.09	1.23	0.34	0.36			
2468	②	18.088	5.805	774.560	Ⅳb				F	Ob－C	2.39	1.88	1.47	4.81	2925		
2469	②	21.483	15.986	774.160	Ⅴ				F	Ob－B	2.73	2.42	0.62	4.23			
2470	②	11.502	－4.294	774.669	Ⅳb	1		1	UF	Rh	5.26	2.78	0.80	8.84		60	
2471	②	11.303	－4.688	774.663	Ⅳb				F	An	1.39	1.75	0.48	0.73			
2473	②	11.016	－5.614	774.658	Ⅳb				F	Ob－C	1.32	1.25	0.24	0.53			
2474	②	10.586	－6.234	774.828	Ⅳb				F	Rh	2.02	1.69	0.49	1.36			
2475	②	12.210	－12.644	774.077	Ⅴ	1			F	Ob－B	2.00	1.29	0.38	2.88			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2476	②	11.310	−13.106	774.011	Ⅵa				F	Ob−B	1.47	2.08	0.62	1.65			
2477	②	13.723	−13.859	773.909	Ⅴ				C	Ob−B	0.70	0.80	1.04	0.02			
2478	②	14.770	−12.893	774.033	Ⅳb				F	Ob−B	2.72	2.30	0.51	3.74			
2479	②	15.066	−12.719	773.917	Ⅴ				F	Ob−B	3.09	1.60	0.50	2.01			
2481	②	6.739	8.335	775.254	Ⅳa				C	Ob−C	1.08	0.90	0.76	0.68			
2482	②	8.452	8.347	775.168	Ⅳa	1			F	Ob−C	2.44	2.90	0.91	4.27			
2484	②	11.955	2.879	774.749	Ⅴ				C	Ob−C	1.00	1.47	0.64	0.70			
2485	②	12.878	2.636	774.719	Ⅵa				C	Ob−C	1.12	0.98	0.21	0.18			
2486	②	13.745	3.783	774.727	Ⅳb				C	Ob−C	0.63	1.24	0.31	0.21			
2487	②	14.206	3.318	774.693	Ⅳb				F	Ob−C	1.49	1.25	0.40	0.59			
2488	②	13.356	4.428	774.747	Ⅳb				F	Ob−C	1.80	1.21	0.49	0.81			
2489	②	23.784	17.204	774.014	Ⅳb				Co	Ob−B	2.40	3.31	2.48	11.40		61	
2490	②	12.688	−3.387	774.505	Ⅴ				F	Ob−B	1.99	1.54	0.36	0.83			
2491	②	12.907	−3.496	774.504	Ⅴ				C	Ob−B	1.32	1.11	0.11	0.22			
2492	②	13.369	−3.829	774.515	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.79	0.90	0.34	0.31			
2493	②	12.545	−6.049	774.458	Ⅴ		1		Kn	An	4.02	1.46	0.76	3.56		41	
2494	②	11.731	−5.928	774.474	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.50	2.16	0.50	1.45			
2495	②	10.844	−4.510	774.637	Ⅳb		1		Kn	Ob−B	4.51	1.30	0.82	3.09		60	
2496	②	10.979	−6.263	774.505	Ⅳb				F	An	4.02	3.70	0.98	14.23			
2497	②	8.185	7.055	775.072	Ⅳb	1		1	UF	Ob−C	2.70	2.78	0.65	3.21			
2498	②	8.167	6.929	775.064	Ⅳb	1			F	An	2.77	3.62	0.69	9.85	3584・3586		
2499	②	6.756	−12.051	774.450	Ⅳb		1		Kn	Ob−B	4.11	1.68	0.88	4.52		60	
2501	②	5.517	−13.767	774.398	Ⅳa				F	Ob−B	1.57	2.35	0.54	2.14			
2502	②	8.303	−11.046	774.293	Ⅴ				C	Ob−B	1.11	1.12	0.18	0.28			
2503	②	12.643	−14.918	773.996	Ⅳb				F	Ob−C	1.36	1.38	0.27	0.49			
2504	②	5.712	1.745	774.794	Ⅴ	1			F	Ob−C	0.99	1.76	0.31	0.55			
2505	②	5.478	1.506	774.801	Ⅴ			1	UF	Rh	1.76	2.40	0.60	2.17			
2506	②	5.016	1.391	774.851	Ⅴ				C	Ob−C	0.47	0.57	0.31	0.04			
2507	②	6.462	0.711	774.818	Ⅴ				F	Ob−B	2.24	3.07	0.64	6.74			
2508	②	6.816	0.998	774.851	Ⅳb				F	Ob−C	2.24	1.43	0.57	1.19			
2509	②	1.068	6.649	774.696	Ⅳb				F	Rh	1.89	1.61	0.59	1.67	3235・3999		
2510	②	24.855	17.869	773.912	Ⅳa	1			F	Ob−C	2.47	3.10	0.82	6.28			
2511	②	22.393	16.089	773.935	Ⅴ				C	Ob−B	1.02	1.49	0.33	0.65			
2512	②	6.496	−11.541	774.449	Ⅳb				UF	Rh	3.63	3.39	0.41	6.45		60	
2513	②	11.411	−15.143	773.947	Ⅳb				F	Ob−B	2.50	2.18	0.90	3.78			
2515	②	5.432	−4.434	774.988	Ⅳb				F	Ob−B	3.31	2.45	0.54	4.42			
2516	②	6.498	−13.080	774.340	Ⅳb	1			F	Ob−B	3.00	3.92	0.46	8.38			
2521	②	7.970	−5.239	774.730	Ⅳb				C	Rh	1.18	1.59	0.39	0.54			
2522	②	7.323	−3.850	774.867	Ⅳa	1			F	Rh	1.28	1.31	0.18	0.22			
2523	②	9.365	−3.008	774.756	Ⅳb				F	Ob−B	2.47	3.12	0.87	5.86			
2524	②	9.066	7.984	774.718	Ⅴ	1			F	An	4.17	5.12	1.47	24.90	2150・3026		
2525	②	5.161	8.387	774.712	Ⅵa	1			F	Ob−B	2.78	1.88	0.47	1.96			
2526	②	5.493	9.342	774.745	Ⅴ				F	An	2.79	1.90	0.82	4.66	4085		
2527	②	11.805	−16.033	773.770	Ⅴ				F	Ob−C	4.08	3.71	1.19	16.29			
2533	②	6.043	−3.166	774.815	Ⅳb				F	Ob−B	2.67	2.35	0.65	2.15			
2534	②	22.505	13.984	773.879	Ⅵa			1	UF	Ch	4.50	4.31	0.60	27.15			
2535	②	20.868	12.503	773.955	Ⅵa	1			F	An	1.50	2.08	0.79	2.54			
2536	②	2.073	−11.093	774.854	Ⅳa				C	Ob−B	1.53	0.89	0.42	0.51			
2540	②	3.507	−15.056	774.262	Ⅳb				C	Ob−B	0.90	1.57	0.23	0.39			
2541	②	6.772	−16.912	774.378	Ⅳa	1			F	Ob−B	2.39	2.20	0.53	2.29			
2542	②	7.868	−16.243	774.138	Ⅳa	1			F	Ob−B	2.95	3.46	0.50	7.79			
2543	②	9.016	−16.031	774.018	Ⅳb				C	H−Sh	1.18	0.81	0.32	0.26			
2544	②	9.301	−16.358	774.088	Ⅳb	1			F	Ob−B	2.32	1.91	0.54	1.84			
2546	②	8.532	−17.886	773.860	Ⅴ	1	1	1	Kn	Ob−A	2.90	2.18	0.74	3.61		41	
2547	②	4.776	−19.372	774.137	Ⅳb				F	Ob−B	2.70	1.16	0.51	2.01			
2548	②	2.655	−14.173	774.531	Ⅳb				C	Ob−B	1.78	1.06	0.53	0.75			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2549	②	33.286	11.136	773.897	V	1		1	UF	Ob－A	1.95	3.06	0.37	2.74			
2550	②	31.728	12.795	773.858	V	1			F	Ob－B	2.02	3.03	0.44	3.82			
2551	②	4.653	－12.006	774.513	Ⅳb				F	Ob－C	2.90	2.51	0.68	5.26			
2552	②	5.622	－17.429	773.964	V		1		Trz	Ob－B	2.44	1.70	0.78	2.22			
2553	②	3.522	－15.225	774.136	V				F	Ob－B	2.00	1.98	0.73	2.42			
2554	②	4.750	－11.691	774.407	V				Trz	Ob－B	2.94	2.65	0.61	2.47	2130	42	
2555	②	0.970	－0.716	774.958	V		1		Kn	Rh	4.42	1.48	0.69	3.69		41	
2556	②	3.350	－1.033	775.040	Ⅳb	1			F	Ob－D	2.94	1.93	1.18	4.94	3173		
2557	②	0.557	－2.430	775.191	Ⅳb	1			F	Ob－B	1.14	1.57	0.36	0.74			
2558	②	0.865	－7.361	775.088	Ⅳa	1			F	Ob－B	1.62	2.60	0.61	2.72			
2559	②	1.523	－9.066	775.220	Ⅳa	1			F	Ob－B	3.91	2.58	1.13	7.70			
2561	②	33.921	10.854	773.723	Ⅵa		1		RF	Ob－B	2.71	2.34	1.03	5.77			
2562	②	33.341	11.069	773.802	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.80	2.28	0.51	2.18			
2563	②	33.212	10.617	773.883	V				F	Ob－C	2.11	1.18	0.80	1.71			
2564	②	32.116	11.943	773.555	Ⅵb				C	Ob－C	1.22	1.50	0.14	0.29			
2565	②	32.166	11.989	773.561	Ⅵb				C	H－Sh	1.02	1.30	0.19	0.25			
2566	②	31.992	12.322	773.574	Ⅵb				F	An	1.89	2.20	0.32	1.45			
2567	③	3.017	3.428	773.558	Ⅵb				F	Ob－B	1.31	1.42	1.00	1.73			
2568	③	3.155	3.451	773.569	Ⅵb				C	Ob－B	0.98	1.18	0.56	0.63			
2569	③	3.180	1.150	773.604	Ⅵb				F	H－Sh	1.09	1.29	0.45	0.69			
2570	③	－27.423	－20.796	774.415	Ⅵa				C	Ob－C	0.90	1.13	0.59	0.53			
2571	③	－28.329	－24.708	774.224	Ⅵa				C	Ob－B	1.47	1.22	0.32	0.40			
2572	②	0.878	－14.152	774.168	Ⅵa	1			F	Ob－B	3.16	3.23	1.12	13.86			
2573	②	1.051	－14.931	774.151	Ⅵa	1			F	Ob－B	1.72	1.68	0.29	0.95			
2574	②	1.509	－13.468	774.233	Ⅵa				C	Rh	1.02	0.63	0.27	0.12			
2575	②	3.238	－11.910	774.237	Ⅵa				C	Ob－C	0.60	0.81	0.45	0.23			
2577	②	33.641	13.533	773.566	Ⅵb				F	Ob－B	1.82	2.10	0.50	1.82			
2578	②	0.860	－7.010	774.949	V				F	Ob－B	1.52	2.73	0.74	3.18			
2579	②	2.222	－11.972	774.286	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.88	1.55	0.38	1.08			
2580	②	2.146	－10.770	774.315	Ⅵb				C	Ob－C	0.61	0.70	0.58	0.25			
2581	②	2.636	－10.773	774.306	Ⅵb				C	An	0.69	1.07	0.60	0.40			
2582	②	1.524	－14.847	774.125	Ⅵa				F	Ob－B	2.11	2.21	0.74	2.34			
2583	②	1.920	14.935	774.110	Ⅵa	1			F	Ob－B	1.74	3.41	0.72	4.43			
2584	②	1.744	－7.904	774.745	V	1			F	Ob－B	1.53	1.77	0.43	1.32			
2585	②	0.937	－8.155	774.736	Ⅵa				F	Ob－B	4.42	1.88	1.50	9.15			
2586	②	4.469	－2.040	774.788	V				Co	Ob－B	2.66	3.35	1.71	14.01		48	
2587	②	3.152	－1.166	774.816	V	1			F	Ob－B	1.97	3.03	0.34	3.36			
2588	②	32.251	12.904	773.408	Ⅶ				F	Qu	1.50	2.58	0.61	3.09			
2589	②	32.992	13.993	773.301	Ⅵb				C	Ob－B	1.03	2.00	0.38	0.68			
2590	②	32.713	13.555	773.344	Ⅶ				F	Ob－B	0.90	1.55	0.20	0.36			
2591	②	1.453	－14.735	774.100	Ⅵb				C	Ob－B	0.58	1.39	0.22	0.12			
2592	②	2.061	－1.830	774.722	Ⅵb				C	An	0.68	0.84	0.59	0.34			
2593	②	4.669	－1.268	774.587	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.87	1.40	0.42	1.09			
2594	②	4.687	－3.008	774.736	V	1			F	Ob－B	1.43	1.42	0.32	0.68			
2595	②	3.804	－4.739	774.600	V				F	Ob－B	2.71	1.68	0.43	1.59			
2596	②	4.901	－5.347	774.637	V				C	Ob－C	1.03	1.06	0.40	0.30			
2597	②	4.228	－5.782	774.525	Ⅵa				C	Ob－B	1.22	1.02	0.17	0.26			
2598	②	4.560	－7.137	774.495	Ⅵa				Co	Rh	2.85	4.11	2.71	37.51		47	
2599	②	2.267	－12.073	774.045	Ⅵb				F	Ob－B	2.70	2.71	0.32	2.77			
2600	②	2.951	－12.521	774.077	Ⅵb				F	Ob－B	2.36	2.57	0.20	1.14			
2601	②	2.456	－14.061	774.034	Ⅵb	1			F	Ob－B	3.98	4.11	1.79	16.35			
2602	②	1.298	－14.536	774.083	Ⅵa				C	Ob－B	0.70	1.10	0.28	0.31			
2603	②	1.875	－14.637	774.008	Ⅵb			1	UF	H－Sh	2.32	3.08	0.39	2.75		22	
2604	②	1.819	－14.689	774.010	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.57	1.81	1.00	1.44			
2605	②	3.274	－14.468	774.030	Ⅵa				F	Ob－B	1.96	2.32	0.31	1.07			
2606	②	1.484	－16.328	774.030	V				Co	Ob－B	3.92	5.55	2.17	39.25	2553・2864		

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2607	②	11.385	7.884	774.711	Ⅳb				F	Ob−B	2.02	2.25	1.09	3.69			
2609	②	11.418	8.767	774.563	Ⅴ				C	Ob−C	1.52	1.03	0.22	0.33			
2610	②	12.215	9.309	774.668	Ⅴ			1	UF	Ag	2.97	2.60	0.82	6.01			
2611	②	16.927	6.167	774.382	Ⅴ			1	UF	Ob−C	1.89	1.92	0.51	1.67			
2612	②	30.867	13.706	774.943	Ⅵb				F	Ob−B	1.30	2.19	0.80	2.13			
2613	②	31.675	13.169	775.000	Ⅵb				C	Ob−C	0.88	0.78	0.51	0.37			
2614	②	33.242	14.744	775.082	Ⅵb				F	Ob−B	2.20	2.75	0.83	4.83			
2615	②	33.401	14.356	774.919	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	0.61	0.24	0.04			
2616	②	33.516	14.118	774.927	Ⅵb				C	Ob−B	1.02	0.79	0.50	0.23			
2617	②	33.606	14.120	774.943	Ⅵb				F	Ob−B	1.52	1.73	0.38	1.01			
2618	②	33.686	13.767	774.903	Ⅵb				F	Ob−B	1.60	2.36	0.91	2.70			
2619	②	34.504	14.117	774.902	Ⅶ				F	Ob−B	1.58	1.17	0.40	0.77			
2621	②	34.641	14.621	774.974	Ⅵb				C	Ob−C	0.63	0.49	0.16	0.02			
2622	②	2.455	−14.273	775.573	Ⅵb				F	An	1.20	1.87	0.71	1.72			
2623	②	2.841	−14.617	775.528	Ⅵb	1			F	Rh	1.11	2.72	0.42	1.44			
2624	②	2.314	−14.968	775.577	Ⅵb				F	Ob−B	1.78	1.48	0.29	0.62			
2625	②	1.984	−14.921	775.588	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.66	2.77	1.00	8.59			
2626	②	4.235	−16.725	775.576	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.40	3.29	0.31	4.15			
2627	②	0.403	−7.404	776.533	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.86	1.31	0.34	0.16			
2628	②	2.516	−0.880	774.634	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.32	1.41	0.51	1.78			
2629	②	3.093	−0.764	774.623	Ⅵb				F	Ob−B	1.82	2.73	1.39	5.68			
2630	②	3.346	−1.147	774.628	Ⅵb				C	Ob−B	1.23	0.90	0.59	0.30			
2631	②	3.604	−0.985	774.537	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.65	2.00	0.62	2.58			
2632	②	4.232	−1.228	774.580	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.00	1.29	0.48	0.75			
2633	②	2.901	−14.338	773.796	Ⅶ	1			F	Ob−B	1.13	1.32	0.40	0.57			
2634	②	4.077	−12.437	773.835	Ⅶ				C	An	0.98	1.09	0.37	0.50			
2635	②	2.821	−13.836	773.905	Ⅵb				C	Ob−B	0.48	0.65	0.41	0.12			
2636	②	2.531	−14.276	773.776	Ⅶ				C	Ob−B	1.10	1.10	0.17	0.18			
2637	②	1.115	−13.876	773.948	Ⅵb				F	Ob−B	2.62	1.75	0.54	0.93			
2638	②	2.830	−13.823	773.911	Ⅵb				F	Ob−B	2.57	2.00	0.87	4.00			
2639	②	1.471	−14.848	773.979	Ⅵb				F	Ob−B	1.29	1.38	0.39	0.64			
2640	②	2.100	−14.919	773.943	Ⅵb				C	Ob−B	1.60	0.97	0.42	0.47			
2641	②	6.972	−12.026	774.163	Ⅴ				C	Ob−B	2.12	0.89	0.31	0.42			
2642	②	8.528	−12.028	774.126	Ⅴ				C	Ob−B	0.99	1.27	0.47	0.34			
2643	②	9.032	−11.341	774.064	Ⅴ		1		RF	Ob−C	4.81	4.50	1.73	25.87			
2644	②	7.643	−13.198	774.092	Ⅴ				C	Ob−B	1.41	1.25	0.26	0.40			
2645	②	7.892	−10.824	774.204	Ⅴ			1	Co	Ob−B	5.69	3.13	3.03	30.12		47	
2646	②	8.903	−15.865	773.811	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.29	1.87	0.41	0.75			
2647	②	9.295	−17.254	773.710	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.47	1.27	0.29	0.50			
2648	②	8.812	−18.382	773.608	Ⅴ				C	Ob−B	0.89	1.51	0.50	0.89			
2650	②	6.179	−15.486	773.957	Ⅴ				F	Ob−B	2.81	2.33	1.13	7.84			
2651	②	1.612	−15.198	774.001	Ⅵa				F	Ob−B	1.01	1.30	0.58	0.64			
2652	②	1.754	−15.399	773.985	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	3.35	2.04	0.81	4.59			平坦剥離
2653	②	2.083	−15.138	774.035	Ⅵa				F	Ob−B	2.81	2.33	1.13	7.85			
2654	②	2.075	−15.340	774.029	Ⅵa				C	Ob−B	0.85	0.85	0.41	0.17			
2655	②	2.102	−15.442	774.023	Ⅵa				F	Ob−B	2.89	1.99	0.65	3.74			
2656	②	3.004	−15.914	773.906	Ⅵa				F	Ob−B	1.68	1.39	0.38	0.94			
2657	②	3.818	−16.479	773.830	Ⅴ				F	Ob−B	1.89	3.32	0.32	3.51			
2658	②	5.011	−15.759	773.878	Ⅵa				F	Ob−B	1.33	2.60	1.15	2.43			
2659	②	4.598	−16.815	773.825	Ⅵa				C	Ob−B	0.91	1.46	0.51	0.38			
2660	②	4.352	−17.833	773.740	Ⅴ				C	Ob−B	0.40	0.67	0.49	0.30			
2661	②	4.161	−17.822	773.773	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.95	2.48	0.21	1.52			
2662	②	4.969	−18.571	773.677	Ⅴ				F	H−Sh	2.28	1.90	0.57	1.40			
2663	②	3.155	−19.319	773.806	Ⅴ		1	1	Trz	Qu	2.52	2.52	0.61	3.41			
2664	②	3.063	−17.313	773.849	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.23	1.85	0.68	1.22			
2665	②	3.759	−16.950	773.809	Ⅵa				C	Ob−B	0.91	0.95	0.29	0.16			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2666	②	4.871	−6.179	774.339	Ⅵa	1			F	Ob−B	2.10	2.78	3.37	18.37	3237		
2667	②	0.589	−5.439	774.533	Ⅵb				C	Ob−C	0.70	0.80	0.39	0.18			
2668	②	3.932	−17.022	773.786	Ⅵa				F	Ob−B	1.30	1.51	0.27	0.43			
2669	②	4.654	−16.863	773.764	Ⅵa	1			F	Ob−B	2.10	2.11	0.83	2.96			
2670	②	13.979	8.471	774.377	Ⅴ				F	Ob−B	1.53	1.49	0.62	0.93			
2671	②	2.095	−15.194	773.879	Ⅵb				C	Ob−B	1.15	2.55	0.73	1.35			
2672	②	2.645	−15.089	773.831	Ⅵb				C	Ob−B	1.01	0.82	0.12	0.10			
2673	②	2.465	−15.879	773.863	Ⅵb				C	Ob−B	0.82	0.58	0.37	0.08			
2674	②	3.109	−15.376	773.835	Ⅵb				F	Ob−B	1.32	1.95	0.55	1.01			
2675	②	3.343	−15.359	773.846	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	1.81	1.56	0.49	1.24			
2676	②	3.758	−15.761	773.768	Ⅵb				F	Ob−B	1.64	1.63	0.29	0.95			
2677	②	3.171	−15.943	773.826	Ⅵb				C	Ob−B	0.74	0.82	0.12	0.11			
2678	②	2.895	−16.137	773.789	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.69	2.10	1.22	5.83			
2679	②	2.722	−15.991	773.781	Ⅵb				C	Ob−B	0.79	1.58	0.19	0.22			
2680	②	2.336	−16.196	773.842	Ⅵb				F	Ob−B	3.49	3.16	0.71	7.38			
2681	②	3.000	−16.457	773.793	Ⅵb				C	Ob−B	0.78	1.20	0.41	0.25			
2682	②	3.276	−16.234	773.796	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	3.27	2.16	0.88	4.55		18	
2683	②	3.468	−16.103	773.760	Ⅵb				F	Ob−B	1.84	1.97	0.32	0.99			
2684	②	4.380	−16.239	773.701	Ⅵb				C	Ob−B	0.89	1.25	0.15	0.16			
2685	②	4.380	−16.423	773.747	Ⅵb				C	Ob−B	1.04	1.20	0.20	0.33			
2686	②	4.307	−16.464	773.729	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.18	1.51	0.52	1.17			
2687	②	4.701	−17.243	773.702	Ⅵa				C	Ob−B	0.60	1.09	0.36	0.09			
2688	②	5.082	−16.916	773.646	Ⅵb		1		RF	Ob−B	2.74	1.91	0.58	2.68			
2689	②	4.278	−17.522	773.682	Ⅵa				F	Ob−B	2.48	1.81	0.67	1.93			
2690	②	3.686	−17.519	773.750	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.58	1.11	0.33	0.59			
2691	②	5.099	−18.248	773.637	Ⅵa				F	Ob−B	1.05	1.61	0.50	0.88			
2692	②	4.754	−19.122	773.585	Ⅵa				F	Ob−B	1.51	2.71	0.56	1.73			
2693	②	4.277	−18.746	773.641	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.42	2.63	0.24	2.53			
2694	②	3.844	−18.446	773.623	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.40	1.89	0.28	0.66			
2695	②	3.178	−18.362	773.681	Ⅵa				F	Ob−B	1.17	1.15	0.13	0.87			
2696	②	3.189	−18.844	773.685	Ⅵa				F	Ob−B	2.29	2.77	0.58	2.94			
2697	②	4.240	−17.312	773.627	Ⅵa				C	Ob−B	1.16	1.02	0.69	0.47			
2701	②	16.333	7.735	774.114	Ⅵb				C	Ob−C	0.79	1.17	0.80	0.77			
2702	②	31.343	4.941	773.995	Ⅴ				F	Ob−B	2.20	2.49	0.30	1.53			
2703	②	31.630	4.932	773.993	Ⅴ				F	Ob−B	1.88	2.32	0.65	2.51			
2704	②	3.680	−17.993	773.608	Ⅵb				F	Ob−B	1.11	1.66	0.27	0.46			
2705	②	4.637	−18.571	773.516	Ⅵb				F	Ob−B	1.22	1.27	0.32	0.62			
2706	②	3.321	−15.692	773.747	Ⅵb				C	Ob−B	0.93	0.89	0.26	0.07			
2707	②	4.163	−15.323	773.731	Ⅵb				Co	Ob−B	3.80	3.07	1.42	16.24	2914		
2708	②	4.979	−17.395	773.565	Ⅵb				C	Ob−B	0.63	1.19	0.51	0.36			
2709	②	2.777	2.602	775.142	Ⅳb				F	Ob−B	2.23	2.33	2.72	3.52			
2711	②	31.615	1.865	773.580	Ⅶ				C	Ob−C	0.70	0.56	0.53	0.24			
2712	②	4.772	−0.903	774.383	Ⅵb				F	Ch	2.00	4.28	0.85	6.24			
2713	②	7.935	−14.460	773.891	Ⅴ				C	Ob−B	1.59	0.57	0.19	0.19			
2714	②	7.934	−12.830	774.032	Ⅴ				C	Ob−B	0.49	0.85	0.36	0.16			
2715	②	8.290	−11.989	774.063	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.40	2.03	0.50	2.15			
2716	②	8.152	−11.552	774.126	Ⅴ	1			F	Ob−B	3.09	2.26	0.73	5.04			
2717	②	7.449	−12.039	773.980	Ⅵb				C	Ob−C	1.17	1.56	0.21	0.38			
2718	②	6.978	−12.191	774.055	Ⅵa				Trz	Ob−C	2.32	3.39	3.61	22.16		44	
2719	②	7.281	−10.711	774.105	Ⅵa				F	Ob−B	1.54	1.31	0.27	0.50			
2720	②	6.951	−10.725	774.174	Ⅵa				C	Ob−B	1.31	1.00	0.78	0.78			
2721	②	6.852	−10.594	774.147	Ⅵa				C	Ob−B	0.68	1.02	0.20	0.10			
2722	②	6.551	−11.376	774.057	Ⅴ				F	Ob−B	2.60	3.97	1.01	7.79			
2723	②	6.315	−11.422	774.105	Ⅴ				F	Ob−B	2.21	0.98	0.81	0.96			
2724	②	5.319	−10.761	774.131	Ⅵa				C	Ob−B	1.52	1.50	0.69	1.22			
2725	②	9.033	−13.339	773.925	Ⅵa				F	Ob−B	1.09	1.50	0.69	0.85			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2726	②	9.130	−12.924	773.950	Ⅵb				C	Ob−C	0.81	1.16	0.32	0.32			
2727	②	9.152	−12.559	774.047	Ⅴ	1	1		UF	Ob−C	1.70	1.18	0.21	0.41			
2728	②	9.092	−12.233	774.043	Ⅴ	1	1		UF	Ob−B	3.00	3.41	0.85	9.59		45	
2729	②	9.058	−5.178	774.645	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.97	2.11	0.38	1.02			
2731	②	8.635	−5.067	774.658	Ⅴ				C	Rh	1.25	0.58	0.17	0.08			
2732	②	9.328	−4.744	774.623	Ⅴ				F	Rh	0.92	2.57	0.24	0.71			
2733	②	2.988	0.824	774.921	Ⅴ				F	S−Sh	5.72	4.26	2.41	51.24			
2734	②	2.230	1.819	774.970	Ⅴ				F	Ob−C	1.90	1.25	0.46	0.83			
2735	②	4.519	0.970	774.882	Ⅴ	1	1		RF	Ob−C	1.00	2.74	0.88	4.38			
2736	②	3.654	7.091	775.155	Ⅳb	1	1		RF	Ch	4.25	5.10	1.71	29.12	2710		
2737	②	14.786	1.350	774.525	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.61	2.24	1.10	3.46			
2738	②	14.099	2.822	774.630	Ⅴ				C	Ob−C	0.69	0.78	0.20	0.10			
2739	②	14.337	3.219	774.610	Ⅴ				C	Ob−C	0.64	0.91	0.51	0.30			
2740	②	14.535	3.166	774.595	Ⅴ				F	Ob−C	1.38	1.50	0.31	0.67			
2741	②	14.383	3.395	774.595	Ⅴ				F	Ob−C	1.70	1.28	1.11	1.83			
2742	②	14.103	3.338	774.617	Ⅴ				C	Ob−C	0.67	0.70	0.21	0.05			
2743	②	13.820	3.236	774.515	Ⅵa				C	Ob−C	1.43	1.25	0.87	1.23			
2745	②	13.951	3.712	774.599	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.10	1.38	0.40	0.56			
2746	②	14.092	3.531	774.479	Ⅵa				Trz	Ob−C	1.61	2.00	0.27	0.24			
2747	②	13.902	3.866	774.588	Ⅴ				F	Ob−C	2.20	2.11	0.96	2.57			
2748	②	14.181	3.732	774.451	Ⅵa				C	Ob−C	1.22	1.19	0.27	0.43			
2749	②	14.071	3.815	774.437	Ⅵa				F	Ob−C	2.40	1.42	0.83	2.64			
2750	②	14.177	3.964	774.464	Ⅵa				C	Ob−C	1.24	0.68	0.47	0.24			
2751	②	14.060	4.486	774.570	Ⅴ	1			F	Ob−C	2.40	1.42	0.83	2.64			
2752	②	13.960	4.169	774.569	Ⅴ				F	Ob−C	1.21	1.63	0.63	1.01			
2753	②	13.360	3.866	774.605	Ⅴ			1	UF	Ob−C	5.17	3.99	0.89	8.13			
2754	②	13.381	4.161	774.592	Ⅴ				F	Ob−C	1.68	1.60	0.40	0.76			
2755	②	13.297	4.248	774.494	Ⅵa				F	Ob−C	1.10	1.94	0.38	0.65			
2756	②	13.455	4.405	774.572	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.01	1.98	0.42	0.95			
2758	②	13.715	4.643	774.420	Ⅵa				C	Ob−C	0.42	0.51	0.16	0.02			
2759	②	12.682	3.853	774.552	Ⅴ				F	Ob−C	1.43	1.26	0.41	0.73			
2762	②	31.055	5.754	773.906	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	1.52	0.31	0.33			
2763	②	9.196	14.904	773.639	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	2.85	2.70	0.42	4.80		42	平坦剥離
2764	②	9.109	−14.905	773.630	Ⅵb				F	Ob−B	2.08	2.68	0.51	3.38			
2765	②	7.049	−14.542	773.697	Ⅵb				C	Ob−C	0.61	1.20	0.45	0.17			
2766	②	6.535	−14.881	773.559	Ⅶ				C	Ob−C	0.72	0.49	0.43	0.09			
2767	②	8.818	−13.316	773.794	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.11	1.22	0.49	0.48			
2768	②	9.266	−12.073	773.931	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.60	1.70	0.39	1.15			
2769	②	8.137	−13.753	773.896	Ⅵa				C	Ob−B	1.22	1.49	0.37	0.39			
2770	②	9.023	−14.882	773.731	Ⅵa				F	An	2.12	1.20	0.83	2.34	2869		
2771	②	9.002	−14.783	773.675	Ⅵb				F	An	1.59	2.20	0.79	1.76			
2772	②	7.229	−12.115	773.850	Ⅵb				C	Ob−B	1.03	1.08	0.16	0.09			
2773	②	6.949	−12.275	773.906	Ⅵb				C	Ob−B	1.17	1.04	0.79	0.87			
2774	②	5.942	−13.414	773.910	Ⅵa				C	Ob−B	1.37	1.31	0.42	0.40			
2775	②	6.398	−12.276	773.953	Ⅵb				F	Ob−B	2.08	2.07	0.53	1.69			
2776	②	6.166	−11.465	773.847	Ⅵb				F	Ag	2.52	1.43	0.81	2.21			
2777	②	7.026	−11.379	773.898	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.18	1.31	0.33	0.78			
2778	②	7.058	−10.814	773.967	Ⅵb				C	Ob−B	0.60	0.71	0.22	0.07			
2779	②	4.960	8.186	774.736	Ⅵa	1		1	UF	Ob−C	3.00	2.00	0.81	5.04			
2780	②	3.976	7.189	774.945	Ⅴ	1	1		C	Qu	1.60	0.95	0.29	0.40			
2781	②	2.509	7.465	774.998	Ⅴ				F	H−Sh	1.14	2.02	0.39	1.03			
2782	②	2.574	8.035	775.044	Ⅴ				F	An	4.10	2.11	0.71	8.28			
2783	②	2.740	8.661	774.976	Ⅴ				F	Ag	1.93	2.29	0.81	3.58			
2784	②	4.691	8.511	775.207	Ⅳb	1			F	An	2.44	2.80	0.51	5.51			
2785	②	7.624	10.556	774.661	Ⅳb				Co	An	4.85	3.38	2.09	26.09		61	
2786	②	12.924	4.843	774.482	Ⅵa				C	Ob−C	1.05	1.19	0.31	0.33			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2787	②	12.915	4.905	774.481	Ⅵa				C	Ob－C	1.26	0.71	0.26	0.16			
2788	②	13.178	4.364	774.485	Ⅵa				C	Ob－C	1.04	0.93	0.28	0.19			
2789	②	13.219	4.236	774.471	Ⅵa				C	Ob－C	0.33	0.52	0.22	0.02			
2790	②	13.354	2.726	774.510	Ⅵa	1			F	Ob－C	2.30	2.25	1.24	2.36			
2791	②	13.814	4.119	774.548	Ⅴ				C	Ob－C	0.60	0.66	0.11	0.01			
2792	②	13.893	3.773	774.521	Ⅴ				C	Ob－C	0.89	0.62	0.29	0.07			
2793	②	14.155	3.462	774.465	Ⅵa				C	Ob－C	1.18	1.18	0.24	0.38			
2794	②	14.267	3.800	774.453	Ⅵa				C	Ob－C	1.03	0.71	0.38	0.16			
2795	②	14.124	4.103	774.457	Ⅵa				C	Ob－C	0.51	0.27	0.09	0.01			
2796	②	14.182	3.991	774.439	Ⅵa				C	Ob－C	1.00	0.88	0.22	0.11			
2797	②	31.376	7.903	773.754	Ⅵb				F	Ob－B	1.50	2.09	0.31	1.34			
2798	②	31.101	6.500	773.743	Ⅵb	1			F	Ob－C	2.61	3.63	1.10	7.22			
2799	②	31.927	6.411	773.757	Ⅵb				F	Ob－B	2.77	2.42	0.52	3.27			
2800	②	31.947	5.823	773.694	Ⅶ		1		Trz	Ob－B	3.12	3.36	0.60	3.24			平坦剥離
2801	②	32.130	5.845	773.741	Ⅵb				C	Ob－B	1.14	1.19	0.39	0.41			
2803	②	33.157	6.894	773.813	Ⅵa				F	Ob－B	2.15	1.72	1.33	4.97			
2804	②	33.141	6.742	773.738	Ⅵb				C	Ob－B	1.75	1.43	0.49	0.75			
2805	②	34.183	6.082	773.662	Ⅵb				C	Ob－B	0.49	0.95	0.11	0.06			
2806	②	34.078	6.117	773.691	Ⅵb				C	Ob－B	0.65	1.61	0.19	0.15			
2807	②	33.911	6.235	773.665	Ⅵb				F	Ob－B	2.12	2.10	0.90	3.87			
2808	②	34.163	6.682	773.725	Ⅵb				F	Ob－B	1.32	1.28	0.31	0.41			
2809	②	34.158	6.992	773.747	Ⅵb				F	Ob－C	3.19	2.46	1.41	8.19	2812・2810		
2810	②	34.312	6.861	773.728	Ⅵb				F	Ob－C	1.58	1.82	0.48	0.45			
2811	②	34.401	6.700	773.725	Ⅵb				Co	Ob－B	2.98	3.11	1.51	18.58		24	
2812	②	34.292	7.120	773.737	Ⅵb				RF	Ob－C	2.58	2.28	0.91	8.18	2809・2810		
2813	②	34.811	6.848	773.715	Ⅵb				C	Ob－C	1.41	0.62	0.36	0.29			
2814	②	7.322	－13.523	773.726	Ⅵb				F	Ob－B	1.34	3.32	1.72	2.22			
2815	②	8.180	－14.001	773.525	Ⅶ	1			F	Ob－B	0.96	1.59	0.47	0.78			
2816	②	8.491	－13.897	773.696	Ⅵb				C	Ob－B	1.07	1.12	0.11	0.15			
2817	②	8.354	－13.658	773.643	Ⅵb	1	1		Trz	Ob－B	2.82	2.19	0.39	3.45		19	
2818	②	8.380	－13.533	773.682	Ⅵb				F	Ob－B	1.41	1.84	0.51	1.21			
2819	②	8.962	－13.594	773.667	Ⅶ				F	Ob－C	2.48	2.81	0.61	1.22			
2820	②	8.982	－13.817	773.672	Ⅵb				F	Ob－B	2.62	1.68	0.88	2.83			
2821	②	8.779	－14.301	773.503	Ⅶ				F	Ob－B	1.77	1.69	0.48	0.90			
2822	②	8.926	－13.492	773.779	Ⅵb				F	Ob－B	3.19	2.77	0.92	7.95			
2823	②	9.202	－13.379	773.743	Ⅵb				C	Ob－B	1.16	0.98	0.24	0.12			
2824	②	9.079	－13.351	773.682	Ⅵb				C	Ob－B	0.91	0.84	0.12	0.11			
2825	②	9.142	－12.058	773.716	Ⅵb				C	Ob－B	1.61	0.99	0.30	0.38			
2826	②	5.139	－10.840	773.787	Ⅶ				C	Ob－C	0.51	0.59	0.40	0.12			
2827	②	14.434	3.927	774.236	Ⅶ				C	Ob－C	0.96	0.63	0.31	0.17			
2828	②	14.257	4.164	774.301	Ⅵb				F	Ob－C	0.79	0.99	0.33	0.23			
2829	②	14.489	3.720	774.377	Ⅵb	1			F	Ob－C	1.61	1.99	0.38	1.43			
2830	②	14.398	3.472	774.338	Ⅵb				C	Ob－C	0.89	1.33	0.40	0.38			
2831	②	14.076	3.781	774.397	Ⅵb				C	Ob－C	0.98	0.96	0.29	0.48			
2832	②	14.079	3.870	774.418	Ⅵa				C	Ob－C	1.28	1.28	0.26	0.40			
2833	②	14.022	3.881	774.422	Ⅵb				F	Ob－C	0.99	1.00	0.40	0.35			
2834	②	14.029	3.514	774.405	Ⅵb				C	Ob－C	0.78	0.82	0.11	0.05			
2835	②	13.970	3.610	774.438	Ⅵb				C	Ob－C	0.89	0.75	0.40	0.25			
2836	②	14.024	3.473	774.452	Ⅵa				C	Ob－C	0.86	1.05	0.14	0.20			
2837	②	13.971	3.594	774.467	Ⅵa				C	Ob－C	1.15	1.22	0.29	0.41			
2838	②	13.933	3.554	774.453	Ⅵa				C	Ob－C	0.61	1.17	0.22	0.12			
2839	②	13.190	3.263	774.335	Ⅵb				C	An	0.83	0.90	0.51	0.34			
2843	②	34.705	9.283	773.652	Ⅵb				F	Ob－C	1.13	2.01	0.98	1.72			
2844	②	34.458	9.041	773.523	Ⅶ				F	Ob－B	1.62	2.18	0.95	2.21			
2845	②	6.745	－15.078	773.905	Ⅴ				F	Ob－B	0.91	2.43	0.72	0.99			
2846	②	6.080	－16.531	773.691	Ⅵb				F	Ob－B	1.93	1.68	0.66	1.40			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2847	②	6.533	−16.748	773.710	Ⅵa	1	1	1	UF	Ob−B	3.97	2.58	1.22	12.86		45	
2848	②	5.541	−17.331	773.728	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.69	4.53	0.97	7.99			
2849	②	6.319	−17.688	773.756	Ⅴ				F	Ob−B	1.88	2.10	0.23	0.89			
2850	②	6.204	−17.789	773.583	Ⅵb				C	Ob−B	1.33	1.32	0.40	0.52			
2851	②	5.870	−18.170	773.591	Ⅵa				C	Ob−C	1.12	0.98	0.38	0.30			
2852	②	5.573	−18.395	773.611	Ⅵa				C	Ob−B	1.13	1.08	0.42	0.36			
2853	②	6.965	−17.757	773.556	Ⅵb				F	Ob−B	2.51	2.08	0.60	2.34			
2854	②	7.795	−17.755	773.611	Ⅵa				F	Ob−B	1.84	1.18	0.38	0.74			
2855	②	7.184	−18.035	773.572	Ⅴ				C	Ob−B	1.50	0.92	0.36	0.51			
2856	②	7.649	−17.581	773.548	Ⅵa				F	Ob−B	1.94	1.20	0.82	1.16			
2857	②	7.272	−17.034	773.642	Ⅵa			1	UF	Ob−B	2.74	2.72	0.53	3.95			
2858	②	7.233	−16.961	773.688	Ⅵa				F	Ob−B	0.99	1.48	0.24	0.35			
2859	②	7.788	−16.355	773.812	Ⅴ	1	1		RF	Ob−B	3.83	3.04	1.30	14.83	2915	43	
2860	②	7.979	−17.971	773.556	Ⅵa				F	Ob−B	2.13	1.91	0.41	1.48			
2861	②	8.105	−18.345	773.583	Ⅵa				C	Ob−B	0.69	0.90	0.19	0.12			
2862	②	7.703	−18.800	773.509	Ⅴ				F	Ob−B	2.08	1.89	0.41	1.21			
2863	②	7.370	−18.751	773.556	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.29	3.30	0.68	6.02			
2864	②	7.475	−19.082	773.574	Ⅴ				F	Ob−B	4.10	2.89	1.84	12.33	2553・2606		
2865	②	7.415	−19.109	773.588	Ⅴ				F	Ob−B	1.45	2.26	0.61	1.75			
2866	②	8.798	−18.729	773.478	Ⅵa				C	Ob−B	0.67	1.34	0.22	0.16			
2867	②	8.734	−18.139	773.520	Ⅵa				UF	Ob−B	2.39	3.50	0.51	5.90			
2868	②	8.541	−17.852	773.546	Ⅵa				F	Ob−B	1.99	2.00	0.49	1.53			
2869	②	8.781	−15.444	773.688	Ⅵa				F	An	3.29	2.12	1.16	9.54	2770		
2870	②	8.774	−15.396	773.702	Ⅵa				F	Ob−B	5.08	2.94	0.90	12.57			
2871	②	8.749	−15.619	773.740	Ⅴ				C	Ob−B	0.62	1.34	0.42	0.39			
2872	②	7.796	−18.416	773.459	Ⅵa				F	Ob−B	1.37	1.82	0.26	0.37			
2873	②	7.322	−17.890	773.526	Ⅵa				C	Ob−B	1.10	1.43	0.32	0.35			
2874	②	14.191	3.491	774.281	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.36	0.95	0.41	0.44			
2875	②	28.811	5.383	774.426	Ⅳb				F	Ob−C	1.62	1.99	0.80	3.52	3489・3488		
2876	②	28.784	5.406	774.321	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.95	1.31	0.40	1.14			
2877	②	28.869	5.470	774.111	Ⅴ				F	Ob−B	2.22	2.07	0.41	1.80			
2878	②	28.150	5.432	774.044	Ⅵa				C	Ob−C	0.80	0.91	0.25	0.13			
2879	②	26.606	8.727	774.560	Ⅳa				F	H−Sh	2.38	3.31	1.31	10.02			
2881	②	8.764	−15.032	773.636	Ⅵb				C	Ob−B	1.12	1.41	0.19	0.40			
2882	②	8.717	−14.965	773.595	Ⅵb	1			F	An	0.89	1.42	0.35	0.84			
2883	②	8.583	−14.004	773.532	Ⅵb				C	Ob−B	0.53	0.95	0.31	0.08			
2884	②	8.742	−15.099	773.640	Ⅵa	1			F	Ob−C	0.92	0.98	0.31	0.28			
2885	②	8.585	−15.236	773.603	Ⅵb				C	Ob−C	0.71	0.73	0.52	0.27			
2886	②	8.493	−15.411	773.574	Ⅵb				C	An	1.30	1.52	0.30	0.35			
2887	②	8.362	−15.729	773.558	Ⅵb				C	Ob−B	1.01	0.29	0.33	0.37			
2888	②	7.493	−15.195	773.611	Ⅵb				C	An	1.00	1.98	0.29	0.43			
2889	②	7.623	−15.630	773.577	Ⅵb				F	Qu	1.56	1.69	1.21	2.39			
2890	②	7.655	−15.926	773.549	Ⅵb				C	Ob−B	0.89	1.15	0.29	0.23			
2891	②	8.740	−15.970	773.556	Ⅵb				F	An	2.45	2.24	0.31	1.50			
2892	②	8.950	−15.533	773.522	Ⅵb				F	Ob−C	0.87	1.39	0.62	0.78			
2893	②	9.250	−16.246	773.515	Ⅵb				F	Ob−B	2.10	2.52	0.62	2.53			
2894	②	9.065	−17.043	773.496	Ⅵb				C	Ob−B	1.26	1.19	0.27	0.32			
2895	②	8.493	−16.956	773.507	Ⅵb	1			F	An	1.28	1.39	0.47	0.77			
2896	②	8.588	−17.003	773.499	Ⅵb				C	An	0.92	0.78	0.19	0.13			
2897	②	8.806	−17.351	773.473	Ⅵb				C	Ob−B	1.01	0.87	0.15	0.19			
2898	②	9.244	−17.431	773.470	Ⅵa	1			F	Ob−B	1.00	0.89	0.36	0.27			
2899	②	8.126	−17.699	773.468	Ⅵb				C	Ob−B	0.68	1.13	0.30	0.31			
2900	②	7.607	−17.971	773.421	Ⅵb				F	Ob−B	2.29	1.80	0.49	2.77			
2901	②	7.173	−17.693	773.414	Ⅵb				F	Ob−B	1.78	1.88	0.21	0.78			
2903	②	7.174	−17.345	773.535	Ⅵa				F	Ob−B	1.99	1.48	0.42	0.91			
2904	②	7.248	−17.211	773.504	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	2.68	2.50	0.80	5.37		18	平坦剥離

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2905	②	7.242	−17.170	773.530	Ⅵb				F	Ob−B	1.75	1.12	0.30	0.55			
2906	②	8.708	−16.310	773.522	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.02	1.27	0.42	0.46			
2907	②	6.810	−17.366	773.505	Ⅵb				F	Ob−B	2.61	2.20	0.69	3.68			
2908	②	6.883	−17.410	773.499	Ⅵb	1	1		RF	Ob−B	2.84	2.35	1.11	5.83		21	
2909	②	6.943	−17.585	773.481	Ⅵb				C	Ob−B	0.60	0.19	0.14	0.21			
2910	②	6.850	−17.730	773.411	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	1.78	1.51	0.41	1.13			平坦剥離
2911	②	6.652	−17.899	773.520	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.37	0.96	0.30	0.31			
2912	②	6.650	−18.196	773.407	Ⅵb	1			F	Ch	0.89	1.69	0.39	0.58			
2913	②	7.010	−18.255	773.467	Ⅵb				F	Ob−B	1.61	1.08	0.70	1.08			
2914	②	6.598	−18.525	773.473	Ⅵa				F	Ob−B	2.36	2.19	0.38	1.42	2707		
2915	②	6.687	−18.572	773.455	Ⅵa	1	1		Sc	Ob−B	3.45	2.67	1.31	10.42	2859	43	
2916	②	6.660	−18.802	773.335	Ⅵb				C	Ob−B	1.18	0.90	0.29	0.19			
2917	②	6.952	−18.933	773.330	Ⅵb				C	Ob−B	1.21	1.11	0.33	0.49			
2918	②	7.115	−18.933	773.377	Ⅵb				F	Ob−B	2.28	2.53	0.48	3.13			
2919	②	5.466	−17.497	773.531	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.60	2.66	0.26	1.89			
2920	②	5.182	−17.313	773.556	Ⅵb				C	Ob−C	0.88	1.10	0.74	0.70			
2921	②	21.591	5.452	774.567	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.79	1.50	0.50	0.87			
2922	②	23.116	6.475	773.852	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.59	1.59	0.44	1.27			
2923	②	20.777	6.472	774.035	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.50	1.86	0.56	1.22			
2924	②	20.798	6.672	774.558	Ⅳb			1	F	Ob−C	1.97	1.96	0.86	2.13			
2925	②	20.666	6.169	774.545	Ⅳb				F	Ob−C	2.16	1.97	0.68	2.68	2468		
2926	②	20.898	6.851	774.492	Ⅳb				F	Ob−C	1.44	2.01	0.43	1.07			
2927	②	21.267	7.022	774.041	Ⅳb				F	Ob−C	1.12	1.42	0.52	0.71			
2928	②	20.706	7.134	774.528	Ⅳb				F	Ob−C	0.96	1.60	0.42	0.68	2340		
2929	②	20.883	7.256	774.537	Ⅳb				F	Ob−B	2.40	2.39	0.42	3.30			
2930	②	21.204	7.334	774.527	Ⅳb				F	Ob−C	1.44	2.01	0.43	1.07			
2931	②	21.363	7.363	774.701	Ⅳa				C	Ob−C	0.78	1.18	0.31	0.19			
2932	②	21.656	6.362	773.952	Ⅳa				C	Ob−C	0.86	1.01	0.19	0.15			
2933	②	22.390	5.751	774.483	Ⅳb				C	Ob−C	1.10	0.79	0.42	0.33			
2934	②	21.689	7.101	774.010	Ⅳb				C	Ob−C	0.89	1.21	0.39	0.42			
2935	②	21.556	7.406	774.030	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.53	1.40	0.51	1.41			
2936	②	21.620	7.623	774.503	Ⅳb	1			F	Ob−C	0.83	0.21	0.59	1.15			
2937	②	21.384	7.700	774.658	Ⅳa				C	Ob−C	0.80	0.91	0.32	0.21			
2938	②	21.061	7.759	774.563	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.58	1.57	0.49	0.88			
2939	②	21.492	7.943	774.432	Ⅳb				C	Ob−C	1.40	1.40	0.36	0.63			
2940	②	22.195	7.971	774.621	Ⅳa				F	Ob−C	1.46	1.73	0.82	1.82	2928		
2941	②	22.720	7.234	774.443	Ⅳb				C	Ob−C	0.69	0.47	0.38	0.37			
2942	②	22.665	7.429	773.958	Ⅳb				F	Ob−C	1.48	1.25	0.52	0.78			
2943	②	22.545	7.644	774.491	Ⅳb				C	Ob−C	1.21	1.16	0.35	0.46			
2944	②	22.470	8.053	773.974	Ⅳb				C	Ob−C	0.92	1.45	0.41	0.45			
2946	②	23.070	9.145	774.620	Ⅳa				F	Ob−C	1.91	1.55	0.37	0.89			
2947	②	23.468	8.668	774.466	Ⅳb				F	Ob−C	1.90	1.49	0.41	1.09			
2948	②	23.168	7.921	773.942	Ⅴ				C	Ob−B	1.05	1.45	0.33	0.34			
2949	②	24.282	7.457	774.398	Ⅳb				F	Ob−C	2.30	1.92	0.68	2.33			
2950	②	24.607	8.801	774.507	Ⅳa				F	Ob−C	1.32	1.56	0.74	1.02			
2951	②	21.144	−1.834	775.323	Ⅵa				F	Ob−C	1.60	1.58	0.32	0.72			
2952	②	22.122	−1.474	774.311	Ⅵb				F	Ob−B	4.95	2.84	0.98	14.94			
2953	②	22.853	−4.001	774.303	Ⅵb				F	Ob−B	1.86	3.23	0.41	3.43			
2954	②	24.461	−6.038	774.121	Ⅵa		1		RF	Ob−C	1.48	2.59	0.90	3.26			
2955	②	24.549	−6.025	774.143	Ⅵa	1		1	Co	Ob−B	4.3+α	2.80	0.60	6.70		46	
2957	②	24.724	−6.058	774.103	Ⅵa				F	Ob−B	1.40	2.21	0.35	1.18			
2958	②	24.336	−7.366	774.181	Ⅳb				F	Ob−B	3.12	2.90	0.88	5.73			
2959	②	21.777	−9.192	774.016	Ⅳb				Co	Ob−B	2.73	3.93	1.60	14.86		61	
2960	②	5.612	−16.057	773.653	Ⅵb				UF	Ob−B	3.08	3.72	0.84	6.93	2961	23	
2961	②	5.980	−16.601	773.615	Ⅵb				F	Ob−B	5.15	3.01	0.80	13.20	2960	23	
2962	②	8.717	−19.259	773.328	Ⅵa				C	Ob−B	0.79	1.24	0.28	0.22			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
2963	②	6.185	−16.855	773.611	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	2.10	2.09	0.34	1.82			
2964	②	6.560	−17.246	773.481	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.52	1.65	0.49	2.64		18	平坦剥離
2965	②	21.572	7.241	774.522	Ⅳb				F	Ob−C	1.32	2.11	0.32	0.83			
2966	②	21.344	8.302	774.368	Ⅴ				F	Ob−C	1.56	1.63	0.61	1.44			
2967	②	21.808	8.828	774.286	Ⅵa				C	Ob−C	0.99	1.37	0.20	0.27			
2968	②	22.024	6.432	774.419	Ⅳb				C	Ob−C	0.96	0.81	0.18	0.10			
2969	②	23.438	6.437	774.310	Ⅳb				F	Ob−B	3.29	2.28	0.44	2.84			
2970	②	9.219	−15.215	773.619	Ⅵb				F	Ob−B	1.08	1.30	0.40	0.87			
2971	②	8.988	−15.160	773.634	Ⅵb				F	Ob−B	1.22	1.98	1.17	0.71			
2972	②	8.925	−15.381	773.620	Ⅵb				F	Ob−B	1.90	2.17	0.42	2.16			
2974	②	8.845	−16.986	773.407	Ⅵb				C	An	1.17	1.39	0.21	0.42			
2975	②	8.528	−17.342	773.283	Ⅶ				C	H−Sh	0.68	0.97	0.20	0.10			
2976	②	7.767	−16.668	773.460	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.18	1.48	0.83	1.44			
2977	②	7.525	−16.034	773.323	Ⅶ				C	Ob−B	1.00	0.86	0.08	0.09			
2978	②	7.674	−16.096	773.376	Ⅶ				C	Ob−B	0.70	0.75	0.09	0.03			
2979	②	7.465	−16.596	773.354	Ⅶ	1			F	Ob−B	2.11	1.80	0.39	1.13			
2980	②	7.126	−17.023	773.388	Ⅵb				C	Ob−B	0.79	0.99	0.52	0.45			
2981	②	6.573	−17.727	773.394	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.68	1.78	0.60	0.90			
2982	②	7.136	−17.526	773.377	Ⅵb				C	Ob−C	0.92	0.85	0.60	0.59			
2983	②	7.757	−17.726	773.375	Ⅵb				F	Ob−B	2.59	1.11	0.28	0.64			
2984	②	7.703	−18.130	773.194	Ⅶ	1			F	Ob−B	3.80	2.42	0.81	5.29			
2985	②	6.002	−18.998	773.622	Ⅴ				F	Ob−B	3.59	4.08	0.59	9.00			
2986	②	5.662	−18.774	773.496	Ⅵa				F	Ob−B	2.42	1.39	0.46	1.49			
2987	②	5.882	−18.635	773.536	Ⅵa				C	Ob−B	1.30	1.01	0.40	0.31			
2988	②	16.360	14.884	774.233	Ⅴ				C	An	1.21	0.90	0.32	0.25			
2989	②	15.211	14.967	774.219	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.78	1.64	0.81	1.69			
2990	②	14.372	15.092	774.246	Ⅵa				C	Ob−B	1.03	1.01	0.31	0.24			
2991	②	13.195	14.563	774.459	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.77	3.10	1.26	8.64			
2992	②	12.740	14.662	774.424	Ⅵa				F	H−Sh	1.83	2.49	0.60	3.07			
2993	②	11.456	14.890	774.389	Ⅴ				F	An	1.00	2.48	0.41	1.08			
2994	②	12.243	15.736	774.378	Ⅴ				C	Ob−B	1.20	1.11	0.28	0.41			
2995	②	10.867	16.076	774.375	Ⅴ				C	Ob−B	1.18	1.52	0.40	0.56			
2996	②	11.634	16.461	774.344	Ⅴ			1	Co	Ob−B	5.02	2.96	1.08	18.81		46	
2997	②	11.954	12.922	774.397	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.99	0.99	0.41	0.79			
2998	②	12.117	13.238	774.363	Ⅵa				C	Ob−B	0.59	0.93	0.07	0.05			
2999	②	13.317	13.101	774.347	Ⅵa	1			F	An	1.33	1.92	0.39	1.29			
3000	②	13.687	12.890	774.298	Ⅵa		1		Trz	Ob−B	1.90	2.10	0.90	2.16		20	
3001	②	14.211	14.171	774.372	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.21	2.04	0.82	2.23			
3002	②	14.373	14.334	774.230	Ⅵa		1		RF	Ob−C	2.07	2.11	0.59	1.98			
3004	②	6.512	1.254	774.742	Ⅴ				Trz	Rh	1.61	2.80	0.42	2.27		42	
3005	②	5.703	0.810	774.803	Ⅳb				C	Ob−C	1.01	0.72	0.26	0.16			
3006	②	13.701	−3.050	774.410	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.76	2.13	0.83	2.39			
3007	②	14.776	−3.574	774.376	Ⅴ	1	1		Sc	Ob−B	3.70	3.75	0.87	10.72		43	
3008	②	17.994	−0.979	774.324	Ⅵb				F	An	1.18	1.60	1.01	1.40			
3009	②	22.381	3.138	774.774	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	1.43	1.39	1.60	1.16			
3010	②	13.945	−12.773	773.815	Ⅵa				F	Ob−B	2.38	3.79	0.61	4.89			
3011	②	13.583	−10.522	773.994	Ⅵa				C	Ob−B	0.87	1.09	0.13	0.17			
3012	②	11.800	−10.423	774.096	Ⅴ				F	Qu	1.70	1.50	0.60	0.92	2184・2446		
3013	②	11.860	−10.706	774.049	Ⅵa				F	An	2.77	3.08	0.60	3.79			
3014	②	11.869	−13.674	773.893	Ⅵa				F	Ob−B	1.12	1.85	0.47	0.66			
3015	②	11.413	−14.125	773.841	Ⅵa	1			F	Ob−C	0.78	1.20	0.22	0.20			
3016	②	12.806	−14.243	773.752	Ⅵa				F	Rh	4.80	1.60	0.58	3.35			
3017	②	8.540	−3.914	774.570	Ⅴ				F	Rh	1.85	1.48	0.41	1.22			
3018	②	8.841	−3.502	774.613	Ⅴ	1			F	Rh	1.02	1.40	0.25	0.38			
3019	②	9.035	−3.362	774.610	Ⅴ				C	Rh	0.54	1.02	0.28	0.10			
3020	②	8.559	−4.112	774.603	Ⅴ				C	Rh	0.70	0.84	0.15	0.05			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3021	②	14.348	−11.454	773.766	Ⅵa	1			F	Ob−B	3.60	2.45	1.07	8.76			
3022	②	13.387	14.004	774.328	Ⅴ				C	H−Sh	0.68	0.97	0.20	0.10			
3023	②	12.234	12.683	774.266	Ⅵa				F	An	1.59	1.81	0.69	1.88			
3024	②	12.479	12.749	774.257	Ⅵa				C	Ob−B	0.31	0.54	0.11	0.01			
3025	②	12.308	13.090	774.268	Ⅵa				F	Ob−B	1.60	1.12	0.63	1.15			
3026	②	13.262	14.387	774.387	Ⅴ				F	An	1.61	2.30	0.80	2.48	2150・2524		
3027	②	13.041	14.508	774.374	Ⅴ				F	H−Sh	1.66	2.31	0.50	2.43			
3028	②	13.015	14.860	774.375	Ⅴ				C	Ob−B	0.73	0.40	0.21	0.03			
3029	②	13.637	14.431	774.205	Ⅵa				F	Ob−B	2.92	1.17	0.67	0.52			
3030	②	14.121	14.241	774.231	Ⅵa				C	Sch	0.60	1.12	0.51	0.37			
3031	②	14.172	14.478	774.235	Ⅵa				C	Ob−B	0.98	0.67	0.28	0.07			
3032	②	14.567	14.788	774.138	Ⅵa				C	Ag	0.74	0.71	0.40	0.17			
3033	②	14.142	14.831	774.228	Ⅴ				C	Ob−B	0.40	0.66	0.82	0.07			
3034	②	14.229	14.940	774.204	Ⅵa				C	Ob−B	1.00	0.71	0.41	0.21			
3035	②	13.778	15.176	774.273	Ⅴ				C	Ob−B	0.71	1.03	0.59	0.27			
3036	②	14.181	15.309	774.174	Ⅵa				C	Ob−B	0.49	0.52	0.09	0.01			
3037	②	14.124	15.567	774.232	Ⅵa				C	H−Sh	0.49	0.90	0.29	0.08			
3038	②	13.474	15.754	774.333	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.51	1.56	0.40	1.21			
3039	②	13.214	15.619	774.299	Ⅴ				F	H−Sh	3.52	2.11	0.91	5.72			
3040	②	12.655	16.124	774.349	Ⅴ				F	Ob−B	2.40	1.87	0.50	2.38			
3041	②	12.857	16.147	774.324	Ⅴ				F	Ob−B	1.41	2.18	0.55	0.92			
3042	②	12.533	16.258	774.280	Ⅴ				F	An	3.05	2.40	0.81	4.11			
3043	②	10.839	14.754	774.346	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.01	1.88	0.51	0.77			
3044	②	16.760	12.587	774.304	Ⅵa				C	Ob−B	1.00	1.20	0.32	0.28			
3045	②	14.370	16.806	774.243	Ⅴ				C	H−Sh	0.79	0.91	0.18	0.21			
3046	②	14.192	16.809	774.219	Ⅵa				C	Ob−B	0.60	0.51	0.24	0.04			
3047	②	5.955	−3.523	774.728	Ⅴ	1	1	1	Co	Ob−B	3.73	3.86	1.76	23.54		48	
3048	②	6.119	−3.448	774.724	Ⅴ				C	Ob−B	0.72	1.20	0.46	0.24			
3049	②	6.612	−3.365	774.672	Ⅴ	1			Co	Ob−B	5.66	3.83	2.14	36.58		47	
3050	②	9.298	−6.326	774.463	Ⅴ				C	An	1.11	0.89	0.35	0.27			
3051	②	8.202	−19.031	773.275	Ⅵb				Co	Ob−B	4.29	4.58	3.68	76.46		24	
3052	②	8.181	−19.332	773.507	Ⅴ	1			F	Ob−B	1.57	1.52	0.31	0.71			
3053	②	11.603	−16.306	773.610	Ⅴ				C	Ob−B	1.33	0.78	0.38	0.27			
3054	②	11.695	−15.834	773.556	Ⅵa	1			F	Ob−C	1.22	1.98	0.51	1.08			
3055	②	10.668	−15.452	773.644	Ⅵb				C	Ob−B	0.81	0.48	0.11	0.02			
3056	②	12.046	−14.823	773.691	Ⅵb				F	Ob−B	2.75	2.12	0.58	2.03	2186		
3057	②	11.184	−13.867	773.710	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	1.69	0.19	0.28			
3058	②	11.823	−13.340	773.796	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.20	1.81	0.50	0.84			
3059	②	11.603	−13.356	773.802	Ⅵb	1			F	Ob−B	0.79	1.23	0.31	0.70			
3060	②	13.803	−13.185	773.684	Ⅵb				F	Ob−B	1.90	1.77	0.19	0.70			
3061	②	14.416	−13.124	773.744	Ⅵa				UF	Rh	4.20	3.00	0.68	8.09		44	
3062	②	14.011	−12.813	773.684	Ⅵb				C	Ob−B	0.86	0.78	0.13	0.03			
3063	②	14.710	−12.094	773.732	Ⅵb				C	Ob−B	0.87	0.80	0.31	0.16			
3064	②	14.846	−12.056	773.737	Ⅵb				C	Ob−B	1.12	1.79	0.18	0.36			
3065	②	15.031	−11.646	773.744	Ⅵb				C	Ob−B	0.69	0.71	0.14	0.05			
3066	②	15.048	−11.686	773.754	Ⅵb				C	Ob−B	0.88	0.87	0.31	0.15			
3067	②	15.017	−10.951	773.885	Ⅵa				F	Ob−B	1.11	1.84	0.22	0.55			
3068	②	13.960	−10.690	773.788	Ⅵb				F	Ob−B	1.81	1.16	0.28	0.51			
3069	②	13.867	−11.340	773.824	Ⅵb				C	Ob−B	1.50	1.84	0.19	0.23			
3070	②	13.789	−11.775	773.760	Ⅵb				C	Ob−B	0.99	0.54	0.12	0.04			
3071	②	14.121	−11.896	773.789	Ⅵb				F	Ob−B	1.60	1.69	0.35	0.84			
3072	②	12.241	−11.180	773.912	Ⅵb				C	Qu	0.64	1.39	0.19	0.08			
3073	②	11.054	−11.088	773.849	Ⅵb				F	Ob−B	1.09	1.26	0.90	1.19			
3074	②	10.666	−13.160	773.808	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.28	1.52	0.46	0.77			
3075	②	12.617	−15.970	773.548	Ⅵa				F	Ob−B	2.03	2.55	1.19	5.17	3145·3196·3786·4025		
3076	②	13.865	−4.580	774.279	Ⅵb				C	Ob−B	0.90	0.67	0.18	0.04			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3077	②	11.077	−4.152	774.275	Ⅵb				C	Ob−B	0.72	0.78	0.15	0.05			
3078	②	13.994	−4.107	774.256	Ⅵb				C	Ob−B	0.71	1.09	0.71	0.15			
3079	②	14.478	−3.796	774.232	Ⅵb				C	Ob−B	0.92	1.37	0.23	0.18			
3080	②	14.496	−3.866	774.283	Ⅵb				C	Ob−B	0.89	0.70	0.26	0.07			
3081	②	14.528	−3.436	774.318	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.13	2.11	0.51	4.79		18	
3082	②	15.161	−2.929	774.267	Ⅵb				F	Ob−B	1.30	1.63	0.52	1.16			
3083	②	15.263	−2.314	774.172	Ⅵb				F	Ob−B	1.98	2.10	0.41	2.94			
3084	②	14.955	−1.406	774.206	Ⅵb				C	Ob−B	1.00	1.28	0.35	0.46			
3085	②	13.723	−3.712	774.285	Ⅴ				C	Ob−B	1.52	1.37	0.31	0.48			
3086	②	16.460	−4.620	774.274	Ⅵb				C	Ob−B	1.21	1.60	0.30	0.62			
3088	②	6.358	−3.171	774.582	Ⅵa				Co	Ob−B	5.98	3.81	2.63	51.15		48	
3089	②	10.657	15.528	774.159	Ⅵa				C	Ob−B	1.21	1.00	0.39	0.38			
3090	②	11.454	16.531	774.136	Ⅵa				C	An	0.60	1.10	0.41	0.21			
3091	②	11.796	16.398	774.202	Ⅵa				F	Ob−B	2.19	1.91	0.55	2.04			
3092	②	12.134	15.148	774.248	Ⅵa				F	Ob−B	1.53	1.51	0.42	0.61			
3093	②	13.164	12.797	774.216	Ⅵa				F	Ob−B	1.21	1.24	0.61	0.88			
3094	②	13.041	15.053	774.303	Ⅴ				C	H−Sh	0.69	0.63	0.20	0.04			
3096	②	13.627	13.540	774.193	Ⅵa				F	An	2.59	2.70	0.80	5.25	2254		
3097	②	14.352	14.463	774.127	Ⅵa				C	H−Sh	1.26	1.40	0.41	0.67			
3098	②	14.495	15.292	774.139	Ⅵa				C	Ob−B	0.50	0.72	0.13	0.05			
3099	②	14.277	15.500	774.160	Ⅵa				C	An	0.62	0.99	0.33	0.15			
3100	②	14.257	15.404	774.160	Ⅵa				C	H−Sh	0.90	0.98	0.12	0.15			
3101	②	13.896	15.416	774.160	Ⅵa				C	H−Sh	1.08	0.38	0.19	0.18			
3102	②	13.511	15.394	774.126	Ⅵa				F	Ob−B	1.20	2.02	0.51	0.78			
3103	②	13.571	15.992	774.153	Ⅵa				F	H−Sh	1.61	1.37	0.61	0.91			
3104	②	13.579	16.048	774.158	Ⅵa				C	H−Sh	0.92	1.58	0.19	0.39			
3105	②	13.789	16.372	774.161	Ⅵa		1		Trz	Ob−B	3.87	2.17	1.22	7.53		41	両面加工
3106	②	14.417	16.352	774.199	Ⅴ				C	An	0.29	0.59	0.09	0.01			
3107	②	14.783	17.017	774.217	Ⅴ				C	Ob−B	0.90	1.02	0.69	0.48			
3108	②	15.985	17.622	774.096	Ⅴ				F	H−Sh	2.77	1.54	0.60	2.25			
3109	②	15.620	14.547	774.179	Ⅴ	1	1		Sc	An	3.7+α	1.8+α	0.90	6.10		42	
3110	②	13.720	−2.974	774.234	Ⅵb				F	Ob−B	1.40	1.20	0.42	0.36			
3111	②	13.924	−2.897	774.205	Ⅵb				C	Ob−B	1.49	1.10	0.30	0.40			
3112	②	14.914	−2.989	774.143	Ⅵb				C	Ob−B	0.63	1.10	0.25	0.15			
3113	②	14.873	−3.263	774.253	Ⅵb				F	Ob−B	2.88	2.19	0.48	1.94			
3114	②	14.704	−3.271	774.221	Ⅵb				F	Ob−B	1.60	1.44	0.56	1.24			
3115	②	14.502	−3.622	774.187	Ⅵb				F	Ob−B	1.59	2.71	0.83	2.21			
3116	②	14.345	−3.592	774.108	Ⅵb				C	Ob−B	0.72	1.40	0.11	0.14			
3117	②	13.924	−3.727	774.171	Ⅵb				F	Ob−B	1.98	2.02	0.18	2.28			
3118	②	14.068	−3.986	774.165	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.82	1.00	0.51	0.90			
3119	②	14.621	−3.708	774.139	Ⅵb				F	Ob−B	1.78	1.44	0.41	0.84			
3120	②	14.488	−3.737	774.162	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.73	1.36	0.30	0.58			
3121	②	15.280	−3.605	774.088	Ⅵb				F	Ob−B	2.90	4.18	1.85	16.27			
3122	②	15.704	−3.881	774.243	Ⅵb				C	Ob−B	1.15	0.62	0.26	0.12			
3123	②	14.737	−10.853	773.754	Ⅵb				F	Ob−B	1.74	0.91	0.81	1.19			
3124	②	14.186	−10.806	773.766	Ⅵb				C	Ob−B	1.42	0.80	0.26	0.22			
3125	②	15.065	−11.247	773.666	Ⅵb				C	Ob−B	0.63	0.69	0.30	0.10			
3126	②	15.082	−11.644	773.664	Ⅵb				F	Ob−B	1.80	1.92	0.36	0.86			
3127	②	15.034	−11.620	773.653	Ⅵb				C	Ob−B	0.69	0.60	0.08	0.02			
3128	②	13.356	−11.588	773.661	Ⅵb				F	Ob−B	2.88	2.70	0.79	4.59			
3129	②	14.577	−11.813	773.705	Ⅵb				C	Ob−B	1.40	1.37	0.18	0.36			
3130	②	14.649	−11.867	773.713	Ⅵb				C	Ob−B	0.16	0.67	0.22	0.07			
3131	②	15.050	−11.740	773.660	Ⅵb				C	Ob−B	1.08	0.95	0.18	0.11			
3132	②	14.912	−11.860	773.620	Ⅵb				C	Ob−B	1.62	1.61	0.32	0.48			
3133	②	14.863	−12.057	773.689	Ⅵb				C	Ob−B	0.49	0.72	0.28	0.04			
3134	②	14.994	−11.985	773.652	Ⅵb				C	Ob−B	0.76	0.95	0.16	0.06			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3135	②	14.970	−12.158	773.685	Ⅵb				C	An	0.68	0.85	0.37	0.14			
3136	②	14.941	−12.130	773.614	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	1.19	0.29	0.18			
3137	②	14.733	−12.168	773.643	Ⅵb				C	Ob−B	0.73	1.39	0.26	0.16			
3138	②	14.541	−12.269	773.640	Ⅵb				F	Ob−B	0.91	2.58	0.40	0.78			
3139	②	14.475	−12.261	773.664	Ⅵb				C	Ob−B	0.61	1.01	0.12	0.06			
3140	②	14.273	−12.286	773.635	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	1.31	0.18	0.16			
3141	②	14.526	−12.819	773.613	Ⅵb				C	Ob−B	1.30	0.90	0.27	0.30			
3142	②	14.566	−12.855	773.620	Ⅵb				F	Ob−B	1.32	1.89	0.36	0.85			
3143	②	14.991	−13.166	773.661	Ⅵb				C	Ob−B	0.95	1.14	0.13	0.20			
3144	②	14.819	−13.551	773.542	Ⅵb				F	Ob−B	2.67	1.87	0.48	1.75			
3145	②	12.429	−11.292	773.647	Ⅵb				F	Ob−B	0.79	0.54	0.40	0.16	3075·3196·3786·4025		
3146	②	11.717	−12.337	773.746	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.33	1.52	0.49	1.41			
3147	②	11.813	−12.553	773.634	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	1.69	1.91	0.49	1.19			
3148	②	11.784	−12.691	773.637	Ⅵb				F	Ob−B	2.09	2.60	0.68	2.12			
3149	②	11.429	−12.807	773.721	Ⅵb				C	An	0.61	1.53	0.21	0.16			
3150	②	10.890	−12.867	773.627	Ⅶ				F	Ob−B	1.08	1.82	0.21	0.46			
3151	②	11.487	−13.389	773.636	Ⅵb				F	Ob−B	2.26	1.78	0.84	2.06			
3152	②	11.975	−13.208	773.593	Ⅵb	1			F	Ob−B	3.74	2.98	1.28	14.97			
3153	②	11.902	−13.501	773.614	Ⅵb				F	Ob−B	1.95	2.13	0.51	1.43			
3155	②	11.334	−14.478	773.628	Ⅵb				C	Ob−C	0.61	1.53	0.21	0.61			
3156	②	11.721	−14.992	773.542	Ⅵb				C	Ob−C	0.75	1.10	0.24	0.32			
3157	②	11.557	−15.769	773.505	Ⅵb				C	Ob−C	0.71	0.72	0.32	0.33			
3158	②	11.537	−15.987	773.528	Ⅵb				C	An	1.10	1.36	0.70	0.96			
3159	②	11.189	−16.394	773.529	Ⅵb				F	Ob−B	0.24	1.04	0.18	0.18			
3160	②	13.504	−15.790	773.485	Ⅵb				C	Ob−B	1.39	0.87	0.30	0.26			
3161	②	14.726	−11.814	773.707	Ⅵb				C	Ob−B	1.28	1.46	0.27	0.53			
3162	②	8.831	−3.565	774.458	Ⅵa				C	Rh	0.61	0.86	0.20	0.09			
3163	②	8.777	−3.768	774.469	Ⅵb	1			C	Rh	1.31	1.08	0.25	0.44			
3164	②	8.836	−4.043	774.465	Ⅵb				C	Rh	1.34	1.61	0.28	0.31			
3165	②	8.727	−4.189	774.473	Ⅵb				C	Rh	0.95	0.92	0.28	0.23			
3166	②	8.673	−4.236	774.447	Ⅵb				F	Ob−B	0.79	0.74	0.39	0.41			
3167	②	8.958	−3.732	774.460	Ⅵb	1			F	Rh	1.41	1.19	0.19	0.52			
3168	②	7.574	−3.484	774.451	Ⅵb				F	Ob−B	2.99	4.11	1.28	13.50			
3169	②	7.321	−3.611	774.499	Ⅵa				F	Ob−B	1.37	1.49	0.38	0.83			
3170	②	6.558	−2.997	774.540	Ⅵa				Co	Ob−C	3.77	3.12	1.78	15.41		47	
3171	②	5.114	−2.922	774.655	Ⅵa		1		RF	Ob−A	3.22	2.28	0.90	5.30		42	
3172	②	1.817	1.204	774.884	Ⅵa				F	Rh	1.86	1.57	0.39	1.17			
3173	②	1.278	1.371	774.918	Ⅵa	1			UF	Ob−D	3.61	3.58	1.16	15.93	2556		
3174	②	1.809	6.801	774.886	Ⅵa			1	Co	Rh	3.15	3.35	0.41	7.33		45	
3175	②	0.894	6.476	774.918	Ⅵa			1	UF	Rh	2.28	2.33	0.44	2.02			
3176	②	6.748	8.249	774.711	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.11	2.46	0.62	3.29			
3177	②	13.806	−18.546	774.097	Ⅴ				F	Ob−C	3.59	2.98	0.77	8.97			
3178	②	13.752	−18.075	773.998	Ⅵa				C	Ob−B	1.40	0.91	0.39	0.30			
3180	②	14.455	−17.910	773.964	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	1.38	1.39	0.33	0.58			
3181	②	14.559	−16.571	773.927	Ⅵb				F	Ob−C	1.91	1.54	1.20	3.41			
3182	②	14.451	−14.924	773.964	Ⅵb				C	An	0.85	0.98	0.57	0.48			
3183	②	14.798	−14.060	774.018	Ⅵb				F	Ob−B	2.82	2.30	0.68	3.87			
3184	②	13.333	−15.371	773.945	Ⅵb				C	Ob−B	1.09	1.05	0.31	0.36			
3185	②	12.991	−15.225	773.905	Ⅶ				F	An	3.00	3.13	1.45	9.64			
3186	②	11.973	−15.580	773.891	Ⅶ				C	Ob−C	0.73	0.73	0.32	0.14			
3187	②	12.022	−15.788	774.004	Ⅶ				C	Ob−C	0.74	1.08	0.43	0.29			
3188	②	11.080	−14.774	774.031	Ⅶ				C	An	1.10	0.91	0.71	0.42			
3189	②	10.668	−15.729	774.217	Ⅵb				C	Ob−C	1.20	0.79	0.20	0.10			
3190	②	10.746	−15.395	773.972	Ⅶ				F	Ob−B	2.31	1.62	0.35	0.85			
3191	②	10.972	−14.342	774.094	Ⅵb				F	Ob−B	1.16	1.57	0.41	0.61			
3193	②	10.847	−13.397	774.145	Ⅶ				C	An	1.07	1.12	0.58	0.52			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3194	②	11.252	−12.836	774.179	Ⅵb				F	Ob−B	1.57	1.77	0.31	1.07			
3195	②	11.858	−13.231	774.161	Ⅵb				F	Ob−B	2.05	1.09	0.32	0.61			
3196	②	12.776	−12.308	774.197	Ⅵb				F	Ob−B	2.19	1.72	1.40	10.98	3075·3145·3786·4025		
3197	②	10.814	−11.327	774.172	Ⅶ				F	Ob−B	2.31	1.62	0.35	0.85			
3198	②	12.055	−11.084	774.165	Ⅶ				F	An	1.72	1.30	0.92	2.14			
3199	②	12.868	−12.977	774.114	Ⅶ				C	An	1.21	1.02	0.84	1.23			
3200	②	14.080	−12.535	773.555	Ⅵb				F	Ob−B	2.20	2.20	0.31	2.00			
3201	②	14.874	−12.913	773.465	Ⅵb				C	Ob−B	0.70	0.78	0.17	0.08			
3203	②	14.625	−12.071	773.627	Ⅵb				C	Ob−B	0.89	0.65	0.22	0.12			
3204	②	14.155	−11.914	773.538	Ⅶ				C	An	0.83	0.62	0.61	0.29			
3205	②	14.012	−11.500	773.627	Ⅵb				F	Ob−B	1.91	1.22	0.21	0.49			
3206	②	14.441	−11.772	773.673	Ⅵb				C	Ob−B	1.30	1.28	0.13	0.23			
3207	②	14.654	−11.049	773.632	Ⅵb				C	Ob−B	0.90	0.89	0.19	0.11			
3208	②	14.876	−11.354	773.638	Ⅵb				C	Ob−B	0.72	0.71	0.10	0.01			
3209	②	15.599	−14.091	773.691	Ⅴ				C	Ob−B	0.79	1.07	0.34	0.29			
3211	②	16.966	−12.295	773.733	Ⅵa				F	Rh	1.68	1.42	0.19	0.51			
3212	②	17.074	−12.267	773.622	Ⅵa				C	Ob−B	0.79	1.30	0.18	0.19			
3213	②	17.055	−14.180	773.628	Ⅵa				C	Ob−B	1.22	0.99	0.37	0.35			
3215	②	26.117	−8.149	774.122	Ⅳa				F	Ob−C	1.27	1.79	0.30	0.85			
3216	②	25.913	−6.022	774.170	Ⅳb				F	Ob−C	1.68	2.29	1.00	3.31			
3218	②	26.108	−4.154	774.267	Ⅳb				F	Ob−C	2.50	2.17	0.41	6.00			
3219	②	27.880	−4.069	774.114	Ⅴ				Cu	Ob−C	2.32	2.83	0.94	5.10			
3220	②	28.096	−3.153	774.032	Ⅵb	1	1		Kn	An	3.3+α	1.50	0.80	3.90		20	
3221	②	21.374	−2.537	773.940	Ⅶ	1			F	Ob−C	0.99	1.48	0.27	0.63			
3222	②	13.053	−6.238	774.194	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.29	1.39	0.39	1.43		20	
3223	②	12.869	−6.298	774.265	Ⅵa				F	Ob−B	2.29	1.89	0.67	2.62			
3224	②	12.047	−6.003	774.395	Ⅴ			1	Trz	Rh	1.71	3.60	0.85	3.27		44	
3225	②	11.345	−5.546	774.295	Ⅵb				F	An	0.97	1.22	0.33	0.37			
3226	②	11.466	−5.394	774.277	Ⅵb	1			F	Rh	1.10	1.81	0.72	1.06			
3227	②	11.179	−5.060	774.300	Ⅵb				F	An	1.21	1.34	0.41	0.64			
3228	②	11.253	−4.336	774.407	Ⅵb	1′	1		RF	Ob−B	1.66	1.99	0.41	2.05			
3229	②	11.046	−3.841	774.553	Ⅵa	1			F	Ch	2.64	1.91	0.49	2.63	3429		
3230	②	10.961	−3.986	774.356	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.51	1.42	0.50	0.84			
3231	②	10.755	−3.867	774.429	Ⅵb				C	Ob−B	0.86	1.09	0.08	0.23			
3232	②	11.220	−2.993	774.394	Ⅵb				C	Ob−B	1.29	1.08	0.16	0.21			
3233	②	10.765	−3.107	774.424	Ⅵb				C	Ob−B	0.96	0.84	0.31	0.16			
3234	②	11.576	−1.793	774.494	Ⅵb				C	Ob−C	0.82	1.00	0.59	0.47			
3235	②	12.546	−1.720	774.534	Ⅵa			1	UF	Rh	3.80	3.18	0.80	0.85	2509・3999		
3237	②	5.115	−4.556	774.348	Ⅵb				F	Ob−B	1.78	2.26	1.68	12.12	2666		
3238	②	5.233	−4.329	774.344	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.79	2.09	0.41	1.79			
3239	②	6.401	−3.090	774.378	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.37	1.62	0.57	2.55		19	
3240	②	7.357	−2.996	774.285	Ⅵb			1	UF	Ob−B	4.27	3.30	0.69	11.60		23	
3241	②	8.250	−3.630	774.337	Ⅵb				C	Ob−B	1.08	1.07	0.22	0.31			
3242	②	8.308	−3.976	774.422	Ⅵb				F	Ob−B	1.90	2.37	0.50	2.03			
3243	②	8.867	−3.411	774.472	Ⅵa				C	Rh	0.86	0.66	0.11	0.07			
3244	②	8.886	−3.524	774.458	Ⅵa				C	An	0.71	1.11	0.51	0.32			
3246	②	7.697	−5.400	774.429	Ⅵa				F	An	2.20	3.12	0.68	3.54			
3247	②	8.006	−5.712	774.414	Ⅵa				F	Ch	1.85	3.29	2.61	10.41			
3248	②	8.001	−6.554	774.366	Ⅵb				C	Ob−B	1.18	1.08	0.42	0.46			
3249	②	6.438	−7.311	774.348	Ⅵa				C	An	1.36	0.85	0.21	0.34			
3252	②	1.616	1.049	774.836	Ⅵb				F	Ob−B	1.58	1.13	0.35	0.62			
3256	②	4.496	0.906	774.770	Ⅵa				C	Ob−C	1.09	0.89	0.35	0.21			
3257	②	4.553	1.736	774.678	Ⅵb				C	Ob−C	0.57	0.75	0.16	0.03			
3258	②	4.895	1.342	774.725	Ⅵa				C	Ob−C	1.19	0.61	0.22	0.10			
3259	②	5.223	0.837	774.695	Ⅵa				C	Ob−C	0.50	1.34	0.30	0.30			
3260	②	6.335	1.377	774.606	Ⅵa				F	Rh	1.60	1.33	0.33	1.50			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3261	②	3.315	3.447	774.778	Ⅵb				F	Rh	2.49	1.70	0.39	0.84			
3262	②	11.682	14.550	774.163	Ⅵa				F	H－Sh	2.71	2.97	1.43	11.64	3334・3602		
3263	②	11.858	15.247	774.115	Ⅵb				F	An	2.80	6.68	1.66	24.60			
3264	②	11.410	14.468	774.143	Ⅵa				C	Ob－B	0.91	0.82	0.18	0.08			
3265	②	11.215	14.377	774.159	Ⅵa	1			F	H－Sh	2.45	2.06	0.82	3.56			
3266	②	10.994	14.403	774.165	Ⅵa				C	H－Sh	0.69	0.69	0.13	0.06			
3267	②	10.764	14.350	774.170	Ⅵa				F	Ob－B	1.38	1.54	0.70	1.27			
3268	②	11.364	13.562	774.141	Ⅵa	1			F	Ob－B	2.88	1.58	0.74	2.11			
3269	②	14.024	16.343	774.106	Ⅴ				C	Ob－B	1.63	1.32	0.51	0.78			
3270	②	14.727	16.960	774.129	Ⅴ	1			F	Ob－B	3.45	2.82	1.00	2.88			
3271	②	14.740	17.062	774.065	Ⅵa	1			F	H－Sh	3.81	2.88	0.60	5.88	3355・3359・3385・4014・4338		
3272	②	13.649	17.125	774.140	Ⅴ				C	Ob－B	1.16	1.97	0.23	0.67			
3273	②	12.455	14.328	774.167	Ⅵa				C	H－Sh	0.81	1.05	0.24	0.21			
3274	②	15.607	17.986	774.049	Ⅴ				F	Sa	2.59	2.30	0.74	3.54			
3275	②	15.440	17.654	774.020	Ⅴ				C	H－Sh	0.42	0.49	0.10	0.01			
3276	②	16.870	16.919	774.024	Ⅴ				C	Ob－B	0.55	0.63	0.10	0.02			
3277	②	15.925	15.461	774.095	Ⅵa				F	H－Sh	2.13	1.21	0.49	1.17			
3278	②	15.083	15.999	77.1300	Ⅴ			1	UF	H－Sh	2.10	2.40	0.73	3.17	4117		
3280	②	16.193	15.586	774.091	Ⅴ				C	H－Sh	0.42	0.87	0.19	0.04			
3281	②	14.959	15.062	774.143	Ⅵa	1	1		Sc	Ob－B	4.32	3.54	0.91	12.62		43	
3282	②	15.105	14.987	774.037	Ⅵb				F	H－Sh	3.43	4.76	0.78	11.30			
3283	②	15.075	14.955	774.039	Ⅵb				C	An	0.37	0.57	0.12	0.01			
3284	②	15.061	14.554	774.065	Ⅵa				F	H－Sh	1.83	1.60	0.39	0.96			
3285	②	15.233	14.511	774.036	Ⅵa				C	Ob－B	1.62	0.98	0.49	0.66			
3286	②	15.517	14.761	774.044	Ⅵa		1		RF	Ob－A	2.41	1.87	0.62	2.12		42	
3287	②	15.589	14.596	774.108	Ⅴ				F	Ob－B	2.21	1.10	0.34	0.62			
3288	②	15.716	14.476	774.150	Ⅴ				C	Ob－B	2.19	0.77	0.46	0.42			
3289	②	15.634	13.738	774.209	Ⅵa				C	Ob－B	1.43	1.31	0.18	0.42			
3291	②	15.446	11.575	774.259	Ⅵa				C	An	0.90	0.82	0.22	0.21			
3292	②	16.949	11.400	774.227	Ⅵa				C	Ob－B	0.75	0.62	0.13	0.03			
3293	②	15.724	－10.667	773.785	Ⅵb				F	Ob－B	1.13	1.28	0.62	1.01			
3294	②	15.630	－10.989	773.746	Ⅵb				C	Ob－B	0.59	0.73	0.20	0.05			
3295	②	15.503	－11.701	773.742	Ⅵb				C	Ob－B	0.92	0.71	0.11	0.03			
3296	②	15.575	－11.717	773.779	Ⅵb				F	Ob－C	1.40	1.67	0.62	1.02			
3297	②	15.640	－11.724	773.655	Ⅵb				F	Ob－B	2.60	1.70	0.51	2.47			
3298	②	15.854	－11.983	773.670	Ⅵb				C	Ob－B	1.09	0.94	0.16	0.18			
3299	②	16.083	－11.552	773.650	Ⅵb				C	Ob－B	0.84	0.92	0.49	0.16			
3300	②	16.136	－12.061	773.646	Ⅵb				F	Ob－B	1.66	2.32	0.59	2.18			
3301	②	15.567	－12.297	773.635	Ⅵb				F	Ob－B	1.66	1.52	0.41	0.66			
3302	②	15.586	－12.313	773.695	Ⅵb				F	Ob－B	0.70	0.67	0.09	0.01			
3303	②	15.078	－12.334	773.698	Ⅵb	1	1		Trz	Ob－B	2.82	2.29	0.52	3.03		18	刃部欠損
3304	②	15.143	－12.610	773.635	Ⅵb				C	Ob－B	1.10	1.10	0.29	0.36			
3305	②	15.732	－12.519	773.632	Ⅵb				C	Ob－B	1.44	1.59	0.20	0.50			
3306	②	15.726	－12.545	773.633	Ⅵb				F	Ob－B	2.12	1.11	0.71	1.13			
3307	②	15.335	－12.938	773.586	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.52	1.53	0.48	1.16			
3308	②	15.432	－12.880	773.741	Ⅵb				F	Ob－B	1.93	2.12	0.50	1.65			
3309	②	15.310	－12.787	773.698	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	4.38	2.47	0.57	6.67		18	平坦剥離
3310	②	15.142	－12.839	773.594	Ⅵb				C	Ob－B	0.82	0.71	0.59	0.30			
3311	②	15.515	－13.089	773.651	Ⅵb				C	Ob－B	0.98	0.96	0.20	0.17			
3312	②	15.460	－13.389	773.642	Ⅵb				F	Ob－B	1.86	1.11	0.36	0.56			
3313	②	15.581	－14.038	773.625	Ⅵb				C	Ob－B	0.53	0.77	0.35	0.07			
3314	②	16.400	－12.694	773.585	Ⅵa				F	Ob－B	4.24	3.21	0.40	4.05			
3315	②	16.902	－14.143	773.651	Ⅵa				F	Ob－B	2.96	1.82	0.27	1.45			
3316	②	17.541	－12.829	773.517	Ⅵb				C	Ob－C	0.60	0.60	0.31	0.07			
3317	②	18.764	－14.620	73.514	Ⅵb				F	Ob－C	1.30	1.40	0.82	1.23			
3318	②	13.803	－4.763	773.375	Ⅵb				F	Ob－B	1.71	1.81	0.48	1.16			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3319	②	14.021	−5.778	774.240	Ⅵa				F	Ob−B	1.93	1.31	0.46	0.91			
3320	②	13.139	−5.866	774.219	Ⅵb				C	Ob−B	0.92	0.86	0.22	0.09			
3321	②	12.101	−4.068	774.114	Ⅵb				C	H−Sh	0.77	0.91	0.71	0.41			
3322	②	12.192	−5.102	774.194	Ⅵb				C	Ob−B	1.08	1.57	0.28	0.38			
3323	②	12.634	−4.724	774.104	Ⅵb				F	Ob−B	2.21	1.73	0.56	1.66			
3324	②	13.098	−4.709	774.230	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.98	1.32	0.37	0.86			
3325	②	13.201	−3.666	774.346	Ⅵa				F	Ob−B	2.01	4.08	0.58	5.60			
3326	②	10.925	−3.433	774.287	Ⅵb				C	Ob−B	0.50	0.92	0.30	0.10			
3327	②	10.669	−3.398	774.289	Ⅵb				C	Ob−B	0.58	0.70	0.15	0.04			
3328	②	10.917	−3.199	774.363	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.83	1.02	0.51	0.79			
3329	②	10.662	−2.915	774.334	Ⅵb				C	Ob−B	1.40	1.22	0.29	0.37			
3330	②	11.036	−5.764	774.099	Ⅵb				C	Ob−B	1.22	1.29	0.26	0.29			
3331	②	14.863	13.027	773.905	Ⅵb				F	H−Sh	2.78	2.70	0.41	3.18			
3332	②	14.732	12.728	773.912	Ⅵb				F	H−Sh	1.70	1.65	0.41	1.54			
3334	②	14.256	12.709	773.976	Ⅵb				F	H−Sh	2.21	2.20	0.84	4.40	3262・3602		
3335	②	13.860	13.057	774.066	Ⅵb				F	Sa	1.60	0.81	0.39	0.44			
3336	②	13.594	14.887	774.057	Ⅵb				C	Ob−B	1.05	1.60	0.86	1.09			
3337	②	12.626	15.206	774.041	Ⅵb				F	Ob−B	1.38	2.30	0.22	0.79			
3338	②	12.319	15.349	774.036	Ⅵb				C	Ob−B	1.09	0.90	0.36	0.27			
3339	②	12.076	15.919	774.071	Ⅵb				C	Ob−B	0.72	0.99	0.21	0.08			
3340	②	12.254	14.533	774.110	Ⅵb				C	H−Sh	1.02	1.07	0.31	0.27			
3341	②	12.221	14.580	774.024	Ⅵb				C	Ob−B	0.79	1.00	0.40	0.22			
3342	②	11.891	14.175	774.033	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	1.90	1.21	0.37	0.64			
3343	②	11.952	14.105	774.071	Ⅵb				C	Ob−B	0.97	1.21	0.31	0.41			
3344	②	12.329	14.016	774.048	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.36	1.92	0.61	1.46			
3345	②	12.157	13.989	774.045	Ⅵb				C	H−Sh	0.47	0.70	0.11	0.03			
3346	②	11.725	13.891	774.106	Ⅵb				C	Ob−B	0.94	1.01	0.20	0.15			
3347	②	12.377	13.838	773.938	Ⅵb				C	Ob−B	0.68	0.98	0.31	28.00			
3348	②	12.271	13.287	773.952	Ⅵb				C	Ob−B	0.81	1.21	0.29	0.33			
3349	②	12.215	13.333	774.104	Ⅵb				C	H−Sh	1.28	1.61	0.26	0.79			
3350	②	12.755	13.223	774.040	Ⅵb				C	H−Sh	1.90	0.91	0.41	0.45			
3351	②	12.268	13.326	774.115	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.57	2.10	0.58	2.04			
3352	②	12.187	13.220	774.112	Ⅵb				C	H−Sh	0.91	1.11	0.30	0.22			
3353	②	12.192	13.194	774.243	Ⅵb				C	Ob−B	0.78	1.09	0.50	0.25			
3354	②	12.122	13.123	774.241	Ⅵb				F	Ob−B	1.58	1.91	0.57	1.76			
3355	②	11.594	13.086	774.070	Ⅵb				F	H−Sh	4.68	4.50	1.82	36.75	3271・3359・3365・4014・4338		
3356	②	11.382	12.702	774.062	Ⅵb				Trz	Ob−B	2.50	2.01	0.82	2.97		19	
3357	②	10.936	13.085	774.054	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	1.66	1.38	0.51	1.07			平坦剥離
3358	②	10.880	13.105	774.055	Ⅵb				C	H−Sh	0.58	1.03	0.22	0.09			
3359	②	11.222	13.546	774.127	Ⅵb				F	H−Sh	2.55	2.58	0.91	7.07	3271・3355・3365・4014・4338		
3360	②	11.294	13.558	774.125	Ⅵb				C	An	0.70	1.39	0.78	0.64			
3361	②	11.147	13.631	774.124	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.25	1.57	0.39	0.73			
3363	②	11.672	16.705	774.037	Ⅵb				F	H−Sh	2.68	1.90	0.54	3.08			
3364	②	11.841	13.806	774.205	Ⅵb				C	Ob−B	0.71	1.40	0.22	0.24			
3365	②	11.868	13.623	774.214	Ⅵb				C	H−Sh	0.91	1.52	0.28	0.44			
3366	②	11.883	13.667	774.209	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.00	1.32	0.44	0.47			
3367	②	11.810	13.570	774.215	Ⅵb				C	Ob−B	0.86	1.00	0.31	0.27			
3369	②	11.417	13.771	774.103	Ⅵb				C	H−Sh	0.43	0.70	0.12	0.02			
3371	②	12.633	13.842	774.126	Ⅵb	1			F	Ob−A	1.10	1.56	0.61	0.70			
3372	②	12.297	13.567	774.103	Ⅵb				C	Ob−B	0.79	1.13	0.81	0.74			
3373	②	13.704	13.412	774.123	Ⅵb				F	H−Sh	2.09	2.16	0.47	2.04			
3374	②	12.589	13.573	774.016	Ⅵb				C	Ob−B	0.86	0.92	0.13	0.10			
3375	②	10.945	13.604	774.100	Ⅵb	1			F	H−Sh	1.14	0.56	0.19	0.15			
3377	②	5.230	1.241	774.660	Ⅵb				C	Ob−C	0.82	0.88	0.41	0.23			
3378	②	4.222	1.306	774.697	Ⅵb				F	Ob−C	1.28	0.50	0.39	0.73			
3380	②	3.812	1.386	774.716	Ⅵb				C	Ob−C	0.94	0.95	0.45	0.41			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3381	②	6.990	1.749	774.661	Ⅵa				F	Rh	1.40	1.88	0.21	1.09			
3382	②	2.849	0.984	774.726	Ⅵb	1			F	Ob－C	1.73	1.28	0.79	1.57			
3383	②	1.987	1.240	774.791	Ⅵb				C	An	1.02	1.59	0.51	0.72			
3384	②	7.162	－4.303	774.289	Ⅵb				C	Ob－B	0.72	0.92	0.22	0.11			
3385	②	7.182	－4.856	774.263	Ⅵb				C	H－Sh	0.95	1.31	0.42	0.65			
3386	②	8.167	－4.443	774.284	Ⅵb				F	Ob－C	1.27	1.59	0.88	1.44			
3387	②	13.861	－16.491	773.453	Ⅵb				C	An	1.11	0.81	0.18	0.12			
3388	②	13.816	－18.819	773.209	Ⅵb				C	Ob－B	1.19	1.30	0.41	0.56			
3389	②	5.510	－7.136	774.310	Ⅵb				F	Ob－B	1.18	1.06	0.79	0.98			
3390	②	6.551	－7.108	774.274	Ⅵb				C	Ob－C	0.84	0.92	0.67	0.38			
3391	②	8.090	－7.039	774.207	Ⅵb				F	Ob－B	2.25	1.22	0.40	0.89			
3392	②	28.783	－8.924	773.707	Ⅳb				F	Ob－B	5.65	2.91	1.28	15.58			
3395	②	15.124	－9.279	774.142	Ⅴ	1			F	Ob－E	1.49	3.02	0.46	2.64			
3396	②	15.676	－11.839	773.666	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	3.36	1.92	0.42	3.34		18	平坦剥離
3397	②	15.297	－11.954	773.713	Ⅵb	1			C	Ob－B	1.82	1.48	0.43	1.02			
3398	②	15.313	－12.601	773.645	Ⅵb				C	Ob－B	0.75	1.01	0.20	0.12			
3399	②	16.612	－13.731	773.554	Ⅵb				C	Ob－B	1.20	0.81	0.22	0.17			
3400	②	19.283	－14.169	773.020	Ⅵb				F	Ob－B	1.57	1.82	0.41	1.32			
3401	②	8.261	－8.040	774.208	Ⅵb				C	H－Sh	1.07	0.89	0.78	0.57			
3402	②	8.064	－7.096	774.203	Ⅵb				C	Ob－B	0.61	0.89	0.19	0.09			
3403	②	8.150	－6.809	774.208	Ⅵb				C	H－Sh	0.88	0.79	0.32	0.14			
3404	②	1.745	1.321	774.702	Ⅵb				C	Ob－A	0.64	0.83	0.18	0.12			
3405	②	11.287	15.102	774.059	Ⅵb				F	Ob－B	1.27	1.50	0.45	0.92			
3406	②	10.799	15.044	774.081	Ⅵb				C	Ob－B	1.90	1.00	0.22	0.46			
3407	②	11.500	12.819	774.031	Ⅵb				C	Ob－C	0.73	0.61	0.54	0.19			
3408	②	11.280	13.525	774.051	Ⅵb				C	Ob－B	0.32	0.42	0.11	0.01			
3409	②	11.924	13.172	774.009	Ⅵb				F	H－Sh	1.52	2.43	0.26	1.28			
3410	②	12.282	12.949	774.029	Ⅵb				F	H－Sh	1.85	2.20	0.44	2.06			
3411	②	12.382	13.193	774.016	Ⅵb				C	Ob－B	1.11	1.27	0.29	0.56			
3412	②	12.728	12.898	774.020	Ⅵb				C	Ob－B	0.30	0.64	0.17	0.01			
3413	②	11.863	13.228	774.022	Ⅵb				F	Ob－B	0.90	0.96	0.54	1.56			
3414	②	12.156	13.222	774.019	Ⅵb				C	An	0.26	0.48	0.09	0.01			
3415	②	12.687	15.570	774.087	Ⅵb				F	Ob－B	2.90	2.78	0.40	9.24			
3421	②	17.277	－8.881	774.267	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	2.30	1.80	0.42	1.75		19	
3422	②	11.068	－2.980	774.390	Ⅵb				C	Ob－B	0.94	1.13	0.12	0.09			
3423	②	10.826	－2.915	774.366	Ⅵb				C	Ob－B	0.58	0.59	0.16	0.02			
3424	②	10.720	－2.939	774.410	Ⅵb				C	Ob－B	1.27	0.61	0.32	0.08			
3426	②	10.679	－3.166	774.378	Ⅵb				C	Ob－B	0.50	0.61	0.31	0.06			
3427	②	10.768	－3.210	774.390	Ⅵb				C	Ob－B	0.93	1.31	0.31	0.23			
3428	②	11.409	－2.756	774.376	Ⅵb				C	Ob－B	0.51	0.59	0.11	0.02			
3429	②	10.738	－3.994	774.310	Ⅵb	1			F	Ch	1.65	1.06	0.34	0.29	3229		
3430	②	13.056	－3.918	774.278	Ⅵb				F	Rh	2.32	2.07	0.79	2.34			
3431	②	18.046	－5.267	774.253	Ⅵa				F	Ob－B	2.10	2.20	1.08	2.75			
3432	②	27.263	7.283	774.267	Ⅴ				C	Ob－C	1.01	1.21	0.12	0.26			
3433	②	27.626	7.209	774.273	Ⅴ				F	Ob－C	1.47	1.65	0.68	0.92			
3434	②	28.460	7.239	774.332	Ⅴ	1			F	Ob－B	4.14	3.15	0.12	9.25			
3435	②	28.421	7.390	774.311	Ⅴ	1			F	An	3.04	4.20	0.51	6.60			
3436	②	28.207	6.337	774.335	Ⅳb				Co	Ob－C	2.73	3.51	1.79	15.88			
3437	②	12.742	13.183	774.032	Ⅵb				F	Ob－B	1.59	1.64	0.85	1.51			
3438	②	12.610	13.191	774.000	Ⅵb				C	Ob－B	0.43	0.48	0.15	0.01			
3439	②	12.510	13.091	774.027	Ⅵb	1	1		RF	Ob－B	2.40	1.76	0.42	1.77		20	
3440	②	12.350	13.105	774.033	Ⅵb				C	Ob－B	1.30	1.12	0.31	0.54			
3441	②	12.245	12.932	774.044	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	1.50	0.49	0.44			
3443	②	11.897	13.244	773.954	Ⅵb				F	Ob－B	2.00	2.11	1.00	3.07			
3444	②	11.775	13.255	773.955	Ⅵb				C	H－Sh	1.20	1.25	0.42	0.45			
3445	②	11.707	13.335	773.955	Ⅵb				F	H－Sh	1.60	2.52	0.50	2.31			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3446	②	11.748	13.368	773.948	Ⅵb				C	Ob−B	0.82	0.62	0.21	0.09			
3447	②	11.936	13.332	773.941	Ⅵb				C	Sch	1.03	0.90	0.41	0.27			
3448	②	11.114	13.385	773.921	Ⅵb				C	H−Sh	0.52	0.58	0.08	0.26			
3449	②	11.351	13.555	773.923	Ⅵb				C	Ob−B	0.66	0.68	0.29	0.16			
3450	②	11.388	13.759	773.942	Ⅵb	1			F	H−Sh	1.32	1.92	0.18	0.79			
3451	②	11.219	13.857	773.925	Ⅵb				F	H−Sh	4.29	3.32	0.41	7.73			
3452	②	10.847	13.844	773.964	Ⅵb				F	H−Sh	1.60	1.00	0.37	0.62			
3453	②	15.336	13.075	774.202	Ⅵa				C	Ob−B	0.99	0.75	0.21	0.04			
3454	②	11.406	13.936	773.966	Ⅵb				C	H−Sh	0.52	0.58	0.08	0.01			
3455	②	10.809	14.188	773.959	Ⅵb				C	H−Sh	1.64	1.75	0.08	0.26			
3456	②	10.752	14.476	773.874	Ⅵb	1			F	H−Sh	1.88	1.90	0.31	1.23			
3457	②	10.845	14.496	773.870	Ⅵb				C	Ob−B	1.01	1.41	0.40	0.34			
3458	②	10.680	14.510	773.890	Ⅵb				C	H−Sh	1.47	0.98	0.19	0.29			
3459	②	10.791	14.596	773.883	Ⅵb				F	Ob−B	2.10	1.50	0.33	1.53			
3460	②	10.603	14.629	773.889	Ⅵb				C	H−Sh	0.61	0.91	0.62	0.33			
3461	②	10.310	15.033	773.951	Ⅵb				C	H−Sh	0.43	0.89	0.15	0.03			
3462	②	11.152	14.808	773.928	Ⅵb				C	H−Sh	0.75	1.12	0.31	0.23			
3463	②	11.696	14.263	773.984	Ⅵb				C	Ob−B	1.40	1.68	0.41	0.89			
3464	②	11.654	14.371	773.922	Ⅵb				C	Ob−B	0.71	0.82	0.20	0.05			
3465	②	11.926	14.522	773.981	Ⅵb				F	Ob−B	1.50	1.71	0.23	0.72			
3466	②	11.874	14.990	773.975	Ⅵb				C	H−Sh	0.73	1.46	0.14	0.18			
3467	②	12.305	14.240	774.002	Ⅵb				F	Ag	1.49	2.37	1.18	4.27			
3468	②	12.261	14.300	773.925	Ⅵb				C	H−Sh	1.40	1.47	0.25	0.52			
3469	②	12.306	14.776	774.012	Ⅵb				F	H−Sh	1.47	2.01	0.53	1.56			
3470	②	12.079	15.059	773.980	Ⅵb				F	Ob−B	2.40	1.14	0.88	2.28			
3471	②	12.960	14.114	773.993	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	3.29	1.78	1.00	3.95		20	平坦剥離
3472	②	13.027	14.069	773.963	Ⅵb				F	Sa	1.39	1.59	0.83	1.55			
3473	②	13.958	13.652	773.984	Ⅵb				Trz	Ob−B	2.32	1.70	0.77	2.48			
3474	②	14.442	13.779	774.028	Ⅵb				F	Ob−B	0.88	1.33	0.35	0.39			
3475	②	14.579	13.633	773.972	Ⅵb				F	H−Sh	1.57	1.80	0.16	0.77			
3476	②	14.655	13.537	773.896	Ⅵb				F	H−Sh	1.70	1.21	0.22	0.51			
3477	②	14.580	13.419	773.858	Ⅵb				C	H−Sh	0.99	1.08	0.14	0.13			
3478	②	14.308	13.207	773.936	Ⅵb				C	Ob−B	0.65	0.80	0.19	0.05			
3479	②	14.308	13.145	773.878	Ⅵb	1			F	Ob−B	0.87	2.16	0.58	0.90			
3480	②	14.116	13.132	773.908	Ⅵb				F	Sa	2.10	1.27	0.34	0.88			
3481	②	14.178	13.064	773.895	Ⅵb				F	Ob−B	1.72	2.13	1.02	3.12			
3482	②	14.147	13.026	773.890	Ⅵb				C	Ob−B	0.79	1.10	0.13	0.09			
3483	②	14.152	13.157	773.918	Ⅵb				C	Ob−C	0.32	0.32	0.19	0.01			
3484	②	26.839	6.454	774.141	Ⅴ				F	Ob−C	2.91	3.11	0.72	5.73			
3485	②	27.406	6.712	774.105	Ⅵa				F	Ob−C	1.38	1.21	0.30	2.02			
3486	②	27.548	6.932	774.058	Ⅵa				C	Ob−C	1.05	1.00	0.26	0.18			
3487	②	27.854	6.165	774.089	Ⅵa				F	Ob−C	1.62	1.67	0.70	1.66			
3488	②	27.999	5.886	774.190	Ⅵa				Co	Ob−C	5.33	5.11	2.39	60.40	2875・3489		
3489	②	28.147	5.862	774.143	Ⅵa				F	Ob−C	4.10	4.62	2.70	39.67	2875・3488		
3490	②	29.371	7.121	774.124	Ⅴ		1		RF	Ob−B	2.19	2.35	0.92	3.62			
3491	②	26.402	6.509	774.033	Ⅵa				F	Ob−B	2.09	1.39	0.43	1.05			
3492	②	29.642	6.682	774.337	Ⅳb				F	Ob−B	4.38	1.92	1.19	6.42			
3493	②	29.654	6.821	774.488	Ⅳa				F	Ob−B	2.90	1.98	0.68	2.64			
3494	②	10.710	−2.892	774.230	Ⅵb				C	Ob−B	0.83	0.81	0.15	0.06			
3495	②	10.929	−3.173	774.178	Ⅵb				C	Ob−B	0.59	0.68	0.09	0.03			
3496	②	11.132	−2.890	774.205	Ⅵb				F	H−Sh	0.93	0.97	0.66	0.52			
3497	②	13.579	−3.575	774.147	Ⅵa				C	Ob−B	1.17	1.18	0.12	0.15			
3498	②	13.808	−4.768	774.140	Ⅵb				F	An	2.90	1.77	0.59	3.40			
3499	②	14.705	−7.033	773.989	Ⅵb	1	1		Kn	Ob−B	4.54	2.41	1.10	8.05		41	一側縁加工
3500	②	19.564	−6.845	773.924	Ⅵb				C	Ob−B	0.62	1.49	0.21	0.21			
3501	②	15.916	−11.994	773.532	Ⅵb				C	Ob−B	1.00	1.17	0.34	0.37			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3502	②	0.947	−16.418	773.690	Ⅵb				C	Ob−B	0.57	0.55	0.34	0.02			
3503	②	1.878	−16.138	773.707	Ⅶ				C	Ob−B	0.49	0.78	0.47	0.12			
3504	②	1.634	−15.801	773.698	Ⅶ				C	Ob−C	0.67	0.98	0.31	0.20			
3505	②	1.814	−15.519	773.921	Ⅶ				C	Ob−B	0.66	0.95	0.22	0.09			
3506	②	2.603	−15.937	773.652	Ⅶ				C	Ob−B	0.70	0.78	0.29	0.09			
3507	②	2.746	−15.773	773.540	Ⅵb				C	Ob−B	0.78	1.05	0.29	0.23			
3508	②	2.927	−16.042	773.698	Ⅵb				C	Ob−B	0.98	1.33	0.17	0.22			
3509	②	3.364	−15.303	773.776	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.87	1.39	0.62	2.00			
3510	②	3.477	−30.303	773.757	Ⅵb				C	Ob−C	0.61	0.62	0.38	0.09			
3511	②	4.958	−15.251	773.698	Ⅵb	1			F	Ob−B	0.62	1.62	0.29	0.14			
3512	②	5.008	−15.193	773.667	Ⅵb				C	Ob−B	0.81	0.65	0.20	0.06			
3513	②	7.362	−8.343	774.002	Ⅵb				C	An	0.90	0.91	0.68	0.52			
3514	②	8.398	−8.134	774.102	Ⅵb				C	H−Sh	0.92	0.71	0.26	0.21			
3515	②	8.276	−7.936	774.110	Ⅵb				C	Ob−B	1.07	1.31	0.23	0.26			
3516	②	7.049	−7.121	774.091	Ⅵb				F	Ob−B	1.51	1.93	0.49	2.44			
3517	②	7.347	−6.854	774.106	Ⅵb				C	Ob−B	0.81	0.92	0.50	0.37			
3518	②	7.975	−6.707	774.102	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.11	1.82	0.41	1.47			
3519	②	8.370	−6.893	774.112	Ⅵb				F	Ob−B	1.17	1.08	0.70	0.73			
3520	②	2.715	3.597	774.579	Ⅵb				C	Ob−C	0.69	0.53	0.32	0.14			
3521	②	3.043	0.823	774.575	Ⅵb				F	An	2.35	2.43	0.10	2.49			
3522	②	6.549	3.515	774.527	Ⅵb			1	F	Rh	3.52	2.58	0.62	5.53		22	
3523	②	1.382	3.503	774.622	Ⅵb				C	An	1.32	1.46	0.90	0.94			
3524	②	0.654	4.925	774.866	Ⅵa				C	An	0.31	0.42	0.22	0.01			
3525	②	7.217	4.818	774.621	Ⅵa				F	S−Sh	2.08	3.65	0.59	3.42			
3526	②	2.422	−17.040	773.595	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	0.79	0.48	0.29			
3527	②	3.038	−15.639	773.695	Ⅵb				C	Ob−B	1.05	0.92	0.39	0.21			
3528	②	8.059	8.862	774.673	Ⅴ				F	Ob−B	3.02	1.76	0.64	3.26			
3529	②	5.664	8.164	774.644	Ⅵa			1	UF	Ob−C	2.21	2.68	0.52	2.62		43	
3530	②	5.602	9.063	774.685	Ⅵa				F	Ob−C	1.22	1.43	0.60	0.91			
3531	②	4.237	8.849	774.771	Ⅵa				C	An	1.20	1.41	0.27	0.46			
3532	②	11.217	13.791	773.933	Ⅵb				C	H−Sh	1.10	1.43	0.22	0.26			
3533	②	11.186	13.897	773.909	Ⅶ				F	H−Sh	1.35	1.32	0.90	1.28			
3534	②	11.374	13.897	773.941	Ⅵb				C	H−Sh	0.38	0.62	0.13	0.03			
3535	②	11.739	14.196	773.927	Ⅵb				C	H−Sh	0.97	0.93	0.25	0.27			
3536	②	10.848	14.504	773.870	Ⅵb				F	H−Sh	1.62	1.00	0.26	0.71			
3537	②	10.587	14.942	773.870	Ⅵb				F	H−Sh	2.04	1.40	0.48	1.25			
3538	②	10.968	14.892	773.871	Ⅵb				F	Ob−B	1.31	2.17	0.31	0.79			
3539	②	11.837	14.803	773.879	Ⅵb				C	Ob−C	0.45	0.61	0.42	0.09			
3540	②	12.539	14.278	773.897	Ⅵb				F	H−Sh	2.86	3.23	0.84	6.63			
3541	②	12.086	14.517	773.890	Ⅵb				C	H−Sh	0.92	0.71	0.26	0.21			
3542	②	11.908	14.917	773.899	Ⅵb				C	H−Sh	0.44	0.60	0.15	0.04			
3543	②	12.214	15.045	773.923	Ⅵb				C	Ob−B	0.78	0.86	0.20	0.15			
3544	②	12.123	15.318	773.952	Ⅵb				C	H−Sh	0.92	0.71	0.26	0.21			
3545	②	12.793	15.021	773.986	Ⅵb				C	Ob−B	1.00	1.18	0.38	0.44			
3546	②	12.822	14.743	773.985	Ⅵb				C	H−Sh	1.26	1.27	0.31	0.53			
3547	②	13.298	14.505	774.032	Ⅵb				C	Ob−B	0.70	0.71	0.20	0.09			
3548	②	13.688	14.208	773.993	Ⅵb				F	Sa	1.27	1.20	0.87	1.02			
3549	②	13.915	14.140	773.859	Ⅵb				C	Ob−C	0.70	1.01	0.19	0.09			
3550	②	13.914	13.933	773.971	Ⅵb				C	H−Sh	0.88	1.55	0.08	0.30			
3551	②	14.018	14.074	773.881	Ⅵb				F	Sa	2.30	2.09	0.33	1.93			
3552	②	14.125	14.009	773.866	Ⅵb				F	Ob−B	1.59	1.38	0.72	1.21			
3553	②	14.202	13.585	773.915	Ⅵb				C	H−Sh	0.41	0.89	0.11	0.01			
3554	②	14.348	13.911	773.827	Ⅵb				C	An	0.63	0.64	0.28	0.04			
3555	②	14.411	13.572	773.848	Ⅵb				C	H−Sh	0.70	0.88	0.10	0.03			
3556	②	14.579	13.665	773.831	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	2.01	1.77	0.40	1.52			
3557	②	14.553	13.852	773.837	Ⅵb				F	H−Sh	1.89	1.58	0.21	0.80			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3558	②	14.566	14.026	773.987	Ⅵb				C	H−Sh	0.72	0.61	0.13	0.02			
3559	②	14.056	14.224	773.935	Ⅵb				F	Ob−B	2.19	1.71	0.55	1.83			
3560	②	14.144	14.113	774.008	Ⅵb				C	Ob−B	1.02	1.50	0.38	0.54			
3561	②	14.663	14.297	773.998	Ⅵb				C	Ob−B	0.66	1.22	0.09	0.21			
3563	②	13.543	14.859	774.034	Ⅵb				C	H−Sh	1.21	1.30	0.21	0.40			
3564	②	12.273	−5.088	774.006	Ⅵb				Co	Ag	2.41	3.13	2.52	17.59			
3565	②	14.090	−6.388	773.923	Ⅵb	1	1		Kn	Ob−B	4.26	2.57	0.89	9.86		20	基部加工
3566	②	14.085	−6.708	773.907	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.60	1.87	0.19	1.00			
3568	②	24.168	−11.634	773.775	Ⅳb				F	Ob−B	2.20	3.09	1.05	6.92			
3569	②	24.277	−13.425	773.550	Ⅳb				Co	Ob−B	3.71	2.33	1.72	11.44		61	
3570	②	23.537	−14.140	773.544	Ⅳb				C	Ob−B	1.21	1.38	0.51	0.41			
3571	②	27.163	6.641	774.047	Ⅵb				C	Ob−C	1.22	1.34	0.31	0.40			
3572	②	27.347	6.870	774.054	Ⅵb				F	Ob−C	2.35	1.32	0.99	2.69			
3573	②	29.166	6.949	773.971	Ⅵb	1			F	Ob−C	2.42	2.61	0.89	4.98			
3574	②	27.896	5.183	774.070	Ⅵa				F	Ob−C	1.31	0.99	0.39	0.41			
3575	②	4.065	−16.733	773.605	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.82	2.43	0.80	5.08			
3576	②	4.641	−17.207	773.548	Ⅵb	1	1		Trz	Ob−B	1.11	1.88	0.39	1.71		19	平坦剥離
3577	②	3.358	−18.415	773.423	Ⅵb				C	Ob−B	0.59	0.88	0.30	0.10			
3578	②	4.527	−18.735	773.484	Ⅵb				C	Ob−B	0.93	0.90	0.48	0.37			
3579	②	7.187	−7.849	773.917	Ⅶ				C	H−Sh	0.62	0.46	0.38	0.06			
3580	②	8.002	−4.333	774.181	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.68	1.19	1.17	1.97			
3581	②	0.629	8.324	774.888	Ⅵb				Co	An	2.20	4.53	2.93	24.64			
3582	②	1.210	8.300	774.919	Ⅵb				C	Ob−C	0.98	0.66	0.20	0.14			
3583	②	0.524	8.936	774.972	Ⅵa				F	An	1.20	1.74	0.41	0.54			
3584	②	2.435	7.785	774.885	Ⅵa	1		1	UF	An	3.51	4.33	0.83	11.17	2498・3586		
3585	②	2.437	7.840	774.840	Ⅵa				C	Ob−C	1.00	0.41	0.21	0.05			
3586	②	1.840	9.364	775.058	Ⅴ	1			F	An	1.71	2.08	0.39	0.95	2498・3584		
3587	②	10.769	15.362	773.914	Ⅵb				C	H−Sh	0.44	0.63	0.18	0.02			
3588	②	11.007	14.929	773.872	Ⅵb				F	H−Sh	1.18	1.76	0.39	0.75			
3589	②	11.303	15.157	773.848	Ⅵb				C	H−Sh	0.77	1.06	0.29	0.29			
3590	②	11.313	15.338	773.872	Ⅶ				F	H−Sh	1.47	1.08	0.20	0.38			
3591	②	11.713	15.424	773.898	Ⅵb				C	Ob−B	1.16	1.38	0.65	0.77			
3592	②	11.710	15.458	773.899	Ⅵb				C	Ob−B	0.60	1.00	0.19	0.12			
3593	②	12.062	15.313	773.938	Ⅵb				C	H−Sh	0.72	0.70	0.28	0.11			
3594	②	12.011	15.946	773.888	Ⅵb				C	Ob−B	0.98	0.68	0.09	0.20			
3595	②	11.445	15.835	773.925	Ⅵb	1			F	H−Sh	2.49	3.92	0.87	9.36	3271・3355・4014・4338		
3596	②	12.730	16.347	773.961	Ⅵb				F	Ob−B	1.78	0.53	0.49	0.29			
3597	②	12.835	16.400	773.976	Ⅵb				F	H−Sh	2.11	1.86	0.69	2.38			
3598	②	13.452	14.407	773.974	Ⅵb				C	Ob−C	0.28	0.41	0.11	0.01			
3599	②	13.601	16.071	773.896	Ⅵb				F	Ob−B	1.70	1.51	0.23	0.71			
3601	②	14.708	14.252	773.865	Ⅶ				F	Ob−B	0.98	1.39	0.17	0.23			
3602	②	14.158	15.364	773.962	Ⅵb				F	H−Sh	3.31	2.68	0.99	6.64	3262・3334		
3603	②	16.962	14.113	774.074	Ⅵb				F	Ob−B	1.71	1.90	0.50	1.81			
3647	②	22.259	−10.991	773.637	Ⅵa		1		Trz	Ob−B	2.10	1.63	0.35	1.25		42	
3648	②	22.199	−11.774	773.573	Ⅴ				F	Ob−B	1.67	1.56	0.62	1.44			
3649	②	22.296	−12.102	773.564	Ⅴ				F	Ob−B	2.97	3.03	0.57	5.43			
3650	②	21.702	−11.682	773.634	Ⅴ				F	Ob−B	1.37	1.54	0.41	0.92			
3651	②	3.677	−17.424	773.521	Ⅵb				C	Ob−C	1.07	1.00	0.78	0.71			
3652	②	1.412	−7.991	773.952	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.31	1.87	0.91	1.33			
3653	②	8.911	−7.956	773.896	Ⅵb				C	Ob−B	0.88	0.80	0.21	0.12			
3654	②	8.520	−6.730	774.028	Ⅵb				C	Ob−C	0.60	0.88	0.21	0.04			
3707	②	22.474	−14.828	773.347	Ⅶ	1		1	UF	Ob−C	4.21	3.91	1.57	17.94		22	
3708	②	22.896	−14.078	773.360	Ⅶ	1			F	Ob−B	1.90	1.92	0.40	1.64			
3761	②	19.661	0.552	775.006	Ⅳa				C	Ob−B	1.08	1.09	0.67	0.68			
3781	②	13.465	14.761	773.958	Ⅵb				C	H−Sh	0.86	0.82	0.41	0.22			
3782	②	14.442	15.294	773.843	Ⅵb		1		Trz	Ob−B	3.30	2.38	0.49	4.37			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
3783	②	14.412	15.287	773.843	Ⅵb				F	H－Sh	1.82	1.59	0.29	0.83			
3784	②	14.400	16.289	773.960	Ⅵb				C	H－Sh	0.69	0.40	0.16	0.02			
3785	②	14.948	11.491	774.099	Ⅵb				C	H－Sh	0.54	0.83	0.49	0.19			
3786	②	15.169	10.605	774.103	Ⅵb				F	Ob－B	4.18	3.60	1.59	19.28	3075･3145･3196･4025		
3787	②	15.658	10.777	774.201	Ⅵa				C	An	0.78	0.92	0.50	0.23			
3788	②	16.292	11.504	774.157	Ⅵb				RF	Ob－C	2.71	1.25	0.81	2.37			
3789	②	16.852	12.028	774.122	Ⅵa				F	Ob－B	1.08	1.72	0.28	0.69			
3790	②	18.729	11.003	774.142	Ⅵb				C	Ob－B	0.48	0.56	0.28	0.01			
3857	②	4.991	4.885	774.454	Ⅵb				C	Ob－C	0.50	0.60	0.29	0.07			
3858	②	6.926	5.573	774.414	Ⅵb				F	Rh	1.50	2.01	0.26	0.69			
3860	②	7.914	10.917	774.206	Ⅵb				F	Sch	1.21	1.50	0.33	0.72			
3862	②	16.691	11.503	774.124	Ⅵb				C	Ob－C	2.76	4.03	1.09	12.06			
3877	②	26.839	5.048	774.201	Ⅵa				F	Ob－B	1.75	1.20	0.52	0.96			
3878	②	27.509	5.019	774.157	Ⅵa	1			F	Ob－B	3.00	2.01	0.89	4.96			
3879	②	28.590	3.305	774.196	Ⅴ				F	Ob－B	2.68	1.83	0.61	2.46			
3880	②	29.249	3.129	774.204	Ⅴ			1	UF	Ob－B	3.30	4.52	1.50	15.99		45	
3881	②	27.702	3.095	774.241	Ⅴ	1			F	Ob－B	2.11	2.18	0.57	2.29			
3882	②	26.820	1.996	774.231	Ⅴ				F	Ob－C	1.14	1.96	0.94	2.01			
3961	②	26.484	3.336	774.145	Ⅵb				C	Ob－C	0.90	0.93	0.50	0.36			
3962	②	26.760	3.445	774.196	Ⅵa				F	Ob－C	1.31	0.99	0.39	0.41			
3964	②	11.864	0.380	774.296	Ⅵb				C	Ob－C	0.80	1.01	0.41	0.24			
3967	②	11.739	－0.552	774.080	Ⅶ				F	Qu	1.50	2.58	0.61	3.09			
3970	②	6.817	－1.328	775.087	Ⅳb				F	Ob－B	3.15	1.18	0.85	2.58			
3971	②	3.942	－1.512	774.289	Ⅶ				F	Ob－B	1.42	1.28	0.29	0.55			
3972	②	3.677	－2.421	774.293	Ⅶ				C	Ob－B	1.31	0.72	0.25	0.16			
3973	②	3.743	－3.448	774.164	Ⅶ				C	Ob－C	0.62	1.02	0.78	0.13			
3974	②	3.710	－5.999	774.240	Ⅶ				C	An	1.02	0.81	0.46	0.41			
3976	②	0.493	－5.594	775.243	Ⅳb				C	An	0.91	1.17	0.51	0.51			
3978	②	16.813	10.681	774.074	Ⅵb				C	An	0.88	0.78	0.51	0.32			
3982	②	21.274	－11.104	773.596	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.10	1.96	0.45	0.91			
3983	②	21.467	－11.293	773.554	Ⅵb				F	Ob－B	2.10	3.60	1.46	8.47			
3984	②	21.291	－11.254	773.562	Ⅵb				F	Ob－B	1.32	3.00	0.32	1.12			
3985	②	21.283	－11.175	773.574	Ⅵb				F	Ob－B	2.07	1.90	0.42	2.86			
3986	②	21.910	－11.794	773.360	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.50	1.82	0.33	0.56			
3987	②	21.675	－11.584	773.480	Ⅵb				F	Ob－B	2.43	1.97	0.50	5.30			
3988	②	22.218	－12.493	773.280	Ⅵb				C	Ob－B	0.75	1.50	0.19	0.36			
3989	②	24.236	－12.710	773.319	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	1.44	0.28	0.34			
3990	②	22.226	－13.346	773.257	Ⅵb				F	Ob－B	0.75	1.50	0.27	0.34			
3991	②	22.005	－12.765	773.275	Ⅵb				F	Ob－B	1.62	2.20	0.54	1.89			
3992	②	22.792	－13.290	773.269	Ⅵb				F	Ob－B	4.31	3.48	0.83	9.01			
3993	②	23.014	－13.710	773.313	Ⅵb				Trz	Ob－B	1.88	2.37	0.38	1.26			
3994	②	22.663	－14.434	773.241	Ⅵb	1			F	Ob－B	2.79	2.83	0.61	4.06			
3995	②	21.985	－14.879	773.291	Ⅵb				F	Ob－B	2.30	1.46	0.42	1.11			
3997	②	20.508	－2.508	774.732	Ⅳa				C	Ob－D	0.60	0.42	0.11	0.01			
3998	②	20.532	－2.734	774.675	Ⅳa				C	Ob－D	0.20	0.51	0.11	0.01			
3999	②	8.232	7.421	774.614	Ⅴ				F	Rh	2.71	1.91	0.46	2.00	2509・3235		
4000	②	17.874	14.166	774.075	Ⅵa				C	Ob－B	0.65	0.90	0.15	0.05			
4001	②	16.627	11.857	774.051	Ⅵa				C	Ob－B	1.02	0.78	0.21	0.24			
4002	②	10.456	12.827	773.959	Ⅶ				C	Ob－C	0.83	1.00	0.59	0.41			
4003	②	10.477	12.882	773.959	Ⅶ				F	Sa	2.89	1.40	0.46	2.29			
4004	②	11.342	12.775	773.861	Ⅶ				C	Ob－B	1.39	1.22	0.29	0.39			
4005	②	11.571	12.776	773.899	Ⅶ				F	Ob－B	2.75	1.70	0.62	2.09			
4006	②	12.008	12.717	773.857	Ⅶ				F	Ob－B	1.52	3.12	1.21	4.36			
4007	②	10.482	16.373	774.568	Ⅳb				C	Ob－B	1.32	1.10	0.29	0.32			
4008	②	10.946	16.430	774.225	Ⅵa				C	Ob－B	0.79	1.82	0.11	0.07			
4009	②	11.290	16.910	774.297	Ⅵa	1			F	Ob－B	1.40	2.55	0.41	2.10			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
4010	②	11.404	17.120	774.354	V				C	Ob−B	1.20	1.20	0.31	0.26			
4011	②	11.498	17.224	774.378	V				C	Ob−B	0.97	0.73	0.19	0.11			
4012	②	11.678	17.251	774.363	V	1			F	Ob−B	2.08	1.41	0.40	0.54			
4013	②	11.612	17.101	774.344	V				C	Ob−B	1.21	0.99	0.28	0.23			
4014	②	12.519	16.754	774.084	Ⅵb	1			F	H−Sh	4.00	3.02	0.68	12.40	3071·3355·3359·3386·4338		
4015	②	12.038	16.978	774.187	Ⅵa		1		RF	Ob−B	2.98	2.89	0.99	9.79			
4016	②	12.312	17.369	774.308	V				F	Ob−B	1.88	0.97	0.41	0.52			
4017	②	13.054	16.629	774.303	V	1			F	Ob−B	1.30	1.72	0.36	0.78			
4018	②	12.658	17.170	774.331	V				C	Ob−B	1.25	1.67	0.29	0.59			
4019	②	13.242	16.922	774.044	Ⅵb		1	1	Trz	Ob−A	1.90	2.10	0.90	2.60		20	
4020	②	12.490	16.022	773.873	Ⅶ				F	H−Sh	3.27	1.18	0.70	1.56			
4021	②	10.864	16.618	774.267	Ⅵb				F	Ob−B	1.43	2.01	0.26	0.81			
4022	②	13.304	12.612	773.917	Ⅶ				C	Ob−B	0.86	1.00	0.20	0.20			
4023	②	3.991	−4.676	774.130	Ⅶ	1		1	UF	Ob−B	4.08	2.07	0.69	4.01		22	
4024	②	7.393	−9.113	774.156	Ⅵb		1	1	Trz	Ob−B	3.00	2.41	0.69	5.11		19	平坦剥離
4025	②	7.393	−9.064	774.070	Ⅵb				F	Ob−B	2.90	3.16	0.91	7.19	3075·3145·3196·3766		
4039	②	19.650	1.134	774.924	Ⅳb				C	Ob−E	0.88	0.89	0.19	0.07			
4044	②	21.985	−14.521	773.149	Ⅵb	1			F	Ob−B	0.81	1.68	0.33	0.83			
4063	②	10.885	12.948	773.885	Ⅵb				C	Ob−B	1.33	1.74	0.54	0.32			
4064	②	11.323	12.945	773.843	Ⅵb				C	Ob−B	0.53	0.65	0.15	0.01			
4065	②	11.476	12.918	773.851	Ⅵb				C	An	0.99	0.79	0.36	0.26			
4066	②	11.601	12.903	773.856	Ⅵb				C	Ob−B	0.57	1.05	0.18	0.08			
4067	②	11.708	12.818	773.813	Ⅵb				RF	Ob−A	1.21	1.50	0.11	0.42			
4068	②	11.906	12.777	773.825	Ⅵb				C	Ob−B	0.70	0.58	0.15	0.02			
4069	②	11.992	12.904	773.837	Ⅵb				C	Ob−A	0.62	0.82	0.05	0.02			
4070	②	12.321	13.061	773.540	Ⅵb				C	Ob−B	0.50	0.98	0.15	0.03			
4071	②	12.420	12.807	773.869	Ⅵb				F	Ob−B	1.70	1.35	0.36	0.89			
4072	②	12.393	12.858	773.857	Ⅵb				C	Ob−C	0.70	0.53	0.18	0.02			
4073	②	12.605	13.096	773.908	Ⅵb				C	Ob−B	0.80	0.31	0.24	0.04			
4075	②	12.714	13.051	773.845	Ⅶ		1		Sc	H−Sh	4.28	5.08	0.81	31.69	2244・4208	21	
4076	②	12.859	12.867	773.867	Ⅵb				C	Ob−B	0.70	0.82	0.26	0.09			
4077	②	12.797	12.841	773.783	Ⅵb				F	An	2.50	2.47	0.71	4.12			
4078	②	13.060	12.922	773.832	Ⅵb				C	Ob−B	0.82	0.81	0.18	0.14			
4079	②	13.536	12.661	773.777	Ⅵb	1			F	Ob−B	2.65	1.24	0.79	2.00			
4080	②	10.762	17.052	774.272	V				F	Ch	1.69	3.00	0.44	2.42	2343		
4081	②	11.974	17.171	773.911	Ⅵb		1		RF	Ob−B	2.88	3.51	1.12	9.31			
4082	②	11.959	16.950	773.798	Ⅵb				F	Ob−B	1.47	1.93	0.27	0.93			
4083	②	13.644	12.666	773.846	Ⅶ				F	H−Sh	2.57	1.90	0.38	1.60			
4084	②	13.691	12.658	773.774	Ⅶ				C	H−Sh	1.21	1.01	0.15	0.16			
4085	②	3.905	8.721	774.596	Ⅵb				F	An	1.20	2.63	1.37	2.83			
4086	②	7.943	7.925	774.338	Ⅵb			1	UF	Ag	2.38	2.11	0.50	2.42			
4087	②	4.418	−2.859	774.174	Ⅶ			1	UF	Ob−C	4.24	2.87	0.88	10.42		22	
4111	②	10.962	13.063	773.825	Ⅶ				C	H−Sh	0.52	0.93	0.21	0.16			
4112	②	10.917	13.066	773.846	Ⅶ				F	Ob−B	1.81	1.20	0.24	0.60			
4113	②	11.335	13.213	773.889	Ⅶ				F	H−Sh	2.27	1.20	0.33	1.40			
4114	②	11.325	13.276	773.928	Ⅶ				F	Ob−B	1.40	2.32	0.69	2.25			
4115	②	11.607	13.271	773.939	Ⅶ				C	Ob−B	1.05	0.90	0.31	0.26			
4116	②	11.591	13.208	773.881	Ⅶ				F	Ob−B	1.40	1.89	0.31	0.90			
4117	②	11.667	13.027	773.782	Ⅶ				Cu	H−Sh	2.32	3.81	0.90	8.66	3278		
4118	②	11.699	13.865	773.876	Ⅶ				C	Ob−B	0.92	0.68	0.12	0.06			
4119	②	11.813	13.242	773.944	Ⅶ				F	Ob−B	1.93	1.47	0.48	1.33			
4120	②	11.998	13.052	773.850	Ⅶ				C	Ob−B	0.51	1.01	0.29	0.17			
4121	②	13.513	12.798	773.772	Ⅶ				C	Ob−B	0.70	0.42	0.34	0.22			
4122	②	13.640	12.727	773.781	Ⅶ				F	Ob−B	1.17	1.90	0.70	1.22			
4123	②	14.200	12.696	773.822	Ⅶ				C	H−Sh	0.86	0.89	0.27	0.14			
4124	②	14.398	12.703	773.780	Ⅶ				F	Ob−B	1.99	1.70	0.53	1.37			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
4125	②	11.126	17.086	773.994	Ⅵa				C	Ob－C	0.92	1.09	0.19	0.32			
4126	②	11.400	17.251	774.053	Ⅵb				C	Ob－B	1.30	1.00	0.41	0.40			
4127	②	12.772	16.693	773.854	Ⅵb				C	Ob－B	0.88	1.49	0.42	0.45			
4129	②	15.252	14.756	773.921	Ⅵb				F	Ob－B	3.24	4.27	1.91	28.17			
4130	②	15.970	16.546	773.789	Ⅵb				F	Ob－A	1.34	0.33	0.11	0.46			
4131	②	15.305	15.203	773.932	Ⅵb				F	H－Sh	2.17	3.79	0.74	8.60			
4132	②	14.937	14.454	773.913	Ⅵb				F	H－Sh	3.38	2.77	0.49	3.31			
4133	②	12.235	13.267	773.855	Ⅵb				C	Ob－B	1.15	1.32	0.28	0.36			
4134	②	12.264	13.088	773.890	Ⅶ				C	Ob－B	0.72	0.59	0.15	0.02			
4135	②	14.911	13.170	773.189	Ⅶ				F	H－Sh	1.57	1.33	0.40	0.77			
4136	②	8.250	8.803	774.605	Ⅵa				C	Qu	1.32	0.97	0.45	0.45			
4137	②	7.148	9.127	77.516	Ⅵb			1	UF	Qu	1.98	2.70	0.29	2.02			
4138	②	6.543	8.119	774.452	Ⅵb				F	An	1.33	1.92	0.39	1.29			
4139	②	5.339	8.265	774.499	Ⅵb				F	Ob－B	3.50	3.91	1.20	18.23			
4140	②	10.995	13.128	773.822	Ⅶ				C	H－Sh	1.12	0.98	0.17	0.18			
4141	②	11.148	13.441	773.928	Ⅵb				C	Ob－B	0.68	0.78	0.20	0.09			
4142	②	11.287	13.327	773.854	Ⅶ				C	An	0.80	0.77	0.19	0.08			
4143	②	11.252	13.421	773.883	Ⅶ				C	An	0.71	0.92	0.17	0.05			
4144	②	11.304	13.486	773.911	Ⅶ				C	Ob－B	0.73	0.49	0.12	0.06			
4145	②	11.252	13.548	773.922	Ⅵb				C	Ob－C	0.87	0.71	0.22	0.04			
4146	②	11.253	13.507	773.924	Ⅵb				C	Ob－B	0.80	0.70	0.19	0.15			
4147	②	10.987	13.502	773.877	Ⅶ				F	Ob－B	1.89	1.10	0.78	1.13			
4148	②	11.311	13.506	773.863	Ⅵb				F	H－Sh	2.15	2.33	0.40	2.06			
4149	②	11.355	13.490	773.843	Ⅶ				C	Ob－B	1.01	1.22	0.19	0.21			
4150	②	11.819	13.171	773.899	Ⅵb				C	H－Sh	0.51	1.08	0.18	0.01			
4151	②	11.713	13.183	773.876	Ⅵb				C	Ob－B	1.27	0.90	0.29	0.26			
4152	②	11.692	13.143	773.850	Ⅶ				F	Sa	3.06	2.15	6.51	2.81			
4153	②	11.858	13.135	773.856	Ⅵb				C	An	0.76	0.61	0.80	0.05			
4154	②	11.820	13.126	773.847	Ⅶ	1			F	Ob－C	0.99	1.09	0.30	0.25			
4155	②	11.888	13.706	773.915	Ⅵb				F	Ob－B	2.51	2.22	0.68	3.42			
4156	②	11.694	13.622	773.834	Ⅶ				C	Ob－B	1.02	1.22	0.31	0.41			
4157	②	11.819	13.631	773.886	Ⅵb				C	Ob－B	0.77	0.70	0.31	0.10			
4158	②	11.800	13.572	773.852	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	1.11	0.49	0.25			
4159	②	11.963	13.659	773.859	Ⅵb				C	An	0.87	1.11	0.30	0.17			
4160	②	12.028	13.574	773.887	Ⅵb				C	Ob－B	0.71	0.67	0.40	0.12			
4161	②	12.120	13.624	773.820	Ⅶ	1			F	Ob－B	1.51	2.17	0.90	2.67			
4162	②	12.247	13.706	773.833	Ⅶ				C	Sch	0.79	1.19	0.37	0.33			
4163	②	12.165	13.519	773.878	Ⅵb				C	Ob－B	0.78	1.10	0.23	0.13			
4164	②	12.172	13.532	773.887	Ⅵb				C	Ob－B	0.49	0.70	0.10	0.01			
4165	②	12.120	13.419	773.909	Ⅵb				F	Ob－B	1.50	1.40	0.50	1.03			
4166	②	12.146	13.404	773.848	Ⅵb				F	H－Sh	1.08	0.42	0.21	0.33			
4167	②	12.125	13.154	773.846	Ⅵb				C	H－Sh	0.24	0.42	0.08	0.01			
4168	②	12.484	13.752	773.891	Ⅵb				F	Ob－B	1.17	2.07	0.48	0.98			
4169	②	12.316	13.306	773.757	Ⅶ				C	Ob－B	0.61	1.20	0.19	0.10			
4170	②	12.463	13.152	773.872	Ⅵb				C	Ob－B	1.11	0.93	0.60	0.54			
4171	②	12.632	13.201	773.897	Ⅵb				C	H－Sh	0.55	0.19	0.31	0.14			
4172	②	12.640	13.097	773.875	Ⅵb				C	An	0.99	0.62	0.19	0.10			
4174	②	12.695	13.257	773.784	Ⅵb				C	Sch	1.30	0.98	0.51	0.50			
4175	②	12.775	13.216	773.902	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	1.39	0.20	0.26			
4176	②	12.821	13.176	773.883	Ⅵb				C	Ob－B	1.08	1.60	0.14	0.22			
4177	②	12.855	13.499	773.827	Ⅵb				C	An	0.91	0.96	0.72	0.70			
4178	②	12.913	13.358	773.867	Ⅵb				C	An	0.67	0.52	0.22	0.03			
4179	②	12.961	13.401	773.776	Ⅶ	1			F	Ob－B	1.20	2.25	0.58	1.87			
4180	②	12.953	13.308	773.814	Ⅵb				UF	H－Sh	1.79	1.99	0.18	1.00			
4181	②	13.018	13.206	773.909	Ⅵb				C	Ob－B	0.92	1.18	0.17	0.20			
4182	②	13.037	13.105	773.830	Ⅵb				F	H－Sh	2.57	2.09	0.56	2.93	4295・4339		

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
4183	②	13.440	13.127	773.842	Ⅵb				F	An	2.42	2.61	0.81	5.09			
4184	②	13.689	13.037	773.866	Ⅵb				F	Ob－B	1.79	1.40	0.62	2.20			
4185	②	13.648	12.752	773.739	Ⅶ				C	Ob－B	1.27	1.02	0.28	0.32			
4186	②	13.935	12.820	773.810	Ⅵb				C	Sa	0.90	1.05	0.21	0.16			
4187	②	13.863	12.952	773.794	Ⅶ				C	Ob－B	0.60	1.19	0.21	0.13			
4188	②	13.870	13.037	773.854	Ⅵb				F	Ob－B	1.84	1.30	0.30	0.62			
4189	②	13.865	13.131	773.884	Ⅵb				C	H－Sh	1.02	0.92	0.41	0.24			
4190	②	14.037	13.162	773.870	Ⅵb				C	H－Sh	0.70	0.91	0.21	0.16			
4191	②	13.971	13.079	773.870	Ⅵb				F	Ob－B	1.79	1.40	0.62	2.20			
4192	②	14.025	13.079	773.843	Ⅵb				C	Ob－B	0.77	1.78	0.31	0.39			
4193	②	14.137	12.984	773.818	Ⅶ				C	H－Sh	0.84	1.50	0.28	0.44			
4195	②	14.357	13.001	773.754	Ⅶ				F	H－Sh	1.22	2.02	0.13	0.43			
4196	②	14.423	13.281	773.780	Ⅶ	1	1		Sc	H－Sh	2.70	2.60	0.57	3.95	4210	22	
4197	②	14.401	13.445	773.805	Ⅶ				C	H－Sh	1.21	0.98	0.11	0.19			
4198	②	14.299	13.025	773.778	Ⅶ				F	H－Sh	1.13	1.45	0.22	0.67			
4199	②	14.462	13.594	773.796	Ⅶ				C	H－Sh	1.40	0.98	0.11	0.16			
4200	②	14.664	13.313	773.767	Ⅶ				F	Ob－B	2.55	1.71	0.51	0.97			
4201	②	14.596	14.596	773.773	Ⅶ				F	Ob－B	1.30	1.86	0.71	1.43			
4202	②	14.728	14.280	773.811	Ⅵb				F	H－Sh	1.60	1.77	0.41	1.97			
4203	②	14.723	14.723	773.738	Ⅶ			1	Sc	Ob－B	3.10	3.51	0.52	4.90		22	
4204	②	14.849	13.310	773.759	Ⅶ				F	H－Sh	1.52	1.61	0.28	1.04			
4205	②	14.799	13.108	773.764	Ⅵb				C	Ob－B	0.83	1.58	0.50	0.48			
4206	②	14.837	12.928	773.731	Ⅶ				C	An	1.08	0.60	0.20	0.07			
4207	②	14.889	12.858	773.743	Ⅶ		1		RF	Ob－A	1.32	1.18	0.33	0.46			
4208	②	14.935	13.301	773.828	Ⅵb			1	UF	H－Sh	2.88	5.57	1.56	19.63	2244・4075		
4209	②	15.010	13.915	773.971	Ⅵa			1	UF	H－Sh	3.48	3.78	7.02	6.64			
4210	②	15.051	13.942	773.003	Ⅵa	1			F	H－Sh	3.09	2.11	0.59	3.24	4196	22	
4211	②	15.371	14.707	773.921	Ⅵa	1			F	H－Sh	1.80	2.21	0.40	1.17			
4212	②	15.434	14.713	773.981	Ⅵa				F	Sch	3.66	2.83	1.28	9.10			
4213	②	15.941	15.163	773.762	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	1.75	2.18	0.56	1.92		19	平坦剥離
4214	②	16.391	16.405	773.831	Ⅵa				F	H－Sh	2.78	3.97	0.60	8.25			
4215	②	16.810	16.605	773.783	Ⅵa				F	Sa	2.81	2.71	0.72	5.32			
4216	②	16.918	15.839	773.971	Ⅵa				F	Ob－B	1.71	1.15	0.91	1.50			
4217	②	11.334	13.382	773.843	Ⅵb				C	Ob－B	1.09	1.16	0.31	0.46			
4218	②	11.400	13.489	773.913	Ⅵb				F	Ob－B	2.37	2.60	1.12	5.77			
4219	②	11.329	13.490	773.915	Ⅶ				C	Ob－B	0.67	0.78	0.18	0.07			
4220	②	11.354	14.178	773.863	Ⅵb				C	H－Sh	1.41	1.01	0.32	0.40			
4221	②	11.889	14.262	773.896	Ⅵb				C	An	0.77	0.69	0.31	0.08			
4222	②	12.052	13.915	773.789	Ⅶ				C	H－Sh	0.80	1.53	0.39	0.32			
4223	②	11.574	14.368	773.857	Ⅳa	1	1	1	Kn	Ob－A	4.24	1.55	0.47	3.51		60	
4224	②	12.339	13.971	773.877	Ⅵb				C	An	0.88	1.18	0.30	0.24			
4225	②	12.411	13.904	773.870	Ⅵb				F	An	1.67	1.62	1.13	2.77			
4226	②	13.084	13.619	773.844	Ⅵb				C	Ob－B	1.04	0.92	0.23	0.26			
4228	②	15.073	13.771	773.765	Ⅶ				C	H－Sh	1.10	1.41	0.19	0.41			
4229	②	17.677	13.731	773.724	Ⅵb	1	1		RF	Ob－B	2.29	1.02	0.77	3.47		20	
4230	②	11.409	16.451	773.803	Ⅵb				C	Ob－B	0.85	1.07	0.21	0.19			
4231	②	11.017	15.682	15.682	Ⅵb				F	H－Sh	1.79	2.12	1.26	3.80			
4234	②	11.331	16.626	773.721	Ⅶ			1	UF	Ob－A	1.20	1.09	0.22	0.36			
4235	②	11.393	16.727	773.898	Ⅶ				F	Ob－B	2.08	1.60	0.61	2.42			
4236	②	14.043	13.942	773.798	Ⅵb				C	Ob－B	1.07	1.30	0.40	0.45			
4248	②	3.939	8.789	774.483	Ⅵb				F	An	2.72	2.28	0.89	5.28			
4249	②	3.847	8.764	774.521	Ⅵb				F	Ob－C	1.61	1.47	1.06	2.17			
4250	②	3.820	8.844	774.518	Ⅵb				C	An	0.96	1.11	0.69	0.50			
4251	②	3.840	8.512	774.510	Ⅵb				F	An	2.98	2.58	1.17	5.80			
4254	②	13.108	13.583	773.730	Ⅶ				F	Ob－B	2.68	2.50	0.79	5.72			
4255	②	13.229	13.917	773.822	Ⅵb				C	Ob－B	0.86	1.18	0.37	0.35			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
4257	②	11.085	13.894	773.977	Ⅶ				F	Ob－A	1.36	1.45	0.67	0.76			
4258	②	11.917	13.509	774.073	Ⅵb				C	An	0.95	1.30	0.43	0.52			
4259	②	12.340	14.412	774.045	Ⅵb				C	Ob－B	0.80	0.82	0.41	0.21			
4260	②	11.847	13.402	773.968	Ⅵb				C	Ob－B	0.89	1.00	0.50	0.37			
4261	②	11.316	13.541	773.954	Ⅵb				F	Ob－C	1.61	1.68	1.29	2.92			
4262	②	12.313	13.779	773.999	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.17	1.42	0.50	0.44			
4263	②	12.552	13.519	773.932	Ⅶ				C	Ob－B	0.81	1.28	0.22	0.17			
4264	②	14.513	13.618	773.934	Ⅵb		1		RF	Sch	3.02	3.99	0.88	9.40			
4266	②	3.374	8.322	774.516	Ⅶ				F	Ag	1.41	1.80	0.40	0.81			
4268	②	12.217	13.484	774.004	Ⅶ				F	Ob－B	1.27	1.51	0.72	1.30			
4269	②	12.692	14.457	773.994	Ⅵb		1		RF	Ob－B	1.51	1.82	0.54	1.45			
4270	②	10.862	14.367	774.060	Ⅵb				F	Ob－B	1.83	1.78	0.81	2.01			
4271	②	13.331	16.903	773.894	Ⅵb				F	An	1.68	1.39	0.68	1.76			
4272	②	11.370	16.290	773.961	Ⅵb				C	Ob－C	0.87	0.58	0.11	0.05			
4273	②	11.251	16.325	773.932	Ⅵb				C	Ob－B	0.77	1.51	0.31	0.53			
4274	②	12.823	13.307	773.920	Ⅶ				C	Ob－B	0.88	1.07	0.31	0.28			
4275	②	13.519	12.613	773.929	Ⅵb				C	Ob－B	1.23	0.88	0.30	0.26			
4276	②	11.668	12.970	773.957	Ⅶ				C	An	0.97	0.74	0.31	0.25			
4277	②	11.611	13.114	773.945	Ⅶ				C	An	0.80	0.80	0.31	0.13			
4278	②	12.300	14.598	773.818	Ⅵb				F	Ob－B	1.87	1.68	0.69	1.86			
4279	②	12.941	14.409	773.825	Ⅵb				C	Ob－C	0.61	0.40	0.22	0.02			
4280	②	13.014	14.432	773.807	Ⅵb		1		RF	H－Sh	4.83	3.10	1.12	21.68		21	
4282	②	12.607	14.598	773.802	Ⅵb				C	Ob－C	0.84	0.77	0.43	0.26			
4283	②	13.093	14.360	773.803	Ⅵb				F	H－Sh	2.22	3.08	0.41	2.99			
4284	②	14.400	13.298	773.770	Ⅵb				C	Ob－B	0.52	0.67	0.28	0.03			
4285	②	12.394	16.559	773.682	Ⅵb	1			F	Ch	2.00	1.79	0.41	1.17			
4286	②	12.616	16.563	773.738	Ⅵb				C	Ob－B	1.20	0.88	0.77	0.60			
4287	②	12.584	17.051	773.676	Ⅵb				C	Ob－C	0.59	0.61	0.42	0.14			
4288	②	14.139	13.450	773.728	Ⅶ				C	H－Sh	0.79	0.98	0.28	0.20			
4289	②	11.588	14.246	773.769	Ⅶ				F	H－Sh	2.18	1.17	0.60	1.73			
4290	②	13.399	13.684	773.720	Ⅶ				C	An	0.93	0.88	0.49	0.34			
4291	②	11.391	16.164	773.782	Ⅵb				F	Ob－B	2.51	2.00	0.51	2.23			
4292	②	11.727	16.099	773.732	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.45	1.22	0.50	0.99			
4293	②	12.227	16.111	773.764	Ⅵb				C	Ob－B	1.47	1.20	0.32	0.44			
4294	②	11.362	16.678	773.669	Ⅶ	1			F	Ob－B	1.34	1.09	0.40	0.56			
4295	②	14.712	13.111	773.674	Ⅶ				Co	H－Sh	3.67	4.72	2.40	48.72	4182・4339	24	
4296	②	11.447	16.233	773.741	Ⅵb				C	Ob－B	1.04	1.48	0.31	0.33			
4297	②	6.654	−1.836	774.022	Ⅶ				F	Ob－B	1.68	1.58	0.53	1.28			
4298	②	5.654	−1.994	774.118	Ⅵb	1			Co	Ob－B	2.12	4.80	2.16	18.77		24	
4299	②	5.604	−0.561	774.109	Ⅵb	1			F	Ob－B	2.00	3.73	1.32	9.30			
4300	②	9.458	−2.441	774.305	Ⅵb	1			F	Ob－B	1.40	2.02	0.35	0.98			
4301	②	15.679	12.230	773.858	Ⅵb				F	An	1.80	0.97	0.81	1.38			
4302	②	13.769	13.532	773.760	Ⅵb				F	Ob－A	1.77	1.28	0.39	0.82			
4303	②	14.346	13.450	773.700	Ⅶ				F	H－Sh	4.65	4.08	0.91	14.68			
4304	②	12.656	13.504	773.702	Ⅶ				C	An	0.66	0.89	0.28	0.15			
4305	②	12.262	13.908	773.776	Ⅶ				C	Ob－B	0.99	1.02	0.35	0.33			
4306	②	12.012	14.291	773.786	Ⅵb				C	H－Sh	1.48	1.01	0.21	0.30			
4307	②	10.674	14.755	773.814	Ⅵb				F	Ob－B	1.57	2.70	0.91	2.93			
4308	②	11.193	14.710	773.760	Ⅵb				F	H－Sh	4.10	2.75	0.80	5.74			
4309	②	10.881	14.053	773.756	Ⅶ				F	Ob－B	1.92	2.70	1.17	5.32			
4310	②	14.163	13.772	773.684	Ⅶ				C	An	0.68	1.13	0.30	0.21			
4312	②	14.083	16.588	773.672	Ⅵb				C	Ob－C	0.53	0.69	0.31	0.15			
4313	②	12.761	14.529	773.768	Ⅵb				C	Ob－B	1.05	0.57	0.18	0.10			
4315	②	11.813	14.472	773.811	Ⅵb				F	Sa	2.58	2.51	0.51	2.69			
4316	②	15.249	13.731	773.649	Ⅶ				F	Ob－B	1.01	1.70	0.26	0.54			
4317	②	13.068	14.343	773.670	Ⅶ				C	H－Sh	0.60	0.42	0.19	0.03			

A地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
4318	②	12.465	13.610	773.719	Ⅶ				C	An	1.09	1.40	0.50	0.58			
4321	②	11.625	15.880	773.840	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	1.99	2.00	0.69	2.04			平坦剥離
4322	②	11.546	15.976	773.838	Ⅵb				C	Ob－C	0.77	1.12	0.41	0.22			
4325	②	10.990	15.195	773.876	Ⅵb				F	H－Sh	2.60	3.52	0.69	7.13			
4326	②	11.264	14.952	773.844	Ⅵb		1		Trz	Ob－B	2.94	2.57	0.74	5.27			
4327	②	11.512	14.847	773.901	Ⅶ		1		Trz	Ob－B	2.00	2.01	0.70	2.04		19	平坦剥離
4328	②	11.451	14.894	773.901	Ⅵb				C	H－Sh	0.80	1.41	0.62	0.47			
4329	②	11.668	14.827	773.905	Ⅵb				C	Ob－B	0.89	0.68	0.39	0.17			
4330	②	11.427	15.923	773.879	Ⅵb				C	Ob－B	1.03	1.22	0.13	0.21			
4331	②	9.618	15.659	773.934	Ⅵb				C	Ob－B	1.01	1.21	0.31	0.28			
4332	②	12.157	15.714	773.766	Ⅶ				F	Ob－B	2.62	3.42	0.71	5.65			
4333	②	12.082	14.863	773.961	Ⅵb				C	Ob－B	0.77	1.11	0.20	0.14			
4334	②	11.860	14.701	773.918	Ⅵb				C	H－Sh	0.72	0.73	0.19	0.05			
4335	②	12.115	14.634	773.938	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	1.69	0.17	0.26			
4336	②	11.929	14.586	773.861	Ⅵb				F	Ob－B	1.19	1.48	0.70	0.84			
4337	②	11.894	14.662	773.862	Ⅶ		1		Trz	Ob－B	2.40	1.95	0.88	3.43		19	平坦剥離・階次剥離
4338	②	12.923	15.901	773.852	Ⅵb				F	H－Sh	2.13	2.49	0.51	2.75	[illegible]		
4339	②	12.854	14.969	773.864	Ⅵb				F	H－Sh	2.40	2.34	0.69	3.17	4182・4295		
4340	②	12.962	14.904	773.812	Ⅶ				C	Ob－B	0.75	0.51	0.32	0.06			
4341	②	13.151	14.957	773.826	Ⅶ				C	Ob－A	0.50	0.75	0.18	0.03			
4342	②	13.104	14.623	773.691	Ⅶ				C	Ob－C	0.68	1.01	0.31	0.22			
4344	②	13.631	14.414	773.741	Ⅶ	1			F	H－Sh	1.91	1.99	0.36	1.26			
4345	②	14.345	16.855	773.773	Ⅵb				Co	Ob－B	2.49	2.93	2.51	13.52			
4346	②	15.245	14.226	773.777	Ⅶ				F	Ob－B	1.51	1.72	0.94	2.79			
4347	②	13.165	15.950	773.921	Ⅵb				C	An	0.64	0.96	0.39	0.13			
4349	②	13.896	15.986	773.749	Ⅶ				C	Ob－B	0.46	0.51	0.22	0.01			
4350	②	12.764	15.090	773.958	Ⅵb	1	1		Trz	Ob－B	2.01	1.73	0.66	2.10			
4352	②	18.567	－9.936	773.916	Ⅵb				C	Ob－B	1.91	2.81	0.81	2.81			
4353	②	18.972	－10.151	773.731	Ⅶ				F	An	1.70	1.49	0.78	1.73			
4354	②	11.713	14.846	773.883	Ⅵb				C	Ob－B	0.80	1.20	0.29	0.31			
4355	②	12.833	15.000	773.871	Ⅵb				C	Ob－B	0.90	0.72	0.19	0.08			
4357	②	13.245	13.245	773.688	Ⅶ				C	An	0.37	0.81	0.22	0.04			
4359	②	13.933	13.933	773.848	Ⅵb				C	An	0.67	0.62	0.17	0.04			
4360	②	14.586	14.586	773.730	Ⅵb				F	H－Sh	1.38	2.10	0.21	0.61			
4361	②	11.744	11.744	773.847	Ⅵb				C	H－Sh	1.01	0.90	0.39	0.24			
4362	②	12.211	12.211	773.682	Ⅶ				C	Ob－B	0.63	0.73	0.18	0.08			
4365	②	12.086	12.086	773.747	Ⅵb				C	Ob－B	1.11	0.61	0.22	0.16			
4369	②	9.448	9.448	773.828	Ⅵb		1		Co	Ob－C	3.86	3.71	0.80	21.43		24	
4370	②	10.450	10.450	773.991	Ⅳb		1		RF	Ob－B	2.66	2.63	0.91	6.27			
4371	②	10.464	10.464	773.988	Ⅳb	1		1	UF	Ob－B	2.91	2.31	0.52	3.41			
4372	②	9.611	9.611	773.902	Ⅳb				F	Ob－B	1.56	1.97	0.31	0.96			
4373	②	11.274	11.274	773.662	Ⅶ				F	Ob－B	1.70	1.39	0.33	0.83			
4374	②	12.180	12.180	773.661	Ⅶ				C	An	0.69	0.44	0.36	0.10			
4375	②	12.329	12.329	773.651	Ⅶ				C	Sch	0.59	0.90	0.30	0.15			
4376	②	13.027	13.027	773.645	Ⅶ				C	An	0.50	0.73	0.19	0.04			
4378	②	12.089	12.089	773.671	Ⅵb				C	Ob－C	0.39	0.80	0.32	0.08			
4379	②	13.460	13.460	773.586	Ⅶ				C	Ob－C	0.39	0.28	0.10	0.01			
4380	②	10.564	10.564	773.922	Ⅴ				UF	Rh	4.02	3.13	0.51	6.60		44	
4381	②	12.709	16.024	773.618	Ⅶ				C	Ob－C	0.50	0.49	0.41	0.09			
4382	②	16.978	15.843	773.449	Ⅶ	1			F	Ob－B	1.39	1.47	0.61	0.97			
4383	②	16.522	15.218	773.641	Ⅵb	1			F	Ob－B	2.91	1.50	0.56	2.25			

B地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
342	④	4.031	−14.478	770.634	Ⅵa	1			RF	Ob−B	2.80	3.16	0.90	7.30		103	
361	④	18.706	11.124	771.390	Ⅴ				C	Ob−B	0.96	1.34	0.24	0.26			
362	④	19.302	12.434	771.520	Ⅴ				C	Ob−C	0.51	0.70	0.42	0.14			
364	④	15.838	18.910	772.252	Ⅴ				C	An	1.03	1.11	0.61	0.70			
365	④	16.390	19.426	771.942	Ⅵb				C	An	0.94	0.80	0.63	0.50			
369	④	17.321	−17.944	770.285	Ⅳa				Co	An	2.73	5.12	2.13	24.24			
370	④	0.568	−18.170	771.024	Ⅳa		1		Cu	Ob−C	3.69	4.18	1.42	17.20		101	
371	④	1.329	−17.359	770.876	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.57	1.31	0.44	1.56			
372	④	18.019	−19.104	768.403	Ⅶ				C	Ob−C	1.01	0.79	0.58	0.46			
374	④	1.500	−15.573	769.763	Ⅴ				F	An	2.72	2.10	0.28	1.73			
375	④	2.003	−16.523	769.727	Ⅴ	1			F	Ob−C	2.06	1.99	0.61	0.54	384	102	
376	④	1.448	−16.466	769.803	Ⅳb				C	Ob−C	0.78	0.58	0.16	0.09			
377	④	1.267	−16.433	769.702	Ⅴ	1			F	Ob−C	2.06	1.13	0.28	0.64			
378	④	1.500	−17.040	769.793	Ⅳb				C	Ob−C	0.76	0.97	0.32	0.16			
379	④	1.158	−17.345	769.773	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.80	1.42	0.61	0.98			
380	④	0.952	−17.608	769.649	Ⅴ				C	Ob−C	0.95	0.90	0.19	0.13			
381	④	1.437	−17.888	769.681	Ⅴ				F	An	2.61	2.40	1.04	5.32			
382	④	1.547	−18.042	769.654	Ⅴ				F	Ob−C	1.18	1.18	0.22	0.36			
383	④	1.770	−17.868	769.659	Ⅴ		1		RF	Ob−C	3.21	2.79	1.29	10.74			
384	④	2.143	−17.385	769.767	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.47	1.02	0.78	1.37	375	102	
385	④	2.304	−17.471	769.627	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.00	1.48	0.46	0.53			
386	④	1.954	−16.973	769.656	Ⅴ				Cu	An	0.81	0.93	0.67	0.31		101	
387	④	3.478	−17.644	769.755	Ⅳb				C	Ob−C	0.47	1.10	0.31	0.15			
390	④	24.530	−9.214	769.635	Ⅶ				F	An	2.06	2.20	1.23	5.53			
393	④	3.534	−17.322	770.563	Ⅵa				C	An	0.70	0.53	0.41	0.1			
394	④	4.071	−17.009	770.429	Ⅵb				C	Ob−B	0.59	0.38	0.24	0.04			
395	④	3.545	−16.841	770.368	Ⅵb				C	Ob−C	0.40	0.42	0.21	0.01			
396	④	3.614	−16.776	770.350	Ⅵb				C	Ob−C	0.39	0.52	0.22	0.04			
397	④	4.049	−16.390	770.388	Ⅵb				C	Ob−C	0.69	0.52	0.39	0.06			
398	④	4.037	−16.067	770.572	Ⅵb				C	An	0.40	0.66	0.41	0.05			
399	④	3.970	−15.677	770.467	Ⅵb				C	Ob−C	0.89	1.05	0.46	0.33			
401	④	3.205	−15.983	770.475	Ⅵb				C	Ob−C	0.74	0.68	0.38	0.16			
402	④	2.904	−15.850	770.484	Ⅵb				C	An	1.02	1.33	0.79	1.06			
403	④	2.741	−16.335	770.589	Ⅵb				C	Ob−C	0.30	0.52	0.21	0.01			
404	④	2.650	−16.329	770.530	Ⅵb				C	Ob−C	0.75	0.82	0.39	0.32			
405	④	2.667	−16.336	770.517	Ⅵb				C	Ob−C	0.61	0.54	0.40	0.10			
406	④	2.436	−16.295	770.547	Ⅵb				C	Ob−C	0.76	0.85	0.44	0.27			
407	④	2.316	−16.309	770.676	Ⅵa				F	Ob−C	1.51	2.15	0.98	2.02			
408	④	2.602	−14.896	770.512	Ⅵb				C	Ob−C	0.73	1.06	0.71	0.49			
410	④	1.969	−15.374	770.479	Ⅶ				C	Ob−C	0.77	0.71	0.50	0.21			
411	④	1.768	−15.090	770.617	Ⅵb				C	An	0.90	1.31	0.23	0.43			
412	④	1.175	−16.393	770.528	Ⅵb				C	An	0.50	0.52	0.18	0.05			
413	④	0.879	−16.900	770.509	Ⅵb				C	Ob−C	0.71	0.63	0.30	0.13			
415	④	0.714	−17.271	770.482	Ⅵb				C	Ob−C	0.72	1.07	0.50	0.40			
416	④	1.292	−17.395	770.286	Ⅶ				C	Ob−C	0.60	0.71	0.60	0.25			
417	④	1.635	−17.741	770.379	Ⅵb				C	Ob−C	0.62	0.79	0.41	0.19			
418	④	1.841	−17.671	770.544	Ⅵa	1			F	Ob−C	1.92	2.41	0.39	1.34			
419	④	2.400	−17.451	770.424	Ⅵb				C	Ob−C	0.82	0.82	0.59	0.34			

B地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
420	④	0.623	−10.971	771.393	V				C	Ob−C	0.83	0.83	0.58	0.38			
421	④	−0.775	−17.293	770.866	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.68	1.49	0.71	1.65			
425	④	7.618	−21.644	770.016	Ⅵa				F	Ob−C	2.31	1.81	0.52	1.51			
426	④	7.555	−21.110	769.660	Ⅶ				C	An	0.81	0.86	0.52	0.25			
427	④	8.181	−20.644	769.714	Ⅶ				C	Ob−C	1.08	0.49	0.41	0.19			
428	④	8.344	−20.629	769.820	Ⅵb				C	An	0.56	0.90	0.59	0.22			
429	④	8.398	−20.614	769.820	Ⅵb				C	Ob−C	0.54	0.52	0.31	0.04			
438	④	6.824	−23.692	770.016	Ⅳb				F	Ob−C	2.28	2.30	1.00	4.72			
439	④	7.979	−23.720	769.645	Ⅵb				F	An	1.50	1.51	1.09	2.62			
440	④	6.907	−25.162	769.714	V	1			C	Ob−C	0.90	1.28	0.21	0.23			
441	④	−3.393	−18.591	770.296	Ⅶ				C	Ob−C	0.48	0.6	0.40	0.08			
442	④	6.362	−25.148	769.740	V	1			F	An	1.63	1.43	0.31	0.79			
443	④	6.442	−24.922	769.811	V	1		1	Hs	Sa	7.42	7.60	4.88	260.35		105	敲打痕
444	④	5.406	−21.479	769.917	Ⅵb				C	Ob−C	0.56	0.92	0.30	0.10			
445	④	9.884	−23.548	769.998	V				C	Ob−C	1.06	0.92	0.85	0.62			
446	④	2.715	−24.393	770.331	Ⅳa			1	UF	Ob−A	0.75	2.71	0.61	3.80		103	
447	④	0.997	−13.696	770.777	Ⅵb		1		RF	An	1.63	2.4	0.70	4.19			
448	④	2.230	−12.482	770.836	Ⅵb				C	An	1.01	1.21	0.92	1.24			
450	④	−3.362	−15.024	770.773	Ⅶ		1		C	Ob−C	0.62	0.51	0.36	0.08			
451	④	−4.811	−15.093	770.993	Ⅵb				C	Ob−C	0.62	0.8	0.42	0.23			
452	④	−4.540	−16.223	770.641	Ⅶ				C	Ob−B	0.82	0.93	0.55	0.40			
453	④	−3.379	−17.720	770.678	Ⅵb				C	Ob−C	0.38	0.51	0.31	0.02			
454	④	−2.591	−16.980	770.628	Ⅵb				F	Ob−C	1.42	1.73	1.08	2.48			
457	④	−2.620	−18.893	770.491	Ⅵb				C	Ob−C	0.70	0.81	0.38	0.11			
458	④	−2.349	−19.415	770.463	Ⅵb	1			F	An	2.18	2.41	1.02	5.46			
459	④	−2.870	−17.667	770.428	Ⅶ				C	Ob−B	0.74	0.97	0.72	0.42			
467	④	4.998	−15.854	770.746	Ⅳb				C	An	0.50	0.80	0.12	0.02			
468	④	5.519	−16.550	770.671	Ⅳb				F	An	1.60	1.12	0.30	0.39			
469	④	5.583	−16.717	770.568	Ⅳb	1			F	Ob−C	4.10	3.98	1.13	17.20		103	
470	④	6.262	−17.373	770.550	Ⅳb				F	Ob−C	1.59	1.10	0.24	0.35			
471	④	6.767	−17.336	770.444	Ⅳb				Co	Ob−C	1.87	2.21	1.61	6.64			
472	④	6.570	−17.309	770.469	Ⅳb				F	Ob−B	0.96	0.82	0.41	0.25			
473	④	6.562	−17.002	770.501	Ⅳb				C	Ob−B	1.05	0.95	0.29	0.27			
474	④	6.348	−16.594	770.634	Ⅳb				F	Ob−B	1.68	2.99	0.91	4.13			
475	④	6.289	−16.342	770.619	Ⅳb				C	Ob−B	0.81	0.57	0.22	0.06			
476	④	6.494	−15.611	770.658	Ⅳb				C	Ob−B	0.63	0.52	0.29	0.07			
478	④	6.464	−14.005	770.904	Ⅳb				C	Ob−C	0.48	0.76	0.31	0.01			
479	④	8.193	−16.881	770.541	Ⅳb				F	Ch	1.30	2.11	0.57	0.99			
480	④	−4.464	−14.946	770.660	Ⅶ				C	An	0.80	1.12	0.50	0.38			
482	④	8.500	−16.498	770.294	Ⅵa				F	Ob−C	1.32	1.85	0.96	1.47			
483	④	8.137	−16.793	770.394	V	1			F	Ob−B	1.53	0.88	0.91	0.33			
485	④	7.257	−17.892	770.267	Ⅵa				C	Ob−B	0.71	1.02	0.81	0.21			
486	④	7.120	−17.352	770.291	Ⅵa				C	Ob−C	0.73	0.81	0.55	0.26			
487	④	5.838	−18.442	770.214	Ⅵa				C	Ob−C	0.44	0.75	0.46	0.01			
488	④	5.912	−17.870	770.317	Ⅵa	1			F	Ob−C	1.90	2.53	0.54	2.07			
489	④	5.620	−17.894	770.292	Ⅵa				C	Ob−C	0.40	1.06	0.12	0.03			
491	④	6.215	−17.216	770.400	V				C	Ob−B	0.48	0.74	0.74	0.16			
492	④	6.121	−17.123	770.305	Ⅵb				C	Ob−C	0.54	0.53	0.20	0.02			

Ｂ地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
493	④	4.425	−18.970	770.067	Ⅶ				C	Ob−C	0.78	0.9	0.58	0.26			
494	④	4.932	−17.886	770.386	Ⅴ				C	An	0.62	0.79	0.26	0.10			
495	④	4.457	−17.417	770.506	Ⅴ				C	Ob−C	0.48	0.51	0.43	0.08			
496	④	5.591	−16.119	770.400	Ⅵb	1			F	An	1.46	1.85	0.43	0.61			
497	④	6.243	−16.389	770.447	Ⅴ				C	An	0.59	1.2	0.26	0.13			
498	④	6.579	−16.275	770.288	Ⅵb				F	Ob−B	0.85	1.89	0.30	0.55			
499	④	6.973	−16.276	770.412	Ⅴ	1			F	Ob−B	0.39	1.08	0.52	0.48			
500	④	6.581	−15.102	770.486	Ⅵb				C	An	1.46	1.56	1.11	2.68			
501	④	6.272	−14.729	770.576	Ⅵb				F	Ag	1.81	1.65	0.71	1.80			
502	④	6.542	−14.305	770.584	Ⅵb	1			F	Ch	1.29	2.5	0.41	1.02			
503	④	7.072	−13.927	770.560	Ⅵb				F	Ch	1.25	1.21	0.72	0.61			
504	④	9.381	−13.635	770.668	Ⅳb				F	Ob−C	1.46	2.00	0.43	1.51			
507	④	15.078	−12.447	770.258	Ⅵa				C	Ob−B	0.52	0.47	0.30	0.05			
508	④	14.676	−12.374	770.388	Ⅴ				F	Ag	1.69	2.40	0.44	2.23			
509	④	14.685	−12.454	770.301	Ⅵa	1			UF	An	3.42	2.21	0.73	3.68	570	102	
510	④	14.853	−12.076	770.260	Ⅵa				F	An	1.42	2.22	0.31	1.28			
512	④	14.743	−11.497	770.231	Ⅵb	1			F	An	0.79	0.71	0.22	0.05			
513	④	14.540	−11.231	770.330	Ⅵa	1	1		Sc	Ob−B	3.42	2.23	1.09	8.42		102	
514	④	13.865	−11.429	770.294	Ⅵa	1			F	An	1.23	1.51	0.68	1.24			
515	④	13.898	−11.720	770.320	Ⅵa				F	An	1.80	2.51	0.97	3.98			
516	④	13.918	−12.045	770.356	Ⅵa				C	An	0.64	0.93	0.25	0.06			
517	④	13.815	−12.197	770.310	Ⅵa				F	Ag	1.00	1.21	0.42	0.57			
518	④	13.945	−10.771	770.147	Ⅵa				C	Ob−B	1.03	0.98	0.25	0.45			
519	④	14.511	−12.029	770.295	Ⅵa				C	An	0.87	0.78	0.28	0.08			
520	④	14.565	−12.443	770.161	Ⅵb				C	An	0.99	0.62	0.29	0.10			
521	④	14.396	−12.785	770.295	Ⅴ				F	Ag	1.41	1.82	0.43	1.19			
522	④	14.171	−12.726	770.213	Ⅵb				C	An	0.72	1.18	0.28	0.17			
523	④	13.935	−12.676	770.403	Ⅴ				F	Ag	2.21	2.5	0.53	3.68			
524	④	13.891	−13.120	770.232	Ⅵb				C	Ob−C	0.79	0.72	0.51	0.30			
525	④	12.625	−12.304	770.250	Ⅵb				C	Ob−C	0.45	0.47	0.45	0.03			
526	④	12.148	−12.571	770.443	Ⅴ				F	An	2.17	2.95	0.82	3.59			
527	④	11.651	−12.104	770.441	Ⅵa				C	Ob−B	0.68	1.00	0.56	0.40			
528	④	12.566	−12.926	770.163	Ⅵb				C	Ob−C	0.61	0.70	0.43	0.13			
529	④	12.759	−13.089	770.214	Ⅵb				C	Ob−B	0.34	0.38	0.23	0.01			
531	④	14.347	−13.841	770.123	Ⅵa				C	An	0.78	1.25	0.54	0.46			
533	④	12.918	−16.440	770.043	Ⅵa	1	1	1	Kn	Ob−A	1.34	0.97	0.26	0.33		101	
534	④	13.557	−17.872	769.897	Ⅵb				F	An	1.28	2.10	0.59	1.05			
535	④	11.378	−19.215	770.269	Ⅳb				F	Ob−C	3.00	2.09	0.81	3.82			
536	④	13.037	−19.273	769.940	Ⅵa				C	An	1.08	1.04	0.28	0.17			
537	④	13.160	−19.321	769.961	Ⅴ				UF	Ag	4.05	1.55	0.86	4.69		104	
538	④	14.415	−19.161	770.011	Ⅴ				F	An	1.39	2.01	0.90	2.92			
539	④	14.389	−18.846	769.895	Ⅵb				C	Ob−C	0.82	0.81	0.62	0.33			
540	④	13.077	−20.818	769.949	Ⅳb	1			F	An	3.22	1.69	1.58	8.17			
541	④	11.932	−20.845	769.946	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.94	1.56	0.89	1.93	696		
542	④	10.913	−23.522	769.803	Ⅳb				F	An	1.95	1.82	0.40	0.96			
543	④	10.794	−24.054	769.791	Ⅳb				F	An	3.53	4.37	1.28	14.54			
544	④	11.113	−24.881	769.717	Ⅳb				F	An	2.06	3.01	0.76	3.15			
546	④	11.625	−24.150	769.893	Ⅳb				F	An	0.91	1.58	0.84	1.00			

B地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
549	④	14.310	−24.179	769.756	Ⅳb	1			UF	Ob−C	1.80	1.71	0.79	2.21	730	102	
550	④	−0.387	−13.615	770.736	Ⅵb				C	Ob−C	0.56	0.67	0.52	0.19			
551	④	0.224	−14.386	770.839	Ⅵa				F	An	1.50	0.28	0.62	0.88			
552	④	0.174	−14.675	770.797	Ⅵb	1			C	Ob−C	0.91	0.61	0.28	1.24			
553	④	−0.400	−14.724	770.951	Ⅵa				C	Ob−A	0.50	0.55	0.42	0.07		101	
554	④	0.344	−16.883	770.782	Ⅴ				C	Ob−C	0.70	0.49	0.24	0.05			
555	④	0.084	−17.268	770.857	Ⅳb				C	Ob−C	0.60	1.09	0.33	0.12			
556	④	0.143	−17.179	770.760	Ⅴ				C	Ob−C	0.42	0.77	0.26	0.05			
557	④	0.115	−17.321	770.780	Ⅴ	1			F	Ob−C	0.95	0.51	0.36	0.15			
558	④	0.471	−17.310	770.781	Ⅴ				C	Ob−C	0.46	0.66	0.17	0.03			
559	④	0.280	−17.330	770.885	Ⅳb				C	Ob−C	0.61	0.50	0.10	0.03			
560	④	0.197	−17.481	770.605	Ⅵa				C	Ob−C	0.69	1.05	0.31	0.20			
561	④	−0.436	−17.444	770.747	Ⅴ				C	Ob−C	0.84	0.41	0.41	0.12			
562	④	−0.518	−17.713	770.511	Ⅵb				F	Ob−B	2.56	1.57	1.08	3.17			
563	④	−0.476	−18.128	770.693	Ⅴ				F	Ob−C	2.11	2.91	0.95	2.86			
564	④	−0.129	−18.479	770.367	Ⅵb				C	Ob−B	0.58	0.52	0.39	0.10			
565	④	0.485	−18.657	770.203	Ⅶ				C	Ob−C	0.63	0.69	0.77	0.14			
566	④	13.760	−11.990	770.207	Ⅵa				F	Ag	1.40	1.45	0.72	0.65			
567	④	11.528	−11.883	770.224	Ⅵb				C	Ob−C	0.50	0.69	0.26	0.10			
569	④	12.509	−18.088	769.737	Ⅶ				C	Ob−C	0.82	0.60	0.61	0.19			
570	④	14.877	−12.910	770.861	Ⅳa	1			UF	An	1.90	1.53	0.41	1.21	509	102	
571	④	0.257	−18.456	770.164	Ⅶ				C	Ob−C	0.90	0.90	0.40	0.34			
572	④	0.367	−18.115	770.255	Ⅶ				C	An	0.83	1.10	0.61	0.65			
573	④	11.418	−24.191	769.661	Ⅳb				F	An	2.21	2.33	0.72	3.13			
574	④	12.245	−24.432	769.633	Ⅳb				C	Ob−C	0.87	1.31	0.71	0.74			
575	④	12.130	−20.571	769.895	Ⅴ				F	Ob−C	1.28	2.34	0.87	2.21			
576	④	12.378	−21.120	769.819	Ⅴ				C	Ob−C	0.88	1.21	0.29	0.19			
577	④	12.498	−21.030	769.869	Ⅴ				F	Ob−C	0.90	1.51	0.60	0.44			
578	④	13.338	−20.911	769.855	Ⅴ	1			F	An	1.81	1.01	0.41	0.73			
579	④	12.773	−22.038	769.747	Ⅴ				F	Ob−C	1.51	1.20	0.30	0.48			
580	④	14.201	−23.900	769.482	Ⅵb	1		1	UF	Ob−C	3.69	4.13	1.32	16.15		104	
581	④	14.226	−23.634	769.547	Ⅵb				C	Ob−C	0.78	0.70	0.47	0.19			
582	④	13.998	−24.172	769.542	Ⅵb				C	An	1.01	1.01	0.28	0.27			
583	④	13.533	−24.062	79.572	Ⅵb				C	Ob−C	0.65	0.76	0.24	0.09			
584	④	13.040	−24.578	769.550	Ⅵb	1			F	An	0.90	4.09	0.48	0.22			
585	④	13.565	−22.676	769.597	Ⅵb				C	Ob−C	0.72	0.64	0.42	0.14			
587	④	13.795	−21.572	769.721	Ⅵb		1		RF	Ob−B	2.78	3.89	0.95	10.71		102	
588	④	13.203	−21.135	769.771	Ⅵb	1			F	An	2.00	2.39	0.66	2.51			
589	④	13.284	−20.753	769.699	Ⅵb				C	Ob−C	0.42	0.45	0.33	0.03			
590	④	11.906	−20.926	769.784	Ⅵb				Co	Ob−C	1.98	2.09	1.84	5.52			
591	④	11.021	−22.941	769.641	Ⅵb				C	Ob−C	0.79	0.88	0.50	0.28			
592	④	11.405	−24.214	769.635	Ⅵb	1	1		RF	Ob−C	2.11	3.05	1.12	5.48	708	102	
593	④	14.960	−17.859	770.023	Ⅴ				F	Ag	2.77	2.43	0.71	4.34			
594	④	15.573	−16.197	770.033	Ⅴ				C	An	0.63	0.85	0.29	0.13			
595	④	16.383	−16.010	770.016	Ⅴ				C	An	0.95	1.22	0.35	0.30			
596	④	16.837	−15.946	770.208	Ⅳb	1			F	An	1.19	0.78	0.38	0.39			
597	④	16.820	−15.830	770.183	Ⅳb	1			F	An	1.68	1.81	0.48	1.83			
598	④	16.030	−15.654	770.105	Ⅴ	1			F	An	1.05	0.93	0.27	0.15			

Ｂ地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
599	④	15.851	−15.745	770.012	V				F	An	1.88	2.16	0.34	1.03			
600	④	15.695	−15.784	770.115	V				C	An	0.62	0.79	0.26	0.06			
601	④	15.529	−15.557	770.057	V	1			F	An	2.19	1.50	0.98	3.24			
602	④	15.326	−15.364	770.142	V				C	An	0.78	0.83	0.42	0.24			
603	④	14.784	−14.988	770.197	V				F	An	2.30	2.74	0.89	6.78			
604	④	15.864	−14.446	770.229	V				C	An	1.22	1.13	0.45	0.59			
605	④	15.139	−14.436	770.229	V				F	An	4.84	3.89	1.93	28.54		104	
606	④	15.130	−14.240	770.210	V				C	An	1.08	1.18	0.29	0.30			
607	④	15.636	−15.286	770.309	Ⅳb				C	An	0.67	0.50	0.31	0.10			
608	④	15.709	−15.252	770.304	Ⅳb				C	An	1.11	1.32	0.48	0.54			
609	④	15.980	−15.212	770.061	V	1			F	An	1.44	1.11	0.32	0.36			
610	④	15.777	−14.698	770.170	V				C	An	1.27	1.30	0.21	1.27			
611	④	16.051	−14.338	770.201	V				C	An	1.15	0.80	0.30	0.28			
612	④	16.140	−14.327	770.173	V				F	An	1.97	2.28	0.59	1.78			
613	④	16.721	−14.068	770.197	V				Cu	An	4.59	3.60	1.74	28.01		104	
614	④	17.746	−12.900	769.989	Ⅵa				C	Ob−C	0.67	0.68	0.49	0.13			
615	④	15.757	−12.769	770.255	V	1			F	An	1.98	2.86	0.78	3.35			
616	④	15.821	−13.250	770.322	Ⅳb	1			F	An	1.09	1.40	0.58	0.67			
617	④	15.682	−13.428	770.171	V				C	An	0.60	0.74	0.21	0.08			
618	④	15.007	−13.290	770.456	Ⅳb				F	An	2.20	2.00	0.52	1.86			
619	④	14.978	−13.204	770.408	Ⅳb				C	An	1.19	0.70	0.20	0.15			
620	④	15.034	−13.180	770.374	Ⅳb				C	An	1.71	1.42	0.31	0.58			
621	④	14.641	−12.781	770.300	V				C	An	1.07	1.75	0.52	0.56			
622	④	12.753	−5.865	770.796	V				C	Ob−C	0.56	0.71	0.54	0.19			
623	④	13.148	−7.535	770.668	V				C	An	0.93	1.02	0.67	0.49			
624	④	16.573	−9.204	770.375	V				F	Qu	4.36	4.22	1.37	26.13			
625	④	19.160	−11.933	770.062	V				C	Ob−C	0.57	0.59	0.32	0.08			
626	④	18.200	−15.456	761.716	Ⅵb				C	An	0.82	1.01	0.62	0.60			
627	④	17.224	−15.640	769.751	Ⅵb				C	An	0.91	1.60	0.82	1.07			
628	④	17.494	−14.776	769.731	Ⅵb				F	An	1.13	1.31	1.02	1.72			
629	④	17.830	−12.672	769.680	Ⅶ				C	An	1.02	0.91	0.56	0.49			
630	④	18.804	−12.641	769.677	Ⅶ				C	An	0.62	0.81	0.51	0.29			
631	④	18.194	−11.804	769.961	Ⅵb				C	Ob−C	0.73	0.78	0.41	0.20			
633	④	17.022	−11.914	769.863	Ⅵb				C	Ob−C	0.58	0.37	0.44	0.08			
634	④	15.790	−12.488	769.953	Ⅵb				C	Ob−C	0.55	0.52	0.19	0.01			
635	④	15.616	−12.573	769.969	Ⅵb				C	Ob−B	0.81	0.68	0.34	0.15			
636	④	14.579	−12.535	770.227	Ⅵb				F	Ag	1.27	2.00	0.30	0.70			
637	④	14.581	−12.720	770.059	Ⅵb				C	Ob−C	0.84	0.98	0.49	0.51			
638	④	15.775	−13.785	769.787	Ⅶ				F	Ag	1.40	1.12	1.94	6.57			
639	④	14.631	−14.153	769.982	Ⅵb				C	An	0.87	1.31	0.28	0.19			
640	④	14.786	−14.286	770.180	V	1			F	An	1.19	1.40	0.31	0.36			
641	④	14.947	−14.393	770.188	V				C	An	1.02	1.81	0.26	0.45			
642	④	14.847	−14.517	770.185	V				F	An	2.26	1.45	0.32	0.99			
643	④	15.137	−14.495	770.153	Ⅵa				C	An	0.66	0.90	0.31	0.12			
644	④	14.699	−15.190	770.131	Ⅵa				F	An	1.61	1.22	0.31	0.59			
645	④	14.752	−15.100	770.145	Ⅵa				C	An	1.43	1.50	0.22	0.42			
646	④	15.470	−14.903	769.974	Ⅵb				C	An	0.57	0.46	0.43	0.11			
647	④	15.740	−15.139	770.105	Ⅵa				C	An	0.46	0.72	0.59	0.15			

B地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
648	④	15.863	−15.154	770.061	Ⅵa				C	An	0.71	0.80	0.15	0.02			
649	④	15.705	−15.310	770.088	Ⅵa				C	An	0.80	0.82	0.41	0.22			
650	④	16.097	−15.457	769.914	Ⅵb				C	An	0.62	1.25	0.22	0.09			
651	④	15.592	−15.437	769.978	Ⅵb				F	An	1.71	2.10	0.26	1.04			
653	④	16.361	−18.921	769.631	Ⅵb				F	Ag	1.28	0.99	0.52	0.44			
654	④	13.733	−24.013	769.297	Ⅶ				C	Ob−C	0.82	0.77	0.52	0.29			
655	④	9.922	−11.909	770.570	Ⅵb				C	An	0.39	0.70	0.20	0.01			
656	④	13.193	−23.768	769.309	Ⅶ				C	Ob−C	0.62	0.71	0.19	0.09			
658	④	12.753	−7.315	770.493	Ⅵb				F	An	1.51	1.48	1.00	2.42			
659	④	12.646	−7.800	770.552	Ⅵb				C	Ob−C	0.82	0.65	0.51	0.21			
660	④	12.549	−8.038	770.363	Ⅶ				C	An	0.87	1.00	0.60	0.42			
661	④	12.627	−8.094	770.346	Ⅶ				C	Ob−C	0.78	0.78	1.00	0.62			
663	④	13.838	−8.388	770.345	Ⅵb				C	Ob−C	0.50	0.51	0.37	0.05			
664	④	13.841	−8.141	770.327	Ⅵb				C	An	0.80	0.86	0.44	0.29			
665	④	13.430	−7.150	770.489	Ⅵb				C	Ob−C	0.43	0.48	0.31	0.02			
666	④	14.229	−6.483	770.436	Ⅵb				C	Ob−C	0.28	0.31	0.18	0.01			
667	④	15.258	−6.911	770.263	Ⅶ				C	Ob−C	0.50	0.60	0.34	0.05			
668	④	15.768	−7.280	770.235	Ⅵb				C	Ob−C	0.88	0.40	0.35	0.06			
669	④	15.143	−8.166	770.303	Ⅵb				C	Ob−C	0.80	1.08	0.69	0.48			
670	④	14.999	−8.662	770.418	Ⅵa				C	Ob−C	0.93	1.02	0.61	10.53			
671	④	18.429	−5.975	770.092	Ⅶ				C	Ob−C	0.49	0.50	0.22	0.05			
672	④	10.732	−18.702	769.878	Ⅵb				C	Ob−C	0.49	0.50	0.22	0.05			
673	④	10.512	−17.975	770.123	Ⅵa				Co	An	1.72	2.01	0.81	7.11			
674	④	10.765	−12.345	770.175	Ⅶ				F	An	1.23	1.78	0.66	1.73			
675	④	10.535	−12.224	770.623	Ⅵa				C	Ob−C	0.72	0.58	0.37	0.08			
676	④	10.327	−12.251	770.359	Ⅵb				C	Ob−C	0.50	0.72	0.23	0.03			
678	④	9.727	−17.885	770.078	Ⅵb	1			F	Ob−C	0.72	1.21	0.13	0.11			
679	④	9.567	−17.564	770.237	Ⅵa				F	Ob−C	1.62	1.19	0.72	0.94			
680	④	9.780	−17.379	770.049	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.18	0.51	0.20	0.05			
681	④	9.733	−15.736	770.023	Ⅵb				F	An	0.81	1.39	1.00	1.00			
682	④	9.678	−14.951	770.154	Ⅵb				C	Ob−C	0.52	0.57	0.33	0.05			
683	④	9.733	−14.423	770.164	Ⅵb				C	Ob−B	0.86	0.66	0.32	0.14			
684	④	9.802	−14.089	770.104	Ⅶ				C	Ob−C	0.53	0.52	0.31	0.03			
685	④	9.826	−13.239	770.295	Ⅵb				C	An	0.88	0.72	0.56	0.33			
686	④	9.830	−12.409	770.534	Ⅵb	1			F	An	4.05	2.52	0.82	7.19			
687	④	14.995	−14.519	770.039	Ⅵb				F	An	1.73	2.98	0.99	4.93			
688	④	10.367	−12.330	770.256	Ⅵb				C	Ob−C	0.55	0.98	0.22	0.16			
689	④	14.837	−19.756	770.043	Ⅴ	1			F	Ob−B	2.16	1.87	0.74	2.43			
690	④	14.788	−19.806	769.772	Ⅵb				C	Ob−C	0.39	0.40	0.32	0.02			
692	④	13.426	−19.800	769.863	Ⅵb	1			F	An	1.35	2.89	1.08	3.79			
693	④	12.522	−19.790	769.662	Ⅵb				C	An	0.90	0.71	0.56	0.39			
694	④	12.290	−19.947	769.858	Ⅵb				F	An	2.00	1.60	0.99	2.62			
695	④	11.705	−19.890	769.587	Ⅶ				C	Ob−C	1.10	0.98	0.63	0.62			
696	④	11.985	−20.545	769.873	Ⅵa	1			F	Ob−C	1.07	1.12	0.66	0.65	541		
697	④	12.247	−20.617	769.560	Ⅵb				C	Ob−C	1.00	0.79	0.68	0.46			
698	④	14.352	−20.241	769.601	Ⅵb				C	Ob−C	0.55	1.06	0.38	0.21			
699	④	14.132	−20.229	769.614	Ⅵb	1	1		RF	Ob−B	3.56	1.72	1.11	5.29		101	
700	④	17.278	−10.098	769.955	Ⅵb				C	Ob−C	0.56	0.68	0.41	0.16			

Ｂ地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
701	④	13.264	−10.371	770.324	Ⅵb				C	Ob−B	0.82	0.89	0.40	0.21			
702	④	12.336	−10.180	770.383	Ⅵb				C	Ob−C	0.62	0.94	0.47	0.26			
703	④	11.570	−10.374	770.452	Ⅵb				F	Ob−C	1.40	1.28	0.72	1.48			
704	④	13.704	−9.964	770.429	Ⅵa				C	Ob−C	0.82	0.78	0.45	0.24			
705	④	13.713	−9.678	770.250	Ⅵb				F	An	1.04	1.11	0.81	0.86			
706	④	14.721	−9.565	770.332	Ⅵb				C	Ob−C	1.05	0.93	0.38	0.32			
707	④	11.776	−25.215	769.849	Ⅳb				F	An	2.33	1.62	0.61	2.79			
708	④	13.098	−27.309	769.699	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.59	2.81	0.83	6.23	592	102	
709	④	11.361	−29.146	769.594	Ⅳb		1		RF	An	3.27	3.22	1.12	15.81			
710	④	11.347	−28.322	769.462	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.28	0.65	0.58	0.75			
711	④	12.716	−28.595	769.324	Ⅵb	1			F	Ob−B	3.50	2.08	1.63	9.68			
712	④	11.145	−26.710	769.605	Ⅵb				C	An	0.79	0.75	0.72	0.34			
713	④	11.218	−26.250	769.724	Ⅵb				F	An	0.87	1.58	0.33	0.53			
714	④	11.642	−26.023	769.602	Ⅴ	1			F	An	2.51	1.91	1.09	4.61			
715	④	11.044	−25.338	769.686	Ⅳb				F	An	1.49	1.76	0.61	1.14			
716	④	11.101	−25.195	769.737	Ⅳb				F	An	1.40	1.70	0.41	0.95			
718	④	15.196	−28.715	769.165	Ⅵb	1			F	Ob−C	2.77	2.71	0.82	5.27		103	
719	④	15.582	−27.119	769.319	Ⅵb				F	An	1.74	1.12	0.78	1.33			
720	④	16.020	−27.406	769.431	Ⅴ	1			F	Ob−C	2.72	1.97	0.82	4.43			
721	④	17.699	−28.672	768.951	Ⅶ				F	An	2.02	1.77	1.45	5.58			
722	④	18.535	−27.565	769.203	Ⅵb	1			F	Ob−C	1.14	2.08	0.63	1.14			
723	④	18.332	−26.954	769.248	Ⅵb				C	An	0.58	1.03	0.11	0.06			
724	④	17.458	−27.114	769.092	Ⅶ	1			F	An	0.81	1.00	0.18	0.15			
725	④	18.961	−25.660	769.254	Ⅵb				C	Ob−C	0.91	0.88	0.62	0.28			
726	④	17.928	−24.781	769.626	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	0.90	1.38	0.33	0.48			
727	④	18.097	−24.088	769.518	Ⅵb				C	Ob−C	1.10	1.07	0.37	0.21			
728	④	17.884	−24.238	769.487	Ⅵb				C	Ob−B	0.61	0.78	0.52	0.21			
729	④	17.147	−25.012	769.329	Ⅵb				F	An	3.90	2.91	1.09	9.23		103	
730	④	16.611	−25.818	769.525	Ⅴ	1			UF	Ob−C	3.43	3.00	0.97	11.41	549	102	
731	④	15.870	−26.054	769.353	Ⅵb				C	Ob−C	0.63	0.79	0.46	0.19			
732	④	16.183	−25.122	769.702	Ⅳb				F	Ob−C	1.99	2.32	0.78	2.11			
733	④	15.810	−25.091	769.495	Ⅵb	1			F	Ob−B	1.70	1.90	0.67	1.68	739	103	
734	④	15.672	−25.035	769.390	Ⅵb				C	Ob−B	0.49	0.60	0.39	0.11			
735	④	15.360	−25.355	769.365	Ⅵb				C	An	0.90	1.23	0.36	0.28			
736	④	15.549	−23.611	769.666	Ⅴ				F	Ob−B	0.87	1.78	0.39	0.45			
737	④	15.892	−23.659	769.575	Ⅵa				C	An	0.49	0.82	0.40	0.19			
738	④	16.426	−23.529	769.623	Ⅵa				F	Ob−B	2.82	2.40	0.58	3.46			
739	④	15.312	−22.463	769.869	Ⅳb	1			F	Ob−B	3.30	2.78	0.92	9.34	733	103	
740	④	15.375	−21.873	769.782	Ⅴ				C	Ob−C	0.61	0.77	0.41	0.11			
741	④	15.422	−21.981	769.662	Ⅵb				F	Ob−B	2.37	2.31	0.90	2.55			
742	④	16.061	−21.848	769.681	Ⅵb				UF	An	3.03	2.72	1.09	6.59		102	
743	④	16.828	−21.289	769.629	Ⅵb				C	Ob−C	0.60	0.69	0.39	0.15			
747	④	16.893	−20.507	769.806	Ⅴ		1		Kn	Ob−C	3.97	2.28	1.21	8.71		101	
748	④	15.255	−20.666	769.738	Ⅴ	1			F	Ob−B	0.81	1.03	0.48	0.19			
749	④	15.981	−19.915	769.844	Ⅴ				C	An	1.03	1.32	0.25	0.29			

C地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
C-17	⑤	6.237	−2.965	763.249	Ⅵ				C	Ob−C	0.68	1.07	0.25	0.12			
C-19	⑤	8.536	−1.949	763.252	Ⅳb				C	An	0.79	0.90	0.28	0.23			
C-20	⑤	8.714	−1.765	763.280	Ⅳb				C	An	0.68	0.50	0.17	0.01			
C-21	⑤	8.570	−1.425	763.442	Ⅳb				F	An	1.83	1.71	2.47	1.12			
C-22	⑤	8.443	−0.602	763.501	Ⅳb				C	Ob−C	1.36	0.76	0.58	0.50			
C-23	⑤	9.431	−3.133	763.250	Ⅳb				RF	Rh	1.94	2.35	0.21	2.29		144	
C-24	⑤	8.439	−2.870	763.224	Ⅳb				Co	Ag	4.08	6.27	2.03	52.30		145	
C-25	⑤	8.736	−3.663	763.034	Ⅳb	1	1		Sc	An	4.00	2.17	1.19	11.93		144	
C-27	⑤	7.394	−2.431	763.235	Ⅳb	1			F	An	1.50	1.68	0.41	2.29			
C-28	⑤	8.342	−4.472	762.989	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.09	1.23	0.56	2.08			
C-29	⑤	11.848	−4.281	763.167	Ⅳb				F	Ob−B	1.81	0.99	0.32	0.31			
C-30	⑤	12.007	−3.395	763.226	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.04	1.67	0.65	2.39			
C-31	⑤	11.184	−2.954	763.260	Ⅳb				F	Ch	1.40	2.03	1.51	3.37			
C-33	⑤	11.043	−1.223	763.408	Ⅳb				F	Ob−C	4.93	6.42	1.81	36.07			
C-34	⑤	10.974	−1.194	763.492	Ⅳb				C	Ob−C	1.02	1.48	0.28	0.27			
C-35	⑤	13.562	−0.734	763.339	Ⅳa	1			F	Ob−C	1.92	2.11	0.67	2.28			
C-36	⑤	14.544	−0.831	763.185	Ⅳb				F	Ob−C	3.50	3.09	0.82	7.12			
C-37	⑤	13.773	−0.772	763.354	Ⅳa				F	Ob−C	1.56	2.00	0.37	1.47			
C-38	⑤	13.665	−2.616	763.248	Ⅳa				Co	Ob−C	3.30	3.98	2.21	24.66		145	
C-39	⑤	14.694	−4.785	763.194	Ⅳa				F	An	2.44	2.80	0.69	3.80			
C-40	⑤	15.359	−5.651	763.006	Ⅳa				F	Ob−C	2.21	1.52	0.74	2.19			
C-41	⑤	15.536	−5.969	762.973	Ⅳa				C	Ob−C	0.92	1.03	0.51	0.40			
C-42	⑤	16.125	−9.259	762.745	Ⅳa		1		RF	Ob−C	2.13	1.93	1.05	3.48			
C-43	⑤	15.289	−6.501	762.769	Ⅳb	1			F	Ob−C	3.01	2.42	0.74	4.44			
C-44	⑤	16.757	−7.897	762.706	Ⅳa				F	Ob−C	1.10	0.99	0.08	0.06			
C-45	⑤	19.069	−7.829	762.309	Ⅳb				C	Ob−B	0.62	1.02	0.16	0.12			
C-46	⑤	18.972	−7.225	762.313	Ⅳb				F	Ob−C	2.23	1.21	0.32	1.28			
C-48	⑤	18.085	−5.675	762.764	Ⅳa				F	Ob−C	1.60	1.64	0.62	0.95			
C-49	⑤	18.113	−5.676	762.759	Ⅳa				F	Ob−C	0.82	1.30	0.35	0.43			
C-52	⑤	6.145	0.689	763.53	Ⅳa	1			F	Ob−C	1.39	1.60	0.97	2.64			
C-53	⑤	5.696	−1.204	763.412	Ⅳb				F	Rh	4.90	1.92	0.79	6.62		144	
C-54	⑤	6.500	−0.848	763.299	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.53	1.74	0.90	1.83			
C-55	⑤	6.763	−1.145	763.323	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.43	1.82	0.51	1.24			
C-56	⑤	7.044	−0.579	763.427	Ⅳa				F	Ob−C	1.28	1.61	0.80	1.08			
C-57	⑤	7.059	−1.383	763.381	Ⅳa				C	Ob−C	0.76	0.54	0.19	0.03			
C-58	⑤	6.964	−1.839	763.336	Ⅳa				C	Ob−C	1.21	0.83	0.56	0.50			
C-60	⑤	6.619	−1.924	763.335	Ⅳa	1	1		RF	Ob−C	2.30	2.82	0.78	4.56	63		
C-61	⑤	6.480	−1.880	763.286	Ⅳb				F	Ob−C	1.60	2.22	1.21	2.24			
C-62	⑤	6.105	−2.006	763.209	Ⅳb		1		RF	Ob−C	4.23	2.71	1.94	17.12			
C-63	⑤	6.390	−2.546	763.13	Ⅳb	1			UF	Ob−C	2.70	1.80	0.80	2.85	60		
C-64	⑤	6.593	−1.557	763.275	Ⅳb				F	Ob−C	2.40	1.82	0.66	2.53			
C-65	⑤	6.650	−2.942	763.191	Ⅳa				C	Ob−C	1.09	0.82	0.20	0.15			
C-66	⑤	6.939	−3.160	763.156	Ⅳa				C	An	1.01	1.49	0.22	0.08			
C-67	⑤	6.924	−3.281	763.17	Ⅳa				C	An	1.25	1.22	0.26	0.35			
C-68	⑤	7.805	−3.189	763.061	Ⅳa				C	An	1.21	1.19	0.30	0.34			
C-69	⑤	7.744	−1.922	763.174	Ⅳb				C	Ob−C	0.67	0.61	0.32	0.09			
C-71	⑤	8.307	−1.541	763.272	Ⅳb				C	An	0.71	1.21	0.29	0.24			
C-72	⑤	7.100	−1.300	763.315	Ⅳb				C	An	0.73	0.68	0.16	0.04			

C地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
C-73	⑤	7.709	−1.328	763.321	Ⅳb				F	Ob−B	2.22	2.88	0.60	2.38			
C-74	⑤	8.878	−1.406	763.254	Ⅳb				F	An	2.33	1.82	1.35	2.75			
C-75	⑤	5.986	−4.572	762.887	Ⅳb				F	Ob−C	1.97	1.77	0.51	0.24			
C-76	⑤	6.915	−4.854	762.943	Ⅳb				C	An	1.52	1.43	0.60	2.76			
C-78	⑤	10.617	−1.856	763.276	Ⅳa				C	Ob−C	1.01	0.89	0.38	0.22			
C-79	⑤	11.246	−0.772	763.323	Ⅳa				F	An	2.04	1.72	0.49	2.53			
C-80	⑤	11.238	−0.712	763.342	Ⅳa				F	Ob−C	1.8	1.93	0.74	1.69			
C-82	⑤	12.249	−2.399	763.038	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.23	2.17	0.72	2.62			
C-83	⑤	6.697	−1.362	763.214	Ⅳb				F	Ob−C	3.29	2.00	0.88	4.72			
C-84	⑤	5.988	3.476	763.711	Ⅴ				Co	Ob−C	2.45	3.4	2.38	16.59			
C-85	⑤	5.501	3.473	763.642	Ⅵ				Ax	Ob−C	9.45	3.40	1.40	49.03		139	
C-87	⑤	6.677	2.187	763.516	Ⅵ	1			F	Ob−C	1.60	1.51	0.41	5.01			
C-88	⑤	6.321	1.687	763.503	Ⅵ				C	Ob−C	1.21	0.98	0.32	1.26			
C-89	⑤	7.372	3.684	763.687	Ⅵ		1	1	F	Rh	2.80	2.42	0.51	2.44		140	
C-90	⑤	7.639	3.254	763.639	Ⅵ	1	1		RF	Rh	3.00	2.66	1.07	8.76		140	
C-92	⑤	8.567	2.642	763.566	Ⅵ	1			F	Rh	2.19	1.91	1.07	5.03		140	
C-93	⑤	7.798	1.748	763.462	Ⅶ				C	Ob−C	1.06	1.42	2.21	0.36			
C-94	⑤	6.460	0.856	763.346	Ⅵ				C	Ob−C	0.86	0.62	0.38	0.25			
C-95	⑤	6.750	−0.582	763.235	Ⅵ				C	Ob−C	0.49	0.61	0.28	0.02			
C-96	⑤	6.669	−1.065	763.266	Ⅵ				C	Ob−C	0.92	0.55	0.51	0.12			
C-97	⑤	6.509	−1.184	763.179	Ⅵ				C	Ob−C	0.78	0.92	0.70	0.11			
C-98	⑤	6.241	−1.365	763.203	Ⅵ				C	Ob−C	1.08	0.85	0.22	0.14			
C-99	⑤	5.909	0.867	763.263	Ⅵ				C	Ob−C	0.49	0.90	0.34	0.08			
C-100	⑤	4.866	−1.267	763.215	Ⅵ				F	Ob−C	1.72	2.39	0.61	2.26			
C-102	⑤	4.798	−2.043	763.170	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.23	1.82	0.28	1.44			
C-103	⑤	4.438	−2.773	763.074	Ⅴ				F	Ob−C	4.77	3.60	1.83	21.08		140	
C-104	⑤	5.149	−3.167	762.862	Ⅵ				F	Ob−C	1.50	1.90	0.94	1.44			
C-105	⑤	5.770	−3.367	762.810	Ⅵ				C	Ob−C	1.42	1.19	0.63	0.76			
C-106	⑤	5.109	−2.812	762.830	Ⅵ	1			F	Ob−C	1.58	1.18	0.43	0.95			
C-107	⑤	4.754	−3.479	762.944	Ⅴ				C	Ob−C	1.07	1.20	0.57	0.68			
C-109	⑤	10.806	−3.650	763.072	Ⅵ				F	Ob−C	1.73	1.88	1.79	1.26			
C-110	⑤	6.700	2.194	763.517	Ⅵ				C	Ob−C	1.55	1.40	0.36	0.63			
C-113	⑤	5.340	−0.805	763.074	Ⅵ				C	Ob−C	1.03	0.75	0.23	0.75			
C-114	⑤	5.168	−1.621	762.932	Ⅶ				C	Ob−C	1.14	1.31	0.88	0.84			
C-115	⑤	4.750	−2.203	762.934	Ⅵ				C	Ob−C	1.18	1.41	0.80	1.10			
C-116	⑤	6.581	−1.511	762.886	Ⅵ	1	1		Trz	Ob−C	2.81	2.54	1.03	6.08		139	
C-117	⑤	3.42	−0.964	762.987	Ⅵ		1		RF	Ob−C	3.23	3.88	1.58	18.41		140	
C-118	⑤	5.082	−3.353	762.635	Ⅵ				C	Ob−C	0.73	0.73	0.30	0.16			
C-119	⑤	11.024	2.834	763.657	Ⅳb	1			F	Ob−C	0.90	1.31	0.34	0.36			
C-120	⑤	11.217	2.735	763.647	Ⅳb				C	Ob−C	0.70	1.26	0.46	0.29			
C-121	⑤	11.256	1.963	763.566	Ⅳb				C	Ob−C	1.69	1.04	0.60	0.70			
C-122	⑤	3.341	−1.247	762.835	Ⅳb				C	Ob−C	0.92	0.35	0.40	0.56			
C-123	⑤	3.242	−1.222	762.831	Ⅵ	1	1		RF	Ob−C	3.34	2.50	0.66	3.87		144	
C-124	⑤	14.546	1.903	763.194	Ⅵ				C	Ob−C	0.40	0.49	0.21	0.01			
C-125	⑤	3.871	−4.850	762.510	Ⅵ				C	Ob−C	1.00	0.95	0.46	0.34			
C-126	⑤	2.274	2.554	763.720	Ⅳb			1	UF	Rh	5.08	4.51	1.02	19.06			
C-127	⑤	2.500	1.666	763.707	Ⅳb		1		RF	Rh	3.79	2.49	0.91	7.78		144	
C-128	⑤	2.761	2.331	763.499	Ⅵ				F	Ob−B	2.95	4.00	1.08	9.77		140	

C地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
C-129	⑤	4.725	1.016	763.523	V	1	1		RF	Ob－B	2.55	3.38	1.11	10.30			
C-131	⑤	10.610	3.953	763.548	Ⅵ				F	Ch	2.92	3.42	1.01	8.87		140	
C-132	⑤	10.780	2.909	765.564	Ⅵ	1			F	Ob－C	0.42	1.86	0.56	0.75			
C-133	⑤	11.454	2.542	763.556	Ⅵ		1		UF	Ob－C	3.24	4.35	1.60	17.32		140	
C-134	⑤	11.489	2.760	763.479	Ⅵ				C	Ob－C	1.53	0.90	0.33	0.31			
C-135	⑤	12.174	3.017	763.374	Ⅵ				C	Ob－C	1.16	1.17	0.74	0.72			
C-136	⑤	12.603	2.383	763.460	Ⅵ	1	1		Trz	Ob－B	2.24	2.30	0.82	3.71		139	
C-137	⑤	13.008	3.512	763.230	Ⅵ	1	1	1	Trz	Ob－C	2.78	2.23	1.12	5.61		139	
C-138	⑤	13.291	3.154	763.174	Ⅵ				F	Ob－C	3.13	4.31	0.69	13.92		140	
C-139	⑤	14.284	3.177	763.058	Ⅵ				F	Ob－C	2.40	1.98	0.51	2.03			
C-140	⑤	11.241	−6.456	762.948	Ⅵ	1			F	Ob－C	2.70	2.00	0.91	4.30			
C-142	⑤	14.795	−6.855	762.935	Ⅵ				C	Ob－C	0.82	0.92	0.21	0.12			
C-143	⑤	−1.472	1.846	763.612	Ⅳb			1	UF	Rh	3.06	2.55	0.40	4.60		144	
C-144	⑤	15.040	−4.222	763.134	Ⅳa				Co	Ob－C	1.58	1.62	2.18	5.71			
C-145	⑤	16.374	−1.510	763.021	Ⅳa	1			F	Ob－C	1.73	1.37	0.72	1.39			
C-146	⑤	16.673	−1.396	763.016	Ⅳa	1			F	Ob－C	1.40	0.89	0.29	0.37			
C-147	⑤	17.063	−1.194	762.963	Ⅳa				F	Ob－C	3.50	3.43	1.40	13.27			
E-1	⑥	−6.147	−8.592	769.085	Ⅳa		1		Kn	Ob－A	2.90	2.30	0.70	3.54		144	
E-2	⑥	−0.719	−3.300	768.586	Ⅳa	1			F	Rh	5.55	4.50	1.65	22.79		145	
E-3	⑥	−7.138	13.949	770.204	Ⅳa				F	Ob－C	2.25	3.05	0.65	4.70			
E-9	⑥	−8.829	1.966	769.177	Ⅳb				Co	Ob－A	4.25	3.40	1.95	20.63			
E-13	⑥	−8.681	23.701	770.973	Ⅳb				C	Ob－C	1.45	1.00	0.15	0.15			
E-14	⑥	1.317	−6.81	767.972	Ⅳb				F	Ob－D	2.25	3.00	0.60	3.91			
E-15	⑥	1.837	−5.471	768.005	Ⅳb	1			F	Rh	3.25	1.60	0.50	2.60		144	
E-16	⑥	2.161	−8.623	767.683	Ⅳb				C	Ob－D	1.55	1.60	0.20	0.59			
E-18	⑥	1.360	−14.481	767.692	撹乱				Co	Ob－A	3.05	4.50	2.45	44.50		145	

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
270	⑦	1.400	12.452	757.920	Ⅳa				F	Ob－C	3.01	3.23	0.50	10.84			
272	⑦	－6.236	11.713	758.547	Ⅳa				F	Ch	1.36	2.21	0.19	0.44			
277	⑦	－11.491	6.638	758.025	Ⅳa				UF	不明	4.43	3.57	0.90	14.43		166	
288	⑦	－7.460	－3.017	756.936	Ⅳa				C	Ob－C	0.43	0.89	0.29	0.44			
290	⑦	8.476	－0.947	755.854	Ⅳa				RF	Ob－B	4.00	2.52	1.73	11.01	294		
293	⑦	－1.866	8.288	757.887	Ⅳb				F	Qu	1.75	2.21	0.51	1.51	422		
294	⑦	8.452	0.944	755.861	Ⅳa				F	Ob－B	1.80	2.51	1.08	4.42	290		
299	⑦	－9.109	8.925	758.114	Ⅳb				F	Ob－C	1.48	1.71	0.53	0.95			
300	⑦	－9.010	9.111	758.102	Ⅳb				F	Ob－C	6.29	5.51	2.17	59.36			
301	⑦	－9.117	8.406	758.101	Ⅳb				C	Ob－C	1.12	1.52	0.24	0.59			
302	⑦	－8.753	6.866	758.055	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.72	2.00	0.51	2.44			
303	⑦	－9.025	8.086	758.137	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.13	1.90	1.16	3.92			
304	⑦	－8.387	8.448	758.162	Ⅳb				F	Rh	4.29	1.93	0.72	4.09		168	
305	⑦	－7.972	8.745	758.090	Ⅳb				F	Ob－C	2.71	2.49	0.92	5.96			
306	⑦	－7.708	8.289	758.128	Ⅳb				C	Ob－C	1.38	0.52	0.31	0.28			
307	⑦	－7.484	8.227	758.116	Ⅳb				C	Ob－C	1.52	1.11	0.31	0.42			
308	⑦	－7.987	7.383	757.973	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.77	1.76	0.99	4.44			
309	⑦	－7.894	9.319	758.094	Ⅳb				F	Ob－C	1.88	2.53	0.49	1.56			
310	⑦	－7.138	6.917	757.989	Ⅳb				F	Ob－C	2.13	2.28	0.55	3.04			
311	⑦	－6.657	6.925	758.148	Ⅳb	1			UF	Ob－C	2.29	3.53	0.22	3.94			
312	⑦	－6.538	7.233	758.043	Ⅳb		1		Sc	Ob－C	2.58	3.01	0.89	4.59		165	
313	⑦	5.653	6.537	757.968	Ⅳb				F	Ob－C	2.50	2.10	0.58	2.26			
314	⑦	－6.555	2.242	757.541	Ⅳb				F	Ob－C	2.98	2.10	0.76	2.83			
315	⑦	－6.693	2.088	757.552	Ⅳb				UF	Rh	4.83	1.51	1.18	7.93		166	
316	⑦	－7.137	1.422	757.379	Ⅳb	1	1		F	Ob－C	1.92	1.13	0.34	0.79			
317	⑦	－3.047	3.804	757.577	Ⅳb				C	Ob－C	1.09	1.03	0.57	0.41			
318	⑦	－2.069	4.505	757.543	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.77	1.70	0.81	1.62			
319	⑦	－7.694	5.576	757.899	Ⅳb	1	1		RF	Ob－C	1.01	1.56	0.52	0.82			両面加工・平坦剥離
320	⑦	－8.118	5.706	757.921	Ⅳb				C	Ob－C	0.60	0.97	0.43	0.24			
321	⑦	8.736	5.983	757.960	Ⅳb				C	Ob－C	1.38	0.83	0.21	0.1			
322	⑦	－7.782	5.458	757.878	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.60	1.91	0.70	1.57			
323	⑦	－7.387	6.534	758.021	Ⅳb				F	Ob－C	1.48	1.57	0.70	1.32			
324	⑦	－7.318	6.283	757.955	Ⅳb				C	Ob－C	1.21	0.93	0.51	0.48			
325	⑦	－6.976	5.969	757.938	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.16	1.48	0.43	1.53			
326	⑦	－7.941	－3.391	756.752	Ⅳb		1		RF	Ob－C	6.22	4.19	2.65	51.81		165	
327	⑦	－7.126	－2.535	756.885	Ⅳb				C	Ob－C	0.43	0.56	0.17	0.01			
328	⑦	－8.264	－1.584	756.966	Ⅳb				C	Ob－C	1.31	0.62	0.11	0.12			
329	⑦	－6.024	－0.804	757.057	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.52	1.93	0.72	1.68			
330	⑦	－5.979	－0.880	757.057	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.97	1.66	1.02	5.10			
331	⑦	－4.865	－2.296	757.051	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.52	1.49	0.69	1.20	376	168	
332	⑦	－4.530	－4.894	756.672	Ⅳb				F	Ob－C	1.61	1.40	0.23	1.17			
333	⑦	－2.527	－0.635	757.165	Ⅳb				F	Ob－C	1.76	1.09	0.32	0.39			
334	⑦	－1.267	－4.932	756.625	Ⅳb				F	Ob－C	1.08	1.77	0.89	1.20			
335	⑦	－3.725	－5.927	756.607	Ⅳa	1			F	Ob－C	1.56	1.27	0.23	0.50			
336	⑦	－4.414	－9.012	755.980	Ⅳb				C	Ob－C	0.55	0.84	0.29	0.09			
337	⑦	1.511	－6.260	755.855	Ⅵ	1			F	Ob－C	3.47	3.62	1.22	11.16			
338	⑦	2.799	－8.109	755.570	Ⅴ				C	Ob－C	1.40	1.33	0.32	0.40			
339	⑦	6.645	－4.723	755.484	Ⅴ	1			F	Ob－C	2.43	1.51	0.58	3.62			

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
340	⑦	5.479	−1.571	755.982	V				F	Ob−C	0.89	2.45	0.89	1.75			
341	⑦	3.397	6.168	757.102	Ⅳb		1		RF	Ob−A	2.44	3.67	0.98	10.66		166	
342	⑦	2.281	3.044	756.891	V				Co	Ob−A	2.42	4.67	2.87	20.64		162	
343	⑦	10.885	−5.622	754.999	V				F	Ob−A	2.29	1.50	1.42	4.76			
344	⑦	−9.893	−0.676	757.047	Ⅳb				F	Ob−C	1.98	3.04	0.92	2.75			
345	⑦	−8.470	8.934	758.254	Ⅳb				RF	Ob−C	5.18	4.31	1.71	28.76		165	
346	⑦	−11.598	8.910	758.141	Ⅳa				C	Ob−C	0.39	0.42	0.13	0.01			
347	⑦	−11.469	8.815	758.160	Ⅳa				C	Ob−C	1.22	0.93	0.20	0.16			
348	⑦	−5.501	13.099	758.475	Ⅳb				F	Ob−C	2.56	2.68	0.88	4.47			
349	⑦	−4.225	12.029	758.415	Ⅳb				F	Ob−C	2.30	1.99	0.93	3.46			
350	⑦	−4.293	10.763	758.404	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	3.57	2.18	0.72	7.89			
351	⑦	−3.280	11.348	758.275	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.17	1.80	0.80	2.31			
353	⑦	−4.918	9.196	758.005	Ⅳb				C	Qu	1.41	1.03	0.24	0.39			
354	⑦	−4.892	5.393	757.557	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.83	2.39	0.38	1.58	511	168	
355	⑦	−5.006	4.781	757.583	Ⅳb				C	Ob−C	0.49	0.49	0.22	0.03			
356	⑦	−5.263	4.709	757.566	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.22	1.90	1.00	2.48			
357	⑦	−5.542	4.552	757.537	Ⅳb				C	Ob−C	1.02	0.60	0.31	0.27			
358	⑦	−5.284	4.242	757.677	Ⅳb				C	Ob−B	1.09	1.69	0.27	0.46			
359	⑦	−5.805	4.340	757.553	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.68	1.52	0.69	2.60			
361	⑦	−6.082	4.141	757.611	Ⅳb				C	Ob−C	1.12	0.78	0.27	0.14			
362	⑦	−6.177	4.044	757.524	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	1.13	1.71	0.93	1.62			
363	⑦	−6.874	4.742	757.633	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.93	2.27	0.82	2.99			
364	⑦	−7.182	4.619	757.805	Ⅳb				F	Qu	2.43	2.41	1.31	5.22			
365	⑦	−7.064	4.417	757.611	Ⅳb				C	Ob−C	1.12	1.09	0.58	0.62			
366	⑦	−6.922	4.042	757.590	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.75	1.78	0.52	1.79			
367	⑦	−5.278	3.495	757.561	Ⅳb				C	Ob−C	1.02	0.78	0.02	0.16			
368	⑦	−5.591	3.409	757.441	Ⅳb				F	Ob−B	2.88	2.72	1.01	11.35			
369	⑦	−5.787	3.358	757.470	Ⅳb				F	Ob−C	1.01	0.72	0.20	0.18			
370	⑦	−5.736	3.153	757.305	Ⅳb				C	Ob−C	1.01	0.76	0.59	0.39			
371	⑦	−5.416	2.989	757.500	Ⅳb				F	Ob−D	1.75	0.68	0.21	0.19			
372	⑦	−5.699	2.890	757.314	Ⅳb				F	Ob−C	0.92	0.90	0.21	0.15			
373	⑦	−6.378	3.254	757.450	Ⅳb				C	Ob−C	1.26	1.30	0.21	0.24			
374	⑦	−6.627	3.606	757.469	Ⅳb				C	Qu	1.36	0.89	0.28	0.29			
375	⑦	−6.582	3.381	757.396	Ⅳb				C	Ob−C	0.70	1.09	0.38	0.25			
376	⑦	−6.596	3.173	757.361	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.53	1.54	0.69	1.72	331	168	
377	⑦	−6.850	3.161	757.587	Ⅳb				F	Rh	2.03	0.85	0.41	0.70			
378	⑦	−7.285	3.211	757.439	Ⅳb				C	Ob−C	1.14	1.13	0.61	0.42			
379	⑦	−8.199	2.869	757.498	Ⅳb				C	Qu	0.65	0.79	0.17	0.07			
380	⑦	−6.901	2.815	757.450	Ⅳb				F	Ob−C	1.12	2.12	0.82	0.87			
381	⑦	−6.589	2.658	757.501	Ⅳb	1	1		Cu	Ob−D	2.00	2.76	0.72	3.30		165	両面加工・平坦剥離
382	⑦	−6.229	2.388	757.490	Ⅳb		1		Trz	Ob−B	3.22	1.91	0.89	3.95		165	交互剥離
383	⑦	−5.620	2.363	757.529	Ⅳb				F	Ob−C	1.15	1.85	0.12	0.67			
384	⑦	−5.172	2.685	757.481	Ⅳb				C	Ob−C	1.11	1.38	0.18	0.31			
385	⑦	−5.175	2.587	757.454	Ⅳb				C	Ob−C	1.01	1.13	0.60	0.41			
386	⑦	−5.669	2.052	757.497	Ⅳb				C	Ob−C	1.03	1.40	0.52	0.57			
387	⑦	−6.603	2.001	757.392	Ⅳb				C	Ob−C	0.87	0.54	0.08	0.02			
388	⑦	−6.496	1.886	757.249	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.58	2.21	0.78	2.43			
389	⑦	−6.417	1.531	757.283	Ⅳb				F	Ob−B	2.60	1.77	0.61	2.39			

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
390	⑦	−5.950	1.326	757.267	Ⅳb				F	Ob−B	1.47	1.88	0.59	1.30			
391	⑦	−6.859	1.363	757.327	Ⅳb	1			C	Ob−C	2.13	2.47	0.42	1.64			
392	⑦	−6.558	0.980	757.244	Ⅳb				C	Ob−C	1.41	0.94	0.53	0.51			
393	⑦	−6.677	0.623	757.171	Ⅳb				F	Ob−C	1.50	1.16	1.23	1.91			
394	⑦	−6.577	−0.660	756.938	Ⅳb				F	Ob−C	2.13	2.49	0.37	4.07			
395	⑦	−5.128	−1.532	756.690	Ⅵ				F	Ob−C	4.52	6.60	0.82	33.60			
396	⑦	−7.040	−2.641	756.689	Ⅳb				F	Ob−C	1.27	1.33	0.67	0.84			
397	⑧	16.903	−0.863	755.679	Ⅵ				F	Ob−B	7.61	3.78	1.22	40.24			
398	⑧	16.211	−3.099	755.466	Ⅵ				F	Ob−B	2.78	3.89	0.87	5.70			
399	⑧	18.047	−1.707	755.463	Ⅵ	1	1		Trz	Ob−B	2.60	2.71	0.92	4.23		158	
400	⑧	17.276	−2.495	755.330	Ⅵ		1		Sc	Ob−B	4.54	3.25	1.17	18.26		159	交互剥離
401	⑧	17.869	−3.759	755.243	Ⅵ	1	1		RF	Ob−C	2.14	3.35	0.88	5.73		158	
402	⑧	16.907	−0.948	753.347	Ⅵ				C	Ob−C	0.62	0.85	0.16	0.13			
403	⑧	19.217	−4.671	755.108	Ⅵ				Co	Ob−B	2.65	4.72	3.11	25.94		162	
404	⑧	13.147	−5.313	755.698	Ⅵ				F	Ob−B	2.80	1.53	1.12	4.10			
405	⑧	14.837	−6.366	755.430	Ⅵ	1	1		RF	Ob−C	4.51	2.28	0.87	7.73		158	
406	⑧	13.484	−7.028	755.594	Ⅵ				Co	Ob−B	2.79	2.60	3.33	23.46		161	
407	⑧	2.399	0.517	757.071	Ⅵ				UF	Ob−B	5.41	5.90	1.90	41.92		160	
408	⑧	2.976	10.522	758.449	Ⅳa		1		CS	Ob−A	3.00	1.13	0.68	2.11		165	両面加工
409	⑧	2.013	10.836	758.192	Ⅳb	1			F	Qu	1.01	1.30	0.53	0.98			
410	⑧	2.463	11.654	758.217	Ⅳb	1			F	Ch	1.39	1.73	0.32	0.66			
411	⑧	2.472	11.304	758.234	Ⅳb				F	Qu	1.63	2.22	0.70	1.88			
412	⑧	2.493	11.381	758.252	Ⅳb				C	Qu	1.41	1.44	0.53	0.91			
413	⑧	3.095	10.900	758.245	Ⅳb				UF	Ob−C	6.39	3.09	2.02	31.00		166	
414	⑧	3.182	11.553	758.204	Ⅳb	1			F	Ch	1.03	1.11	0.18	0.31			
415	⑧	3.501	11.214	758.264	Ⅳb				UF	Ob−A	5.58	7.24	0.92	46.10		166	
416	⑧	3.566	11.922	758.157	Ⅳb				F	Qu	1.93	1.80	0.37	1.46			
417	⑧	4.626	11.408	758.198	Ⅳb		1		RF	Ob−C	2.21	1.58	1.02	2.93			平坦剥離
418	⑧	4.675	12.277	758.096	Ⅳb				Co	Qu	3.11	3.33	1.78	13.47			
419	⑧	5.063	12.237	58.129	Ⅳb				F	Ob−C	2.30	2.15	0.57	3.18			
420	⑧	5.283	12.071	758.132	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	1.98	1.50	0.68	1.83			平坦剥離
421	⑧	5.554	10.981	758.163	Ⅳb	1	1		RF	Ob−C	2.02	2.48	1.27	5.18			
422	⑧	5.588	11.138	758.080	Ⅳb				Co	Qu	3.70	3.18	2.46	29.19			
423	⑧	5.811	11.588	758.106	Ⅳb	1			F	Qu	1.28	1.12	0.58	1.01	451		
424	⑧	5.591	11.603	758.055	Ⅳb				F	Ag	1.32	1.03	0.42	0.37			
425	⑧	5.725	11.724	758.165	Ⅳb				UF	Ob−C	3.56	3.20	0.82	10.90		166	
426	⑧	5.542	11.809	758.094	Ⅳb	1			UF	Ob−C	1.32	1.52	0.55	0.98			
427	⑧	5.750	12.297	758.256	Ⅳb				F	Ob−C	1.97	2.22	1.01	5.09			
428	⑧	5.518	12.587	758.146	Ⅳb				UF	Ob−C	2.87	2.32	1.09	6.32		166	
429	⑧	5.402	12.768	756.132	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.53	1.98	0.42	2.75			
430	⑧	5.994	11.950	758.097	Ⅳb				C	Qu	1.12	1.53	0.52	0.64			
431	⑧	6.229	12.148	758.135	Ⅳb				C	Ob−C	1.48	1.00	0.69	1.00			
432	⑧	6.012	12.160	758.057	Ⅳb				F	Ob−C	2.23	2.21	0.73	3.75			
433	⑧	6.204	12.983	758.109	Ⅳb	1			F	Ob−C	1.71	1.82	0.50	1.21			
434	⑧	6.587	12.696	758.067	Ⅳb				F	Ob−C	1.89	2.59	0.72	1.90			
435	⑧	6.917	11.414	757.994	Ⅳb				F	Qu	2.33	1.12	0.50	1.30			
436	⑧	7.084	12.265	758.070	Ⅳb		1		Sc	Ob−C	5.28	3.67	1.80	25.65		165	
437	⑧	7.332	11.254	757.940	Ⅳb				F	Qu	1.16	2.00	0.53	0.70			

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
438	⑧	7.718	11.144	757.976	Ⅳb				F	Ob－C	3.41	3.04	1.11	6.67		167	
439	⑧	7.887	10.544	758.021	Ⅳb				Co	Ob－C	2.62	2.51	1.73	10. 8			
440	⑧	14.926	3.970	756.778	Ⅵ				Co	Ob－B	3.25	4.31	3.27	46.47		161	
441	⑧	14.532	2.333	756.778	Ⅵ				F	An	4.69	6.62	1.28	21.08			
442	⑧	13.853	2.370	756.824	Ⅵ	1			F	Ob－B	3.09	1.84	0.72	3.37			
443	⑧	13.226	1.934	756.764	Ⅵ		1		Sc	Ob－B	3.13	5.30	1.39	15.89		159	
444	⑧	13.273	1.669	756.818	Ⅵ				F	Ob－B	2.87	4.98	0.74	10.63			
445	⑧	11.822	2.842	756.871	Ⅵ				F	Ob－B	3.07	3.40	1.02	13.03			
446	⑧	11.921	1.389	756.770	Ⅵ				UF	Ob－B	4.60	3.56	1.11	12.96		160	
447	⑧	12.812	0.680	756.707	Ⅵ				UF	Ob－B	4.33	3.79	0.75	12.39		160	
448	⑧	14.938	3.932	756.356	Ⅵ		1		RF	Ob－B	4.54	3.52	1.65	24.23		160	交互剥離
449	⑧	12.898	0.958	756.226	Ⅳb	1			F	Ob－B	1.61	1.70	0.50	0.84			
450	⑧	2.421	11.350	758.220	Ⅳb				C	Ch	0.86	1.07	0.24	0.24			
451	⑧	3.474	11.330	758.131	Ⅳb				Co	Qu	2.70	4.21	3.52	38.33	423		
452	⑧	3.758	11.240	758.135	Ⅳb				F	Qu	1.13	1.90	0.66	1.17			
453	⑧	5.576	11.748	758.084	Ⅳb	1			F	Ch	1.26	2.11	0.32	0.62			
454	⑧	5.760	11.690	758.146	Ⅳb				F	Qu	0.65	1.59	0.41	0.380			
455	⑧	5.916	11.939	758.072	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.50	1.40	0.52	0.92			
456	⑧	5.910	12.114	758.071	Ⅳb				C	Qu	0.54	0.96	0.39	0.09			
457	⑧	5.709	12.225	758.083	Ⅳb				F	Ob－C	1.10	1.47	0.33	0.32			
458	⑧	5.850	12.253	758.069	Ⅳb				F	Ob－C	1.72	1.74	0.73	1.58			
459	⑧	6.388	12.221	758.022	Ⅳb				C	Ob－C	0.90	1.51	0.22	0.27			
460	⑧	7.824	11.900	757.887	Ⅳb				C	Ob－C	0.72	0.76	0.15	0.02			
461	⑧	7.708	11.374	757.885	Ⅳb				C	Qu	1.39	1.68	0.61	0.93			
462	⑧	7.810	10.853	757.842	Ⅳb				Co	Ob－C	6.15	4.69	2.43	51.15		167	
463	⑧	8.381	11.798	757.822	Ⅳb				C	An	1.96	1.20	0.43	0.34			
464	⑧	9.138	12.715	757.853	Ⅳb				F	Ob－C	1.59	2.48	0.95	2.07			
466	⑧	1.750	6.641	757.800	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.35	1.44	0.57	1.09			
467	⑧	1.165	8.516	757.866	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.93	3.86	1.20	10.00			
468	⑧	1.669	8.700	757.900	Ⅳb				F	Ob－C	1.86	1.20	0.85	1.98			
469	⑧	1.739	8.741	757.893	Ⅳb	1			F	Ob－C	2.72	2.41	0.72	5.02			
470	⑧	2.957	8.615	757.773	Ⅳb				C	Ob－C	1.19	0.54	0.42	0.26			
471	⑧	2.797	7.268	757.830	Ⅳb				F	Ob－C	2.00	2.11	0.87	2.93			
472	⑧	2.986	5.940	757.706	Ⅳb				F	Ob－C	3.50	2.22	1.11	9.20			
473	⑧	3.269	5.264	757.591	Ⅳb				F	Ob－B	1.80	1.89	0.71	1.98			
474	⑧	3.481	5.299	757.628	Ⅳb				F	Ob－C	2.01	1.47	0.22	0.77			
475	⑧	3.667	6.024	757.689	Ⅳb				F	Ob－B	2.42	2.30	1.20	6.45			
476	⑧	3.906	6.138	757.662	Ⅳb				F	Ob－B	1.49	2.70	0.42	1.40			
477	⑧	4.404	6.718	757.607	Ⅳb				F	Ob－B	1.86	2.11	0.72	2.34			
478	⑧	4.536	8.088	757.841	Ⅳb				F	Ob－C	1.81	2.40	0.48	3.26			
479	⑧	8.442	－2.094	756.693	Ⅳb				F	Ob－C	1.13	1.98	1.91	4.37			
480	⑧	7.600	－3.261	756.634	Ⅳb	1			F	Ob－C	1.78	2.21	0.31	0.91			
481	⑧	8.259	－1.954	756.552	Ⅵ				F	Ob－B	5.78	4.50	2.61	50.13			
482	⑧	15.242	－5.750	755.470	Ⅵ				F	Ob－B	2.12	1.84	1.09	2.84			
483	⑧	16.301	－5.082	755.408	Ⅵ		1		Trz	Ob－B	3.13	2.72	0.99	7.10		158	平坦剥離
484	⑧	15.800	－6.246	755.558	Ⅵ				F	Ob－C	2.88	2.51	1.00	4.76		160	
485	⑧	15.269	－6.624	755.571	Ⅵ		1		Trz	Ob－B	3.99	1.98	1.21	8.27		158	交互剥離・平坦剥離
486	⑧	15.350	－7.158	755.522	Ⅵ	1	1		Sc	Ob－B	4.78	3.29	1.68	21.27		159	

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
487	⑧	16.388	−6.634	755.421	Ⅵ	1	1		RF	Ob−B	3.93	3.98	1.78	20.54		159	平坦剥離
488	⑧	16.699	−7.127	755.442	Ⅵ		1		RF	Ob−B	3.06	4.90	1.72	27.39		159	両面加工
489	⑧	17.053	−6.470	755.293	Ⅵ				F	Ob−B	2.41	2.61	0.88	4.39			
490	⑧	18.195	−7.761	755.332	Ⅵ				F	Ob−C	0.87	1.51	0.74	0.85			
491	⑧	17.642	−7.378	755.220	Ⅵ				F	Ob−B	3.81	1.88	0.65	3.65		160	
492	⑧	15.424	−7.845	755.262	Ⅵ				C	Ob−B	1.63	1.25	0.36	0.44			
493	⑧	19.064	−7.245	754.978	Ⅵ	1			F	Ob−B	0.90	1.18	0.41	0.73			
494	⑧	1.662	−5.507	756.389	Ⅳb				F	Ob−C	2.00	1.91	0.91	2.83			
495	⑧	4.760	−5.169	756.277	Ⅳb				F	Ob−C	5.12	3.51	1.00	14.79			
496	⑧	1.014	11.189	758.236	Ⅳb	1			F	Qu	2.60	2.02	0.48	2.83			
497	⑧	2.564	10.847	758.175	Ⅳb				Co	Qu	5.14	5.88	3.08	91.42			
498	⑧	3.188	10.611	758.165	Ⅳb				Co	Qu	2.70	3.27	3.01	18.39			
499	⑧	3.087	11.215	758.010	Ⅴ				Co	Qu	2.67	3.94	2.59	21.27			
500	⑧	5.409	11.393	757.889	Ⅴ				C	Ob−C	1.61	0.80	0.47	0.46			
501	⑧	6.024	10.633	757.837	Ⅴ				C	Ob−C	1.17	1.12	0.39	0.43			
502	⑧	7.499	11.648	757.713	Ⅴ				Co	Ob−C	1.79	3.40	2.58	12.23		162	
503	⑧	7.458	11.173	757.664	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.54	2.19	0.57	1.27			
504	⑧	8.950	11.077	757.668	Ⅴ	1			F	Ob−D	1.58	1.92	0.41	0.56			
505	⑧	6.516	11.460	757.607	Ⅵ	1			F	Ob−C	2.12	1.54	0.44	0.83			
506	⑧	−1.116	6.253	757.823	Ⅳb				UF	Ob−C	4.40	3.12	1.40	19.66		166	
507	⑧	−1.350	6.248	757.784	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.08	3.01	1.32	7.45			
508	⑧	−1.200	4.482	757.594	Ⅳb				F	Ob−B	4.57	5.88	1.42	28.23			
509	⑧	−2.512	4.118	757.558	Ⅳb	1			F	Ob−C	2.70	2.39	1.22	8.11			
510	⑧	6.936	4.528	757.433	Ⅴ				F	Ob−C	2.90	1.99	1.32	2.66			
511	⑧	7.309	4.327	757.369	Ⅴ	1			F	Ob−C	1.20	1.23	0.47	0.63	354	168	
512	⑧	7.477	3.718	757.265	Ⅴ				F	Ob−A	1.98	3.40	1.88	6.48			
513	⑧	7.446	3.373	757.216	Ⅴ				F	Ob−C	2.26	1.59	0.41	2.02			
514	⑧	8.549	3.792	757.242	Ⅴ		1		Trz	Ob−A	2.42	2.57	0.50	3.31		158	
515	⑧	8.900	3.087	757.184	Ⅴ				F	An	1.52	1.65	0.21	0.30			
516	⑧	7.098	2.814	757.181	Ⅴ				F	Ob−A	2.47	2.58	1.23	5.79			
517	⑧	6.826	2.293	757.313	Ⅴ				F	Ob−C	1.16	1.60	0.78	0.53			
518	⑧	6.205	1.679	757.214	Ⅴ				F	Ob−C	2.22	1.16	0.98	1.86			
519	⑧	5.858	4.432	757.321	Ⅵ	1			F	Ob−C	2.10	1.21	0.39	0.62			
520	⑧	7.392	4.941	757.313	Ⅵ				C	Ob−C	0.94	1.08	0.43	0.28			
521	⑧	8.322	4.213	757.166	Ⅵ				C	Ob−C	0.93	0.88	0.33	0.34			
522	⑧	7.728	3.832	757.202	Ⅵ				F	Ob−C	2.13	0.88	1.29	1.25			
523	⑧	6.564	3.103	757.165	Ⅵ				Co	Ob−C	2.31	3.43	3.35	15.89		161	
524	⑧	6.514	1.050	757.003	Ⅵ				F	Ob−C	2.57	2.62	2.73	2.92			
525	⑧	10.786	−2.361	756.655	Ⅳb				UF	Ob−D	1.91	2.78	1.11	6.61			
526	⑧	10.834	−1.349	756.559	Ⅴ				F	Ob−C	1.13	2.84	1.08	4.49			
527	⑧	11.462	−2.196	756.330	Ⅴ		1		Sc	Ob−B	2.32	2.41	1.12	5.37		159	
528	⑧	11.412	−3.826	756.013	Ⅵ	1			F	Ob−C	1.53	0.72	0.48	1.61			
529	⑧	11.598	−3.808	756.008	Ⅵ				Co	Ob−C	2.71	3.31	2.87	20.37		161	
530	⑧	11.669	−3.780	755.874	Ⅵ				F	Ob−D	1.68	2.26	0.45	1.97			
531	⑧	11.995	−3.504	755.993	Ⅵ	1			F	Ob−C	2.31	2.63	0.99	2.50			
532	⑧	12.161	−3.868	756.138	Ⅵ				C	Ob−C	0.99	1.01	0.23	0.08			
533	⑧	11.999	−4.786	755.785	Ⅵ				F	An	1.34	1.56	0.52	1.39			
534	⑧	12.048	−4.797	755.777	Ⅵ				F	Ob−C	2.47	2.21	0.92	3.42			

D地点石器観察表

登録No.	基準点	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層位	折れ	次加	使用痕	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	接合個体No.	図版No.	備考
535	⑧	12.889	−4.013	755.726	Ⅵ				F	Ob−C	2.51	1.23	0.59	1.23			
536	⑧	12.895	−4.139	755.770	Ⅵ				F	Ob−C	2.60	2.18	0.89	0.55			
537	⑧	12.987	−4.344	755.736	Ⅵ	1			F	Ob−B	1.79	1.03	0.39	1.56			
538	⑧	13.506	−3.004	755.855	Ⅵ				C	Ob−B	0.91	0.93	0.24	0.18			
539	⑧	14.370	−3.560	755.766	Ⅵ	1	1		Sc	Ob−B	5.29	2.57	1.22	17.02		159	
541	⑧	12.677	14.628	757.905	Ⅳa	1			F	An	1.60	2.11	0.42	0.33			

付　　編

熊本県、耳切遺跡の自然科学分析

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．耳切遺跡の土層とテフラ

１．はじめに

熊本県域には、阿蘇カルデラをはじめとして姶良カルデラ、鬼界カルデラなどから噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く分布している。これらのテフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされているものがあり、それら示標テフラとの層位関係を遺跡で求めることによって、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集できるようになっている。

そこで年代の不明な石器が検出された耳切遺跡において、地質調査、テフラ組成分析さらに屈折率測定を合わせて行い、示標テフラの層位を明らかにして、遺跡の土層の形成年代に関する資料を求めることになった。調査分析の対象地点は、西露頭、Ｃ地点、Ａ地点の３地点である。

２．土層の層序

（１）西露頭

西露頭では、下位より黄褐色土（層厚45cm）、成層したテフラ層（層厚45cm）、若干赤みをおびた褐色土（層厚16cm）、黄褐色土（層厚19cm）、暗灰色土（層厚22cm）、黄色土（層厚11cm）、黄褐色土（層厚５cm以上）が認められる（図１）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色粗粒火山灰層（層厚４cm）、灰色石質岩片に富み褐色軽石を含む黄色軽石層（層厚４cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径９mm）、褐色細粒火山灰層（層厚７cm）、黄色軽石層（層厚28cm，軽石の最大径31mm，石質岩片の最大径８mm）の連続から構成されている。

（２）Ｃ地点

Ｃ地点では、下位より黄色軽石層（層厚14cm以上，軽石の最大径22mm，石質岩片の最大径８mm）、黄色細粒軽石混じり褐色砂質土（層厚24cm，軽石の最大径２mm）、砂混じり褐色土（層厚12cm）、若干色調の暗い褐色土（層厚36cm）、若干黄色みをおびた褐色土（層厚26cm）、褐色土（層厚27cm）、灰色土（層厚13cm）が認められた（図２）。

（３）Ａ地点

Ａ地点では、下位より黄褐色土（層厚５cm以上，７層）、灰色土（層厚10cm，６ｃ層）、とくに色調の暗い暗灰色土（層厚21cm，６ｂ層）、黄灰色土（層厚11cm，６ａ層）、黄色がかった褐色土（層厚14cm，５層）、褐色土（層厚28cm，４ｂ層）、黄色がかった褐色土（層厚13cm）、黄灰色土（層厚４cm，以上４ａ層）、暗褐色土（層厚６cm，３ｃ層）、黒色土（層厚21cm，３ｂ層）、黒褐色土（層厚５cm）、橙色細粒火山灰層（層厚３cm，２ｂ層）、とくに色調が暗い暗褐色土（層厚12cm）、晴褐色土（層厚11cm，以上２ａ層）が認められた（図３）。

３．テフラ組成分析

（１）分析試料と分析方法

耳切遺跡において示標テフラの層位を検出するために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行った。分析試料は、Ｃ地点およびＡ地点の２地点において基本杓に５cmごとに採取された試料のうち、５cmおきなどの26点である。分析手順は次の通りである。

1）試料15ｇを秤量。

2）超音波洗浄装置により泥分を除去。

3）80℃で恒温乾燥。

4）分析篩により１／４－１／８㎜の粒子を篩別。

5）偏光顕微鏡下で250粒子を検鏡し、火山ガラスの色調別、形態別組成を求める（火山ガラス比分析)。

6）偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を検鏡し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析)。

（２）分析結果

1）Ｃ地点

Ｃ地点におけるテフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図４に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表１と表２に各々示す。火山ガラス比分析の結果、全体として下方から上方にかけて、塊状で分厚い中間型ガラスや繊維束状またはスポンジ状に発泡した軽石型ガラスの比率が減少する傾向が伺える。また最上位の試料番号１に、透明で平板状のいわゆるバブル型ガラスがごく出現するようになる（0.4%)。

重鉱物組成では、全体として下方から上方にかけて、斜方輝石の比率が増加し、角閃石や単斜輝石の比率が減少する傾向がある。また下方の試料には、ごくわずかに黒雲母も認められる。なお、試料番号17には、比較的多くのカンラン石が認められ、この層準にカンラン石に富むマフイックな（苦鉄質）テフラの降灰層準のある可能性が考えられる。このテフラについては、その特徴から阿蘇火山に由来する可能性が考えられる。

2）Ａ地点

Ａ地点におけるテフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図５に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表３と表４に各々示す。この地点における火山ガラス比分析では、透明なバブル型ガラスの量比にかなり増減が認められる。産出状況から、もっとも下位の試料番号25付近（６ａ層上部～５層下部）に、透明なバブル型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。試料番号25における透明なバブル型ガラスの比率は、24.0%である。

そのほかには、火山灰層のブロックとして認められた試料番号５(２ｂ層)に、透明なバブル型ガラス(21.2%）のほか、淡褐色（3.6%）や褐色（4.0%）のバブル型ガラスが多く含まれている。なお、実際には、その下位の試料番号９付近から、これらの有色バブル型ガラスは検出される。このことは、撹乱作用によって、より下位の層準にテフラ粒子が混在していることを示唆している。このテフラは、その層相や火山ガラスの特徴などから、約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(Ｋ－Ａｈ, 町田・新井, 1978)に同定される。

重鉱物組成では、全体として下方から上方にかけて、斜方輝石の比率が増加し、角閃石の比率が減少する傾向がある。単斜輝石は試料番号15（４ａ層最下部）より上位で比較的多く含まれる傾向がある。なお、試料番号13（４ａ層上部）から11（３ｃ層）にかけては、カンラン石が少量認められる。

４．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

テフラの特徴記載を行うため、また示標テフラとの同定精度を向上させるために、西露頭の成層したテフラ層と、Ａ地点の透明なバブル型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準のある可能性が考えられた試料番号25および単斜輝石が比較的多く含まれている試料番号13の３点について、位相差法による温度一定型屈折率測定（新井, 1972）を行った。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を表５に示す。西露頭の試料番号１には、重鉱物として角閃石のほか、斜方輝石や少量の黒雲母が含まれている。斜方輝石（γ）および角閃石（ｎ２）は、1.706－１．708および1.669－1.674である。この成層したテフラ層は、その層相や重鉱物の組み合わせ、さらに斜方輝石や角閃石の屈折率などから、従来記載されているテフラの中では、約３～3.5万年前に九重火山から噴出したと考えられてきた九重第１テフラ（Ｋｊ－Ｐ１，町田，1980，小林，1984，町田・新井，1992）に同定される可能性がもっとも高いと考えられる。なお、ＫｊＰ１と同じ噴火で発生した飯田火砕流堆積物の年代については、最近加速器法による放射性炭素（^{14}Ｃ）年代測定法により、約４万年以前と推定されている（奥野ほか，1997)。したがって、ＫｊＰ１の年代も約４万年前を遡ると考えられる。　ただし、奥野ほか（1997）は、約3.2万年前にも九重火山から火砕流が噴出した可能性を指摘している。このことから、この火砕流と同時に降下テフラが周辺に堆積した可能性も否定できない。今後、さらに遺跡周辺の地質調査を行い、テフラの層序や分布に関する研究を行う必要がある。　Ａ地点の試料番号25に含まれる火山ガラスの屈折率（ｎ）は、1.498－1.501(modal range：1.499－1.500）である。また斜方輝石の屈折率（γ）は、1.726－1.734（1.729－1.733）である。このテフラは、火山ガラスの特徴や屈折率さらに斜方輝石の屈折率などから、約2.4～2.5万年前に姶良カルデラから噴出した姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ，町田・新井，1976，1992，松本ほか，1987，池田ほか，1995）に由来すると考えられる。したがって、試料番号25付近（６ａ層上部～５層下部）に、ＡＴの降灰層準があると考えられる。

試料番号13に含まれる火山ガラスの屈折率（ｎ）は、1.498－1.501である。この火山ガラスは、その屈折率などからＡＴに由来すると考えられる。斜方輝石の屈折率は、1.707－1.710である。この斜方輝石の屈折率は、一般に知られている阿蘇火山起源のテフラのそれより高く、九重火山起源の斜方輝石の値に近い。したがって、この層準には、九重火山起源のテフラの混在している可能性が考えられる。

５．小結

耳切遺跡において、石器包含層の層位や土層の形成年代に関する資料を収集するために、地質調査、テフラ組成分析、屈折率測定を合わせて行った。その結果、下位より九重第１テフラ（Ｋｊ－Ｐ１，約４万年前以前）に同定されると思われるテフラ、姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ，約2.4～2.5万年前，６ａ層上部～５層下部)、鬼界アカホヤ火山灰（Ｋ－Ａｈ，約6,300年前，２ｂ層）を検出することができた。さらにそのほかにも阿蘇火山や九重火山に由来すると思われるテフラの降灰層準を把握することができた。後期旧石器時代以降の阿蘇火山や九重火山起源のテフラについては、まだ不明な点が多い。さらに遺跡周辺のテフラに関する調査を行い、テフラの層序や年代に関する資料を収集しておく必要がある。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，ｐ.254－269.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器^{14}Ｃ年代．第四紀研究，34，ｐ.377－379.

小林哲夫（1984）由布・鶴見火山の地質と最新の噴火活動．地質論集，24，ｐ.93－108.

町田　洋（1980）岩戸遺跡のテフラ(火山灰).坂田邦洋編「大分県清川村岩戸における後期旧石器文化の研究」.広雅堂書店，ｐ.443－454.

町田　洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰ー姶良Ｔｎ火山灰の発見とその意義－.科学,46,ｐ.339－347.

表１　Ｅ地点における火山ガラス比分析結果

試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm	その他	合計
1	1	0	0	2	0	247	250
5	0	0	0	6	3	241	250
9	0	0	0	6	4	240	250
13	0	0	0	8	4	238	250
17	0	0	0	9	2	239	250
21	0	0	0	1	8	229	250
25	0	0	0	9	15	226	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色．

表２　Ｅ地点における重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
1	0	61	2	115	0	70	2	250
5	1	63	5	104	0	75	2	250
9	0	47	10	131	0	60	2	250
13	1	28	10	140	1	69	1	250
17	10	22	11	156	2	47	2	250
21	0	12	6	187	1	44	0	250
25	0	12	12	164	2	59	1	250

数字は粒子数．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱．

表３　Ａ地点における火山ガラス比分析結果

試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm	その他	合計
1	33	5	2	2	9	199	250
3	32	3	6	8	5	196	250
5	53	9	10	0	2	176	250
6	12	8	1	1	2	226	250
7	36	9	3	4	10	188	250
9	44	2	1	5	8	190	250
11	67	0	0	3	3	177	250
12	32	1	0	4	4	209	250
13	38	1	0	1	3	207	250
15	65	0	0	0	0	185	250
17	65	0	0	1	2	182	250
19	31	0	0	3	3	213	250
21	54	0	0	3	3	190	250
23	58	0	0	1	4	187	250
25	60	0	0	2	1	187	250
27	24	0	0	4	5	217	250
29	7	0	0	3	5	235	250
31	1	0	0	3	1	245	250
33	0	0	0	4	4	242	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色．

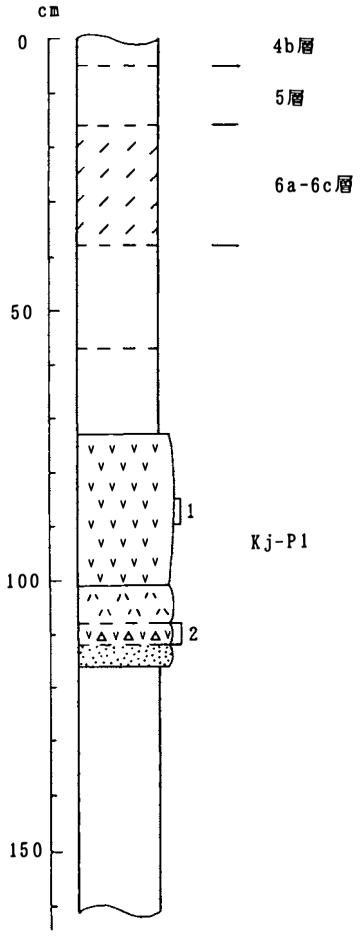


図１　西露頭の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号

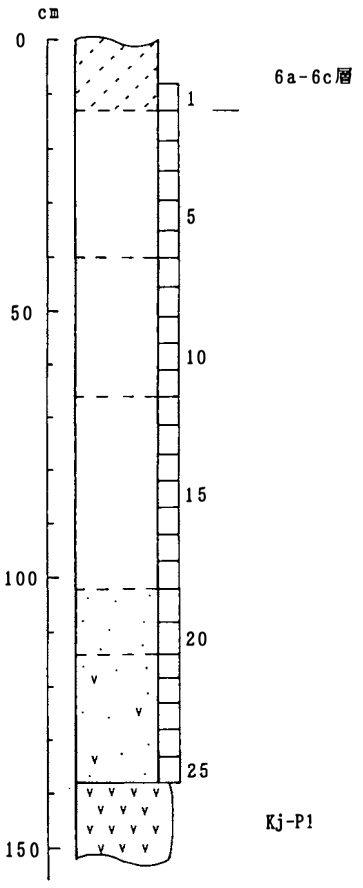


図２　C地点の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号

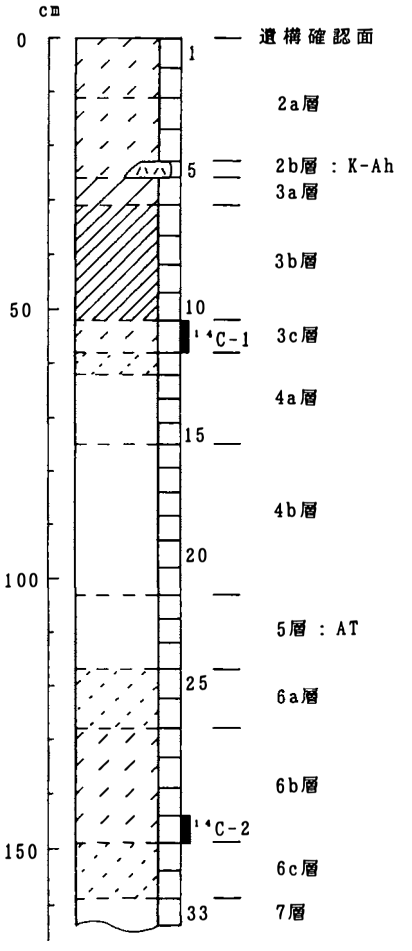
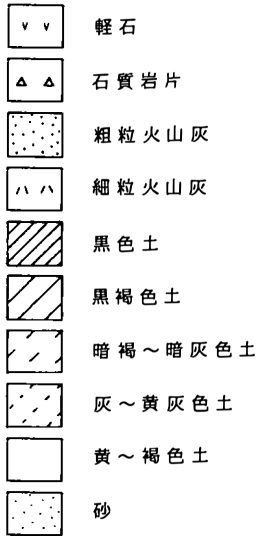


図３　A地点の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号



凡例

14C-1:9600±60y.BP(Beta-116660)

14C-2:23290±230y.BP(Beta-116661)

表４　Ａ地点における重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
1	0	135	60	6	0	49	0	250
3	0	122	69	1	0	58	0	250
5	0	91	71	2	0	84	1	250
6	0	112	57	2	0	79	0	250
7	0	111	62	8	0	68	1	250
9	0	85	45	29	0	89	2	250
11	1	124	58	6	0	58	3	250
12	1	113	66	9	0	60	1	250
13	2	126	62	11	0	48	1	250
15	0	131	52	17	0	47	3	250
17	0	126	16	33	0	74	1	250
19	0	115	19	43	0	72	1	250
21	0	129	12	27	0	80	2	250
23	0	130	22	22	0	73	1	250
25	0	112	31	51	0	54	2	250
27	0	128	16	54	0	51	1	250
29	0	98	26	47	0	78	1	250
31	0	62	11	92	0	85	0	250
33	0	48	7	115	0	79	1	250

数字は粒子数．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱．

表５　耳切遺跡における屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	屈折率（modal range）
西露頭	1	ho>opx,(bi)	opx(γ)：1.706-1.708
			ho(n_2)：1.669-1.674
A	13	opx>cpx,ho,(ol)	gl(n)：1.498-1.501
			opx(γ)：1.707-1.710
A	25	opx>ho,cpx	gl(n)：1.498-1.501 (1.499-1.500)
			opx(γ)：1.726-1.734 (1.729-1.733)

屈折率の測定は，温度一定型位相差法（新井，1972）による．gl：火山ガラス，ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母．重鉱物の（）は，量の少ないことを示す．

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276ｐ．

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)姶良Ｔｎ火山灰(ＡＴ)の"Ｃ年代．第四紀研究,26, ｐ.79－83.

奥野　充・中村俊夫・鎌田浩毅・小野晃司・星住英夫（1997）九重火山の飯田火砕流堆積物に関連する試料の加速器"Ｃ年代．名古屋大学加速器分析質量計業績報告書，Ⅷ，ｐ．158－164.

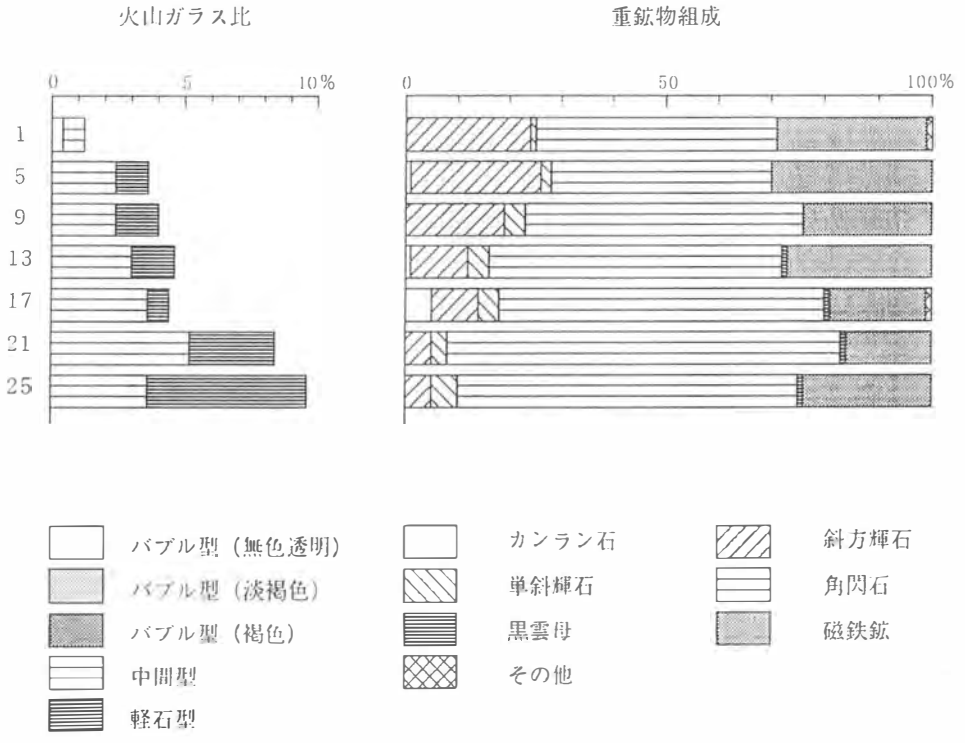


図4　Ｅ地点におけるテフラ組成ダイヤグラム

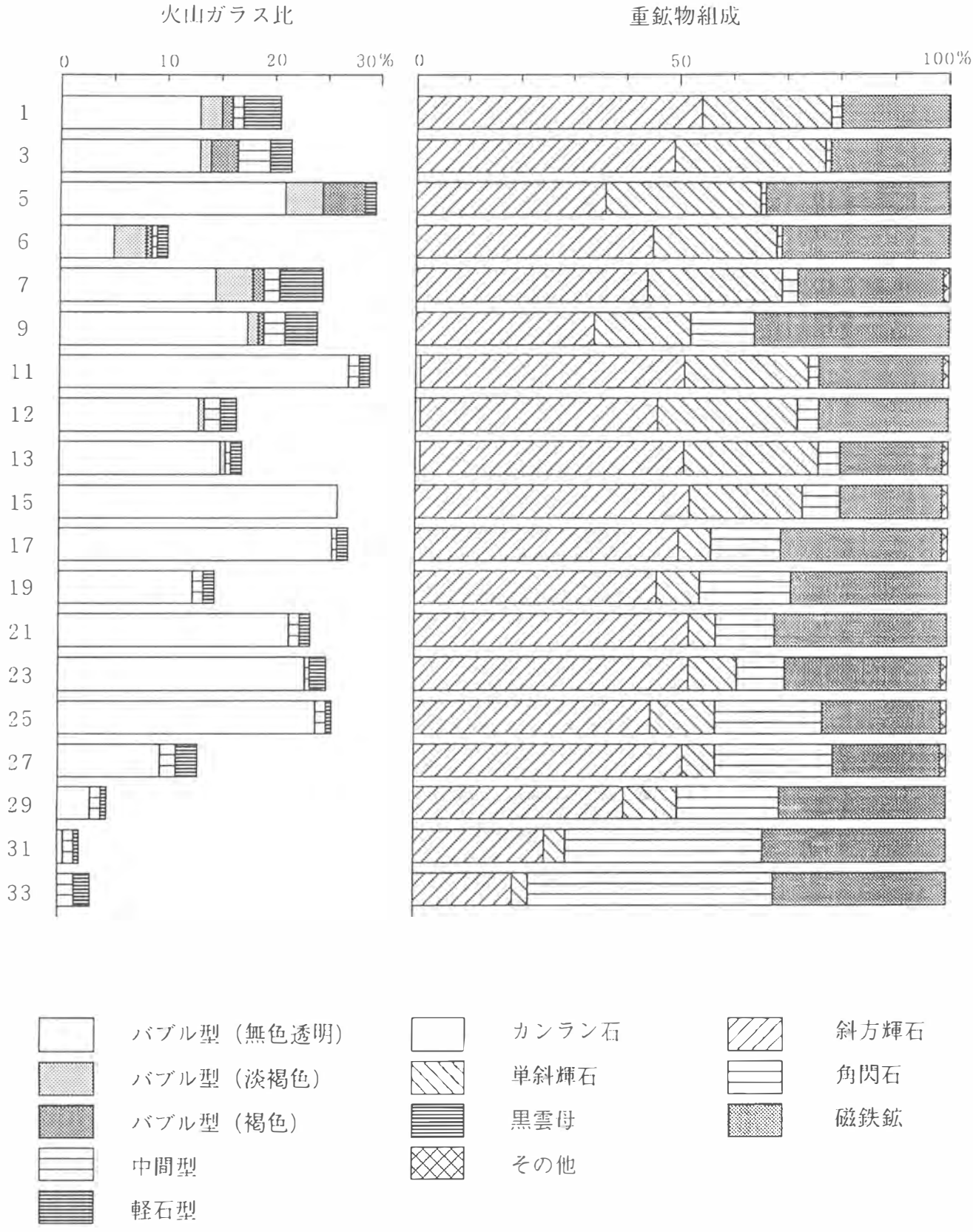


図5　A地点におけるテフラ組成ダイヤグラム

Ⅱ．耳切遺跡における放射性炭素年代測定

1．試料と方法

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
^{14}C－1	A地点	腐植質土壌	酸洗浄・ベンゼン合成	β線法
^{14}C－2	A地点	腐植質土壌	酸洗浄・ベンゼン合成	β線法

※試料の層位を、第Ⅰ章の図3に示す。

2．測定結果

試料	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年BP）	暦年代 交点（1σ）	測定No. beta－
^{14}C－1	9500±60	－18.7	9600±60	BC8915, 8780, 8685 （BC8970～8600）	116660
^{14}C－2	23200±220	－19.6	23290±230	－	116661

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C／^{12}C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。^{14}Cの半減期は5,568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C／^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C／^{12}C)。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより、暦年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σは、補正^{14}C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ値が表記される場合もある。

Ⅲ．耳切遺跡における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。

２．試料

試料は、西露頭、Ｃ地点、Ａ地点の3'地点から採取された計24点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１ｇに対して直径約40μｍのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により１万分の１ｇの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300Ｗ・42ＫＨｚ・10分間）による分散

５）沈底法による20μｍ以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。

これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10－５ｇ）をかけて、単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。ススキ属（ススキ）の換算係数は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

４．分析結果

（１）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１～図３に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

キビ族型、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）、シバ属、Ｂタイプ

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、

クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

多角形板状（ブナ科コナラ属など）

（２）植物珪酸体の検出状況

１）西露頭（図１）

６ａ－６ｃ層の下層（試料１）からＫｊ－Ｐ１直下層（試料４、５）までの層準について分析を行った。その結果、Ｋｊ－Ｐ１直下層（試料４、５）では、クマザサ属型、ミヤコザサ節型、棒状珪酸体が多量に検出され、メダケ節型やネザサ節型なども少量検出された。Ｋｊ－Ｐ１層（試料３）では、植物珪酸体はまったく検出されなかった。Ｋｊ－Ｐ１直上層（試料２）と６ａ－６ｃ層の下層（試料１）でも、Ｋｊ－Ｐ１直下層とおおむね同様の分類群が検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、Ｋｊ－Ｐ１直下層ではクマザサ属型が卓越していることが分かる。

２）Ｃ地点（図２）

６ａ－６ｃ層（試料１）からＫｊ－Ｐ１直上層（試料５）までの層準について分析を行った。その結果、Ｋｊ－Ｐ１の上層（試料４、５）では、クマザサ属型、ミヤコザサ節型、棒状珪酸体などが検出されたが、いずれも少量である。その上層（試料３）から６ａ－６ｃ層（試料１）にかけては、ミヤコザサ節型や棒状珪酸体が増加している。

３）Ａ地点（図３）

２ａ層（試料１）から７層（試料13）までの層準について分析を行った。その結果、７層（試料13）ではクマザサ属型やミヤコザサ節型、棒状珪酸体などが検出されたが、いずれも少量である。６ｃ層（試料12）からＡＴ混の５層（試料９）にかけては、各分類群とも大幅に増加しており、ウシクサ族Ａも出現している。４ｂ層（試料８）から４ａ層（試料６）にかけては各分類群とも減少しているが、３ｃ層（試料５）から３ｂ層（試料４）にかけてはクマザサ属型やミヤコザサ節型が増加しており、キビ族型も出現している。Ｋ－Ａｈ直下の３ａ層（試料３）から２ａ層（試料１）にかけても、おおむね同様の結果である。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にクマザサ属型およびミヤコザサ節型が優勢であることが分かる。

５．植物珪酸体分析から推定される植生・環境

九重第１テフラ（Ｋｊ－Ｐ１，約４万年前以前）とされるテフラより下層の推積当時は、クマザサ属（ミヤコザサ節を含む）を主体として、シバ属、イネ科Ｂタイプの給源植物、メダケ節、ネザサ節なども見られるイネ科植生であったものと推定される。メダケ節やネザサ節は温暖の指標とされていることから（杉山・早田，1996）、当時はその前後の時期と比較してやや温暖な気候であった可能性が考えられる。

Ｋｊ－Ｐ１直上層から姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ，約2.4－2.5万年前）混の５層にかけては、クマザサ属（ミヤコザサ節を含む）を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、とくに６ｂ層からＡＴ混の５層にかけては、これらのササ類が繁茂する状況であったものと推定される。クマザサ属は氷点下５℃程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている（高槻，1992）。気候条件の厳しい氷期にクマザサ属などのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

表1　熊本県、耳切遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	西路頭					C地点						A地点											
			1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科	Gramineae (Grasses)																									
キビ族型	Paniceae type										7			7	22	7	21	7								
ススキ属型	*Miscanthus* type																									
ウシクサ族A	Andropogoneae A type					7		7					19	13	29	36	41	7	8		14	15	7	7			
シバ属	*Zoisia*			6			14																			
Bタイプ	B type					7	7								7											
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																									
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*					7	7											7								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*					14	42			5				7	15	7	7		8	15			7		7	7
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)		28	25		139	118	68	29	26	27	20	6	168	132	251	346	103	60	65	36	147	258	175	95	36
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		56	45		91	63	142	118	133	88	34	6	128	132	230	104	287	143	182	179	383	180	393	293	78
未分類等	Others		35	13		112	215	47	37	21	20	14	13	61	22	230	138	34	38	36	57	184	180	313	286	114
その他のイネ科	Others																									
表皮毛起源	Husk hair origin		7			21		20	7	10						29	21		15			29	7	15	7	
棒状珪酸体	Rod-shaped		133	83		453	438	311	213	241	136	61	50	464	301	848	705	363	204	153	136	590	201	670	688	164
未分類等	Others		356	229		732	63	535	390	431	278	136	201	632	587	848	871	527	528	400	359	877	754	874	791	413
樹木起源	Arboreal																									
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (*Quercus*)															7										
(海綿骨針)	Sponge																		8							
植物珪酸体総数	Total		614	401		1583	1467	1131	795	867	556	265	295	1480	1247	2493	2253	1334	1003	851	782	2226	1594	2447	2167	813

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡·cm）

ススキ属型	*Miscanthus* type																								
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*				0.08	0.08											0.08								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*				0.07	0.20			0.02				0.03	0.07	0.03	0.03		0.04	0.07			0.03		0.04	0.03
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	0.21	0.19		1.05	0.89	0.51	0.22	0.19	0.20	0.15	0.05	1.26	0.99	1.89	2.59	0.77	0.45	0.49	0.27	1.11	1.94	1.31	0.71	0.27
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	0.17	0.13		0.27	0.19	0.43	0.35	0.40	0.26	0.10	0.02	0.38	0.40	0.69	0.31	0.86	0.43	0.55	0.54	1.15	0.54	1.18	0.88	0.24

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*				6	6											5								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*				5	15			4				2	5	1	1		4	6			1		2	6
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	56	59		71	65	54	38	31	43	60	71	75	68	72	88	45	49	44	33	49	77	53	44	50
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	44	41		19	14	46	62	65	57	40	29	23	27	26	11	50	47	49	67	51	21	47	54	44

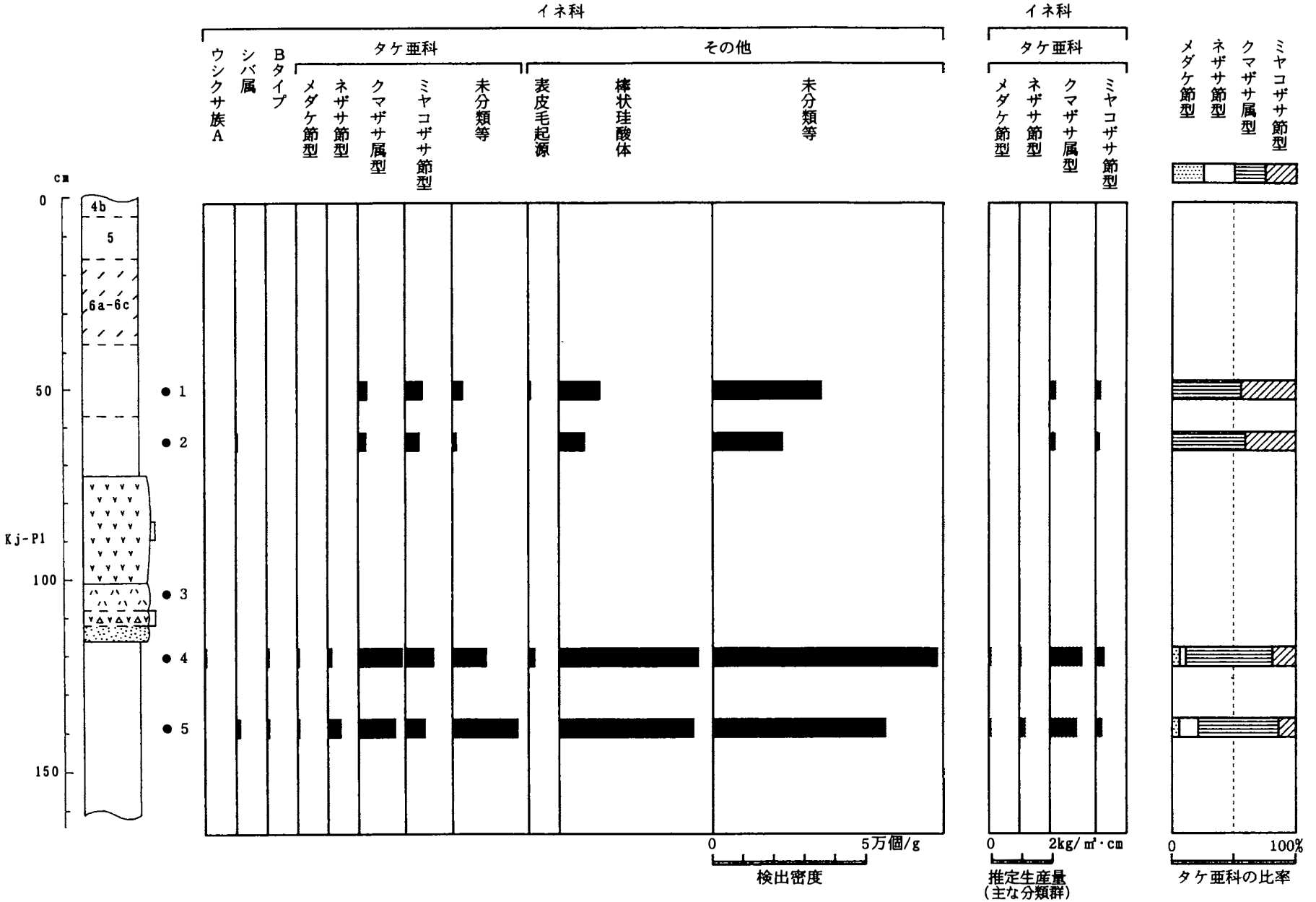


図１　耳切遺跡、西路頭における植物珪酸体分析結果

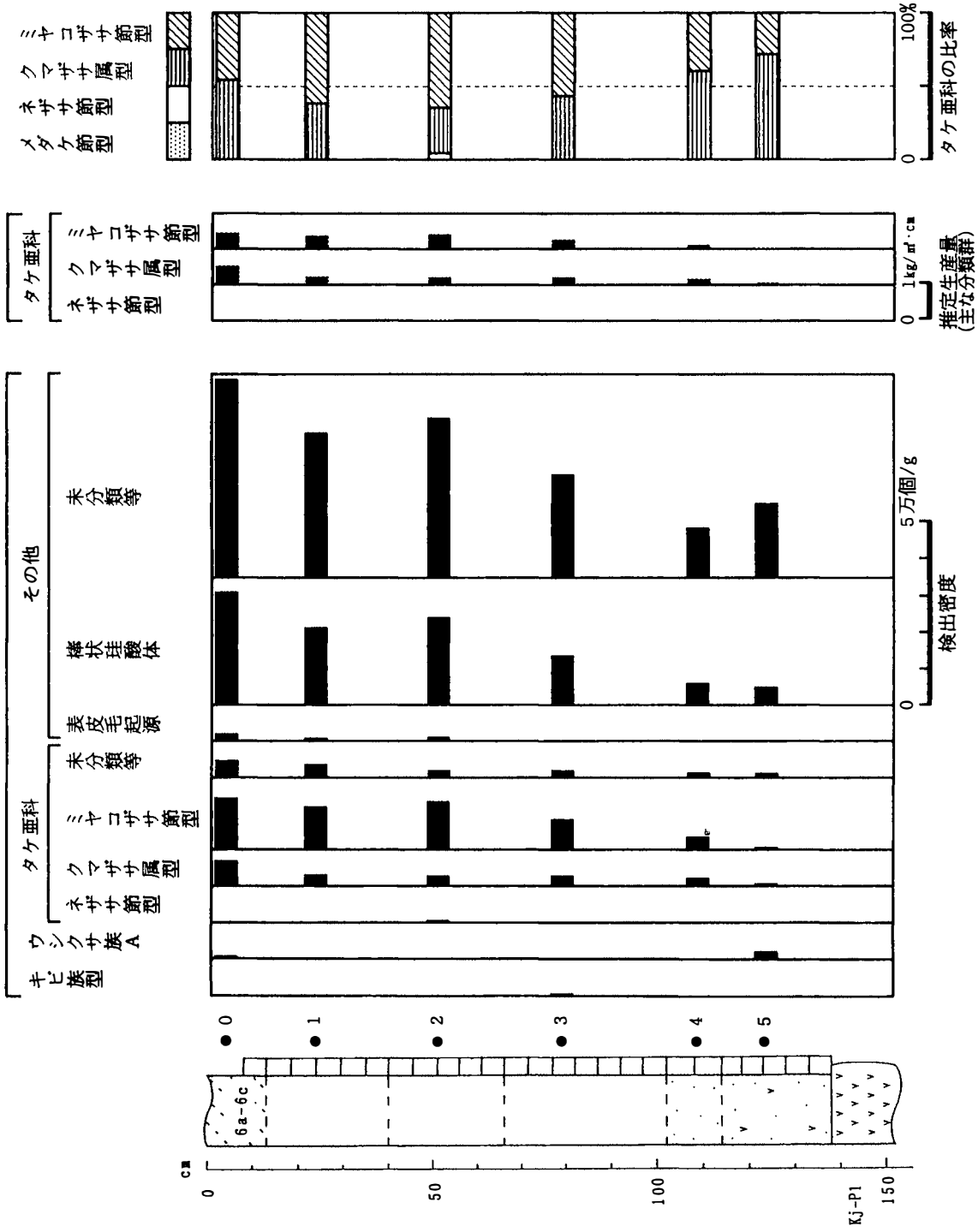


図２　耳切遺跡、Ｃ地点における植物珪酸体分析結果

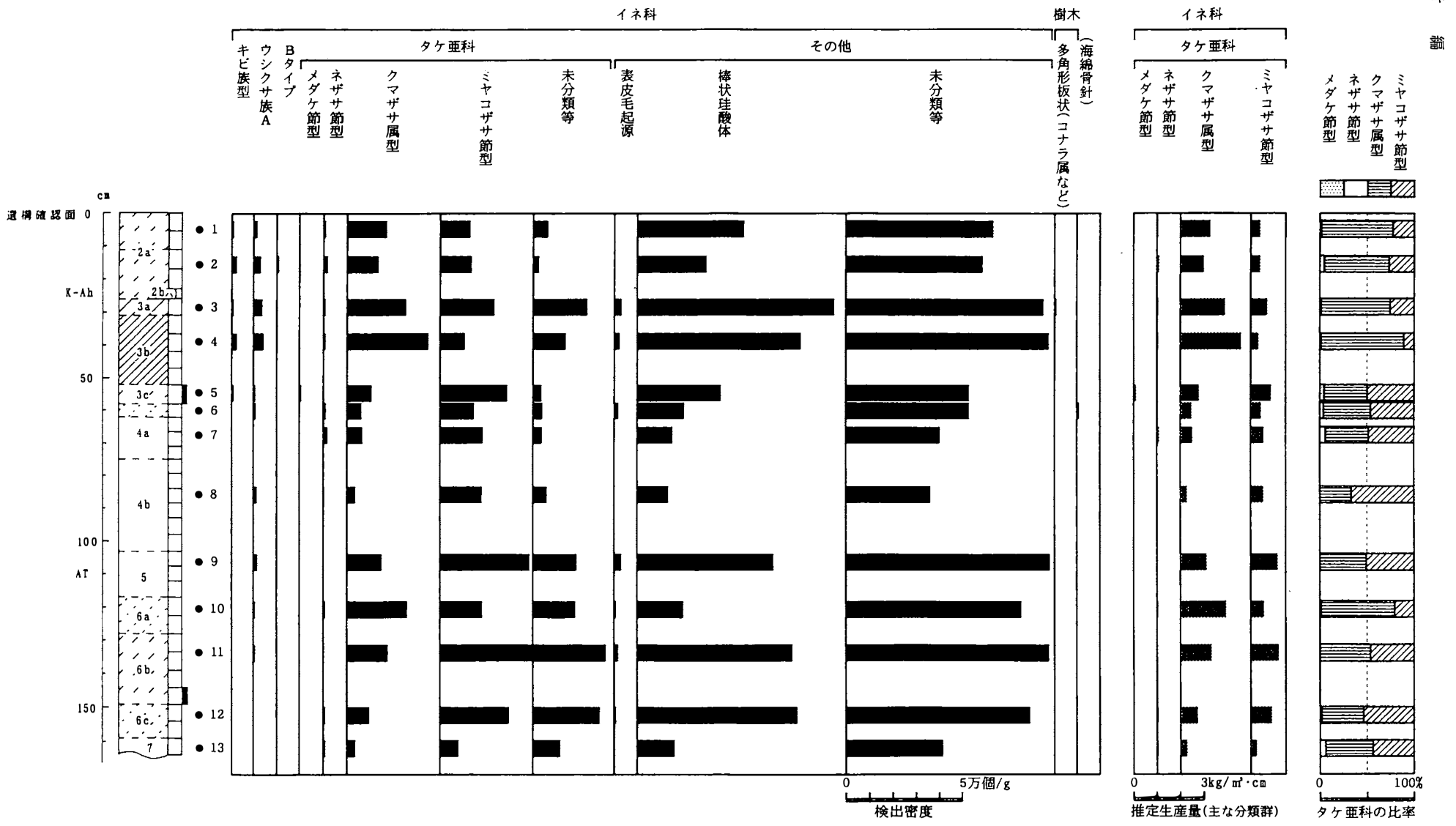


図３　耳切遺跡、Ａ地点における植物珪酸体分析結果

植物珪酸体の顕微鏡写真

（倍率はすべて400倍）

No.	分類群	地点	試料名
1	キビ族型	A	3
2	シバ属	西露頭	5
3	イネ科B	A	2
4	ネザサ節型	西露頭	5
5	クマザサ属型	A	2
6	クマザサ属型	西露頭	5
7	ミヤコザサ節型	西露頭	5
8	棒状珪酸体	C	1
9	多角形板状（コナラ属など）	A	3

４ｂ層から２ａ層にかけても、クマザサ属（ミヤコザサ節を含む）を主体としたイネ科植生が継続されたと考えられるが、鬼界アカホヤ火山灰（Ｋ－Ａｈ，約6,300年前）より下位の３ｃ層より上位では、キビ族、ウシクサ族、ネザサ節なども見られたものと推定される。

西日本一帯の太平洋側では、約１万年前を境にクマザサ属主体のイネ科植生からネザサ節・ススキ属を主体とする草原植生に移行しているが（杉山・早田，1997）、本遺跡ではＫ－Ａｈの上層に至るまでクマザサ属が優勢であり、ネザサ節はあまり見られなかった。これは、イネ科植生の変化が気候の寒暖以外の影響を受けていることを示唆しており、当時の植生環境の地域的な変遷を考える上で注目される。

文　献

杉山真二(1987)遺跡調査におけるプラント･オパール分析の現状と問題点.植　生史研究,第2号,p.27－37.

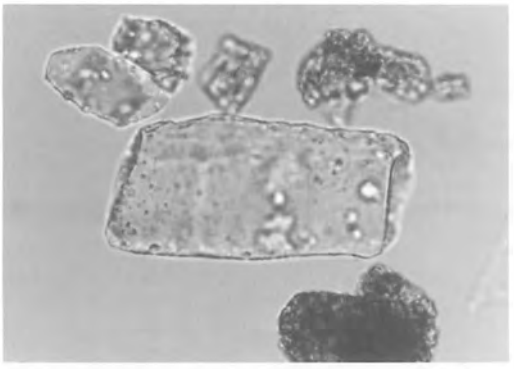
杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，ｐ．70－83.

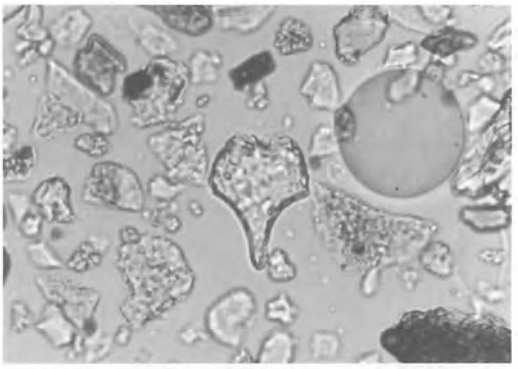
杉山真二・早田勉（1996）植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の古　環境推定－中期更新世以降の氷期－間氷期サイクルの検討－．日本第四紀学会講演要旨集，26，ｐ．68－69.

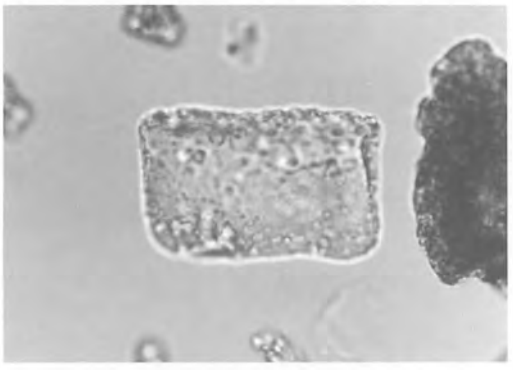
杉山真二･早田勉(1997)南九州の植生と環境－植物珪酸体分析による検討－.月刊地球,19,p.252－257.

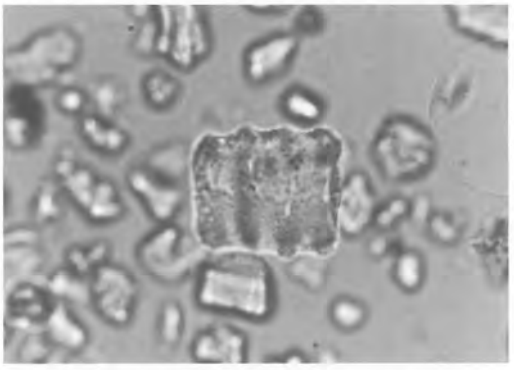
高槻成紀（1992）北に生きるシカたち－シカ、ササそして雪をめぐる生態学－．　どうぶつ社.

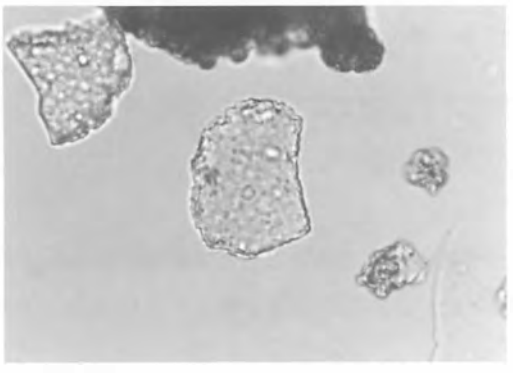
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９，ｐ．15－29.

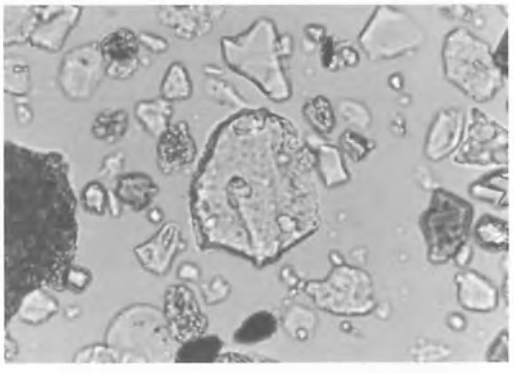


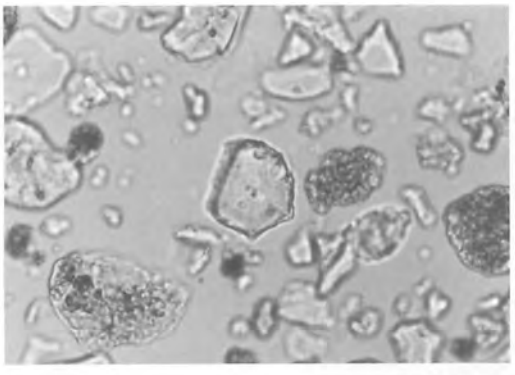


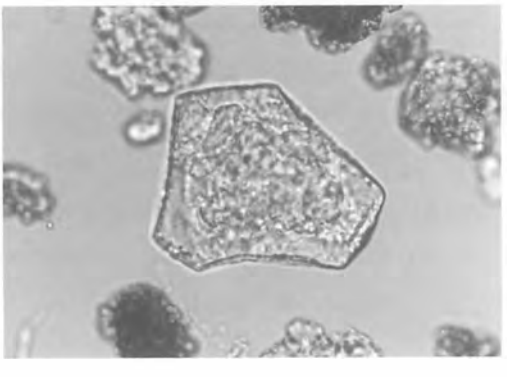












写　真　図　版

図版１　Ａ地点

表土剥ぎ

調査風景①

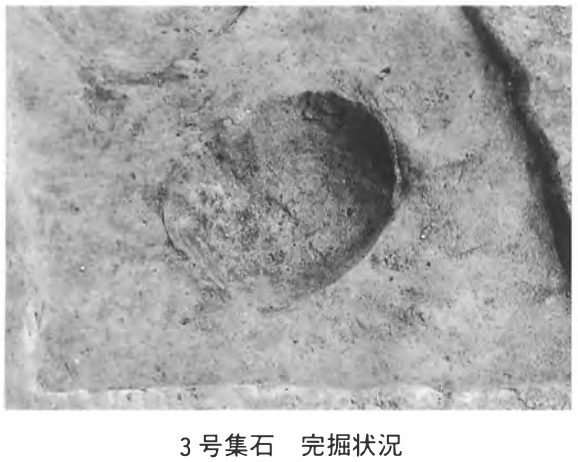
調査風景②

1 号集石　検出状況

2 号集石　検出状況

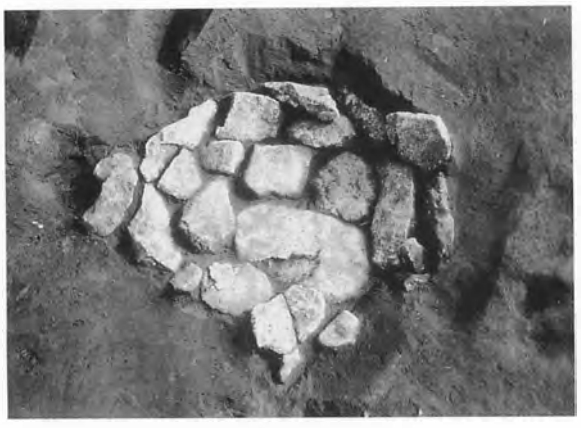
3 号集石　検出状況

2 号集石　完掘状況



3 号集石　完掘状況

4 号集石　検出状況



4 号集石（下部構造）

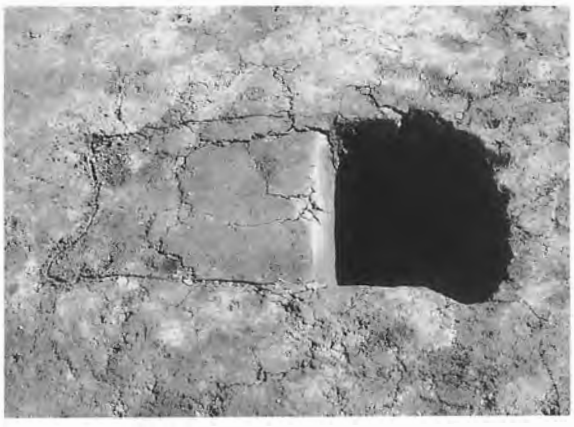
4 号集石　完掘状況

5 号集石　検出状況

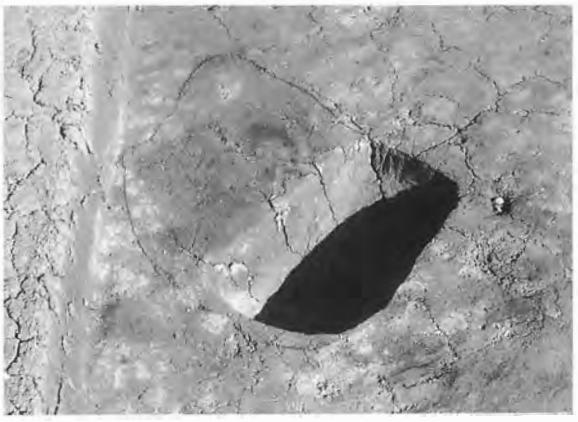
5 号集石　完掘状況

1 号土坑　検出状況

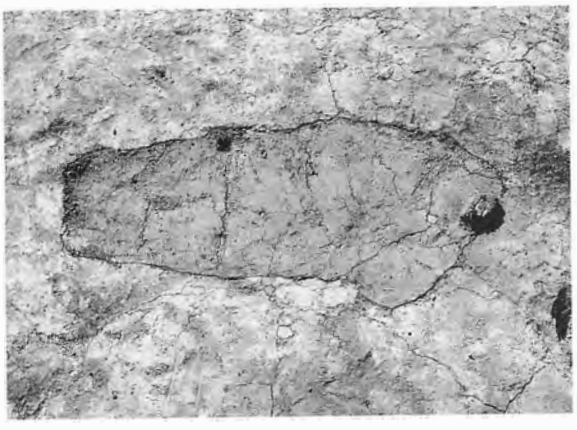
2 号土坑　検出状況



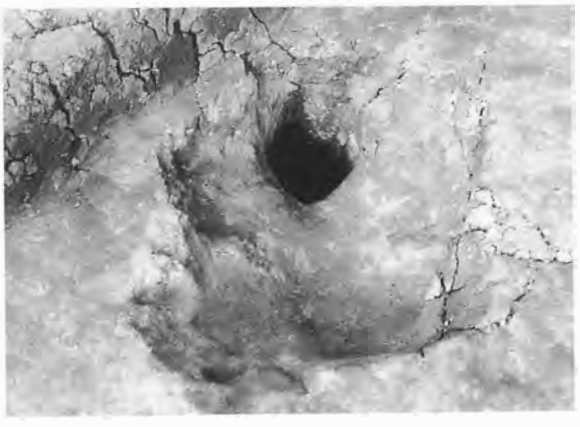
3 号土坑（半割）



4 号土坑（半割）



5 号土坑（検出状況）



4 号土坑（完掘）

5 号土坑（完堀）

6 号土坑（完掘）

7号土坑（完掘）

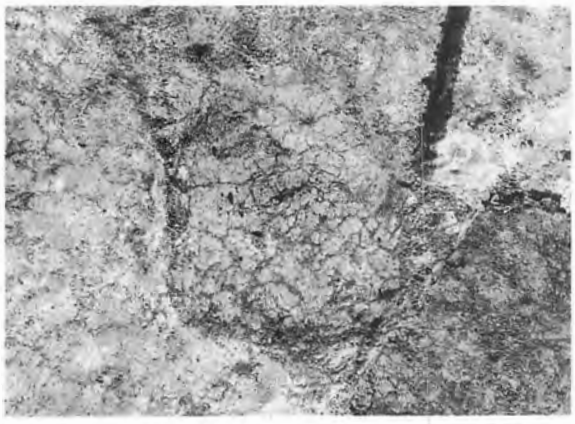
8号土坑（検出状況）

9号土坑（検出状況）

10号土坑（検出状況）

10号土坑（完掘）

11号土坑（完掘）

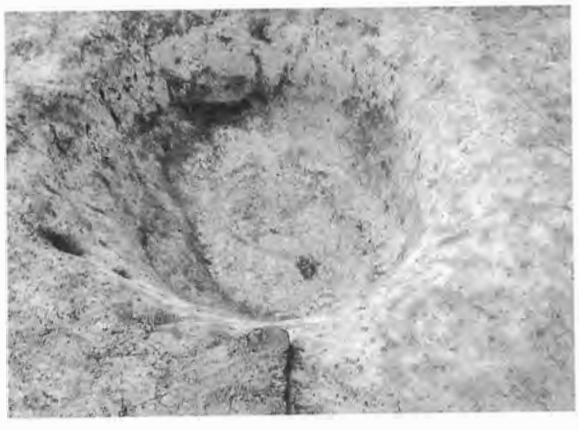


13号土坑（検出状況）

13号土坑（完掘）

14号土坑（検出状況）

14号土坑（完掘）



15号土坑（完掘）

16号土坑（検出状況）

16号土坑（完掘）

17号土坑（白色粘土検出状況）

１号配石土坑（検出状況）

１号配石土坑（完掘）

G－２グリッド　炭化物集中部（Ⅴ～Ⅵの層）

図版8　A地点

H－5グリッド　炭化物集中部（Ⅴ～Ⅵの層）

台形様石器（2554）出土状況（Ⅴ層）

ナイフ型石器（2555）出土状況（Ⅴ層）

ナイフ型石器（4223）出土状況

B地点

調査前（全景）

調査区全景（SN→NW）

B地点より湧蓋山をのぞむ

1 号土坑（半割）

1 号土坑（完掘）

1 号土坑（断面）

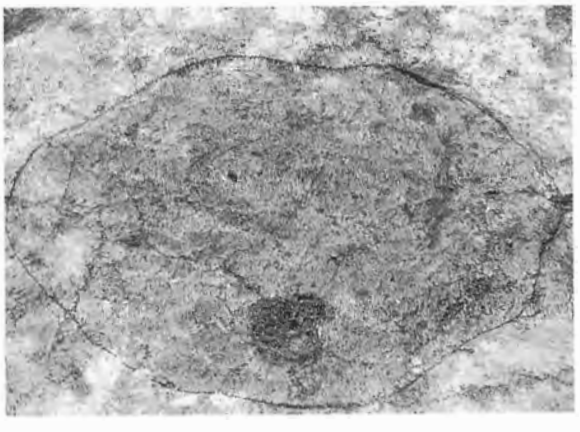
2 号土坑（断面）

2 号土坑（完掘）

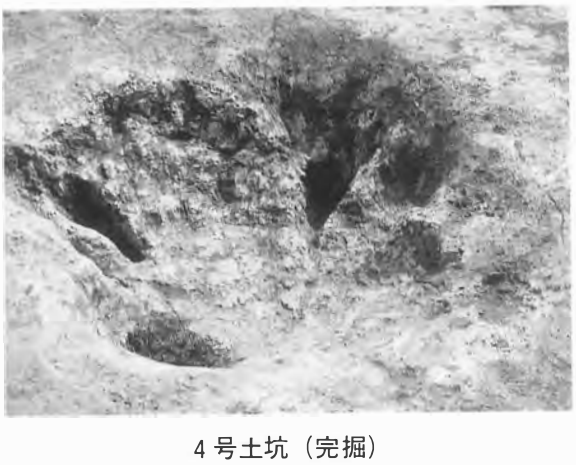
3号土坑（半割）

3号土坑（断面）

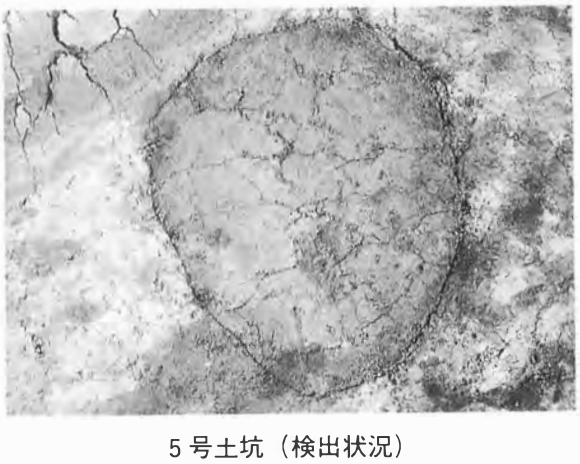
3号土坑（完掘）



4号土坑（検出状況）



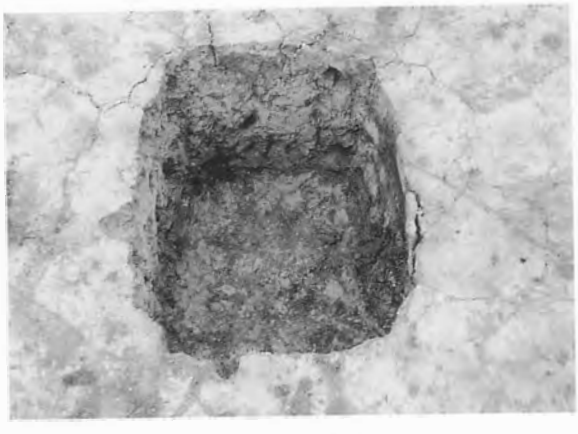
4号土坑（完掘）



5号土坑（検出状況）

5号土坑（断面）

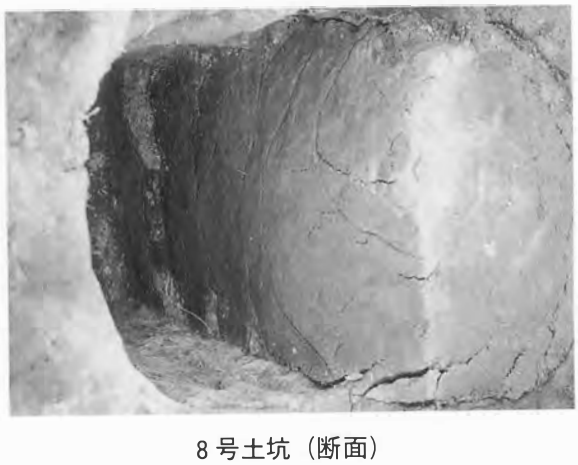
5号土坑（完掘）



6号土坑（完掘）

7号土坑（断面）

7号土坑（完掘）



8号土坑（断面）

8号土坑（完掘）

9号土坑（断面）

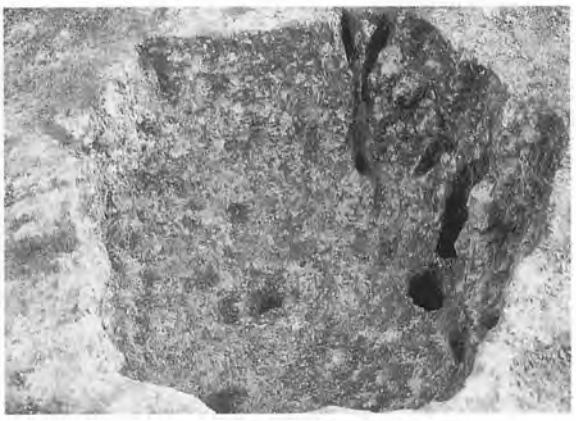
9号土坑（完掘）

10号土坑（断面）

10号土坑（完掘）

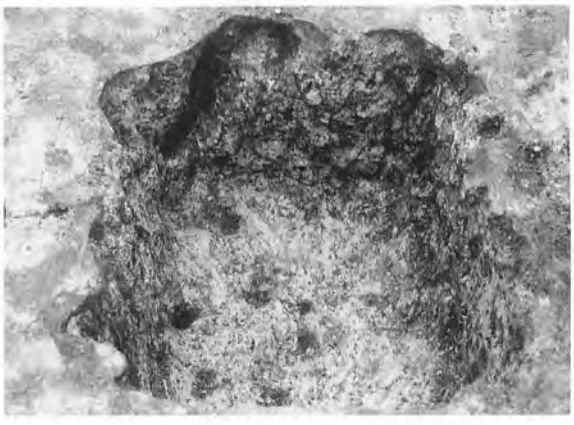
11号土坑（検出状況）

11号土坑（断面）



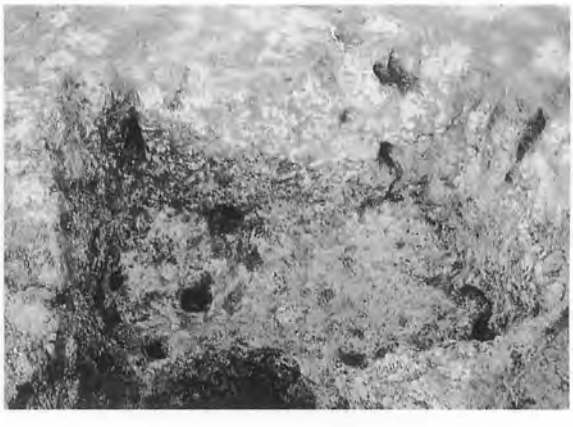
11号土坑（完掘）

12号土坑（断面）



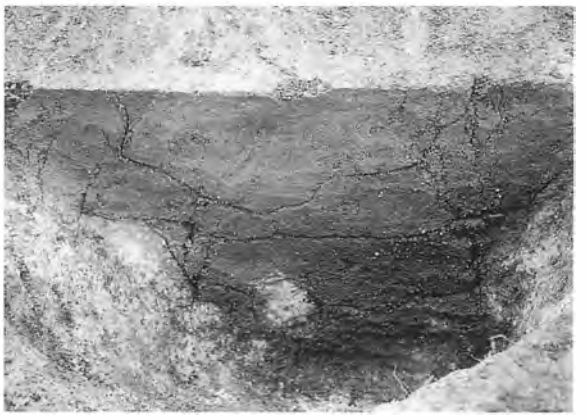
12号土坑（完掘）

13号土坑（断面）



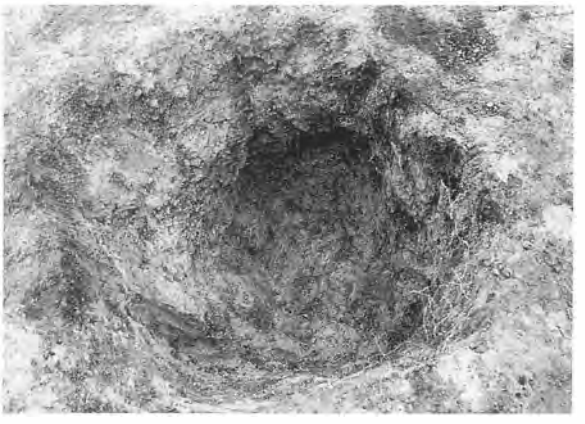
13号土坑（完掘）

14号土坑（完掘）



15号土坑（断面）

15号土坑（白色粘土検出状況）



15号土坑（完掘）

16号土坑（完掘）

17号土坑（完掘）

18号土坑（断面）

18号土坑（完掘）

19号土坑（断面）

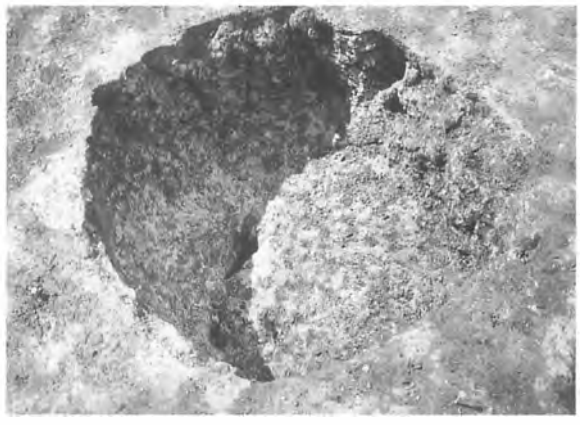
19号土坑（完掘）

20号土坑（断面）

20号土坑（完掘）

図版16　B地点

21号土坑（完掘）

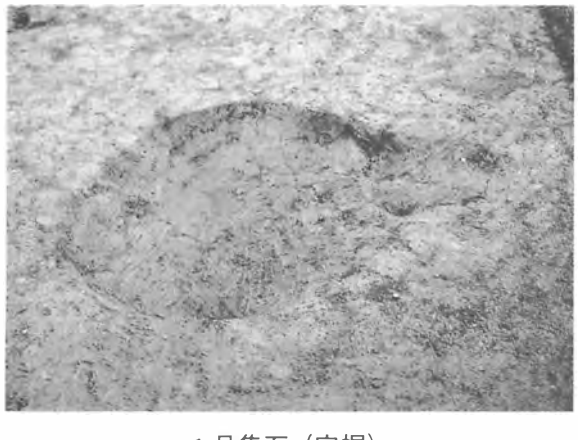


22号土坑（完掘）

C地点

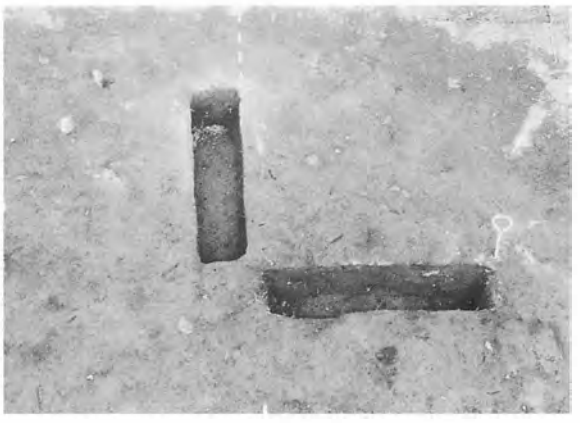
1号集石（検出状況）

1号集石（半割）



1号集石（完掘）

1 号集石（検出状況）



1 号集石（完掘）

3 号集石（完掘）

1 号焼土遺構（検出状況）

1 号焼土遺構（完掘）

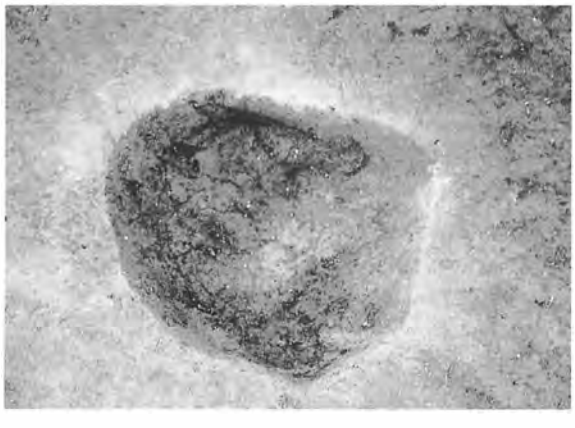
2 号焼土遺構（検出状況）

2 号焼土遺構（完掘）

3 号焼土遺構（検出状況）

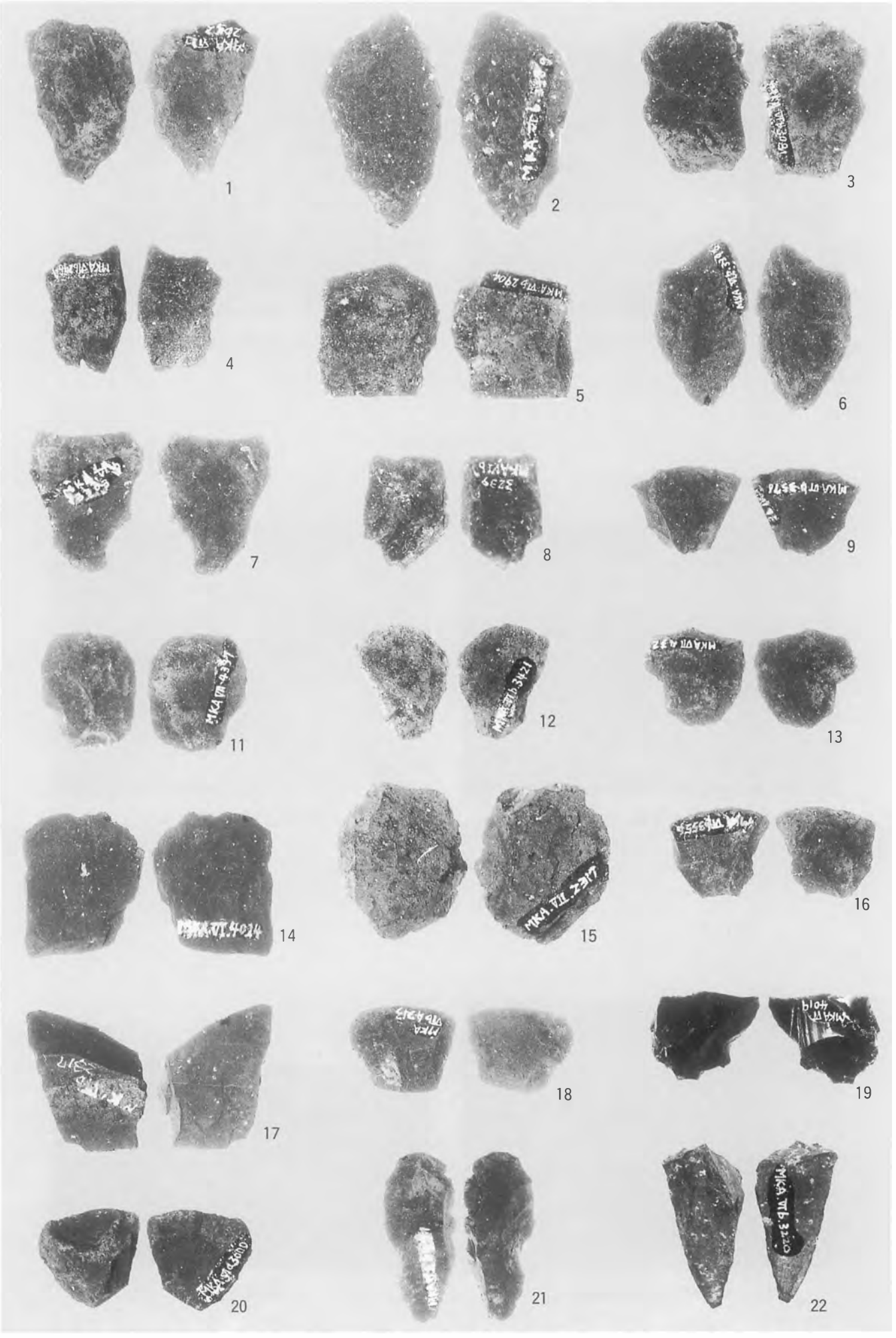
3 号焼土遺構（完掘）

4 号焼土遺構（検出状況）

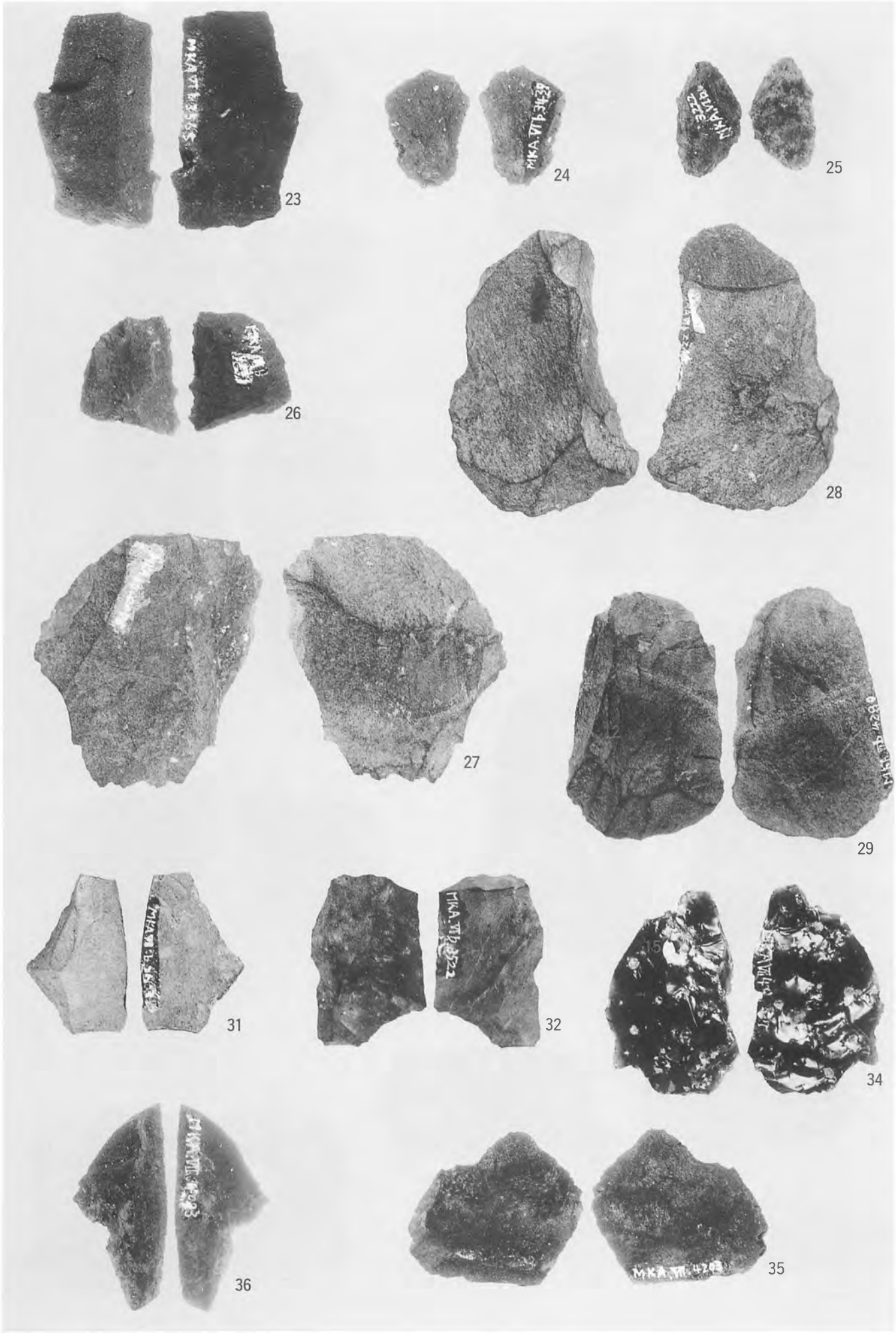


4 号焼土遺構（完掘）

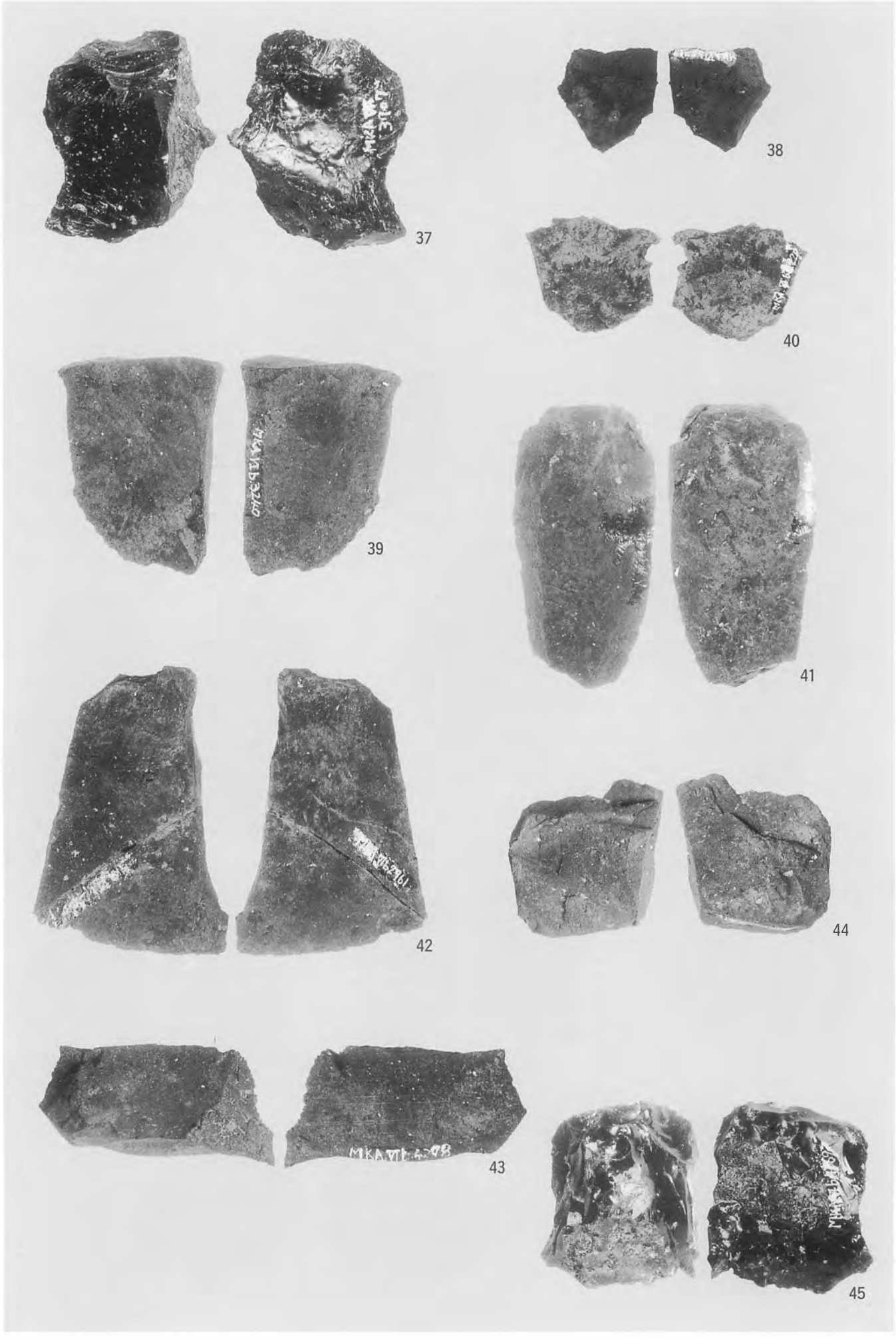
調査風景



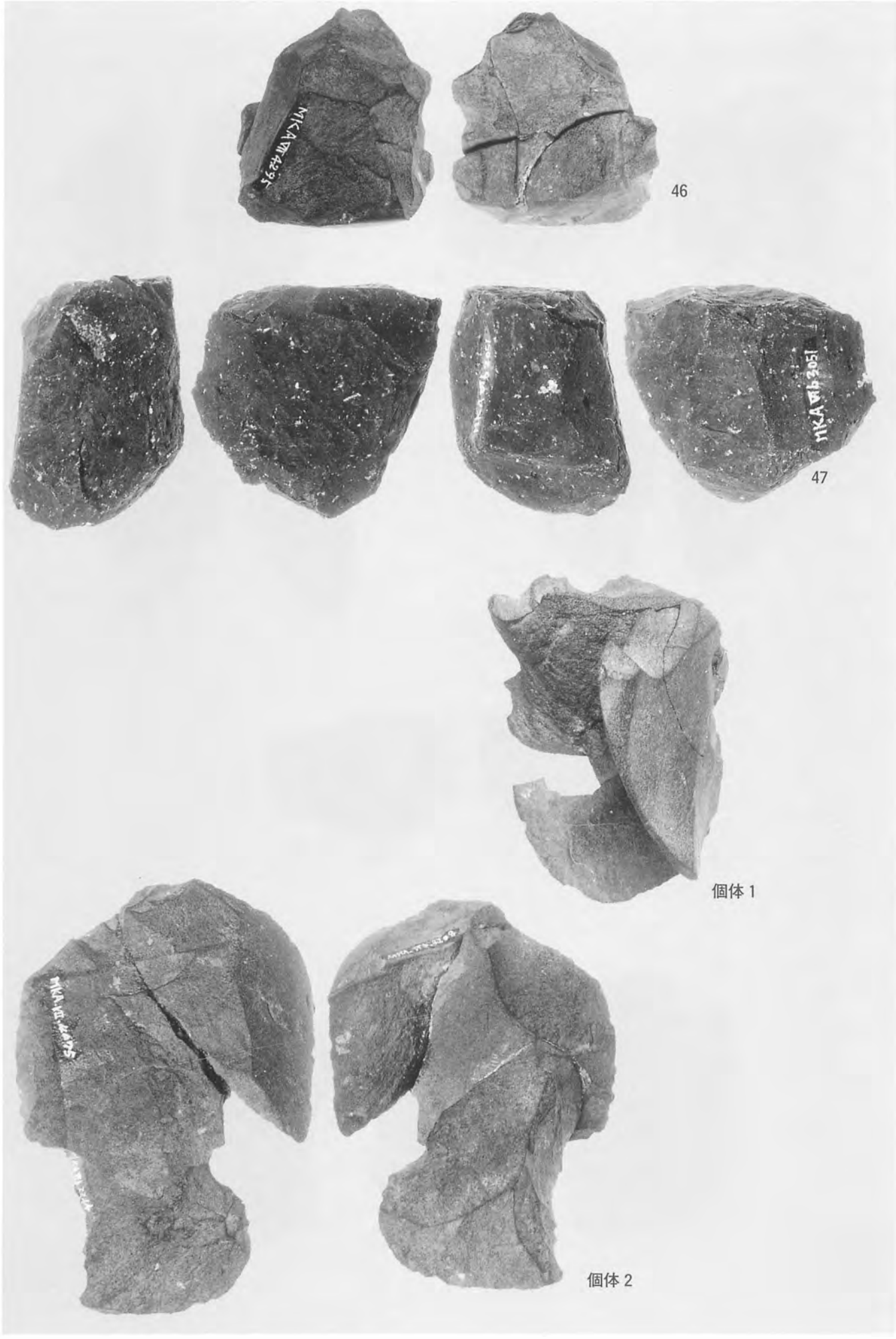
A地点　第Ⅰ石器文化層　①



A地点　第Ⅰ石器文化層　②

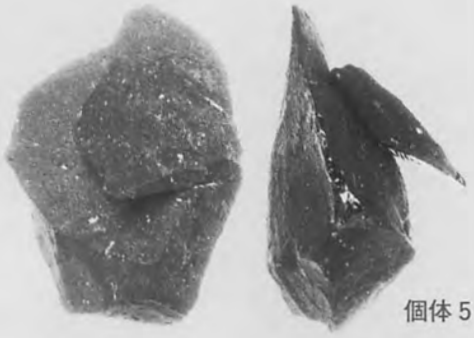


A地点　第Ⅱ石器文化層　③



A 地点　第 I 石器文化層　④

個体 4



個体 5

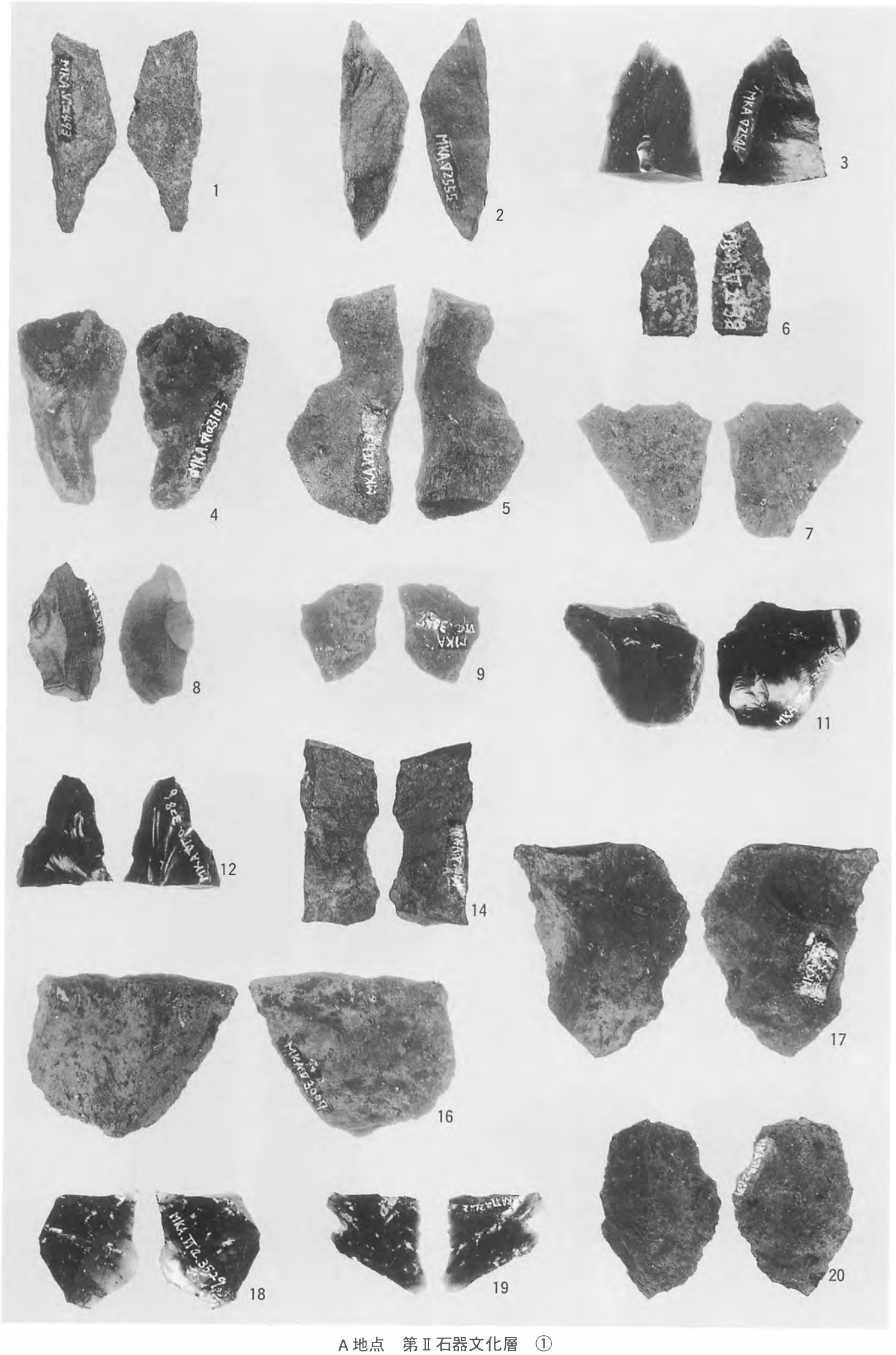
個体 6

個体 7

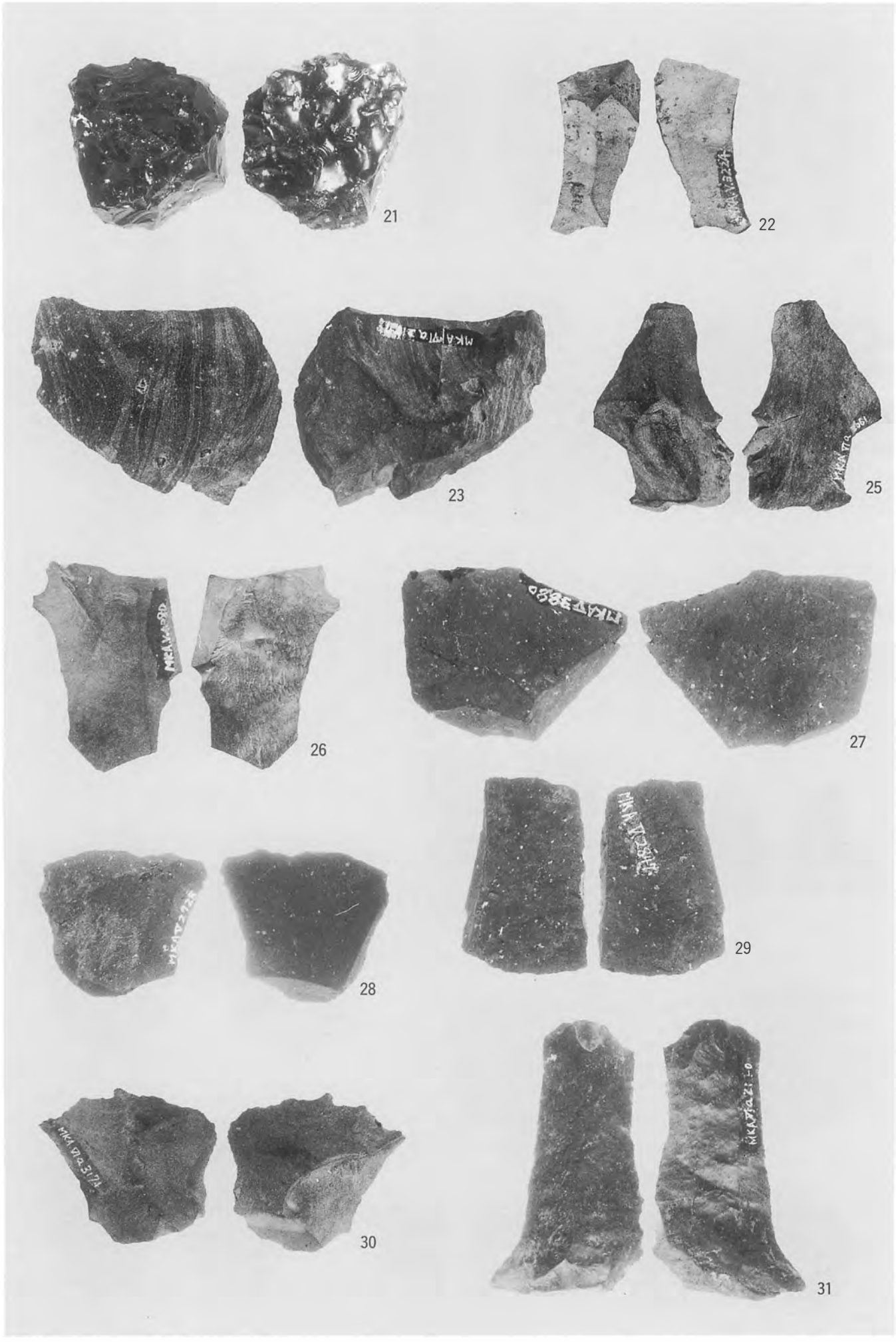
個体 9

個体10

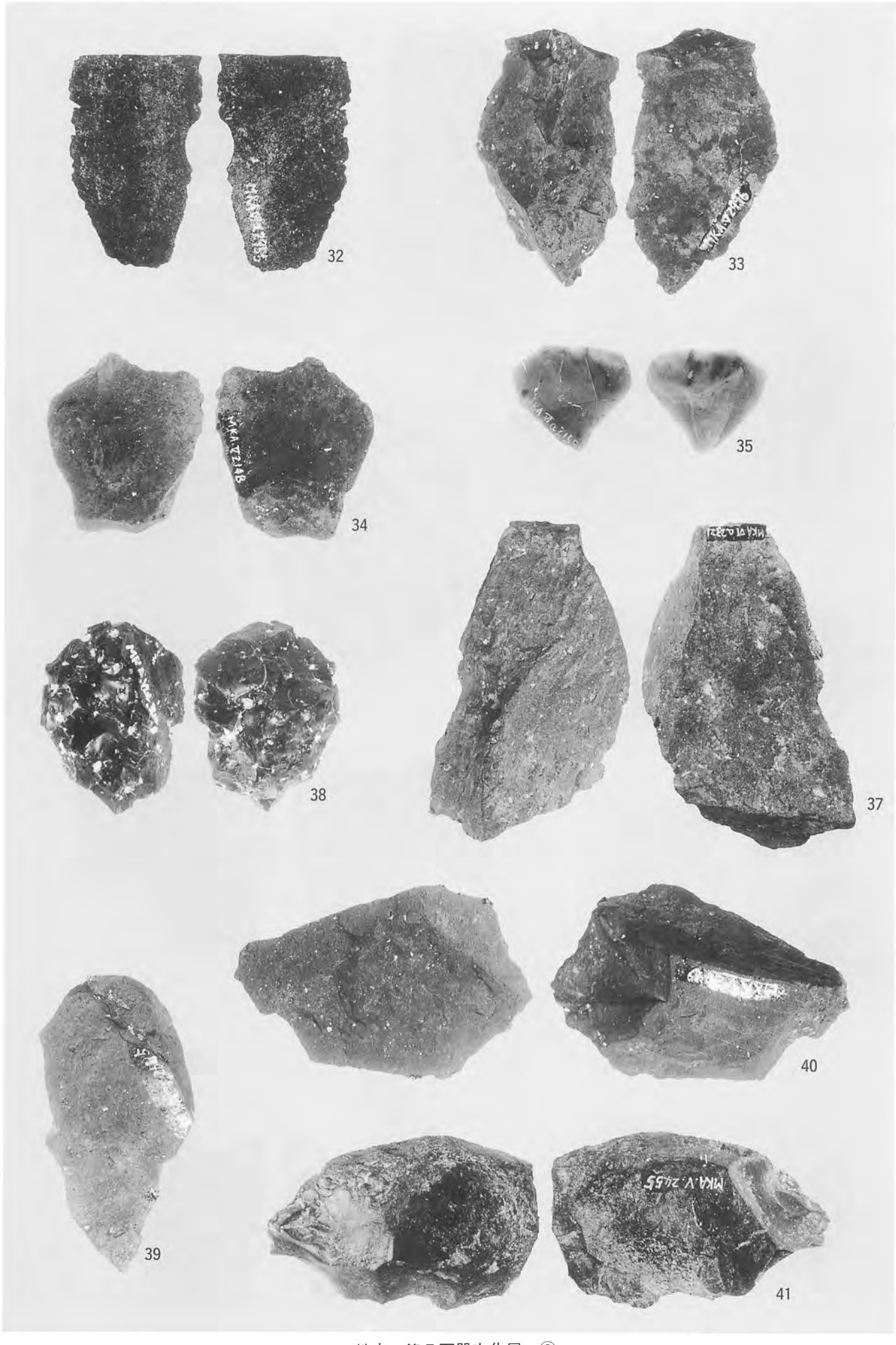
A地点　第Ⅰ石器文化層　⑤



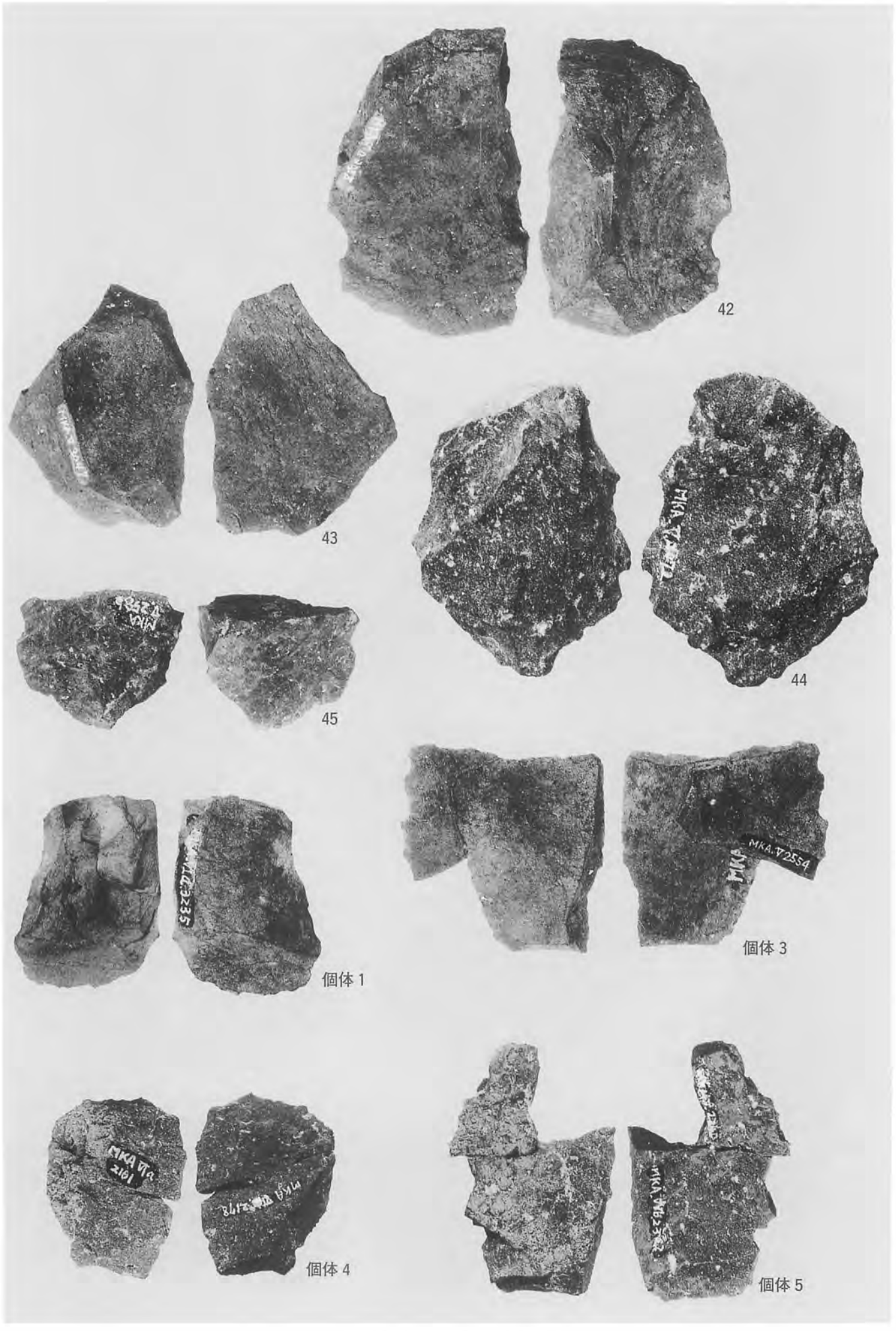
A地点　第Ⅱ石器文化層　①



A地点　第Ⅱ石器文化層　②



A 地点　第Ⅱ石器文化層　③



A 地点　第Ⅱ石器文化層　④

個体 6

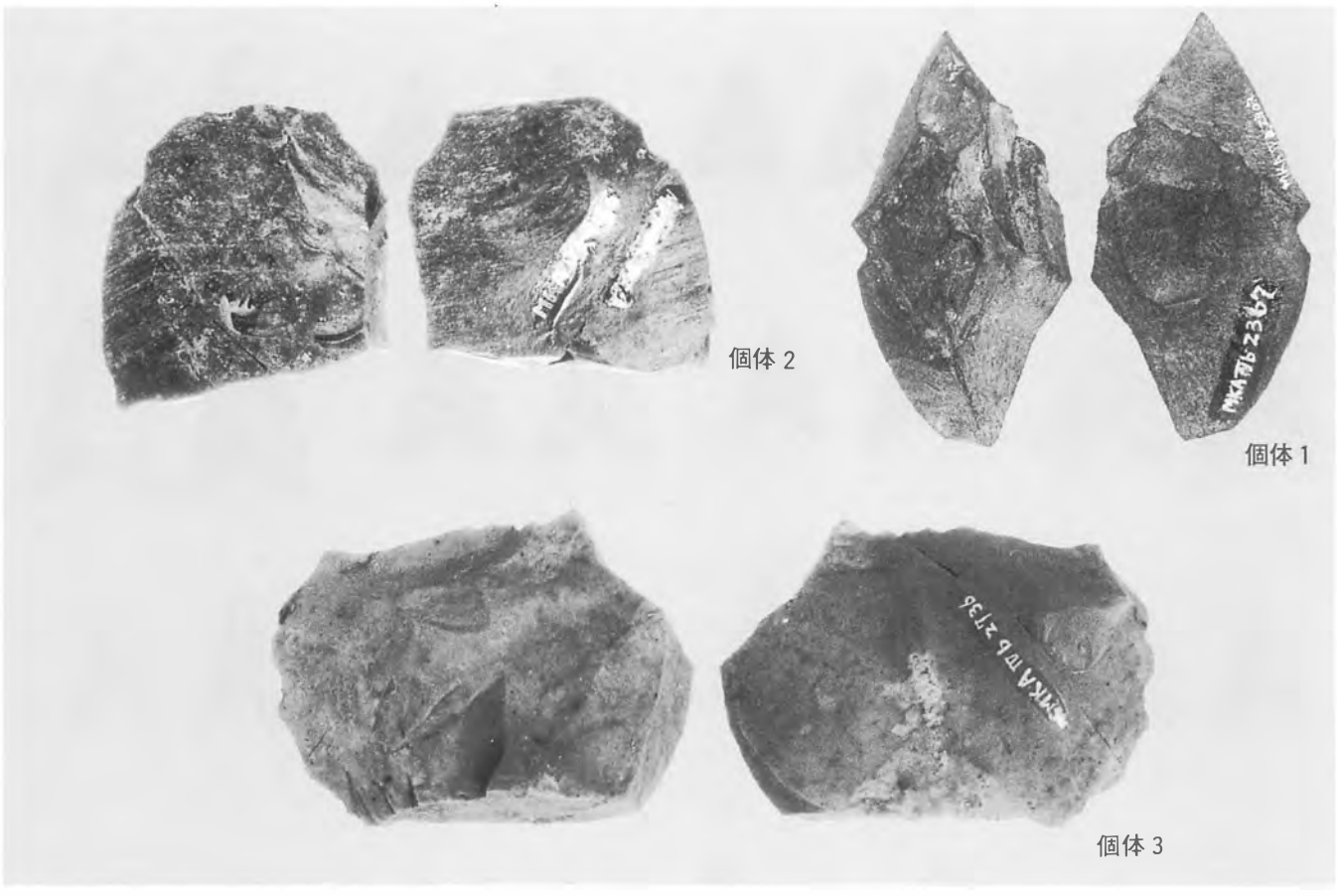
個体 7

個体 8

個体 9

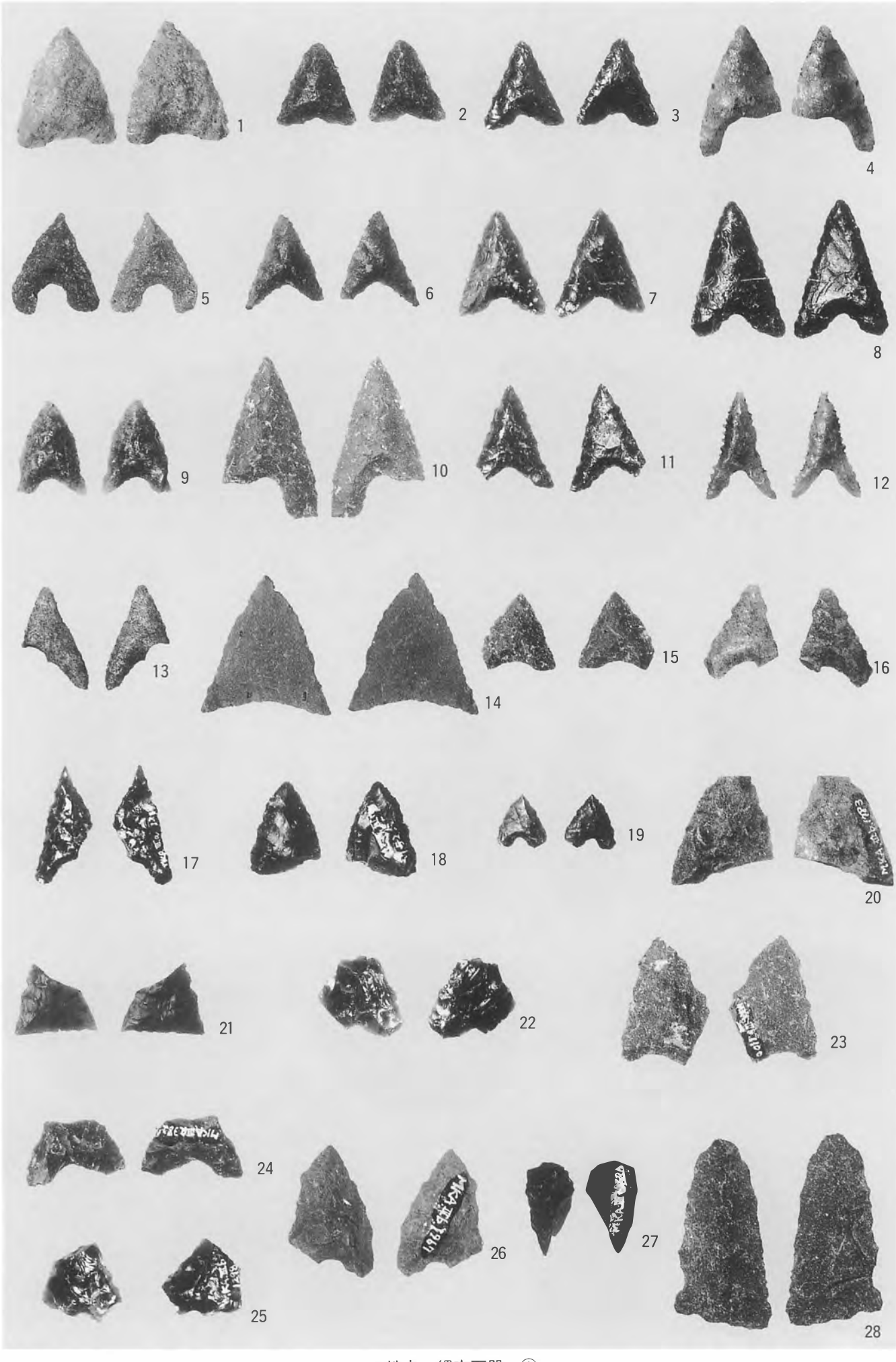
A 地点　第Ⅱ石器文化層　⑤

A地点　第Ⅲ石器文化層　①

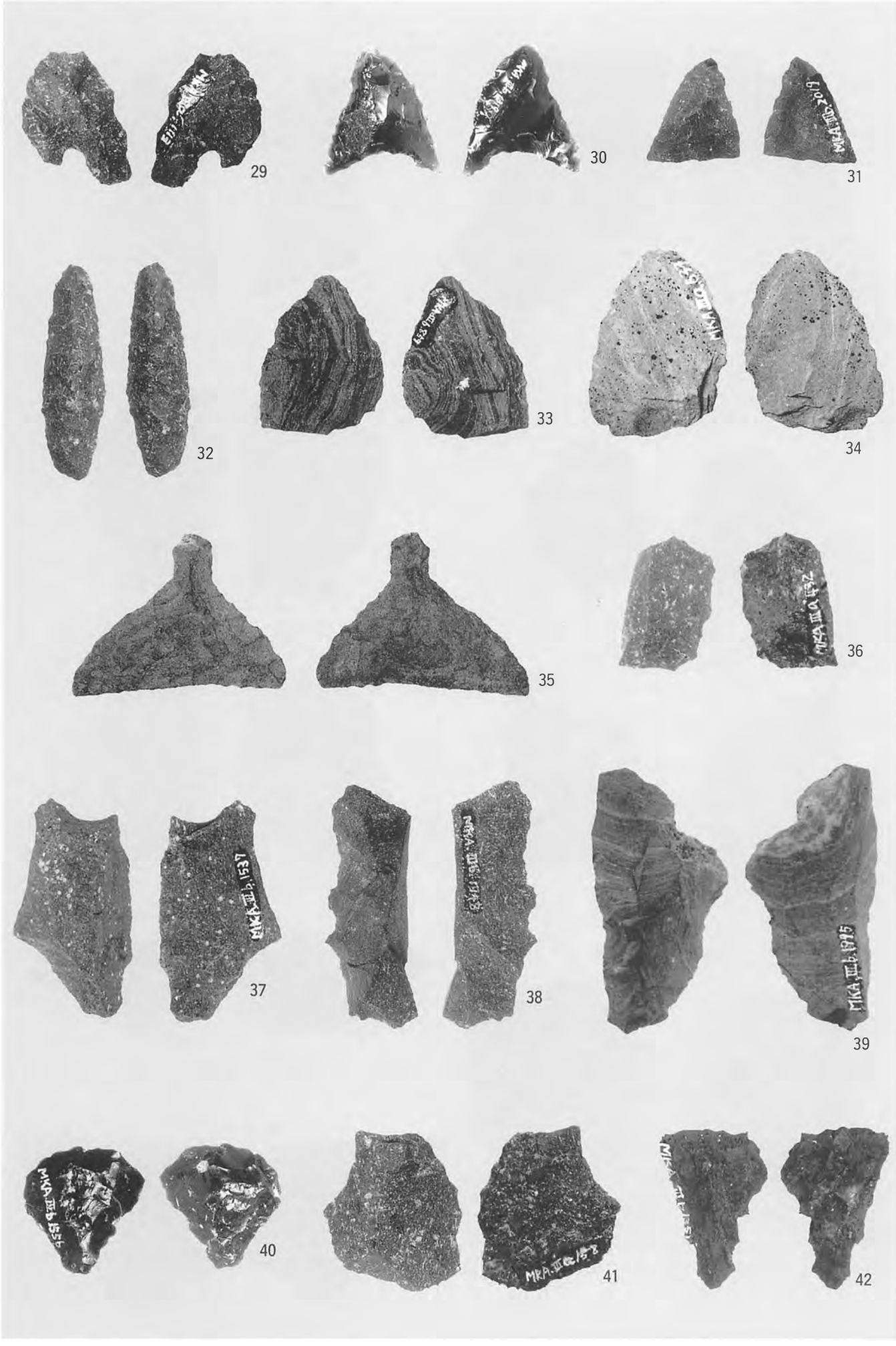


A 地点　第Ⅲ石器文化層　②

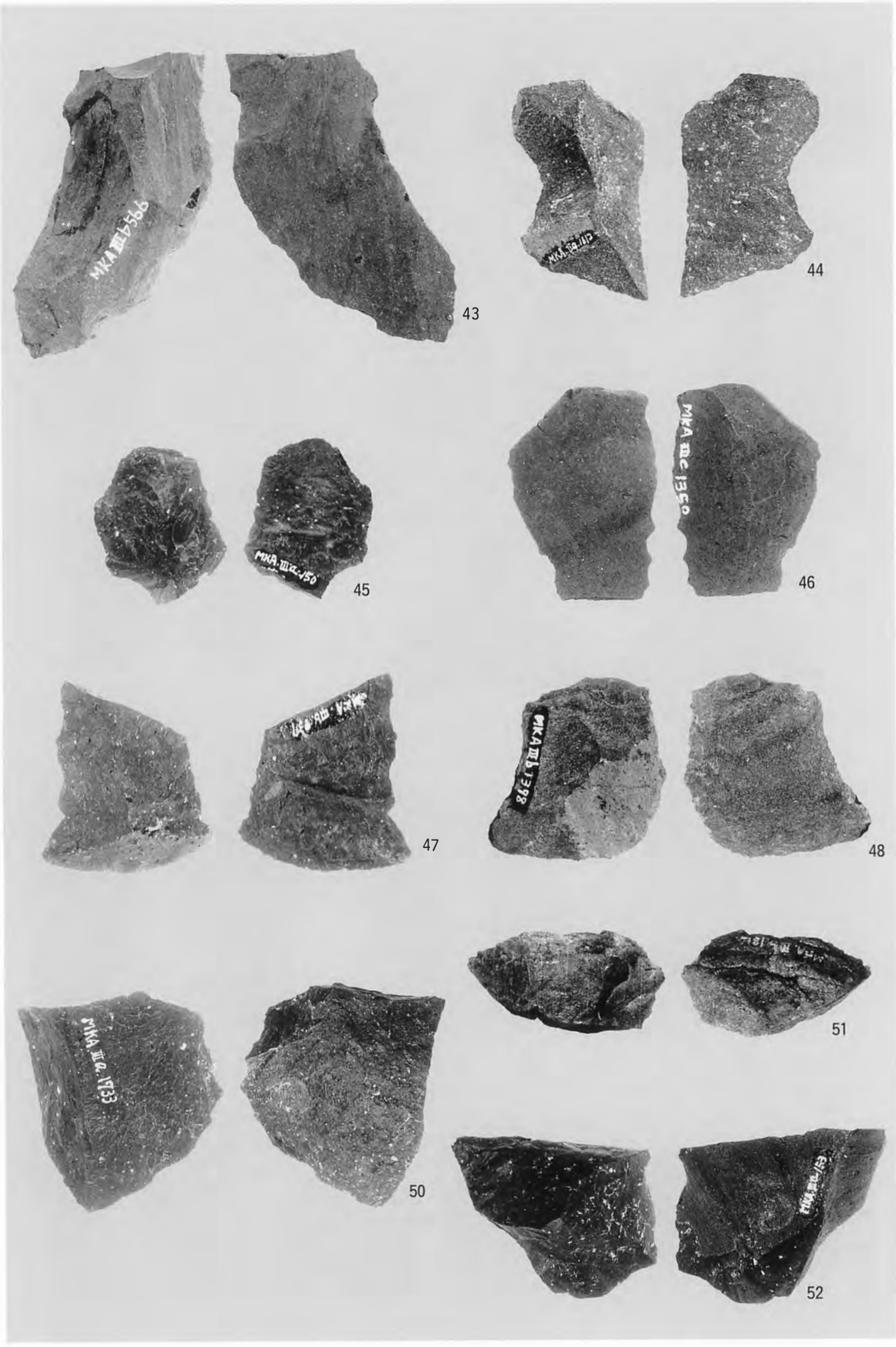
B 地点　旧石器　①



A地点　縄文石器　①

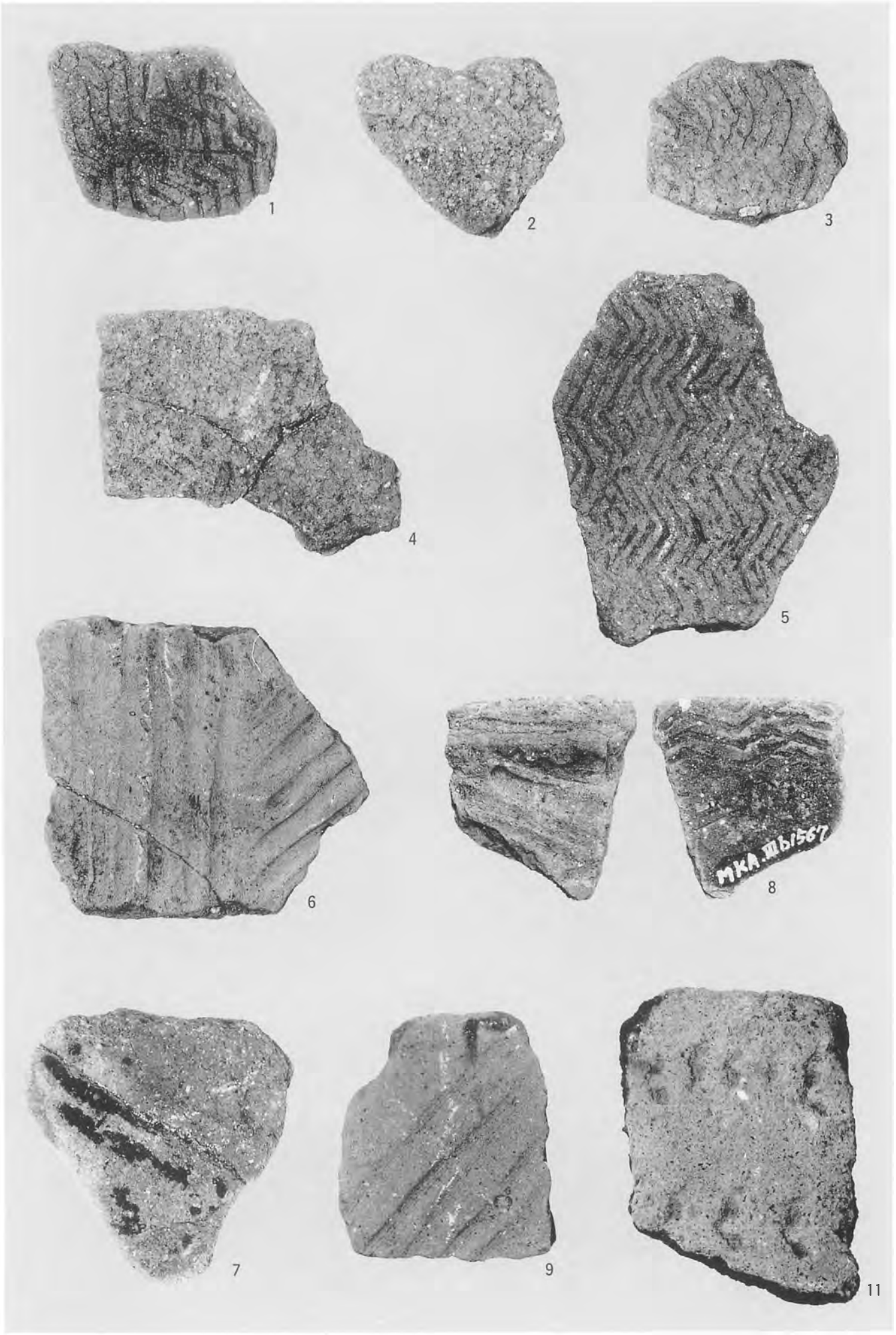


A 地点　縄文石器　②



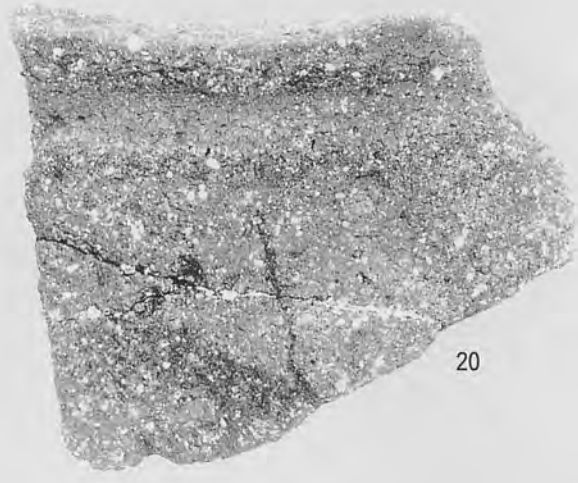
A地点　縄文石器　③

A 地点　縄文石器　④

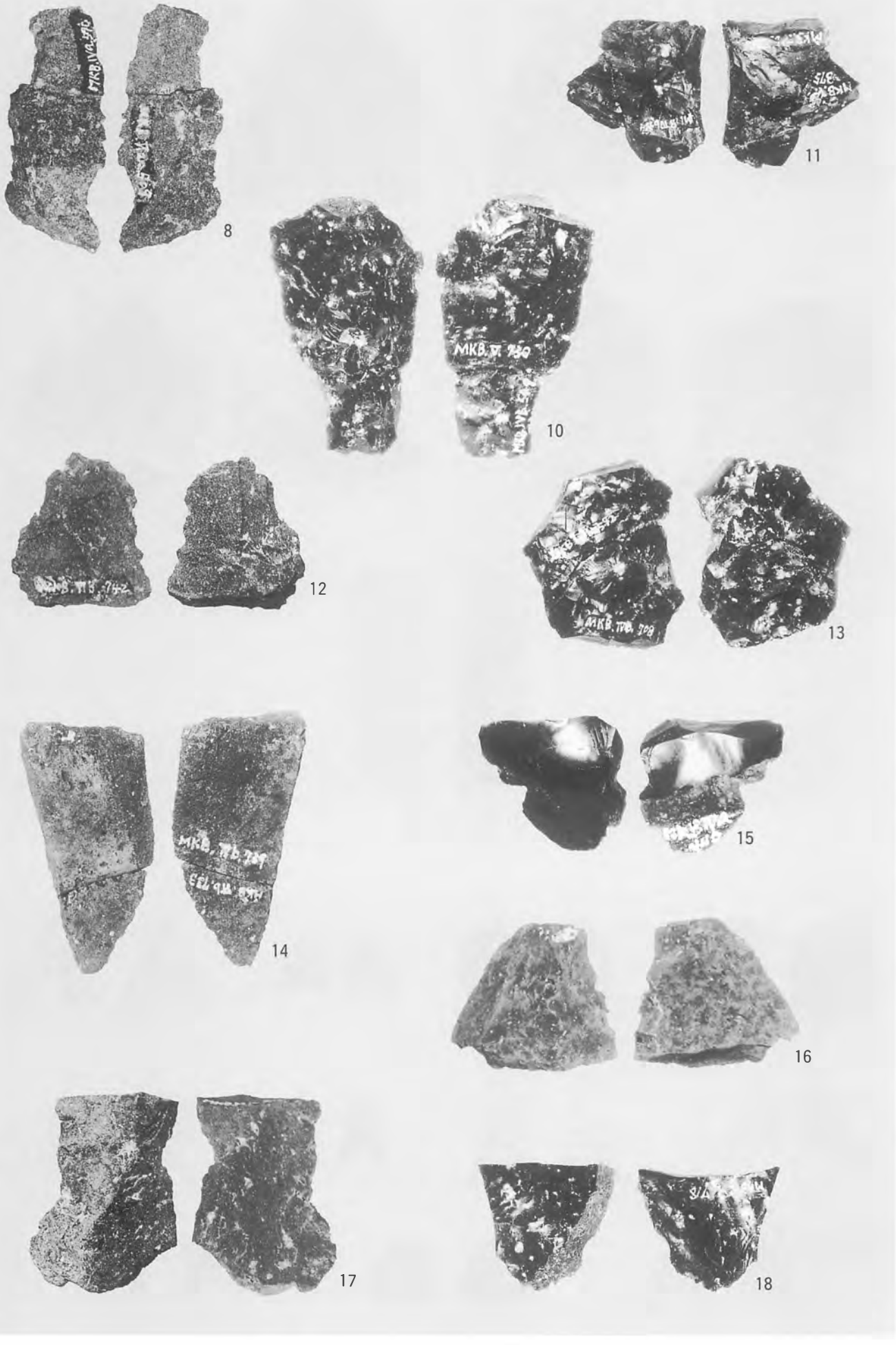


A地点　縄文土器　①

A 地点　縄文土器　②



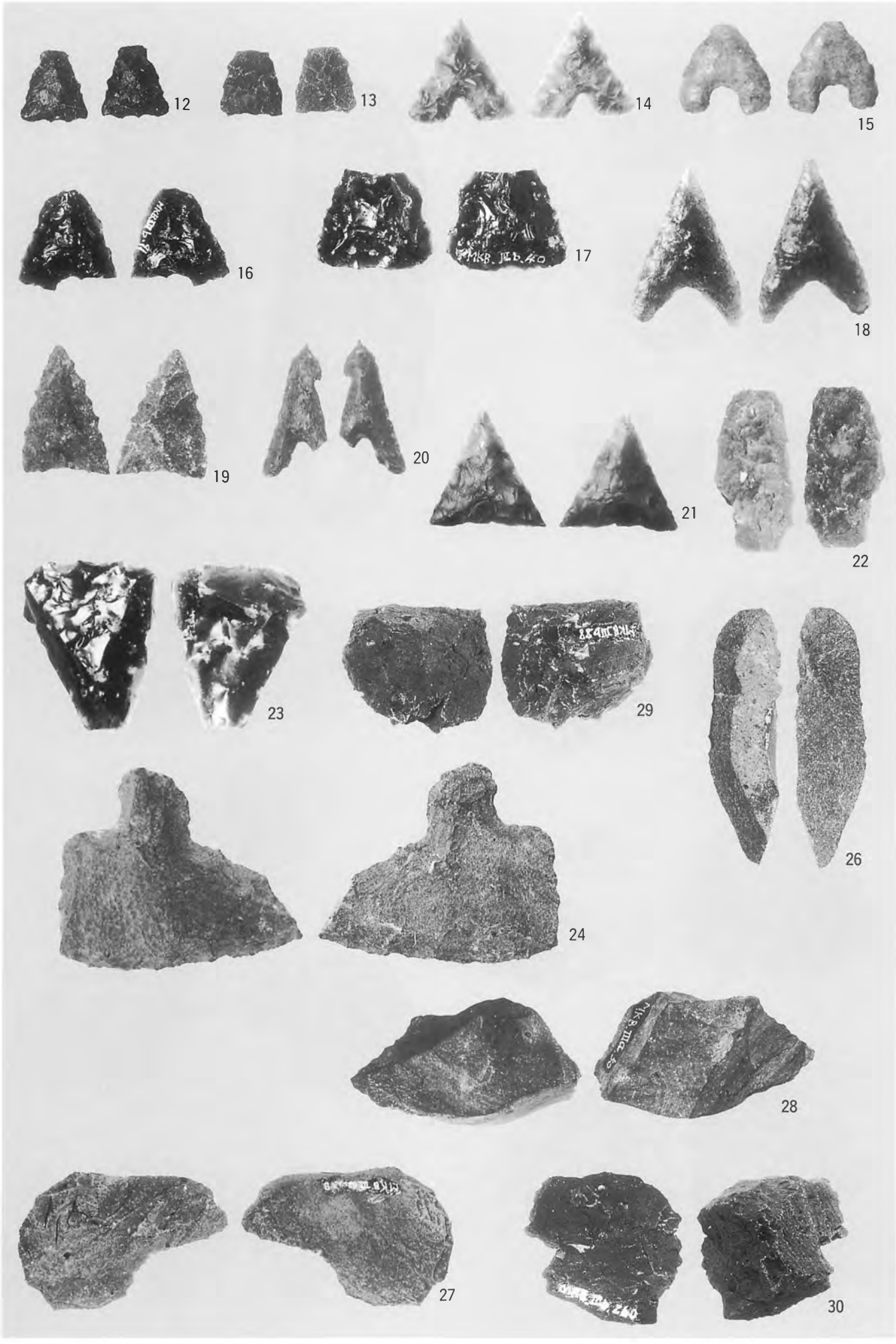
A地点　縄文土器　③



B 地点　旧石器　②

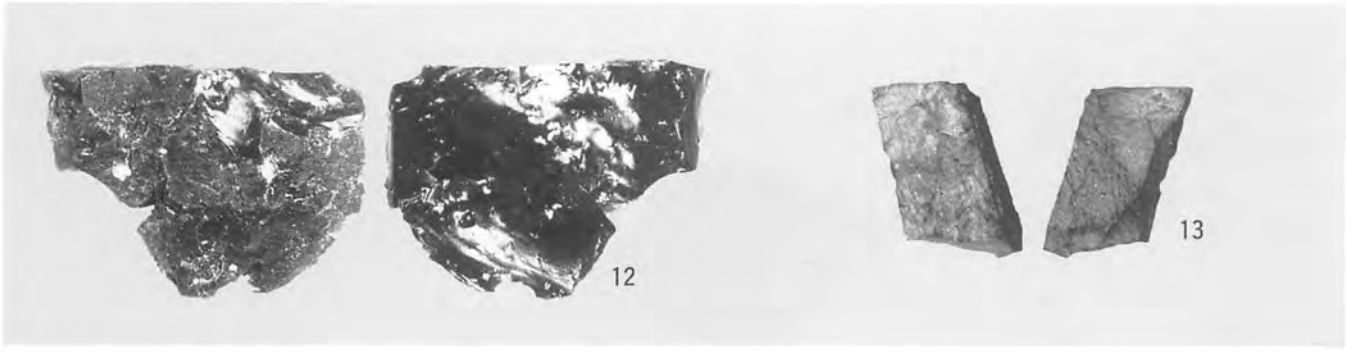
B 地点　旧石器　③

B 地点　縄文石器　①

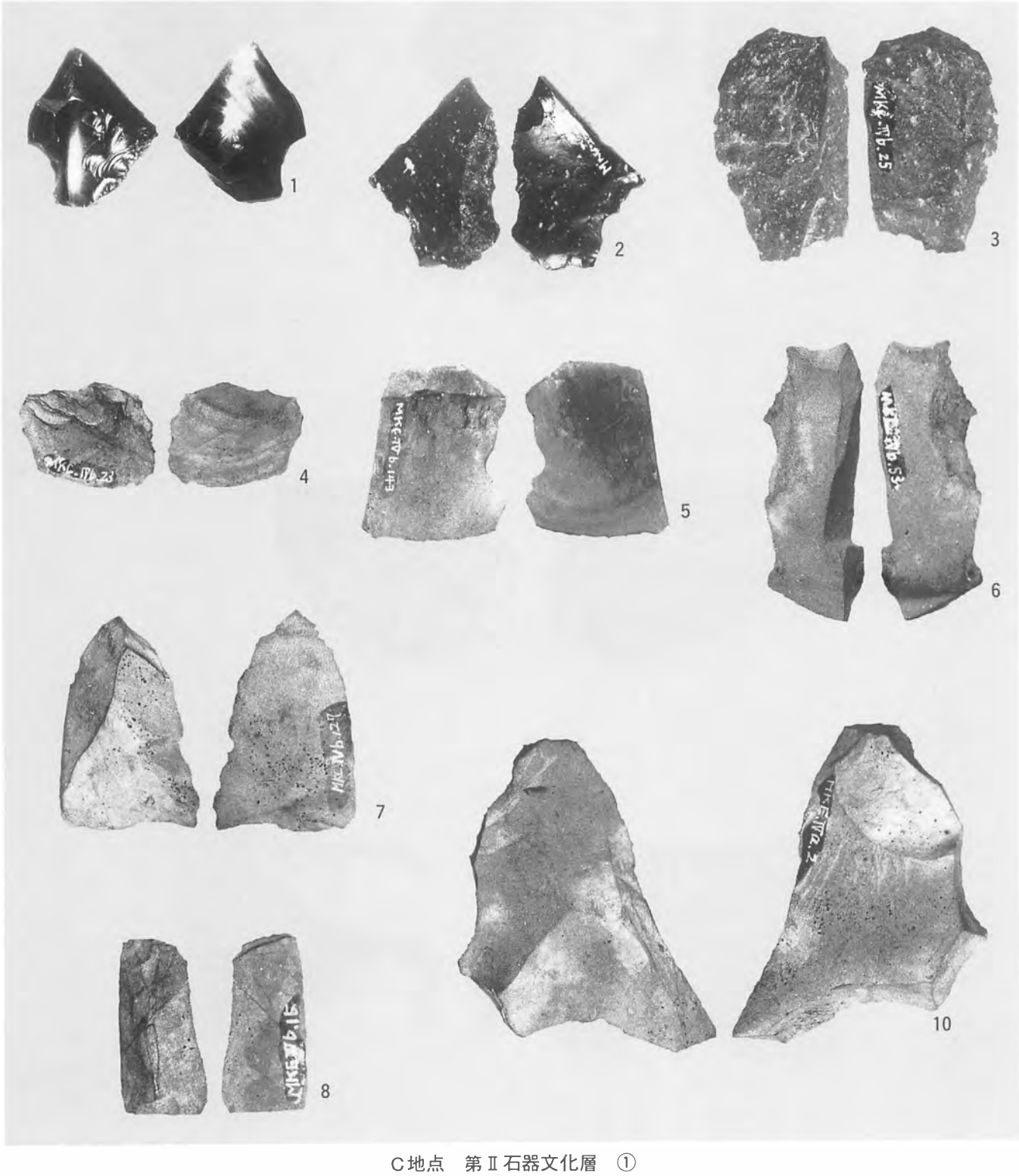


B地点　縄文石器　②

C地点　第Ⅰ石器文化層　①



C地点　第Ⅰ石器文化層　②

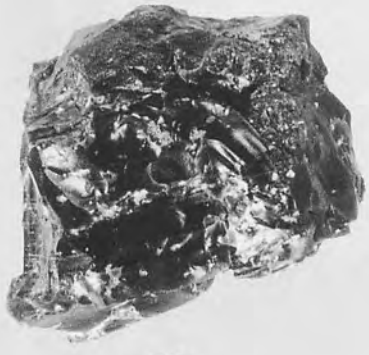


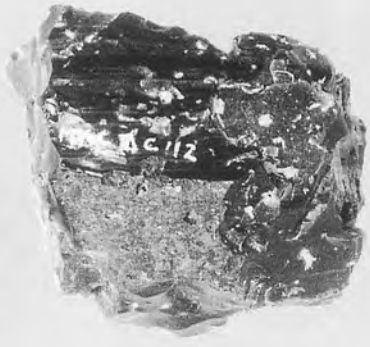
C地点　第Ⅱ石器文化層　①

C地点　第Ⅱ石器文化層　②

1

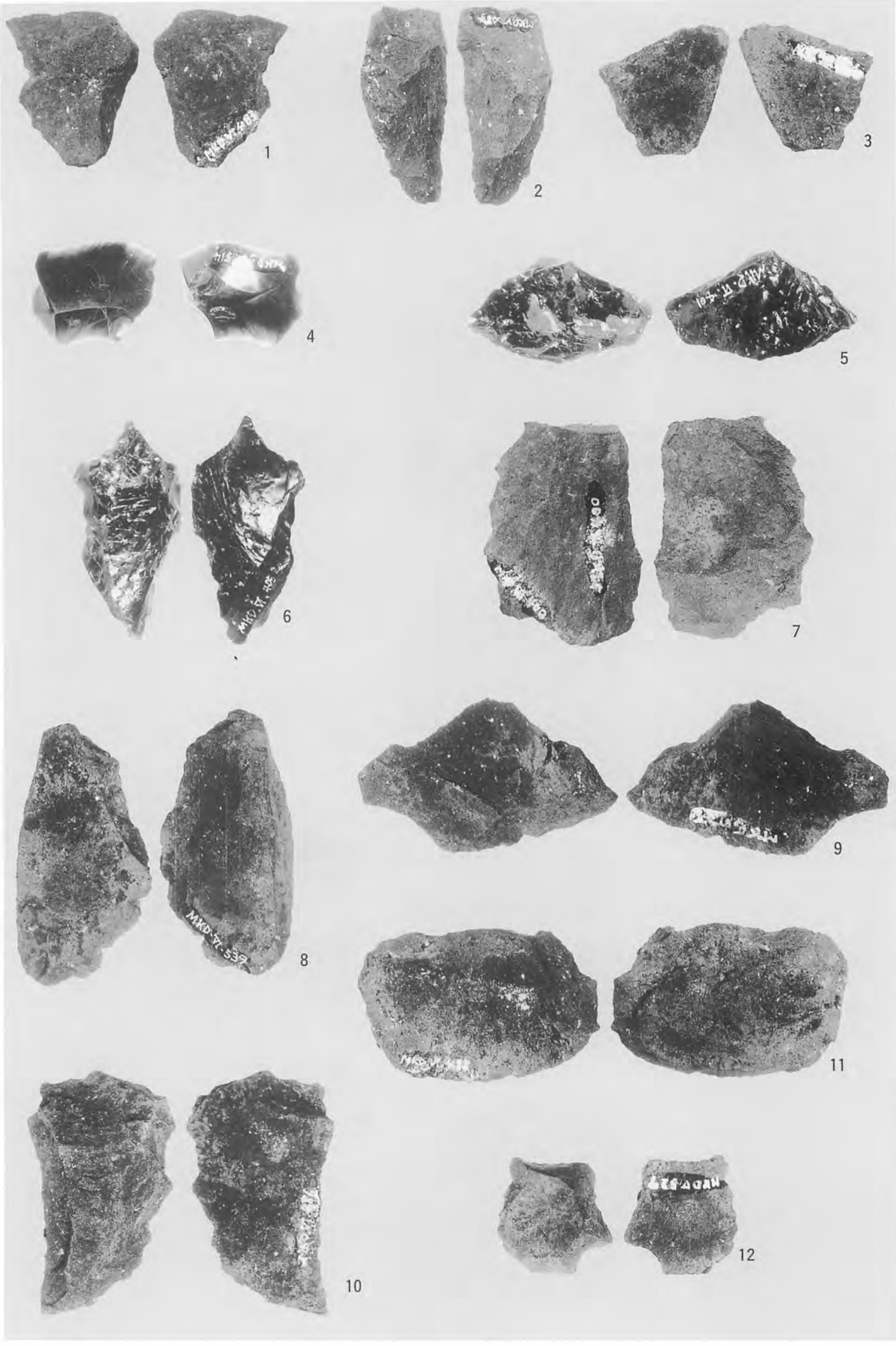
2



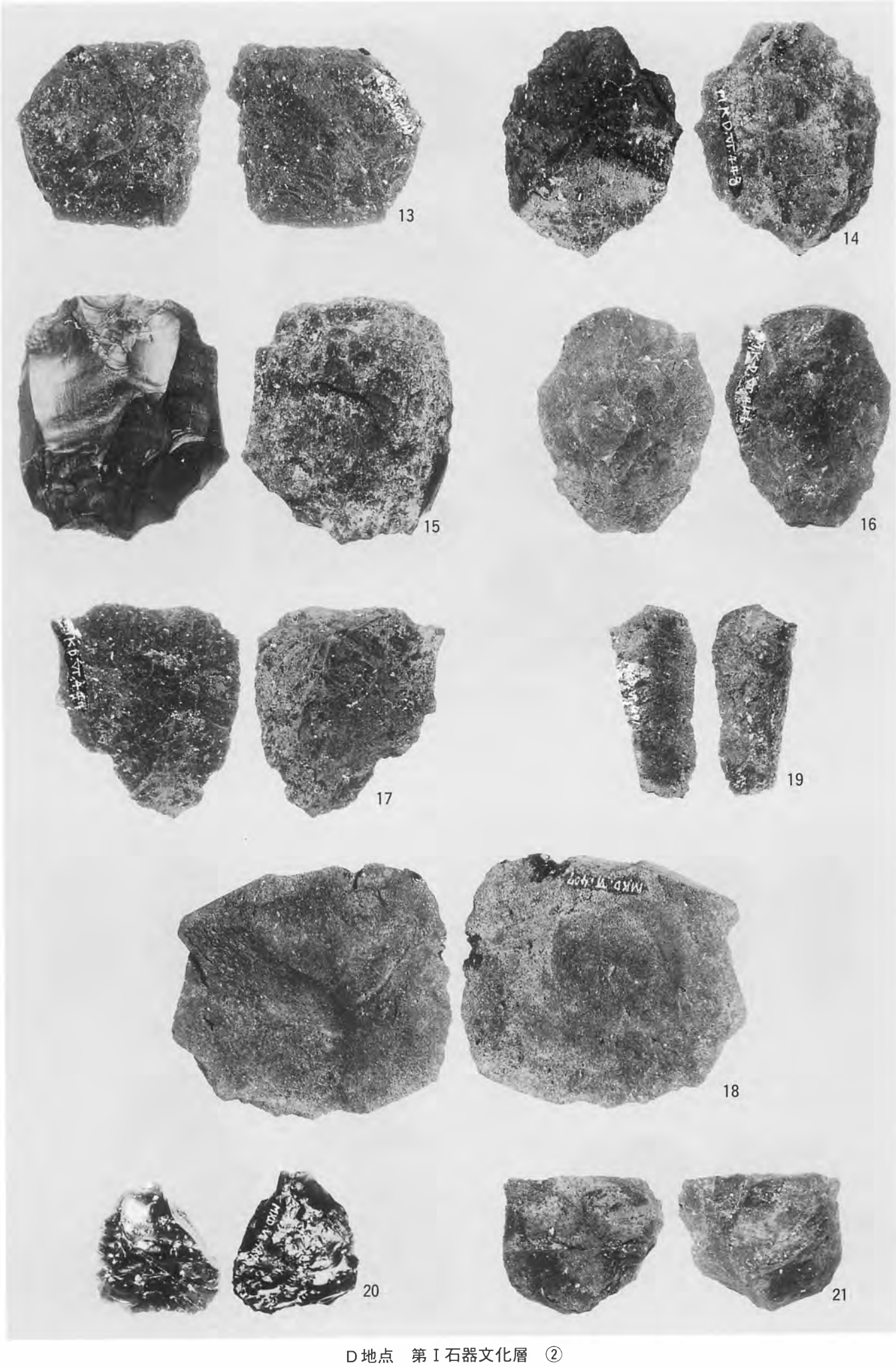


3

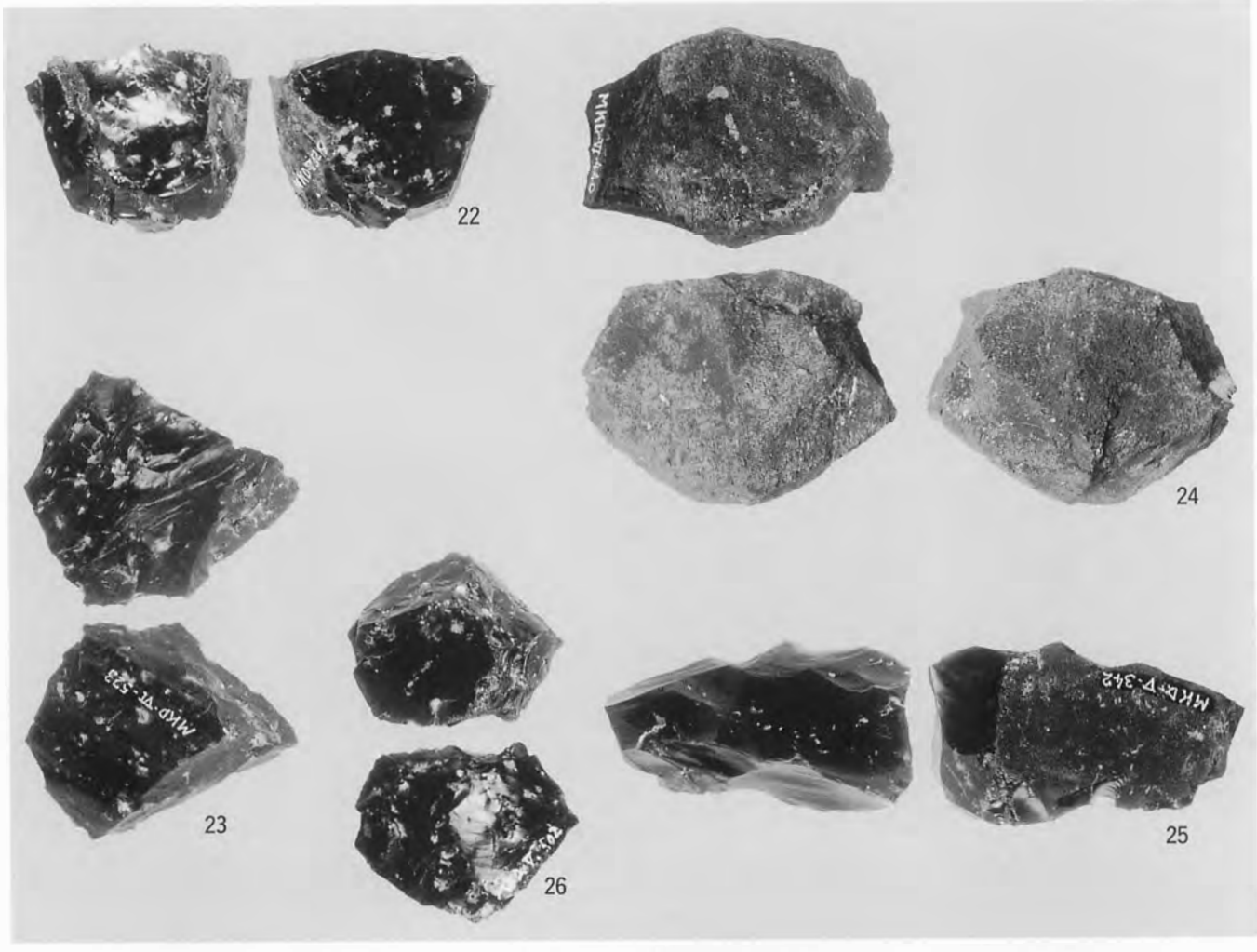
C地点　縄文石器　①



D地点　第Ⅰ石器文化層　①

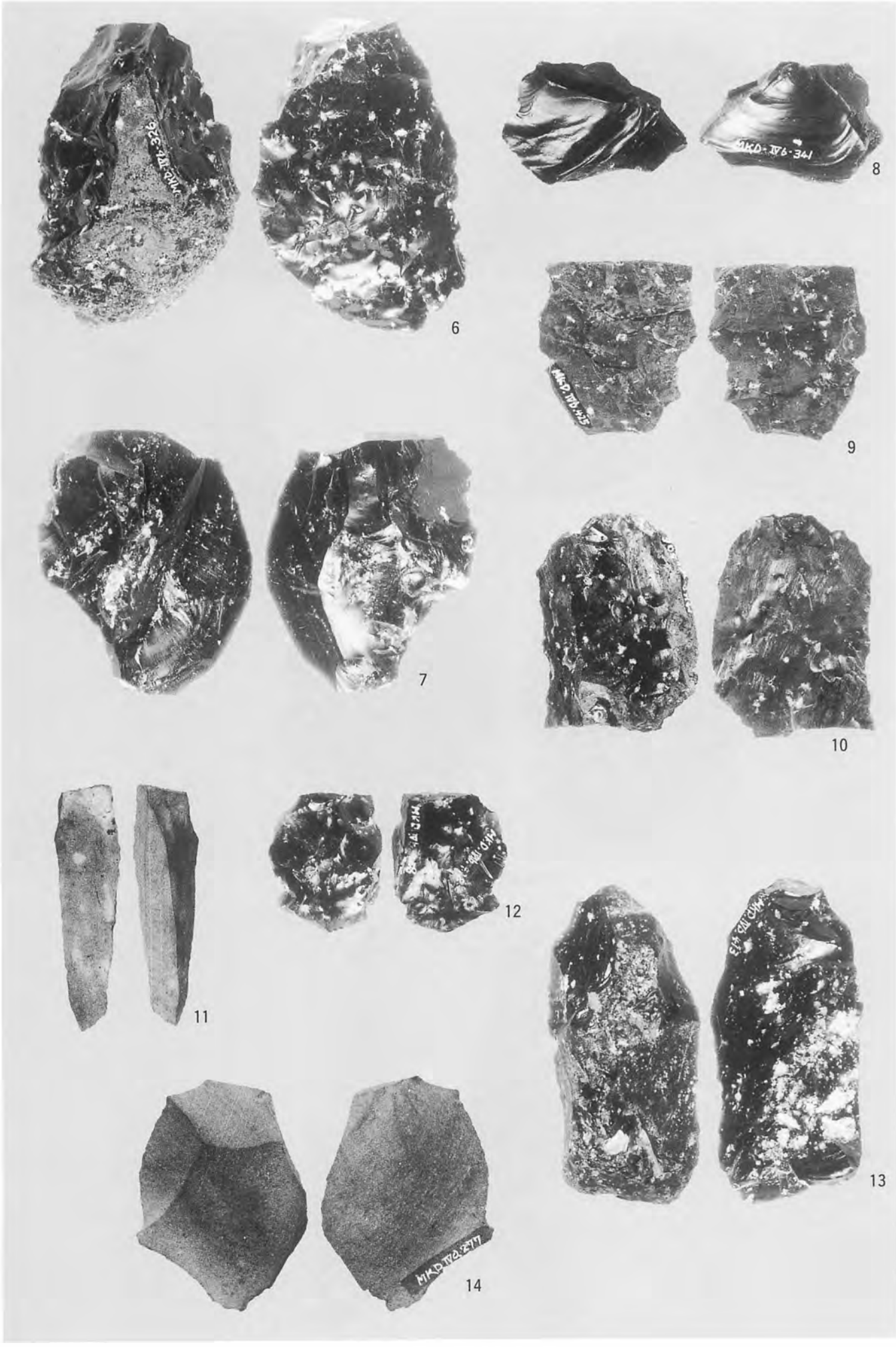


D地点　第Ⅰ石器文化層　②

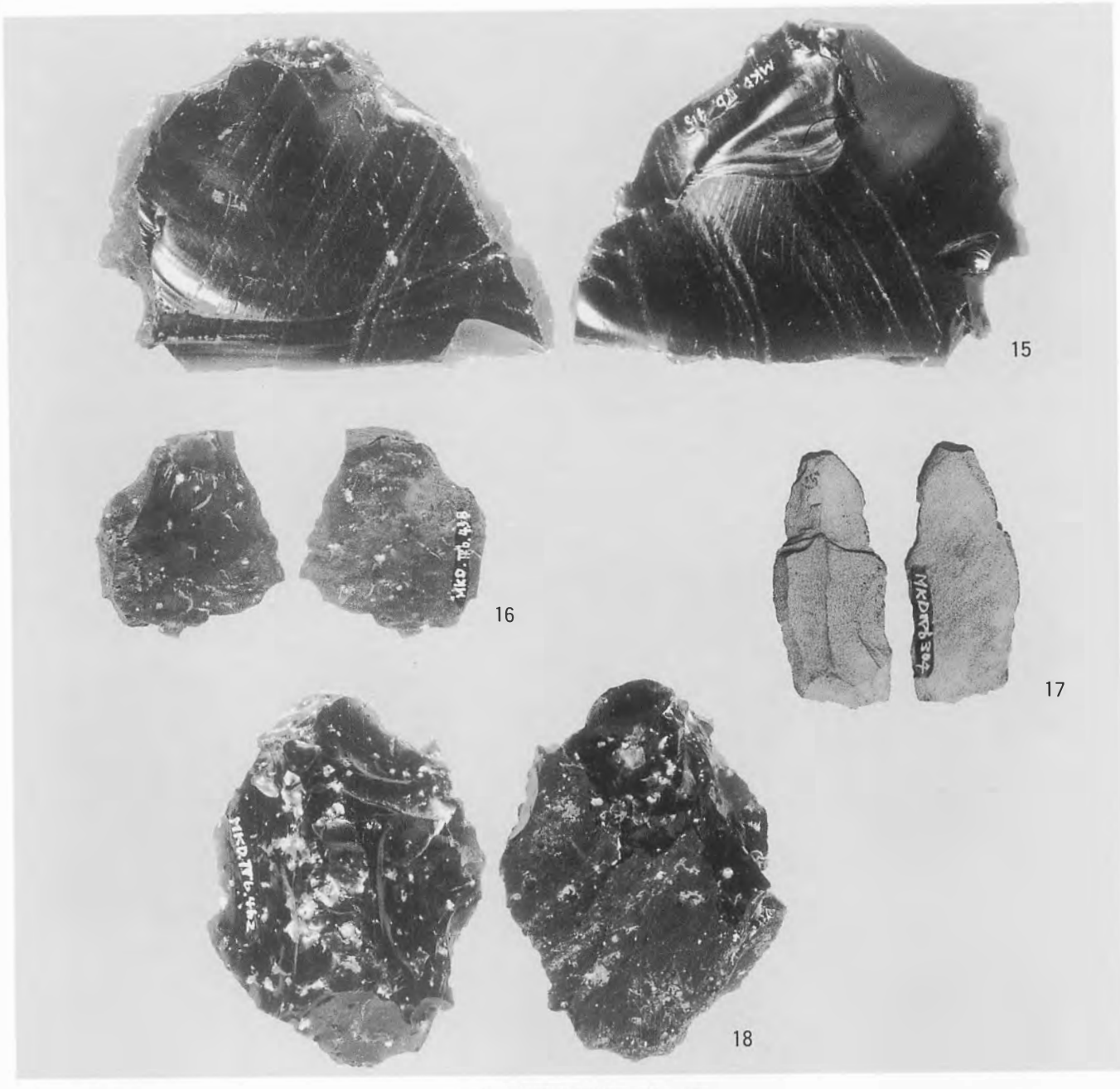


D地点　第Ⅰ石器文化層　③

D地点　第Ⅱ石器文化層　①



D地点　第Ⅱ石器文化層　②



D地点　第Ⅱ石器文化層　③

D地点　縄文石器　①

D 地点　第Ⅱ石器文化層　⑤

D 地点　縄文石器　②

報　告　書　抄　録

フリガナ	ミミキリイセキ
書名	耳切遺跡
副書名	小国地熱発電所計画に伴う埋蔵文化財調査報告
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第１８０集
編集者	村崎　孝宏
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本県熊本市水前寺６丁目18番１号
発行年	1999年３月31日

所収遺跡（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ミミキリ 耳切	クマモトケン アソグン オグニマチ 熊本県阿蘇郡小国町 オオアザニシザトアザミミキリ 大字西里字耳切	43424	41			H９.７.12 ～ H10.３.31	18,000㎡	地熱発電所 建設事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
ミミキリ 耳　切	包含地	旧石器時代		局部磨製石斧 台形様石器 ナイフ型石器他	
		縄文時代	集石土坑	押型文土器 曽畑式土器他 石鏃 石匙 削器他	

あ と が き

平成９年度、熊本県阿蘇郡小国町大字西里に所在する耳切遺跡の発掘調査を実施した。大分県境に近く、九重連山の西端湧蓋山（1,499m）を間近に望む標高約800mの丘陵上に位置する。今回の発掘調査は、この地に地熱発電所の建設が予定されていることに起因する。開発計画に至る以前は、豊かな自然環境を生かし放牧地として、また椎茸栽培のための櫟林として利用されていた。調査実施中も、冬期を除き調査区周辺に牛の姿が消えることはなかった。人里離れた豊かな自然の残るこの地は、夏の暑さは短く低所より一足早く冬が到来し、その寒さは厳しい。このような豊かで厳しい自然環境のなかにあって、遙か昔姶良Tn火山灰降灰以前から人類はこの地を訪れ生活の営みを繰り返し、その足跡を残した。今回の調査により、貴重な資料と情報を得ることができた。このことは、暑いときも雪の降る寒いときも作業に従事してくださった多くの方々の協力があってのことである。また、現地での調査終了後行った整理作業も多くの方々のご努力により無事終了でき、ようやくここに「耳切遺跡」調査報告書を発行することができた。そこで、ここにご芳名を記し感謝の意を表したい。

［発掘作業］敬称略・順不同

市川真奈美，大塚美代子，佐藤ヒサノ，原山由美，松平愛子，佐藤一世，時松慎吾，別城シマエ，山田満，松岡義一，佐藤久夫，赤坂アサカ，杉明美，別城初男，濱崎巌，竹川照子，河津武友，藤本朝子，吉光きん子，長田ヤス，宇都宮月絵，渡辺幸男，宇都宮仙司，北里サヨ子，北里登美，竹野クメ代，梅木スミヨ，麻生洋子，坂本愛子，石松セツ子，浦山一夫，大塚ケサヨ，辛島加寿子，渋谷秀子，時松寛司，森貞子，渡辺茂，桑原友重，高野将，梶原春生，上村ひとみ，工藤アイ子，河津芳幸，河津たず子，佐藤フイ子，佐藤光子，宮崎キミコ，小野アタエ，田窪ハマヨ，大塚文子，山炭八千代，穴井けさか，橋本恵美子，中島一郎，濱崎千里，矢津田国義，白山象美，矢野美代子，浅久野友和，古賀清美，姫野美智子，加祥薫，佐藤かずよ，森山繁喜，安武政信，大塚信矢，高野ヒロ子，宮崎孝三，森サツキ，川津キサ子，武石美智子，出口美代子，宮川千幸，室原チヨメ，田北貞吉，田北マサ子，小陣政子，渋谷道子，久野民子，松原由美子，佐藤光子，矢津田シホ子，綿貫ひとみ，安達文子，岩本信男，伊藤京子，小藪秀子

［整理作業］敬称略・順不同

江島園子，河崎節子，後藤直美，田中洋子，橋本由美子，早野弘子，益田久子，山切律子，山元友子，吉永恵美子，小山正子，田崎よし子，木村雅子，金子美代子，村田百合子，児玉晶子，知名石揚子

熊本県文化財調査報告　第180集

耳　切　遺　跡

平成11年３月31日

編集
発行　熊本県教育委員会

〒862－8609　熊本市水前寺６丁目18番１号

印刷　印刷協業組合　サン・カラー

〒862－0935　熊本市御領２丁目19－13

10 教委·教文
② 012

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 180 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：耳切遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。
熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/